

THE  
JOURNAL OF THE  
ROYAL ANTHROPOLOGICAL INSTITUTE  
VOLUME 100  
PART 1  
1970

人 山本氏、家ニ居リ、孤三氏、本社ニ  
在リシヲ告ケ、お上拘ヘ所ノ由、急自  
社ニ別ノ大體トモ、本社ヲ永廣信  
ニテ、ニヤ、定ス  
お島、裏田ニ依リ、社名、社ニあるニテ、  
社ニテ、リ、タリ

お沢、も、多、少、何、い、た、か、し

日本、お、負、ノ、日、依、ヲ、四、倍、し、且、テ、成、丈、  
其、授、業、時、間、ヲ、減、少、シ、テ、



生世後  
トモル兵向後授業の用ヲ二所

サレリキ一

一下お氏ノ力候ヲ三十由  
授業四所

由キ一

一本村白氏ノ力候ニテ  
二十五年

廿五長  
為家  
氏一  
再聘  
し  
月  
付

年一  
脚  
ヲ  
キ  
一  
山  
本  
氏  
キ  
一  
也  
社  
父  
上

次  
乃  
ハ  
シ  
ク  
リ

〔正誤表〕

第1卷

誤

正

六一二頁

11行目

女紅場

女子塾

六一六頁

4行目

明治十三年

明治十四年

六一〇頁

6行目

二月十五日

二月二十五日

# 新島襄全集

1

教育編

新島襄全集編集委員会 編

*The Complete Works  
of  
Joseph Hardy Neesima*



同朋舎

圖書 館一同資  
83.04.13.479







新島 襄 (1843—1890)

湯淺一郎画、油絵・安中教会所蔵



山本覚馬 (1828-1892)



ジェローム D. デイヴィス (1838-1910)

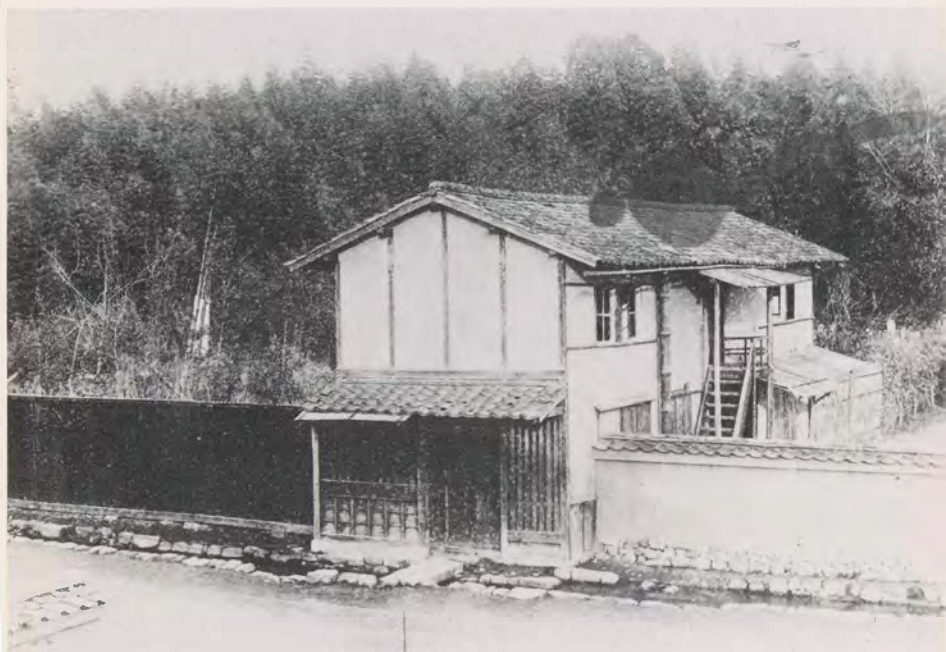


同志社英学校生徒 明治10年頃、右端が新島。



同志社最初の専用校舎 右から第1寮、食堂、  
第2寮。いずれも明治9年9月18日献堂。





「三十番」教室 初期の同志社では  
この建物で聖書の授業が行われた。



同志社キャンパス チャペル竣工直後(明治19年6月)。  
右側柵寄りの建物が旧礼拝堂。



京都看病婦学校と同志社病院 明治20年夏  
京都御苑蛤御門西側に完成。

[illegible]

「同志社大学設立之主意」(史料12) 明治15年の草稿。

(一九六六年六月廿四日)

明治21年11月印刷・発行。

[illegible][illegible]





# 同志社記事

「同志社記事」(史料41) 明治8年8月~21年5月の記事を収める。扉文字も新島自筆。

明治8年8月、同志社創立。今に至るまで  
 二十九年、その間、何れも時難、主として  
 下、多岐に亘る、在り、格別、東へ、二、三、月  
 四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、月  
 同志社、社員、多シ、要、求、多シ、カ、バ  
 幸、い、由、後、と、も、二、月、十、三、日、の、期、  
 新、島、氏、ノ、家、に、来、會、し、皆、フ、社、員、  
 資、格、多、シ、格、別、に、在、り、拘、り、  
 全、目、以、テ、社、則、ノ、大、体、と、し、又、細、則、ノ  
 如、キ、に、都、同、に、入、用、ニ、在、り、編、成、  
 一、同志社、社、員、人、は、以、テ、組、成、  
 一、同志社、社、員、人、は、以、テ、組、成、

社、員、人、は、以、テ、組、成、  
 一、同志社、社、員、人、は、以、テ、組、成、

二

社、員、人、は、以、テ、組、成、  
 一、同志社、社、員、人、は、以、テ、組、成、

三

社、員、人、は、以、テ、組、成、  
 一、同志社、社、員、人、は、以、テ、組、成、

四

社、員、人、は、以、テ、組、成、  
 一、同志社、社、員、人、は、以、テ、組、成、



「理事功程」草稿(史料76-83) 和綴本は文部省の刊本。

## 『新島襄全集』刊行に寄せて

新島全集の発刊は多くの人々の鶴首するところであった。むしろ遅きに失したくらいと言ってもよいだろう。このたび全十巻の予定で計画が成り、その第一巻の教育編が上梓される運びになったことは欣快に堪えない。

新島襄は同志社の創立者であるだけでなく、先見の明を備えた教育者であり、傑出したキリスト教の伝道者であった。この教育者・伝道者は一日にして成ったものではなく、激動する幕末の時期に、国禁を犯して日本を脱出、一年余りの苦役に服してボストンに辿りつき、当時の米国の一流の教育を受ける機会を得、欧米の高等教育機関を正式に卒業した日本人第一号となった人物だった。たまたま彼の在米中に岩倉具視遣外使節団の訪米するところとなり、新島は田中不二麿文部理事官の案内役・通訳として、米国東部のみならずヨーロッパ八か国の教育・文化の制度と状況をつぶさに視察してまわる機会を得た。新島は一八七三年の時点で、欧米の教育制度に最も精通した日本人であったといってもいいであろう。彼は欧米の文明の精神的基盤となっているものが、キリスト教であることを見抜き、発念してみずから聖書を学び、洗礼を受け、ついに牧師

になるための按手札をも受けたのである。しかも彼にはもともと自然科学に対する並々な関心があり、脱国以前に早くもオランダの数理書を通して微積分を学ぶという、維新前の日本においては数学の分野で到達できる最高の水準に達していた。

彼の生涯にはわれわれが、これは、と思うような人物との出会いがある。彼が生涯、米国の両親として愛慕した恩人、アルフィアス・ハーディ夫妻との出会いはその最たるものだが、小説家ヘルマン・ヘッセが、最初に出会った日本人が新島であったことも、今では確かめられている。マッシュ・アーノルドという詩人・批評家がイギリスにいる。どの文学史においても最大の頁をさかざるを得ないほどの文豪である。実はロンドンにおいて英国の教育制度についての説明を新島にしたのが、当時イギリスの文部省の役人でもあったこのアーノルドだったことも、今回刊行される新島の英文日記があきらかにするであろう。今までに知られたる、そしてまた知られざる新島裏の全貌は、本全集を読み通すことによってあきらかにされるものと、私は期待とよろこびをもって確信する。

新島全集の計画はもともと同志社創立九十周年（一九六五）記念事業の一部として企画され、先ず新島先生遺品庫の収蔵目録の作製がはじまった。今日までに、新島研究家として第一人者である森中章光氏の手になる、『新島先生書簡集』正統二巻（一九四一、一九六〇）が刊行されてきたし、



また日記、紀行文、説教のたぐいも『新島研究』誌に次々にかかげられてきた。今回の企画はそうした先人の業績に負うところ多大であるけれども、はじめての新島全集である以上、学問的にもすぐれた厳密な本文校訂にもとづき、かつ読みやすいものにするという編纂を鋭意心がけ、複数の目を通して校訂が繰返されたことを付記しておきたい。ちなみに前記二巻の書簡集発刊以降に発見された新島書簡の数は約三百通にのぼり、つい最近（一九八二・七）になって、北海道大学で発見されたものも含まれている。A・S・ハーディの *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima* は新島の自伝的要素が濃厚であるので、今回編集委員会の手でこれを全訳し、全集の一部に加えることにした。日記、紀行文の中に見出されるスケッチや挿絵のたぐいもできるだけ収録される筈である。新島の英文書簡と英文日記・紀行は従来ほとんど未開拓の分野であったが、今回はじめて活字化される。これは略字、略号などが頻出するため非常に読みづらいものを苦心の末に読解したもので、極めて興味深い資料となるであろう。

今回の全集は、同志社という一私立学校の創立者の断簡零墨を拾集したというものではなく、新島襄という「近代日本の英雄的開拓者」があらためて読みなおされ、とらえ直されることを心から念願して編纂されたものである。

この全集の編集には同志社総長からあらためて委嘱された七名の委員、同志社大学人文科学研

究所の杉井六郎教授、神学部の高橋虔名誉教授、文学部のオーテス・ケリー教授と北垣宗治教授、工学部の島尾永康教授、園部望庶務部長、ならびに同志社社史史料編集所の河野仁昭主任が当った。社史史料編集所の松井全、竹内力雄の両氏、さらに読み本つくりと校訂作業に献身された大学院学生諸君（柴田潔、山田芳則、宇佐美英機、古宮雅明、藤田恒春、湊史子、本田妙、桑山典子）の努力に対し、心から謝意をあらわすものである。同朋舎出版のスタッフ、なかならず竹屋誠氏の労を多としたい。

一九八二年十一月

『新島襄全集』編集委員長  
同志社 総長

上野 直蔵

新島襄全集 1 ■ 教育編 ■ 凡例

1 史料は原則として、それぞれの分野ごとに、成立年代順に排列した。成立年代不詳のものは、明確なものの後へ置いた。

2 同一史料で複数の草稿があるものは、原則として完成稿とみなしうるものを収載した。新島の生前に活版になっているものは、その草稿が存在しても活版になったものを収載した。

3 表題を欠く史料は、便宜上編集者がこれを付し、「」を以て区別した。

4 史料中の編集者による注記等は、すべて「」によって示した。また史料中の\*印は、巻末の注記を示す。

5 原史料の表記およびその体裁を尊重し、かつ読解の便をも考慮して、表記は原則として次の基準に拠った。

a 長文の史料には、適宜句読点を施し、また改行した。

b 難語・難訓語には、適宜ルビを付した。

c 漢字は、新字体に改めうるものは改めた。

d 仮名遣いは原文のままにした。片仮名と平仮名の混用、清濁音の混合同、原則としてそのままにした。

e 外国人名・地名その他の外国語の片仮名表記が、現在と著しく異なる場合は、常用の表記を「」で示した。また適宜「・」（中黒点）を補った。

f 略字（例・ㇿ（事）、ヒ（被）、斗（計）等）は常用の文字に改めた。変体仮名、合字（例・𠂔、𠂕、𠂖等）などは仮名に改めた。

g 仮名で表記するのが普通になっている助詞などが漢字で書かれている場合は、仮名に改めたが、「陳者」「江」「而」「也」など、若干原文のままにした例がある。

h 新島の造字は、通行の文字に改めた。（例・郷↓聯）

i 踊り字は原文のままにしたが、「々」は「々」に改めた。

j 原文のルビや返り点は、そのままにした。また、傍線、圈点なども原史料のままにし、それらが朱筆でなされている場合に限り、「朱線」「朱点」と傍記した。

k 原文中の○、――、※、「」、( )等の記号および弧線(〱)は、そのままにした。ただし、○○や、が同一の語が重出するときの省略記号に用いられている場合に限り、該当する語に改めた。

l 「ㄨ」は「キリスト」と改めた。

m 明らかな誤字は訂正し、衍字は省いたが、当て字は文意の理解に支障がない限り原文のままにした。脱字は「」で補った箇所がある。

n 原史料中に割注の体裁で記されている字句は、( )で囲むなどして一行書きに改めた。

o 丁(町)は、原則として「町」に改めたが、地名の歴史的表記(例・「大坂」「箱館」)はそのままにした。また、その混合(例・「函楯」「箱館」「函館」「箱楯」)などは、原文のままにした。

p 補筆は「」に入れて、本文中の該当箇所へ挿入し、「補」と傍記した。挿入箇所不明の場合は、「補」と傍記して、それがなされていた箇所へ掲げた。また、補筆が朱筆でなされている場合は、「朱補」と傍記した。

q 補筆が欄外になされている場合は、「上欄」などと傍記して本文中に挿入した。用紙が野紙ではない場合も、便宜上同様に傍記した。

r 破損や汚れ等で読解不可能な箇所には、「破損」または「汚損」と注記し、確認しうる限り、その丁数、行数、字数(□□または□□□により)も注記した。

s 判読が曖昧な字句には「カ」を、文意不明の字句には「ママ」を、それぞれ傍記した。

t 新島の生前に活版になった史料に、新島自身の手で補筆、訂正、圈点などが施されている場合は、p、q項によつてこれを該当箇所に掲げた。

u 抹消されている字句は、原稿作成の際には可能なかぎり復元したが、それを総て活字化すれば著しく読解の不便をきたすことが多いので、ここでは最少限度の復元にとどめ、左傍にミミ（墨抹）、シシ（朱抹）の記号を付した。

v 添付または挟み込み資料には、その旨を傍記し、該当箇所へ掲げた。

w 原史料中のスケッチや図表は、原則としてその該当箇所へ掲げたが、不鮮明なスケッチなどで省略したものが若干ある。

x 印章はその形に従い、㊦、㊧などで示した。

y 異筆、筆記用具の別、空白ページ等はその旨「」で注記した。ただし、朱筆の場合、インクと朱墨の別は示さなかった。

新島襄全集 1 ■ 教育編 ■ 目次



刊行によせて ..... 1

凡 例 ..... v

目 次 ..... ix

## 同志社設立

1	私塾開業願.....	3
2	〔私学校開業、外国人教師雇入につき許可願〕.....	6
3	〔同志社経営に関して政府への弁明〕.....	9
4	〔同志社女学校〕広告.....	11
5	〔デイヴィスの講義に関して府知事への弁明〕.....	13
6	〔修身学会読に付き〕御届.....	15
7	〔邦語速成神学科開設関係 四篇〕.....	16
8	神学専門科設置御願.....	21
9	〔女学校〕十五年卒業生へノ談シ.....	22
10	同志社大学設立之主意之骨案.....	24

11	同志社学校設立ノ由来……………	33
12	同志社大学設立之主意……………	36
13	同志社大学設立ヲ要スル主意……………	44
14	〔同志社大学設立の旨趣〕……………	52
15	同志社大学校設立旨趣……………	66
16	同志社設立の始末……………	72
17	〔徴兵適齡及徴兵免除者数調〕……………	76
18	〔改正徴兵令ニ関スル〕請願ノ要旨……………	81
19	〔改正徴兵令ニ対スル意見書(A)〕……………	82
20	〔改正徴兵令ニ対スル意見書(B)〕……………	85
21	〔改正徴兵令ニ対スル意見書(C)〕……………	88
22	同志社英学校設立始末……………	90
23	明治専門学校設立旨趣……………	95
24	医学校規定……………	102
25	〔同志社創立十周年記念演説〕……………	105
26	〔看病婦学校設立の目的〕……………	110

27	〔看病婦学校設立の精神〕	115
28	同志社予備校設立之主意	121
29	私立大学ヲ設立スルノ旨意、京都府民ニ告ク	123
30	同志社大学設立の旨意	130
31	〔同志社大学設立募金演説稿〕	142
32	〔同志社大学の設立について〕	145
33	〔同志社大学設立資金募集に付〕	148
34	大学設立主旨	151
35	〔大学設立の必要〕	154
36	〔女学校卒業生への勧め〕	156

## 記事・録事

37	同志社英学校記事〔明治八年八月～十六年十二月〕	161
38	同志社英学校沿革〔明治八年八月二十三日～十七年一月〕	166
39	同志社大学創立記事〔明治十六年一月～十七年一月〕	175
40	同志社大学記事〔明治十四年～二十一年〕	185

54	勇氣ノ説	393
53	文明ノ元素	389
52	文明ヲ組成スルノ四大元素	387
51	〔隠君子顕世〕	379
50	隠君子ノ出頭	371
49	〔人種改良〕	365
48	人種改良論	355
47	學問之説	349
46	〔文明ノ基〕	345
45	脩身學問題	341
44	感算理説	339
演説・論説		
43	同志社女学校録事〔明治十六年二月～十七年九月〕	333
42	同志社記事〔明治八年十一月～十六年二月〕	302
41	同志社記事「社務第十八号」〔明治八年八月～二十一年五月〕	232

70	〔我輩ハ敢テ政府ニ抗スルモノニアラズ〕	454
69	条約改正ヲ促スノ策	450
68	〔平民主義〕	447
67	〔弱者ニツイテ〕	444
66	〔武夫〕	442
65	道心ノ発達	439
64	愛国ノ主意	436
63	愛人論	429
62	〔理ニ叶フガ学者ノ目的〕	428
61	学者解	425
60	〔南山義塾ニ望ム〕	423
59	〔梅花女学校ニ於ケル女子教育〕	419
58	〔教育論〕	415
57	〔ノルマントン号事件について〕	410
56	地方教育論	408
55	蟻之説	400



71	我如何ニ此ノ活動社会ニ処スベキヤ	455
72	『宗教要論』序	457
73	『将来之日本』序	459
74	『ジョージ・ミューラー氏説教集』序文	461
75	J・D・デイヴィス著『基督教之基本』序文	463
「理事功程」草稿		
76	独乙国ノ公学校学則 第一	467
77	独乙国公学校ノ規則 第二編	490
78	独乙国公学校ノ規則 第三編	508
79	普魯士ノ公学校（小中共）の規則	538
80	ノールウェー国の学校	559
81	デネマルカ国、スウェーデン及ノルウェー	570
82	大ブリタン寺院ノリポルト	592
83	公学校生徒の規配	608

解 注  
題 解

623 611

装帧·小島友幸

## 同志社設立



1 私塾開業願

一 私塾位置

第三大区京都府管下第五番中学区上京第十番小学区相国寺門前町

一 教員履歴

合衆国<sup>〔ニューヨーク〕</sup> 新約克 邦クロツトン邑

宣教師 ジェー デー デビス

当八月 三十七歳八ヶ月

右は幼より邑校ニ入り予備学を致し、千八百五十九年九月ウイスコンシン邦内之ベルト・コルレジ(大学ノ一部分)ニ入り留学する事二年、其時南北戦争相起リ申候ニ付兵丁ニ加リ戦場ニ趣ぎ、凱陣之節ハコロネル(一レシメント隊指令官)官ニ昇進、千八百六十四年九月ヨリ同校ニ再入、千八百六十六年七月卒業普通学科之免状を得、又同年九月シカゴ府内之神学校ニ入り千八百六十九年七月卒業神学免状を受、千八百七十年十一月日本ニ渡航、神戸ニ在留せる殆四年、頗国語ニ通候間、私共義今度月給百円を与へ私共学校へ雇入教授可被仕候一同上

京都府上京三十一区四百一番

山本覚馬同居



当八月 三十一歳七ヶ月

右は千八百六十五年十月合衆国マッサチュセッツ邦アンドワ邑之予備校ニ入り千八百六十七年九月迄在校、同年九月より同邦アモルスト・コルレジニ入り千八百七十年七月迄在校、芸術免状を得、同年九月よりアンドワ邑之神学校ニ入り、千八百七十二年三月より文明諸外国学校之形況探索之為文部理事官田中文部大丞ニ随行、亜国東部、歐羅巴州諸国を覽歴仕、千八百七十三年九月アンドワ神学校ニ再入、昨年七月卒業、神学免状を受申候

一学科 英語（綴字 文法 作文） 支那学（史類本朝史 支那史）生徒ノ求メニ任ス

算術 点算 度量学 三角法 地理 天文 窮理 人身窮理 化学 地質学 万国歴史 文明史 万国公法 文理  
学 経済学 性理学 修身学

一教則 五年間を以テ生徒卒業期限トス

毎年開業九月一日ヨリ 一月五日 四月八日

毎年休業十二月二十四日 四月一日 六月三十日

毎日八時間ヲ以テ授業時間トス、且毎日曜日ヲ以テ休暇トス

一塾則 身許及び行状正き生徒之入塾を許し、月俸授業料として毎月金三円を納しむ（但美味ヲ好ム者ハ別ニ之を求べし）通学生徒ハ授業料とし而毎月五十銭を納へし

然し窮生徒よりハ其高を減し而納しめ、或ハ之を不受モアリ

右之通開業仕度此段奉願候也

明治八年八月四日

廿三日出ス

九月四日相濟候也

京都府庁宛

上京三拾一区下丸屋町四百一番地 山本覺馬同居

結社人

新島 襄

山本覺馬

〔明治八年八月二十三日・草稿〕

## 2 「私学校開業、外国人教師雇入につき許可願」

私義此度当御府内相国寺門前ニ有之候開拓会社所有之地所<sup>\*</sup>を買求め、英学校を可相立企て候得共、何分資金ニ乏しく未タ学校建築之義ハ難相叶候、依而同寺門前旧御付屋敷之地所建屋等相求め、之を以て仮之学校といたし英学教授仕度候

右ニ付当今摂州神戸港在留之亜国宣教師ジェー・ディー・デビスと申者を雇入、相当之月給を与へ右学校之教授被仕度奉存候、然シ私義文部省御規則中に宣教師を雇入学校教師を兼しむる事ハ御許容無之様相心得候得共、私義窮生ニシ而未タ資金ニ乏しく、中々数千之金を差出し一教師を雇入候事ハ難相叶候、然シ私義京師近傍ニ於而英学校之甚稀少なるを見受け、私学校開業之義一日なり共棄置候ハ、京師近傍ニ於而文明之進歩ニ小關係なき共不被申ト存候、依而日夜心緒を勞し一日も早く開校仕度存候、且当今物価高登せるに依り志ある少年生徒も學費之欠乏せるにより已む事を不得志を屈し、遂にハ無用之廢物に属せんとする輩も往々相見へ候、私義彼之有用物とも成るへき人才をし而空しく廢物に属せしむるを惜み、英学校を開き窮生徒をし而志を呈せしめん為月俸授業料等を大分下低にし、且生徒之自己を助くへき寸法を設け、彼等をし而普通学科に跋涉し且傍世聖賢之道をも研窮せしめ、仕官し而は正直之吏、退職し而は純良民となり我國家日新之一助たらしめん事を望み、私学校之挙あるを彼デビスなる者に告け私と供力すべき哉否を尋候処、同人殊之外喜ひ早速同意致具、当御府庁及ヒ大政府より御許可有之候ハ、決し而無異議なき由被申候<sup>(ト)</sup>然シ私義文部省当今之御定則を奉守仕候ハ、同人雇入之義不相叶、斯く申而此一則に關係し私之挙を棄置候ハ、当今

文明維新之世に少しく不相当之事と存、敢而犯則之罪を不顧当御府庁へ申立、同人雇入之義願上候は右之情実已む事を不得次第、何卒御府庁に於而宜しく御商量被成下、彼デビスなる者雇入之段文部省迄御懸合可被下様奉願候  
擬右宣教師雇入之義御許可有之候ハ、私義淺学なからも之を扶助し勿々開校可仕候、且向後生徒も加増仕候ハ、又他之宣教師雇入之義可相願哉も難計候、乍然私学校ニ於而全く宣教師ノミ相用候訳ニハ決し而無之、当今資金に乏しきにより何分数千之給料を出し外国より学士を招き候事ハ難相叶、已を不得多分之月給を食らざる宣教師を雇入候事ニ決定仕候、何レ学校之資金相増候ハ、外国より純粹の学士を雇入、生徒学業之進歩に應し遂而ハ大学之域に進ませ度奉存候

擬学科之義ニ付生徒進歩之度に随ひ往々可決定候得共、先当今之目的ニ於而は左之通ニ候

英学（綴字、文法、作文）

支那学（史類本朝史支那史）但シ生徒之求に任ス

算術 点算 度量学 三角法

地理 天文 窮理 人身窮理

化学 地質学 万国歴史

文明史 万国公法 文理<sup>ル</sup>学

経済学 性理学 脩身学

聖経\*

生徒卒業期限を五年と相定候、然し此期限も矢張仮に決定仕候間往々ハ改革を可加と存候  
扱右学校を開くと開かざるとハ、全く当御府庁及び大政府ニ於而、私より宣教師雇入之義御許容有之としからざると  
に閑候間、克々御穿鑿之上私学校ニ於而我国家文明進歩之為何之利害有る哉を御熟考被下、万一害ありとせば無論、  
若し利益ありとせば一日も早く御許容有之度候、右之段其御筋迄申上候間御賢裁之程臥而奉希候

敬白

明治八年八月廿三日出ス

新島 襄

〔明治八年八月・草稿〕



## 3

## 〔同志社経営に関して政府への弁明〕

明治七年十月之事なりき、襄米国へ滞在之末最早帰朝せんと思立し折柄耶蘇信徒之大集会ありし、襄も辞別旁出席し其坐ニ而衆人に向ひ、帰国之上日本ニ一之学校を設立致し度宿志を吐露し、且微力ニ而到底確立之見込も無之協力ノ人ハ無き哉と開陳せしに、演説未タ了サルニ友人 Dr. Parker 忽チ揚声シテ吾レ千金を寄附せんと呼へり、繼テウエルモント洲之旧知事ページ氏も亦千金ヲ寄附シ、其他或ハ五百或ハ三百、二百金、百金、以テ五十金、三十金、二金、一金ノ微に至り五六分時を出ス積テ数千ノ額ニ上レリ、因テ学校建築之費用ハ略備レリ、然ルニ教師ハ如何ニシテ支給スベキヤノ談ニ及ビシニ、爾後繼テ寄附金モ可有之ニ付悉皆アメリカン・ボード教会社ニ委託シ該社ニ集メ、友人ハーデー氏之を預リ置キ西航之教師ニ支給スベキニ決シタリ

帰朝ノ明年即チ明治八年十月を以文部省ノ許可ヲ得テ同志社ヲ設立セリ、本社ノ費用ハ固ヨリ米人之寄附ニ出ルモノト雖モ、既ニ寄附シタル以上ハ社ノ所有物ニシテ米人ノ私スル所ニアラサルハ論ヲ待ズ、故ニ此ノ社金ハ往時東京銀坐辺ニ外国人ガ財主トナリテ日本人ノ名前ヲ出シ商売シ、自己ノ利ヲ射ルモノトハ全ク類ヲ異ニスルモノニ〔シ〕テ、現今支那人カ飢饉ノ為ニ日本ヨリ救助ヲ受ルモノト類ヲ同フスト謂ベシ、如何トナレバ銀坐商人ハ其国ニ帰ルトキハ悉皆貨物ヲ運ヒ去レトモ、同志社ノ什物ハ縦令ヒ故障アリテ米国教師其国ニ帰トモ一物トシテ携帯シ去ルヲ許サス、猶救助米ノ既ニ支那人ノ手ニ落タル以上ハ日本人恐ク之ヲ左右スルヲ得サルガ如シ

方今我カ日本ノ未タ学問ノ飢饉ヲ免レサルナリ、故ニ同志社ハ縦令悉皆米人之寄附金ニ成立タルニモセヨ既ニ社有二

婦シタル上ハ決テ米人之左右スル所ニアラス、況ンヤ多少日本国内同胞之寄附金モ加リタルニ於テヤ、又況ンヤ永ク  
米人ノ寄附ヲ仰クノ趣意ニ非ルニ於テヤ、故ニ同志社ハ決テ米国人ノ同志社ニ非シテ即チ日本帝国内ノ同志社ナル  
事固ヨリ弁明ヲ待スシテ明カナリ、向後何等ノ原由アツテ政府ノ障碍ヲ生センヤ、我カ政府ニ於テ決テ御懸念ヲ要セ  
ザルモノニ似タリ

明治十一年四月廿七日

〔明治十一年四月二十七日・草稿〕

4  
〔同志社女学校〕廣告

廣 告

方今文運日ニ月ニ隆盛ニ赴キ天文地誌博物窮理凡百ノ學術一トシテ備具講究セサルナク、実ニ古今未曾有ノ大美事ト可謂也、女子教育ノ如キモ各府県女子師範学校、女学校、女紅場ノ設アリテ、男子ト均シク開明ノ教育ヲ受ルハ実ニ可慶幸ノ至ナリ、然リ而シテ一利アレハ一害随テ生セサル事能ハサルハ理勢ノ然ラシムル所ニシテ、婦人聊學識アル者ハ自己ノ才能ニ誇リ婉婉聰從タル童習ノ美德ヲ銷亡シ、世俗ヲシテ婦人ハ寧ロ無學ナルモ柔順ナラシムルノ勝レルニ若カストノ嘆ヲ発セシムルニ至ル、是レ偏ニ教育者婦德ノ教誨ヲ怠リ、徒ニ智識ノミ開發セント欲スルニ坐スルモノナラン

我輩大ニ茲ニ憂フル所アリ、本校ニ於テハ専ラ婦德養成上ニ注意シ、勸奨訓誡以テ謙遜慈愛、忠貞自治ノ良質ヲ培養セシメ、學課ハ本邦語ヲ以テ高等ノ普通學ヲ教授シ、外国女教師二名ヲ雇ヒ英語ヲ以テ英文學を教授セシメ、其他裁縫、割烹、洒掃、諸礼、唱歌等婦人一身上ニ必要ナル事件ノミヲ教授シ、且家事老鍊ノ婦人ヲ置キ女教師ヲ補翼〔セ〕シメ、生徒疾病ノ際モ速ニ着手シ厚ク看護シテ万事母姉ノ氣遣トナラザルヨウ注意セシメント欲ス、願クハ江湖ノ諸彦女子ノ來學ヲ促サレン事ヲ

校ハ上京区第拾壹組今出川通常盤井殿町五百四拾三番地ニ在リ、土地広豁、校ノ正南ニハ御苑ノ設アリテ空氣ノ通暢極メテ好ク、学校舍清潔且市中熱鬧ノ地ニ遠カリ静閑ナルヲ以テ勉學ニハ佳適ノ所ナリ

〔朱筆〕

校長 新島 襄

外国女教師 アンナ ワイ デヴィス

同 フランシス フーパル

漢学教員

教員 宝生 豊

同 高松 仙

同 田代 初

執事 杉田

裁縫教員 岸岡きし

〔明治十一年六月・活版、一部補筆〕

5 「デイヴィスの講義に關して府知事への弁明」

御 受〔其二〕

弊社創立之際ニ當リ、耶蘇聖經ハ校内ニ於テ教授為仕間敷<sup>\*</sup>旨書面ヲ奉呈致し置候處、先般學務課長横井忠直殿外一名教授巡覽之為弊校へ御越之<sup>\*、\*</sup>節、雇入教師デビス氏耶蘇聖經ヲ以テ生徒ニ教授仕居候を御見届ケ有之、昨六日御呼出之上兼テ御府庁迄被差出候誓詞ニ違背スルハ如何ノ事ト御尋有之候間、乍恐小生之見込陳述可仕候

扨前誓詞ニハ耶蘇聖經ハ校内ニ「テ」教授為仕間敷ト申上置候得共、聖經ハ校内ニ於テ一切不相用ト申上候主意ニ無之、一ノ教科書トシテ校内テ教授為仕間敷ト御誓申上候ト奉存候、且其節特ニ拝謁ヲ得修身學ニ関スル耶蘇之教誡ハ書中多分有之、其ヲ以論說ノ証トナシ基礎トナシ其奧義ヲ論スルニ至レハ、一ノ其教誡ニヨラザルハナシ、故ニ之ヲ全ク断絶スルハ甚六ヶ敷事ト申上候得は、修身學ニ関スル分ノミハ不苦ト被仰付候間、修身學ニ関スル分ハ弊校ニ於教授仕候トモ御差支無之事ト奉存、雇入教師ニ修身學ニ関スル分ノミ教授仕候事差許置候、且デビス氏之聖經ヨリ相用候ハ教科書中不足之分モ有之候間、不得止事聖經中ヨリ教誡ヲ引キ相教候次第ニ及候

右御尋之為御受奉呈候間至當之御所分奉仰候也

明治十二年六月七日

上京区第廿二組寺町通松蔭町百四十番地

同志社々長 新島 襄<sup>印</sup>

京都府知事 槇村正直殿

御 受〔其二〕

弊社創立之際ニ当リ、耶蘇聖經ハ校内ニ於而教授為仕間敷旨書面を奉呈致し置候処、先般学務課長横井忠直殿外一名教授巡覽之為弊社へ御越之節、雇入教師デビス氏耶蘇聖經ヲ以テ生徒ニ教授仕居候ト御見届ケ有之趣ヲ以テ、去六日御呼出之上、兼而御府庁迄被差出候誓詞ニ違背スルハ如何之事ト御尋有之候間早々取調候処、デビス氏学務課長御巡覽之節ハホブキンス氏脩身学ヲ教へ終り候ニ、生徒中ヨリホブキンス氏論說ノ基礎トモ致候耶蘇ノ教誡ニ付不審ノカド有之、発問致候処教科書中不足之分有之候間、不得止事聖經中ヨリ耶蘇之語ヲ引用シ答弁ニ及候旨申述候間、私ヨリ向後之処精々注意可仕旨申渡置候

右為御受如此候也

六月十五日〔但七日差出セシニ、其書付ケハ九日ニ槇村ヨリ下ケ渡シ、書直スヘキ事ニナレリ〕

槇村宛

裏

〔明治十二年六月〕

6 「修身学会読に付き」御届

御 届

拙宅ニ於而毎金曜日之午後第六時、毎日曜日之午前第九時、同午后第三時より有志之輩ノミ相集マリ修身学会読並ニ講釈仕度候付、明十七日之午后第六時ヨリ集会可仕候間此段御届奉申上候 已上

明治十二年十月十六日

上京区第廿二組松蔭町百四十番地

新島 襄<sup>㊤</sup>

京都府知事 榎村正直殿

〔明治十二年十月十六日・控〕



# 7 〔邦語速成神学科開設關係 四篇〕

〔前文欠〕

開業シ邦語ヲ以テ授業スレハ、同信ノ諸彦笈ヲ負テ多ク来校シ、他日我国ニ於テ主ノ大収獲ヲ助クル為メノ預備ヲ為シ賜ハ、幸甚

一 本年授業スル科目ハ左ノ如シ

一 天然神学、耶穌教ノ証拠、神理学

一周ニ五回

一 講道ノ組立并ニ仕方

同 三回

一 唱歌

同 二回

一 福音書

同 二回

一 書翰

同 三回

一 旧約史ノ講義

未定

一 天文学、地質学、人身究理、化学、理学ノ講義

一周ニ三回

一 質問函ノ設アリテ、生徒疑問ノ件之ヲ詳記シテ投函セハ教員之ニ答弁スヘシ

一 此速成神学科ハ直ニ伝道ニ従事セント欲シ、又ハ既ニ従事スル者ノ尚一層研究センガ為ニ設クレハ、若シ其ノ校ニ留マル一兩年ノ久キニ互ラハ却テ速急需要ノ主意ニ戾ルヘキヲ以テ、毎年第三期（四月、五月、六月ノ三ヶ月）ノ

間ヲ限り授業スル事ニ定メタレハ、本年入校アリテ一期間受業セシ者モ、又来年ノ第三期ニハ再ヒ来校アラン事ヲ要ス、若シ引続キ神学授業ヲ望ム者アラハ正課ニ入ラシメ、両三年ノ滞学ヲ許スベシ

一来校ノ諸彦中牧師ノ務ヲ持チ、又ハ公会ノ世話ヲ担任スル者アラハ、其入校中ハ会中ノ兄弟安息日ヲ守リ集会ヲ導ク等ノ事ヲ担当シ、其ヲシテ顧慮ノ憂無カラシメ、且来校ノ者モ毎月一兩回ハ必ラス帰会シテ講道ニ従事セハ、三ヶ月間ノ留学ハ格別ノ障碍モ生セサルベシ

但シ帰会ノ往復費用ニ差支ノアル者ハ敝社ヨリ弁スヘシ

一諸彦中自然学費ニ乏ク又ハ顧家ノ憂無キモ保証シ難シ、故ニ公会ノ牧師又ハ宣教師ヨリノ薦書ヲ以テ詳ニ其ノ由ヲ告ケ扶助ヲ求ムレハ、場合ニヨリ幾分カ其レノ需求ニ応スヘシ

一入校志願ノ者ハ父兄又ハ教友ノ身受証ヲ以テ、開業ノ即日迄ニ必ラス来校アラン事ヲ要ス

同志社々員総代

新島 襄

明治十三年一月

公会ノ牧師宛

〔異筆〕

今ヤ人智開発文運日ニ進ミ月ニ盛ナルノ際ニ当リ、<sup>〔ヒト〕</sup> 特リ我耶蘇教ノ遅々トシテ大イニ振興セザル所以ノモノハ、他ナシ是伝道ニ従事スル者ノ尚才乏シキニヨルナリ、近来輕忽者流ノ喋々我真教ヲ演説場ニ弁論嘲笑シ、或ハ新紙上ニ駭撃罵詈スル殊ニ甚シト雖、妙ナルカナ道德ノ区域萌芽ノ色ハ日光ト共ニ顯レ、真教ヲ慕フ者弥増シ、聖書ヲ購ムル者

弥多ク、伝道者ヲ冀図スル者日亦一日ヨリ許多ナルハ何ゾヤ、是即所謂播クベキノ地アリ獲ベキノ秋来レリト云ベキモノニシテ、同信ノ兄弟ガ勇往直進、上ハ以テ主ノ光榮ヲ発揚シ、中ハ以テ現世ノ福利ヲ謀リ、下ハ以テ至大至重ノ責任ヲ尽スノ機会ニシテ、何ゾ徒手恬然傍觀スルノ際ナランヤ、宜シク断然決意其ノ任ニ当ラズンバ他何レノ日オカ待テ更ニ収獲ヲ期セン哉

抑真教ノ我国ニ伝来スルヤ日尚浅キモ、幸ヒニ天恩優渥教会踵ヲ追統々四方ニ設立シ其数実ニ拾有六ニ至リシハ、偏ニ聖靈ノ感化ト伝道師ノ誘導トニヨラズシテ豈今日アルヲ得ンヤ、聖書ニ曰ク与フルハ受クルヨリモ幸ナリト、我輩果シテ如斯無量ノ恩恵ヲ蒙福者ノ美味ヲ嘗メ、然シテ自ラ保蔵シ之ヲ他ニ分与セザレハ、何ノ面目アツテ長ク恩恵下ニ沐浴スルヲ得ン哉、否已ニ信徒ノ数モ尠少ナラザルニ、只伝道ニ従事スル者ノ尚斯ク乏シキハ何等ノ源由ゾ、是蓋シ信徒些少ノ障碍ヲ顧慮シ、区々ノ情実ニ拘泥セラレ自ラ奮テ其任ニ当ラザルト、一ハ伝道者ヲ薰陶スルノ方未ダ整立セザルトニ依ルナラン、依テ今当今ノ需要ニ供シ現在ノ欠乏ヲ輔ハン為弊社内ニ速成神学課ヲ設ケ、来四月五日ヲ以テ開業シ邦語ヲ以テ授業スレバ、望ムラクハ同信諸彦爰ヲ負テ多ク来校シ、他日我国ニ於テ主ノ大収獲ヲ助クルノ預備ヲ為シ賜ハハ幸甚

〔異筆〕

今也人智開発文運日ニ進ミ月ニ盛ナルノ際ニ方リ、特リ我カ耶蘇教ノミ遅タトシテ大ニ振興セザル所以ノモノハ他ナシ、是レ伝道ニ従事スル者ノ尚オ乏シキニヨルナリ、近来輕忽者流ノ喋々我真教ヲ演説場ニ弁論嘲笑シ、或ハ新紙上ニ駁撃罵詈スル殊ニ甚シト雖トモ、嚴然タル道德ノ区域萌芽ノ色ハ日光ト共ニ顯レ、真教ヲ慕フモノ弥増シ聖書ヲ購

ル者弥多ク、伝道者ヲ冀図スル者日一日ヨリ許多ナル何ゾ哉、是レ所謂播ヘキノ地ナリ獲ベキノ秋来レリト云ベキモノニシテ、同信ノ兄弟ガ勇往直進シ、上ハ以テ大主ノ光荣ヲ發揚シ、下ハ以テ至大至重ノ責任ヲ尽シ世ノ福利ヲ謀ルノ機會ナルニ、何ゾ徒手傍觀スルノ際ナランヤ、宜シク断然決意其任ニ当ラズンバ他何レノ日オカ待テ更ニ収獲ヲ期セン也、抑モ真教ノ我国ニ伝来スル日尚才浅キモ、幸ニ天恩ノ優渥ニヨリテ教会日ヲ追ヒ続々四方ニ設立スルニ至リシハ、偏ニ聖靈ノ感化ト伝道師ノ誘導トニヨラズシテ豈今日ノ美果アルヲ得ンヤ、聖書ニ曰ク与フルハ受クルヨリモ幸ヒナリト、我カ輩果シテ如斯無量ノ恩恵ヲ蒙リ福音ノ美果ヲ嘗メ、而シテ自ラ保愚シ之ヲ他ニ分与セザレバ何ノ面目アツテ長ク恩恵ノ下ニ沐浴スルヲ得ンヤ、既ニ信徒ノ員モ尠少ナラザルニ只タ伝道ニ従事スル者ノ尚オ斯克乏シキハ何等ノ源由ソ、是レ蓋シ信徒些少ノ障碍ヲ顧慮シ区々ノ情実に拘泥セラレ自ラ奮テ其任ニ当ラザルト、一ハ伝道者ヲ薰陶スルノ方法未ダ整立セザルトニヨルナラン、依テ当今ノ要需ニ供シ現在ノ欠乏ヲ補ハシメ弊社内ニ速成神学科ヲ設ケ、来ル四月五日ヲ以テ開業シ邦語ヲ以テ授業スレバ、同信ノ諸彦奮テ陸續来校シ他日我國ニ於テ主ノ大収獲ヲ助クルノ預備ヲ為シ賜ハバ幸甚

〔こんにやく版〕

一書拜啓仕候、陳者今回速成神学御修行之為同志社へ御来校ノ諸兄ハ、左之条件御心得有之度候

一該科入学志願ノ諸兄ハ成丈ケ其費用自弁スルカ、又其地方ノ公会或ハ教友ヨリ支弁スルカ、自助ノ方法相立候様御尽力有之度候

縦令自費ノ生徒タリトモ該科志願ノ諸兄ハ、其地方ノ伝道師又ハ牧師或ハ宣教師ヨリ予御照会アルナリ、又ハ御

来校ノトキナリ一ノ御紹介書御持参有之度候、若シ半額ナリ又ハ全額ナリ同志社ノ扶助ヲ要スル諸兄ハ、其ノ牧師又ハ伝道師ヨリ其情実ヲ陳述シ其ノ人トナリヲ保証セン為御添書有之度候、若シ右之御添書無之トキハ学費扶助ノ義ハ一切御断可申上候

一牧師又ハ伝道師ニシテ入学志願ノ諸兄ハ、学費自弁ナリ又扶助ヲ要スルナリ予メ当校へ御照会有之度候

十四年三月

同志社 新島 襄

牧師伝道師迄御心得ノ為願置度キ事

一伝道又聖書売志願ノ者ナリ克々御注意ノ上、向來望ノ有之者ヲ御勸メ御遣シ被下度候

一格別望ノナキ者ト雖、自費生ナレハ拒絶スルニ不及候

〔明治十三年一月〜十四年三月・こんにやく版を除き草稿〕

8 神学専門科設置御願

〔全文朱〕

敝校開設已後五ヶ年之英学本科卒業之上、志願之者ノミニ限り余科之名義ヲ以テ神学并ニ道義学等教授仕来候処、今回神学ニ付一層之改正を加へ、別紙教科書之通神学科ヲ二分シ、英語ヲ以テ専ラ教授仕候分ヲ英語神学科ト称シ、又邦語ヲ以テ教授候分ヲ邦語神学科ト称シ、該科ヲ敝校ノ一専門科ト仕度候間、従来之英学本科之外更ニ神学専門科設置之義御許容被成下度、此段奉願上候也

同志社員総代

新島 襄

京都府知事

北垣国道殿

〔明治十四年頃・草稿〕

9 「女学校」十五年卒業生への談シ

〔本文朱〕

Silent influence  
of Women

フレント 病ニ臥シ働クノ暇ナシ 諸病ノ問屋

シーレノ妻 顔ニ喜ト望ヲ含メリ、不言シテ克人道ヲ記シ、不働<sup>ハ</sup>シテ克<sup>マ</sup>ハ人ヲ銘々<sup>ム</sup>勤ム  
謙遜<sup>至</sup>乃<sup>矣</sup> 曾テ人アリ彼ノ写真ヲ乞フ、彼辞シテ与ヘス

一日 密ニ写真屋ニ行ク

書生ノ失望シタルトキハシーレ先生ノ妻ニ行キ慰メヲ受ケ、家郷ヲ思ノ情ヲ忘ル  
言寡ナ<sup>ク</sup>シテ克ク言ヒ、多働キテ之ヲ人ニ言ワス

陰テ顯レサルハナシ

陰レタルヨリ顯ル、ハナシ

微シキヨリ著シキハナシ

○真珠

○ダヒ〔ヤ〕モンド

兎角婦人カ多語ヲ用ヒ大事ヲ破ル

婦人ハ物ヲ言テ事ヲ為スヨリ黙シテ事ヲ為スニ事カ多ク功ヲ奏スベシ



十五年  
卒業生  
ヘノ談シ

1 Russian Youth  
attacking From  
Essays

[鉛筆書]

「Emerson

Do no<sup>[抹消]</sup>[t] be audacious to have a la[r]ge  
library 「about my books」 A few of  
the best books thoroughly mastered  
are better than mere numbers. Do not try  
to do too much but what you  
attempt to do [do] thoroughly and in the end  
you will find that it pays.]

一言尚貴千金、  
万語尚却卑如瓦石

光沢ノ生スル所

□ヲ持テ

〔真鍮ノ光ヲ発スルト、ダ〔ヒ〕ヤモンド真珠ノ光ヲ発ト大ニ異ナル所アリ

## 10 同志社大学設立之主意之骨案

### 同志社大学設立之主意

維新以來時勢之變遷ヲ說出シ来リ、從來之漢學風ヲ一變シ洋學ヲ採用シテヨリ、往々便宜ト智術ノミヲ主張シ、遂ニ只利ヲ是レ求ムルノ弊風ヲ惹起シ、學者輩中多クハ其ノ本ヲ探ラス其ノ末ニ趨リ、其ノ基ヲ固セス徒ニ速成ヲ期シ、甚シキニ至リテハ糊口ヲ以テ人間第一ノ急務トナシ、世ノ先導者ヲ以テ自任スル身分ナカラモ射利求名ヲ以テ學問ノ大目的トシ、安逸ヲ得ルコソ人間最大ノ幸福ナリト誤認シ、汲々自ラ之ヲ求ムルノミナラス門弟ニ向ヒ世人ニ向ヒ喋々之ヲ訓誨スルヲ以テ恥辱トセサルニ至リ、随テ其ノ余波社会ニ伝及シ人ノ德義ヲ擲棄シ唯利ヲ是レ争フノ弊風ヲ醸シ来リ、社会ヲシテ浮薄ニ流レ腐敗ニ趣カシムルノ害日一日ヨリ甚シカ〔ラ〕シム

〔ママ〕

天ノ未タ陰雨セサルニ之ヲ、スルトハ古人ノ金言ニシテ、吾人ノ殷鑑トナスベキ所ナリ、我輩夙ニ茲ニ憂フル所アリ同志ノ友ト謀リ一社ヲ結ビ、明治八年ヲ以テ地ヲ西京ノ北隅ニ占メ英学校ヲ設立シ、品行端正學術練達ノ米国人デビス氏ヲ聘シ、統テ同国ノ教師兩三名并ニ教育ニ熱心ナル内国教員数名ヲ招キ教育ニ從事セシメ、五年ヲ以テ卒業期限ト定メ、普通学科ヲ授ケ、傍ラ人間ノ要道ヲモ誨エ、専ラ智德並行ノ薰陶ニ尽力セシメタリキ

〔上欄〕

「同志社規則第一条ニハ照準アリタシ」

〔キユウカツ〕

然ルニ衰葛ヲ易ル尚未タ幾回ナラサルニ生徒ノ學術ハ斐然トシ進歩ノ実効ヲ呈シタルヲ以テ、寸進尺進之レカ改良ヲ図カリシモ、世運日ニ進ミ月ニ新ナルノ際ニ當リ現ニ授業スル所ノ学科ノミニ限レハ只ニ學術ノ大意初步ニシテ、

學術ノ奥蘊ニ達セルモノト云ヘカラス、又方今ノ需用ニ供スルニ足ルモノトモ云ベカラス、依テ速ニ本科ノ教課ヲ益高等ノ学科ニ進メシメ、統テ大学専門部ヲ設置シ生徒ヲシテ各其ノ好ム所長スル所ニ順テ學術ヲ專脩セシメハ大ニ裨益スル所アラント希圖シ、断然大学設置ニ決意シ普ク我輩ノ親友ニ謀リ又広ク天下ノ志士ニ計リシニ、幸ニ賛成ヲ受ケンノミナラス速ニ専門部ヲ設置セラレヨトノ委托ヲ蒙ムルニ至リシハ是亦世運ノ然ラシムル所ナルカ、我輩此ノ委托ヲ蒙リ我輩ノ責任重且大ナルヲ知り勇進以テ此ノ任ニ当ラント欲ス、然リト雖大学ヲ設置スルヤ容易ノコトニアラス、数百ノ生徒ヲ容ルベキ校舎ナカルベカラス、又適応ノ教場ヲ備ヘサルベカラス、博學多識ノ学士ヲ聘セサルベカラス夫レ校舎ヲ立テ教場ヲ備ヘ学士ヲ聘スルニ巨万ノ金額ヲ要セサルベカラス、然ラハ今何人カ克ク我輩ノ願望ヲ洞察シ我輩ノ素志ヲ賛成シ我輩ノ要求ニ応シテ此巨万ノ金額ヲ惠投スルモノゾ、方今我カ邦ノ富ヲ以テ欧米諸國ノ富ニ比スレハ決シテ富國ト称スベカラサルモ、邦人各學術ノ文化ニ緊要ナルヲ知り一致戮力セハ、大学数個ヲ設立シ又之ヲ維持センコトハ決シテ至難ナラサルヘキモ、方今明治政府ノ外明治人民中ニ尚此美挙ナキハ豈ニ遺憾ノ至ナラスヤ、是レ全ク我カ邦人永ク幕府ノ庄政、列藩ノ抑治ニ生息シ不文無學ニ迷盲シ、維新ノ際ニ至リ初メテ實用ノ學問ヲ進取セシモ、文化ノ感染日尚淺ク専門学科ノ必用ナルコトヲ知ラザル〔ニ〕ヨルナラン、然ラハ我カ邦人ノ他年迷夢ヲ醒シ學術ノ緊要ナルヲ知ルニ至ル迄、我輩手ヲ束ネテ大学設置ノ挙ヲ待ツベキヤ、否、否、決テ然ラス、世人言ワスヤ美事ハ怠ル勿レト、我輩誤テ一日ヲ遅延セハ恐クハ百年ノ損亡トナラン、事ノ急ナルヲ知り速ニ之ニ着手セサレハ又何レノ日カ其ノ事ヲ成スヲ得ン、今日我輩ノ急務ハ断乎トシテ之ヲ行フニアルノミ、大方ノ諸彦ヨ我輩ノ學事ニ従事スルヲ以テ、大学ヲ設置スルモ亦我輩ノ任ナリト誤認シ徒ニ坐視傍觀シ賜フ勿レ、今我カ邦家ノ文化ヲ進メ我カ社会ノ基礎ヲ堅フスルハ吾人ノ義務ニシテ、只ニ之ヲ學事ニ従事スルモノノミニ委ヌベカラス、且大学設置ノ如キハ風俗ヲ

矯メ教化ヲ興シ、我同胞ヲシテ智徳兼備ノ民タラシムルニ一日モ猶予スベカラサルモノナリ

夫レ農夫ニシテ好果ヲ得ントナレハ、必ラス先ツ良種ヲ播カサルベカラス、国人ニシテ其ノ文化ヲ進メントナレハ、必ラス先「ツ」文化ノ源因タル大学ヲ設置セサルベカラス、欧州大学ノ設立ハ開明ノ第十九世期ニアラスシテ、却テ未開暗黒ノ八九世期ヨリ十五六世期ノ間ニアリ、又彼ノ世期ニ播キシ所ノ良種ハ今ノ世期ノ好果トナレルコトヲ明証セシカ為、左ノ一表ヲ掲ケタレハ幸ニ一覽ヲ垂レ賜ヘ

○表ハ別紙ニ於テ見ルベシ

「<sup>上欄</sup>前上ノ表ニヨリ之ヲ考フレハ、欧州諸国ハ夙ニ大学ヲ設ケ人才陶冶ニ意ヲ注キシハ他ナシ、一ハ以テ學術ノ奥蘊ヲ究メ、一ハ以テ人才ヲ養ヒ国力ヲ張ルニア「リ」シコトハ、教育ニ熱心ナリシ人物ノ語ニヨリテ之ヲ伺ヒ知ルヘキナリ、彼ノ歐洲ニ於テ宗教大革命ノ率先者タリシ独乙ノルーサ「ルター」氏云ヘルアリ、父兄ニシテ其ノ子弟ヲ就学セシメサルモノハ国賊ト云ヘキモノナリ、又同国ノ理学博士フイヒテ云ヘルアリ、我カ独乙聯邦ヲシ「テ」何ツカ他邦ニ卓越セシムルモノ必ラス教育ノ力ニヨルナルベシト」

又我輩近頃、米国文部寮ヨリ該国大学<sup>ヨルレン</sup>ノ報告ヲ得タレハ、該国大学ノ概況ヲ左ニ記載シ以テ一覽ニ呈セントス

○別紙<sup>※※</sup>ニアリ

前上記載セシ所ノモノハ千八百八十一年ノ上梓ニ係ワリ、千八百七十九年ノ報告ニヨルモノナレハ、我輩曾テ得シ所ノ千八百七十二年ノ報告ト比スレハ、千八百七十二年ニ於テハ該国大学ノ全数ハ二百九十八個ナリシモ、千八百七十九年ニ於テハ其ノ数三百六十四個ノ多キニ至リ、僅ニ屈指ノ星霜ヲ経サルニ大学ノ数六十六個ヲ加ヘシハ、実ニ世界ニ於テ驚駭スヘキ一大事件ト云ヘキモノニシテ、該国人ノ教育ヲ重シ同胞ノ福祉ヲ計リ財産ヲ吝マスシテ陸続大学設立ノ

美拳アルハ、該国人ノ邦家ヲ愛シ万世不朽ノ基ヲ立ツベシトノ熱情ヨリ発スルモノニシテ、其ノ志士ノ目的ハ他ニ非ラス、教育ナルモノハ罪人ヲ減シ良民ヲ増シ、国基ヲ固フシ国力ヲ張ルニ欠ヘカラサルモノナリト

〔上欄末〕

「米國刊行ノ千八百八十一年ノ教育報告中ニ、仏國ニ於テ罪囚人中、有文無文ノモノヲ區別シテ其ノ数ヲ載セタルモノヲ得タレハ、茲ニ登録シ教育ノ必要ナルコトヲ証ス

罪人ノ総数

○三千三百五十四人

読ミ書キノ出来サルモノ

○一千四百八十人

少シ読ミ書キ出来ルモノ

○一千三百六十二人

読ミカキノ出来ルモノ

○五百十二人」

且該国人ノ教育ニ熱心ナルノ要領ハ、其ノ国人ノ智識道德ヲシテ最高点ニ至ラシメサレハ自由制度ノ国体ヲ永続セシムル能ワサルヲ了知スルニアルナリ、嗚呼米国人ニシテ如斯キ高尚ナル目的アリ如斯キ同胞相憐ムノ熱情アリ、巨万ノ金額ヲ投シ大学ヲ設立スルニ至ルハ豈我輩東洋人ノ羨慕シテ止マサル所ナラスヤ、西人云ヘルアリ亞細亞大州ニハ自由制度ノ国ナシト、嗚呼皇天何ソ我カ東洋人ヲ顧ミスシテ如斯モ文化ニ後レ西人ノ糟粕ヲ管メシムルニ至ルヤ、否、否、我輩我カ国ノ現況ヲ見テ徒ニ痛歎スベカラス、欧州人ノ文化ヲ来ラシメシハ彼自ラ勞シテ而後得タルモノ也、英

人曰ヘルアリ、皇天ハ自助者ヲ助クト、宜ナル哉英国ノ欧州ニ兀立スル、彼モ人ナリ我モ人ナリ、彼克ク之ヲ為シテ我輩克ク之ヲ為シ得サルノ理アラシヤ、事ノ成否ハ為スト為サ、ルト、勤ムルト勤メサルトニ関ワレ〔ル〕モノナレハ、欧米諸國ノ今日アルハ良ヤ故アルカナ

我明治政府モ茲ニ見ル所アリ、維新多事ノ際巨万ノ費用ヲモ顧ミス數百ノ書生ヲ欧米ニ遣シ、且早クモ東京ニ於テ一大学ヲ設置セラレシハ、亜細亞文化ノ魁ヲ為セシト云トモ決シテ過言ニアラサルベクシテ、我カ明治政府ハ如斯モ人民ニ率先シ已ニ既ニ政府ノ義務ヲ尽シタリト云ヘキナリ、然ルニ我輩明治ノ民タルモノ政府ノ主旨ヲ奉戴シテ速ニ同胞教育ノ便益ヲ計ラサレハ、我輩在野ノ志士、上ハ政府ニ対シ下ハ同胞ニ向ヒ大ニ恥ツル所ナキ能ワサルヲ得シヤ、又政府ニ於テハ曾テ日本全国ヲ八大学区ニ区分セラレタレハ、他年各区ニ一大学ヲ設置セラレシコトハ疑ヲ容ヘキ所ニ非サレトモ、尚未タ其ノ挙ニ及ハサルハ一ニシテ足レリトセラル、ニ非ラス、恐クハ国事多端ノ然ラシムル所ナルカ、然ラハ我輩維新ノ民タルモノ縱令八大学ヲ設置スルノ資力ナキモ、セメテハ民資ヲ集合シ一大学ヲ関西ニ創立シ、上ハ以テ政府ノ主旨ヲ賛成シ、下ハ以テ同胞就學ノ便ニ供セントス

我輩如斯ク弁シ来レハ論者或ハ問ワン、我輩大学ヲ設立セハ先ツ何等ノ專〔門〕學ヲ授クルノ目的ナルヤ、答テ曰ハシ、我輩大学ヲ立ツルノ主旨ハ普ク諸學科ヲ脩スルニアレハ、只一二ノ専門ニ限ルベカラス、資力ノ増スルニ隨ヒ學科ヲモ増加セシムベシ、然リト雖欧米諸國ニ於テ設ケラレタル宗教、哲學、理學、文學、醫學、法學等大學専門科ノ如キハ容々易々ニ設ケヘキモノニアラサレハ、先ツ三部ヲ設ケ布イテ諸學科ニ及フベシ、然ラハ論者又問ハン三部トハ何ソ、曰ク宗教兼哲學（当分便宜ノ為哲學ヲ宗教部ニ合併ス）醫學、法學ナリ、乞フ是レヨリ此三部ヲ置クノ目的ヲ陳述セン



一宗教并ニ哲学ヲ授クルノ目的ハ、克ク造化ノ妙理ト人間ノ要道トヲ探ラシメ、又明ニ事物ノ奧蘊ヲ究メシメ、學者ヲシテ真理ノ奧妙ヲ味ヒ志操世界ニ逍遙セシメ、進ンデハ同胞ノ福祉ヲ計リ邦家ノ進歩ヲ望ミ、退イテハ一身ノ徳義ヲ脩メ本心ヲ磨キ、真理ニ基キテ動止シ真理ト共ニ生息シ、弱キヲ憐ミ暴ヲ制シ曲レルヲ矯メ正キヲ賛ケ、百折不撓ノ鉄腸ヲ練リ金石モ徹スヘキ精神ヲ養ヒ普ク同胞ノ幸福ヲ希図シ、共ニ進テ文化ノ最高点ニ至ラン事ヲ要スルニアルナリ

一医学ヲ授クルノ目的ハ、医ハ乃チ仁術タルノ本意ニ基キ、富豪ノモノニ倭セス貧婁ノ人ヲ擯ケス、身体上ノ疾病ヲ治療スルノミナラス、又人心上ノ固疾ニ至ル迄モ医治スルコトヲ計リ、疾病ノ源トモ云ワルベキ心中ノ病ヲ療治シ、我カ同胞ノ身体ヲシテ心ト共ニ健全ナラシメ、人間最上ノ歡樂福祉ヲ嘗シメハ真ノ国医ト云ヘクシテ、其ノ功モ僅小ナラサルナリ、依テ如斯真医ヲ養成スルハ方今ノ一大急務ト云ワスシテ何ソ

一法学部ヲ設クルノ目的ハ邦家ノ進歩同胞ノ福祉ニ関シ急務中ノ一大急務ニシテ、身ヲ捧ケテ犠牲トシ政事社会ニ投セントスル志士ノ需用ニ供スルニアルナリ、吾人幸ニ此ノ活動社会ニ生息シ、又已ニ昨十四年十月十二日ノ明詔ヲモ蒙リタレハ、吾人一日モ国会ノ準備ニ怠延シテ可ナルベケンヤ、抑国会ノ如キハ我 天皇陛下モ早晚之ヲ開設スルノ御旨ナキニハアラサレドモ、人民ノ切ニ願望セシ所ヨリ遂ニ彼ノ明詔アリシニ至リシナラント推考スレハ、吾人明治ノ民タルモノ其ノ大任ニ当ルノ人物ヲ養成シテ大政ニ参与セシメサレハ吾人ハ実ニ 天皇陛下ノ罪人ト云ヘキモノナリ、吾人此美世ニ遭逢シ此ノ大任ヲ負担シナカラ、猶予不斷国会開設ノ期ニ至ルモ尚準備ヲ怠リ、人物ハナシ人物ハ乏シト云テ其ノ任ニ適応スルノ人物ヲ撰挙セズ、随テ上ハ 天皇陛下ノ勅慮ニ叛キ奉リ、下ハ自身ノ頭上ニ不幸ノ暗雲ヲ惹起セシメハ嗚呼夫レ誰ノ過チソヤ、然ラハ吾人ノ此準備ヲ為スニ一日モ怠ルベカラサルハ世人



モ普ク了知セラル、ナラン、依テ此準備ニ充テントスルハ他ナシ法学専門部ヲ設クルニアルノミ

又我輩ノ鄙見ヲ以テ論スレハ、今ノ士人ノ準備ト称シテ徒ニ速成ヲ期シ、法学ノ皮相ヲ嘗メ其ノ根元ヲ探究セサルカ如キハ、実ニ国会開設以前ノ準備ト云ヘクシテ開設以后ノ準備ト称スベカラス、故ニ大学ニ於テ天下ノ俊才ヲ陶冶シ普ク學術ヲ修セシメ、古今ノ歴史ニ互ラシメ法学ノ根元ヲ究メシメ政事ノ沿革ニ通セシメ、又徳義ヲ尊ヒ然諾ヲ重ンジ、六尺ノ孤モ托スヘク百里ノ命モヨスヘク、大節ニ臨ムモ敢テ其ノ主義ヲ屈セス、事變ニ逢フモ決シテ其ノ所置ヲ誤ラス、深ク同胞ノ幸福ヲ計リ遠ク邦家ノ安寧ヲ望ミ、国人ノ憂ヲ以テ己カ憂トナシ、国人ノ喜ヲ以テ己カ喜ト為シ、一身ヲ抛チ邦家ノ犠牲ト為スモ敢テ辞セス敢テ厭ワサルノ愛國丈夫ヲ養成セン事コソ我輩ノ切望シテ止マサル所ナリ

如斯三学部ヲ設クルノ主旨ヲ述ヘタレハ尚理學、文學ノ二部ニ関シ一言陳スル所アラントス、今我輩彼ノ三部ヲ先ニシ此二部ヲ後ニスルハ決シテ之ヲ蔑視スルニハアラサルナリ、只資力ノ速ニ及ハ「サ」ルヲ憂ヒ少シク之ヲ遅延セシムルノミ、方今物質進歩ノ時ニ当リ我輩只ニ志操上ノ学科ニ限り研窮セハ、我輩ハ又時運ヲ洞察セサルモノト云ヘキナリ、物理学、文學ノ如キモ実ニ文明組織ニ関シ最モ緊要ナル元素タレハ、資力ノ及フニ随ヒ速ニ此ノ二部ヲモ設置セン事ハ我輩ノ素ヨリ企図スル所ナリ

扨前上ノ主意ヲ一読シ来ラハ論者或ハ問ハン、我輩ハ何ノ資力モナクシテ此大事ヲ挙ントスルハ全ク書生ノ想像空中築城ノ類ニアラサルナキヲ得ンヤ、答テ曰ハン、我輩此ノ素志ヲ抱ケルハ今日ニ於テ初マリシニアラス、方今邦家急進變遷ノ際輕卒浮薄ノ風波ヲ生シ、人々末ニ流レ源ヲ探ラサルガ如キハ止ムヲ得サル所ニシテ時勢ノ然ラシムル所ナルベキモ、吾人坐視徒食シテ速ニ此レカ挽回ヲ謀ラサレハ往々我ガ全社会ヲモ沈没セシムルニ至ラン事ハ今日ノ風潮ヲ

以テトスベケレハ、我輩不肖ノ身ヲモ不顧不遜ノ責ヲモ厭ワス、速ニ大學ヲ設置シ邦家ノ基ヲ立テン事ヲ希図スルナリ、且我輩名利ノ私心ヲ抱キ此挙アルニアラス、我カ同胞中尚未タ我輩ノ求ムル所ニ応シテ大學ヲ設ケサレハ、我輩敢テ此ノ大任ニ当ラントスルハ万止ムヲ得サルニ出ツル所アルナリ、且大學設置ノ如キハ国会ノ準備ノミヲ以テ目的トスルニアラス、普ク諸学科ヲ設ケ製造、殖産、商法、貿易、經濟、文学等ヲ振興セシメ、又風俗ヲ教化一、新シ、人心、改良、ノ点ニ至ル迄関スル所アラントシ、我カ同胞ヲシテ維新ノ民タル品格ニ叛カサラシメ我カ日本ヲ泰山ノ安ニオキ、上ハ 天皇陛下ノ勅應ヲ慰メ奉リ下ハ同胞ノ幸福ヲ来ラシメ、朝ニ臣抑ノ政ナク野ニ不平ノ民ナク上下各其ノ宜ヲ得、人々各其ノ分ヲ樂ミ共ニ進ミ共ニ勤テ一日モ早く我カ東洋ニ真ノ黄金世界ヲ顯出セシメント欲スルナリ、故ニ我輩ノ目的ハ一時ノ需用ニ応シ一世ノ喝采ヲ求ムルニアラス、又一世ノ排評ニ依テ左右變更スルモノニアラス、又此挙タル我輩明ニ邦家万世ニ対シ大ニ裨益スル所アルヲ確信シタレハ今日ヲ以テ此事ニ着手セント欲スル也

抑同志社英学校ノ如キハ元來我輩資金ヲ有シ之ヲ設立セシニアラス、一片ノ精神、一滴ノ感涙、克ク米国人ノ心ヲ動カシ其ノ賛成ヲ得其ノ寄附ニヨリ其ノ基ヲ立ツルニ至リシナリ、我輩今ノ英学校ヲ以テ予備門トナシ、進テ大學専門部ヲ設ケント欲ス

〔上欄〕

「且前上掲載セシ如ク、宗教兼哲学、医学、法学ノ三学部ヲ設クルニ当リ我輩予メ計画ナカルベカラス、宗教兼哲学ノ如キハ校中已ニ準備ナシト云ベカサレハ、之ヲシテ完全タラシムルハ至難ノ事タラザルベキモ、医学、法学ノ二部ニ至リテハ更ニ資金ヲ募ラサルヲ得サルナリ、且如何ニ減省スルモ法学部設置ノ如キハ米國ノ法学博士一人ヲ聘セ〔シ〕トスレハ二千五百元ノ年給ヲ与ヘサルベカラス、今ノ弗相場ニヨリ算スレハ我カ金円ニシテ四千円ナリ、此ノ四千円ノ利ヲ生スヘキ元金ハ乃一割ノ利ニシテ四万円ヲ要スベク、且年給ノ外他ニ多クノ諸費モアルベケレハ、他ニ一

千円ノ利ヲ生スヘキ元金ノ備ヘナカルベカラス、然ラハ乃チ法学部ノミニシテ五万円ノ資金ヲ要スル事ハ明瞭タルベシ、且医学部ノ如キハ米國ノ名医二名ヲ聘セント欲スレハ九万円ノ備ヘナカルベカ〔ラ〕ス

故ニ此二部ヲ置カントスルニハ必ラス十四万円ノ資金ナカルベカラス、此巨額ノ金円ヲ募ル決シテ容々易々ノ事ニアラス、我輩普ク江湖諸彦ノ賛成ヲ得ルニアラサレハ決シテ我輩ノ目的ヲ貫徹シ能ワサル事ハ明々白々タレハ、臥テ願クハ大方ノ諸彦ヨ、先ツ大学ノ我文化ニ緊要ナルヲ了知シ、又我輩ノ素志如何ヲ洞察アリ、徒ニ勿々看過スルナク、此ノ大任ハ各自ノ頭上ニアルコトヲ確認セラレ、学力アルモノハ其ノ学力ヲ以テ世ニ捧ケ、資産アルモノハ其ノ資産ヲ以テ世ニ出シ、同情相顧ミ同舟相助ケ何ツカ共ニ文明ノ彼岸ニ達〔セ〕ラレン事ヲ

嗚呼諸彦ニシテ幸ニ我輩ヲ賛成シ速ニ大学ノ基ヲ置キ賜ハ、乃チ邦家万世ノ基ヲ置クモノニシテ、諸彦ハ乃チ天ノ未タ陰雨セサルニ之ヲ、<sup>〔ママ〕</sup>シ災害ヲ未前ニ防ク智人ト云ヘク、又良種ヲ播クノ良農夫ト云ヘクシテ、好果ヲ得ルノ日ハ將ニ遠キニアラサルベシ

明治十五年十一月七日午前九時

此ノ草案ヲ終ル

裏

〔明治十五年十一月七日・草稿〕

# 11 同志社学校設立ノ由来

予曾テ米国ニ遊学スルヤ身ノ不敏ヲ顧ミス切ニ邦家ニ竭尚未数年ナラ星霜ヲ経ザルニ、不幸ニシテ屢篤疾ニ罹リ随テ身体ノ虚弱ヲ生シ、學術ノ奥蘊ヲ究ムルノ素願モ遂ニ全ク果シ得ス、學業ノ余暇〔米〕ヲ偷〔ミ〕摂生加養〔カ〕ヲ以テ事トシ山河ヲ跋涉ヲ以テ事トシ、風土人情ニ曉通スルヲ以テ事トシ、至ル所大小ノ学校、博物館、書籍館、其他盲啞院、病院、懲育院、百工技芸ノ講習所、百種物産ノ製造場等ヲ巡視シ、且著名ノ人物ニ面接シ其ノ高論ヲ聞クヲ得テ少シク曉ル所アリ、北米文化ノ関スル所ハ教育ノ其ノ宜キヲ得タルニヨルヲ了知シ、身ノ劣才浅学ヲモ不顧、他日帰朝セハ必ラス少年陶冶ヲ以テ己ノ責任トセン事ヲ企テタリキ

我明治維新ノ初岩倉大使ノ米国ニ航セラレシヤ文部理事官田中不二麿公モ随行中ノ一人ニシテ、専ラ欧米諸国ノ教育法ヲ研究セン事ヲ要セラレ、予ニ促スニ随行ヲ以テセリ、予之ヲ辞シ敢セス、學業ヲ半途ニ廃止シ直ニ同公ニ随テ北米中最モ著名ナル大小ノ学校ヲ巡視シ、遂ニ欧州ニ趣キスコットランド蘇、英、仏、スウイツルラント西、和蘭、デンマルク、独乙、魯斯亞等ノ諸国ヲ経歴シ、教育ニ関スル一切ノ要件ヲ探索シ、〔右欄〕「熟察」「揉模」其ノ至レリ尽セルヲ視、歎讀〔右欄〕「転タ歎讀シテ」止マス、弥教育ノ文化進歩ニ大関係アルヲ推窮シ、益素志ヲ固シ、幾回カ官命ヲ蒙リシモ辞シテ奉セス、屢官途ニ就クノ機アリシモ敢テ進マス〔上欄〕「再ヒ北米ニ帰航シテ就学シ」何ツカ帰朝セハ一ノ私立大学ヲ設立シ、万一ヲ我邦家ニ竭サンコトヲ望ミ、造次〔テンパイ〕顛沛ニモ敢テ忘ルノ暇ナカリキ

明治七年ノ秋予漸ク業ヲ卒ヘテ將ニ米国ヲ辞セントスル際ニ当リ、碧山州ロトラント府ニ於テ一ノ大集会アリ、予ノ

朋友過半其ノ会ニ趣ケルヲ以テ、予ヲ勸メ其会ニ臨マシメ予ヲシテ契別ノ詞ヲ述シム、予敢テ之ヲ辞セス、遂ニ壇上ニ昇リ数千ノ聴衆ニ向ヒ予ノ平素ノ願望ヲ吐露シ、真正ノ教育ニヨラサレハ真正ノ文化ハ期シ難ク、我同胞三千万ヨノ幸福ハ一ニ教育ノ其ノ宜ヲ得ルニ係ルヘケレハ、方今本邦維新變更ノ際苟モ本邦ヲ愛スルノ士人ニシテ豈傍觀坐視スベケン、予帰朝ノ後必ラス一ノ大学ヲ設立シ以本邦ニ竭ス所アラントス、満場ノ朋友ヨ何人カ予ノ心情ヲ了察シ、予ノ素志ヲ賛成スル者アルソ、且演ヘ且問ヒ忼慨悲歎ノ余リ不覺數行ノ感涙ヲ壇上ニ注ソキ、演説ヲ中止スル事殆ト二分時間ナリキ、時ニ華盛頓府ノ住人医学博士バーカ氏ナル者予ノ背後ヨリ直ニ起立シ、大声ヲ發シ、新島氏学校ノ為ニ一千弗ヲ寄附スヘシト、統テ碧山州前知事ベージ君モ起テ一千弗寄附ノ約ヲ為セリ、又統テ五百弗、三百弗、二百、一百或五十或ハ三十弗ノ約アリテ、満場歛呼ノ声恰モ沸カ如シ

場中漸ク沈靜スルニ及ヒ予丁寧ニ良朋ノ好意ヲ謝シ、且別ヲ告ケテ演説ヲ終ヘ、將ニ壇上ヨリ下ラントスルトキ一老農夫アリ、予ノ前ニ進ミ來リ戰慄止マス、懷中ヨリ金二弗ヲ出タシ声ヲ低シ陳シテ曰ク、余ハ一ノ寒貧農夫ナリ、今爾ニ捧クル所ノ金ハ予ノ帰路汽車ニ乗ルノ蓄ヘナリ、余子カ深ク本邦ヲ思フノ高志ヲ愛シ感佩措ク所ナシ、余ハ老タリト雖余ノ両足尚用ユルニ堪ユ、余ハ徒步シテ帰村スベシ、此金甚些少ナリト雖子カ將ニ立テントスル大学費用ノ端ニ供セハ余ノ喜ヒ甚大ナル矣ト、又散会ノ後、予汽車ニ乘リロトラント府ヲ去リ、ナヲ未タ数十里外ヲ出テサルトキ一ノ老婦アリ、予ノ背後ヨリ予ヲ呼ヒ喃々解シ難キノ語ヲ以テ予ニ語テ曰ク、少友ヨ余ハ老寡婦ニシテ巨額ノ金錢ヲ有スル者ニアラス、今囊中僅ニ余ス所ノ二元ヲ以テ爾ニ呈シイサ、カ以子カ素志ヲ助ケントス、余サキニ会場ニ於テ爾ニ呈セサリシハ唯金額ノ少ナルヲ愧タルナリ、依テ今此金ヲ子ニ呈ス子幸ニ收領セラレヨト、予深ク其好意ヲ謝シテ之ヲ受納セリ、予曾テ一友ニ語テ曰ク、ロトラント府集会中最モ予ノ衷情ヲ動カシタル者ハ彼ノ老農夫ト老寡婦ノ寄



附金ナリト、其後ニ及ヒ諸方ヨリ有志ノ投金陸續来集シ、遂ニ我同志社學校設立ノ基ヲ為ニ至レリ

新島 襄

八年一月大阪ニ来リ學校ヲ建シ事ヲ計リシニ、宣教師ト共ニスル以テ知事渡辺昇之ヲ敢セサリキ

〔上欄〕「神戸デウイス氏宣教師ヨリ挾バル」〔左欄〕「木戸孝允公ニ面会シ大阪ニ於テ英學校設立ヲ計リ〔シ〕カハ、公ハ予ヲ磯野

小右エ門ニ紹介シ、氏ヲシテ建築費ヲ出サシムル事ヲ企テ〔ラ〕レタリ」

八年五月京師ニ来ル、榎村正直ニ面会ス、同氏ノ周旋ニヨリ同志社

榎村ヨリ紹介アリ山本覚馬ニ面会ス

山本氏ト結社ス、同志社ト称ス

八月東京ニ趣ク、田中〔補〕「不二麻呂」文部大丞、九鬼隆一ノ二公ノ尽力ニヨリ事速ニ成ル〔補〕「學校設立ノ許可ヲ蒙ムル」

〔三日間ニ許可ス〕

〔明治十五年十一月・草稿〕

## 12 同志社大学設立之主意

維新以来時勢之變遷ヲ說出シ来リ、又從來ノ學風ヲ一變シ洋學ヲ採用シテヨリ便宜ト智術ヲ主張シ、往々唯利ヲノミ是求ムルノ弊風ヲ引キ起シ、學者輩多クハ其ノ本ヲ探ラス其ノ末ニ趨リ、其ノ基ヲ固フセス徒ニ速成ヲ期シ、糊口ヲ以テ急務トスルニ至リ、世ノ先導者ヲ以テ任スベキ學者ニシテ身ヲ以テ世ノ犠牲トシ同胞ノ幸福コソ計ルベキニ、必ラ「ス」先ハ邦家ノ公益ヲ計ルヘキニ、射利ノ名ヲ求ムルヲ以テ學問ノ大目的トシ、安逸ヲ得ルコソ人間最大ノ幸福ナリト誤認シ、汲々自ラ之ヲ為スノミナラス門弟ニ向、世人ニ向、喋々之ヲ訓誨スルニ至リ、「随テ其ノ余波浮薄ノ害漸々我社会ニ傳播シ、遂ニ人々德義ヲ重ンセス唯利ヲ是レ争フノ弊風ヲ生シ、日一日ヨリ甚シカラシムルニ至レリ、日本ニ醸シ出シ」<sup>\*</sup>随テ其ノ余波社会ニ傳播シ、人々德義ヲ重セス唯利ヲ是レ争フノ弊風ヲ生シ、社会ヲシテ浮薄□□腐敗ニ趨シムルノ害日一日ヨリ甚カラシム

天ノ未タ陰雨セサルニ之ヲ、<sup>〔ママ〕</sup>スルトハ古人ノ金言ニシテ吾人ノ殷鑑トナスベキ所ナリ、我輩夙ニ茲ニ憂フル所アリ一社ヲ結ヒ明治八年ヲ以テ地ヲ西京ノ北隅ニ占メ一ノ英学校ヲ設置シ、品行端正ナル米國ノ教師数名并又本邦ノ教員數輩ヲ招キ、普通学科ヲ教授セシメ智德並行ノ陶薰ニ尽力セシメタリキ、<sup>〔ママ〕</sup><sup>〔キウカツ〕</sup>裘葛ヲ易フル未タ幾回ナラサルニ生徒學術斐然トシテ進歩ノ実効ヲ呈シタルヲ以、寸進尺進之レカ改良ヲ図ラントシ殆ト寢食ヲモ安セサルニ至ル、喜欣措ク所無カリシモ世運日ニ進月新ナル際ニ當リ、当今授業スル所ノ学科ノミナレハ唯々學術ノ大意初歩ニシテ、學術ノ奥蘊ニ達スルモノト云ヘカラス、今日ノ教科ハ決シテ需用ニ供スルニハ足ラサルコトヲ洞察シ<sup>〔上欄〕</sup>依テ益高等ナラシ



メ尚生徒ノ望ム所好ム所長ツル所ニ随テ専門諸学ヲ修メシムルニアリト確信シ」此ノ必要不可欠不可避（ノ需用ニアツルモノハ）偏<sup>〔カ〕</sup>ニ大学専門部ヲ設置スルノ外他ニ良法ハナカルベシト確信シ、断然トシテ大学設置ニ決意シ、普ク我輩ノ朋友ハ勿論天下ノ志士ニ計リシニ、幸ニ非常ノ賛成ヲ得、近來在校ノ生徒ハ勿論其ノ父兄我カ社ニ於テ速ニ大学専門部ヲ設置セラ<sup>〔レ〕</sup>ヨトノ委頼ヲ蒙ルニ至リシハ、是亦世運ノ然ラシムル所ナリ、我輩此委托ヲ蒙リ我輩ノ任ノ益々重大ナルヲ知り勇進以テ此任ニ当ラント欲ス

然レトモ大学専門部ヲ設置スルヤ容易ノ事ニアラス、必ラス専門学ヲ授業ス<sup>〔ヘ〕</sup>キ博士、数百ノ生徒ヲ容ルヘキ校舍ナカルベカラス、又適応ノ教場ヲ備ヘサルベカラス、博学多識ノ教師ヲ聘セサルベカラス、校舎ヲ立ル、教場ヲ備、博士ヲ聘スル巨万ノ金ナカルベカラス、然ラハ何人カ克ク我輩ノ素願ヲ斟酌シ、我輩ノ素志ヲ賛成セン為求メニ応、此巨万金額ヲ恵投スルモノソ

今我邦ヲ以欧米諸国ニ比スレハ富国ト称スベカラス、<sup>〔上欄〕</sup>「我國民モ大学ノ緊要ナルヲ知り一致戮力セハ」決シテ数箇ノ大学ヲ設立シ能サル程ノ貧窶ニアラサル事ハ明々白々ナリ、我國人永ク不文ノ習風ニ育シ、維新以來初テ実用ノ學問ニ従事セシモ、文化ノ感染日尚淺ク我邦人未タ高等学科ノ我文化ヲ進、<sup>〔カ〕</sup>我國富ヲ保ツニ緊要ナルコトヲ知ラサルニヨルナリ、然ラハ文化ノ他年我國人ニ進ミ學術ノ要用ナルヲ知り得ルニ至ル迄、我輩手ヲ束ネ大学設立ノ義挙ヲ待ツヘキカ、否、否、決シテ然ラス、果報ハ寢テ待テトハ昔時太平ノ時代ニ生レタル横着モノノ言語也、我輩寢テ待チ而シテ是ノ大事業ヲ成シ得ベケンヤ、我輩今日ノ急務ハ勤メテ而テ為、為シテ而<sup>〔テ〕</sup>進ムニアリ、大方ノ諸彦ヨ我輩ノ學事ニ従事スルヲ以テ、大学ヲ設立スルモ亦我輩ノ任ナリト云ヒ徒ニ坐視傍觀シ賜フ勿レ、我國ノ文化ヲ進メ我國ノ基礎ヲ固フスルハ我邦人ノ義務ニシテ、唯ニ之ヲ學事ニ従事スル我輩ノミニ委スベカラス、且大学設置ノ如キハ方今我

邦ノ輕卒學者ノ弊風ヲ矯正シ教化ノ勢力ヲ社会ニ及ホシ、随テ我民ヲシテ智徳兼備ノ民タラシムルニ一日モ欠可カラズ、猶予スヘカラサルモノナリ、〔富ノ厚薄ヲ不論、位ノ貴賤ヲ不問、苟モ我民ト共ニ憂ヒ我民ト共〔ニ〕喜フノ志士ハ応分ノ投金アリテ速ニ我輩ノ素志ヲ賛成シ、不遠我輩ヲシテ大学専門部設置ノ大事ヲ得セシメハ我輩感佩之至、其ノ手足ノ踏ム所ヲ知ラス豈勤メ〔ス〕シテ止ムヘケンヤ

夫レ農夫ニシ〔テ〕好果ヲ得ントナレハ必ラス先良種ヲ播カサルベカラス、国人ニシテ国ニ於テモ我文化ノ進歩ヲ要セントナレハ、必先文化ノ源由タル大学ヲ設置セサルベカラス、欧洲大学ノ設立ハ開明ノ十九世期ニアラス〔シ〕テ、却テ未開暗黒ノ十二三世期ヨリ十四五世期ノ間ニアリ、彼ノ世期ニ播シ良種ハ今ノ世期ノ好果トナリシ事ヲ明証セシメ〔ン〕為左ノ表ヲ掲ケタレ、幸ニ熟覽ヲモセラレヨ

#### 大学ノ表<sup>\*</sup>

且近来米国文部寮イートン氏ヨリ該国大学ノ報告ヲ得タレハ、米国人ノ其国家ヲ愛シ同胞ノ教育ヲ計リ不惜シテ巨万ノ金ヲ投シ、年々大学ノ数ヲ増加スルニ至ルハ、世界ニ於テ一ノ驚駭ヘキ一大事件トモ云ヘ〔キ〕モノナリ

#### 米国大学ノ表<sup>\*\*</sup>

前上掲ケタル如ク欧洲諸国ニ於テハツトニ大学ヲ設ケ人才陶冶ノ方ヲ立シハ、国力ヲ張ル決テ金力ノミニアラス恒ニ人物ヲ得ルニアリト、独乙ノローサル〔ルター〕云ヘルアリ其子弟ヲモテ就学セシメサル父兄ハ国賊ト云ヘキモノナリト、又同国ノ博学ファイヒテ氏云ヘルアリ、独乙国聯邦ヲシテ何時カ他国ニ超越セシモノハ必ラ〔ス〕教育ナルベシト、又米国文部寮ノ近報ニヨレハ千八百七十二年ニ於テハ全国大学ノ総数ハ二百九十八個ナリシモ、千八百七十九年ニ於テ其ノ数三百六十四個ノ多キニ至リ、僅ニ七八ノ屈指丈ケノ星霜ヲモ経サルニ大学ノ数六十六個ヲ加増スルニ至レリ、

蓋シ米國ニ於テ如斯モ大學ヲ創立スル志士ノ目的ハ他ニアラス、學問ナルモノハ罪人ヲ滅シ良民ヲ増シ國安ヲ保ツニ欠ヘカラスサルモノト認メ又信シテ、巨万ノ財産ヲモ如斯モ、マサルニ至レルハ、豈我輩東洋人種ノ羨慕シテ止マサル所ナラスヤ〔上欄〕「米國ノ如キ共和政体ノ國ハ他ノ政体ノ國々ト異ナリテ、智識道德ノ最高尚ナルモノヲ要ス」

西人曰ヘルアリ亜細亞洲ニハ自由制度ノ國ナシト、嗚呼皇天何ソ我東洋人ヲシテ如斯モ文化後レ西人ノ糟粕ヲ嘗メシムルニ至ルヤ、否々我輩今日有様ヲ見テ徒ニ痛歎スヘ〔キ〕ニアラス、英人曰ヘ〔ル〕アリ皇天ハ自助者ヲ助クト、宜ナル哉英國ノ欧州ニ兀立スル、彼モ人ナリ我モ人ナリ、彼之ヲ克クシテ我輩焉ソ之ヲ能セサ〔ラ〕ンヤ、事ノ成否進退ハ勤ムルト勤メサルトニ関ワルベクシテ、欧州米諸國ノ今日アルハ故ナキト云ベカラス

我明治政府ニ於テ見ル所アリ、維新多事ノ際大學ノ文化緊要ナルヲ以テ早クモ東京ニ大學ヲ設置セラレタルハ〔上欄〕「法理文、哲學、工学」東洋文化ノ基礎ヲ立ツルニ魁セシト云トモ決シテ過言ニアラサルベクシテ、我政府ノ如キハ人民ニ率先シ已ニ已ニ政府ノ義務ヲ尽シタルト云ヘキナリ、然ルニ我輩明治ノ民タルモノ豈明治政府ノ旨意ヲ奉戴シ、又幾分尽ス所アラシテ止ベケン、又政府ニ於テ曾テ日本全國ヲ八大學区ニ区分セシハ、他年各区ニ一大學ヲ設立セントノ目的タルベキハ推シテ知ルベケレハ〔上欄〕「当今ノ如ク一大學ニシテ決シテ足レリトスルモノニ非ス、又一ニシテ足レリト云ベカラズ、然ラハ」我輩タトヒ八大學ヲ立ルノ資力ナキモ、セメテハ民資ヲ以テ一大學ヲ関西ニ設置シ、我本分ヲ竭シ広ク同胞ニ益スル所アラン事ヲ切望ス、然ラハ論者或ハ問ハン

我輩大學ヲ設立シテ何等ノ專〔門〕學ヲ授クヘキ目的ナルゾト、答テ曰ハン我輩大學ヲ立ツルノ主旨ハ普ク諸学科ヲ修ムルニアレハ只一二専門ニ限ルベカラス、資力ノ増スニ随ヒ欧米諸國ニ於テ授クル所ノ諸学科ヲ授クヘキハ我輩ノ素願ナリ、然リト雖大學部専門科ノ如キハ又容々易々ニ設クヘキモノニアラス、先初三部ヲ設ケ、然ル後諸学科ニ及

ホ〔ス〕ヘシ、依テ欧米ノ大学ニ倣ヒ他年宗教、哲学、理学、文学、医学、法学ノ六部ヲ置カン〔コ〕ト〔ヲ〕要スレトモ先宗教、医、法ノ三部ヲ置キ、資力ノ加増スルニ随ヒ数学部ニ及ホサントス

今我校ニ於テ宗教<sup>〔先〕</sup>并哲学ノ如キハ、人ノ已ニ知ラル如ク我校德育ノ基トモ為シタル事ナレハ、之ヲ着手シ之ヲシテ完全タラシムルハ至難ノ事ニアラサルベケレトモ、医学、法学ヲ設ル如キハ先数万ノ資金ヲ得サレハ如何トモスル

能ハサルナリ、今如何ニ減省ストモ法学部ヲ設ケントナレハ六万円、医学部ヲ置カントナレハ八九万円ノ資金ヲ仰カサルヲ得サルヘシ、去レトモ此ノ金ヲ得ルニ他ノ途ナシ、偏ニ同胞有志輩ノ賛成ヲ得其恵投ヲ仰クニアルノミ

○且三部ヲ設クルノ目的ハ他ニ非ラス、宗教并ニ哲学ノ如キハ克ク事物ノ理合ヲ明カニシ、人間ノ志操ヲ高尚ニシ、又克同胞ヲ顧ミルノ愛心ヲ頼ミ、徳義ヲ重シ廉恥ヲ尊ヒ、人々ヲ志操世界ニ逍遙セシメ、百折不撓ノ鉄腸ヲ練ラシメ、金石ヲモ徹スヘキ精神ヲ蓄ヘ、真理ヲ探求シ、真理ニヨリテ挙動シ、真理ト死生ヲ共ニシ、弱キヲ救ヒ異ヲ制シ、屈レルヲ矯メ正キヲ賛ケ、同胞ノ最大幸福ヲ期シ、共ニ供ニ文明ノ最上点ニ進マン事ヲ要スルニアリ

○医学ヲ設クルノ主意ハ乃チ方今藥ヲ売リ又芸ヲ売ル又名ヲ売ル利ヲ射ルノ商法医ノ惡弊風ヲ一洗スニアリ、医ハ乃仁術タルノ主義ニ反カス<sup>〔上欄〕</sup>「富豪ノモノニ倭セス貧妻ノ人ヲ擯ケス」人間克身体ノ病氣ヲ医シ、随テ又人心ノ固疾ヲ

モ医治シ、我カ同胞兄弟〔ヲ〕シテ罪惡中ヨリ脱去リ、肉体ト心ト共ニ無病健全ノ人タラシメ、各ヲシテ人間最上ノ歡樂福祉ヲ嘗セシメハ、医モ亦真ノ国医ト云ヘクシテ医ノ功モ亦広大ナルモノト云ヘキナリ、故ニ人間ヲ救フヲ以テ大目的トスヘキ医者ヲ養成スルハ方今ノ急務ト云ハスシテ何ソヤ

法学部ヲ設クルカ如キハ我邦家ノ進歩同胞ノ福祉ニ関シ方今急務中ノ一大急務ト云ヘキモノニシテ、嘗テ邦家ヲ憂<sup>〔カ〕</sup>ヒ一日モ恐レノ志士ナレハ法学、政事学ヲ修スルニ注意セスンハアルベカラサルハ世人モ普ク了知セラル、ナラン

吾人幸ニ此ノ變動シ、運輸シ活動改良スルノ明治ノ世ニ生、又已ニ昨十四年十月十二日ヲ以、來二十三年ニ至レハ国会ヲ設ケラルベキ明詔ヲモ蒙リシハ我國未曾有ノ大美事ト云ヘクシテ、明治ノ民タルモノ拳々服膺一日モ其ノ準備ニ怠延シテ可ナルベケンヤ。抑国会ノ如キハ政府ニ於テモ兼テ之ヲ設立スル主旨ナキニハアラサレトモ、人民ヨリ切ニ要求セシ所ヨリ、遂ニ十四年十月十二日之明詔アルニ至リシ事ト推考スレハ、人民タルモノ其大任ニ当ルノ人物ヲ撰択シテ大政ニ参与セ「シ」メサレハ、人民タルモノ「ノ」分ヲ尽セリト云ヘカラス

此ノ美世ニ遭逢シ今ノ大任ニ当リナカラ、猶予不斷国会開設ノ日ニ至ル迄モ全ク準備ニモ怠リ、人物ハナシ人物ニハ乏シト云テ其ノ任ニ適応スルノ人物ヲモ差出サス、随テ政府ノ主旨ニモ反ムキ自身ノ頭上ニ不都合、不幸ヲ醸シ來ラシメハ嗚呼夫レ誰ノ罪ソヤ、方今我輩ノ最憂ヘテ止マサル所ハ今ノ士人往々準備ヲ為トモ広ク諸學術ヲ修練セス、又普ク古今ノ歴史ニモ通セス、徒ニ速成ヲ期シ大器晩成ヲ冷笑シ、法学ノ皮相ヲ取り糟粕ヲ嘗メ其ノ根元ヲ探ラス、真ニ身ヲ以テ犠牲ト為シ邦家ノ大難ニモ敢テ□□セス敢テ当ルノ精神ヲ養成スルヲ忘レ、却テ区々タル法学ノ枝葉ヲ修メ喋々世人ヲ籠絡シ、投機名ヲ求メ射利ノ機械ト為ノ輩モ至テ少トセサレハ、<sup>〔上欄〕</sup>「我輩誤テ如斯基人物ニ此大任ヲ負擔セシムベカラス、如何トナレハ我輩誤テ此大任ヲ此輩ニ任セハ、我社会ヲシテ破壊ニ至ラシ腐敗ニ趨カシムルハトワスシテ知ルヘキ所ナリ」、依テ我輩ノ切望スル所ハ、深切丁寧國人ノ憂ヲ以テ其憂ト為シ國人ノ喜ヲ以其喜トナ<sup>〔ママ〕</sup>為シ、深ク同胞ノ幸福ヲ計リ國家ノ安寧ヲ期シ、信義ヲ尊ヒ然諸ヲ重ンジ、六尺ノ孤モ托スヘク百里ノ命モ寄スヘク、又広ク諸學ニ達シ古今ノ歴史政事ノ沿革等ヲ明ニシテ、克ク事變ニ臨ミ其ノ所措ヲ誤リ失ワサルノ人物ヲシテ此大任ニ当ラシムルニアルノミ、然ラハ如斯基人物ハ養ハス教ヘスシテ如何ニテ望ムヘキ、偕<sup>〔ニ〕</sup>之ヲ養成ノ良法ヲ得ルニアルノミ、國ノ父母ナルモノ教師ニ関スルモノ大器量ノ人才ヲ養成スルニ尽力シ、<sup>〔力〕</sup>學力アルモノ其學力ヲ以テ世ニ事ヘ、



資産アルモノハ其ノ資産ヲ以テ世ニ捧ケ、同心協力我カ東洋政事上ノ大進歩ヲ計リ、我日本ヲシテ泰山ノ堅キニ置キ、我天皇陛下ヲシテ勲慮ヲ慰メ奉、朝ニハ<sup>カ</sup>壓抑制法ナク、郷ニ不<sup>カ</sup>平念怨ノ民ナク、上下各其所ヲ得、我同胞ヲシテ各其宜ニ安セシメン事我輩ノ切望シテ止マサル所ナリ

前上ノ主意ヲ一読セハ論者又或ハ問ハン、我輩ハ何ノ資力モナクシテ此大事ヲ拳ントスルハ全ク書生ノ空想空中ノ建城ノ類ニアラサルナキヲ得ンヤト、冷笑スヘキモノアルハ計リ難ケレトモ我輩此素志ヲ抱ケル今日ニ於テ初マリシモノニアラス、方今我邦家急進ノ際ニ当リ大学ノ設ナケレハ、我邦人ノ徒ニ皮相枝葉ノ学ニ流レ輕卒浮薄ノ風ヲ生シ、浮世医スベカ<sup>ラ</sup>サラルノ恐レアレハ、現今民間ニ於テ尚未タ大学設立ノ拳ナキヲ以テ、我輩不敏ト雖不遜ノ世評ヲ顧ミス敢テ此大任ニ当ラントス、大学設置ノ拳ハ唯国会開設ノ準備ヲ以テ目的トスルニアラス、開設後ノ基ヲ固メント欲スル也、又大学設立ハ国会ノ一事ニ関スルノミニアラス、諸学科ヲ振起シ製造殖産ヲ盛ナラシメ、又商法貿易ヲ興シ、道德<sup>カ</sup>ヲ隆興シ教化ヲ盛ニシ風俗ヲ純良ニシ弊風ヲ矯メ、<sup>上欄</sup>「人々信義ヲ以交ハリ父子各其任ヲ知リ」我人種ヲモ改良シ、男女ノ間ヲ正シクシ、又社会ノ初メハ夫婦ニアリト云ワルコトナレハ、速ニ一夫一婦ヲ以相ヒ結ヒ從來一妻數妾ノ惡弊風ヲ一洗シ去リ<sup>上欄</sup>「人種ヲ改良シ人心ヲ清潔タラシメ」我維新ノ名ニ背カス一新ノ民タル品格ニ進マシメ、我東洋ニ黄金世界ヲ来ラシメン事コソ我輩大学ヲ立ツルノ目的ナリ

願クハ大方ノ諸彦ヨ、我輩ノ拳ヲ以テ輕卒書生ノ企ト見倣シ勿々ニ之ヲ看過スル勿レ、我輩切ニ其ノ任ノ重且大ナルヲ知リ、慎テ其任ニ当リ其ノ分ヲ尽サント欲スルナリ

又我輩切ニ同胞ノ幸福ヲ計ルヲ以テ、誤テ政党ニ左袒スルモノト見倣ス勿レ、我輩事物元理ヲ探窮スルヲ以自任スルモノナレハ、決テ一政党ノ範圍内ニ入ルモノニアラス、又枉テ政府ニ倣スルモノニモアラス、□ニ真理カアル所ヲ探

リ真理ノ壘ニ遊ハント欲スルモノナリ、依テ願クハ江湖ノ諸彦ノ我輩ノ素願ヲ洞察アリ、又邦家ノ基ヲ立ツルニ不可  
欠ノ大学設置ヲ賛成シ賜ヒ、今日以テ東洋文化ノ緒ヲ開キ、智徳並行ノ教育ヲ興シ、国家ノ幹骨トモナ〔ルベ〕キ人才  
ヲ養成シ〔上欄〕「學事ニ從事スルモ〔ノ〕ハ全力ヲ張リ、〔力〕資力アルモノハ資力ヲ以テ此世ニ捧ケ、同舟苦楽ヲ共ニシ」〔補〕  
ル〔ヲ〕得ハ」文明ノ彼岸ニ達セン、黄金ノ美世ヲ満腹セン事ハ豈又快ナラスヤ

諸彦ニシテ幸イニ我輩ヲ賛成シ賜ハハ諸彦ハ乃良種ヲ播ク良農夫ニシテ、好果ヲ得ルノ日ハ将ニ遠キアラ〔サル〕ヘシ  
⑩是諸学科ヲ論シ来ル

〔明治十五年・草稿〕



### 13 同志社大学設立ヲ要スル主意

#### 一冒頭

一当時我愛国者中或ハ物産ノ起ラス、或ハ商業ノ盛ナラス、或ハ民力ノ振ワス、或ハ国権ノ張ラス、或ハ又道德ノ寥々地ニ落チタルヲ痛歎スル者決シテ少カラスト雖、文化ノ元素ナル人才陶冶法ヲ論究シ高等ノ教育ニ着手スル者ノ至テ尠ナルハ余輩ノ尤モ痛歎スル所ナリ

我政府ニハ早く高等教育ノ文化ニ欠ヘカラサルヲ知り、已ニ東京ニ於テ一大学ノ設アルモ、我全国ノ人民ニ対シ一大学ニシテ足レリト云ベカラス、且其他府県ノ官立学校又私立学校ノ如キハ決シテ高等ノ地位ニ進メリト云ヘカラス、又或ハ偏倚ノ陶冶方ト云ワサルヲ得サル者アリ、甚キニ至リテハ全ク其ノ方ヲ誤リ、唯知育ノミヲ主張シ心育ヲ度外視シ、心育ノ如キハ此開明ノ時代ニハ無用ノ長物ナリト論弁シ、往々世人ヲ誤ラシムルニ至ルハ乃チ瞽者ニシテ瞽者ヲ誘導スルモノト云ワスシテ何ゾ、如斯其方ヲ誤リ智育ノミヲ主トシ全ク心育ニ怠ルトキハ、唯ニ偏倚ノ学士ヲ養成スルノミナラス、當私射利ノ徒ヲシテ陸續輩出セシムルニ至ルハ問ハスシテ知ルベケレハ、焉ソ身ヲ邦家ニ捧ケテ犠牲トナスノ愛国士人ヲ企図スベケンヤ

余輩茲ニ憂フル所アリ、明治八年ヲ以テ地ヲ我カ帝国ノ中央ニシテ旧都ナル西京ニ占メ一ノ英学校ヲ設立シ、専ラ智徳兼行ノ陶冶方ヲ施セシカハ輕卒者流余輩ノ主義ヲ了知セス余輩着目ノ終点ヲ洞察セス、或ハ之ヲ誹謗シ或ハ之ヲ厭嫌シ、甚キハ窃ニ我カ校ヲ軋覆セント計ル者アリシモ、然ルニ皇天上帝余輩ノ素志ヲシテ地ニ落チシメス今日

迄永統維持スルノ福祉ヲ得セシメタリキ、且四方ノ良父兄ノ信用ヲ蒙リ幸ニ其ノ子弟ヲ委托セラレタルニヨリ現今生徒ノ員數モ稍加増シ、隨テ學術モ進歩シ、勢ヒ高等ノ学科ヲ授ケサルヲ得サルノ場合ニ至リシハ是レ時運ノ然ラシムル所ナルカ、余輩此機ニ際シ一日モ徒手坐視スベケンヤ、英人云ヘルアリ皇天ハ自助スル者ヲ助クト、余輩豈勤メスシテ好果ヲ期スベケン、余輩今日ノ急務ハ我校ノ学科ヲシテ益高等ナラシメ、遂ニ大學ノ地位ニ進マシムルニアリト、然レトモ大學設立ノ如キハ決シテ容々易々ノ事ニアラス、必ラス練熟ノ博士ヲ聘セサルベカラス、博士ヲ聘スルニ巨万資金ノ備ヘナカルベカ〔ラ〕ス、資金ヲ備フルニ有志者ノ助ケナカルベカラス、有志者ノ助ケアリ初メテ資金ヲ備ベシ、資金アリ依テ以テ博士ヲ聘スベシ、博士ヲ聘シ而シテ后大學専門学科ヲ設置スベシ、欧米諸國ノ大學ノ如キハ、或ハ神学、法学、医学ノ三科ヲ設クルアリ、或ハ法学、理学、文学ニ限ルモアリ、或ハ神学、法学、医学、文学、理学、工学、農学等ヲ兼ネ教ユルモアリ、或ハ古代ノ語学ト文学トニ全力ヲソ、クモアリ、カク校毎ニ多少ノ差違アルモ必ラス二三ノ専門学科ヲ設ケサルベカラス

我校ニ於テ現今設置セント欲スル学科ハ乃神学、哲学、法学、医学等ナリ

〔上欄〕「神学、哲学ヲ設クル理由 此二科ノ如キハ人生ノ志操ヲ高尚ニシ、精神ヲ練磨シ智力ヲ發達シ思考ヲ奥蘊ナラシ

メ、又人ヲシテ己レノ本分ヲ知り人類ヲ愛シ、其義務ヲ尽サシムルニ欠ベカラサルノ必要学科ナリ

法学設置ノ目的 国民ヲシテ己レノ権理義務ヲ知ラシムルノミナラス、大ニ政事上ノ志操ヲ發達シ自治ノ精神ヲ開育シ、志士ヲシテ自ラ犠牲トナリ國家ノ大任ニ當ラシムルニ必ラス修セスンハアルベカラサルノ学科ナリ、然リト雖法学ノ如キハ恰モ烈火激濤ノ如シ、徒ニ皮相ノ学ヲナシ其ノ元理ヲ探究セサレハ破壊主義ニオチイルハ史実ニ歴々タレハ、憂國ノ志人尤モ之ニ注意シ必ラス邦家ヲ救フノ策ヲ立テサルベカラス

医学設置ノ目的 医ハ仁術ナリト古人モ云レタレハ、医者タルハ必ラス其術ヲ以社会ヲ益スルヲ計ベキニ、当今ノ医師ハ決シテ然ラス、徒ニ其術ヲ売り己ヲ利スルヲ以医業終局ノ目的トナシタル者少ナカラサレハ、弊校ニ於テ此科ヲ設クルハ切ニ此弊風ヲ矯正シ其業ヲ売ルノ主義ニ非シテ、普ク世人ヲ救ヒ貧人ヲ恤ミ社会ヲ利スルノ愛國士人ヲ養成セン事ヲ希望スルナリ」

我校ニ於神学ノ如キハ已ニ其緒ヲ開ラキタレハ、之ヲシテ完全ナラシムルハ容易ナルベク、且現今ノ教員ヲシテ哲  
学ヲ兼授ケシムルハ亦決シテ至難ノ事ニハ非サルベキモ、法学、医学ニ至リテハ更ニ博士ヲ聘セサルベカ<sup>〔ラ〕</sup>ス、  
又学舎ヲ増シ病院ヲ築カサルベカラス、今此事業ヲ全フセント欲セハイカニ減省ストモ拾<sup>〔朱点以下同〕</sup>万<sup>〔下同〕</sup>円ノ資金ヲ要セザル  
ベカラス、假令ハ法科ヲ設クルニ五<sup>〔下同〕</sup>万<sup>〔下同〕</sup>円、医科ヲ設ルニ六<sup>〔下同〕</sup>万<sup>〔下同〕</sup>円ト概算シ、之ヲ募集スルニ当リ何人ソ克ク之ニ応ス  
ル者ゾ、弊校設立以来日尚浅ク未タ世人ノ普ク知ラサル所ナレハ、喋々余輩ノ素志ヲ吐露スルモ之ヲ賛成シ速ニ之  
ニ応スル者ノ多カラサルヲ苦ム、然リト雖大学設置ノ期已ニ至リタレハ荏苒一日モ猶予スヘカラス、一日之ヲ猶予  
セハ一日ノ進歩ヲ妨クベシ、故<sup>〔二〕</sup>余輩江湖ノ諸彦ニ向ヒ断然余輩ノ素志ヲ吐露シ諸彦ノ賛成助力ヲ仰カントス、  
余輩不敏ナリト雖曾テ我国力ノ振興セス學術ノ隆盛ナラス道德ノ寥々地ニ落タルヲ痛歎シタリシニ、今日尚之ヲ見  
テ之ヲ救ヒ、之ヲ改メ之ヲ進ムルノ方ヲ設ケサレハ、余輩ハ実ニ生ヲ偷ムノ徒皇天皇土ノ容レサル所ナルベシ、辱  
ナクモ我カ勸聖ナル 天皇陛下ニハ、去年十月十二日ノ明詔ヲ以テ明治廿三年ヲ期シ国会開設ヲ許シ君民同治ノ緒  
ヲ開カセ賜ヒシハ、万世ノ一遇余輩豈勉メスシテ此ノ隆世ヲ經過スベキゾ、今日ハ進ムアリ退ベカラサルノ好時代  
ナレハ、此時代ニ適応シ且此時運ニ先立ち民ノ先覺者タルベキ者ヲ養成スルノ大学ヲ設ケサレハ、如何ソ我文化ヲ  
シテ其奥蘊ノ域ニ達セシムベケン、焉ソ克ク智徳ニ富ミ品格ニ高ク修練ト利用ヲ兼備シ下民ノ友トナリ賤業ヲモ辞

セス苦辛ヲモ厭ワス、黄金ノ為ニ左右セラレス情慾ノ奴隷トナラス、確乎不拔ノ主義ヲ以テ其ノ身ヲ制御シ、邦家ノ柱石人民ノ木鐸トナルベキ大器量ノ人物ヲ期スベケン、故ニ余輩ノ鄙見ヲ以論スレハ大学設立ハ我カ変革時代、改進黨期ニ当リ実ニ一日モ遅延スベカラサルノ一大急務ナリ

抑欧米諸國ノ日々富強ニ趣キ駿々學術ニ進ミ、又人物ノ陸續輩出スルハ決シテ偶然ト云ヘカラス、蓋シ大学ノ設置アリテ人才陶冶シテ其ノ法ヲ得タルニヨルナリト、現今我邦人モ欧米ノ文化ヲ讚称シテ、尚未タ文化ノ基礎ナル大學ニ論究セサルハ余輩ノ遺憾トスル所ナリ、依テ欧米大学ノ景況ヲ略記シ江湖諸彦ノ一覽ニ呈セントス

### ○欧洲大学ノ概略

欧洲中大学ノ最モ旧ク且著名ナル者ハ仏郎西ノパリス大学、伊太利亞ノボロリナ大学、続キテ英国ノオクスフォールド、ケンブリチ大学等ナリ

欧洲大学ノ現数ハ凡疋百ノ多キニ至リテ、其内多クハ第十三世期、第十四世期ノ設立ニ関ワル者ト雖、現世期ノ設立ニ関ワル者モ亦少シトセス

### ●當時英国ニハ四ケノ大学アリ、乃チオクスフォルト、ケンブリヂ、ロンドン、ドルハム等ナリ

○オクスフォルド大学ハ第九世期中英王アレフレドノ設立スル所ニシテ、其後漸々盛大ニ趣キ現今ニ至リ、コルレジ（古代ノ語学、数学并ニ高等ノ學術ヲ教フル学校ノ称）ト称スル者十九個、老年ノ収納金ハ凡疋百万弗、生徒ノ員数凡一千四百人

○ケンブリチ大学ハ第十二世期ノ初メニ於テ設立セラレ、方今コルレジト称スル者十七個、生徒ノ数凡一千六百人  
○スコットラントニ於テハアンドリウス、格拉斯コー、アベルディン、エディンボローノ四大学アリ

●独乙同盟國中三十個ノ大学アリ、其内著名ナル者ハプレーグ、ヴィエナ、ハイデルボルグ、ライプシク、テュービンゲン、エナ、ハルレ、ゲッティンゲン、ベルリン等ナリ

独乙諸國ノ大学ノ如キハ、高尚ナル専門科ヲ攻修スルニ至リテ実ニ他國ノ右ニ出ツヘキモ、諸政府ノ直轄スル所ナレハ自治精神ニ欠乏スル憂ナキモ保証シ難シ

●伊太利亞ニハ二十個ノ大学アリ

●和蘭、ベルシヤム、スカンディネヴィヤ、スペイン、ホルトガル、ロシヤ、グリース等ノ諸國ニハ大学三十個アリ

●北米合衆國中大学又ハコルレジト称スル者ハ、該國文部寮ノ千八百七十二年（我明治六年）<sup>〔ママ〕</sup>ノ報告ニヨレハ國中コルレジノ数二百九十八個ナリシモ、千八百七十九年（我明治十三年）<sup>〔ママ〕</sup>ノ報告ニヨレハコルレジノ数ハ三百六十四個ノ多キニ至リ、僅カ七年ノ間ニ六十六個ノコルレジヲ加増セリ

〔上欄失〕  
「又諸方ノコルレジヘ惠与サレタル投金ノ総数ハ、千八百七十一年ヨリ同七十四年迄僅カ三年ノ間ニ三千三百萬ノ多キニ至レリ」

一「ハーウオルド・コルレジ」ハ、マスサチュセッツ邦ケンブリヂニアリ、千六百三十六年マスサチュセッツ海灣植民社ノ裁判所ヨリ四百ポンド（貳千弗）ヲ寄附セラレ、千六百三十八年基督教会牧師ジョン・ハーウオルド氏ヨリ八百ポンド（四千弗）ト其ノ所有ノ書籍若干ヲ寄附セラレシヨリ創立スルモノナリ、該校現今ノ資金ト有所物ノ代価ヲ合算スレハ貳百八十萬弗ノ巨額ニノボリ、資金ノミハ壹百八十五萬弗、其利子十三萬三千六百七十六弗ナリ

書籍ノ数ハ十三萬四千卷

教員助教ノ員、壹百十人

専門科ハ神学、法学、医学、治歯学等。別ニ有名ナルローレンス技芸学校ノ設ケアリ

一「エール・コルレジ」ハ、コンネチカト邦ノニウヘヴンニアリ

大学ノ資金ハ、壹百五十五万弗、

授業料ノ金額ハ、拾万七千弗、

資金ヨリ生スル利子ト授業料トヲ合算スレハ、一年ノ収入高ハ、二十三万五千弗

生徒ノ員、壹千ヨ人

専門学科ハ神学、法学、医学、治歯学、鉱山学等ニシテ、内学芸講究ノ為設ケラレタル学校アリ、之ヲシヤツフィールド技術校ト号フ

一ブリンストン・コルレジ 資金壹百三十五万弗

一ユニヨン・コルレジ

一アムオルスト・コルレジ 資金壹百拾万弗

一ウィリヤム・コルレジ

一ダートマウス・コルレジ

一オベリン・コルレジ

一ミシガン・コルレジ、ミシガン州立ニ関ワル

専門科 法、文、医、化学、農学、工学

一年ノ費用ハ、九万九千三百七十八弗



生徒ノ員ハ一千百九十一人(千八百七十六年ノ報告ニ関ワル)

# 一 コルネル大学

此校ハコルネル氏ノ寄附金五拾万弗ヲ以テ創立スル所ニ関ワル、又米國大政府ヨリ広大ナル土地ヲ給与セラレタルヲ以、其資金ト土地ヨリ生スル所ノ金額ハ老年拾四万弗ノ多キニ至ル

以上掲ケシ如ク米國ノコルレジハ現數三百六十六個<sup>(ママ)</sup>ノ多キニ達スルモ、其中尙創立ノ日ヲ去ル遠カラスマ、中学ニ類スルモノアルモ、其ノ進歩ハ該國物産ノ隆興ト人民ノ増加ト共ニシテ高等學校ノ陸續設置セラレ、又學術ノ弥高点ニ達スルハ他國ノ敢テ比スベキ所ニアラス、且二三ノコルレジヲ除クノ外尽ク人民有志ノ寄附ニヨツテナルモノナレハ其國人ノ學ヲ重スルト自治ヲ好ムト愛國心ノ盛ナルトハ推シテ見ルベシ

顧ミテ我邦現今ノ高等教育ノ形況ヲ察スレハ東都ニ唯一ツノ大学アルノミ、仮令此大学ヲシテイカニ完全ナラシメ、イカニ完大ナラシムルモ豈ニ我國中ノ拔擢ノ少年生徒ヲ容ルニ足ルベケン、故ニ人民ノ員數ト「<sup>(補)</sup>ヨリ論シ又」地理ヨリ論シテモ一ツニシテ足ラサレハ他ニ三四ノ大学ナカルベカラス、然ラバ何レノ地方ニ之ヲ配置シテ可ナルベキゾ、答テ曰ク、畿内中国四國ニ一大学ヲ設ケ、九州ニ一大学、東奥ニ一大学ヲ設ケ、北海道ニ一大学ヲ設置セバ稍地方ノ求ニ応スルニ足ルヘキナリ、仮令速ニ三四ノ大学ヲ設置シ能ワサルトモ、セメテハ西京ニ一大学ヲ設立シ、之ヲ關西ノ大学トナシ、關西ノ子弟ノ高等教育ニ便セハ其ノ裨益ハ決シテ少カラサルベシ

方今諸方ノ士人往々教育ノ我改進時代ニ欠ヘカラサルヲ了知シ、同心協力或ハ普通學校ヲ設ケ、或ハ又法學講習所等ノ設アルモ、多クハ一小地方ニ限り、随テ其力モ亦微小ニシテ、遂ニ高等奧蘊ノ學科ヲ修スル能ワサルノ憂アレハ、弊校ニ於テ広ク江湖諸彦ノ眷顧ヲ乞ヒ、巨万ノ資金ヲ募集シ、完全ナル一大学ノ設置アランコトヲ企圖シテ止マサル



ナリ

仰キ願クハ江湖ノ諸彦ヨ、苟モ愛国心ヲ抱カレ高等学科ノ我文化ニ欠ヘカラサルヲ了知シ、又向來我國是ニ大關係アル事ヲ洞察シ賜ハ、応分ノ投金アリテ余輩ノ素志ヲ賛成シ賜ラン事ヲ

西京 同志社

新島 襄

〔明治十五年・草稿〕

## 〔同志社大学設立の旨趣〕

第十二二期「比ニ至リ」ニ於テ仏國ノパリス大学モ盛大ニ趣キ、グリシヤノ理学ヲ講究シ、又伊太利亞ノボロナニ於テハ羅馬ノ法律ヲ研窮シ初メタレハ、此時代ヨリ歐洲ノ文学ハ漸々ト萌芽セシト云ベクシテ、パリス大学ノ有名ナルアベラード、ロンバルドノ如キハ特ニ本邦人ヲ薰陶セシノミナラス、外國ノ書生ニ至迄數百里ヲ遠トセ〔ス〕シテ其ノ校ニ就キ学ハシムルニ至リシハ、當時パリス大学ノ勢焰如何ヲ想ヒ見ルベシ

又英國ニ於テ第九二期ノ時代ニ創立セラレタルオクスフォルド大学ノ如キモ、第十二二期ニ至リ初メテ其ノ人ヲ得タリト云ヘクシテ、シヨンオフサリスベレーノ如キハオクスフォルドノ一書生タリシモ、パリス大学ニ趣テアベラード氏ヨリ薰陶ヲ蒙リ、帰朝ノ後オクスフォルド大学ニ於テ文学、理学ヲ振興セシメ、又ウエケーリヨス氏ノ如キハ初メテ同大学校ニ於テ民法ヲ講究シ、エドモンドリッチ氏ノ如キハ同校ニ於テ初メテアリストートルノ論理学ヲ伝授スルニ至レリ、且該大学ノ社会ハ自ラ他ニ流同セラレタル厭抑社会ト異ナリテ、純粹ノ共同主義ニ基キ何事モ皆共和ヲ以テ履行シ、貴族ノ子弟モ実ニ貧生徒ト同等ノ取扱ヲ受ケシカ如キハ當時主任者ノ卓識ヲ問フニ足ルヘシ、且當時位階段等ヲ以テ榮譽トシタル貴族僧侶ノ如キハ「右欄外刺衝スルニアラサレハ」該大学ノ特色ト其勢焰ヲ見テ大ニ恐縮スル所アルニ似タリ、且當時商人中大衆團結シテ会社ヲ組織シ、規則ヲ□制シテ互ニ相ヒ矯メ助ケ自治自立之策ヲ施シ、市ヲ結、一市中ノ会社ヲ聯合シテ其ヲ總轄ス、〔マ〕受クベキ人ナル〔カ〕（アルタマン）迄モ公撰スルニ至リ、自治自立ノ工風ヲ為シ、職工ハ又同業ニ随ヒ、遂ニ英王ジョンノ一勅書ヲ蒙リテ市府ノ知事ニ迄モ公撰スルノ権理ヲ獲シ事

ハ、當時政事上ノ大進歩ヲ為セシト云ヘキナリ、且職工農夫ノ輩モ往々上納金若干金ヲ上納シ、己レノ権理ヲ買得スルヲ得ルニ至リ、又英王ジョンヲシテ二重税ヲ人民ニ課セシメサラシメス大勅書ヲ要求シテ租税ヲ制限シ、又人々折角ノ権理ヲ全セ〔ン〕トシ遂ニ王ニセマリ、一身上ノ保護ト財産保護ノ特權ヲ握取シ、又貿〔易〕上ノ自由ヲ得シ事ハ英國改進ノ緒ヲ開キタルト云ヘキナリ、又ヘンリー第三世ノ時代ニ当リオクスフォルトノ條約ヲ以テ、貴族輩ハ英王ヲシテ〇<sup>〔ママ〕</sup>ニ國費ヲ浪用セシメサランカ為二十四人ヲ撰ヒ、半数ハ王ノ指命スル者、他半数ハ貴族ノ撰シ者ニ國費使用ノ大任ニ當テシメタリキ、然ニオクスフォルト<sup>〔カ〕</sup>ノ條約ノ如キモ尚全ク英王ノ浪費ヲ制減スルニ足サリシニ、有名無実ノ評ヲ免レサルモノナリ

當時オクスフォルドニ於テ有名ナルロージェル・ベーコンナルアリ、オボスメージオス、理學大成ヲ編輯セシハ學術上ノ進歩モ見ルヘク、又同校ノ學者社会ニ於テ常々整々ノ議論ヲ吐露シ、真ノ国王タルモノハ宜ク正理ニ基キ、自己ヲ慎ミ又邦家ヲ治ムヘキモノヲ、國家ヲ破壊スルハ決シテ国王ノ義務ニアラサルナリ、又國家ヲ支治セシメンカ為適応ノ人物ヲ撰挙スベキ事ハ宜ク人民ノ掌握内ニオクベシ、是レ他ナシ須真理ニ基キ自治自立シ邦家ノ基ヲ固フセン事ヲ望ミシナリ

當時貴族中サイモン侯ナルモノアリ、国王ノ暴政ヲ憤リ、止ムヲ得サルニ干戈ヲ動カシ、国会ヲ創立シ、貴族高僧ニ加ルニ各郡ト各市邑ノ代議士各二名ヲ撰挙セシメ、大政ニ参与セシムルニ至リ、<sup>〔上欄〕</sup>「又エトウオールド第一世ノトキニ至リ、此国会ノ許認ヲ経サレハ国王ヲシテ租税モ課シ能ワス、外征モ為シ能ワサラシメシハ」英國万世不易ノ大業ヲ立タリト云ヘキヲ、現今ハパーリメントノ如キハ些少ノ改良モ加ヘタルモ、全ク此サイモン侯ノ創立ニ関ワルモノナリ

〔且第十二世期ノ初メニ当リ英國ニ於テ別ニケンブリヂ大学設置ノ美挙アリテ、此大学ヨリモ該國ノ幹骨トモ云レタル人物ヲ送り出セシハ英史上ニ明ラカタレハ、世人宜ク大学ノ邦家隆興ニ大關係アル事ヲ了知シ、一日モ此義務ニ急延スル勿カ〔ラ〕ン事ヲ切望シテ止マサルナリ

歐洲大学

〔朱丸〕  
○大ブリタンス

英 五  
アイ 二四

大学ノ数 七箇

近報ヲ得サレハ生徒ノ数ハ未詳ナルモ大学毎ニ各一千ヲ下ラサルベシ

仏郎西

一箇  
一箇パリスニアリ 生徒五五、一九一

〔二十七アカデミー、尚他邦ノ大学ノ如ク二三ノ専門部ヲ設ケ置タリ

ベルジヤム〔ベルギー〕

四 二、五六七

和蘭

四 一、六〇六

デンマルク

一 一、二五〇

スウェーデン

一 二、〇五九

独乙同盟国

二十一 二一、八一〇

オーストリア并ホンガリー

〔二七〕九 一二、二二二

伊太利亚

二十一 九、三六四

スウツルランド

三 一、〇二〇

スペイン

十 一六、八七四

ポルチュキース

〃

一

八六五

ロシヤ

〃

八

六、二〇八

○北米合衆国

コレジ

三百五十八

〔上欄朱〕

「毎校ノ生徒数十人ヨリ一千ノ多キニ至ル、又最モ著名ナルコレレジノ資金ハ壹百七八十万弗ノ巨額ニ至ル」

北米国ノコレレジナルモノハ少シク欧洲ノ大学ト其ノ性質ヲ異ニシテ、コレレジナルモノハ一般ニ高等ノ普通学ヲ授業スルモノニシテ、或ハ専門部ヲ設置スルアリ或ハ設置セサルアリ、依テコレレジナルモノヲ欧洲ノ大学ト同一視スベカラス、コレレジ中専門部ヲ設ケタルアリ、或ハ全クコレレジニ付屬セズシテ専門学ヲ授クル所アリ、現今専門学校ノ全数ハ左ニ於テ見ルベシ

神学

百三十三

法学

四十九

医学

百十四

〔上欄朱〕  
「欧洲大学設立ノ時日」

英国大学

〔朱〕  
「四」

ケンブリヂ

一千二百三十一年ノ創立ニ係ル

ドルハム

〇一千八百三十三年 〃

ロンドン

オクスフォード

一千壹百四十九年

スコットランド大学 〔朱〕  
「四」

アベルデーン 一千四百九十四年

エディンボロー 一千五百八十二年

グラスコー 一千四百五十一年

シントアンドロース 一千四百十一年

アイランド大学 〔朱〕  
「二」

ダブリン 千五百九十二年

クインズ ○千八百五十年

独乙聯邦大学 〔朱〕  
「二十一」

ベルリン ○千八百十年

ボン 千七百八十六年

ブランスボルグ

プレスラウ 千七百二年

エルランゲン 千七百四十三年

フライボルク 千四百五十七年

ギースセン 千六百七年

ゲッティンゲン 千七百三十四年

グライフスワアルド

千四百五十六年

ハルレ

千六百九十四年

ハイドルボルヒ

千三百八十六年

エナ

千五百五十八年

キール

千六百六十五年

ケーニヒスボルク

千五百四十四年

ライプジク

千四百九年

マールヒ

千五百二十九年

ミューニヒ

千八百二十六年

ロストツク

ストラスボルヒ

千六百二十一年

チュービンゲン

千四百七十七年

ウエルツボルク

千四百三年

○オーストリヤ大学

(朱)  
「九」

ウィエナ

千三百六十五年

プラーク

千三百四十八年

グラーツ

千五百八十六年



インスブルック

千六百七十二年

クラコー

千三百六十四年

※ゼンノウッツ

レンボルヒ

千七百八十四年

オーストリア属地ホンゲリー大学

ブダ

千七百七十七年

クラウセンボルク

千五百八十年

○スウツルランド

〔朱〕  
「三」

バーセル

千四百六十年

ペルン

○千八百八十四年

ズーリク

○千八百三十二年

○伊太利亞大学

〔朱〕  
「二十」

ボロナ

千七百五十八年

カグリヤリ

千七百二十年

カタニヤ

千四百四十五年

ジノア

○千八百十二年

マセラタ

未詳

メツシナ 千二百九十年

ネーブルス 千二百二十四年

パテュア 千二百二十二年

パレルモ

パールマ 千五百九十九年

パウイヤ

ピーサ 千三百三十九年

ローム 千二百四十五年

サスサリ 千六百二十年

シーナ 千四百五年

テュリン

カメリノー

フェルラ、

ペルーギヤ

オ・ルビノー

○スペイン大学

〔卷十〕

パロセロナ

グラナダ

千五百三十一年

マドリッド

○千八百三十六年

オウイヨス

千五百八十年

サラマンカ

千二百年

サンティヤゴ

千五百四年

サラゴッサ

千四百七十四年

シウイル

千五百二年

ウアレンシヤ

千四百十年

ウアルラドリド

千三百四十六年

ポルチュガル大学

コインブラ

千二百九十一年

和蘭大学

〔朱〕  
「四」

クロニンゲン

千六百十四年

〔朱〕  
「※」レーデン

千五百七十五年

ユトレクト

千六百三十六年

アムステルダム

○千八百七十七年

ベルジャム大学

〔朱〕  
「四」

ゲート

千八百十六年

リージ

千八百十七年

プロッセル

千八百三十四年

ローウアイン

千四百二十四年

デンマルク大学

コッペンハーゲン

千四百七十四年

スウィーデン

<sup>〔朱〕</sup>  
「二」

オップサラ

千四百七十七年

ルンド

千六百六十八年

ノルウェー

<sup>〔朱〕</sup>  
「一」

クリスチャニヤ

千八百十一年

ロシヤ <sup>〔朱〕</sup>  
「九」

ドルバト

千六百三十二年

ヘルシングフォルス

○千八百二十七年

カーサン

○千八百十四年

カルコー

○千八百四年

キーウ

○千八百三十四年

モスコー ○千七百五十五年

オテッサ ○千八百六十五年

シントペートルボルク ○千八百十九年

ワルソー ○千八百十六年

그리스国大学 「<sup>〔朱〕</sup>一」

アテンス ○千八百三十七年

### 仏郎西大学

パリス大学ハ已ニ第十二世期ノ前ニ基ヲ開キシモ、第十二世期ニ至リ初テ大学ノ地位ニ進ムヲ得タリ、且該国ニ於テハ千七百八十九年ノ大革命前ニ於テハ二十一個ノ大学ヲ維持セシモ、大革命ニ臨ミパリス大学ヲ除クノ外、余ハ尽ク廃棄セラレタリ、現今大学ノ名義ニアラス、<sup>〔朱錄〕</sup>アカデミーノ名義ニ依テ設置セラレ高等学科ヲ授クル者アリ、其数二十一個ノ多キアリテ、毎校一二又二三ノ専門科ヲ授クルモ昔日ノ比ニアラサルヨシ

<sup>〔上欄朱〕</sup>「国王ノ直轄スモアリ、文部卿ノ直轄スルモアリ、又府知事ノ直轄スルモアレリ」

歐洲ノ大学中大ブリタンヲ除クノ外、大学ノ支配ハ多分大政府ノ掌握内ニアリ、歐洲大学ニ於テ授クル所ノ科目ハ大同小異アルモ大概神学、法律、医学、理学、物理学、文学等ノ六科ナリ

独乙聯邦ノ如キハ、国王ヲ以テ総理ト為スニ至リ、二三ノ大学ヲ除クノ外ハ尽ク保護金ヲ其ノ国ノ政府ヨリ仰キ、以テ之ヲ維持スルニ至ル、故ニ独乙聯邦ノ大学ハ独乙政府ノ直轄ヲ受ケタルモノ「ト」云ヘキナリ

米 国 大 学 \*

米 国 大 学 ハ 欧 州 ノ 大 学 ノ 如 ク 三 四 ノ 専 門 学 ヲ 授 ク ル モ ノ ア リ ト 雖 ト モ 尽 ク 専 門 科 ヲ 含 有 ス ル モ ノ ニ ア ラ ズ、 高 等 ノ 学

科 ヲ 授 ク ル モ ノ ニ シ テ ユ ニ ウ オ ル シ テ ィー ノ 名 ヲ 帶 ビ ズ 多 ク ハ コ ル レ ジ ノ 名 義 ヲ 以 テ 設 置 セ ラ レ タ ル モ ノ ナ リ

米 国 コ ル レ ジ ノ 現 数 〔朱点・以下同〕 三 百 六 十 四 個 千 八 百 七 十 八 年 ノ 報 告 ニ ヨ ル

神 学 専 門 校 百 三 十 三 個

法 学 専 門 校 四 十 九 個

医 学 専 門 校 百 十 四 個

〔朱線〕  
コ ル レ ジ ノ 中 最 モ 著 名 ナ ル モ ノ ハ 左 ノ 如 シ

〔朱線〕  
一 ハー ウ オ ル ド 大 学

〔朱線〕  
千 六 百 三 十 六 年 マ ス サ チ ュ セ ッ ツ 湾 会 社 ノ 裁 判 所 ヨ リ 寄 附 ス ル 所 ノ 一 千 弗、 并 ニ 千 六 百 三 十 八 年 ジ ョ ン ハー ウ オ ル

ド 氏 ノ 寄 附 ス ル 所 ノ 八 百 ポ ン ド 乃 チ 四 千 弗 ヲ 以 テ 創 立 ス ル 所 ノ モ ノ ト ス

但 シ マ ス サ チ ュ セ ッ ツ 湾 殖 民 ヲ 初 メ シ ヨ リ 僅 ニ 十 八 年 ノ 後 ニ ア リ、 此 ヲ 以 テ 米 国 向 来 ノ 進 歩 如 何 ヲ ト ス ル ニ 足 ル

○ 現 金 所 有 ノ 資 金 壹 千 壹 百 八 十 五 万 四 千 三 百 七 十 二 弗 ア リ、

○ 書 籍 ノ 数 〇 拾 三 万 四 千 卷

○ 教 授 并 助 教 ノ 数 〇 壹 百 十 人

〔朱線〕  
○ 専 門 科 神 学、 法 学、 医 学、 物 理 学、 治 齒 学

〔朱線〕  
一 エー ル 大 学

○資金

壹百、五十五、万、弗、

○授業料納金高

拾、万、七、千、弗、

○歳入金高

二十、三、万、五、千、弗、以、上、

○生徒ノ員数

一、千、〇、五、十、一、人、

○専門科〔朱統〕、神学、法学、医学、治歯学、鉱山学

一 プリンストン大学

○資金

壹、百、三、十、五、万、弗、

一 ユニオン大学

一 アムハルスト大学

○資金

壹、百、十、万、弗、

一 ウィルリヤム大学

一 ダートマス大学

一 オペリン大学

一 ミシガン大学〔朱点線〕………州立ニ関ル

○教科〔朱線〕ハ法、文、医、化学、農学、工学

○一年ノ費用ハ九、万、九、千、三、百、七、十、八、弗、

○書生

千、百、九、十、一、人、（千八百七十二年ノ報）



〔朱線〕

一 コルネル大学

○此校ハコルネル氏ノ寄附金五十五万弗ヲ以テ創立シ、又タ米国大政府ヨリ給与セラレタル广大ノ所有地アリ

○現今所有ノ資、金、ト土地ヨリ生ズル所ノ金額ハ、一年ニ拾四万弗ノ多キニ至ル

〔朱線〕

コルシ

〔朱線〕

三百六十四個大学ノ中、州中ニ関スルモノハ僅ニ七八個ノミ、其余ハ尽ク有志輩ノ寄附ニヨリ創立スルモノナレバ、米国民ガ其邦ヲ愛シテ巨万ノ金ヲ投与シ更ニ顧ミル所ナキハ、則チ其ノ愛国心ト自治ノ精神ヲ見ルニ足ルベシ

〔明治十五年・草稿〕

## 15 同志社大学校設立旨趣

維新以来全国ノ氣勢鬱勃トシテ開明ノ運ニ向ヒ、政典兵制医術ノ大ナルヨリ以テ百工技芸ノ小ナルニ至ルマデ、一トシテ法ヲ欧米ニ取ラザルハナシ、就中從古伝習シ来リタル漢家ノ學風ヲ捨テ泰西ノ學術ヲ取リシガ如キハ文明ノ基礎開進ノ第一義ニシテ、爾來実學ニ從事スルモノ一日ヨリ盛ナルハ以テ國ノ進運ヲトスルニ足ルベシ、然レトモ独惜ム、専ラ智識開達ノミニ偏重シ道德ノ一辺ニ至テハ漠然トシテ顧ルトコロナク、其根本ニ培ハズシテ其枝葉ニ務メ、其源頭ニ溯ラズシテ其末流ヲ逐ヒ、甚シキニ至テハ汲々乎トシテ唯求名射利ヲノミ是レ事トシ、糊口ヲ以テ人世ノ第一義トナシ、飽暖逸樂ヲ以テ最大福祉ト信シ、傲然世ノ先導者ナリト誇稱スルノ學者紳士ト雖モ尚且此ノ五里霧中ニ昏迷シテ、而テ自ラ恥ルヲ知ラザルモノアルニ至ル今ノ勢ニ沿習シテ之ヲ洗滌スルニ勉ルモノナクンバ、流弊ノ及ブトコロ遂ニ全社会ニ浸淫シ人情日ニ浮薄ニ流レ、精神月ニ腐敗ニ傾キ、國ノ元氣ハ之ガ為メニ蕩然トシテ消沮スルニ至ラントス、痛歎ニ堪フベケンヤ

天ノ未タ陰雨セザルニ迄ンデ彼ノ桑土ヲ徹テ<sup>〔ユウコ〕</sup>牖戸ヲ綢繆ストハ古賢警戒ヲ垂ル、ノ言ニ非ズヤ、我輩此ニ感スル所アリ、竊ニ明治八年ヲ以テ同志ノ友ト謀リ地ヲ京都ノ北隅ニトシ同志社英学校ヲ設立シ、品行端正ニシテ學術練達ナル米國人デビス氏ヲ聘シ、<sup>〔ツイ〕</sup>尋デ又同國ノ教師兩三名并ニ教育ニ熱心ナル内國人数名ヲ招キ普通學科ヲ教授シ、且ツ以テ世ノ弊風ヲ矯正セント欲シ、専ラ智徳並進ノ事ニ尽力シタリシガ、未タ幾回ノ星霜ヲ更メザルニ生徒ノ業ハ斐然トシテ精進シ、卒業ノ証ヲ受クルモノ頻々輩出スルニ至レリ、然レトモ其教科ニ限ル所アルガ為メニ専門ノ蘊奧ヲ窮ムル

ニ由ナク、世運ノ日進ト相伴ハザルノ遺憾ナキ能ハズ、是ニ於テ教科ヲ<sup>〔リカク〕</sup>釐革シテ稍高等ニ進マシメ、統テ大学専門部ヲ設置シ、生徒ヲシテ各其長ズル所其好ム所ニ從テ之ヲ專攻セシメ、以テ大ニ其才能ヲ成就スル所アラシメント欲シ、広ク之ヲ我親友及ヒ有志者ニ謀リシニ、即チ其賛成ヲ得テ専門部設置ヲ負担スルノ委托ヲ受クルニ至リシハ、我輩ノ宿志貫徹スルノ時ヲ得タリト欣躍ニ堪ヘザルトコロナリ

我輩已ニ此重任ヲ負担シタル以上ハ敢テ夙夜勉勵此事ヲ完成シ、以テ其委托ニ負クコトナキヲ期セザランヤ、然リト雖モ大学ヲ設置スルハ固ヨリ容易ノ事ニアラズ、數百ノ生徒ヲ容ル、ノ校舎ナカルベカラズ、之レニ適応スルノ教場ヲ備ヘザルベカラズ、博學多識ノ學士ヲ聘セザルベカラズ、校舎ヲ建テ教場ヲ備ヘ學士ヲ聘スルニハ數万ノ金額ヲ要スベシ、是レ固ヨリ我輩少數人員ノ資力以テ之ヲ支フベキ所ニアラズ、方今我邦ノ富ヲ以テ歐米諸國ノ富ニ比セバ未ダ富國ト稱スベカラザルナリ、然リト雖トモ泰山ハ土壤ヲ積テ高ク黃河ハ細流ヲ集メテ深シ、我邦人苟モ學事ノ最モ治化ニ緊要ナルヲ了得シ同心協力此事ニ勉ムルアラバ、二三ノ大學ヲ設立シ及ヒ之ヲ維持スルノ資本ヲ積聚スルハ難事ニアラザルベシ、然ルニ今ニ至ルマデ尚未タ此美夢アルヲ見ザルモノハ何ゾヤ、盖シ我邦人永ク封建ノ抑圧中ニ生息シ不文無學ニ昏睡シ居タリシガ、忽チ維新改革ニ際シ旧來ノ迷夢ヲ一覺シテ實用ノ學術ニ傾向セシモ、其日タル尚淺ク未タ充分ニ専門學科ノ必用ナルコトヲ知ラザルニ由ルガ為ナラン、果シテ斯ノ如クナランカ我輩ハ我邦人ノ文化ノ感染ヲ深クシ専門ノ必用ナルヲ了知シ、自ラ奮テ大學ヲ設立スルニ至ル迄ハ手ヲ束ネテ傍觀坐視スヘキカ、豈ニ其レランヤ怠惰偷安ハ事業ノ賊ナリ、一日以テ一日ヲ遲怠セバ將タ何ノ日ニカ其成功ヲ望ムベケンヤ、唯奮進以テ之ヲ担任スルアランノミ

徳孤ナラズ必ズ隣アリ、精神ノ徹スルトコロ豈ニ同感者ノ來テ相應ズルモノナカランヤ、然リト雖トモ人心ノ同ジカ

ラサルハ其面ノ如シ、或ハ言フモノアラシク大學ヲ設置スルハ彼レ學人ノ責ノミ我輩ノ関スルトコロニ非ズト、嗟呼何ゾ思ハザルノ甚シキヤ、今夫レ我邦國ノ文明ヲ進メ社会ノ基礎ヲ固フスルハ最モ当今ノ急務ニシテ、全国安寧福祉ノ関スルトコロニ非スヤ、而シテ文化ヲ進メ基礎ヲ固フセント欲セバ大學設立ヲ措テ其レ將タ安ニカ之ヲ求メントスルヤ、之ヲ歐洲ノ昔日ニ照シテ徴スベキナリ

宗教革命ノ率先者ヲ以テ名ヲ歐洲ニ轟カシタルルーサ〔ルター〕嘗テ曰ク、若シ父兄ニシテ其子弟ヲ就學セシメザル者アラバ、則チ是レ國賊ナリ、当ニ諸君ト共ニ之ヲ誅滅スベシト、理學博士フヒフヒテモ亦曰ク、我独レ聯邦ノ文明ヲシテ他日歐洲諸國ノ上ニ卓越スルニ至ラシムル者ハ其レ只大學ノ力ニ賴ルアランノミト、至レル哉言ヤ歐洲諸國ノ文明今日ノ如キ高等ニ進歩セルハ單ニ教育ノ力ニシテ、夙ニ大學ヲ設置セシニ原由スルノミ、而シテ諸國大學ノ設立タルヤ開明燦爛タル今日ニハアラズシテ、却テ遠ク未開暗黒ナル八九世期ヨリ十五六世期ノ間ニアリトス

十二世期ハ歐洲ニ在テ開明文化ノ曙光ト称スベクシテ、當時仏國パリス大學ニ於テハグリーキノ理學ヲ講究シ、伊太利亞ノポロナ大學ニテハ羅馬ノ古法ヲ研磨スル等ノ事アリシヨリ文運漸次ニ發生シ、就中パリス大學ノ教師アペラード、ロンバルト二氏ノ如キハ、独リ其邦人ヲ薰陶スルノミニ止ラズシテ、汎ク歐洲諸國ノ人材ヲ集メテ之ヲ教授シタリ故ニ他邦人ノ來リテ其校ニ學ブモノ続々絶エザリシ其盛大想見スベシ、又英國ノオクスフォード大學ノ如キハ実ニ第九世期中ニ在テ英王アルフレットノ創立ニ係リ、其後三四百年間ハ微々タル景況ナリシカ十二世期ノ頃ニ至リテ其校ノ一書生ジョン、オフ、サリスベレーナルモノパリス大學ニ於テ業ヲアペラードニ受ケ、再ビオクスフォード大學ニ歸リテ大ニ文學理學等ヲ振興シタリ、同時ニウエーケリヨスナルモノアリ始メテ民法ヲ教授シ、エドモンドリッチナルモノアリ、アリストートルノ論理學ヲ教授ス、是ニ於テ該校ノ狀態全ク一變シ新タニ自主獨立ノ氣風ヲ醸成シ來リ、

随テ班位ノ區別ヲ擯斥シ貴族ノ子弟貧寒ノ書生タルニ論ナク平等ニ之ヲ待遇シタルハ、以テ當時主任者ノ卓識ナルヲ窺フニ足ルベク、又以テ歐洲自由ノ十二世期ニ於テ始メテ發達セシヲ証スルニ足ルベシ、自是其後文化月ヲ逐テ精進シ国礎年ヲ追テ鞏固ナリシハ豈ニ、大学、校、以、テ、人、材、ヲ、成、育、セ、シ、ノ、実、効、ニ、非、ス、ヤ、

我明治政府モ亦夙ニ茲ニ見ル所アリテ、維新ノ始国歩艱難ノ時ナルヲモ顧ミス巨万ノ金ヲ抛チ、外ハ歐米ニ數百ノ書生ヲ發遣シ内ハ東京ニ專門大学設置ノ挙アリ、政府既ニ斯クノ如ク人民ニ率先スルノ義務ヲ尽サレタリ、然ルニ我輩明治ノ民タルモノ此政府ノ治下ニ立チナガラ之ヲ翼賛シテ同胞兄弟教育ノ便益ヲ図ルトコロナクンバ、將タ何ヲ以テカ国民タルノ義務ヲ知ルモノト謂フベケンヤ、且政府ノ嘗テ全国ヲ八大学区ニ分チシハ蓋シ各区ニ一大学ヲ設置スルノ趣意ナルベシ、然リ而シテ今日ニ至ル迄未ダ其挙アルヲ見サルハ他ナシ国事多端ノ為メニ未ダ此ニ及フニ暇アラザルノミ、我輩明治ノ民タルモノ縱令ヒ今八大学ヲ列置スル能ハザルモ、セメテハ一ノ大学、專、門、校、ヲ、關、西、ニ、創、設、シ、以テ同胞兄弟就學ノ便ニ供スルトコロナクシテ可ナランヤ

方今地球上大学校ノ設ケアル米國ヨリ盛ナルハナシ、其千八百七十九年ノ報告ニ拠レハ国内大学ノ數凡ソ三百六十校、其州立ニ係ルモノハ僅々八校ニ過キス其餘ハ皆有志者ノ釀金設立スルトコロナリ、ハーウアルド大学校ノ如キハ現今教員一百十人、書籍十三万四千卷、而シテ其資本金ハ一千四百八十五万四千三百七十二弗ノ夥シキアリト云フ、其前回ノ報告即チ千八百七十二年ノ統計ニテハ、国内大学ノ總數二百九十八校ナリシモ、未ダ八年ヲ更メサルニ六十校ノ多キヲ加ヘタルハ實ニ驚クベキノ進歩ニシテ、古今万国未タ嘗テ聞カザルトコロナリ、實ニ文明自由ヲ以テ地球上ニ輝クノ米國人タルニ愧ヂザルモノト謂フベク、且以テ米國人ノ最モ教育ヲ尊重シ之カ為メ巨額ノ財産ヲ抛ツヲ吝マザルヲ察知スベシ、此レ他ナシ其國人ガ平素智識道德ヲシテ最高点ニ達セシメザレバ、到底自由制度ノ國体ヲ維



持、永、続、セ、シ、ム、ル、コ、ト、能、ハ、ス、ト、信、ス、ル、ノ、感、情、盛、ン、ニ、シ、テ、互、ニ、相、戒、メ、相、励、シ、以、テ、此、良、結、果、ヲ、頭、ハ、ス、ニ、至、リ、シ、ナ、リ、而、シ、テ、其、目、的、ト、ス、ル、ト、コ、ロ、ヲ、聞、ク、ニ、曰、ク、教、育、ハ、能、ク、罪、人、ヲ、減、シ、能、ク、良、民、ヲ、増、シ、能、ク、国、基、ヲ、固、フ、シ、能、ク、国、力、ヲ、張、ル、ノ、力、ア、リ、<sup>〔シユユ〕</sup>、国家ニ於テ須臾モ忽ニスベカラザルモノナリト、斯カル全美ナル目的ヲ以テ設立セシ所ノ大学校ナレハ、其正鵠ヲ誤ラスシテ早晚開明ノ中天ニ翱翔スルノ期アルヤ疑ヲ容レザル所ナリ

余輩東洋人歆羨ニ堪フベケンヤ、之ヲ歆羨セハ如何シテ可ナラン、其レ唯富人ハ財ヲ吝マス志士ハ勞ヲ厭ハス以テ大ニ大学ノ設立ニ勉ルトコロアラノミ、我輩篤下ナリ、而シテ赤手此大業ヲ負担セント欲ス極メテ其難キヲ知ル、然リト雖トモ管テ竊カニ之ヲ聞ク皇天ハ自ラ助ル者ヲ助クト、嚮ニ我輩カ同志社英学校ヲ設立セシヤ徒ニ一片ノ精神ト感激ノ涙トヲ以テ能ク米国人ノ心ヲ動シ、之カ翼賛ノ力ヲ得テ遂ニ以テ今日ノ盛ナルニ至ラシメタリ、一片ノ精神ト感激ノ涙トハ前日ニ在テ能ク海外ノ人ヲスラ感動セシメリ、而シテ今日ニ在テ我カ邦人ヲ動ス能ハザル豈ニ此理アラシヤ、我輩一片ノ精神ト感激ノ涙トヲ恃ンテ誓テ此志ヲ貫徹シ此業ヲ全成スアラノミ

然リト雖トモ當時我邦ノ状況ヲ以テスレハ欧米諸國ノ如キ全備ノ専門校ハ容易ニ設立シ得ベキニアラス、故ニ姑ク先ツ諸科ノ内ニ就テ最モ急且ツ要ナル者ヲ撰ハサルベカラス、即チ法学ノ一科是ナリ、夫レ法学ハ国家ノ進運同胞ノ福祉ニ関シ急要中ノ最モ急要ナルモノニシテ、身ヲ以テ國ノ犠牲トナシ政事社会ニ執掌セントスル志士ノ需用ニ供スルニ於テ、一日モ猶予スヘカラサルモノナリ、故ニ今我輩先ツ法学ノ一科ヲ設置シ、政事經濟ヲ以テ之ニ連帶セシメントス、而シテ其理学、文学、哲学等ノ如キハ其資本ノ力ヲ量リ整頓ノ度ヲ顧ミ、漸次之カ設立ニ着手スルトコロアレント欲スルナリ

試ニ法学科設立ニ就テ要スル所ノ資本ヲ計算スルニ、海外ヨリ法学博士一名ヲ招聘スルニ少クモ四千円ノ年給ヲ与ヘ

ザルベカラス、年々此四千元ノ利ヲ産出スベキ元金ハ一割ノ利息トシテ四万円ノ準備ナカルベカラス、又助教員ノ給料及ヒ書籍器用等ニ消費スルトコロ更ニ年々三千元ノ利金ヲ生スベキ元金三万円ノ備ヘナカルヘカラス、合計七万円余ノ金額ヲ募集スルハ固ヨリ容易ノ事ニアラス、之ヲ如何セバ可ナラン、只是志士ハ、勞ヲ厭ハス、富人ハ、財ヲ吝マス、精神一到必ス之ヲ成シテ而シテ後已マンノミ、嗟乎愛國ニ誠ナル有志諸彦ニ非ンバ我輩其レ之ヲ誰ニカ望マンヤ

京都府上京区第拾組相国寺前町

明治十六年四月

同志社

〔明治十六年四月・活版〕



## 16 同志社設立の始末

幕政の末路外交切迫して世運転た危殆に傾き人心動乱するの時に際し、襄不肖夙に海外遊学の志を懷き脱藩して函館に赴き、暫く時機を觀察してありしが、遂に元治元年六月十四日の夜半、竊に国禁を犯し米国の商船に搭し水夫となりて労役に服すること凡そ一年間、海上幾多の困苦を管め漸く米国に到着するを得たり、爾来益々志を決し他日大に我邦の為に竭すところあらんと欲し、遂にアムホルスト大学に入り日夜勉強に怠らざりしが、未だ幾年を経ざるに数々篤疾に罹り形骸空く志を齎<sup>もた</sup>らして異郷の土と化せんとせしが、幸にして一生を万死の間に快復するを得たりと雖とも、為に大に体軀の健康を害し学業上障碍を受けること極て尠からざりき、然れども苟も学業の余暇あれば必ず諸州を歴遊し山河を跋涉し、務めて建国の規模を探り風土人情に通ずるを以て事とし、到る処の大中小学より博物館、書籍館、盲啞院、幼稚院、其他百工技芸の講習所、百種物産の製造所に至る迄概ね之を檢閲し、或ハ諸州の学士有名の人物に接見し親しく其議論を聴くを得て大に悟る所あり、以為らく蓋し北米文明の原因多端なりと雖も、其能く制度文物を隆興せしめたる所以のものハ要するに教化の力にして、其教化の力の如此偉大なる所以ハ教育の法其宜を得たるにあることなりと、是に於て始めて教育の国運の消長に大關係あるを信じ、身の劣才浅学なるをも顧みず自ら他年帰朝の日ハ必ず善美なる学校を起し、教育を以て己が責任となさんことを誓ひたり

明治の初年故岩倉特命全權大使の米国に航せられしや、文部理事官田中不二麿君之に随行し欧米諸国教育の実況を取調べらる、時に襄正にアンドヴァ邑に在て勤学せしが亦召れて文部理事官随行の命を蒙ふる、襄敢て之を辞せず直ち

に旨を奉じて理事官と偕に先づ北米中著名の大中小学校の学校を巡視し終て、更に歐洲に赴き蘇格蘭、英倫、仏蘭士、瑞西、和蘭、丁抹、独乙、魯西亜等の諸国を経歴し、学校の組織教育の制度等を初とし、凡そ事の学政に関する者ハ聊か之を観察講究するを得、其周到善美を尽せるを觀て感益々切なり、惟らく抑々歐洲文明が燦爛として其光輝を宇内に発射せしものハ主として教化の恩沢に因らざるハなし、而して教化ハ文明の生命にして、教育ハ治安の母たることを悟り、愈々帰朝の後ハ必ず一の大学を設立し、誠実の教育を施し、真正の教化を布き、以て社会の安全を鞏固ならしめ、以て我邦の運命を保ち、以て東洋に文化の光を表彰せんことを望み、造次にも顛沛（てんぱい）にも敢て之を忘るゝことなかりし、且又隨行に先だちて 忝なくも我邦大政府より特旨を以て曩に国禁を犯して脱奔せし罪科を免除せられ、\*加之数々登官の恩命を蒙りしが、襄に於ては将来誓て一身を教育事業に擲ち、以て真正の開明文化を我邦に來さんことを望むの切なるより固く辞して拜せず、理事官と歐洲に別れ再び米國に航し、アンドヴァ神学校に歸り勉学年を累ね、遂に卒業の初志を達することを得たりき

〔ヴァーモント〕

明治七年の秋襄の將に米國を辞して帰朝せんとするに際し、偶々 碧 山州ロトランド府に於て亞米利加伝道会社の大会議あり、襄の友人にして此会に与る者頗る多きに因り、諸友襄を要し勸めて臨会せしめ且訣別の詞を需めらる、襄乃ち会場に赴き演壇上米國三千有余の紳士貴女に見へ平素の宿望を開陳して曰く、凡そ何れの國を問はず苟も真正の文化を興隆せんと欲せば須らく人智を開発せざるべからず、社会の安寧を保全せんと欲せば必ず真正の教育に依らざるべからず、方今我邦日本に於ては現に戊辰の変亂を経て旧來の陋習を破り、封建の迷夢を醒して明治の新政を行ふの際、社会の秩序破れ紀綱紊れ人心帰着する所を知らず、今日に於て我日本に真正の教育を布き、以て治國の大本を樹立し以て人智を開発し、以て真正の文化を興隆せんと欲せば宜しく歐米文化の大本たる教育に力を用ひざる可ら

ず、回顧すれば今を去る十一年前、裏の郷国にありしや当時の国勢日々に危きに瀕するを觀て憂憤の心に堪へず、慨然五大洲歴遊の念を發し、一片訣別の辞もなく父母弟妹郷友に別れ衣食住の計もなく、幕府の大禁を犯して一身の窮困を顧みず愈々蹶て愈々奮ひ生命を天運に任せて成業を万一に期し、孤行單立長風万里の波濤を越へ遂に貴国に渡來せしも亦、只真正の開明文化と真正の自由幸福とを我日本國に來さんことを祈るの丹心に外ならず、顧ふに我邦同胞三千余万將來の安危禍福は独り政治の改良に存せず、独り物質的文明の進歩に存せず、一に教化の烈徳其力を効し教育の方針其宜を得ると否とに係はること昭々乎として復た疑ふべきに非ず、今や裏貴國紳士諸友と袖を分て恙なく我國に歸るを得ば必ず一の大學を設立し、之が光明を仮りて我國運の進路を照し、他日日本文化の爲に聊か涓埃の報を効す所あらんとす、嗟呼滿場の聴衆諸君よ裏の赤心寔に是の如し、誰か裏が心情を洞察し幸ひに斯の一片の素志を翼賛する者ぞと、且つ演し且問ひ慷慨悲憤の余不覺數行の感涙を壇上に注ぎ、情溢れ胸塞り言辭を中止する其幾回なるを知らず

語未だ尽きざるに聴衆中忽ち人あり、背後に直立して揚言すらく、新島氏よ予今氏が設立せんとする學校の爲に一千弗を寄附すべしと、是なん華盛頓府の貴紳医学博士パーカ氏にありし、其言未だ畢らざるに碧山州前府知事ページ氏も亦起て一千弗を寄附するの約を為せり、之に次ぎ五百弗、三百弗、二百、一百或ハ五十、三十弗贈与の約ありて、静肅たる場中忽然として歎呼の声宛ながら沸く如し

既にして慰懃に良朋諸士の好意を謝し離別を告げ將に演壇を下らんとする時一老農夫あり、瘦身襤褸を纏ひ徐に進て裏の前に至り戰慄止まず、懷中より金二弗を出し黯然涙を垂て曰く、余は碧山州北なる寒貧の一農夫なり、此二弗ハ今日余が帰路汽車に乗んとして携へし所なり、然れとも今、子が演説を聞き深く子が愛國の赤心に感激せられ自ら禁す

る能ハす、仮令ひ余老ひたりと雖も兩足尚能く徒歩して家に歸るに堪ゆ、これ固より僅少数ふるに足らざるも子が他日建設する大学費用の一端に供するあらば余の喜び何ものか之に過んやと

已にして会散じ襄も亦ロトランド府を出て行くこと未だ一里ならざる時、忽ち背後より襄を呼ぶ者あり、顧みて之を

視れば一の老婦なり、急に襄に近づき（じよじよ）絮々語つて曰く、嫗ハ近村の一寡婦にして貧殊に甚し、然れども教育の一事に

於てハ聊か子が素志を助けんとするの意あり、今囊中僅に有る所の金二弗を呈す、然るに曩に会場に於て敢て之を言ハざりしハ誠に其輕少なるを愧て而已、寡婦の微志幸に領収あれよと言畢て泣く、襄転た米人が我邦を愛するの懇篤なるを思ひ感喜之を受け、曾て友人に語つて曰く、ロトランド府集會に於て最も襄が衷情を感動せしめたる者は彼の老農夫と老寡婦との寄附金にてありしと、其後四方有志者の贈る所陸續雲集し来り、襄か宿志を達せんとするの基本略は定まるに至れり

既にして纔を桑港に解き、明治七年の末始て本邦に帰着し日夜学校設立を計画してありしが、八年一月大坂に於て偶々故内閣顧問木戸孝允公に謁し、乃ち公に向て真正教育の要理を説き併せて平生の宿志を吐露せしに、公深く之を称賛せられ、加ふるに公は曾て在米の日より襄と相識るを以て、専ら政府の間に周旋し襄が志を貫徹するに務め賜へり、襄乃ち地を京都に卜し前文部大輔田中不二麿君、前京都府知事榎村正直君の賛助を得、遂に山本覚馬氏と結社し、明治八年十一月廿九日私塾開業の公許を得て直ちに英学校を開設したり

是即ち今の我同志社の設立せし始末の大略也

新島 襄

〔明治十六年四月・稿、明治二十一年十一月・活版〕

# 17 〔徴兵適齡及徴兵免除者数調\*〕

「 内は異筆で、回答を記したもの」

第老年生

級中員数

何人 「三拾貳名」

内

徴兵ヲ免除セラル、者 何人 「拾貳名」

当時適齡ノ者 何人

六ヶ月後適齡ノ者 何人

一年ノ後…… 〃 「貳名」

二年ノ後 〃 「七名」

三年ノ後 〃 「三名」

四年ノ後 〃 「三名」

五年ノ後 〃 「五名」

帰省中ノ者 〃

一月十六日

新島 襄

神谷  
若原 兩兄

右御調査之上小生迄御渡被下度奉願候也

第參年生

級中員数

何人 「廿八」

内

徴兵免除ノ者

何人 「十三人」

当時適齡ノ者

何人

六ヶ月ノ後適齡ノ者

何人

一年ノ後

〃 「一人」

二年ノ後

〃 「三人」

三年ノ後

〃 「一人」

四年ノ後

〃 「三人」

五年ノ後

〃

帰省中ノ者

〃 「七人」

一月十六日

新島 襄

新田 兩兄  
大西

右御調査之上小生迄御渡被下度奉願候也

第四年生

級中員数

何人 「十三人」

内

「片桐」<sup>x</sup>

徴兵免除ノ者 「六人」何人

当時適齡ノ者

何人 「二人 林、松沢」<sup>x</sup>

六ヶ月ノ後適齡ノ者 何人

一年ノ後

「式人 保坂、田中」

二年ノ後

「七人」<sup>x</sup> 「川本、沢山、原、宮下、荒木、不破、綱島」

三年ノ後

四年ノ後

「一人 五島」<sup>x</sup>

五年ノ後

帰省中ノ者

「五人」<sup>x</sup> 「保坂、綱島恒、不破、荒木、田中」

「退校シタルモノ」

一月十六日

新島 襄



片桐  
松沢 両兄

右御調査之上小生迄御渡被下度奉願候也

第五年生

級中員数

何人

「都合拾三人」

内

徴兵免除ノ者

何人

「山岡、新原、木村、村井、堀」

当時適齡ノ者

〃

六ヶ月ノ後適齡ノ者

〃

一年ノ後

〃

「重見」

二年ノ後

〃

「三輪、滝、岡本」

三年ノ後

〃

「松尾」

四年ノ後

〃

五年ノ後

〃

帰省中ノ者

〃

「美濃田、小野、三好」

一月十六日

新島 襄

新原  
木村 両兄

右御調査之上小生迄御渡被下度奉願候也

〔明治十七年一月十六日・草稿〕

18 「改正徴兵令ニ関スル」請願ノ要旨

請願ノ要旨

- 一 改正徴兵令第十一、十二、十八、十九条ノ如キハ官公府県立学校ヲ保護シ其ノ教育ヲ勸ムルノ旨趣ナリト認ムレハ、右数条ノ如キ教育保護ノ徳沢ハ只ニ官公府県立学校ノミニ止マラ〔破損〕ス〔破損〕嚴重ナル試験〔破損〕（学科教授法并ニ操練科等ノ試験）ノ上、之ニ準スルモノ〔破損〕ト認メラル、私立学校ニモ霑被セラレン事
- 一 現今独乙国ニ行ハル、徴兵試験法ニ倣ヒ、及第ノモノニハ服役一ケ年ニ止マリ帰休ヲ命セラレン事
- 一 私立学校ニモ操練科ヲ置ク事ヲ許サレ、生徒在校中必ラス操練ニ従事セシメラレン事

新島 襄

〔明治十七年・草稿〕

19 「改正徴兵令ニ対スル意見書（A）」

今回改正徴兵令發布ニ付私塾保存ノ見込立タサル所ヨリ困却ノ至、私塾永続ノ策ヲ立、又大政府今日ノ御政略ニモ妨ナカラシム事ヲ望ミ、左ノ二件ヲ思考シ他日ノ御参考ニ供セント存御一覽ヲ奉仰候

一改正徴兵令第十一、十二、十八、十九条ノ如キハ官公府県立学校ヲ保護シ其ノ教育ヲ勸ムルノ旨趣ナリト認ムレハ、右数条ノ如キ教育保護ノ徳沢ハ只ニ官公府県立学校ノミニ止マラス嚴重ナル試験（学科授業法并ニ練練科等）ノ上、府県立中学高等科ニ準スルモノト、或ハ其ノ右ニ出ツルモノト認メラル、私立学校ニモ霑被セラレン事ヲ切望ス

或ハ

左ノ嚴重ナル試験法ヲ設ケ、及第シタルニタル「モノ」ニハ服役一ケ年ニテ帰休ヲ命セラレン事ヲ要ス（但第十一、十二条ニ準セラ「レ」ン事ヲ要ス）

数学（算術 点算 度量学） 漢（日本史 支那史） 経書文章類 英学正則 作文（英 和） 会話 文法（問答  
ハ英語ヲ用ユ） 地理 万国史 英国史（グリース史 羅馬史 或独 仏 米国史） 文明史 生理 物理 化学  
地質（金石学 鉱物） 植物 理財 星学 英文学 修辭 論理 心理 道義等

意見 即チ請願ノ箇条

一新令第十一、十二、十八、十九条ノ如キハ、官立府県立学校ヲ保護シ其ノ教育ヲ勸ムル、ノ旨趣ナリト認ムレハ、右教条ノ如キ教育保護ノ徳沢ハ只ニ官立府県立学校ノミニ止マラス、之ニ準スルノ高等私立学校ニモ霑被セシメンヲ切望ス

一学科教授法等高低ノ度定マラサレハ保護ノ惠沢ニ霑被スル事能ハス、故ニ吏胥ヲ派出セラレ教科書ノ如何、教授法ノ実況如何ヲ視察セラレ〔ン〕事固ヨリ願フ所ナリ、而シテ或ハ其ノ高度未タ十充ナラサル所アリ、或ハ授業法等未タ尽サ、ル所アレハ、吏胥ノ告知ニヨリ改正修補スル〔コ〕ト〔ヲ〕欲ス

〔上欄〕  
〔教学、漢学、支那史、日本史、英語ニテ会話、文法、地理、地文学、万国史、英米独、生理、物理、化学、文明史、地質、植物、理財、星学、修辞、英文学、論理学、心理、道義等

〔英語ハ正則、外国教師ニシテ大学ノ専門卒業証ヲ有スル人三人以上ノモノ<sup>〔年〕</sup>

# ○法、理、文ノ三課

一課ニ少クトモ専門学卒業証ヲ持チタル外国人一人

〔大学ト見做サ、ル以上ハ十一、十二、十八、十九条ノ特典ヲ賜ハラス〕

一第十九条ニ準シ生徒修学中ノ猶予ヲ賜ハリタル上ハ其ノ最寄陸軍營所ノ士官ヲ派出シ、私塾在校ノ生徒ヲシテ尽ク操練科ニ従事セシメ、其ノ技芸ニ熟達シタルモノニハ該士官ヨリ該科卒業証ヲ附与シ該塾ノ学科ヲ卒業シタル上、操練科卒業証ニ学科卒業証ヲ添ヘ軍監ニ差出シ其ノ調査ヲ受ケ、然ル后第十一条、第十二条ニヨリ服役ノ年限ヲ短縮セラ〔レ〕ン事ヲ切望ス、万一私塾ニ於テ学科卒業証ヲ濫用スルノ恐れアリト見做サル、ナレハ、生徒卒業ノ都図。試験吏員ヲ派シ其ノ人員。年齢。修学ノ年限、卒業ノ試業等詳細ニ調査セラ〔レ〕ン事ヲ要ス、公費ヲ仰カス

シテ多ク学生ヲ薰陶スル事ナレハ、大政府ヨリ又ハ地方官ヨリ又ハ軍監ヨリ試験丈ケノ勞ヲ奉仰候〔左欄〕「官ヲ派スル丈ノ勞費ヲ奉仰候」

一改正徴兵令ノ一度發布セシヨリ以来〔當校〕私塾ニ修學スルノ生徒兵役ヲ猶予セラレン事ヲ希望シ往々當校ヲ去、官立府県

立ノ学校ニ入学セント図ルモノ少々ニシテ止マラス、且此等ノ生徒ヲ調査スレハ最早適齡ニ達スルモノカ、或ハ殆  
適齡ニ近〔付〕キタルモノカ、皆多クハ勤學ニ堪ヘ著シク學業ニ果敢取ルモノト見倣スヘキモノナレハ、生等ノ如  
ク一身ヲ抛チ心血ヲ瀝キ千思万慮、少年薰陶ニ従事スルノ輩ハ彼等ニ向ヒ最モ樂ミヲ抱キ望ヲ置キ、屈指其ノ成業  
ヲ期スルヤ一日モ千年只ナラス、然リ而シテ俄ニ此等ヲシテ泣クナクモ他校ニ転學セシメハ、生等ノ失望何等ソ、  
又校中残ス所ヲ調査スレハ、或ハ年齡至少ニシテ非常ノ勤學ニ堪ヘ難キモノカ、或ハ年齡已ニ適齡ヲ超越シ徐々漸  
々學業ノ急進ニ適セサルモノ計ナルベシ、思一度ヒ茲ニ至レハ生等ノ失望又何等ソ、嗚呼賢ナル内閣諸公ニシテ少  
シク顧慮スル所アリ、私塾ニ従事スル生等モ私塾ノ生徒モ矢張聖天子ヲ仰キ明政府ヲ戴クノ臣民タレハ公平無偏ノ  
律令ヲ垂賜ヒ、私塾ニアルノ生徒ヲシテ官立府県立学校ノ生徒ト同一ノ徳沢ニ霑被セシメテハ私塾ニ従事スル生等〔ママ〕  
雀躍感泣ノ至、邦家ノ為明天子ノ為「必ラス卒生ノ力ヲ出聖恩ニ酬ユル所アラント」人才陶冶ニ竭ス所〔補〕「從事スル  
所アラントス」

十七年二月

西京同志社英学校校長并社長

新島 襄

## 20 〔改正徵兵令ニ対スル意見書(B)〕

敬テ改正徵兵令ヲ拝読シ<sup>〔空白〕</sup>此令ノ旨趣ノ在ル所ヲ察スルニ、其尚武ニ出テ国民皆兵タルノ典謨ニシテ、外ハ外侮ヲ禦キ内ハ非凶ヲ懲シメ天下ヲ泰山ノ安キニ置キ、聖朝ヲ万歳ノ永ニ榮ヘシ<sup>〔メ〕</sup>テ、四海波濤ノ太平ニ維持スル良策ニアラ<sup>〔ズ〕</sup>システ何ソ、又此令中、<sup>〔ママ〕</sup>、ノ如キ官立大学、府県中学ノ生徒ニ賜タル特典ヲ見レハ、只ニ尚武ノミナラス又文学ヲ重セラル、ヤ照々乎タリ、是レニヨリ思考スレハ我賢明ナル政府ノ規模ハ甚重甚大ニシテ、一ハ海陸軍ニ皇張シ国威ヲ東洋ニ輝リ、他ハ文学ヲ隆興シ人民ノ元氣ヲ養ハル、如、文武ヲ張り左右翼ト為シ治国ノ具トナシ賜フ事嗚乎盛ナル哉

今回改正徵兵令コソ襄平生ノ宿志ヲ達スル事ヲ得ヘシト云ヒ、喜欣ニ堪ヘサル所ハ乃チ尚武ノ一点ナリ、旧幕府ノ末世ニ至リ文武振ハス士氣萎靡シタルノ際ニ当リ、北米軍艦初テ我国ヘ海航シ大砲一発稍三百年泰平ノ迷夢ヲ一攪シ、各藩俄ニ文武ヲ振興スルニ尽力シタリキ、其ノ際ニ成生シタル士人ハ其ノ文タル今ノ少年ニ劣アルモ、其ノ胆力タル特<sup>〔カ〕</sup>ニ<sup>〔ニ〕</sup>体格ノ壮健ナル又胆力ノ豪ナル今ノ少年ノ比ニアラス

試<sup>〔ニ〕</sup>維新以后ニ出生セシ少年輩ヲ見ラレヨ、顔色奎々或ハ肺憂或ハ腦病激闘苦戦ニ堪ユヘキモ殆トなく、是レ襄ノ平生杞憂ナキ能ハサル所ナリ、或ハ擊劒場ヲ起シ体操場ヲ設ケ書生ヲシテ其運動ヲ試ミタルモ、或ハ一月或ハ数月ニテ該場ハ寥々人蹟ヲ絶ツニ至ラシム、是レ今ノ少年書生ノ徒ニ文事ニ沈溺シ武事ヲ輕侮スルノ弊ヨリ生スル所ナリ、襄殊ニ之ヲ救フノ途ヲ発見スルニ苦ミタリキ、然ルニ今回改正ノ徵兵令ニ於テ初テ之ヲ救フノ途ヲ得タレハ、吾人飽



マテモ之ヲ奉戴シ今ノ少年輩中尚武ノ風ヲ振興セシメン事ヲ要ス

然ト雖尚武ノ風過度ニ至レハ殘忍殺伐ノ弊ヲ生スルノ憂ナキ能ハス、故ニ賢明ナル太政府ニハ已ニ弘工風ヲ回シ賜ヒ之ヲ補フノ良策ヲ施シ、官立大学之ニ準スル学校并府県立ノ中学ニ至ル迄一ケ年ノ科程ヲ卒タルモノニハ十一、十二……ノ如キ特典ヲ賜ハリ、其生徒ヲシテ修学中兵役ニ服スルノ憂ナカラシメルハ、文学ヲ以テ尚文ノ風ニ潤化セント〔ノ〕明策ナル法、至善至美ト云ヘキナリ、然レハ吾人ハ社会ニツキ全ク喋々スル所無キ也、否特ニ喋々スルノミニアラス、吾人ノ殊ニ了解ニ苦ミ又密ニ遺憾トスル所ナキ能ワサルモノアリ〔補〕「襄ヲ草莽ノ一言ノ士辛ニ」

今ヤ賢明朝ニ滿チ草莽ノ一士タ〔ル〕モ其ノ意見ヲ明朝ニ吐露シ得ルノ隆世ニ逢迎シタレハ、意見アリ之ニ之ヲ庇蓋シ遺憾ナク之ヲ吐露セサレハ、襄ノ如キハ却テ明朝ノ恩沢ヲ蔑却スルノ罪ヲ免カ〔レ〕ス、却テ不肖ヲ顧ミス敢テ陳述スル所アラントス、閣下賢明大度襄カ不肖ヲ愍ミ且切ニ邦家ヲ愛スル衷情ヲ好シ〔ト〕シ少シ容ル所アラハ幸甚

一太政府ヨリ東京大学ノ設ケアリ、又府県ヨリハ中学ノ設ケアリ高等ノ学科ヲ教授セラルノ旨趣ハ乃普ク天下ノ立立<sup>〔私〕</sup>学校ヲ率先シ模範ヲ垂ル、ニアルナリト、然レトモ今回改正徴兵令ニヨリ将来ノ結果ヲ推考スレハ、其模範ニ則〔テ〕資力ヲ積立学科ヲ進、高等ノ学校ニ〔進〕マントスル私塾モ官立府県学校ニ賜リタル特典ニ預カラサレハ、未タ塾ニアルノ生徒ニシテ免除ヲ得サルモノハ早晚兵役逃レノ為其ノ塾ヲ去リ、官立府県立ノ学校ニ入学スルハ吾人已ニ其ノ緒ノ開ケルヲ見タリ、然ルニ天下ノ模範トナル為ニ立〔ラ〕レタル官立……校ハ益盛ナルヲ得、其ノ模範ニ則〔テ〕千辛万苦漸ク佳境ニ進マントスル私塾ヲシテ益其生徒ヲ失ヒ衰頽ニ属セシメハ、最初ヨリ天下私立校ノ模範トナルノ旨趣ハ何ノ点ニアルカ某等ノ了解ニ苦ム、是レ其ノ一ナリ

一私塾中ノ三四ノ錚々タルモノハ府県立中学ニ比スレハ漸優等ナルモ決テ劣等ノモノニアラス、然ルニ此優等ノモノニ保護ノ徳沢ヲ霑被セラレサルハ教育ヲ尊崇スル賢明政府ノ御所為トハ思ヘス、是某等ノ了解ニ苦ム其ノ二ナリ然リト雖太政府ノ御所為ハ某等一小区域ニ着目シ、管見ヲ以其論ヲ吐露スルノ頃必ラス全局ニ着目シ賜ヒ、遂々発令トハ為リタル事ト信スレハ、左ノ数件ヲ一覽シ私立学校ヲモ顧ル所アレ

意見

第一 十一條、十二條、十八、十九條ノ如キ官立府県立学校ヲ保護スルノ意ニ付シテ高等ノ教育ヲ保護スルノ意ナリ〔ト信スレハ、右ノ數條ノ保護擴張ハ只ニ官立府県立ニ限ラス之ニ準スルノ私立学校ニモ霑被セラレン事ヲ切望ス第二 教授高低ノ度定マラサレハ保護ノ惠沢ニ霑被スル事能ハス、故ニ吏員ヲ派出セラレ教科書ノ如何、授業ノ実況如何ヲ視察セラレ〔シ〕事固ヨリ願フ所ナリ、而シテ或ハ其ノ高度未タ十充ナラサル所アリ、或ハ教授法等未タ備ハサル所アレハ吏員ノ告知ニヨリ改正修補セント欲ス

第三 陸軍ノ士官ヲ派シ私塾ノ在校ノ生徒ヲシテ尽ク操練ニ従事セシメ、其ノ技術ニ熟練シタルモノニハ該官ト敝校社〔員立合ノ上卒業証ヲ附与シ、学科ハ全業ノ上ハ右ノ卒業証、本校卒業〔証〕トヲ合セテ軍監ノ調査官ニ差シ検査ヲ要スベシ、<sup>〔ママ〕</sup>第生徒修学中兵役ニ服スレハ多少學問ノ進歩ヲ妨クル事ナレハ、修学中ハ矢張十一條、三條ノ特典ヲ其在校ノ操練科ニ限り、少年ヲ以テ其ノ后一年ナリ半ケ年ナリ兵役ニ服サシムルカ、又ハ

〔後文欠〕

21 「改正徴兵令ニ対スル意見書（C）」

意見 見

第一 改正徴兵令十一、十二、十八、十九条ノ如キハ全国高等ノ学校ヲ保護シ其ノ教育ヲ進ムルノ旨趣ナリト認ムレハ、右数条ノ如〔キ〕教育保護ノ徳沢ハ只ニ官立府県立学校ノミニ限ラス、之ニ準<sup>スル</sup>ノ高等私立学校ニモ霑被セラ〔レ〕ン事ヲ切望ス

第二 学科、教授等高低ノ度定マラサレハ保護ノ恵沢ニ霑被スル事能ハス、故ニ吏員ヲ派出セラレ教科書ノ如何、授業法ノ実況如何ヲ視察セラ〔レ〕ン事固ヨリ願フ所ナリ、而シテ或ハ其ノ高度未タ十充ナラサル所アリ、或ハ授業法等未タ備ハラサル所アレハ、吏員ノ告知ニヨリ改正修補セント欲ス

第三 其ノ最寄陸軍營所ノ士官ヲ派出シ私塾在校ノ生徒ヲシテ尽ク操練ニ従事セシメ、其ノ技芸ニ熟達シタルモノニハ該士官ヨリ卒業証ヲ附与シ、該塾ノ学科卒業証トヲ合セ軍監ニ差出シ其ノ調査ヲ受ケ、然ル后第十一条、十二条ニ準シ御所分アラ<sup>ン</sup>事ヲ切望ス

但シ私塾ニ於テ其学科卒業証ヲ濫用スルノ恐アルト見做サル、レハ、生徒卒業ノ都図吏員ヲ派シ、其ノ人員、年齢、修学ノ年限、卒業前ノ試業等詳細ニ調査セラ〔レ〕ン事ヲ要ス

第四 私塾ニアル〔補〕「修学スル」ノ書生モ矢張大日本天皇陛下ノ臣民ナレハ、官立府県立学校ニアリ修業スル学生ト同一ノ保護徳沢ニ霑被スルニ至レハ、私塾ニ従事スルノ某等雀躍感泣豈ニ卒生ノ力ヲ出、邦家ノ為明天子ノ人才ヲ陶

治ニ竭ス所アラントス

〔明治十七年・草稿〕

## 22 同志社英学校設立始末

幕政ノ末路世運傾危人心動乱ノ時ニ際シ、襄夙ニ海外遊学ノ志ヲ懷キ脱藩シテ函館ニ趣キ暫ク時機ヲ觀察シテアリシカ、元治元年六月十四日ノ夜半窃ニ国禁ヲ犯シテ米国ノ商船ニ搭シ、海上幾多ノ困苦ヲ嘗メ一年ノ星霜ヲ経テ米国ニ到着スルヲ得タリ、爾来益々志ヲ決シ他日大ニ我邦ノ為ニ竭ス事アラント欲シ、遂ニアムホルスト大学ニ入り日夜学業ヲ淬励セシガ、未ダ幾年ヲ経ザルニ数々篤疾ニ罹リ形骸空ク異郷ニ混ビントセシガ、幸ニシテ一生ヲ万死ノ間ニ快復スルヲ得タリト雖トモ、為ニ大ニ軀軀ノ健康ヲ害シ学業上障碍ヲ受ル事極テ少シトセズ、然レトモ苟モ学業ノ余暇アレバ必ズ諸州ヲ歴遊シ山河ヲ跋涉シ、務メテ建国ノ規模ヲ探リ風土人情ニ通スルヲ以テ事トシ、到ル処ノ大中小学ヨリ博物館、書籍館、盲啞院、幼稚院、其他百工技芸ノ講習所、百種物産ノ製造所ニ至ル迄概ネ之ヲ検閲シ、或ハ諸州ノ学士有名ノ人物ニ接見シ親ク其議論ヲ聴クヲ得テ大ニ悟ル所アリ、以為ラク蓋シ北米開明ノ起源ハ学校ニシテ、其能ク制度文物ヲ隆興セシメタル所以ノモノハ要スルニ教化ノ力ニシテ、其教化ノ力ノ如此偉大ナル所以ハ教育ノ法其宜ヲ得タルニアル事ナリト、是ニ於テ身ノ劣才浅学ナルヲモ顧ミス、自ラ他年帰朝ノ日ハ必ズ善美ナル学校ヲ起シ、教育ヲ以テ己ガ責任トナサン事ヲ誓ヒタリ

我明治ノ初年故岩倉特命全權大使ノ米国ニ航セラレシヤ文部理事官田中不二麿君之ニ随行シ欧米諸国ノ教育法ヲ検閲セラル、時ニ襄正ニアンドヴァ邑ニ在テ勤学セシガ亦召レテ理事官随行ノ命ヲ被フル、襄敢テ之ヲ辞セズ直チニ旨ヲ奉ジテ理事官ト偕ニ先ヅ北米中著名ノ大中小ノ学校ヲ巡視シ、終テ歐洲ニ赴キ蘇格蘭、英倫、仏蘭士、瑞西、和蘭、

丁抹、独乙、魯西亜等ノ諸国ヲ経歴シ、学校ノ組織教育ノ規律ヲ初トシ凡ソ事ノ学政ニ関スル者ハ総テ之ヲ究察シ、其周到善美ヲ尽セルヲ親テ感益々切ナリ、惟ラク抑々学校ハ歐洲ノ煥明ニシテ、彼ノ燦爛トシテ學術ノ清輝ヲ放チ近世ノ所謂文明ノ大光ヲ寰宇<sup>「カンウ」</sup>ノ間ニ発射セシモノハ主トシテ之ガ恩沢ニ因ラザルハナシ、而シテ教化ハ文明ノ生命ニシテ教育ハ治安ノ母タル事ヲ悟リ、愈々帰朝ノ後ハ必ズ一ノ大学ヲ設立シ誠実ノ教育ヲ施シ真正ノ教化ヲ布キ、以テ社会ノ安全ヲ鞏固ナラシメ、以テ我邦ノ運命ヲ保チ、以テ東洋ニ文化ノ光ヲ表彰セン事ヲ望ミ造次ニモ顛沛ニモ敢テ之ヲ忘ル、事ナカリシ、且又随行ニ先ダチテハ 忝ナク我邦大政府ヨリ特旨ヲ以テ曩ニ国禁ヲ犯シテ脱奔セシ罪科ヲ免除セラレ、加之数々登官恩命ヲ蒙リシガ、襄ニ於テハ将来真正ノ開明文化ヲ我邦ニ来サン事ヲ望ムノ切ナルヨリ固辞シテ拝セズ、理事官ト歐洲ニ別レ再ビ米国ニ航シ、アンドウ<sup>「グアモント」</sup>ヲ神学校ニ歸リ勉学年ヲ累ネ遂ニ卒業ノ初志ヲ達スル事ヲ得タリ

明治七年ノ秋、襄ノ将ニ米国ヲ辞シ去ラントスルヤ偶々 碧山<sup>「グアモント」</sup>州ロトランド府ニ於テ亜米利加伝道会社ノ大会議アリ、襄ノ友人ニシテ議會ニ与ル者頗ル多キニ因リ諸友襄ヲ要シ勸メテ臨会セシメ且訣別ノ詞ヲ需ム、襄遂ニ会場ニ趣キ演壇上米国三千有余ノ聴衆紳士ニ見ヘ平素ノ宿望ヲ開陳シテ曰ク、凡ソ何レノ国ヲ問ハズ苟モ真正ノ文化ヲ興隆セント欲セバ須ラク人智ヲ開発セザルベカラス、社会ノ安寧ヲ保全セント欲セハ必ス真正ノ教育ニ依ラザルベカラス、方今我邦日本ニ於テハ現ニ戊辰ノ變乱ヲ経テ旧来ノ陋習ヲ破リ封建ノ迷夢ヲ醒シテ明治ノ新政ヲ行フノ際、真正ノ教育ヲ布キ以テ治国ノ大本ヲ樹立シ、以テ人智ヲ開発シ以テ真正ノ文化ヲ興隆セザル可ラズ

回顧スレバ今ヲ去ル十一年前襄ノ郷国ニアリシヤ當時ノ国勢日々ニ危キニ頻スルヲ親テ憂憤ノ心ニ堪ヘス、慨然五大州歴遊ノ念ヲ発シ人情難弃ノ父母弟妹郷友ニ別レ、一片訣別ノ辞モナク衣食住ノ計モナク、幕府ノ大禁ヲ犯シテ一身



ノ窮困ヲ顧ミズ、愈々蹶テ愈々奮ヒ生命ヲ天運ニ任セテ成業ヲ万二期シ、孤影飄蕭長風万里ノ波濤ヲ越ヘ遂ニ貴國ニ渡来セシモ亦、只真正ノ開明文化ト真正ノ自由幸福トヲ我日本國ニ来サン事ヲ祈ルノ丹心ニ外ナラズ、蓋シ我邦同胞三千余万ノ安危禍福ハ政柄ノ運転固ヨリ重大ナリト雖モ、一ニ教化ノ烈徳其力ヲ効シ教育ノ方針其宜ヲ得ルト否トニ係ハル事昭々乎トシテ疑フベキニ非ズ、今ヤ襄貴國紳士諸友ト袖ヲ分テ恙ナク國ニ帰ルヲ得バ、必ズ一ノ大学ヲ設立シ之ガ光明ヲ仮リテ我國運ノ進路ヲ照シ、他日日本文化ノ為ニ涓埃ノ報ヲ為ス所アラントス、嗟呼滿場ノ聴衆ヨ兄弟ヨ襄ノ赤心寔ニ是ノ如シ、誰カ襄ガ心情ヲ洞察シ其素志ヲ翼賛スル者アル乎哉ト、且ツ演シ且問ヒ慷慨悲憤ノ余不覺數行ノ感涙ヲ壇上ニ注キ、情溢レ胸塞リ言辞ヲ中止スル其幾回ナルヲ知ラズ

何ゾ図ラン聴衆中忽チ人アリ背後ニ直立シ揚言シテ曰ク、新島氏ヨ、予今氏ガ設立セントスル學校ノ為ニ一千弗ヲ寄附スベシト、是ナン華盛頓府ノ貴紳医学博士バーカ氏ニテアリシ、其言未ダ畢ラザルニ碧山州前府知事ページ氏モ亦起テ一千弗寄附スルノ約ヲ為セリ、之ニ次ギ五百弗、三百弗、二百、一百或ハ五十、三十弗贈与ノ約アリテ、靜肅タル場中忽然トシテ歎呼ノ声沸クカ如シ、既ニシテ慇懃ニ良朋諸士ノ好意ヲ謝シ離別ヲ告ゲ將ニ演壇ヲ下ラントスル時一老農夫アリ、瘦身襤褸ヲ纏ヒ徐ニ進テ襄ノ前ニ至リ戰慄止マス、懷中ヨリ金二弗ヲ出シ黯然涙ヲ垂テ曰ク、陋ハ碧山州北ノ寒貧農夫ナリ、此二弗ハ今日陋ガ帰路汽車ニ乗ントシテ携ヘシ所ナリ、然レトモ今子ガ演説ヲ聞キ深ク子が愛國ノ赤心ニ感激セラレ自ラ禁スル能ハス、仮令ヒ陋爺老タリト雖モ兩足尚能ク徒步シテ家ニ帰ルニ堪ユ、コレ固ヨリ僅少數フルニ足ラザルモ子ガ他日建設スル大學費用ノ一端ニ供スルアラバ陋ノ喜ビ何モノカ之ニ過ンヤト、已ニシテ会散ジ襄モ亦ロトランド府ヲ出デ行ク事未ダ一里ナラザル時、忽チ背後ヨリ襄ヲ呼ブ者アリ、顧ミテ之ヲ視レバ一ノ老婦ナリ、急ニ襄ニ近ツキ絮々語ツテ曰ク、姫ハ近村ノ一寡婦ニシテ貧殊ニ甚シ、然レトモ教育ノ一事ニ於テハ聊カ



子ガ素志ヲ助ケントスルノ意アリ、今囊中僅ニ有ル所ノ金二弗ヲ呈ス、然ルニ曩ニ会場ニ於テ敢テ之ヲ言ハザリシハ、誠ニ其輕少ナルヲ愧テ而已、寡婦ノ微志幸ニ領収アレヨト言畢テ泣ク、襄益々米人カ我邦ヲ愛スルノ懇篤ナルヲ思ヒ感喜之ヲ受ケ、曾テ友人ニ語ツテ曰ク、ロトランド府集会ニ於テ最モ襄カ表情ヲ感動セシメタル者ハ、彼ノ老農夫ト老寡婦トノ寄附金ニテアリシト、其後四方有志者ノ贈ル所陸續雲集シ来リ、襄カ宿志ヲ達セントスルノ基本略ホ定マルニ至レリ

既ニシテ纔ヲ桑港ニ解キ、明治七年ノ末始テ本邦ニ帰着シ日夜学校設立ヲ計画シテアリシガ、八年一月大坂ニ至ルヤ偶々故内閣顧問木戸孝允公ノ在坂セルニ会ヒ、乃チ公ニ説クニ真正教育ノ要理ヲ以テシ、併セテ平生ノ宿望ヲ吐露セシニ、公ニハ深ク之ヲ称賛セラレ、加フルニ公ハ曾テ在米ノ日ヨリ襄ト相識ルヲ以テ専ラ政府ノ間ニ周旋シ、襄ガ志ヲ貫徹スルニ務メ賜ヘリ、襄乃チ地ヲ京都ニトシ、前文部大輔田中不二麿君、前京都府知事榎村正直君ノ賛助ヲ得、遂ニ山本覺馬氏ト結社シ、明治八年十一月廿九日私塾開業ノ公許ヲ得テ直チニ英学校ヲ開設シタリキ、同ク十六年二月更ニ社員三名ヲ増シ、敷地一万一千八百有余坪、校舍十四棟、書籍二千八百六拾有余卷及ヒ本校ニ附属スル器械財産ハ本社ノ所有且ツ維持スル処タリ、是即チ今ノ我同志社英学校ノ設立セシ始末ノ大略也

## 附 言

京都同志社 新島 襄

明治十六年四月下浣、同志社ニ於テ大学校設立ノ旨趣ヲ草シ、広ク之ヲ大方ノ有志諸君ニ謀リシ事アリシカ、大ニ其翼賛幫助ヲ得ルニ至レリ、因テ本年四月一日有志ノ諸君ヲ京都ニ会シ大学創立ノ大会ヲ開ケリ、其際伯父襄ハ教育ノ素志ヲ語ルノ已ム可ラサルヲ以テ、余ニ命シ同志社英学校設立ノ始末ヲ記セシム、余命ヲ受ケ本編ヲ草

ス、而シテ伯父、会ニ臨ミ将ニ演壇ニ上リ平素見ル所ノ教育論ヲ演セントスルニ先ダチ、余ヲシテ本編ヲ誦読セシム、不図キ会衆諸君ノ随喜称賛スル所トナリ続々其稿本ヲサヘ一覽セン事ヲ求メラル、ニ至ル、依テ之ヲ鉛版ニ附シ大方ノ有志諸君ノ閲覽ニ供スト云フ

明治十七年五月

新島公義識

〔明治十七年五月・活版〕

## 23 明治專門學校設立旨趣

太政維新ノ変革ハ数百年來我邦ノ社会ニ浸染セシ封建ノ習氣ヲ一掃シ、其勢力漸次ニ増大シ抑圧ノ昏霧ヲ散シ奎運ノ微光ヲ発シ、百事大ニ面目ヲ改メ東洋將ニ新日本國ヲ現出セントスルニ至レリ、是ニ於テカ朝野ノ志士ハ奮然トシテ興起シ、曰ク政体改ムベシ、曰ク教育振フベシ、曰ク通商昌ニスベシ、曰ク工業起スベシト、其他國家ノ大計ヲ論ジ社会ノ改良ヲ議スル者日ニ衆ク月ニ熾ンナリ、其言フ所互ニ異同アリト雖モ、要スルニ我邦文明ノ大成ヲ望ムニ非ザルハナシ、吾人亦其大成ヲ望ムノ切ナルヨリ我邦現時ノ情勢ヲ目撃シ竊ニ痛歎ニ堪ヘザル所アリ、何ゾヤ、曰ク純全ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スル大學ノ起ラザル即チ是ナリ

今夫レ我邦ノ文明ヲ進メ同胞ノ福祉ヲ図ルニ急且ツ重要ナル事業一ニシテ足ラズト雖モ、就中文明ノ先導社会ノ基礎トナルベキモノハ、必ズ純全ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スル大學ノ力ニ在リトス、蓋シ我邦ノ如キハ天候ノ美地勢ノ便決シテ一步ヲ泰西諸國ニ譲ラザルナリ、而シテ独リ文化ニ至ツテ大差アル所以ノモノハ何ゾヤ、他ナシ雄偉誠正ノ士ニ乏シク一般人心ノ未タ發達セザルヲ以テノミ、今此二者ヲ救ハント欲セバ大學ヲ措テ安クニ之ヲ求メシヤ、吾人ハ今之ヲ欧米ノ事跡ニ徴スレバ灼然トシテ火ヲ觀ルヨリモ明カナリ

彼ノ第十六世紀宗教革命ノ時ニ当リ堅信剛腸ヲ以テ雷名ヲ歐洲ニ轟カシタルルーテル曾テ曰ク、若シ父兄ニシテ其子弟ヲ就学セシメザル者アラバ則是邦家ノ仇敵ナリ、当ニ諸君ト共ニ之ヲ誅滅スベシト、碩学フヒツテヒーモ亦曰ク、我独乙聯邦ノ文明ヲシテ他日歐洲諸國ノ上ニ冠絶スルニ至ラシムル者ハ其只大學ノ力ニ頼ルアランノミト、是レ以テ

大学ノ邦家文明ニ関スルノ一端ヲ知ルニ足ルベシ、抑十二世紀ハ歐洲ニ在テ開明文化ノ曙光ト称スベキ時代ナリ、當時仏國ノパリス大学ニテハ希臘ノ哲学ヲ講究シ、伊太里ノボロナ大学ニテハ羅馬ノ古法ヲ研習スル等ノ事アリシヨリ文運次第ニ發生シ、是ヨリ後千六百年代ニ至ルマデ英倫ニオクスフォード、ケンブリッヂ、蘇格蘭ニグラスゴー、エディンボロー、独乙ニブレীগ、ハイデルブルグ、ライプシツク、テュービンゲン、エナ及ビ愛爾蘭ニダブリン等ノ大学相繼デ起リ、其他和蘭ニ西班牙ニ葡ニ奧ニ皆大学ノ設アラザルハナシ、而シテ学者ニアペラード、ロージヨルペーコン、ケプロル、ガリ、オ、ペーコン、ロツク、ニウトン、ミルトン、ライプニツツ、カント、リード、ハミルトン、等、政治及ビ宗教ノ改革家ニ、ビム、ハンプテン、ピツト、フオックス、ボルク、ジョンホス、ウイクリーフ、ルーテル、カルビン、ジョンソックス等輩出シテ天文物理ノ發明ヨリ倫理哲学、意想ノ學風ヲ振起シ、封建世紀ノ迷夢ヲ覺シ專制政治ノ暴圧ヲ排シ、國民班位ノ別ヲ敗リ貴族僧侶ノ權ヲ挫キ以テ自主自由ノ氣風ヲ喚起シ、或ハ英吉利ノ革命トナリ、或ハ宗教ノ改革トナリ、全ク歐洲ノ狀勢ヲ一変セシヨリ文運ノ發達歲ヲ逐テ銳進シ、千八百年代ノ今日ニ及ンデハ歐洲中大学ノ總數一百有余校ニ上リ、其榮光燦然トシテ一世ニ照耀セリ、斯ク歐洲諸國ガ未開暗黒ナル時代ヲ脱出シテ將ニ漸ク開明清氣ノ中天ニ翱翔セントスルノ勢ヲ得シハ、豈大学ノ以テ世運ヲ開拓シ有為ノ人物ヲ出シ、大ニ文運ニ為スアルノ実効ト云ハザルヲ得ンヤ

眼ヲ転シテ米國大学ノ狀如何ヲ視ヨ、現今其數凡ソ三百六十有余ニ至リ、而シテ其州立ニ係ハルモノハ僅々八校ニ過キズ、其余ハ皆有志家ノ釀金設立スル所ナリ、其尤モ著名ナルモノヲハーウオールド、エール、プリンストン、アムホルスト、ウイリヤムス、ダートマス、オペリン大学等トス、就中ハーウオールド大学ノ如キハ現今教員一百十人、書籍拾三万四千卷、而シテ其資金ハ無慮一千四百八十五万四千三百七十二弗ノ夥シキアリト云フ、一千八百七十二年ノ統

計ニテハ国内大学ノ数二百九十八校ナリシモ、千八百七十九年ニ至ルマデ更ニ六十六校ヲ増設シタルハ実ニ驚クベキノ進歩ニシテ古今万国未ダ曾テ聞カザルトコロナリ、一千六百廿年其国祖ビユーリタンノ奉教自由ノ為メ始テプリモス港ニ上陸セシヤ、亘寒膚ヲ裂キ大雪頭ヲ埋メ露命僅ニ繋キ困頓堪ユ可ラザルノ際ニ於テ、早クモ基督教ノ道德ヲ基本トシタル学校ヲ設立セシ事アリシ、爾来茲ニ二百六十有余年間其子孫国人ハ祖先ノ心ヲ以テ心トナシ一日モ智徳ノ研修ヲ怠ラズ、互ニ相戒メ相語テ曰ク、学校ハ能ク罪人ヲ減シ能ク良民ヲ増シ能ク国基ヲ固フスルノ力アリ、我自由ノ米國ニ於テ須臾モ忽ニスベカラザルモノナリ、到底我米國自由ノ制度自由ノ国体ヲシテ永ク大西洋中ニ卓立セシムルモノハ、一ニ基督教ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スル大学ノ力ニアリト、斯ク米人が教育ヲ尊重篤信スルノ感情太ダ盛シナルハ、即チ能ク自由ノ旗章ヲ翻ヘシテ不羈獨立ノ合衆國ヲ確立スル所以ノ精神ナラズヤ

我明治政府ハ夙ニ茲ニ見ル所アリ、専ラ泰西ノ學風ニ摸擬シ東京ニ大学ヲ設置シ府県ニ中学ヲ起シ、率先以テ學事ノ振興セザル可ラザル事ヲ彰明セラレシヨリ、泰西ノ學勢ハ頓ニ勢力ヲ得テ天下ノ學風ハ忽チ一變シタレトモ、人心ノ趣ク所ハ智識開發ノ一方ニ傾向シ、學問ノ主本タル道德ノ一辺ニ至テハ天下講スルモノ尠ナク、人情日ニ浮薄ニ流レ精神月ニ腐敗ニ傾キ、<sup>〔イリン〕</sup>國ノ元氣ハ之カ為メ蕩然トシテ消沮スルニ至ラントス、是ニ於テカ當路ノ有司ハ復タ其學風ヲ再變シテ、<sup>〔イリン〕</sup>彝倫道德ノ苟モ學事ニ欠ク可ラズシテ孝悌忠信ハ教育ノ大本タル事ヲ教示セラレタリ、斯ク當路ノ有司ガ其學風ヲ軫シテ智徳併進ノ教育ニ注思セラル、ハ吾人ノ尤モ稱賛スル所ナリト雖モ、其徒ニ支那古風ノ道德ヲ再興シ、因リ以テ泰西日新ノ學風ニ同伴併行セントセラル、ニ至テハ、我邦文明ノ為メ教育ノ為メ窃ニ稱賛シ能ハザル所アリ、抑支那古風ノ道德ノ如キハ、其説ク所懿美ナラザルニ非ト雖モ到底一般人心ヲ激昂スルノ勢力ニ乏ク、殊ニ方今世運激動變詐百出スルノ時ニ當リ、之ヲ以テ人心ヲ振勵シ風化ヲ一變シ天下ノ道義ヲ經緯セント欲スルハ実ニ至難ノ



業ト云フベシ、雖然今ノ時ニ当リ純全ノ道義ヲ確立シ日新ノ風潮ニ伴隨セシムルニ非ンバ、何ヲ以テカ社会ノ安全ヲ維持シ文明ノ大成ヲ保有スル事ヲ得ンヤ、蓋シ東洋ノ不振ハ自由ト基督教ノ道德ナキニ因由スルナリ、試ニ看ヨ彼ノ歐洲諸国ノ文運ヲ煥發セシ所以ノモノハ他ナシ、要スルニ自由ノ擴張ト學門ノ發達ト政事ノ進歩ト道義ノ能力ニ歸セズンバアラズ、而シテ此四者ヲ致ス所以ハ何ゾヤ、乃基督教ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スルニヨルナリ、今ヤ我邦專ラ泰西ノ學風ヲ振作シ新ニ自由ノ天地ヲ開拓セント欲シテ独リ其智育ヲ摸倣スルニ止リ、曾テ其根柢タル純全ノ道德ヲ收用セサルニ於テハ、吾人ハ決シテ其得ベカラザルヲ信スルナリ、抑泰西ノ道德ヲ基本トシテ人文ノ自由ヲ發育スルハ、之ヲ譬フルニ猶盤石ニ立チタル城壁ノ如ク、劍刃以テ当ルベカラズ、猛風以テ破ルベカラズ、激浪以テ覆スベキニアラズ、而シテ今日支那古風ノ道德ヲ以テ泰西日新ノ學風ニ併行セントスルハ、恐クハ彼ノ沙岸ニ一字ヲ造リ一朝狂飈怒濤ニ逢テ忽チ傾覆セラル、ノ類ニアラザルナキヲ得ン乎、是レ吾人ガ今日純全ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スル大学ノ起ラザルヲ觀テ、慨歎已マザル所以ナリ

吾人曾テ此ニ感スル所アリ、明治八年ヲ以テ同志ノ友ト謀リ地ヲ京都ニトシ同志社英学校ヲ設立シ、專ラ泰西ノ學ヲ修メ智徳両全ノ教育ヲ授クルヲ以テ大旨トナシ、醇正有為ナル人物ヲ養成シ且ツ以テ世ノ惡習弊風ヲ矯正セン事ヲ勉メシニ、未ダ幾回ノ星霜ヲ更メザルニ生徒ノ業ハ斐然トシテ精進シ、卒業ノ証ヲ受ルモノ頻々輩出スルニ至レリ、然レトモ吾人ノ目的ハ初メヨリ大学專門部ヲ設立シ、生徒ヲシテ各其長ズル所其好ム所ニ從テ專門ノ学科ヲ究メシメ、以テ世運ヲ補益セントスルニ在リ、是ヲ以テ明治十六年四月同志社大学校設立ノ旨趣ヲ草シ、広ク之ヲ大方ノ有志諸君ニ謀リシ事アリシガ頗ル其翼賛幫助ヲ得ルニ至レリ、是ニ於テカ本年四月上旬有志ノ諸君ト始テ大会ヲ京都ニ開キ、協議ノ上校名ヲ更メテ明治專門学校ト称シ、純全ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スルヲ以テ主旨トシ、先ヅ文

學專門部ヲ設立シ、歴史、哲学、政事、經濟等ノ諸科ヲ連帶セシメ、漸次整頓ノ序ヲ逐ヒ法理医学部等ニ及ボサントスルノ機ヲ得タルハ時運ノ已ニ熟セシモノカ、抑亦吾人ノ至誠能ク時運ヲ致セシモノカ吾人ノ欣躍ニ堪ヘザル所ナリ、然リト雖モ大学ヲ設立スルハ固ヨリ容易ノ事業ニアラズ、校舎ノ建築ト云ヒ教場ノ整備ト云ヒ博士學士ノ招聘ト云ヒ、必ズ数万ノ金額ヲ要スベシ、是レ固ヨリ吾人小數人員ノ資力以テ之ヲ支フベキニアラズ、然レトモ泰山ハ土壤ヲ積デ高ク黃河ハ細流ヲ集メテ深シ、我邦人苟モ文明ノ榮光ヲ望ミ社会ノ福祉ヲ祈リ學事ノ最モ治化ニ緊要ナルヲ了得スルアラバ、起テ吾人ト志ヲ同フセヨ、来テ吾人ト力ヲ協セヨ、怠惰偷安ハ事業ノ賊ナリ、一日以テ一日ヲ遲怠セバ將タ何レノ日ニカ其成功ヲ望ムベケンヤ、吾人ハ只奮進以テ之ヲ担任スルアランノミ、今ヤ吾人ハ已ニ旧日本ヲ出發シテ改進ノ洋ニ浮ベリ、是ヨリ天下ノ公衆ト自由ノ港ニ安着シテ真理ノ郷ヲ開拓シ以テ新日本國ヲ經營セザルベカラズ、是故ニ吾人ハ精神一到必ズ之ヲ成シ而シテ後已ント欲ス、嗟乎愛國至誠ノ有志諸君ニ非スンバ吾人其レ之ヲ誰ニカ望マンヤ

明治十七年五月

發起者

新島 襄

山本寛馬

〔改頁〕

明治專門學校創立規則

第一條 本校ハ左ノ三項ヲ以テ永世不易ノ原則トス

一 智徳並進ノ主義ニ基キ諸學科ヲ專修セシムル事



一 資本金総額ハ将来如何ナル事変ニ際会スルモ不可動事

一 京都ヲ以テ本校設立ノ位置トスル事

第二条 本校ハ先文学部ヲ設置シ、文学、歴史、哲学、政事、経済、等ヲ講究セシム

第三条 本校ヲ明治専門学校ト称ス

第四条 本校ハ明治廿三年ヲ期シ開設スベシ

第五条 本校ハ内外ノ博士学士ヲ雇入諸学科ヲ教授セシム

第六条 本校ハ先文学部設立ノ資本トシテ金七万円<sup>\*</sup>ヲ募集シ漸次法、理、医学部等ニ及ボスモノトス

第七条 本校ノ資本金ハ総テ内外賛成者ノ義捐ヨリ成立ツモノトス

第八条 資本金ハ総テ公債証書ニ交換シ日本銀行大坂支店ニ預ケ置キ、其利子ヲ以テ本校ノ創立及ビ維持ノ経費ニ充

ツベシ

第九条 本校創立ノ為メ金穀物品等ヲ擲ケ、或ハ心身ノ勞ヲ以テ尽力スルモノヲ総テ賛成者ト称ス

第十条 創立ノ為メ京都賛成者中ニ創立委員七名ヲ置キ毎ニ発起者ヲ補佐シ創立ノ事務ヲ執ラシメ、京都以外ノ各地

ニ於テハ其便宜ヲ量リ若干名ヲ置キ、其地方ノ事務ヲ執リ且時々創立ニ関スル諸般ノ計議ニ参与セシム

但シ外国賛成者ハ只金穀物品等ノ義捐ニ止リ、本校諸般ノ協議ニ参与スルヲ得ズ

第十一条 資本金ノ義捐法ハ各賛成者ノ適宜ニ任ス（例ヘバ一時出金若クハ年月割賦等ノ類）

但シ其方法ハ予メ創立事務取扱本部又ハ地方事務取扱所ニ就キ協議セラルベシ

第十二条 創立事務取扱本部及ビ地方取扱所ニ於テ領収シタル義捐金ハ其都度出納方ニ預ケ、毎三ヶ月ニ総括シ其人

名及ヒ義捐ノ金額等ヲ新聞紙ヲ以テ広告スベシ

第十三条 本校金員ノ出納ハ京都第一国立銀行支店ニ於テ総テ取扱ハシムルモノトス

第十四条 本校年々ノ経費精算書ハ毎年末各賛成者エ報告スベシ

第十五条 本校創立事務本部ハ仮リニ京都上京区第廿二組松蔭町新嶋襄方ヲ以テ之ニ充ツ、地方事務取扱所ハ追テ取  
定メノ後報告スベシ

明治専門学校創立事務本部

〔明治十七年・活版〕\*

## 24 医学学校規定

一本社社名ヲ京都民立医学学校社ト称シ、同名ノ信印ヲ採用シ、本社ニ関シ訴訟等出来スルトキハ、本社ノ名義ヲ以テ法庭ニ訴出スルヲ得、且医学学校ニ関スル大政府ノ条例ハ慎テ遵奉シ、大政府ヨリ他医学〔校〕ニ賜ワル所ノ特典ヲモ要請スベシ

二本社ニ於テハ内外之寄附者ヲ論セス本社学校永続之為惠投サル、土地、物品、家屋、食料、建築材、金円等ハ之ヲ受領シ、之ヲ所持スルノ權ヲ占有シ、又土地家屋ヲ買得シ又時宜ニヨリ之ヲ買取スルヲ得ベキモ、以上之投金ハ尽ク左ニ於ル所ノ学校病院等建築之為ニ之ヲ受領シ、且之ヲ費用スルヲ得ベシ〔使〕

### 一 医学学校

本校之授業ハ英米二国之医学ヲ採用スヘシ

### 二 看病人学校

此校ニ於テ看病人之心得并実施ヲ授業スベシ

### 三 病院并施療所

医術実施ハ勿論ナレトモ慈仁ヲ本旨トシ、患者之便益ヲ計ルモノトス

右学校病院等ノ地位ハ京都府下ト定メタレトモ、止ム事ヲ得サルトキハ京都近接ノ地ヲ撰フベシ

三本社之事務ハ左ノ撰挙法ヲ以テ委員何人ヲ撰ミ之ヲ委任スベシ

一委員七人之内六人ノ委員ヲ三組ニ分チ、組毎ニ二人トシ、老組ハ老ケ年間、他ノ老組ハ二ケ年間、他ノ老組ハ三ケ年間ノ在職トシ、老年ノ後ハ毎年老組ツ、ノ改撰ナリ、各組共三ケ年間ノ在職ト定メ事務負担スベシ  
且他老人ハ後ニ記載スル監察員ヨリ毎年之ヲ改撰スベシ

二委員七人ノ内四人ハ社員ノ撰挙スル所ニ関ワリ、欠員ノトキハ社員ヨリ之ヲ充タスベシ

※且他二人ハ後ニ記載スル客員ノ撰任スル所ニ関ワリ、欠員ノトキハ該員ヨリ之ヲ充タスベシ、且他老人ハ一条〔二〕記スル通、監察員ノ撰ル所ニ関ワリ、欠員ノトキハ該員ヨリ之ヲ充タスベシ

四社員ハ校中ノ幹事并ニ他ノ役員ヲ撰任シ、其ノ職分権限ヲ区定シ、全校之支配并ニ會計等ニ関シタル規則細則等ヲ編成スルノ権ヲ占有スベシ

但シ全校ノ規則細則等ヲ決定スルニ当リ、大政府之定規ト此条約ノ主旨ニ抵触セサルベシ

五外国ノ寄附者ハ該國中ニ於テ總代ヲ撰ミ投金ヲ取集メシメ、又其總代ヲシテ日本在留ノ該国人中二名ヲ撰ハシメ之〔ヲ〕客員ト称シ、年ニ幾回ナリトモ該員ノ所望ニ応シ本校ヲ來訪シ生徒并病院之実況ヲ視、本校之規則細則等ヲ調ラヘ、特ニ外国ノ寄附ニ係ワル金円ノ費用ヲ担任シ、学校病院之所為慈善ヲ主トシ又進歩ヲ計リ、弥寄附者之希望ヲ満足セシムルヤ否ヤヲ注目スベシ

但委員二人ヲ撰任スルノ義務ハ二十年後ニ至レハ同志社々員ニ譲リ渡スベシ

〔上欄〕  
○日本ニ代理ヲ置カシメ

○外国ヨリノ投金ハ寄附者ノ望ニ応シ支弁スルモノトス

六本社ヨリ本府ノ知事、区長并府會議長ニ請求シ本校監察員トナリ、年ニ幾回ナルトモ本校ヲ巡覽、生徒并ニ患者ノ

実況ヲ視察シ本校ノ規則細則等ヲ点驗シ、本校設立之主旨目的ニ叛カサルヤ否ヤヲ監察セラ〔レ〕ン事ヲ要求スベシ

〔年代不詳・草稿〕\*

25

〔同志社創立十周年記念演説〕\*

〔朱印、広津〕

明治十有八年第十二月十有八日午前第十時ヨリ同志社礼拝堂定礎式執行セラル、其際我校長新島襄氏ハ左ノ説ヲ

演ヘレタリ

此礼拝堂定礎式ヲ施行スル祈禱ヲ神ニ捧クル前ニ當リ、此堂設立ノ事ニ付キ聊カ我意ヲ陳ントス、抑モ教育ハ宗教ト密接ノ關係アル者ニシテ教育ノ基本ハ宗教ニアリト謂フ可シ、故ニ欧米文明諸国何レノ著名ナル学校ニモ礼拝堂ノ設ナキハアラス、且最モ美麗ヲ尽シ十分善良ニ作りアルヲ見ル也、其ハ何トナレバ教育ト宗教ノ關係実ニ一ナル所ヨリ然ラシム、而シテ我同志社教育ハ実ニ基督教ト密接ノ關係アル者ニシテ、今日此定礎式ヲ行ヒ之ヲ神ニ捧献スルハ后来我大ニ喜フ可キ事ナリト思フ、何トナレハ此礼拝堂ハ我同志社ノ基礎トナリ又タ精神トナル者ナレバナリ

西洋諸国ノ学校ニ於テハ已ニ宗教ノ教育ニ欠ク可ラサル關係アルヲ知り之ヲ貴重スト雖トモ我日本ハ未タ然ラズ、基督教ヲ賤ムルハ学生ノ常ニシテ我同志社ニモ亦タ此教ヲ嫌フ者ナカリシニモアラス、然ルニ今日此堂ヲ神ニ捧クル事ヲ得ルハ真ニ進歩ヲ顯ハス者ト謂フ可シ、又今日ノ時勢ヲ見ル時ハ此堂ハ是実ニ我日本ニ大ナル關係ヲ有スル者ナリト信スルナリ

前陳スルカ如ク西洋諸国ニテハ宗教ト教育カ並行セサレバ真ニ学校ヲ成ス能ハス、彼ノ米洲コルドバ大学校ノ如キハ断然ト基督教ヲ入レザル精神ヲ以テ設立シ、数多ノ人々大金ヲ捐チタルモノアレトモ到底其主義ヲ貫徹スル事能ハス、近来ニ至リテハ有名ナル説教師等ヲ招聘シ生徒ニ向テ基督教ノ真理ヲ説カシムルニ至レリト云フ、然ラハ則チ礼

拝堂ナルモノハ決シテ学校ニ廢ス可ラサル者ト思フナリ、而シテ大意ヲ略言スレバ独リ我礼拝堂ハ我日本国ニ大關係アルノミナラス、我生徒ノ之ヲ以テ精神ト為ス可キ者也ト云爾

〔池袋清風の定礎式の和歌五首略〕

書籍館<sup>\*</sup>定礎式施行ノ時（午前第十一時ヨリ）校長新島公ノ演ヘラレタル事如左

我同志社ハ米国有志者数人ノ若干金ヲ寄附セラレシ者ニ依リテ立ツ者ナリ、余カ米國ヲ去リ始メテ我國ニ帰朝セントスルニ臨ミ、彼ノボストンノ伝道會社大会ノ際一弁ヲ振フテ学校ノ必要ヲ説キシ時、彼ノワシントン府ノパーカ氏、ボルモント州旧知事ページ氏、ニューヨークノ有名ナル商人ミストル・ドツヂ氏ノ三名各金千弗ヲ寄附セラレタリ、余今度渡航ノ節此三人ノ凡テニ面晤スル事能ハサリシガ、パーカ氏ヲ訪ヒシ時ニ氏ハ階上ヨリ降来リ余ヲ抱キ暫時互ニ一言ヲ出ス能ハス、良久フシテ先年ノ厚意ヲ謝シタリシ、氏ハ今日八十有弐ノ高寿ナレトモ真ニ<sup>〔カクシヤク〕</sup>鏗鏘タル老翁ナリ、夫ヨリページ氏ニボストンノ會場ニ於テ面會シ、互ニ握手一札ヲ呈シ種々談話ノ末同氏ノ真影ヲ我同志社ノ為メニ請フ、氏之ヲ諾シ帰ルヤ否ヤ直ニ病魔ノ犯ス所トナリ自ラ筆ヲ取ル事ヲモ出来ズ、細君ノ代筆ヲ以テ一書ヲ送り撮影ニ葉ヲ贈ラレ、一ハ同志社<sup>〔ヤマ〕</sup>、一ハ余ニ与ヘラル、而シテ余再ヒ彼ニ會フ事ヲ得ズ、其翌日氏ハ天津神國ヘ逝カレタリ矣、然リ而シテドツヂ氏ハ已ニ永眠ニ就カレタレバ其細君ニ逢ヒ其礼ヲ述ヘタリキ、以上我校ニ関スル事ナレバ聊カ述ヘテ以テ定礎式ノ演説トナスト云爾

（同日午后同志社第十年期紀念會における新島校長の演説。於運動場、参会者五六百名）



## 同席校長ノ演説

往事ヲ述ヘル時ハ実ニ数多アレトモ之ヲ除ク、又タ卒業生ノ事ヲ云ハンカ之レ亦タ数多アレトモ之ヲ除ク、諸君ト共ニ今往事ヲ追想シテ紀念シタキハ、昨年我不在中同志社ヲ放逐セラレタリシ人々ノ事ナリ、真ニ彼等ノ為メニ涙ヲ流サザルヲ得ズ、彼等ハ或ハ真道ヲ聞キ真ノ學問ヲナセシ人々ナレトモ、遂ニ放逐セラル、ノ事ヲナシタリ、諸君ヨ人一人ハ大切ナリ、一人ハ大切ナリ、往事ハ已ニ去レリ之ヲ如何トモスル事能ハズ、以后ハ我儕実ニ謹ム可シ（先生流涕胸塞クラ演ヘラル、満場一人トシテ袖ヲ濡サル者ナカリキ）

今聊カ帰路航海ノ事ヲ引キテ我意ヲ明ニセントス、我今度サンフランシスコヲ出帆スルヤ海上暴風、真ニ乗客痛ミ余モ亦タ稍々勞シタリシガ、船長此困難ニモ拘ラズ兼ノ船路ト異リタル迂曲ノ線路ヲ馳セ、十数日ノ間ハ真ニ困難ナル中ニ遙カニ洋中ヲ走り、將ニ我日本ニ着セントシ、殆ント二三百里ニシテ稍ク西北ニ向テ日本ノ港ニ入レタリキ、我同志社ノ来歴モ亦タ之ト同一ナリ、真ニ困難ノ中ニ一意ニ神ニ任セ此進歩ヲナシタリ、而シテ今日十年期ニ於テモ決シテ喜フ可キ時ニ非ス、未タ其港ニ達セサル者也、今日已ニ見ル結果ハ未タ全キ者ニアラスシテ、数百年ノ後ニ非アレバ真ニ喜フ可キ時、真ノ果ヲ見ル可キニハ至ラサル也、然レトモ我同志社ハ此進路ヲ決シテ代ヘサル也

## 同夜新島公歡迎ノ會ヲ同所ニ開カル、其時先生終ニ演説セラル、其大略ハ如左

我愛スル内外ノ教師生徒諸君又タ諸方教会兄弟ト、京都ニ在ル兄弟ニ向テ歡迎ノ答ヲ為ス事ヲ得ルハ、余ニ於テ最も面目ノ事ト思フ、我諸君ニ迎ヘラレ其演説ヲ聞ク時ハ我心喜悅ト懼レトヲ以テ満サル、諸君ハ余ヲ以テ我校ニ功勞アリ又タ教会ノ先導者タル者ノ如ク思ハルレトモ、我ハ決シテ先導者ニモ非ズ又タ功勞アル者ニ非ズ、余ハ不得已シテ

之ヲ為ス者也、勿論我ヨリ外ニ其人ヲ得バ、其人ノヲナス可シ、然レトモ学校ハ必要ナレトモ其人未タ起ラズ、然レバ余カ如キ者モ起タサルヲ得ズ、請フ襄ヨリ始メヨトテ奮起シタレトモ、余タ如何ナル事ニ至ルカ又タ如何ニナス可キカヲ知ラス、今日ノ如キハ無論更ニ思フ外ナリキ、是余カ偏ニ教師ノ勞ヲ謝シ其働ヲ以テ我社今日ニ至レリト謂フ所以也

今諸君ニ迎ヘラル、ニ當リ航渡ノ事ニ付キ語ラレ、抑モ何故日本ヲ離レテ遠ク海外ニ赴キシカ、我病ヲ腦ニ持ツ為メニ甚タ薄弱ナリ、ペレー氏等切ニ米国ニ赴キ保養スル事ヲ以テス、故ニ余レ京ヲ去ルハ実ニ悲シク、我國ヲ離ル、ハ実ニ喜ハシカラサリシト雖モ決心断行昨年四月ニ諸君ト分袂シタリキ、余今尚ホ覺ユ諸君ト共ニ分ル、時ハ実ニ悲シカリキ、然レトモ神守リテ今日ノ喜悅ニ至ラシム、曾テ余スイツツルランドノ山中ニ散策セシ時無人ノ地ニ於テ病ニ罹リ、傍ニ家モナク人モナケレバ困難<sup>〔キワマリ〕</sup>維谷、辛フシテ杖ニ依リ山ヲ下リ一小屋ヲ見出シ、暫時其中ニ臥シ殆ンド死ニ就カントセシ事アリ、其時余、神ヨ若シ聖意ナラバ我魂ヲ取り玉ヘト祈禱シタリシガ、我心ニハ尚ホ心ニ掛ル事アリ、又タ実ニ我妻ト我父母ヲ愛スルノ心ハ切ナリ、我死スルナラバ我同志社諸君ヨリ埋葬シテ貰ヒタキ心アリキ  
米国ニ至ルヤ皆ナ日本ノ景況ハ如何ン、同志社ノ形勢ハ如何ント切ニ語ラン事ヲ乞フテ止マズ、我保養ノ為メニ至リシニモ拘ラズ其求メ切ナレバ、至ル所ニ於テ諸教会及ヒ日本全体ノ形勢ト、我同志社諸君リバイバルノ実験ヲ記シテ余ニ送ラレタル者ヲ人々ニ語レバ、皆喜ヒテ之ヲ聞キ日本兄弟ノ自治ノ精神、伝道ノ熱心ナルヲ称セサル者ナク、或ハ握手シテ余ニ兼テ日本ノ為メニ祈リ居リタリト告クルアリ、或ハ金ヲ寄送セント約シ、以後祈ラント約スル者モアリキ、若シ同志社ニリバイバルナカリシナラバ我ハ米国ニ赴ク事能ハサリシト感セリ

曾テボストンノ教会ニ於テ米国伝道会社七十年期紀念会ヲ開カレタル時ニ、我日本ヨリ呈セラレタル祝文ヲ同會書記

ドクトル、クラーク氏朗読セラレタレバ一同実ニ感喜シタリキ、我常々諸君ヲ忘ル、事能ハス、我ハ常々諸君ノ祈禱ノ中ニ包マレ居ル事ヲ知り真ニ安然ナリキ、而シテ日本ニ帰朝シテ後ハ何ヲナサンカ如何ナル事アルカヲ思ハス、又タ生命ノ弱キ事ト神ノ中ニ在ル事ヲ知り居レリ

我ハ才力ナク学力ナク先導者トナルニ足ラス、然レトモ我ハ只タ我日本ヲ愛ス、道ヲ愛ス、兄弟ヲ愛ス、諸君ヨ我ハ諸君ヨリ先生々々ト曰ハル、ヲ悲ム、昨年一度我ハ諸君ノ余ヲ先生ト呼フ事ナキヲ乞ヘリ、然レトモ諸君ハ尚ホ余ヲ先生ト呼ヒ玉フ、然レトモ我ハ価ナシ只タ神ノ意ニ従フノミ、神意ナラバ何事ヲモ為サント欲ス、我ハ只タ日本ヲ愛シテ事ヲナス人ト同心ナルノミ、同シク神意ヲ奉体スル者ハ是レ一也、斯ル者ハ世ニ勝ツ、見ヨ主ハ我已ニ世ニ勝テリト曰玉ヘリ、我儕此主ト偕ニアリ何ソ勝タサル事アランヤ、諸君ヨ若シ神ノ意ヲ為バ決シテ破ル、事ナシ、是ニ省ル所アレ今日ハ是最モ好キ時節也、若シ此時ニ際シ事ヲナシテ世ヲ去ラバ神ノ前ニ称セラル、ナラン

〔明治十八年十二月十八日・広津友信筆記〕

## 26 「看病婦学校設立の目的」

〔異筆、別紙〕

明治十九年九月廿日、大日本私立衛生会京都支会開筵ノ節、京都（同志社）看護婦学校設立ノ儀ニ付米国医学士  
ジェー、シー、ペリー氏演說セラレタル後、故新島先生ノ演說セラレタル草案

〔本文〕

今回京都ニ設立ニ及タル此看病婦学校之来歴ハ今已ニ御聞ニナリマシタナレハ、予ハ有志諸君之贊翼ニヨリ極簡短ニ  
看病婦学校之目的ヲ陳述致シタウゴサル

擬此種類ノ学校ハ已ニ其来歴中ニ御聞ニナリマシタ通り、近来欧米ニ行ハレ出シタルモノニシテ、一種特別新發明ノ  
学校ト云テ可ナリト存マスル

茲ニ此種類ノ学校ノ起リヲ探ヌレハ一千八百——〔補〕「ギリミヤノ役ニ」彼有名ナルナイティンゲール女丈夫カ一身ヲ抛

チテ戦地ニ入り、負傷者ノ看病ヲ為シ、続テ看病婦〔学校〕ヲ創立セシ事ハソモ、此学校〔ノ〕原因トモ申ヘケレ  
トモ、此校ノ原因ハ別ニアリテ、此種類ノ学校ハ乃チ其ノ結果ト云ハサルベカラス、然ラハ其ノ原因ハ何ソ

其ノ原因ハ他ニアラス、乃チ基督ノ教ヘラレタル内ニ、己ヲ愛スル如ク人ヲ愛スベシ人誰カ己ヲ愛セサルモノアラ  
ン、己ヲ愛スル如ク人ヲ愛セハ真ニ基督ノ意ニ叶フモノデゴザリマス

此ノ貴重ナル教カ此種類ノ学校ノ原因ニシテ、ナイティンゲール女モ此教ノ主意ヲ奉戴シテ戦地ニ入り負傷者ヲ助ケ、

又統テ学校ヲ起シタ事デゴサリマス

今文明諸国ニ人々カ多分ノ金ヲ投シテ病院、貧院、幼院、癲狂院又ハ看病婦学校等ノ設ケアルハ、社会ノ為ニ計ル所ノ純乎タル慈善心乃宗教心ヨリ起リテ、人ヲ助ケ人ヲ救フヲ以テ目的ト為ス所デゴサリマス、而シテ此目的ハ基督ノ人ヲ愛〔セ〕ヨト云フ教ニ原因スル訳デゴザル

此ノ目的タル慈愛心ヨリ発シタ訳デアリマスカラ、此校ノ目的ハ第一ニハ病人ノ苦痛ヲ救フニアリマス、

縦令ハ吾人カ大病ニカ、リ「マ〔ス〕ニ」何人ノ湯藥待スルモノナキトキハ如何ニ困難ヲ窮〔メ〕マシヨウソ、真ニ苦ニ苦ヲ添へ、痛ミニ痛ヲ加へ、悲ミニ悲〔ミ〕ヲ益マスル

人カ大病ニカ、ルトキハ只々良医ノ藥ヲ要スルノミナラス、真ニ深切ナル看病人ノ世話カ入リマスル、或ル病氣ニ於テハ世話一ツデ平癒スル事カアリマス、左レハ看病婦ノ必要ナル事ハ人カ大病ニカ、〔ツ〕タ上デ克ク分ル事ナレトモ、是迄此ノ大切ナル看病人ハ銘々シロウトノ手デ済シテオキ、又上手ナル医者ニ至迄デモ此ノ看病人養成ノ事ニ余リ注意セサリシハ随分奇体ナ事デゴサル

然シ事柄ニ於テ人間ニ欠ベカサルモノモ、人々が極々不自由ノ内ニ生息シツ、其ノ不自由ヲ省クノ道ヲ工風セサル事カ多クアリマシテ、看病婦養成ノ設ナキカ如キ只此ノ一事ニ限ツタ訳デナク、譬へハ蒸氣機関ノ効用ヲ思ヒ見賜へ、今人カ蒸氣ノ力ヲ呈スルヲ見テ成程此ハ結構ナモノダト云ハル、テアロウガ、百二十年前迄ハ世界デ何人モ蒸氣ノ力ヲ用ユル事ヲ知リマセナンダ

其レト同シク三十年前ノ昔迄ハ誰一人トシテ看病婦養成ノ事ニハ注意致シマセナンダガ、此種類ノ学校カ起リシ以来人々モ其必用ヲ感シテ、一度ヒ之ヲ試ミタ上ハ決テ欠ヘカ〔ラ〕サルモノト云レマシヨウ

又人カ不幸ニモ手ノ足ラヌ家内ニ於テ重病ニカ、ルトキ、右様看病婦カ往キテ深切丁寧ニ世話シマ〔シ〕タラハ其病人ニト〔リ〕テ甚ウレシイ事デアリマシヨウ

左レハ此校ノ目的ハ病人ノ苦痛ヲ救フニアル事ハ大病人ノ甚切望スル所デ、吾人ノ尤賛成スル所ニアリマスル

## 目的第二ニハ

熟練ノ看病人ヲ養成スルニアリ

病人アレハ誰レノ家ニモ看病人ヲ付ケ置ク事ハ世ノ常ナレトモ、只ノ看病人ハ病人ノ取アツカイヲ知ラス病人ノ求ムル所ヲ察セス、又尤モ不都合ナル事ニハ看病人カ毎度々々医者ノ申付ケヲ能ク聞カス、薬ヲ与ヘキ時間ヲ誤マリ、又ハ薬ノ分量ヲ誤マリテ兎角病人ノ求メニ応シ苦キ薬ノ小量ヲ与、又ハ分量ヲ与ヘタラハ早く治スヘシト思フテ案外ニ多量ニ薬ヲ与フル様ナ不都合ハ毎度アル事デ、病人ノ十中七八ノ平癒セス薬ノ功ヲ奏セサルハ、恐クハ看病人ノ其宜ヲ得サルナランカ

此点ニ論シ来レハ、看病婦ノ熟練シタルモノハ医者ノ薬法ヨリモ大切ナル事カアリマシヨウ、看病人一ツデ人ヲ生カシ又ハ殺ス事モ出来マスル

左レハ熟練ノ看病人ハ大病人ノ病床ノ側ニハ甚必要ナモノデ、先第一ニ熟練ノ看病人ハ医者ノ命ヲ奉ジマス○第二ニ病人ヲ取扱フニ無益ノ時間ヲトラス時ニ応シテ薬ヲ与ヘ又分量ヲモ誤リマセヌ、縦令ヘハ茲ニ看病婦ノ手ギハデ甚タアブナキ眼病ノ癒タ話カアリマス

市原ノ娘ノ眼病、リチャルド氏ノ二十分間オキ\*

又其ノ外コレラ病、赤痢、チブス病ノ如キヲ、重病ヲ取扱フニ必ラス其ノ法方ヲ心得ネ〔ハ〕ナリマセヌ、廃泄物ナト



ノ取扱ヲ知ラサレハ直ニ伝染致シマス、又戦地ナドニ負傷者ヲ取扱フニ速ニ看病ヲ為シ手当ヲ為サレハ、助カルヘキモノモ死ニマスル、左レハ熟練ノ看病〔人〕は病人ヲ助クルニ於テ甚欠ヘカ〔ラ〕サルモノデアル

目的第三ニ、病人ノ心ヲ慰ムル事カ甚大切デアリマスル

第一ニ論シタ所ハ熟練ノ看病人ノ入用ノ乃チ機械的ノ熟練デアリ〔マ〕スルガ、只是計デハ足りマセヌ、茲ニ精神的ノ熟練カ入用デアル、機械的熟練ノ看病人ナラハ、或ハ金錢ノ為ニ出テマスカ又ハ名誉ノ為ニ出ルデアロウ、然シ金錢ノ為デナク又名譽ノ為デモナイ事が来タトキハ此等ノ人ハ失望シマスル、嗚呼失望シ易イ看病人ハ病人ノ側ニツケテ置マセヌ、又病人ノ心ヲ乱タスモノモ病人ノ側ニ置ケマセヌ、○私ハ或ル病院ニ於テ、看病婦カ藝セツノ語ヲ吐テ病人ニ戯レオルヲ聞キマシタ、右様病人ノ心ヲ乱スモノハ病人ノ側ニ置ク事ハ出来マセヌ、又卑屈千万ニシテ差少ノ事ニモ直ニ泣サワギ、アワテルモノモ看病人ニ適シマセヌ

人間ニテ何ノ為ニ此ノ世ニ出テ、又此世ヲ去ラハ何レニ帰着スルカ知ラサル人ハ、今ノ世ニアツテ甚心細イモノテアル、又如此キ人カ大病ニカ、ラハ、先キノ事ハ少シモ分別カ出来ス、実ニ先キマツクラ周章ロウバイ、差少ナル容体ノ変化ニモ驚キテ直ニ落胆イタシマシヨウ、○又病人ハ兎角神経ノ敏ナルモノナレハ、総テノ事ニ心ヲ用イネハナリマセヌ、且如此病人ヲ取扱フニハ金錢ノ為ニモアラス名譽ノ為ニアラス又義務ノ為ニアラス、全キノ病人ノ心ヲ思ヤリ真実ノ愛心ヲ以テ病人ノ為ニスル人カ入用デアル、又病床ノ側ニハ成丈ケ清潔ニ、其舉動ハ成丈ケ慎厳ナ人ヲ要シマス、又重病病人ヲ取扱フニハ男子ヨリモ婦人カ甚適當ニアリマシテ、其ノ志操ハ大丈夫ノ如ク心ヲ真理ニ委ネ身ヲ天命ニ任せ、キタナキ事モ、嗅キ事モ、キロウヘキ事モ、驚ロシキ事ニ少シモ辟易セス、従容トシテ其ノ職務ニ従事セハ、如何ニ失望シ易キ病人モ必ラス心ノ慰ヲ得ルニ至ルヘク、遂ニハ己カ身迄モ天命ニ任せテ安心スルニ至ルベシ、



此等ノ事ニ至ラハ決シテ機械〔的〕ノ熟練〔三〕シテ足ラス、必ラス精神的ノ練磨カ必用デアリマスル、此ノ精神的ノ練磨カ出来タ上ハコレヲ病床ノ側ニ付スヘク、彈丸<sup>〔朱〕</sup>「ヲ侵シテ進ムベシ」雨ノ如クニ飛ヒ来ルノ戰地<sup>〔朱〕</sup>「□ヲモ踏」ヘシ

右ノ大略ハ吾人ノ此ノ看病婦学校ヲ創立ノ目的ナレトモ、偏ニ元来数千里ノ波濤ヲ渡航シテ我カ國ニ来リ、我カ同胞ノ幸福ノ為ニ計ラル、米國ノ医師ヘレー〔ベリー〕、婦人バレー<sup>＊</sup>、看病婦学校女教師リチャルド氏ノ目的ヲ体スル事ナレハ、願クハ満堂ノ諸彦ニモ克ク此点ヲ御承知アリタク、又殊ニ此校ニ来リ学ハル女生徒方ハ此ノ目的ノ存スル所ヲ御了解アリ、此ノ意ヲ体シ将来ノ御用意アラハ各方ノ前途ハ実ニ花ノ山ニ登ルカ如シ、我カ社会ヲ裨益スル決シテ少々ノ事ニアルマジト信シマス

〔明治十九年九月二十日・草稿〕

## 27 「看病婦学校設立の精神」

予先キ比丹波ノ保津村ヨリ川船ニ乗リテ大井川ヲ下〔リ〕シトキ、流水ノ此チラノ岩ニ当リ彼チラノ岩ニゲキシ、益〔ス〕激シ益ス流ル、ヲ見テ覺ヘス快哉ト称シ、世ノ中ノ事ヲ打忘、只思ヲ奔流ニ奪ハ〔レ〕テアノ川ヲ下リマシタ、且其節川筋ヲ見マスルニ右ニ曲カリ左ニ繞ネリ、或ハ東南ニ進カト思ヘハ忽チ又西南ニ向テ下ルヲ覺マシタ、其ノ時若シ何ニ氣ナク此川ヲ一直線ニシタナラハ水ハ速ニ流レテ、随テ船モ早ク下ルヘキニ、如斯幾回ノ迂曲カアレハ水ハ茲ニ激シテアスコニ支ヘラレテ直ニ流ルヲ得ス、如斯モ無益ノ時ヲ費スガナト独リ思案シ有マシ〔タ〕、ソコテ又其思案ヲ打換ヘテ、若シ此ノ川カ一直線ニ流レ此船カ何ノ苦モナクスラスラト下リタレハ茲ニ如何ナル風趣カアルベキヤ、岩間ノ激波ヲ見又其時間ニ船ヲ殆トサカシマニ下スノ壮快ヲ樂ミ得ヘキヤト申テ居リマシタカ、其后世ノ間ノ變遷文化ノ改進スル理由ヲ考ヘ居マシタカ、不図先比ノ大井川ノ壯觀ヲ想起シ、世ノ進歩ハ如此モ事物ノ容易ニ動カス万事總テ意ノ如クナラ〔ヌ〕ヲ感シ居シ、斯如キモノカ壯觀ハ却テ抵抗物ノ中ニ求ム可、進歩〔スル〕トキ却テ障礙物中ニ見ルヘシト思ヒ大ニ心ヲ惑シマシタ〔マヤ〕

今夕我カ友ベレー師ト共ニ衛生會員諸君ノ前ニ出テ、イサ、カ鄙見ヲ陳ルヲ得ルハ生ノ大幸ト存マス、然シテ生ハ衛生ノ事ニ付テハ甚白ロウトニシテ何事ヲ〔モ〕諸君ノ賢聞ニ呈スル事ハ出来マセヌ、且今夕ノ御話ハ他ニ関ヘカラス、即看病婦学校創立ノ事ニ付諸君ノ御賛成ヲ仰カン事カ其ノ本音ニアリテ、此事ニ関シテハベレー氏ヨリ詳細開陳スヘク、且諸君ヨリ御尋モアラハ同氏ニ御答ヲ仕ルヘケレハ、生ハ只該校ヲ設立セントスルノ精神ヲ陳述仕ラン

過刻一寸、進歩ハ却テ障妨物中ニ見ルヘシト申シマシタガ、近來流行ノ進化説ノ如キハ即旧物中ヨリ新奇ノ物カ生シ来ルトキ、此ノ進化論<sup>エヴォルーション</sup>ハ余程調法ノ説ニアリテ、之ヲ世ノ中ノ種々ノ事ニ当テハメ得ル事カ出来マスル、然シ世ノ變遷更迭ハ旧キ物ヨリ新ラシ<sup>キ</sup>物ヲ生シ来ルト申セハ何ニ<sup>カ</sup>造化自然ノ妙巧ノ生セシムル如キ容易ノモノニ<sup>補</sup>「思ハルレトモ決テ決テ又総テ」アラス、困難苦辛中ヨリ一發明ヲ為シ得、重々層々積テ而后今日歐洲文明ノ成績ヲ見ルニ至リシトキ、遠因ノ然ラシメント云ハサルヲ得ズ、然ラハ乃文明ノ運命ノ来セシモノニアラス、天人<sup>ノ</sup>手ヲ借りテ成ラシムルモノト云サルヘカラス、故ニ勤勉ナル民ハ進ミ怠惰ナル国民ハ退ク、是レ天教ノ至ラシムル所、英民ノ譬ヘ中ニ云ヘルアリ天自助ルモノヲ助クト、又曰天情民ニ幸ヲ与ヘスト、宜ナル哉、此ノ言、該国民ノ精神トナリテ彼歐洲東北ノ隅ノ島嶼ニ強骨強腹男子ヲ輩出セシメ、全世界ヲ雄視シテ地球ヲ繞、比隣行ク如ク、船車ノ及フ所人跡ノ至ラ<sup>サ</sup>ル所英人ノ其ノ足ヲ試ミサルハナク、遂ニ英王ノ女王ヲシテ我カ領中太陽ヲシテ没スル機ヲ得セシメスト、其ノ交通ヲ求メサルハナク、又曰<sup>タ</sup>其ノ吞併ヲ計ラサルナク、其ノ他歐洲外ニ諸強國ノ如キ殊ニ吞併ヲ以其ノ主義ト為セルカ如キモ、其ノ文化ノ進歩ヲ助ル所ヨリ論スレハ矢張世界ノ先覺者ト云ハサルヘカラス、又特ニ我カ隣國ト称スル米國ノ如キ、其ノ開鑿ノ速カナル、其ノ物産ノ製造ノ夥多ナル、其ノ宗教教育ノ隆盛ナル、其ノ富裕ナル、其國是ノ公平穩和ナル、吾人ヲシテ欣慕止マサ<sup>ラ</sup>シムル

衛生會員諸君ヨ吾人縱令区々タル東洋ノ一孤島ニ生ル、モ、我カ祖先ノ未開墾<sup>暗</sup>黒時代ニ生息セス、今日ノ御代ニ出来シ今日ノ活動世界ヲ見ルノ幸ヲ得ルノミナラス、此活動世界ノ演戲場ニ登リ、一分子トナリ又其ノ一端ニ加ハリ、世ト共ニ進ムヲ得ルハ豈ニ愉快ニシテ共ニ賀スヘキ事ナラスヤ、吾人若シ不幸<sup>ニ</sup>シテ我カ祖先ノ日ニ生レシナラハ暗黒ノ空氣ニ生成シ暗黒ノ空氣中ニ生ヲ送<sup>リ</sup>シナランニ、維新以來吾人ヲ歐米活動社会ノ仲間入ヲ為シ、

活動社会ノ空氣ニ生息シ、活動社会ノ人間ト交通シ、活動社会ノ文物制度ニ至ル迄、模倣シ採用セネハナラサルノ秋ニ逢遭スルハ豈偶然ノ事ナラン、皇天吾人ヲ愛顧シ吾人ヲシテ此ノ時ニ生息スルノ幸ヲ得セシメ〔リ〕ト信スレハ、豈徒手傍觀シ若其分ヲ尽サシテ吾生ヲ送ルヘケンヤ

吾人ハ社会的ノ動物ニシテ、我カ同胞人類ヲ互ニ愛シ、互ニ助ルノ義務ヲ負フモノナリ、昔時忠臣義士孝子烈婦ノ輩出セシハ他ナシ、各其ノ義務ヲ尽セルモノト云ハサルベカラス、近來優勝劣敗ノ説行ハレ之ヨリ天下ノ事物ヲ推究スレハ、成程優勝劣敗ハ常以動物ニ於テ見ルヘキ所アルモ、<sup>〔カ〕</sup>万一此説〔ヲ〕シテ人類ノ中ニ其ノ勢力ヲ呈セシメハ如何ナル慘狀ヲ現出スヘキゾ

然ラバ吾人ハ何ヲ為スヘキヤ、吾国歩ヲシテ文明ノ域ニ達セントナレハ乃政治、法律、教育、宗教、物産、製造、商業、工事、百般ノ事業改良ヨリスルニアリテ、一国ノ目的ハ即チ其ノ同胞人類ヲシテ、各其ノ生ヲ樂ミ其ノ宜キ〔ヲ〕シテ得セシ〔ム〕ルニアリ、此レ乃財産ト生命ノ保護ヲ得セシムルニアリ

蓋シ財産生命ノ保護ヲ得セシムルハ政府ノ預リ関スル所ナルモ決シテ遺欠ナキ能ハス、又政府ノ勢ヒ着手シ得サル所アリ、否政府ニシテ或ル事業ニ至リテハ全ク人民ニ任スル事カ上策ト云ハサル場合モアレハ、今ノ世ニ当リ吾人御互ニ此文明ノ重荷ヲ分担スヘキモノ、又少シク同胞ニ先タチ同胞ノ幸福ヲ計ラントスル輩ハ、宜シク工風ヲ回ラシテ其ノ分担スヘキモノヲ發見シ、応分ノ力ヲ尽スハ吾人ノ尤モ為スヘキ義務ト云ハサルベカラス、然シ国歩弥開明ニ進ムニ随ヒ一人ニシテ何ニモカモ兼任スベカラス、我カ日本モ矢張万屋ノ見世ハ閉鎖スヘキ時ナリト信ス、去レハ各其ノ長スル所ニ、好ム所ニ随ヒ分業ヲ初メネハナラヌ場合ニ愈至レリ

昔時ハ医師ノ中ニモ、醫師ハ世人ニ先チ學問ヲセル所ヨリ<sup>〔補〕</sup>「メオリタレハ」諸藩ノ醫師中往々國手ト称セラル、人

アリテ、医ニシテ頗ル時政ヲ痛論シ、又一國ノ改革ナトニ加ハリシモノ少カラス、彼有名杉田成卿先生ノ如キ医ニシテ和蘭ノ軍法ヲ講シ数十卷ノ訳述アリシモ、ツマリ未開ノ世ノ中ニシテ分業ナキ時世ト云ハサルヲ得ズ、今ハ已ニ其ノ世代ト異ナリ分業已ニ初マリ、医師ハ専ラ医業ヲ事トシ、法律家政事家ハ法律政事ヲ研窮シ、工業職工、商業家専ラ工業職工、商業上ノ事ニ工風ヲ廻ラシ、新聞記者ハ新聞ニ、軍人ハ軍事ニ、教員ハ授業ニ尽力シ、各其ノ全力ヲ其預カル所ニ尽スニ至リシハ是レ文明ノ□最早運轉シタリト云ベシ

去ナカラ生ハ如斯時運ノ進ミ来ルヲ見欣喜措ク所ナキモ、生ハ専門家タルモノハ其専門ニノミ全力ヲ尽シ、其ノ學問ノミヲ研窮シテ一切他事ヲ知ラサルカ好キ〔補〕「閑セサルヘシ」ト云フニアラス、又専門家ノ狹隘ナル學問ニ止ルヲ賛成セス□、且専門科ヲ修メタル人物ハ矢張社会ノ率先者タルノ重任ヲ免レサレハ、我同胞ニ尽スヘキ義務ヲ負ヘリト云サルヘカラス

〔下部余白〕  
「専門家ハ専門ノ學術ヲ修メ其奥蘊ニ達スルヲ喜フ」

衛生會員ノ諸君ノ如キハ其任アリ、其義務ヲ負ヘルモノナリ、又其任ヲ尽スヘキ地位ヲ占タルモノナリ

人ニシテ学力アリ智力アルモ其位置ヲ得サレハ其ノ任ヲ尽ス能ハス、然レ「ト」モ諸君ノ如キハ已ニ其ノ能アリ、其任アリ、其ノ位置ヲ占タルモノト云ハサルベケレハ、生ハ今夕同志社員ノ一人ニシテ、今回同志社ノ挙タル看病婦

〔学校〕ヲ御賛成アレト歎願スルニアラ「ス」シテ、貧困又長病者ハ、又苦痛ニ罹リ非常ニ介保ノ看護ヲ要スル輩ノ心緒如何ヲ思ヤリ、此輩ニ代リ諸君ノ御賛成ヲ乞ヒ、此輩ノ苦痛困難ヲ救フニ甚適切ナル看病婦ヲ養成スヘキ学校ヲ創設セン事ヲ要スル也

天下ニ必用ノモノ実地ニ経験ヲツミ遂ニ學術トナル、  
〔欠損〕ト Theory 〔欠損〕テ 〔欠損〕學術トナス

東洋システムナシ 〔昔ノ金カシ 今ハ銀行  
飛脚屋 郵便局〕

西洋ニシステム 〔昔ノ早飛脚 今ノ電信〕

開化ハ改進ノ意、十年ノ事ヲ此今日□立スヘカラス、又去年ノ世界「ト」本年ノ世界ハ同一視スヘカラス

昔時万国ト「ノ」間ニ交通ノ途開ケサルノ時ニハ、其国ノ文化ハ多分其国丈ケノ發明ニ関ハリテ

「交際ノ助ニテ一国ノ文化モ他国ニ移ル

○仕事ニ財産 アナ□

聯

一貫同 八十錢  
七十錢

○改革ノ際勸メサルベカラス、反訳ノ世ノ中

〔今ト□似ノ世ノ中カ少シク著述□トナリシカ、後ニ發明ノ世ナカラサルベカラス  
〔ママ〕〕

□人ノ進歩ハ刺激物ナカ「ル」ベカラス

〔世界万国日本ノ刺激  
〔カ〕〕

初メノ内ハナクテヨイ、初メテ見レハ一日モ之ヲ捨ツヘカラス

本日ハ進退維谷ノ世ニアラス、進ミテ勝□ノ世ナリ、政事ノ改革、社会ノ改革

縦令ヘハ電信ノ如キ、新聞ノ如キ、昔時ハ一日新聞ナシニ済ミタルニ、今日ハ新聞ヲ読マネハ一日文明ノ事ニ後〔カ〕「ル」

様ナ思カシテ、直ニ其ノ不都合ヲ覺ヘマス、新聞カナケレハ汽車ニノル時間モ汽船ノ出帆ノ時日モ一寸分カリマセヌ



人力車ノ如キハ昔シナキ時キハ〔サンサン〕纔々駕籠ニノルカ又馬ニノルカ、又カコニモ馬ニモノレサルモノハ己ノ足ニテ歩ミシカ、一度人力車ノ出来シ以来甚便利ノモ〔ノ〕ニシテ、急キ我等共ハ一日モ之ニノラズニハオラレス

〔明治十九年九月・草稿〕



## 28 同志社予備校設立之主意\*

抑モ弊社設立以來茲ニ殆ンド十有二年、其際固ヨリ多少ノ困難ナキニアラズト雖モ、寸進尺歩漸ク今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ、是実ニ我輩社友ノ深ク鳴謝ニ堪サル所ナリ

然リト雖モ我輩敢テ之ニ甘ンセス益々此社ヲシテ完全ノ域ニ達セシメント欲シ、曩ニ已ニ高等専門科ノ一校ヲ増設セントスルノ計画ヲ定メ之ヲ内外有志ノ諸士ニ図リシニ、幸ニ其贊助ヲ經テ今茲ニ若干ノ資金ヲ蒐集スルヲ得タリ、依テ爾來速ニ之レカ実施ニ着手セント欲セシモ、宜シク先ツ之ニ応スルノ学生ヲ準備セサル可ラサルナリ、而シテ之ニ応スルノ学生ヲ準備セント欲セハ、本校目今ノ課程ヲシテ其程度ヲ高尚ナラシムルニアリ、而シテ其程度ヲ高尚ナラシメント欲セハ、更ニ予備ノ一科ヲ設ケテ此ニ暫ク新入生徒ノ学力ヲ養成シ、他日本科生タルノ備ヘヲ為サシムルニアリ、依テ嚮キニ有志ノ輩相謀リテ仮リニ予備ノ一校ヲ我社外ニ設ケシニ、豈ニ計ラン末タ数月ヲ出サルニ既ニ百有余名ノ学生ヲ得タリ

然レトモ塾舎狹隘ニシテ為メニ其健康ヲ害シ、加之各生我社外ニ散居セルヲ以テ之カ管理上隨テ周到ナラサルノ歎ナキ能ハス、是ニ於テカ勢ヒ必ス其管理ト健康ニ適當セル数棟ノ校舍並教室ヲ我社内ニ新設セサル可ラサルノ時機ニ達シタリ

然リ而シテ之ヲ新設セントスルニハ少クモ五千余円ノ金額ヲ要スレハ、我社目下百事多費ノ際到底独リ此責ヲ担フ事能ハス、因テ止ムヲ得ズ茲ニ此顛末ヲ縷述シ、之ヲ在校子弟ノ父兄諸君及ヒ江湖有志ノ諸彦ニ告ケテ、其高庇ヲ仰ン

ト欲ス

伏テ願クハ前条ノ事情深ク憐察スル所アリテ、幸ニ応分ノ義捐ヲ投贈シ賜ハン事我輩切望ノ至リニ堪ヘサルナリ

明治廿年五月

同志社々員 新島 襄等 謹白

〔明治二十年五月・活版〕

## 29 私立大学ヲ設立スルノ旨意、京都府民ニ告ク

〔朱〕  
明治二十一年四月十二日 京都智恩院ニ於テノ演説

理事委員諸君ノ御周旋ニヨリ、本日茲ニ、此ノ大会ヲ開キ、不肖ナル私ガ、私立大学校設立ノ事ニ付、京都府知事ヲ初メトシ、両書記官、諸課長、両区長、戸長、府會議員、各会社頭取、新聞記者ノ諸君、其外府下ノ紳士方、並ニ、神戸大坂ヨリノ、來賓諸君ノ前ニ出テ、一言ヲ吐露スルヲ得ルハ、私ニ於テ、特ノ外ノ面目ト存シマス〔コト〕

扱、諸彦ノ御來臨ヲ仰ギマシタハ、此ノ府下ニ、一ノ私立大学設立ノ事ヲ、御相談致シ度キ事デゴザリマス

此ノ私立大学設立ノ事ハ、明治十七年以來、私ト山本覺馬兩人ガ、發起人トナリ、府下ノ紳士、若干名ノ賛成ヲ得テ、早ク已ニ、天下ニ訴ヘ、江湖諸君ノ翼賛ヲ仰キマシタ、然ルニ兎角、時機ノ未ダ到來セザルニヤ、多少ノ賛成家ヲ得テ漸々ト寄附金モ受ケ居リマシタガ、余リ果敢々々數、進ミモナク、今日迄參リマシタ〔朱線、以下同〕併シ、時機ト申スモノ

ハ、待タネバナラヌモノ、亦人間ヨリ來ラシメネバナラヌ者ト存ジマシテ、今回理事委員方ノ御尽力ヲ乞ヒ、此ノ大会ヲ開イタ訳デゴザリマス

是レヨリ、何ニ故ニ大学ガ必用ト申ス事ニ付御話シ申シマスル、ナゼニ大学ヲ要スルカト申セバ、大学ハ智識ノ養成場ナリ、宇宙原理ノ講究所ナリ、學問ノ仕上ケ場ナリト答ヘマスル、又大学ハ文化ノ源ト、否一國ノ基ヒト申シテ苦シカラズ、扱、人間ニハ、天ヨリ、智性、徳性ヲ附与サレマシテ、之ヲ磨ケバ進ミ、磨カザレバ退ク事ハ、造物主宰ノ原則、人間ノ通理ニシテ、ツマリ、開化人トハ、即チ之ヲ磨テ進ンダ民ヲ申シ、野蠻人トハ自忘自棄シテ、此ノ

智性徳性ヲ磨カヌモノヲ申シマス、当時学者ノ称ヘマスル、優勝劣敗モ、此ノ道理ニ基ヒタ訳デアリマス、天ハ自ラ助クル者ヲ助ケ、勤ムルモノニ与フトハ、西洋人ノ心ニ銘シテ忘レサル事デ、今日欧米ノ文化ハ勉強ノ結果デゴザリマス

私シ曾テ汽船ニ乗り、遠州灘ヲ航スルトキ、日本形ノ帆前船ガ、向ヒ風ノ為ニ吹キ戻サレ、西洋形ノ汽船ハ、烈シキ風ニ向ヒナガラ、少シノ頓着モナク、進ミ行クヲ見テ、智識ヲ磨ヒタ人民ノ作ツタ船ト、智識ヲ磨カヌ人民ノ作ツタ船ノ、比較ヲナシ、大ヒニ痛ク、人智ノ磨カズンバアルベカラサルノ理ヲ悟リマシタ

日本船ニハ第一「キール」(船底ヲ一貫シタル木)ガナク、随テマギリガ、キ、マセン、少シノ無理ニ直ニ沈没致シマス、西洋船ニハ、其ノ船底ニ、「キール」ヲ付ケタレバ、幾多ノ帆ヲ揚ゲ、風ニ懸クルモ、容易ニ沈没セズ、殆ント風ニ向ヒ航スル事が出来マスル、而シテ此レニテモ満足セズ、米國ノフールトン氏ハ、今ヨリ八十二三年前ノ比ヨリ、蒸氣機関ヲ船中ニ仕懸ケテ、船ヲ動カス事ヲ發明シテヨリ、世界ノ航海ヲシテ、遂ニ今日ノ如ク盛ンニナラシメマシタ

欧米諸國ニテハ、此ノ十八十九世紀ノ中ニ於テ、何ニ程ノ新發明ヲ為シ、又如何計リ學問ノ程度ヲ進メマシタカ、實ニ夥多シキ事ニシテ、枚挙ニ遑アラヌ事ト存ジマス、之ニ反シテ我カ日本徳川氏ノ昇平三百年間ニ於テ、何ニ一ツノ新發明ガアリマシタカ、何ニノ進歩ヲ為シマシタカ、此ノ一点ヲ論シ来レバ、我ガ日本人ハ、甚ダ智識腦力ノ乏シキモノ、如ク思ヒマス、否智識腦力ノ乏シキニアラズ、全ク智識腦力ヲ活用セザルニ由ル事ト思ヒマス、当時ハ幸ニ我ガ日本モ、多クノ外国船ヲ買ヒ入レ、又タ造船場モ出来マシタガ、是レヨリハ造船場ニテ、船ヲ造ルニ必要ナル、智識學問ノ講究所ガ、必用ニゴザリマス、是レハ只一ノ例証ニ申シタ迄デスガ、凡ソ一國ノ開明ヲ進メントナレバ、必

ラズ理学ナリ、化学ナリ、哲学ナリ、神学、文学、社会学、経済学、政事学、法律学等、諸学科ヲ講究シ得ベキ、大学ガナケレバナリマセン、又況ンヤ、大学ハ、学者芸人ヲ作り出スノミナラズ、実ニ一国ノ元氣トナリ、精神トナリ、又柱石トナリ得ベキ人物ヲ養成セネバナリマセヌ、本立而末生ス、開明ノ花ヲ望マバ、先ヅ開明ノ根ヲ培カヒ、文化ノ流レヲ汲ントナレバ、宜ク文化ノ源ニ遡ラネバナラヌ事ト存ジマス、方今我が日本人ハ、仏朗西ノ法律ヲ称賛シテ、之ヲ採用シマスガ、仏ノ法律学モ、決シテ一朝ニ進ンダ訳デナク我邦ニ於テ頼朝ガ覇府ヲ鎌倉ニ開キシ頃ヨリ、ハヤ、パリスニハ、大学ノ設ガアリマシテ、羅馬ノ法律ヲ講ジ出シマシタ、英国ニテハ、我が北条ノ時代ヨリ彼ノ有名ナル、オックスフォルドニ大学ノ基ヒヲ置キ、法学、哲学、理学ナドヲ講究シ出シ、独乙国ニテハ足利ノ時代ヨリ、続々大学ヲ設ケ初メ、今ハ已ニ、三十有余ノ宏大ナル大学ガアリマシテ、而シテ今ノ文運ノ隆盛ヲ来ラシムルノ基礎トナリマシタ、其外、伊太利亚ノ如キハ、欧洲中第二ノ強国ニ位スルモ、國中、已ニ十七箇ノ大学校ヲ有シ、其内二三ノ大学ノ如キハ、シカモ、二千人有余ノ書生ガオリマスル

米国ノ東部ナル、ニューヨークランドニ清教派ノ祖先ガ、移住シマシタハ、我が大坂落城六年ノ後デアリマスガ、其ノ開墾以來、十五年ヲ出デザル内ニ、早ヤ、ハーオールド大学ノ基ヲスヘ、青年ノ薰陶ニ尽力シマシタ、彼ノ米国人ガ独立自治ノ元氣ニ富ムモ、此ノ大学ノ如キハ、与テカラアリト申シテ可ナリト存ジマス

今ヤ我日本モ、維新以來其名ニ負カズ、事物日ニ新ニ、月ニ盛ニ徐ロニ春風モ吹キ来リ、文化ノ花モ将ニ綻ロビントシ、早ヤ、東雲告ル朝トナリ、赫々タル太陽ハ正ニ東天ニ昇ラントシ、僅々一年ヲ余シテ、国会開設ノ盛典ヲ觀ントスルノ時ト成リ来リマシタハ、此レ皇天ノ賜モノニシテ吾々ノ此ノ時代ニ遭逢スルハ実ニ、吾々ノ慶幸ト申スベシ、吾人ハ豈ニ皇天ノ賜ヲ空フスベケンヤ、皇天亦吾人ニ望ム所ロアラシカ

嗚呼襄ノ如キハ、才劣ニシテ学淺ク、邦家ノ為ニ竭スト公言スルモ、少シク心愧シフゴザイマスルガ、今ノ時世ト境遇トニ励マサレ、身ノ不肖ヲモ打忘レテ、此ノ大事業ナル、大学設立ノ一事ニ当ラントスルハ、甚ダ大胆ノ如クニ見ヘマスル、只私ニ於テハ、区々タル一分ヲ竭サントスルノ志シ、恰モ淺間ヶ獄ノ火噴黒烟ノ如ク、勃々トシテ起リ来リ日夜ニ自ラ制スル能ハザルニ苦ミ、遂ニ発シテ一場ノ演説トナリ、又一片ノ文章トナリ、汎ク天下ニ公言スルニ至リマシタ、是レ只タ外デハアリマセン、人民ノ手ニ依テ、宇宙ノ原理ヲ講究スベキ、私立一大学ヲ起シ、我カ邦家千百年ノ後ヲ計ラントスルニアリ、是レ襄ガ畢生ノ志願ニシテ、死シテモ、斃レテモ止マサル所ノ願望デコサリマス人或ハ問ン、東京ニ立派ナル帝国大学校ノアルノニ、爾ハ何ヲ苦ンデ又々大学ヲ起サントスルカト、余ハ之ニ答テ曰ン、抑一国民ノ教育ハ、人民ノ負担スベキモノニシテ、教育上ノ事ハ、何モカモ、政府ノ着手スベキモノニハ、非ズ、我ガ明治政府ノ東京ニ大学ヲ起セシハ、人民ニ率先シテ、其ノ模範ヲ示シタル事ナラン、想フニ将来、日本全国ノ大学ハ、政府ノ手ヲ以テ尽ク立ントスルニハ非ルベシ、察スルニ我カ政府モ亦吾々人民ニ望ム所ロアルカ、去レバ吾々モ宜シク坐視傍觀スベキ事デハアリマスマイ

夫レ教育ハ国ノ一大事ナリ、此ノ一大事ヲ吾人人民ガ、無頓着ニモ、無氣力ニモ、我ガ政府ノ御手ニノミ任セ置クハ、依頼心ノ尤モ甚シキモノ、又愛国心ノ尤モ甚ダ乏シキモノナラズヤ

我カ政府憂テ 人民憂ヘサルノ理アラシヤ

我カ政府勞シテ 人民勞セサルノ理アラシヤ

吾人ハ、イツマデモ小児デハナリマセン、宜シク振テ我カ本分義務ヲ尽サナケレバ、ナルマイト思ヒマス、是レ襄ノ熱心私立大学ヲ起サントスル以謂デゴザイマス



米國ノ如キハ、五千余万ノ人民アリテ、今已ニ三百五六十余ノ専門大学ヲ有シテ居リマス、我カ國モ三千八百余万ノ同胞ガアリマスル故ニ、タツターノ帝國大学ヲ以テ足レリトスル事ナク、第一ノ大学ハ官立ニ関ハリタレバ、願クハ第二第三ノ大学ニ至テハ、全ク民力ヲ以テ立テタキモノデゴザリマス

人又問ハン、何ゾ京都ヲ撰デ大学ヲ立ントスルヤト、答テ曰ン

関東已ニ一大学アリ関西モ亦一大学ナカルベカラズ

吾々が、関西ニ大学ヲ起サントスルノハ、少シク學術分権ノ意ナキニアラネトモ、地ヲ京都ニトシマシタノハ、地理其ノ宜キヲ得タルカラデアリマス、御覽ナサイ、京都ノ地ハ、山高ク、水清クシテ、恰モ仙境ノ如シ、青年ガ繁雜ノ世塵ヲ避ケテ、深ク學ビ、静カニ考フルニハ、尤モ可適ノ地ト云ハザルヲ得マセン、抑桓武天皇ガ、都ヲ此ノ地ニ遷シ給シモ蓋シ以謂アル哉

京都ハ古ヘヨリ、花ノ都ト称ヘラレ、祇園ヤ島原ノ遊廓アリ、嵐山ノ花見、鴨川ノ夕涼ナドアリテ、世間ヨリハ、何ントナク、怠惰人ガ閑日月ヲ徒消スル保養所ノ如クニ、見做サレマシタガ、近頃ノ府民ノ挙動ヲ見マスレバ、必ラズ遠カラズ、従前ノ体面ヲ一変スルデアラウト信ジマス、看ヨ看ヨ諸君、鴨川ノ東ニ於テ高キ煙筒ヨリ黒煙ノ立ちノボルハ、何ノ現象ゾ、諸会社ノ結合、諸銀行ノ設立アルハ、何ノ原因ゾヤ、西南ニハ淀川ノ利アリ、京坂鉄道ノ便アリ、東ニハ近江ノ太湖ノ水運アリ、北ニ長浜敦賀間鉄道ノ設ケアリ、又長浜ヨリ進デ、名古屋半田ニ達シ、直ニ汽船ニ連絡スルノ便アリ、殊ニ又関西鐵道会社ノ鐵道布設モ甚ダ遠キニアラサレバ、東海道鐵道ト連絡スルノ日来ラバ、ドオデシヨウ、且ヤ亦タ吾人ガ最モ注意スル所ノ疏水工事ノ如キ大谷山ヲ打抜キ、東山ヲ通シテ、太湖ノ水ヲ疏通セシムルノ日ニ、ナリマシタナラバ、鴨川ノ東ハ巍然タル、大工場、大製造場トナルハ、吾々ノ疑ヲ容レザル所デアリマ



ス、最早府下ノ紳商諸君ガ、其ノ資財ヲ活用シテ、大運動ヲ試ミルノ時機到来セリト云テ、宜シカラウト存ジマス、諸君ヨクフ、

#### 花ノ都ヲ一変シテ

#### 製造ノ都ト為セ

#### 遊惰ノ都ヲ一変シテ

#### 勉強ノ都ト為セ

願クハ旧帝都ノ地ニ、民力ヲ以テ、一ノ大学ヲ立テラレヨ、京都已ニ其ノ地理ヲ得タリ、是亦天ノ賜モノナラズヤ、吾人地理ヲ占メ、又時機ヲ得タリ、是亦天ノ賜モノナラズヤ、吾人地理ヲ占メ、又時機ヲ得タリ、此上要スル所ロハ、吾人ノ同心協力ナリ、吾人若シ幸ヒニ、天ノ時、地ノ理、人ノ和ヲ得バ、天下豈何事カ成ラサラン

往昔シラキユースノ戦ニ、陣中弓矢ノ不足ヲ告ゲタレバ、市中ノ婦女子ハ、尽ク頭髮ヲ切ツテ弓弦ト為シタト申シマス、又魯國ノ婦女子ハ、土方トナリテ砲台ヲ築キ、米國ノミシガン州ニ大学ヲ起サントスル企テアリシトキ、一農夫ハ己レノ田地ヲ抵当トナシテ借金シ、其ノ大学ニ寄附シタト云ヒマス、此レハ己レノ子孫ガ就學ノ便ヲ得ル事ヲ喜ブノアマリ、己レヲ忘レテ為シタル事ト思ヒマス

今ヲ去ル事十五年前余ガ米國ヲ辞シ去ラントスルトキ、一ノ大会ニ臨ミ、告別ノ演説ヲ為シタ事ガアリマスガ、其時我日本ニモ、ドウカシテ一大学ヲ建設シタシト陳ベタレバ、聴衆中ヨリ起ツテ一千弗寄附ノ約束ヲ為セシモノ三人アリ、続テ五百、三百、二百、一百弗等即坐ニ寄附金ノ約束ヲ致シ呉レ、僅カ十分間ヲ出デザル内、五千弗ノ金額ニ達シマシタ、是ニ於テ余ハ深ク彼等ノ好意ヲ謝シテ別レヲ告ゲ、演壇ヨリ下ラウトスルトキ、一老農夫ガ、来リテ余ニ二弗ヲ与ヘテ曰ク、此ノ二弗ハ予ガ汽車賃ニ当ツルノ用意ナリ、去レトモ、予尚ホ健足ナレバ、徒步シテ村ニ帰ラン、乞フ此ノ二弗ヲ受ケテ、大學設立費用ノ一端ニ加ヘヨト、又別ニ一人ノ老寡婦ハ、此ノ大会ノ終リシアトデ、同

クニ弗ヲ寄附シテ曰ク、此ノ少金ハ寡婦ガ教育上ノ寸志ト思ヒ受ケ呉レヨト、嗚呼前者ト云ヒ、後者ト云ヒ、余ハ寔ニ兩人ノ志シハ、五千弗ヲ寄附シタル人ニ劣ル事ナシト感喜之ヲ受ケテ帰朝致シマシタ

斯ノ如ク今ノ同志社英学校ノ設立ハ、外国人ノ寄附金ニ関ハリマシタ、今吾人ノ計画スル所ノ大学ハ、願クハ、本邦人ノ力ヲ以テ立テタキモノデ、ゴザリマス、余ハ明治十七年以來此ノ大学ノ計画ヲ為シ初メ、先ヅ其ノ基礎ヲ置ンニハ、少クトモ七万円ノ金ヲ要スベシト申シマシタガ、爾來金利ノ相違スル所ヨリ、今ハ少クトモ拾万円以上ヲ要サネバナラス事ニ成リ来リマシタレバ、願クハ府下ノ紳士諸彦ニハ、其ノ拾万円中、幾分カラ負担シ賜ハラバ、余ハ是レヨリ東京、大阪、神戸、滋賀ヲ初メ、全天下ニ訴ヘ、全国民ノ力ヲ借リテ此ノ大学ヲ起サント望ミマスル幸ニ此ノ挙ヲ賛成セラレタル、理事委員諸君ヨ、府下ノ紳士諸君ヨ、大阪神戸ヨリ臨場セラレタル來賓諸君ヨ、此ノ大学ノ挙ハ区々タル、一個人ノ事ニアラズ、又タ一地方ノ仕事ニモアラズ、又タ決テ耶蘇教擴張ノ手段ニモアラズ、實ニ我カ国民ノ文化ノ境遇ニ進ミ、最大幸福ヲ得ルト、否トニ関ハル、一大事件ナリ、國ノ盛衰興亡ニ関ハル一大事件ナリ、即チ全国民ノ一大仕事ナリ、満場ノ來賓諸君ヨ、願クハ此ノ挙ヲ吾ガ物トナシテ、之ヲ成就セシメ、長ク邦家ノ基礎トナシ、千百年ノ為ニ計ラレン事ヲ、裏ノ諸君ニ向ヒ、熱望シ止マザル所デアリマス

『國民之友』第二十二号・明治二十一年五月十八日

## 30 同志社大学設立の旨意

吾人が私立大学を設立せんと欲したるは一日に非ず、而して之れが爲めに經營辛苦を費したるも亦た一日に非らず、今まや計画略は熟し、時期漸く来らんとす、吾人は今日に於て、此を全天下に訴へ、全国民の力を藉り、其の計画を成就せずんば、再び其時期無きを信ず、是れ吾人が従来計画したる所の顛末を陳し、併せて之れを設立する所の目的を告白するの止む可らざる所以なり

回顧すれば既に二十余年前、幕政の末路、外交切迫して人心動揺するの時に際し、余不肖海外遊学の志を抱き、脱藩して函館に赴き、遂に元治元年六月十四日の夜、竊かに国禁を犯し、米国商船に搭し、水夫となりて労役に服する凡そ一年間、漸く米国ボストン府に達したりき、幸にして彼国義侠なる人士の助けを得て、アーモスト大学に入り、続いて又たアンドヴァ神学校に学び、前後十余年の苦学を積めり、而して米国文物制度の盛なるを觀、其大人君子に接し、其議論を叩き、茲に於て米国文明の決して一朝偶然にして生したる者に非ず、必ず由て来る所の者あるを知る、而して其来る所の者、偏へに一国教化の敦きより生ずるを察し、始めて教育の国運の消長に大關係あるを信し、心竊かに一身を教育の事業に擲んことを決したりき

明治四年、故岩倉特命全權大使等の米国に航せられしや、文部理事官田中不二麿君は、欧米諸国教育の状況を取調べの爲め其一行中にありき、時に余アンドヴァに在て勤学せしが、徴されて文部理事官随行の命を蒙り、理事官と共に北米中著名の大中小学校を巡視し、更に歐洲に赴き、独逸、仏蘭西、英蘭、瑞西、阿蘭陀、丁抹、露西亞等の諸国を

經歷し、学校の組織、教育の制度等を始めとし、凡そ学制に關する者は、聊か之れを觀察講究するを得、茲に於て愈よ欧米文明の基礎は、国民の教化に在ることを確信し、而して我邦をして欧米文明の諸国と対立せしめんと欲せば、独り其外形物質上の文明を模倣するに止まらず、必ず其根本に向つて力を尽さざる可からざるを信し、不肖を顧みず、他日我邦に帰らば、必ず一の私立大学を設立し、以て我が国家の爲めに微力を竭さんことを誓ひたりき

明治七年、余が米国より帰朝するに際し、適ま北米合衆国外国伝道会社の集会ありき、米国の紳士貴女、会する者三千余名、余の友人にして此会に集る者頗る多きにより、諸友余を要して臨会せしめ、且つ訣別の辞を求めらる、此に於て始めて平生の宿志を開陳して曰く、今まや我が日本は、社会の秩序破れ、紀綱乱れ、人心帰着する所を知らず、今日に於て、我か日本に文化の美光を来さんと欲せば、宜しく欧米文化の大本たる教育に力を用ひざる可からず、願ふに我か同胞三千余万、将来の安危禍福は、独り政治の改良に存せず、独り物質的文明の進歩に存せず、實に専ら国民教化の力にあるを信す、陳して此処に到り、余ハ覚へす涙を飲み、更に一步を進めて曰く、故に余若し我邦に帰りたらば、誓つて此の事業に向つて微力を尽さんことを欲す、満場の諸君余か赤心を看取し、幸に翼賛する所なき乎と、語未た尽きざるに忽ち満場の紳士貴女の激讚する所となり、即席に数千円の義捐金を得、茲に於て明治七年の末、胸中一片の宿志を齎らし、十余年来夢寐の間に髣髴たる我か本国に帰着せり

明治八年一月、大坂に於て、適ま故内閣顧問木戸孝允君に謁し、君に向つて平生の宿志を吐露せしに君深く之を称賛し、専ら政府の間に斡旋し、余が志を貫徹するに力を藉され、前きの文部大輔田中不二麿君、前きの京都府知事榎村正直君亦た賛助せらるゝ所あり、遂に山本覚馬氏と結社し、明治八年十一月廿九日、私塾開業の公許を得、直ちに同志社英学校を設立したり、是れ即ち現今同志社の設立したる創始なり

斯くの如くにして同志社へ設立したり、然れども其目的とする所へ、独り普通の英学を教授するのみならず、其徳性を涵養し、其品行を高尚ならしめ、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂る良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき、而して斯くの如き教育へ、決して一方に偏したる智育にて達し得可き者に非ず、又た既に人心を支配するの能力を失ふたる儒教主義の能くす可き所に非ず、唯た上帝を信し、真理を愛し、人情を敦くする基督教主義の道徳に存することを信し、基督教主義を以て徳育の基本と爲せり、吾人が世の教育家と其趣を異にしたるも茲に在り、而して同志社が数年荊棘の下に埋没したるも亦た茲に在り此時に際して、吾人の境遇へ実に憐れむ可き者にてありしなり、茫々たる天下実に一人の朋友なき有様にてありしなり、基督教主義の徳育へ、独り愚民の爲めに嫌惡せらるゝのみならず、又た世上の大人君子よりも非常なる冷遇を蒙りしなり、然れども吾人同志者へ、真理へ最後の戦勝者なるを信し、互ひに相助け、相勵まし、着実に、穩当に、堅確に、余念なく吾人が志す所の者を実行し来りしに、幸にして天下の輿論へ一変し、躬親から基督教を信ぜざる人にて、基督教へ実に一国の道徳を維持する勢力あることを識認し、天下の輿論基督教を賛成するの勢ひとなり、又た一方に於てハ同志社教育の実効漸く頭はれ、其教育の懇篤にして親切なる、其学校の徳育智育二つながら並行して、決して偏僻なる教育に陥らざるの事は、漸く世上の識認する所となり、同志社は実に書生を托するに足るの学校なりとの信用漸く世上に行はれ、十四五年の頃ひに至つては、学校の規模漸く大に、入学の子弟漸く多く、業を卒はる者漸く増し、学科の程度漸く高きに進み、而して中には父兄をして独り普通科のみならず、其上に専門科を加へんことを請求する者あるに至らしめたり、是に於て吾人が宿志たる私立大学の基礎漸く成れりと云ふも、敢て誇張の言に非ざる可し



然りと雖も私立大学は、実に大事業なり、之れを設立するには、多くの人を要するなり、多くの金を要するなり、吾人は誰れに向つて此志を談し、誰れと共に此事を行はんや、幸ひにして或る部分の人の信用を得たりと雖も、吾人が当時の有様は全く孤立にてありしなり、然れども黙して止む可きに非ざれば、此時より同志相議し、頻りに同感の士を天下に求めたりき、而して各地往々其賛成を得たるを以て、遂に明治十七年四月、始めて京都府會議員を招待し、数回の演説を為し、私立大学創立の目的を發言し、其重立たる人々の賛成を得、茲に於て明治専門學校設立の旨趣と題し、大学創立の目的を記したる小冊子<sup>\*</sup>を發行して、賛成を天下に求めたり、是れ私立大学設立の第一着手にてありしなり

幸ひにして此企ては天下諸名士の賛成を得たるに拘はらず、當時天下一般の不景氣に際し、賛成者あれども、寄附者なく、寄附金の約束あれども、納金なく、吾人の企ても殆んど中止の有様にてありしなり、而して余は此間再び海外に航し、同志社大学設立の事業は、同志諸氏に托し、此間唯た徐々其歩を進め、別に差したる程の事あらざりしなり、之れを要するに十七年六月より二十一年四月迄、該校設立の爲めに集りたる金高は、其約束と納金とを合せて、殆んど壹万円に達したり、而して其大いに力を大学設立の事に尽せしは、実に本年にてありとす

本年は実に吾人が計画に取つて幸福なる年にてありつるなり、本年四月、西京に於ては、智恩院にて一大會を開き、<sup>\*</sup>六百五十六拾名の京都府下諸紳士を招き、私立大学の設立の賛成を得んことを求め、而して北垣京都府知事の如きも、熱心此挙を賛成せられ、自から賛成し、併せて府民の賛成せんことを求むるの演説を為され、爾來京都俱樂部に於て、理事委員會を開き、今まや既に資金を募集し居れり、其金高は未だ明白ならざるも、思ふに京都府民の諸君は、必ず吾人が希望を空しくせざる可しと確信す

京都に於て斯くの如く着手するに際し、東京に於ても亦た聊か着手したる所の者なきに非ず、本年四月、余出京し、大隈伯、井上伯、青木子等に見へ、宿志を開陳し、大いに其賛成を得たり、殊に大隈伯、井上伯の如きは、本年親しく同志社英学校を実視せられ、親しく其学校の模様を閲覧せられ、大いに其成績を称賛せられ、従つて其位置を進めて専門科を設くる事に就ては、一層吾人が志を翼賛せられたり、加之余は京浜の紳商諸氏に向つて平素の宿志を陳したりしに、幸にして彼の紳商諸氏も、大いに之れを賛成せられ、遂に東京に於て本年四月より本月に到る迄、左記の如き寄附金額を得たり

千円 大隈伯 三千円 岩崎 久弥君

千円 井上伯 二千五百円 平沼八太郎君

五百円 青木子 二千円 大倉喜八郎君

六千円 渋沢 栄一君 二千円 益田 孝君

六千円 原 六郎君 二千円 田中 平八君

五千円 岩崎弥之助君

而して後藤伯、勝伯、榎本子の如きも、皆な吾人が志を翼賛せられ、未だ其金額は確定せられざれども、必ず多少の寄附金を為す可しと吾人に向つて約せら〔れ〕たり、且つ又た本年五月、米国の朋友よりして、五万弗の寄附金を申し込み、又た本年八月、米国の一友よりして更に壹万弗の寄附金を申し込まれたり、茲に於て吾人が二十余年來の宿望今日に至りて漸く内外の賛成を得、將に達せんとするの緒に就けり、吾人は今日に於て天下同感の人士に訴へ、此の計画をして一步を転ぜしめずんば、再び其期なきを信す、今まや我邦朝野の重なる政治家中に於て、井上伯の如



き、大隈伯の如き、後藤伯の如き、勝伯の如き、榎本子の如き、青木子の如き、皆な吾人が志を翼賛せられ、之れがために周旋の勞を厭はれず、其他各地の紳士紳商に至つても、之れがために資金を投し、之れがために周旋の勞を執るゝ者、今や漸く多きを加へんとす、然りと雖も大学設立の事業ハ、実に一大事業也、全国民の賛成を仰ぎ、全国民の力を藉らずんば、其成就実に覺束なきなり、是れ吾人が今日に於て沈黙する能はざる所以なり

翻つて現今同志社の位置を察すれば、吾人が企ての決して架空の望みに非ざるを知る可し、今や同志社ハ社員を増加し、通則を設け、其学政の上に於て、不朽の基を定めたり、而して本社に属する諸学校ハ、同志社英学校、同志社神学校、同志社予備校、同志社女学校、別に一個の病院あり、之れに附属する看病婦学校あり、其詳細の統計ハ、左の一表を見て明白なる可し

而して現今同志社英学校の位置を挙げて高等中学同様に為すは、既に一年を出ざる可し、今や我か同志社は斯くの如き位置に達せり、今日に於て此の普通学科の上に専門学科を設くるは、是れ実に止むを得ざるの勢ひなり、是れ実に避く可からざるの勢ひなり、今日は最早大学を設立せざる可からざるの場合に達したりと謂ふ可し、大学は学問の仕上げ場なり、既に普通の学科を修めて余力ある者は、必ず茲に学ばざる可からず、大学は教育の制度に於て、絶頂の位置を占むる者なり、今や同志社は既に高尚なる普通科を教ゆるの学校となれり、之れに加ふるに専門学科を以てせざるは、所謂の九仞の功、一簣に欠くるなり、然らば則ち同志社今日の位地は実に私立大学を設立するの時期に迫りたりと云ふ可し

吾人は以上に於て、私立大学を設くるの顛末を陳したり、是れよりして聊か吾人が目的とする所を陳せんと欲す、吾人は教育の事業を挙げて、悉く皆政府の手に一任するの甚た得策なるを信ぜず、苟も国民たる者が、自家の子弟を教

## 同志社諸学校統計表

(明治廿一年十月一日)

種別	種名	同志社	英学校	予備校	神学校	女学校	学看病校	病院	合計
創立年	明治八年二月	同上	明治廿年九月	明治九年三月	明治十年四月	明治廿年八月	同上	同上	
現在位置	京都上京区同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
社員現数	九	十七	一	一	一三	一三	一	一	九人
教授現員	九	九	一	一	一	一	一	一	九人
外国教師	九	九	一	一	一	一	一	一	九人
同女教師	八	八	一	一	一	一	一	一	八人
内国教師	八	八	一	一	一	一	一	一	八人
同女教師	八	八	一	一	一	一	一	一	八人
助教現員	六	六	一	一	一	一	一	一	六人
生徒現員	四二六	四二六	二〇三	八一	一七六	一三	一	一	二三人
一ヶ年収入高	七五七五	二二〇一	一三	一七六	一三	一三	一	一	八九九人
創立以来入学生	一一一四	四九四	一〇八	一七六	一三	一三	一	一	一四五三八円
同卒業生	八〇	一〇八	五七	二八七	二一	一七	四	一	二〇四一人
所蔵書籍部数	三五六〇	一〇八	五七	二一	二一	一七	四	一	二七〇人
財產高	一二八六三	一二七二	一二九	五五八一	七七五	一〇六一	二二五	一	一四一六八五円
所有地坪数	九三六	一二七二	一二九	五五八一	七七五	一〇六一	二二五	一	二一四五三坪
同建物坪数	一	一	一	一	一	一	一	一	二〇七三坪
書籍館	一	一	一	一	一	一	一	一	一ヶ所
講義堂	二	二	二	二	二	二	二	二	九ヶ所
演說堂	一	一	一	一	一	一	一	一	二ヶ所
礼拝堂	一	一	一	一	一	一	一	一	二ヶ所
寄宿寮	一	一	一	一	一	一	一	一	一七ヶ所
食堂	一	一	一	一	一	一	一	一	三ヶ所
事務局	一	一	一	一	一	一	一	一	二ヶ所

育するは、是れ国民の義務にして、決して避く可き者に非ざるを信ず、而して国民が自から手を教育の事に下して、之を為す時に於ては、独り其国民たるの義務を達するのみならず、其仕事は懇切に、廉価に、活潑に、周到に行き届くは、我れ自から我事を為すの原則に於て決して疑ふ可きことに非ず、我が同志社は不肖なりと雖も、今日迄斯くの如くにして接続し来れり、若し幸に天下同感人士の賛成を得ば、愈よ斯くの如くにして之を拡めんと欲するなり、吾人は日本の高等教育に於て、唯た一の帝国大学に依頼して止むべき者に非ざるを信ず、思ふに我が政府が帝国大学を設立したる所以んは、人民に率先して其模範を示したる事ならん、思ふに日本帝国の大学は、悉く政府の手に於て設立せんとするに非ざる可し、吾人は豈に今日に於て傍觀坐視するを得んや、吾人は政府の手に於て設立したる大学の実に有益なるを疑はず、然れども人民の手に抛つて設立する大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信ず、素より資金の高より云ひ、制度の完備したる所より云へば、私立は官立に比較し得可き者に非ざる可し、然れども其生徒の独自一己の気象を發揮し、自治自立の人民を養成するに至つては、是れ私立大学特性の長所たるを信ぜずんば非ず

教育は實に一国の一大事業なり、此一大事業を国民が無頓着にも、無氣力にも、唯政府の手にのみ任せ置くは、依頼心の最も甚たしき者にして、吾人が実に浩嘆止む能はざる所なり、凡一国文化の源となる者は、決して一朝一夕に生したる者に非ず、米国の如きは清教徒が寂寞人なく、風吼へ、濤怒る、大西洋の海岸に移住してより十五年を出でざるに、早やハーワード大学の基を明けり、而して今日に至つては、其学校の教員一百拾人、書籍拾三万四千巻、其資金は一千四百八拾五万四千三百七拾貳弗に達せりと云ふ、思ふに米国人が自治の元氣に富むも、豈に此の大学の如き者、関りて力なしとせんや、独逸の如きは我邦足利の時代より続々と大学を設け始め、今は既に三十有余の広大な

る大学あり、伊太利の如きも既に十七個の大学を有せり、而して我邦に於ては、唯一の政府の手に依頼して建てたる帝国大学あるに止まるは、国民教化の目的に於て欠乏する所なきか、国民が教育に注意するの精神に於て欠乏する所無きか、国家将来の命運を慮るに於て欠乏する所無きか、是れ吾人が不肖を顧みず、我邦に私立大学を設立せんと欲する所以なり

教育とハ人の能力を發達せしむるのみに止まらず、総へての能力を円満に發達せしむることを期せざる可からず、如何に學術技芸に長したりとも、其人物にして、薄志弱行の人たらば、決して一国の命運を負担す可き人物と云ふ可からず、若し教育の主義にして其正鵠を誤り、一国の青年を導いて、偏僻の模型中に入れ、偏僻の人物を養成するが如き事あらば、是れ実に教育は一国を禍ひする者と謂はざる可からず

今まや我邦に於ては、欧米の文化を輸入するに際し、独り物質上の文明を輸入し、理論上の文明を輸入し、衣食住を輸入し、鐵道を輸入し、蒸氣船を輸入し、法律を輸入し、制度を輸入し、文学科学の思想を輸入し来たりと雖も、要するに其の文明の由つて来る大本大体に至つては、未だ着手する所の者あらざるが如し、故に人心自から帰向する所を失ひ、唯た智を翫ひ、能を挟み、芸を銜して世を渡らんとするに至り、而して此の弊風を矯めんと欲する者無きに非ざれども、唯た国民文弱の氣風を矯むるに汲々とし、所謂る角を矯めて牛を殺し、枝を析いて幹を枯すが如く、文明の弊風を矯めんと欲して、却つて教育の目的は、人為脅迫的に陥り、天真爛漫として、自由の内自から秩序を得、不羈の内自から裁制あり、即ち独自一己の見識を備へ、仰いて天に愧ず、俯して地に愧ず、自から自個の手腕を勞して、自個の運命を作為するが如き人物を教養するに至つては、聊か欠くる所の者なきにあらず、是れ実に吾人が遺憾とする所なり



吾人の見る所を以てすれば、歐洲文明の現象繁多なりと雖も、概して之れを論すれば、基督教の文明にして、基督教の主義へ、血液の如く、万事万物に皆な注入せざるはなし、而して我邦に於ては、唯た外形の文明を取つて之れを取らざるへ、是れ猶ほ皮肉を取つて血液を遺す者に非ずや、今まや我邦の青年へ、皆な泰西の文学を修め、泰西の科学を修め、我邦を扶植する第二の国民とならんとせり、然れども其教育たるや、帰着する所なく、皆な其岐路に彷徨する者あるに似たり、吾人へ之れを見て、実に我邦将来の為に浩歎に堪へざる者あり、吾人の不肖決して為す所なしと雖も、皇天若し吾人に幸ひを下し、世上の君子、吾人が志を助くることあらば、吾人不肖と雖も、必ず今日に於て此の不肖を忘れ、此の大任に当らんと欲す、之れを要するに吾人は敢て科学文学の智識を学習せしむるに止まらず、之れを学習せしむるに加へて、更に是等の智識を運用するの品行と精神とを養成せんことを希望するなり、而して斯くの如き品行と精神とを養成するへ、決して区々たる理論、区々たる檢束法の能く為す所に非ず、実に活ける力ある基督教主義に非ざれば、能はざるを信す、是れ基督教主義を以て、我か同志社大学徳育の基本と為す所以ん、而して此の教育を施さんが為めに、同志社大学を設立せんと欲する所以んなり

吾人の目的斯くの如し、若し夫れ此事を目して基督教拡張の手段なり、伝道師養成の目的と云ふ者は、未だ吾人が心事を知らざる人なり、吾人が志す所の者、尚ほ其上に在るなり、吾人は基督教を拡張せんが為めに大学校を設立するに非ず、唯た基督教主義は、実に我か青年の精神と品行とを陶冶する活力あることを信し、此の主義を以て教育に適用し、更に此の主義を以て品行を陶冶する人物を養成せんと欲するのみ、故に吾人が先づ将来に於て設けんとする大学専門の学科は、現今同志社に在る神学科の外に於て、政事、経済、哲学、文学、法学等に在り、若し是等の諸学科を一時に設置すること能はずんば、漸次に其最も実行し得易き者よりして設置せんと欲す、吾人が目的とする所の者

は、既に以上に明言したる所の者なり、去れば此の大学なる者は、決して宗教の機関にも非ず、又た政事の機関にも非ず、況や一地方、一党派の人の能く為す可き所の者に非ざるや素より論を俟ず

故に吾人は敢て吾人が赤心を開陳して、全天下に訴へ、全国民の力を藉り、以て吾人年来の宿志を達せんと欲す、勿論此の大学よりしては、或は政党に加入する者もあらん、或は農工商の業に従事する者もあらん、或は宗教の爲めに働く者もあらん、或は学者となる者もあらん、官吏となる者もあらん、其成就する所の者は、千差万別にして、敢て予じめ定む可からずと雖も、是等の人々ハ皆な一国の精神となり、元氣となり、柱石となる所の人々にして、即ち是等の人々を養成するハ、實に同志社大学を設立する所以の目的なりとす

一国を維持するは、決して二三英雄の力に非ず、實に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざる可からず、是等の人民ハ一国の良心とも謂ふ可き人々なり、而して吾人ハ即ち此の一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す、吾人が目的とする所實に斯くの如し、諺さに曰く、一年の謀ことハ穀を植ゆるに在り、十年の謀ことハ木を植ゆるに在り、百年の謀ことハ人を植ゆるに在りと、蓋し我か大学設立の如きハ、實に一国百年の大計よりして止む可からざる事業なり、今まや二十三年も既に近きに迫まり、我邦に於てハ、未曾有の国会を開き、我か人民に於てハ、未曾有の政權を分配せらる、是れ實に我邦不朽の盛事なり、而して苟も立憲政体を百年に維持せんと欲せば、決して区々たる法律制度の上にのみ依頼す可き者に非ず、其人民が立憲政体の下に生活し得る資格を養成せざる可らず、而して立憲政体を維持するハ、智識あり、品行あり、自から立ち、自から治むるの人民たらざれば能はず、果して然らば今日に於て、此の大学を設立するハ、實に國家百年の大計に非ざるなきを得んや

吾人が宿志實に斯くの如し、其志す所を以て之れを我身に願れば、恰も斧を磨して針を造るの事に類する者なきに非



す、余の如きは実に力微にして学浅く、我が国家の爲めに力を竭すと公言するも、内聊か愧る所無きに非ず、然れども二十年來の宿志は、黙して止む可きに非ず、我邦の時務は黙して止む可きに非ず、又た知己朋友の翼賛は黙して止む可きに非ず、故に今日の時勢と境遇とに励まされ、一身の不肖をも打忘れ、余か畢生の志願たる、此の一大事業たる、大学設立の爲めに、一身を挙げて当らんとす、願くは皇天吾人が志を好し、願くは世上の君子吾人が志を助け、吾人が志を成就するを得せしめよ

明治廿一年十一月

同志社大学發起人

新島 襄

京都寺町通丸太町上

〔明治二十一年十一月・活版〕\*

31 〔同志社大学設立募金演説稿〕

大坂ノ将来ハ実ニ頼母數面白キ一大修羅場ト云ハサルベカラス、カ、ル商業上政事上ノ中心ノ地利ヲ得ツ、アレハ、願クハ諸君ニモ只今ノ現情ヲ以テ満足セラレス、内国ノ商業政事上ニ着目スルヲ以テ満足セス、弥進テ大坂ハ外人ノ其ノ伎倆ヲ試ムル場所トナルヘシ（英ノ○マンチエストル○バルミンハム 米国ノボストン、フィラテルフィヤノ如シ）外人ト其鋒ヲ争フニハ外国ノ実況モ知ラサルベカ〔ラ〕ス、茲ニ至リテ此近傍ニ「京都ニオクハ却テ得策ナリ、大坂ハ学校ノ地ニアラス」大学ヲ備ヘ置クハ、諸君カ将来ノ運動ヲ為ス為ニ其資本貯蓄スルカ如シ、将来ノ大運動ハツマリ人物ニアリ、只今人物ヲ送り出事ヲ用意スルハ実ニ欠〔ベ〕カラサル一大要件テハアルマイカト存シマスル只今ハ趣旨ハ天下ノ人士ニ義捐シ呉レト注文致シ〔マ〕スルカ、此レハ実ハ義捐ニアラス、義捐ト申セハ去テ返ラサルノ性質アレトモ、大学ノ企ノ如キハ将来社会ニ必要ノ人物ヲ送スヘキ計画ノアルアレハ、義捐ニアラ〔ズ〕シテ義蓄資本ト云ハサルベカラス、只今諸君ノ御奮発ニヨリテ一ノ大学ヲ起スヲ得ハ、将来東洋ノグラットストーン、ジョンブライトヲ送り出スモ知ルベカラス

○大坂

伊太利亚ノ二千人

ネーブル、ローマ  
フロレンス ピーサ  
チューリン ミラン

諸会社ヨリ生スル利潤ハ直接ノ利子ナルモ、此ノ人物ヲ生ミ出スノ利益ハ即チ間接ノ利子ト云ハサルベカラス、之ヲ義捐シテ之ヲ消費シ、去テ返ラサルノ類ニアラス、早晚五十年百年否千年ノ後ニ、幾百万ニモ替ヘキ所ノ人物カ出テ我カ国家ヲ利スルノ日アラハ、諸君ノ今日義捐セラル、金円ハ義捐ノ名義ヲ一変シテ義蓄ノ資金ト初〔テ〕云ハサルヘカラス、近ク少サク之ヲ譬フレハ、一家ノ親ナルモノカ其子供ノ為ニ教育費ヲ貯蓄スルナリ、差少ノ元手ヲ入テ教育ヲ加ヘタルハ、其ノ子供カ立派ナル人物ト成レハ、消費シタル教育費ノ幾十倍幾百倍モ価ノアル生ケル資本ヲ得タルト云ベシ、此生ケル資本カ其ノ手ヨリ生ミ出ス所ノモノハ、巨万ノ金円カ、将タ邦家社会ノ進歩カ、国政ノ改良カ、学理上ノ発見カ、新機械ノ発明カ、実ニ金錢ヲ以テ価ヒスヘカラ〔ザ〕ル程ノ材料ヲ社会ニ附与スルモ難計ケレハ、諸君ニ希クハ義捐ヲ以テ捐テ、返ラサルモノト認メラレス、早晚幾十倍幾百倍ノ利潤ヲ以テ諸君ノ愛セラル此ノ日本社会ニ返却スルモノト見ナシ賜ヒ、奮テ此挙ヲハ助アレ

〔義捐者ニ対スル義務トシテモ〕

〔狹隘偏頗ノ仕事ハ出来ス〕

此ノ義蓄ノ株主諸君ニ対スルノ義務ヲ竭シ、其要求ニ応シ其目的ニ適スルノ準備ヲ成シ上ネハナラス、生等ノ望ム所ハ、即チ初ヨリ其ノ規模ヲ大ニシ漸々諸学科ヲ設ケ人間學術ノ奥蘊ヲ講シ、之ヲ深山大沢ノ如クナ〔サ〕シメ、我カ国家ニヨリ実ニ龍蛇トナルヘキ度量ノ大キ、力量ノ大イナル人物ヲ輩出セシメン事也

〔宇宙元理ノ原因ヲ究〕

是非□トモ偏頗狹隘ナラシメス寛大ナルモノトナシ、深山大沢生龍蛇ト云テ、希クハ之ヲ深山大沢ノ如キモノトナ

シ、今ヤ国会開設モ近キニアリ、外人ノ内地雜居モ遠カラサルベシ、此ノ大坂市ノ如キハ関西ノ大都會ニアレハ、実政事上又ハ商業上ノ中心トナラサルヲ得ス、此ノ如キ天然ノ良地位即真ニ地ノ利ヲ得タレハ地利ヲ活用セヨ、文明世界ニ知ラル、大学トナリ度

昨年来天下ニ広告ス、教育ノ必要ハ諸君ノ知ル所○吾人ハ実ニ教育ヲ以て完全ナル人物ヲ、智徳兼備ノ人物、六尺ノ孤ヲ托シ百里ノ命ヲ寄セシ槌ナル人物、社会ノ柱石、一国ノ運命トナルヘキ人物ヲ養成シ度キモノテアル、弊校学校ノ如キ、世評ニヨレハ只説教家計ヲ出ス学校、社会ニ立テ社会ノ為ニ尽ス実業家ハ出サスト、其レ或ハ然ン、当時普通学部ニ神学専門、普通学部ノ人ハ未タ世ニ出ス、神学部ハ伝道者ナリ、学校力只一専門学部ニ止マレハ自然狹隘ニ陥ルノ弊ナキ能ハス、ツマリ大学ノ計画アリシハ即チ致富<sup>(カ)</sup>ノ元理、社会ノ通則ヲ学ハシメン為ナリ

〔明治二十二年頃・草稿〕

32 「同志社大学の設立について」

本日諸君ノ来会ヲ謝ス

向來日本ヲ如何

吾人宜シク応分ノ力ヲ尽スベシ

維新以來ノ進歩

進ムヘ「ク」シテ退ヘカラス

形体上ヨリ無形体上ニ進ム

〔医術 砲術 窮理 機械 政事 法律 經濟 哲学 宗教〕

全体文明ト申セハ形体無形体ノ兩分ヲ含蓄ス

文明ノ目的ヲ達スルニ、一方ニ偏シ一分ニ安〔ズ〕ヘカラス

学者智者ハ一方ニ偏ス・道德家ハ一方ニ偏ス

智識道德兩立セサルベカラス

〔十年間〕當時智者、物ノ知リ乏シキニアラス、往々財ヲ失ヒ身ヲ敗リ少シモ國ノ財産ヲ益増セス  
〔多クハ濫費スルニアリ學問ヲ誤マル（學問ハ無益トスベカラス）〕

今日ハ歐米諸國ノ交際ヲ為ス（學術ト信用トヲ要ス）

○茶ノ事      ○米國ノ入用

○糸ノ事      ○伊ノ製糸ヲ起ルヘシ<sup>〔イタリヤ〕</sup>

○陶器ノコト ○仏ノゼーベル<sup>〔ベルギー〕</sup>

毛オリ    カナキヌ（オルボル）      米國日本風ノセト

信用力必要    信用ハ規則ニテク、ル

信用ハ規則ニ縛束スヘキモノニアラス

六尺ノ孤ヲ托<sup>〔カ〕</sup>、百里ノ命ヲ寄スベシ

智識ト信用トヲ以今日ノ社会ヲ組織セサルベカラス

取リモ直サス西洋風社会ヲ組織セサ〔ル〕ベカラス

○西洋ヲ取ルハ彼ヲ知ルナリ、又文明ノ域ニ進ムナリ、西洋風ヲ取ラサレハ依然野蕃ノ民タルヲ免カレス  
昔時

歐洲宗教ノ時代    文明ノ精神著シク進歩ヲ見タリ

（學術ノ時代    仏ノ大学    英ノ大学    仏ノ大学

コロンボスノ米國發見    宗教ノ大革命    グリーキ學

蒸氣ノ發明    電氣ノ發明

蒸氣船、蒸氣車、機械、製造場等

○形体的    精神の上ノ進歩



予ハ多年米国ニアリ、又歐洲ヲ遊覧シテ、尤羨キハ諸国ノ大学設置ノコトナリ

同志社設立ノ始末

普通科 予備科 専門科。

○（人物）国ノ干城柱石トナル人物ヲ養成センコトヲ望ム

京都府ノ有志家ヘ計ル 〔洋行留守

歳月人ヲ待タス 〕商況不振

二十三年ハ近キニアリ

○英国スコットランド

〔エジンボロフ  
グラスコー

〕オクスフォルト  
ケンブリジ

○仏ハリス大学 大革命前一

○独乙三十個 規模甚大

○伊太利十七個 〔二千人ノ書徒

露国 ピートルボルグ大学

日本漢学

33 〔同志社大学設立資金募集に付〕

一イントロダクシヨ

一昨年来天下ニ広告ス、又此春以来当府ニ出張致シ居ツタ金森氏ヨリ御聞取ノ事ト存ス、又教育ノ必要ハ申ス迄モナク、諸君ニハ必ラス確認セラレ又大ニ賛成セラルナラン、乍去茲ニ一言ヲ要スルハ他ナシ、吾人ハ真ニ完全ナル教育ヲ切望スルモノナリ

完全ナル教育ヲ以テ完全ナル人物、知徳兼備ノ人物、六尺ノ孤ヲ托シ百里ノ命ヲ寄スヘキ信任スルニ足ル槌ナル人物、社会ノ柱石、一国ノ運命トナルヘキ人物ヲ養成セン事ヲ望ムモノナリ

○現今在ル所ノ学校ハヨビ学校、普通学校、神学校等ニアリテ吾人ノ尤注意スヘキハ即普通学校ニアリ、而シテ来秋ヨリ其ノ程度ヲ進メ弥大学ノヨビ門ト為サン〔ト〕スルノ計画ニアリ、又人物ヲ養成スルノ一点モ却テ大学ニハアラシテ寧ロ此ノ普通校ニアリ、乍去普通科ヲ以テ決シテ教育ヲ全フスル能ハス、之ヲ全フスルニハ即チ大学ヲオクニアリ、世人ハ我カ同志社ヲ評シテ、只宗教主義ノ学校ニシテ只伝道師ヲ養成スルノミト、其レ或ハ然ラン、如何トナレハ神学専門ノ一科ヲオキタレハナリ、吾人ハ此ノ一科ヲ以テ足レリトセス、此レヨリ進テ文学、法学、理学、医学等ノ諸学科ヲオキ、宇宙ノ元理ヲ講究シ社会ノ通則ヲ学ハシメント欲ス、凡大学タルモノハ偏頗狹隘タルヘカラス、尤基礎ヲ強固ニシ規模ヲ寛大ニ為シ、深山大沢龍蛇ヲ生スト申シテ、之ヲ深山大沢トナシ、器量ノ太トキ、志操ノ高キ、目的ノ大ナル人物ヲ養成致シ度モノニア

吾人ハ須〔ラク〕此維新以来ノ日本ノ進歩ヲ見レハ、実ニ驚クヘキ進歩ト云ハサルヘカラス、吾人ハ御同様ニ多少ノ不滿ヲ抱クカハ知レサレトモ、如此キ進歩ハ歐洲ニモ未タ其ノ比類ヲ見サルト云フトモ決シテ誣言タラサルベシ、此ノ時代ニ生息スル吾人ハ多少ノ満足ヲ抱カサルヲ得ス、然ト雖現今ノ進歩ハ多少皮相上ノ進歩ト評セサルヲ得ス、自今爾後皮相上カリ衣然タル進歩ニアラスシテ、内部ヨリ發達シ得ヘキ實力上ノ進歩ヲ要セサルベカラス、吾人ハ此ヨリ進ミ吾人ノ上ニ達シ得ヘキ階梯ヲ作り、後進ノモノヲシテ吾人ノ上ニ進マシメサルベカラス、之ヲ為サントセハ何ヲ為スヘキカ、即チ教育ヲ盛ニナシ後進生ノ智徳ヲ進ムルヲ計ルニアリ、即大学ヲ創立スルニアリ、今日ノ境遇吾人ニ向ヒ大学ヲ促スト云ハサルヲ得ス

今ヤ国会開設ノ〔時〕モ近キニアリ、外國人ノ雜居モ或ハ遠キニアラサルベシ

大坂ノ如キハ実ニ関西ノ最大都会、政事上ノ運動ト云ヒ商業上ノ運動ト云ヒ將來頼母數面白キ一大修羅場トナルハ吾人ノ御互ニ確認スル所ニシテ、英國ノボルミンハム〔バーミンガム〕又ハマンチェスター、米國ノボストン、ニューヨークノ如キ地位ヲ有セルモノナリ、如此大坂ハ地ノ利ヲ得タリ、此地ノ利ヲ活用セントナレハ此市中ナリ又近傍ニ於テ人物ヲ養成スヘキ大学ヲ設立スルニアリ

吾人ハ不肖ナカラモ京都ニ於テ十有ヨ年ノ經營ヲ以テ、現今七百ヨ人ヲ容ルヘキ普通校ノ教育ニ從事致シ来リ、今之ニ加フルニ大学専門科ヲ設ケントスレハ、諸君ニハ之ヲ吾人一個人ノ私事ト認メラレス関西ノ一大事業、否邦家ノ一大事業ト見ナサレテ、之ヲ諸君ノ共同共有物ト見ナシ、此ノ挙ヲ助ケ將來外國人ニ向テモ恥〔カシ〕カラヌ大學ト為シ、永ク人物養成場ト為シ賜ハン事吾人ノ切望シテ止マサル所ナリ、吾人カ此企ヲ初テヨリ諸方ニ出カケ資本ヲ募ントスルニ、地方ノ人々ハ吾人ニ問テ曰ク大坂ハ如何ト、大坂ハ未タナリト申セ〔シ〕カハ、先大坂ニ於テ

募ルベシ然ラサレハ我等モ之ニ応スル能スト断ハラレタリ、諸君ヨ大坂ハ吾人ニ取り一大関門ナリ、吾人幸ニ大坂ノ賛成ヲ得「ハ」必ラス天下ノ賛成ヲ得ベシ、不幸ニシテ大坂ノ賛成ヲ失ハ随テ天下ノ賛成モ失フニ至ルベシ、又大坂ノ賛成ノ多少ハ恰モ天秤皿ノ如シ、大坂ノ寄附一方ノ皿ニオキテ輕ロケレハ他ノ皿モ輕ロカラン

今日ハ幸ニ小生モ諸君ノ前ニ出テ稍カ平素ノ宿志ヲ簡短ニ陳スルヲ得タルハ実ニ幸ノ至ニ在リ、殊ニ大坂市民ヨリ撰拔セラレタル諸君カ進テ此挙ヲ助ケ賜フニ至ラハ吾人ニトリ非常ノ力ヲ得タリ、又非常ノ事実ト云ハサルヲ得ス吾人モカク臆セスシテ諸君ノ前ニ喋々スルハ他ナシ、之ヲ以テ天下ノ教育ト「看」做ナシ、少シモ心ニ忌憚スル所ナケレハナリ、諸君ヨ今日資金ヲ投シテ大学ヲ設クルハ、捐テ返ラサルカ如キ義捐ニアラス、人物養成ノ為ニ貯蓄スルナリ

〔明治二十二年三月・草稿〕

34 大学設立主旨

昨年来天下に広告す、又此春以来当府に出張致し居る金森氏より御聞取の事と存す。又教育の必要ハ申す迄もなく、諸君にハ必す確認せられ、又大ニ賛成せらるゝならん。去りながら茲ニ一言を要するハ他なし、吾人ハ完全なる教育を切望するものなり。

完全なる教育を以て完全なる人物、智徳兼備の人物、六尺の孤を託し百里の命を寄するべき信任するに足る礎かなる人物、社会の柱石、一国の運命となるべき人物を養成せん事を望むものなり。現今在る所の学校ハ予備学校、普通学校、神学校等にありて、吾人の最も注意すべきハ即ち普通学校ニあり。而して来秋より其の程度を進め、愈大学の予備門と為さんとするの計画にあり。又人物を養成するの一点も却て大学ニハあらずして、寧ろ此の普通校にあり。乍去普通科を以て決して教育を全ふする能はず、之を全ふするにハ即ち大学を置くニあり。世人ハ我同志社を評して只宗教主義の学校にして只伝道師を養成するのみと云ふ。夫れ或ハ然らん、如何となれば神学専門の一科を置きたればなり。吾人ハ此の一科を以て足れりとせず、此より進みて文学、法学、理学、医学等の諸学科を置き、宇宙の天理を講究し、社会の通則を学ハしめんと欲す。凡大学たるものハ偏頗狹隘なるべからず、尤も基礎を強固にし規模を寛大に為し、深山大沢龍蛇を生ずと申して之を深山大沢となし器量の大、志操の高、目的の大なる人物を養成致し度きものなり。

維新以来の日本の進歩を見れば、實ニ驚くべき進歩と云ハさるべからず。吾人ハ御同様ニ多少の不滿を抱くハ知れざ

れども、此の如き進歩ハ歐洲にも未だ其の比類を見ざるものと云ふも決して誣言ニあらざるべし。此の時代ニ生息する吾人ハ多少の満足を抱かざるを得ず。然れども現今の進歩ハ多少皮相上の進歩と評せざるを得ず。自今皮相上の進歩ニあらずして内部より發達し得べき実力上の進歩を要せざるべからず。吾人ハ之より遙かに吾人の上ニ達し得べき楷梯を作り、後進の者をして吾人の上ニ進ましめざるべからず。之を為さんと欲せば何を為すべきか、即ち教育を盛に為し、後進生の智徳を進むるを計るにあり。即ち大学を創立するにあり。今日の境遇、吾人ニ向ひ大学を促すと云ハざるを得ず。

今や国会開設も近きニあり、外国人の雜居も遠きニあらざるべし。大坂の如きハ実ニ関西の最大都会、政事上の運動と云ひ商業上の運動と云ひ将来頼母數面白き一大修羅場となるハ吾人のお互ニ確認する所ニして、英國のパーミンガム又ハマンチエスター、米国のボストン、新紐育の如き地位を有するものなり。此の如く大坂ハ地の利を得たり、此地の利を活用せんとなれば此市中、又ハ近傍ニ於て人物を養成すべき大学を設立するにあり。吾人ハ不肖ながらも京都ニ於て十有余年の經營を以て現今七百余人を容るべき普通学校の教育ニ従事致し来れり。之ニ加へて大学専門科を設けんとすれば、諸君よ、之を吾人一個人の私事と認められず、関西の一大事業、否国家の一大事業と見做されて、之を諸君の共同共有物と見做され、此等助け将来外人ニ向ひても恥かしからぬ大学と為し永く人物養成場と為し賜はんこと、吾人の切望して止まざる所也。吾人ハ此企を始めてより諸方ニ出かけ資本を募らんとするニ地方の人々ハ吾人ニ向て曰く大坂ハ如何と。大坂ハ未だなどと申せば大坂ニ於て募るべし。然らざれば、我等も之ニ応ずる能はずと断はられたり。諸君よ、大坂ハ吾人ニ取りて一大関門也、吾人幸ニ大坂の賛成を得バ、必ず天下の賛成を得べし。不幸にして大坂の賛成を失ハ、随て天下の賛成も失ふニ至るべし。又大坂の賛成の多少ハ恰も天秤皿の如し。大坂の寄附



一方の皿ニ置きて輕けれバ他の皿も輕からん。今日ハ幸に小生も諸君の前ニ出て平素の宿志を簡單ニ陳するを得たるハ実ニ幸の至り也。殊ニ大坂市民より撰拔せられたる諸君が進て此舉を助け玉ふに至らば吾人ハ非常の力を得、又た非常の事実と云ハざるを得ず。吾人ハ斯く臆せずして諸君の前ニ喋々するハ他なし、之を以て天下の教育と見倣し、少くも心ニ忌憚する所なければ也。諸君よ、今日資金を投じて大学を設くるハ損ニて返らざるが如き義捐ニあらず。人物養成の爲ニ貯蓄するに外ならざる也。

〔明治二十二年八月十六日・徳富蘇峰秘書写し〕

35 「大学設立の必要」

一生徒ノ進歩大学ノ設立ヲ促ス

一当時ノ境遇大学ノ設立ヲ促ス

維新以來文物百般ノ進歩ハ実ニ驚クヘキモノトス、然レトモ此ノ進歩ハ或ハ外國人ノ手ヲカルモノアリ、或ハ内國ノ手ヨリ成ルトモ尚僅々ノ人ニヨリ成レリト云ハサルヲ不得、又西洋人ノ手本ヲ模擬シ、或ハカリ衣ヲ衣タルノ嘆ナキ能ハス、之ヲ簡短ニ申セハ實力内部ノ進歩ト云ヨリモ皮相、表面ノ進歩ト云ハサルヲ得ス、乍去兎ニ角我カ日本カ此ノ二十四五年間ニ此ノ進歩ヲ成セシハ実ニ驚クニ堪ヘス、<sup>（アラド）</sup>慢ルニ堪エヘリ、世界ノ歷史上打消スヘカラサル一事件ニシテ、我カ同胞ハ一ノ面白キ戲ヲ演シテ文明世界ノ人民ノ美觀ニ供シタリト云フテ可ナランカ

已ニ陳シタル如ク此ノ進歩ハ皮相表面上ノ進歩ニシテ未タ實力のノモノトハ申シ難キモ、吾人ハ一ノレウオルーシヨ  
ンヲ演シ来リテ驚ヘキ一ノ進歩ヲ為シタルハ、真ニ世界ヨリモ之ヲ公言スル所ニシテ、先ツ一段落ヲ為シタリト云フ  
ベシ

然ラハ吾人ハ此一段落ヲ以テ満足スヘキカ、否、革命的ノ時代即一段落ハ早過去リテ、改良熟成的ノ時代ヲ迎ヘサル  
ヲ得ス

革命ノ時代ハ却テ来シ易キモ熟成的ノ時代ハ容易ナルモノニアラス、革命的ノ時代ハ人物カ各本氣ニ身命ヲ抛チテ國  
事ニ奔走スルモ、熟成的ノ時代ニハ時代ノ英雄人物ノ安心シテ、稍モスルト枕ヲ高フシテ臥シ各其ノ地位ヲ安スルニ

至リ、社会ヲシテ其ノ取ル所ノ方針ニ任セ、社会ト共ニ腐敗シテ更ニ顧ミサルカ如キ憂ヲ生シ、昔時ハ国事ノ為ニ一身ヲ抛チタルモ今ハ己ヲ利スルノ計ヲ廻シ、社会ノ腐敗ヲ招クカ如キ弊風ヲ生スルモ免レ難ケレハ、革命的ノ時代ヲ来ラシムルヨリモ熟成的ノ時代ニ所スルノ方法ハ却テ至難ナリト云ハサルヘカラス

茲ニ至リ熟成的ノ手段ヲ施サ、ルベカラス、其ノ手段タルヤ一ニシテ足ラスト雖、熟成的ノ手段中最欠ヘカサルモノハ真正ノ教育ヲ拡張スヘキ一事ナリ、高等ノ學術ヲ講究スヘキ大学ヲ設クルニアリ

古ニ遡リ今ニ〇シテ吾人ノ信スル所ハ、大学ニアリ養成セラレタル学者ノミガ、天下ノ豪傑トナリ天下ノ仕事師トナ

リ天下ノ革命改良家、真理ノ発見家トナルト申スニハ非ラ〔ザ〕レトモ、学問ノ功能ハ欠クヘカサルモノニシテ、

一国ノ進歩ヲ醸モシ一国ノ富強ヲ来ラシムル職トシテ学問ニヨラサルハナシ、蓋シ学問ハ人智ヲ開発スルモノナリ、学者ノ論説ハ其ノ国人ノ耳目ヲ高尚ナラシムルモノナリ、進歩的ノ人民ヲ活用スル材料ヲ供スルモノナリ

仏国ノ早ク欧洲ニ於テ牛耳ヲ取リシハバリ大学与リテ力ナシト云ベカラス、英国ノ革命進歩アリシハオクスフォ

ルト、ケンブリジノ大学其ノ材料ヲ与ヘシト云ハサルベカラス、<sup>〔プロシヤ〕</sup>李露生ノ近時欧洲ニ於独乙聯邦嶄然頭角ヲ顯ワシ、其

ノ疆土ヲ広メ其ノ農業工業ヲ進メ貿易ヲ盛ナラシメシハ、其聯邦中三十個ノ大学ナルモノ隠然其ノ資本トナレリト云フトモ誣言タラサルベシ

故ニ大学ハ文化ノ根原ニシテ、一国ヲ富強ナラシムル、其ノ人民ヲシテ真正ノ福利ヲ蒙シムル為ノ資本ト云ハサルベカラス、予ハ今日諸君ニ向ヒ、又大坂府下ノ紳商ニ向ヒ其ノ賛助寄附ヲ求ムルハ他ナシ、即此ノ資本ヲ貯蓄シテ他日ノ用ニ供セント欲スルノミ

36 「女学校卒業生への勧め」

支那聖人之語徳不孤必有隣ト云語ヲ有「ス」カ、真ノ徳ト云者ハ微ナルモ著ク之ヲツ、「メ」トモ顯ワレ、誰云トナク人々ノ帰服スルモノナルヘシ、是徳アレハ必ラ「ス」感化力ノ発シ出ツルモノニテ、人縦令多分ノ言葉ヲ費ヤサ「ザ」ルモ徳ノ力尽ク人ヲ服セシメ徳力克ク人ヲ化スベシ、若シ此徳ヲ欠キ此徳ナキトキハ如何ニ学力アリ智識アルモ多クハ己レヲ益スルノミニ止マリ、社会ヲ益シ人ヲ益スル事ハ期セラレサルベシ、<sup>〔ママ〕</sup>、モ多年来此校ニ<sup>〔ピンベン〕</sup>黽勉不忘、且万里之波濤ヲ越ヘ来ラ「レ」シ女教師方、且日本之教員之教授ト御導キニヨリ今日之式ニ及フハ当ニ□之教ヲ喜□トスル所、乍去此々ニテ足レリトスルヤ、否々々未タ年少シ、尚可成ハ数年ノ勤勞ヲ為シ、学識ヲ博「メ」徳義ヲ養ヒ、己ヲ琢磨シ且益志ヲ「高」尚シ、他年ノ成業ヲ期スベシ

〔朱丸〕

○未開之人民ハ望ム所至テ少シト

此迄之婦人之風俗ハ唯衣裳ニ美、外ニ飾ヲ以テ意トシ男子之玩弄物トナリ、遂ニ非ナル事モ人ニマケレ、<sup>〔ママ〕</sup>人ヲ益スル所カ多ク、社会之邪魔トナリ

教化ヲ助クル分トナラスシテ風俗ヲ乱スノ道具トナリ、甚キニ至リテハ後世婦人モ殆男子ノ玩弄トナルモノト不知不知其道具タルノ用意ヲナシ、歌ヲナシ三「味」線ヲヒキ多クハ風紀ヲ乱スノ道具トナリ、俗曰女子ト小人何等カ卑キモノ「ノ」取扱ヲ受ケタリ、

第一ニ婦人ノ美德ヲ琢磨シ自ノ価ヲ高尚ニシ、随テ人ニ及ベシ

記事・論議





## 記事・録事



37 同志社英学校記事〔明治八年八月〜十六年十二月〕

同志社員ハ新島  
山本ノ二人

明治八年八月廿三日、同志社英学校設立ノ許可ヲ得

十一月廿一日、デウイス家族入京ス

〔上欄〕  
「デウイス氏ノ雇入レハ尙年間 明治八年十月一日ヨリ九年九月卅日迄」

明治八年十一月廿九日、同志社開業

〔先〕  
「京都府寺町通丸太町上ル十八番地華族高松氏ノ邸半分ヲ借用シ学校トス、在校生ハ僅ニ十人ニ過キス」(同年十

一月廿九日ノ調ヘニ生徒二十八人(入塾生十人、通学生十八人)

八年七月、デウイス雇続キ五ケ年ノ雇入レノ願書差出ス

八月、右免状受取ル

氏ハ上京十一区中筋通六百八十三番地柳原前光君邸内ニ寓ス

〔明治九年三月十五日ヨリ同十二年三月十五日迄三ケ年間 ドワイト・ダブリウ・レールネット氏并ニ ウォレス・テ

ーロル氏二人ヲ雇入ル

九年五月、地ヲ上京第十区相国寺門前町ニ占ム、其ノ坪数五千八百五十五坪

九年六月十五日、校舎建築ニ取懸ル

同年七月、デウィス氏九年十月一日ヨリ十四年九月卅日迄雇続キ願書差出ス

八月八日、右免状来ル

同年九月五日、ドーン氏ヲ雇入ル

○此第二学期ヨリ熊本洋学校ノ生徒<sup>\*</sup>金森氏ヲ初トシ陸続来校ス

〔左欄〕

〔九年〕熊本ニ於テ神風連ノ難ヲ逃レ、又十年西郷氏ノ難ヲモ逃ルノ幸ヲ得タルハ真神ノ冥助ト云ハスシテ何ソ

〔欄外朱〕

〔第一第二寮落成<sup>\*\*\*</sup>〕

○九月十八日、相国寺門前新築之校舎ニ於テ開業ス

九年十一月、十二月ノ二ヶ月中、西京ニ於テ第一、第二、第三ノ教会ヲ設立ス<sup>\*\*\*</sup>

十年四月廿八日、柳原邸内ニ於テ女学校開設ス

五月八日、ドーン氏ノ妻病ニ罹カレルヲ以テ、解約ノ上京地ヲ去ル

〔上欄〕

〔十年〕九月、第三寮落成ス

同年十一月廿日、常盤井殿町二条家ノ地所四千九百六十九坪九合ヲカイ入ル

〔上欄〕

〔十一年〕一月、初メテ寮長ヲ撰ス

十一年五月廿一日、テーロル氏京都府下ニ於テ投棄スルヲ許サレザルヲ以テ遂ニ解約シ、六月六日京都ヲ去ル

〔上欄〕

〔十一年〕九月、第四寮落成ス

十一年十一月二日、コルドン氏五ヶ年間雇入願書出ス 事故アリ願書差戻サレタリ

十二年二月廿二日、レー〔ル〕ネド氏五ヶ年間雇繼願書ノ許可ヲ得タリ

十二年六月二日、再ヒコルドン氏雇入願書ヲ出シ、同月二十六日右許可ヲ得タリ

十二年六月十二日、第一回卒業式執行ス

熊本ヨリ来レル生徒十五人卒業ス、市原盛宏 森田久万人 山崎為徳ノ三氏ハ同志社ニ止マリ教員トナリ、宮川経

輝氏ハ同志社女学校ニ止マル 月給各十五円

〔上欄〕  
「十二年九月、運動場落成ス」

十二年十月二十日、初テ叡山ノ麓ニ於テ校中ノ生徒兎狩ス

同年十一月十八日、教員協議ノ上可決セシ事左ノ如シ

〔一〕同志社ニ於テ普通科ノ外必ラス神学ヲ教授スヘシ

〔二〕當時行ハル、神学ノ外別ニ速成科ヲ設クヘキ事

〔三〕外国教員縱令神学ヲ教ユルモ決シテ普通科ヨリ手ヲ引カス、益該科ニ尽力スヘキ事

○十二年十一月五日、アメリカン・ボールドヨリ書ヲ送り、オティス レゲシー資金ノ内、外国教育ノ為ニ設置キタル分ヨリ八千弗ヲ同志社ニ年々寄附スヘキヨシ申越サレタリ

十二年十二月、デウィス病氣ノ為支那ニ遊行ス

十三年六月、四人ノ正課卒業アリ

十四年一月十日、デウィス脳病加養ノ為家族ヲ引連レ歐洲ニ出發ス

〔上欄〕  
○十四年四月、横村正直京師ヲ去リ北垣国道君之ニ代リ知事タリ

十四年六月、初テ京都。都。四。条。北。ノ芝居ニ於テ宗教演説ヲ催ス、是ヲ京師演説ノ初トス

十四年六月廿四日、十八人ノ生徒卒業ス

七月廿九日、山崎為徳肺病ニカ、リ京都ノ病院ニ入院ス

※十一月八日、山崎為徳、新島氏ノ宅ニ於テ午前六時十五分死去ス、第二教会新築会堂ニ於テ葬式ヲ行ヒ、黒谷山新

島氏墓地ニ埋葬ス

〔上欄〕  
※十四年十一月、第五寮落成ス ○同十二月、礼拝堂落成ス<sup>\*\*\*</sup>

十五年二月六日、Dr. デイ・シー・グリーン氏来京ノ免許ヲ得タリ

○十五年六月三十日、六人ノ正課卒業生アリ

十五年八月二日、デウィス氏再ヒ雇入レノ願聞済ミタリ

〔上欄〕  
十五年九月ヨリ卒業生ナル下村孝太郎氏ヲ招キ教員ノ列ニ加フ

同年十一月廿五日、デウィス来京ス

学校ノ生徒尽クステーション迄出向ヒタリ

十六年二月十三日、更ニ左ノ委員三名ヲ加ヘ同志社々員トス

熊本県士族 伊勢時雄

新潟県士族 松山高吉

京都平民 中村栄助

社員五人、内外国教員ト協議ノ上左ノ四条目ヲ可決ス<sup>\*\*\*</sup>

一同志社ハ五人ヲ以テ組織シ、此五人ハ社ノ財産ヲ所有シ、基督教主義ヲ以テ学校ヲ維持スルヲ務メ、且学校ト政



府トノ間ニ生スル百般ノ事務ヲ弁理スベシ

二社員中若シ欠アルトキハ、現存ノ者新ニ撰択シテ之ヲ補ヒ社ヲ永続セシムヘシ、又社員中ヨリ一人ヲ撰ヒ校長トスヘシ

三校内百般ノ事務ハ各校ノ内外ノ教員校長ト協議ノ上之ヲ弁理スベシ

四外国ヨリ寄附シタル金ハ、外国教員若クハ他ノ委托者ヨリ各校ノ教員ト協議ノ上支払フベシ

二月十五日

新島襄ハ旧ニヨリ社長ノ任ニ当ルコトヲ四人ヨリ委托セラレタリ

〔上欄〕

「五月中、宣教師集会ノトキ石造或ハ煉瓦造ノ講堂ノ入用ナルコトヲアメリカン・ボールドニ乞フ、ボールトハ之ヲ許シ七千五百円ヲ寄附ス」

六月二十九日

正課ニ於テ八人卒業ス

十月十七日

新築ノ入札ヲ為シ尾瀧菊太郎ニ落札シ、十一月上旬ヨリ普請ニ着手ス\*

●十二月廿二日 定礎式執行

38 同志社英学校沿革〔明治八年八月二十三日～十七年一月〕

同志社英学校

(山本覚馬 新島襄二人結社ノ上学校設立ノ願書ヲ差出ス)

明治八年八月廿三日 同志社英学校設立ノ許可ヲ得タリ

同八年十月一日 一年間雇入レノ条約ヲ以テ米国人ジェー・デー・デウイス氏ヲ雇入ル

同八年十一月廿九日 京都府下寺町通丸太町上ル華族高松氏ノ邸半分ヲ借用シ、仮学校トシ開業ス

入校生 十人

通学生 十八人

同九年五月 校地ヲ上京第十区相国寺門前ニ占ム

坪数 五千八百五十五坪

地代価 五百円

九年三月十五日 三年間雇入レノ約ニテ左ノ米国教師二人ヲ招聘ス

理学博士 トワイト・ダブリウ・レールネド

医学博士 ウォレス・テーロル

同年七月 デウイス氏雇続キノ上五ヶ年ノ条約ヲ為ス

同九月 ドーンヲ雇入ル

同九月 相国寺門前新築ノ校舎ニ於テ開業ス、之ヲ第一、第二寮ト号ス

此期ノ初メヨリ熊本洋学校卒業生并他ノ生徒陸續來校ス

十年五月 トーン氏解約 妻ノ病ニ罹レルニヨル

十年九月 第三寮落成ス

十一年五月 テーロル氏解約（知事榎村氏ノ府下人民ニ投棄スルヲ許サ、ルニヨリ解約ス）

同九月 第四寮落成ス

同十一月二日 医学士コルドン氏五ケ年間雇入願書差出ス

取調ノ廉アルヲ以右願書下ケ戻シトナル

十二年二月廿二日 レールネト五ケ年間雇繼願書ノ許可ヲ受タリ

同六月 コルドン氏雇入レノ願書聞済トナル

十二年六月十二日 第一回卒業式ヲ執行ス

余課生徒十五人卒業

十二年九月 運動場落成ス

同十一月 米国ノ教友ヨリ、オチイス氏遺金ノ内、別ニ外国教育ノ為ニ設置カル資金ヨリ年々八千弗ヲ同志社ニ寄附

スヘキ由申来ル

〔上欄〕  
「十三年六月 四人ノ正課卒業アリ

十四年一月 デウイス病ニヨリ帰国ス

同六月 十八人ノ正課生卒業ス

同十一月 第五寮落成ス

十五年二月六日 五年ノ期限ヲ以テ米国神学博士デー・シー・グリーン氏ヲ雇入ル

十五年六月三十日 六人ノ正課卒業生アリ

同十一月廿五日 デウイス再ヒ帰校ス

十六年二月十二日 山本覚馬、新島襄二人ノ外、更ニ左ノ委員三名ヲ撰ヒ同志社員トス\*

熊本県士族（当時伊予今治ニ寓ス） 伊勢時雄

○氏ハ故横井平四郎君ノ嫡子ニ係ル

新潟県士族（当時神戸ニ在寓） 松山高吉

京都平民（京都常置委員） 中村栄助

新島襄旧ニヨリ社長ノ任ニ当ル

同六月二十九日 八人ノ正課卒業生アリ

同十月十七日 煉瓦構造ノ講堂建築ニ取懸ル

右講堂建築ノ受負金高ハ七千五百円ナリ

十七年十一月 徴兵令發布以後生徒中殆三分一帰省ス

現員 百六十四名

帰省人数 四十名ヨ

該令免除ノ者ト免除セラレサルモノノ割合ヲ調査ス

一年生 三十二人

㊦免除ノ者 十二人

㊧免除セラレサルモノ 二十人

同志社所有ノ地坪并地価

一 老万老千八百七十五坪

右地代価 老千三百十七円六十七銭

一 校舎ノ価 八千六百九十六円

但第一、第二、第三、第四、第五寮、食堂、運動場、講堂共

一新築煉瓦講堂ノ受負金高 七千五百円

一 書籍器械等 一千百二十五円

以上四口金額總計 老万八千六百三十八円六十七銭

〔上欄〕  
○十五年度経費

金、同

務

内――

同志社員

京都府 社長兼校長

新島 襄

京都府

山本覚馬

同

中村栄助

新潟県（神戸寓）

松山高吉

熊本県（伊予今治寓）

伊勢時雄

同志社教員

外国教員

一 米国人 神学博士 ジェー・デー・デウィス

ピローイト大学卒業

シカゴ神学校卒業

千八百八十二年神学博士ノ称号ヲ收領ス

一同 理学博士デー・ダブリウ・レールネド

エール大学卒業

一同 医学士 エム・エル・ゴルドン

ウェーネスボルグ府大学卒業

アンドウア神学校卒業

ロングアイラント病院附属医学校卒業

一同 神学博士 デー・シー・グリーン

ダートマウス大学卒業

アンドウア神学校卒業

千八百八十一年神学博士ノ称号ヲ收領ス

内国教員

一 熊本県 市原盛宏

熊本洋学校卒業

同志社余科卒業

一同 森田久万人

同

同

一同 下村孝太郎

同

同



助教

一岡山県 大西祝

同志社正課卒業

明治八年十一月同志社英学校創業以来、同十六年九月第九学期<sup>\*</sup>第壹期ニ至ル迄、入校生徒ノ数四百十五名、且犯則

(飲酒、登楼、窃盜ノルイ)ニヨリ逐校セラレタル者七名

明治十三年乃第六学期生徒平均数 九十三人

同 十四年乃第七 〃 百二十一人

同 十五年乃第八 〃 百五十一人

同 十六年乃第九学期第一期生徒ノ数 百五十人

卒業生徒人員

同 十二年 余科卒業生 十五人

〔上欄〕其内五人学校教員 五人基督教伝道ニ従事ス 三人新聞記者(二人毎週新報ニアリ 一人官報ニアリ) 二人職

業未定 一人死去

同 十三年 正課卒業生 四人

同 十四年 同 十八人

同 十五年 同 六人

同 十六年 同 八人

## 卒業生合計

五十一人

## 洋行生

五人 三人勉学ノ為、二人商業ノ為

生徒全數百五十人ノ内十六名ハ、或ハ助教トナリ或ハ校中労働ヲ為スニヨリ学校ヨリ学費幾分カラ支給ス、余ハ其ノ父兄或ハ朋友ヨリ其ノ費ヲ支弁スルモノトス、別ニ貸費ト称スルモノナシ

明治十六年十二月徴兵令布告以後、生徒中該令免除ノ者ト免除セラレサルモノノ割合ヲ調査スル、左ノ如シ\*

	各級総員	一年生	二年生	三年生	四年生	五年生	余科生	
徴兵免除ノ者	三十二	四十	二十八	十三	十三	二十一	二十四	百五十人
当時適齡在校ノモノ	十二	十五	十三	六	五	二十一		七十二人
六ヶ月以後適齡ノモノ		二						二人
一年ノ後	二	五	一			一	三	十二人
二年ノ後	七	一	三	五	三			十九人
三年ノ後	三	三	一		一			八人
四年ノ後	三	四	三					十人
五年ノ後	五	一						六人
当時適齡帰省ノモノ		八	七	二	三			二十人

乙甲	余科生	五年生	四年生	三年生	二年生	一年生
總計	乙甲	乙甲	乙甲	乙甲	乙甲	乙甲
	〃	〃	〃	〃	〃	〃
						免除ノモノ 免除セラレサルモノ
七十八人	三十一人	八十五人	七十六人	十三十五人	二十五十五人	二十二十人

右七十八人ノ者ハ卒業前「適齡ノ上徴兵ニ応スルカ或ハ徴兵猶予ヲ得シカ為」早晚公立又ハ官立校ニ入校スルモノト見做サ、ルヲ得ス、左レハ敝校ノ生徒ハ是レヨリ数年ヲ出サル間ニ半額ヲ減スルニ至ルハ必然ノ事ナルベク、且向來入校生人員ノ大ニ減少スルモ亦疑フ所ニアラサルヘシ

明治十七年一月調

39 同志社大学創立記事〔明治十六年一月〜十七年一月〕

〔表紙〕

同志社大学創立記事

〔表紙裏〕

西京寺町通丸太町上ル

十三番戸 新島 襄

所持

〔本文〕

明治十六年一月中、同志社大学設立主意書ヲ認め、四月ノ下旬ニ至リ浜岡氏ニ托シ之ヲ上梓シ、五月中襄東上ノトキ東京府下ノ紳士ニ面談シ賛成ヲ乞フ事ヲ初ム  
五月中安中ニ於テ高崎ノ柏屋六左衛門、倉ヶ野松本勘十郎ノ二氏ニ面談シ大学ノ賛成ノ事ヲ委托セシカハ、二氏ハ応分ノ力ヲ尽サン事ヲ諾ス、比ハ明治十四年〇月中大和大滝村ノ土倉庄三郎氏、立憲黨員兼編輯長古沢滋氏ト同道シテ京師ニ来ラレ氏ノ二子辰二郎、亀三郎ノ教育ヲ委托セラレシトキ、古沢氏ヨリ大学ノ必要ナルヲ談シ且同志社ニ於テ其計画アルヲ談セラレシカハ、土倉氏ハ之ヲ賛成シ是非トモ尽力セン事ヲ約セラレ、其後大坂ニ於テ五千円ノ株ヲ二十

募ラハ事容易ニ成ベシ、予ハ其ノ老株トシテ五千円ヲ出スヘシト云レタリ、其後ニ至リ襄ハ屢大和ニ至リ同氏ヲ訪ヒ、弥同氏ノ篤志アリテ大学ノ挙ヲ賛成セラル、事ヲ信シ、遂ニ十六年ノ一月ニ至リ大学設立主意書ヲ認ムルニ至レリ

同六月中、浜岡氏ニ托シ發起人ノ募リ方并金額募集ノ法方等ノ草案ヲ稿ス  
〔上掲〕  
十五年一月中、土倉ヲ尋ヌ

十五年十二月、大和ノ土倉ニ至リ、大学ノ為ニ三万円ノ受負具マシキヤト委頼ニ及ヒシカハ、前約ノ五千ノ外今ハ  
応シ難シト答ヘラレタリ

八月中、大聖寺ニ於テ郡長滝讓君并九谷陶器会社長飛鳥井清君ニ面会シ大学ノ事ヲ委托ス、同月下旬福井ニ至リ杉田  
定一君ニ面接シ、大学設立發起人トナリ該県下ニ於テ募集等ニ着手セラ〔レ〕ン事ヲ乞ヘリ

○福井県下波寄村 又 ○福井県泉水町岡部方

十月一日之比ヨリ浜岡君ト合談之上、先府下ニ於テ二十又ハ三十名ノ發起人ヲ募リ、其ノ上金額募集ノ法方等ヲ予定  
シ、然ル后近畿ヨリ遠方ニ及シ賛成家ヲ募テハ如何ト申合セ、遂ニ府下ニ在留スル区部郡部ノ議員ニ書ヲ呈シ、又府  
下之有志諸君ニ面会シ發起人トナラレン事ヲ乞ヒ初メタリ

○区部議員

西村定七 油ノ小路中立売下ル

七三郎

安本勝治

児島定七

下間庄右衛門

十月四日

西村氏ニ面会ス

郡部議員

伊東熊夫

河勝光之助

田宮 勇

吉井省三

奥村新之丞

河原町四条上ル

○能川 登

堺町御池下ル

○市田文次郎

三条堺町西ニ入

河村清七 辞ス

十月上旬 面会ス

松原通下ル徳万町

○高木文平

同室町東ニ入ル (補)「十月十日」

○磯野小右衛門

十月十一日 面会ス

十月十一日

富小路四条下ル深政方ニ於テ田中源太郎君ニ面会シ、三週間前ヨリ発起人不承諾ノ事ニ懇々示談ニ及候所、敢テ発起人加名ヲ辞セラル、ニアラス、近来米価地価ノ下落ト加之当夏ノ旱魃ヲ以テスルヨリ村落ハ非常ニ困却、随不景氣不融通ヲ醸シ、到底此ノ実況ナルレハ賛成家ヲ得ルニ見込ナケレハ、此レ時機ノ未タ至ラサルナルベシト思ワレ断然発起人加名ハ辞シ度ト云レタリ

依テ襄ヨリ、御尤ニハ存スレトモ全体大学ノ挙ノ如キ一朝一夕ニ好結果ヲ得ヘキモノニハアラサルベシ、乍去時機ヲ待ト云テイツ迄待テハ時機カ来ルカ、慥ニ来年来ルト見込アラハ必ラス其望ヲ以テ待ツヘキモ、来年ノ事ハ慥ニ期シ難キ事ナレハ縦令不景氣故多分ノ賛成ヲ得ルノ望ミナキモ、今茲ニ於発起人ヲ募リ先募集ノ法等決定シ、広ク世人ニモ之ヲ広告通知スルコソ一日モ猶予スヘカラス、一日後ルレハ一日ノ損ナラント説タレトモ、田中氏ニハ到底見込ミナキモノニ加名スルハ大ニ心ニ愧ツル所ナレハ、時機ノ至リ見込ノ立ツ迄ハ賛成シ難キ旨申サレタリ

此夜中村栄助氏三丹地方巡回ヨリ戻ラレ来訪セラル、依テ田中氏ノ口上ヲ話シ相談ニ及ヒシカハ、高木文平君ヘ行キ一応相談シテハ如何ト被申シニヨリ、同十二日ノ朝「(補)途中浜岡ヲ問フ」高木ノ家ニ至リ同氏ノ見込ヲ尋ヌ、且田中君ノ事ハ如何セハ可ナラント問ヒタレハ一応同君ニ面会スヘシト答ヘラレタリ、且見込ノ違フ所ヨリ急ニハ着手ハナル



マシキニヨリ、再三委頼シテ応セサレハ不得止事、応スルモノ丈ケニテ發起人トナリ募集法等ヲ定メ賛成家ヲ募ルノ一段落ヲ付ルノ外良策ハナカルベシト申サレタリ

募集法モ談セラル

(百円ト云テ現金ヲトラス抵当ヲ受ケ、年々百円ノ利子ヲ申受ケテハ如何

歸路堺町御池下ル市田文次郎君ヲ訪ヒ、上京区長杉浦氏并同氏ノ知人内貴氏等ニ相談アリタキ旨委頼ニ及ヒ、又田中氏ノ見込ニ付キ談セシカハ、先ツ不景氣ヲ不問ニオキ速ニ發起人ヲ募リ賛成家ヲ得ルノ法ニ着手スルコソ今日ノ急務ナリト云ハル

○高木君ニハ下京区長ニ面会シ大学賛成ヲ委頼スル事ヲ托ス

※市田君ノ募集法ハ月賦ニナシ入レ易キ法カ必用ナリト

十七年一月十四日

伊東熊夫君ヨリ郡部ノ議員ハ同氏ノ外独リ川勝光之助氏ノ応セラル、事ニ決セリト通知アリタリ、他ハ辞退シ又ハ未決ノヨシ

〔以下八十枚空白〕

熊野

稲葉一郎右衛門

竹野

足達又八郎

与謝

今林則満

天田

田中喜間太

何鹿

<sup>〔朱〕</sup>  
〔承〕

福井矢之輔

船井

奥村新之丞

北桑田

河原林義雄

南桑田

田中原太郎

<sup>〔朱〕</sup>  
〔綴喜相樂〕

伊東熊夫

宇治

吉井省三

<sup>〔朱〕</sup>  
〔伊〕紀久世

菱木信興

乙訓

正木安右衛門

葛野

田中常七

愛宕

松野新九郎

郡部理事委員

<sup>〔朱〕</sup>  
〔竹鼻仙右衛門〕

内貴甚三郎

西村七三郎

市田文次郎

高木文平

中村栄助

(浜岡光哲)

四月四日定

明治十七年

区部理事委員

丸太町麩屋町西へ入

○(朱丸、以下同)  
喜多虎雄

○大志万重晷

宇治

菱木信興

丹波天田郡

田中半之丞○

木屋町五番路次

○松尾新九郎

上加茂

東辻清光

議員 麩屋姉ヶ小路

○(多)貝藤右衛門(ヒラ)木屋

○(正)木安右衛門

乙訓郡

今里村

富小路四条上ル西側深尾政

丹波南桑田郡穴川村

○石田真平、

丹后

布川範兵衛、

〃

※上野弥一郎

室町四番下ル中島クニ

丹后宮津

今林則満、

丹后久美浜

稲葉市郎右衛門、

御光町<sup>〔ママ〕</sup>二条下ル西カハ薬屋

○和哥山那賀郡井ノ口村

○中西光三郎

○河原町下丸屋町五番戸

○山本寛馬

○松原通下ル徳万町

○高木文平

古門前三好町

○伊東熊夫

○川勝光之助

郡部

×田宮 勇

衣ノ柵サワキ町

丹波国北桑田郡大野村

河原林義雄

×吉井省三

×奥村新之丞

区 部

×

下妻庄右衛門

児島定七

上十二組青龍町

安本勝治

油ノ小路中立売下ル

西村七三郎

西堀徳三郎（小川一条下ル）

○ 五条橋東二丁目

○ 中村栄助

○

○ 浜岡光哲

二条西ノ洞院西ニ入ル

第一銀行

○ 増田充績

松原室町東ニ入ル

○ 磯野小右衛門

岡 崎

宇田栗園

○（内貴甚三郎）○

市田氏ニ委頼

博覧会

田中善右衛門

川東二王門通新柳馬場

○ 竹鼻仙右衛門

高木ノ朋友

○〔河原町四条上ル  
四条通御旅町

○能川 登○

○堺町御池下ル

○市田文次郎○

三条通堺町西ニ入

河村清七

南桑田郡荒塚村

田中源太郎

40 同志社大学記事〔明治十四年～二十一年〕

創立ノ事

〔上欄〕  
「発端」

○大学設立ノ事ハ同志社創立ノ以前ヨリ襄ノ宿志ニテアリシガ、窃ニ時運ノ到来スルヲ待居タリシニ、明治十四年十

〔朱丸・以下同〕

月中旬ノ事ナリキ、大和国大滝村ノ農土倉庄三郎氏其実子ヲ伴ヒ立憲政黨新聞ノ古沢滋氏ト襄ノ宅ニ来リ二子教育ノ事ヲ委托セラル、偶々談大学ノ事ニ及ビ古沢氏尤モ大学ノ必要ヲ談セラル、襄亦私立大学ノ要旨ヲ語り且同志社ニ於テ其計画アル事ヲ談セシカバ土倉氏之ヲ賛成シ応分尽力セン事ヲ約セラル、其後大坂ニ於テ襄土倉氏ト面談ノ際氏ハ五千円ノ株ヲ二十口募ラバ事容易ニ成ルベシト、而カシテ予ハ其尅株トシテ五千円ヲ出金スベシト云レタリ

〔上欄末〕

「明治十四年」

其後襄ハ数々土倉氏ヲ其居宅ニ訪ヒ、愈々明ニ氏ガ大学設立ノ事ニ篤志賛成セラル、事ヲ信シ、時運ノ熟セル遠キニアラザルベシト悦ビ、遂ニ明治十六年ノ一月ニ至リ大学設立ノ要旨ヲ大方ノ有志者ニ告知セント欲シ、之レガ草稿ヲ起スニ至ル

〔上欄〕

「同志社大学設立旨趣成ル」

○山本覚馬、浜岡光哲ノ二氏ハ始メヨリ大学ノ学ヲ賛成セラレケレバ、明治十六年四月下旬、襄ノ起稿セシ趣意書ヲ浜岡氏ニ托シ之ヲ活版ニ附シ、同志社大学校設立旨趣冊子ヲ作レリ



○明治十六年五月、襄東上ノトキ東京府下ノ紳士ニ旨趣書ヲ布キ賛成ヲ乞フ事ヲ初メタリ

○同十六年五月中、上野国安中駅ニ於テ湯淺治郎氏ト他二三有志者ノ賛成ヲ得タリ、且高崎駅ノ人柏屋六左衛門、又倉賀野駅ノ人松本勘十郎ノ両氏モ賛成セリ

〔上欄〕  
「仮草案ヲ作ル」

○同十六年六月中、襄ハ浜岡氏ニ托シテ、大学發起人ノ募リ方并ニ金額募集ノ法方ニ係ハル草案ヲ立ン事ヲ乞フ、於是浜岡君ハ仮草案ヲ稿セラル

○同十六年八月中、加州大聖寺ニ於テ襄郡長滝讓氏并九谷陶器会社長飛鳥井清氏ニ面会シ大学ノ事ヲ語り賛成ヲ乞フ  
○同十六年八月下旬、越前福井ニ至リ北陸自由党員杉田定一氏ニ面接シ、私立大学ノ發起者トナリ県下ノ募集金等ニ尽力アラン事ヲ乞ヘリ

○同十六年十月一日ノ頃ヨリ浜岡氏ト協議ノ上、先京都府下ニ於テ二十又ハ三十名ノ發起人トナルベキ者ヲ募リ、若干ノ發起人仮ニ金額募集ノ法方等ヲ予定シ、然シテ後近畿ヲ首トシ他府県ニ拡ク賛成者ヲ募リテハ如何ト申合セリ、是ニ於テ府下ノ有志家数名ニ奔走面説シ發起人タラン事ヲ乞ヒ、且京都府郡区ノ常置委員諸士ニ發起人タラン事ノ文書ヲ呈セリ、其文書左ノ通

〔上欄〕  
「京都常置委員ニ書ヲ送ル」

○寸楮拝啓致候、秋冷ノ砌リ愈々御多様奉大賀候、陳者兼テ御承知有之候処ノ同志社英学校モ近時校規稍立學則モ亦大ヒニ普通高尚ノ域ニ進メ漸次進歩ノ色ヲ呈シ、卒業生モ業已ニ今年迄ニ五十有余名ヲ挙げ候得共、始メヨリ我輩ノ目的ハ智徳両全ノ教育ヲ以テ終ニハ大学ノ位置ニ進メ申度企図罷在候事ナレバ、方今内ハ學問ノ必要ヲ測知シ外

ハ国家文運ノ大勢ヲ顧ミ、先第一ニ法律専門校ヲ創立仕度ト存ジ去年来段々計画罷在候処、一専門校トテ中々容易ノ事ナラザレバ江湖有志家ノ賛成資助ヲ得サル上ハ元ヨリ其目的ヲ達スル事出来申サズト固ク相信シ申候、然カレバ先其本州タル京師ニ於テ發起人若干名ヲ得予メ資金募集ノ法方等ヲ仮定致シ、其上ニテ更ニ發起人ノ周旋ヲ相願ヒ広ク大方ノ有志賛成者ヲ相募リ数年内ヲ期シテ是非共大学ノ基礎ヲ相定度存候間、諸彦ニモ経国御多忙ノ御身トハ推察致シ候得共發起人中ニ御加名被下度奉願候、何レ發起人相定候節ハ万事發起人ト御相談ノ上募集金ノ法方等決定致度積ニ御坐候、尚御承諾ノ否ヤハ大学創立事務所寺町通丸太町上ル新島襄方迄御報知被下度候、草々謹言

明治十六年十月四日

山本覚馬

浜岡光哲

中村栄助

新島 襄

京都府区部常置委員御中

同 郡部常置委員御中

○中村栄助氏ハ同志社々員ナルニヨリ、始メヨリ襄ノ請ニ依リ發起者トナル

○襄ハ浜岡氏ノ照会ヲ得テ左ノ三氏ニ面談シ發起者ノ任ヲ委托ス、三氏皆承諾セラル

上京区堺町通御池下ル

市田文次郎氏

内貴甚三郎氏

○明治十六年十月十日、襄京都商工会議所長高木文平氏ニ面会シ發起者タラン事ヲ乞ヒシニ氏直ニ承諾セラル

○同十六年十月十一日、磯野小〔右〕衛門氏ニ大学ノ事ヲ語ル、氏ハ明治八年ノ頃乃同志社創立ノ以前ヨリ襄ノ事ヲ知ルヲ以テ、直ニ承諾シテ發起人中ニ加ハラント云ヘリ

○同十六年十月中、川東二王門通新柳馬場竹鼻仙〔右〕衛門氏ニ面会シ發起者タラン事ヲ乞フ、氏之ヲ承諾ス

○同十六年十月中、和歌山ノ人中西光三郎氏其息子ヲ同志社ニ入レ教育ノ事ヲ委托セラル、襄氏ニ説キ發起者ノ中ニ加ハラン事ヲ乞フ、氏之ヲ了諾ス

○同十六年十月中、伊東熊夫、西村七三郎ノ二氏ニ發起者タラン事ヲ説且乞フ、伊東氏ハ直ニ承諾セラレ、西村氏亦日ヲ経テ承諾セラル

○同十六年十月十一日、襄丹波ノ人田中源太郎氏ニ面談シ發起人タラン事ヲ懇々説談ス、氏之ヲ固辞シテ曰ク、近時米価ト地価大ニ下落シ加之今夏ノ旱魃ヲ以テ村落非常ニ困難ニ瀕シ、殊ニ当今ノ不景氣ニテハ到底賛成者ヲ得ルノ見込ナシ、只時機ノ未ダ至ラザルト知ル依テ断然發起人加名ノ儀ヲ辞スト云フ、於是襄時機々ト言テ何時ニ時機ノ来ル乎誠ニ時機ノ来ルコソ見込ナシ、殊ニ大学設立〔ノ〕挙ノ如キ一朝一夕容易ニ功ヲ奏スルモノニアラザレバ、漸次広張ノ見込ヲ以テ今ヨリ發起スルノ必要ヲ語リケルガ、氏ハ前陳ノ見込ヲ以テ固辞セラレタリ、而シテ其後ニ至リ漸ク發起人中ニ列加セリ

○京都区部議員ニテハ西村七三郎、安本勝治ノ両氏及西堀徳三郎、下妻庄〔右〕衛門ノ二氏發起人タル旨承諾セラル  
○其他襄ハ京都ノ有志家及ヒ近郷ノ有志者ニ發起人タラン事ヲ説キ且乞フ者十数人ニ及ビシガ、承諾スル人モアリ又

タ断然謝絶ヲ受ケシ人モ少ナカラズ、其姓名ノ如キハ別ニ名簿ニ登載スベケレバ今爰ニ記セズ

明治十七年

○明治十七年一月十四日、伊東熊夫氏ヨリ郡部常置委員中ニテハ同氏ノ外独リ丹波人川勝光之助氏アル而已ニシテ、他ハ辞退シ或ハ未定ノ趣申来レリ

〔上欄〕  
「始メテ相談会ヲ開ク」

○同十七年一月十九日夜、仮發起人ノ相談会ヲ新島襄宅ニ開ク、此夜来会スルモノ浜岡光哲、高木文平、伊東熊夫、西村七三郎、田中源太郎、川勝光之助、安本勝治、河原林義雄、竹鼻仙〔右〕衛門、正木安〔右〕衛門、多貝藤〔右〕衛門、中村栄助ノ十二君及ビ新島襄也、襄ハ始メニ同志社英学校ノ起原ヲ略述シ、且ツ今ノ我邦ニ於テ私立大学校ヲ起スノ必要ナル理ヲ説キ、併テ最初法学部設立ト思ヒシモ文学部設立ニセントノ説モアリト聞キタレバ、何レヲ採択スルモ諸君ノ熟議ニ任セント云ヘリ

〔上欄朱〕

『明治十七年』法学部ヲ文学部ト更正ス」

然カシテ当夜尤モ重ナル相談ハ此一事ニシテ、終ニ相談ノ上同志社大学校設立旨趣書ニ法学部設立トアリシヲ取消シテ、更ニ文学部設立ト改メ、内ニ歴史、哲学、政事、経済等ノ諸科ヲ連帶スル事ニ定メ、且ツ旨趣書ニ年々四千元ノ利息ヲ生スベキ元金云々トアリシヲ三千元ノ利息ヲ生スベキ云々ト更正セリ、是レ乃相談ノ要旨ニテアリキ、而シテ田中氏ノ名称位置ヲ定ムル等ノ説アリタレトモ、是レ等ハ末流ノ事ニシテ大学設立ノ發起人トナルベキ者ヲ定メザルベカラズトノ説起リテ、伊東氏ハ發起者トナルノ志ヲ陳ベ此挙ヲ賛成セサレバ他ニ賛成スベキモノナシト云ヒ、高木

氏モ賛成、新島氏ノ教育ニ熱心ナル此人ト偕ニ応分ニ助力セント云ヒ、浜岡氏ハ今此所ニ集会スルモノヲ發起者トナシ漸次發起人ヲ広張増員スベシト云ヒ、終ニ以上十三人ト山本、市田、内貴、磯野ノ四氏モ合セ十七人ノ發起者定ル、而シテ独リ当夜来会セル石田真平氏而已發起者ノ任ヲ退辞ス、且又曩ニ浜岡氏ノ草案セシ發起人及ヒ資金募集ノ法方ヲ仮案トシ、其レニ名々意見ヲ附シ、更ニ来ル三月ヲ以テ發起人ノ大会ヲ開ク事ニ決シ、乃右ノ法学部ヲ文学部ニ更正シ、發起者トナルベキ人及ビ三月大会ヲ開ク事ノ三要件ヲ定メ十時半ヲ以テ散会セリ

〔上欄〕  
「發起者定ル」

○發起人トナリシ者左ノ通

浜岡光哲 高木文平 西村七三郎 田中源太郎 伊東熊夫 安本勝治 河原林義雄 竹鼻仙〔右〕衛門 正木安

〔右〕衛門 多貝藤〔右〕衛門 川勝光之助 内貴甚三郎 市田文次郎 磯野小〔右〕衛門 中村栄助 山本寛馬

新島襄 以上十七人也

○襄ハ約ヲ踏テ一月廿四日、發起人及ヒ資金募集ノ草案右十七人ニ郵送シテ各意見ヲ附センコトヲ乞フ

〔上欄〕  
「学校教育ノ主義ヲ定ムルノ論起ル」

一月十九日ニ於テハ、来ル三月ヲ期シ發起人ノ総会ヲ開ク筈ナリシガ、二月往キ三月去リ遂ニ四月一日ヲ以テ京都商工会議所ニ大会ヲ開ケリ、而シテ一月ヨリ今ニ至ル迄本校設立ノ為メ尤モ賀スベキノ事件アリ、乃本校教育ノ主義ヲ定ル事は也、此論ヲ実施スルニハ必ラズ多少ノ不都合ヲ来スナラント思ヒシガ、田中源太郎氏等亦同意スル処トナリ、乃四月一日ニ於テ新島襄外同主義ノ輩基督教道徳ヲ基本トスル学校設立ノ志ヲ貫カント欲シ此会ヲ開クニ到レリ、田中源太郎、新島襄氏ハ此会ニ付尤モ力メタリ

〔上欄〕  
「四月一日ノ大会」

当日ハ雨天ナルニモ関ハラズ府下名望ノ士（多クハ府會議員）七十余名程モ集リタリ、田中源太郎氏会ヲ司ドリ、本校設立ニ付教育ノ主義ヲ定ムル論ノ起リシ次第ト本会ヲ開クノ理由ヲ略演シ以テ来衆ノ注意ヲ促ス、先ツ第一ニ同志社雇入教師ジエー、デー、デヴィス氏泰西ノ私立大学校ハ必ズ愛人、愛国、敬神ノ大旨ヨリ起リシ事、又タ其私立ナルヨリシテ生ズル子弟教育ノ結果ヲ丁寧ニ演ベラレ、第二ニ同校教員市原盛宏氏ハ精神身ニ溢ル、計リニ、泰西ノ道德即チ基督教ヲ根基トシテ德育智育ヲ授クル学校ノ必要ナルヲ演ベ、又タ今日文部省ガ近時旧勢力ノ道德ヲ維持セントスル不可ナルヲ証セラレ、第三ニ山本覺馬氏ハ今ノ日本ニ同志社英学校ノ如キ主義ヲ取レル大学ノ必要ナルヲ説カレ、第四ニ新島公義氏ハ泰西ノ文明テフ字義ニハ必ラズ基督教ノ道德ナル意ヲ含メルトノ事ヲ説キ、併セテ同志社英学校設立ノ始末書ヲ朗読セラル、第五ニ新島襄氏ハ泰西文物ノ隆興スル原理、基督教ノ道德ニ依リテ智徳ヲ進スル学校ヲ起スニ非ズンバ到底醇正ナル人物ヲ得ル能ハザル事、今ノ時ニ当リ此種ノ学校設立ノ急務ナル事ヲ熱心ニ演ベラル、満場肅然トシテ謹聴セリ、而シテ右諸氏ノ演説ヲ終リ、来場ノ諸氏ハ此道德主義ノ学校設立ヲ賛成スルヤ否ノ事ニ付交々諸氏ノ意見アリシガ、又復タ明二日ヲ期シ此場ニ会スル事ニ決シ、一統午後十一時ニ退散セリ、且終リニ同志社教師森田久万人氏ノ神学ト道德ノ関係、学校ト宗教ノ関係トノ略演説アリキ  
同ク二日同場ニ相談会ヲ開ク、会スル者廿二人、左ノ事ヲ決ス\*

綱 領

第一 本校ハ智徳両全ノ教育ヲ以テ醇正ナル人物ヲ養成スル事

第二 募集金総額ヲ七万円ト定メ、此金額ハ将来如何ナル事変ニ際会スルモ不可動事



第三 本校設立ノ位置ハ京都ヲ以テ其地トス

仮 則

第一 新島襄、山本寛馬ノ二人ヲ発企者ト為ス

第二 他人ハ一般賛成者ト為ス

第三 本校設立ニ付理事者七名ヲ撰ミ毎ニ発起者ヲ賛助セシム 但シ発起者ノ指名ニ任ズ

第四 本校ヲ明治専門学校ト称スベシ

第五 本校ハ向ヒ五ヶ年ノ後、乃明治廿三年ヲ期シ必ラズ開設スベキ事

募集金仮則

第一 募集金額ハ先ツ七万円トス

第二 募集法ハ理事委員ノ意見ニ任ズ

第三 募集金ノ終ル迄乃七万円ノ金額ニ達スル迄ハ、仮ニ大阪銀行ニ預ケ置ベキ事

第四 各府県下ニ地方部委員ヲ撰ミ置、其地方諸般ノ事務ヲ司ドラシム 但シ発起者ノ指名ニアリ

第五 外国人ハ一般賛成者ト同一ノ資格タルベキ事

四月四日、発起者ハ理事委員ヲ撰定ス

京都府下区部理事委員

浜岡光哲

中村栄助

高木文平

市田文次郎



西村七三郎

内貴甚三郎

竹鼻仙右衛門

同 郡部理事委員

愛宕郡

松野新九郎

葛野郡

田中常七

乙訓郡

正木安右衛門

紀伊、久世郡

菱木信興

宇治郡

吉井省三

綴喜、相楽郡

伊東熊夫

南桑田郡

田中源太郎

北桑田郡

河原林義雄

船井郡

奥村新之丞

何鹿郡

福井矢之輔

天田郡

田中喜間太

与謝郡

今林則満

竹野郡

足達又八郎

熊野郡

稲葉市郎右衛門

〔上欄〕  
「新島氏洋行」

四月五日、新島襄ハ洋行スルヲ以テ市原盛宏、森田久万人ノ二氏ニ發起人ノ代理ヲ委托ス

四月廿二日、田中源太郎、中村栄助、市原盛宏、森田久万人、新島公義ノ諸氏山本氏宅ニ会シ、田中氏ハ募集ノ草案ヲ作り、市原氏等以下ノ者ハ本校設立ノ趣旨ヲ作ル事ニ定メタリ

四月廿八日、田中源太郎、浜岡光哲、西村七三郎、市田文次郎、内貴甚三郎、森田久万人、市原盛宏、新島公義等ノ諸氏山本氏宅ニ会シ明治専門校ノ規則ヲ制定ス、且ツ新島公義ハ明治専門校設立旨趣ヲ草稿スル事ヲ委任セラル、又五月廿日迄ノ本部事務ヲ托セラル

〔上欄〕  
「設立ノ旨趣書成ル」

五月十四日、明治専門校設立ノ旨趣成ル、新島公義氏ノ草文スル処タリ

五月十七日、理事委員及ビ増田充績、城多虎雄君等山本氏宅ニ会シ義捐金取扱ノ手續ヲ談ズ

〔上欄〕  
「第一回報告」

五月廿一日、本校第一回賛成者七十一名ノ報告ヲ為ス、京都滋賀新報ハ廿九日ノ紙上ニ広告セラレタリ

〔上欄〕  
「銀行ト条約成ル」

五月以来八月迄ハ別ニ記スベキ事ナシト雖トモ、専門校旨趣書ヲ大方ニ出セシ分ハ六百五十有余部ニ至ル、而シテ七月一日ニハ發起人新島襄代理新島公義、山本覚馬、証人浜岡光哲三名ノ調印ヲ為シテ京都第一国立銀行ト条約書ヲ取換ス（条約書ハ別ニアリ）

〔上欄〕  
「小相談会アリ」

八月十一日、相談会ヲ開ク、会スル者田中源太郎、浜岡光哲、中村栄助、竹鼻仙右衛門、森田久万人、新島公義ノ六氏ナリ、新島公義ハ五月以来旨趣書配送ノ事、銀行約条ノ事、賛成家へ報道ノ事及ビ雜件担任セシ事項ヲ報ズ、本日相談ノ重ナルモノハ、専門校ノ機軸ヲ定メ其人ヲ得ル如何ニアルトノ事ニテ、機軸其人ヲ得ズンバ本校拡張ノ運転期スベカラズトノ事ニテ、新島襄氏帰朝ノ日迄ハ仮リニ新島公義氏ヲ以テ其任ニ当シコトヲ乞ヘリ

且ツ毎月廿一日ヲ以テ理事委員ノ会日ト定メ、浜岡、中村ノ二氏ハ一日乃毎月三回新島氏宅ニ集ル事ニ定ム  
八月五日、和歌山県ノ人原権四郎氏金拾円ヲ義捐セラル

九月一日、丹波ノ人坂部確氏ヨリ金五十錢ヲ投セラル

十月以来十二月ニ至ル迄別ニ記スベキ事ナシ、沢辺正修君ハ大坂ニ在リテ数人ノ賛成者ヲ募リ報道シ呉タリキ  
追加

六月上旬、新井毫氏旨趣書巻百部ヲ携ヘ伊賀上野、名古屋、静岡等ノ各地ニ遊説ス

〔上欄〕  
「明治十八年」

明治十八年

一月、新島公義ハ大津ニ趣キ滋賀県常置委員馬場新三、林田騰九郎ノ二氏ニ面会シ賛成者タラン事ヲ乞ヒシニ、二氏ハ他日一小集会ヲ催シ有志ノ輩ヲ集メ、吾人が教育ノ素志ト大学設立ノ精神ヲ聞カン事ヲ望マル、因テ其周旋ヲ両氏ニ托シヌ

〔上欄〕  
「通帳ヲ作ル」

三月上旬、田中原太郎、浜岡光哲、中村栄助、新島公義ノ四氏中外電報社楼上ニ会シ種々相談ス、要スルニ今ヤ本部ニ於テ主任トナリ幹旋スル者ナキ故ニ新島襄氏ノ帰国ヲ待チ其面目ヲ一新スル所アルベシト決シ、先募集金ノ通帳ヲ作り之ヲ京都市中ノ賛成者ニ渡サバ如何ト、乃チ専門校義捐金通帳二百部ヲ制シ其渡シ方ヲ中村栄助氏ニ乞ヘリ

〔上欄朱〕  
明治十八年 大津ノ集会

五月廿日、前約ヲ踏ミ馬場新三、林田騰九郎、高田義助ノ三氏会主トナリ大津魚清楼ニ於テ一小集会ヲ開ケリ、市原盛宏、新島公義ノ二氏趣キ、吾人教育ノ素志ト純全ノ道德ヲ主本トシテ日新ノ學術ヲ攻究スル私立専門校ノ必要ナル所由ヲ開陳シヌ、当日来会シタル人々ハ常置委員、諮問会員、大津商工会議所ノ重立タル人ニシテ廿八人ナリキ

去年五月第一回賛成者報告以来本年六月三十日ニ至ル迄、田中原太郎、沢辺正修、中村栄助君等ノ尽力ニヨリ賛成者ヲ得ル事三十人ナリ

又義捐金額ヲ定メ本部ヘ申込ミシ者廿人ナリ

十二月十七日、新島襄米国ヨリ帰朝ス

明治十九年

十二月十二日、京都倶楽部ニ於テ浜岡光哲、伊東熊夫、川勝光之助、河原林義雄、中村栄助等ノ諸君一小集会ヲ開ク

同十四日、新島襄ハ京都区、郡部府会議員諸君ニ一書ヲ呈シ、本校創立将来ノ計図ニ付一集会ヲ開キ度旨ヲ以テセリ

同十五日、京都商工会議所ニ於テ一集会ヲ開ク、来会ノ諸君ハ郡部ノミニテ其数総テ廿六人ナリ、先ヅ新島公義氏十七年五月發起以来今日ニ至ル迄事業ノ要ヲ陳ブ、新島襄ハ本校将来ノ大成ニ関シ諸君ニ熱望スル所以ヲ陳述ス、扱

懇談熟議ノ末京都府下各郡ニテ毎年金五拾円宛、即チ毎年金貳千円宛ヲ各有志者分任シテ募集スル事ニ決定シ散会シヌ

明治廿年

〔墨丸、以下同〕

○四月上旬、久世郡宇治菱木君ノ周旋ニヨリ新島襄氏小倉校迄出張シ、該校ニ来会シタル該地方ノ有志家七八十名ニ向ヒ専門校設立ノ必要ヲ陳シタレハ、彼等大ニ教育ノ大切ナルヲ感シ賛成ノ意ヲ表セラレタリ

○同月下旬、菱木氏ノ周旋ニヨリ再ヒ久世郡寺田校ニ専門校募集ノ為有志家ノ集会ヲ催シ、新島襄氏ノ出張ヲ求メラレシガ、同氏ハ重病ニ罹リ其ノ需メニ応シ得サリシヨリ、同姓公義ヲ代理トシテ該校ニ出張セシメ一場ノ演説ヲ為シメタレハ、大ニ聴衆ノ感情ヲ惹起セシニヤ、聴衆中ノ幾分ハ再ヒ公義ニ求メ演説セシメタリ、以上二回ノ集会ニヨリ五十名ヨノ有志賛成ヲ得タリ

但シ有志家ノ姓名ハ姓名簿ニ登記ス

〔上欄〕  
〔乙〕

○五月、新島襄ハ本校創立募金ノ為メ府下各地ヲ遊説セン事ヲ期シタリシガ、不幸ニシテ身重キ病ヒニ罹リシノ故ヲ以テ、九月五日中村栄助、浮田和民、新島公義ノ三氏ハ代リテ京都ヲ発シ、兩丹州中亀岡、園部、綾部、福知山、宮津、舞鶴、峰山等ノ各地ヲ遊説シ寸進尺歩創立ノ準備ヲ図ル、遊説ノ三氏ヲ迎ヘ尽力ノ勞ヲ辱フシタルモノハ官民ヲ問ハズ、而シテ重達テ幹旋セラレタル者ハ二国各郡々長陶不齋二郎氏、石田真平氏、稲葉市郎〔右〕衛門氏、柳島誠氏、野田新氏等ニシテ、二国ノ府会議員中ニテハ田中源太郎、川勝光之助、垂水新太郎、松本巳之助、谷紀

百、片岡健之助、大志万重魯、大槻藤左衛門、岩田誼太郎、土井市兵衛、糸井徳之助、西原利兵衛、安達又八郎、西垣虎吉等ノ諸君ヲ始メ各郡ノ有志家名望家等、皆ナ五里或ヒハ七里ノ道程ヲ越ヘ来リテ三氏ノ遊説ヲ助ケラレタリ、三氏亦感慨シテ自治独立ナル私立大学ノ要理、同志社教育ノ精神及ビ社長新島ガ曾テヨリ辛苦經營シテ現今ノ同志社ヲ設立シタル始末ヲ演ジ来ル時ハ、各地ニ於テ来会ノ人皆感ニ入テ之ヲ翼賛スベシト云ハザルモノナカリシ、三氏旬日ニシテ帰京ス

〔上欄〕  
〔甲〕

六月、浜岡光哲氏ニハ兼テ専門校創立ノ事ニハ初メヨリ熱心賛成セラレ、自ラ負任シテ此ノ業ヲ助ケラレシガ、同氏モ近々洋行ノ計画アリ一年間ハ不在ニナルヘキ所ヨリ、特ニ田中源太郎氏ト計リ新島襄ヲ京都俱樂部ニ招キ山添直次郎氏ニ紹介シ、同氏留守中専門校ノ運動ハ此ノ兩人ト相談アルベキ旨陳セラレ、共ニ晚餐ヲ喫シ時ヲ移シテ去ル  
○十二月中、新島襄ヨリ夏中、中村、浮田、新島ノ三氏出張先キ懇切ナル取扱ヲ受ケタル人々、特ニ郡長府會議員ニ当テ謝礼狀ヲ送呈セリ

十二月中、新島襄氏ハ府会ノ為来府シタル各郡議員等ヲ一々其ノ止宿ニ付キ面会シ、已往ノ尽力ヲ謝シ尚将来賛成ノ事ヲ囑托ス

明治廿一年

○一月、南山城相楽郡上狛村ノ人柳沢三郎君（元府會議員）書ヲ新島襄ニ寄せ、本校創立募金ノ集会ヲ開カン事ヲ謀ラル、因テ森田久万人、加藤勇次郎ノ両氏代リ往テ、吾人教育ノ平素ノ精神ヲ説ク



○同月廿日、当初ヨリ本校ノ創立ヲ賛成セラル、府會議員河原林義雄、野尻岩次郎兩君ノ尽力ニヨリ丹波国北桑田郡周山村ニ募集金ノ集会ヲ開ク、新島氏ニ代リ公義、中村栄助君ト共ニ該村ヘ趣キ、現今同志社ノ事業ノ実況ト私立大学ノ要旨ト吾人教育ノ宿論ヲ陳ブ

○二月十八日、又タ南山城相楽郡上粕村篤志者ノ招キニヨリ、新島公義奈良ヨリ趣キ演説ス、篤志者ハ寄附金ノ事ヲ即決ス

一月以来新島襄ハ屢田中源太郎氏ヲ訪ヒ、府下ニ於テ有志家募集ノ法方等ニ付相談ス

○二月二十日、新島氏ハ米国行資金ノ工風ヲ為サン為大坂ニ下リ、土倉庄三郎氏ニ面会シ同氏ノ助ケヲ乞ヒタレハ、同氏ニハ快ク承諾シ、先ツ専門校寄附金ノ内二千円ヲ渡シ呉ル、事ニ決シタリ

○二月二十一日午前、途上不図モ小西氏ノ手代三木正起氏ニ逢ヒタリ、翌日氏ハ襄ノ旅店土佐堀二丁目岡本屋迄來訪シ、是非一二ノ有志家ニ面会セヨト丁寧ニ勸メ呉レタリ、然ルニ此ノ朝大川町淀屋橋南詰東ニ入大塚磨氏ノ方ニ宮川経輝氏ト同行スルノ約ヲ為シタレハ、漸ク三木氏ノ勸メヲ辞シ先大塚氏ヲ訪ヒ、而シテ三木ノ方ニ趣キタリ、三木氏方ヘ來訪シタ兩人ハ田中城太郎（大坂西区幸町通四丁目十九番地）寺島武太郎（鳥取県土族）ニシテ大ニ我カ輩ノ挙ヲ賛セラレタリ、此ノ二人ニ面会シテ時ヲ移ス事一時間ヨ、近傍ノ一樓ニ於テ午餐ノ馳走ヲ受ク、而シテ互ニ別レタリ、各応分ノ力ヲ尽スヘキヲ断言セリ

○大塚磨ハ一奇人ニシテ己レノ財産ヲ学者ノ手ニ渡シ使用シテモライタシト申シ居レリ、新島襄ハ同氏ニ向ヒ何分同志ニ預ケ呉レト懇々頼ミ置キタリ

岡崎高厚氏ヲ訪ヒ、托スルニ専門校有志金募集ノ義ニ一層尽力セラレン事ヲ以セリ



○三月八日、井上伯ノ来神スルヲ以テ、新島襄ハ態々同伯面会ノ為土倉氏ト同道シテ神戸ニ趣キ、川崎氏ノ別荘ニ於テ同伯ニ面談スルノ機ヲ得タリ、但シ此ノ行ハ同伯ニ専門校賛成ノ事ヲ托セントノ企ナリキ、同伯ニハ四月上旬京地ニ来遊ノ際寛々面談スヘシト約セラレタリ

○三月十九日、陸奥宗光氏来訪ス、先キニ同氏ノ大坂ニ来リ勢州ニ趣カントスルトキニ一書ヲ遣シ、勢州ヨリノ帰途京師ニ立寄ルヘキ旨ヲ通シ置カレ、而シテ十九日ノ午后来訪アリ、縷々閑話ノ間襄平素焦心忘レサル所ノ大学ノ事ヲ以テ氏ニ談シ、同氏ノ賛成ヲ乞ヒ又大ニ尽力セラレン事ヲ依頼セリ

但シ氏ノ当地ニ来リシハ米國赴任ノ前郷里ノ和歌山勢州等ニアル親族ニ告別ノ為ナリト、五百円ノ寄附ヲ約ス

○三月二十日

山本覚馬、新島襄兩人ノ記名ヲ以テ招状ヲ出シ、京都区部理事委員ヲ京都俱樂部支部ニ集メ、区内ニ於テ有志金募集ノ方法ヲ議ス、来会スルモノハ七名ノ内、内貴甚三郎、高木文平、西村七三郎、中村栄助ノ四氏ナリ、山本氏ハ病氣ノ為ヲ以テ来会セス、此夜新島氏ト四名ノ理事委員ニテ決議セシ所ハ、現今ノ委員ニ尚数名ノ委員ヲ増加シ各手ヲ分チテ広ク区内ノ財産家ニ接セントノ計画ニ止マレリ 市田、竹鼻ノ両氏ハ来会セス

三月二十一日、金森氏ハ同志社ノ代人トナリ東京五大新聞社員、国民之友、其ノ他ノ雜誌社員ヲ富士見軒ニ招待シ、同志社大学ノ事ヲ以テ来賓ニ談話ス

諸新聞ニ登録シタル事左ノ如シ

〔上欄〕  
「朝野」

〔添付・印刷物〕

「○京都の同志社英学校 新島襄山本覚馬の両氏か去明治八年京都に設立したる同学校は、両氏ハ勿論教師等の尽力に依り日を逐ふて盛大に赴き、殊にアメリカンボード教会より年々三四千円余の補助金を寄附し教員九名を派遣せるを以て、之れに授業料を合すれば充分維持の出来るのみならず猶ほ余裕あるを以て次第に校舎を増し教則を改良し、現在の所にてハ外国教師九名、内国教師七名あり、生徒は三百五十名にて内三百名は英学部、五十名は既に英学部を卒業して神学部生たり、外に予備校の生徒二百名と女学校生徒百名あり、英学部の教科は高等中学校の教科より稍々卑き方なれとも行く／＼ハ之を高等中学校の課程に進め、尚ほ法科理科文科医科工科等の諸科を設け之を明治専門学校と称し私立大学の位地に進むる考なり、此私立大学の事は新島氏か最初よりの宿志にして、其事は新島氏の米国渡航の歴史と共に面白き物語なること同志社の創立始末を知れる世人の熟識する所なり、新島氏ハ幸にして今ま其の宿志を挙行すへき機会に到着し段々京都地方有志者の賛助をも得たれとも、是れ固よりナカ／＼の大事業にして法理文医工の五科を一時に設ることハ随分容易ならず、依て先づ其内にて最も費用少きものより設ることに決せり、資金は各県下及び米国に於て広く有志者の寄附を募る筈にて、教員金森通倫氏は東京にて寄附を募るため此程上京し、新島氏ハ成る可くは近々自から米国に渡航して同国なる旧知己教友の寄附を募る積りの由なり、又た同校現在の建物は六七百人を入るゝ礼拝堂及び各々六十人を入る講義室八間と寄宿舎十一棟あり、五六百人を寄宿せしむへし、外に女学校、予備校及び病院、看病婦学校ありと云へり、余輩ハ何とぞ斯る美挙の首尾よく成就して新島氏の宿志を達し、即ち国家の大福を致すへきを望むなり」

○関西に独立せる専門学校 目下教育上の事業ハ俄に發達して、全国の輿論全く茲に傾きたる勢あれども、其

の目的ハ普通教育に止まり、又専門学校の教授に至りてハ官立大学の外、東京の五六学校に限りたれとも、是れ  
 とて皆多少政府の保護を仰かざる者なきの時に当り、兼てより関西に名高き西京同志社の新島襄氏は同地の名士  
 山本覺馬氏と結社し、明治八年十一月始めて私塾開業の公許を得しより同志社英学校なるものを開き、大に少年  
 子弟の教養に尽力せしに、其の教師の人を得たると校規の宜きを得たるに由り而、後卒業せしものの中にハ優秀  
 の学生ありて立派に独立する人々もある由なるが、同十六年四月に至りて同氏等ハ、私立大学校設立の旨趣を帥  
 して弘く有志家に謀りしに大に其の賛成を得しより、翌十七年四月京都に大会を開きて校名を明治専門学校と改  
 めたり、其の教授の目的を聞くに智徳并進の主義に基きて諸学科を専修せしめ、資本金の惣額を定めて七万円と  
 なし、学科ハ先つ文学部より着手し漸次に法理医学部に及ぼさんとの計画にて、同校の教師金森通倫氏は今回出  
 京の上右学校の拡張維持資金を募集し、内外有志家の賛助を得て愈々年来の宿志を遂げん事を望まるゝ由なり、  
 従来同校ハ米国ボード教会より、毎年三四千円つゝの寄附金を受け、外国教師九名ありて親切に教授せられ、現  
 在の建物ハ煉瓦石造の広大なる礼拝堂、講義室及び寄宿舎等にして、外に女学校、予備校、病院、看病婦学校迄  
 も揃ひ居り斯くまで基礎の確立せしか上にも、彼の新島氏が明治維新前に当り慨然志を立てゝ米國に航遊し、千  
 辛万苦を嘗めたる上にて国民の教育ハ文明の基なりとの見込を立て終に大に内外人の信用を得、彼の碧山州ロト  
 ランド府に於て伝道会社の大会議に出席し、慷慨悲憤なる一場の演説にて忽ち五六千弗の寄附金を獲たる精誠と  
 勇氣とを以て、今度愈々右の事業に取掛り、其の教育上の目的ハ挺然特立して自営自主の節操を立つへき志士を  
 養成せんと云ふに在る由なれば、右専門学校の建設に就ては此上内外同志者の賛成寄附を得らるゝ事決して難か

らさるべし、尚は同校教師金森通倫氏は赤坂榎坂町五番地湯淺治郎氏方に寓居せり」

「上欄  
時事」

〔添付・印刷物〕

「○明治専門学校設立の計画 西京同志社新嶋襄山本覚馬の両氏が発起と為り、今回西京に私立の専門校を起し専ら民間の資力に依り高等深奥の学を教授する独立の大学を建設せんと京都府會議員其他関西地方に於て有力の人々に計りたるに、孰れも賛成ならざるなく各応分の義捐を為さんと云ふに決し、取敢へず先づ広く創立賛成者を募り全国同志の漏れざるやう計画の立ち次第直に同校の建築経営に着手するよし、同校は第一智徳並進の主義に基き諸学科を専修せしむる事、第二資本金総額は将来如何なる事変に会するも動す可らざる事、第三京都を以て本校設立の位置と為す事の三項を以て永世不易の原則と為す者にて先づ始に文学部を置き文学、歴史、哲学、政事、経済等の諸学を講究せしむるを主眼とし文学部設立の資本として金七万円を募集し漸次法、理、医の諸学部をも設置するの都合なり、且つ同校の資本金は総て内外賛成者の義捐より成る可きものとして其金は総て公債証書に交換し確実なる銀行に預け置き其利子のミを以て同校の創立及び維持の費に充るの予定なるが、関西地方の有志との相談は曩に粗ぼ整ひたるを以て新嶋氏の代として金森通倫氏が此程東京に來り広く之を諸同志に計るの傍ら、府下にて重なる官私学校の模様を取調べ就中東京帝国大学及び第一高等中学等の実地を觀察し其用の終り次第日ならず西京に帰り打合せの上弥よ／＼実地の経営を為すとのこと、又同校の創立事務本部は当分仮に京都上京区第二十二組松蔭町新嶋襄氏の宅を以て之に充て、地方の事務所は近々設置の運びなる由、純然たる私力を以て大学を起し関西地方学問の権を西京に掌握せんとするの挙は全国の有志挙げて賛成する所なるべし」



〔余白〕  
「毎日」

〔添付・印刷物〕

「○明治専門学校設立の計画 京都の同志社にては今度同府に専門学校を設立するの計画ありて、同社英学校長新島襄氏の代理金森通倫氏が諸事協議の爲め上京せられたる由は前日の紙上に記したるが、今又親しく同氏より聞く所に抛れば、現在の同志社英学校は京都なる元薩摩屋敷に在りて塾舎は八棟ある由なるが、今度更に五棟ほど新築中なりと云へば落成の上へ都合十一棟となる筈なり、此外に煉瓦造りの礼拝堂、講堂、書籍館あり、礼拝堂は凡そ六百人を講堂は四百人を書籍館は六七十人を入るゝに足るべし、現今の生徒は本校に在る者三百五十人内三百人は英学生徒にして普通の学課を修め、五十人は神学を専門とする者なり、又予備校あり其生徒の数は凡そ二百名にして教師は外国人九名内国人七名助教四名なり、又女学校あり看病婦学校あり病院あるが、女学校の現在生徒は百六十名計にて教師は外国人四名助教数名なり、今同志社学校の起原を聞くに現今の校長新島襄氏は元治元年の初め上州安中藩を脱して函館に赴き、同年六月中国禁を犯して米国商船に乗込み同国に行てポストンなるアムホルスト大学に入り日夜学業を修め、余暇あれば同国各地を遊歴し務めて建国の規模を探り、遂に同国文明の基礎は教育に在ることを発見せり、是に於て始めて日本に私立大学校を設けんことを決心し明治七年に帰朝せられたり、氏が米国を発程するに先ち同国伝道師の大会ありたれば氏も亦此会に臨んで一席の演説を爲し、日本に一の私立大学校を設けんと欲すれば有志の方々ハ応分の助成ありたしと請求したるに、会場の四方より我ハ一千弗を寄附すべし我ハ五百弗を寄附すべしと相踵で募に應ずる者甚た多し、依て氏は此寄附金を携へ歸りて遂に今の同志社英学校を建て目下の盛況を致すに至りたるなり、然るに今度右学校の学科を一層高尚にして高等中学校と同等の地位に進め、別に専門学校を設けて官立大学校と並び立たしめんとの目論見あり、現に京都

〔上欄〕  
「公論」

〔添付・印刷物〕

府會議員其他の有志者中にも之を賛成する者甚だ多し、然るに此専門学校を建るには広く天下の賛助を得されば到底其目的を達すること能はざるを以て、今度金森氏が此等の事打合の爲め態々上京せられたるなり、元来同志社の主義は天下の教育を挙げて政府に委することを不可とし、又従来の教育は専ら智育に傾きて德育の事は度外に放棄するの有様なれば、同社にては智徳兼備の教育を爲し且つ独立自営の士を養成することを目的とする者なり、左れば追々社会の信用を得て昨年中生徒を募集したる時などは、九州四国中国諸県より来りて入学を志願せし者数百名の多きに至り、又今日まで専門学校設立の資本として金員寄附の申込を爲したる者も甚だ多しと云ふ」

「○明治専門学校設立の企 京都の同志社にてハ去る明治八年中より同志社英学校なる者を設立し、新島襄氏之れが校長となり専ら智徳兼備の士を養成せんとて鞠躬尽力せられし甲斐ありて、今や同校ハ大に天下の信用を得て、他日日本に独立自営の士を出すハ同校なるべしとまで世人の属目する程に立至りしが、元来同校の設立ありし始末を聞くに、今ハ昔し元治元年に当り現校長新島氏は窃に国禁を犯して米国の商船に乗り込み、米国に渡航してボストン府アムホルスト大学に入り、勉強苦学嘗て倦怠する所なく苟も学業の余暇あれハ諸州を歴遊して建国の規模風土人情を觀察することを務め、終に開明の起源ハ学校にして、制度文物の隆興ハ全く教育の力なることを観念し、他年帰朝の後ハ教育を以て自家の責任と為さんと心に誓ひ居られしに、明治の初年に至り故岩倉特命全權公使の米国に航せられしに会し、新島氏召されて随行の命を被むり、米国ハ勿論欧州諸国をも経歴して学政に関する者を究察し、大使の帰朝するに当り氏ハ再び米国に航してアントヴァ神学校を卒業し、明治七年の秋

に至り將に米國を辭せんとするや、偶々碧山州ロトランド府に於て亞米利加伝道会社の大会議ありしかへ、氏之に臨んで予ての希望なる日本に一の大學を設立し、眞正の開明文化と眞正の自由幸福とを日本國に導かんとの素志を演説して翼賛を求められしに、忽ち一千弗或ハ五百弗或ハ五十弗と統々寄附する者ありしかへ、氏此金を携へ歸りて明治八年始めて地を京都元薩摩屋敷に卜し、今の同志社英學校を設立したる者なりと云ふ、目下該校の有様ハ頗る盛大を致し、塾舎ハ八棟ありて此度三棟の新築中なりと云へハ、落成の上ハ都合十一棟となる由、又此外に煉瓦造の礼拝堂、講堂、書籍館等ありて、現在の英學生徒ハ普通学科を修る者三百名、神學を修むる者五十名、又予備校ありて凡そ二百名の予備生あり、教師ハ外國人九名、内國人七名、其他助教數名、又女學校ありて生徒百五十名を外國人七名、助教數名にて教授し居り、此外に看病婦學校及ひ病院を有し居る由なり、右の如く同志社英學校の有様ハ其基礎愈々鞏固となりしを以て、尚ほ進んて是れ迄の英學校の学科を高尙にして高等中學校と比肩せしめ、別に明治専門學校を設立して官立大學と同地位に立たしめんと計畫せらるゝも、此事たる決して易々たる事業にあらされハ、天下有志の賛成を得て千歳不動の基礎立てざるへからず、是により過日來より新島氏代理として同校教員金森通倫氏右等打合せの爲め出京し居らることなるか、今親しく同氏より聞く所にてハ、明治専門學校設立の永世不易の原則とする所ハ智徳並進の主義に基きて教授すること、資本金總額ハ將來如何なる事變に際会するも動かす可らざること、京都を以て設立の位置とするの三項にありて、明治廿三年を期して開校し先づ差当り文學部を設置し、文學、歴史、哲學、政事、經濟等を講究せしめんとの見込なりと云ふ、吾輩ハ今此學を聞き世の有志者が此美舉を賛成して相應の義捐を爲し、國家の爲め同胞兄弟の爲め、該校の基礎確立して目出度く開校の盛舉に會はんことを希望して已まざる者なり」



富士見軒宴会費用トシテ三拾円ヲ電送ス

○二月二十日、集会ノ決議ニヨリ左ノ十七人へ当、招状ヲ出ス

知事北垣国道君 書記官森本後凋君 下京区長竹村藤兵衛君 上京区長杉浦利貞君

河原町病院ノ上 常置委員 畑 道名君

三条河原町西ニ入 同 古川吉兵衛君

三条東洞院西ニ入紙屋 中井三郎兵衛君

四条御旅町 熊谷市兵衛君

不明雪駄屋町 辻 信二郎君

御幸町姉小路下ル 山添直次郎君

烏丸姉小路上ル第一銀行 三木安三郎君

三条烏丸東ニ入百十一銀行 辻 重義君

元誓願寺智恵光院西ニ入 渡辺伊之助君

三井銀行 浅井文右衛門君

柳ノ馬場姉小路下ル 雨森菊太郎君

上京小川一条下ル 常置委員 西堀徳二郎君

上京四組伊佐町 富田半兵衛君

寸楮拝呈仕候、春暖相催候砌御清適奉欣賀候、陳者兼而御存知ニモ可有之候通小生輩発起ニテ六ヶ年前ヨリ当府

下ニ専門校開設之義相企候処、漸々江湖有志家ノ賛成ヲ得候処、何分此事業タル当府下ニ於テ相起候事ナレハ、特ニ府下有志家ノ賛翼ヲ得ルニアラサレハ到底成功モ難期次第ニ御座候、依テ来廿七日午后第四時ヲ期シ京都仮俱樂部ニ於テ府下ノ紳士凡二十四五名ヲ御招待申、一応ノ御相談ヲ仰度奉存候間、貴殿ニモ御都合被成下是非トモ御臨席ノ程奉切望候、右得貴意如此候也 敬白

三月廿三日

明治専門校發起人

山本寛馬

新島襄

〔上欄〕  
「○三月廿七日」

右ノ招状ニ応シ、三月廿七日午后第四時仮俱樂部ニ来会スル者左ノ如シ

〔先〕  
「1」

北垣国道君

森本後凋君

竹村藤兵衛君

杉浦利貞君

畑 道名君

古川吉兵衛君

中井三郎兵衛君

不参  
熊谷市兵衛君

同  
辻 信二郎君

〔朱〕  
17

〔朱〕  
「従来ノ理事委員」  
6

山添直次郎君

三木安三郎君

〔補〕  
辻 重義君

不参 渡辺伊之助君

浅井文右衛門君

不参 雨森菊太郎君

西堀徳二郎君

不参 富田半兵衛君

田中源太郎君

大沢善助君

西村七三郎君

内貴甚三郎君

不参 高木文平君

同 市田文次郎君

竹鼻仙右衛門君

中村栄助君

不参 山本覚馬

新島 襄

○来会者十九人

○不参者八人

同日午后第四時ヨリ来会スルモノモアリタレトモ一時ニ集マラス、不得止六時迄待居リ、先大概揃フタル所ヲ認メ新島襄氏ヨリ来賓ニ一応ノ謝詞ヲ陳シ、続テ第一ニ青年陶冶ノ一日モ裕余スベカラサルヲ説キ、第二ニ此文化日進ノ時ニ遭逢シ、日本ノ国民タルモノハ奮テ各ノ義務ヲ竭サスンバアルベカラサルノ理由ヲ陳シ、終ニ府下有志家ノ賛翼ヲ得ルニアラスンバ到底成功ヲ期シ難キヲ述ヘ、同氏ヨリ折入テ来会紳士ノ尽力ヲ依頼ニ及ヒタリ

〔朱丸・以下同〕

○北垣知事ニハ大ニ私立専門校ノ挙ヲ賛成セラレ、先ツ其ノ美挙ナル事ト又人物養成ノ事ハ自治ノ政度ニ進マントスル今日ニ取り甚必要ナル事ヲ陳ヘ、国道一己人ノ地位ヲ以テ徹頭徹尾之ヲ翼賛シ、一日モ早ク此ノ挙ノ成功ニ至ルヲ望ムト、イト静ニ演セラレタリ、而シテ来会ノ両区長初府下ノ有志家ニ向ヒ、懇々此ノ美挙ヲ助ケテ成功ニ至ラシムヘキ旨ヲ勸メラレタリ

○森本書記官ニモ大ニ此ノ美挙ヲ翼賛シ、自己力ノ及フ限ハ賛助スヘシト断言セリ

○西村七三郎氏ハ打チトケテ互ニ発言シ、自由ニ各ノ意見ヲ陳スヘシト勸メラレタリ

〔朱丸・以下同〕

来会者中誰言フトナク此ノ来会者ハ尽ク賛成スルニ相違ナケレハ、皆理事委員ノ名義ヲ負担シテ寄附金募集ニ尽力スヘシト言ヒ出シタリ

来会者中理事ノ名義ヲ負フヲ辞スルモノアリシモ、一同之ヲ負担スヘキ旨ヲ新島氏ヨリモ依頼ニ及ヒタレハ、各先ツ承諾スル事ニ一定セリ

森本書記官ニハ別ニ集会アリシヲ以テ晚餐前ニ去ラレタリ

夕七時少々過キヨリ晚餐ノ卓ニ就ク

食ニ先チテ新島襄氏ノ祈禱アリ

食中新島氏ヨリ同志社々員ハ皆酒ヲ飲マサル連中ニ有之、来賓方ニ今夕ハ酒ヲ呈セサル理由ヲ陳シタレハ、来客一

同ヨリ却テ賛成ノ意ヲ表セリ

食事殆終リタルトキ田中源太郎来会ス

食終リテ各再席ニ就ク

種々ノ雑話中、新島氏ハ遂ニ米。国。行。ノ企。アル事ヲ發言シタリ

理事委員ハ各手ヲ分ケテ賛成家ヲ募ルヘキ事ニ決シ、且兩区长ヨリハ次回ノ集会迄ニ府下ノ有志家財。産家。ノ姓。名。取。調。ノ事ヲ承諾致サレタリ、来。四。月。五。日。午。后。六。時。食。後。早。々。集。会。ノ。事。ニ。決。シ。テ。散。会。セ。リ、時。已。ニ。十。時。半。ヲ。過。キ。タ。リ

此時ノ集会費ハ拾四円拾壹錢ナリ、新島襄氏ノ支弁スル所トス

区内ニ於テ先ツ三万円募集ノ事ニ議定ス

百 円	百 人		
五十円	百 人	$100 \times 100 =$	10,000
二百円	二十人	$50 \times 100 =$	5,000
三百円	十 人	$200 \times 20 =$	4,000
		$300 \times 10 =$	3,000
			22,000
			8,000
			30,000

此ノ割ヲ以テ募ルモ尚八千円ヲ欠クベシ

北垣知事ニハ寄附金募集簿ヲ取り自ラ三百円ト登記サレタリ

※翌廿八日、知事ニハ中村栄助氏ヲ招キ、寄附金三百円ヲ渡呉レタリ

〔墨丸・以下同〕

○三月廿九日、綴喜郡ノ喜多川孝経、奥繁三郎、田宮勇、伊東熊夫ノ四氏へ宛各一通ノ依頼状ヲ差出シ、専門校募集ノ為ニ集会ヲ開カレン事ヲ促セリ

○四月五日ノ集会ヲ倶楽部ニ開クヘキ事ニ決シ、更ニ招状ヲ出シテ左ノ十三名ヲ招待セリ

上京ノ部

〔上欄〕  
「上立売大宮東ニ入二丁目」

×第 組幸財町

安本宗七

第八組 横大宮町

岡本治助

第十八組下立売大宮東ニ入

船岡卯兵衛

第二十二組荒神口

正木弥太郎

第二十九組姉小路東洞院西ニ入

大橋弥兵衛

第三十一組御幸町御池下ル

藤井孫兵衛

河原町出町

青山長祐

下京ノ部

第十四組高瀬川筋松原下ル

清水吉右衛門

同 三組烏丸三条下ル

上野宇八

同 五組御幸町蛸薬師上ル

上島伝兵衛

同 七組新門前縄手東ニ入

中村茂兵衛

東洞院六角下ル カリ半

中村半兵衛

同 四組柳ノ馬場錦小路角

川端弥平

六角東洞院東ニ入

市田理八

三条烏丸西ニ入

西村治兵衛

新町雪駄屋町ノ角

竹村弥兵衛

田中源太郎君ニ托シ右ノ三氏ヲ招キ、又理事委員タラン事ヲ乞イタルニ、市田竹村ノ両氏ハ承諾セラレタレトモ四月五日ノ集会ニ来会ナク、西村氏ニハ理事委員モ謝絶シ又参会モセサリキ

○四月五日、前回来会セシ諸氏ノ外、尚皇張セン為改テ招状ヲ差出シタル人々モ六時過キヨリ倶楽部迄来会セリ、其ノ人名ハ左ノ如シ

尾越蕃輔君

畑 道名君

古川吉兵衛君

山添直次郎君

三木安三郎君

辻 重義君



雨森菊太郎君

西堀徳二郎君

田中原太郎君

青山長祐君

岡本治助君

西村七三郎君

内貴甚三郎君

高木文平君

中村栄助君

松山高吉君

金森通倫君

新島 襄

メ十八人

新島氏来会ノ紳士ニ一応ノ挨拶ヲ陳シ、近比東京ニ於テ五大新聞社員ヲ招キ、私立大学ノ事ニ関シ一宴会ヲ催シタル同志社教員金森氏ヲ紹介シ、大略東京ノ模様ヲ陳セシム、続テ新島氏ハ来会ノ紳士ニ向ヒ漸時ノ演説ヲ為シ、然シテ後尾越書記官ニ簡短ノ演説ヲ求ム

新島氏ハ東京ノ陸奥宗光氏ヨリ来簡アリ趣ヲ陳シ、殊ニヨレハ近々都合次第上京スヘキ計画ノアル事ヲ陳ス

高木氏ハ金ヲ募ルノ法方中何ソ簡易法ヲ設ケ置キ度旨ヲ陳ス、即チ即納年月賦ノ外納金ナキトモ其ノ金高ニ応スル  
利子ヲ納レテハ如何ト云レタリ、<sup>〔上欄〕</sup>「又即納人ノ少キ理由ヲ述ヘタリ」

田中氏ハ廿三年迄ハ即納年月賦等ヲ正則トナシ先ツ参万円ノ定額ニ達セシメ、而シテ又他ノ法方即チ利子ノミヲ納  
ル、等ノ法方ハ規則外ノモノ<sup>〔ニ〕</sup>ナシ置キ、先ツ此ノ三十六ヶ月間ニ何程ヲ納ムト云フ事ヲ定ムルヲ好トス 此  
ノ説ニ多数ノ賛成アリタルヲ以テ、三万円ヲ三年間ニ募集スヘキ事ニ決ス

○納金ハ第一、百十一、商工銀行ノ三銀行ニ於テ取扱フ事ニ決ス

寄附金高ヲ十三等ニ分ツ、即チ五百円ヲ以テ初メトシ拾円ニ至リ止ム

第一等 五百円

〳二 四百円

〳三 三百円

〳四 二百五十円

〳五 二百円

〳六 百五十円

〳七 百円

〳八 七拾円

〳九 五拾円

〳十 四拾円

ク十一 三拾円

ク十二 二拾円

ク十三 拾円

両区長ノ周旋ニヨリ、上下両区ニ於テ五百円以上所得税ヲ納メ得ヘキ財産家ノ姓名簿ヲ得タリ  
右ノ姓名簿ニ付キ財産家ヲ調査シ、先ツ十三等ノ寄附金ニ付予メ配当セシム  
七人ノ調査委員ヲ撰ム

上京区役所ノ書記

○青山長祐君

古川吉兵衛君

内貴甚三郎君

西村七三郎君

三木安三郎君

中村栄助君

○下京区役所書記 大沢敬之 岡本治助君

以上ノ七人ハ本月七日正午ヲ期シ織。殿。ニ集会シ、先寄附ニ応スヘキ人々ノ姓名、人員等ヲ調査スル事ニ決ス、右調査  
済ノ上時日ト場所ヲ撰ミ大会ヲ開ク事ニ決ス

大会ノ場所ハ人員如何ニヨル事ナレハ予定シ難キモ〔アキ〕ヲ以テ佳適ト認メタリ、且集会モ先十二日比ト予期セ

リ、然レトモ大会ヲ開クノ手段ハ如何スベキヤ大ニ困却セリ

粗末ナル茶菓ヲ呈ス、散会ノ時ハ十時半過キナリ

四月六日、新島襄氏ハ北垣知事ニ面会シ、大会ヲ開クニハ何ノ手段ニヨリ此ノ府下ノ人民ヲ招集シ得ヘ〔キ〕ヤノ事ニ付キ相談セリ

人民招集ノ義ハ両区长ニ周旋セシムヘキ事ニ定ム

四月七日 七名ノ調査委員ハ午后織殿ニ集会シ、府下人民財産ノ程度等并ニ其ノ人員等ヲ調べ、上下ノ両区ニ分チ寄附金配当ノ高ハ先ツ左ノ如シ

上京区

下京区

〔上欄〕  
「※注意」

案外ニモ北垣知事ハ突然ト委員ノ集会所ニ来ラレ、益計畫ヲ大ニスヘキ旨ヲ勸メラレタル由人民招集ノ事ハ両区长ノ担当スル所ト定ム

※ 大集会ノ時日ハ弥来ル十二日午后第三時トス

智恩院山内ノ大坐敷ヲ貸リ受ケソコニ集ル事ニ決ス 俗ニ千疊敷ト称スル坐敷ナリ

四月八日 十二日大会ノ為種々ノ計画ヲ為サ、ルヲ得ス、且時日モ甚迫切ノ事ナレハ本日午后六時ヲ期シ、調査委員七名ヨリ他ノ理事委員ヘ宛テ仮俱樂部ニ来会セラルヘキ事ヲ促ス

来会者ハ左ノ通

青山長祐君

大沢善助君

〔補〕  
畑 道名君

中井三郎兵衛君

内貴甚三郎君

中村半兵衛君

中村茂兵衛君

熊谷市兵衛君

大橋弥兵衛君

三木安三郎君

中村栄助君

古川吉兵衛君

雨森菊太郎君

此夜ハ大会ノ準備ノ為ニシテ役割ハ左ノ如シ

庶務委員

青山長祐君

西村七三郎君

応接委員

竹村弥兵衛君

古川吉兵衛君

会計委員

三木安三郎君

大会ノ来賓ニハ菓子折老個ヲ呈スル事ニ決ス

但シ右代価ハ十五錢以内

七百二十人前

専門校旨趣書一冊ヲ添フ

書記五名

同志社ヨリ弁スベシ

演舌筆記者三名

同

手伝人十五名

教会ヨリ弁スベシ

特別招待状ヲ以テ優待スヘキ紳士ハ左ノ如シ

府下鏘々タル医者仲間

此内理事ニ委託スヘキ人ハ

両替町御池角

1 半井 澄

油ノ小路出水

3 大村達斎

堺町姉小路

2 猪子止戈之助

新聞社仲間

〔姓名朱〕  
織田純一郎

大阪中ノ島三丁目 朝日新聞社

田中茂一

京坂ノ間在リ

大坂日報  
浪華新聞

江口三省

東雲新聞

村上 定

又新日報

雨森菊太郎

中外電報

日出新聞

雨森、金森兩人ヲ以テ接待委員トス

代言人組合

〔上欄〕  
「烏丸姉小路下ル」

上廿八組場之町第二十二番戸

堀田康人君

上三十一組上樵木町第八番戸

※理事委員 高鼻源之助君

〔上欄〕  
「二条河原町角」

上三十一組清水町第十五番戸

高知 鼎君



官吏

北垣知事君

尾越蕃輔君

森本後凋君

警 財部 羌君

衛生 清水公敬君

會計 貞広太郎君

勸業 有吉三七君

収税 大坪 格君

学務 河原一郎君

東 五一君

兵事 辻 直方君

土木 多田郁夫君

土手町 曾根誠藏君

丸太町麩屋町西ニ入 則元可貞君

裁判所

〔朱丸〕  
○四月九日

午前第十時智。恩。院。坐。敷。借。用。ノ。談判相調タル旨内貴氏ヨリ通知セリ

四月十日

○大沢敬之君ニ理事委員ヲ囑托ス

船岡卯兵衛君

安本宗七君

藤井孫兵衛君

富田半兵衛君

山添直次郎君

渡辺伊之助君

西堀徳二郎君

市田文次郎君

竹鼻仙右衛門君

辻 重義君

此ノ十人ニ宛特別ノ招状ヲ出ス

四月十日医師中又更ニ理事ヲ増加ス

元誓願寺大宮東ニ入ル

吉田俊吉君

郷 健蔵君

上立売小川

伊東卓二君

富小路押小路上ル

山田文首君

麩屋御池下ル

木下 熙君

土肥春耕君

中村四郎君

杉本耕哉君

松浦全良君

中島武雄君

沢田耕夫君

前田松閣君

斎藤仙也君

服部嘉十郎君

新宮涼亭君

御池堺町西ニ入ル

御幸町綾小路

三十一組下丸屋町

○郡部常置委員ニ特別招状ヲ出ス

田宮 勇君

川勝光山君

河原林義雄君

野尻岩次郎君

上野弥一郎君

〔添付・新聞切抜〕\*

●本日集会所の故障 前号に記せし如く本日は知恩院に於て明治専門学校創立の義に付、府下七百余名の紳士を招き集談会を開く筈なるが、昨日に及び浄土宗の信徒数十名が俄に知恩院に馳せ集り、執事に迫り、耶蘇教の大学校を設立する爲めに開くの集談会へ、勿体なくも我浄土宗総本山を貸渡すとは甚だ以て不都合千万の次第なれば早々謝絶あるべし、疑はしくば其趣意書を取よせて一覽あれと詰掛けしを以て、執事も俄に趣意書を取寄せ之を一見せしに、果して耶蘇教の道德を基本とし生徒を養成するの文意明瞭なるに依り大に驚き、且つ之れが謝絶を求むる信者も追々増加し、若し本山にて之を謝絶せざる時は各末寺末派信徒へ檄を伝へ、共に俱に本山に迫るべしと其勢ひ頗る猛く頻りに役僧に迫りしかば、役僧もいかゞはせんと大に狼狽の体にて、右は全く耶蘇教に係る事とは知らず、最初京都府社寺係り中川武俊氏の書面にて、府知事初め設立委員の出頭する位の事にて更に別状なき依頼の趣なり、保勝会員なる内貴甚三郎氏も自ら本山に來りて、専門学校設立の爲め集会するに付貸与ありたしと何気なき依頼なりしを以て、何心なく貸与の承諾をなしたるものにて、耶蘇教等の事は少しも知らざりし旨を信徒へ答へたれど、信徒の勢ひ中々聞入れざるに付、止を得ず本山より謝絶の旨を依頼者へ通せんと其手続きに及びたる由、其結局は聞得て更に報道すべし

●集会故障の結局 明治専門学校設立の相談会を開くに付其席を貸すが済まぬとて、浄土宗の信徒十数名知恩院に詰掛け執事に対して厳しき談判に及びたる由は前号に記せしが、其日は双方とも唯何となくごて／＼してゐた

るまでにて前号の編輯を了るまでは其結局を聞知せざりしが、昨朝に至り前日（一昨日）の結局如何を探聞せしに、知恩院役僧山崎英惇氏は信徒総代に対し正午十二時までに孰れかの返答に及ぶべしとの事に付有志総代は一旦引取たり、然るに同日は寺町四条下る浄教寺に於て各宗管長始め有志の僧俗は洪濟会の事に付集会なしゐたれば、件の信徒総代等は浄教寺へ押掛け知恩院の不都合を各宗管長に訴へ、且つ其評議を以て知恩院の席貸を止めるやう勧告ありたき旨依頼に及びたるに、各管長始め何れも之に同意したるのみならず、予て知恩院が事の善惡を撰ばず濫に席貸を為すは仏門の汚れなりと竊に評議ある最中なりしかば、此際相俱に勧告すべし然れども北垣府知事の命令を社寺掛なる中川武俊氏が奉じて借入を照会したる事なれば、聊か憚るところもあり此儀如何やとありしに、信徒総代の答へて云へるには、此は怪しかるお尋かな区々なる一同志社員の発起に係る私立学校を設立する為に、堂々たる地方長官の公然之に關すべき道理之あらんや、仮設北垣氏が中川氏に依頼して借らしめたるにせよ、這は是れ一個の北垣国道氏と一個の中川武俊氏が一人の資格を以て勝手に為したるまでにて、知事と社寺掛の資格は斯る場合に濫用すべきものにあらざるなり、故に左様の事は決して御懸念に及び申さずと滔々理を別けて説きたてたれども、各管長等は如何に考へたるにや遂に此日の勧告は見合す事となしたるが、中に於て四五名の有志僧は此儘止むべきにあらずとて、信徒総代の求に応じ知恩院の役僧某に対し一通の勧告書を送りたり斯くするうち時既に正午を過ぎたれば、一同打揃ひ約の如く再び知恩院に押掛け返答如何を求めたるに、役僧山崎英惇氏出て面会し如何にも明日席を貸すは不都合なりと覺れり、然れども府知事の依頼止を得ず、且既に明日の集会に付ては先方にも夫々準備を為したるなれば、今に及んで俄に之を断れば必ず先方にも狼狽する事ならん、仏門の徳義に対しても忍びざる訳なり、各々がたに於ても忍辱の徳を重んじて堪忍し此回は穩に貸す事に致

されたしと長々の説法ありたれど、信徒等はなか／＼聞容れざるのみならず憤然怒て曰く、果して耶蘇教徒に貸す道場なれば我仏法内に無用の汚利なり、我々一命を棄てゝも今夜一夜に此寺を焼払ふべしと蹶然立去らんとせしを、他の役僧等も交る／＼出て来りて懇に之を諭し且信徒の云ふところ尤もの次第なればとて再三再四役僧一同衆議を尽したるも、何分一旦貸す約束を為したる上、已に最早明日に迫りしものを今更断らんは如何にも人情の忍びざるところなれば、此回は止を得ず貸す事に評決し其旨信徒総代に申入れたるにぞ、総代等も今は是れまでなりとて一旦引取たるが各信徒は容易鎮まらず、更に五六名の総代を撰んで知恩院に押掛談判せしめんとて総代は執事に面会を求めたるに、執事は何れへ行きしや所在知れずとの事に、止を得ず他の役僧に面会して種々談判に及び、結局果して北垣府知事の依頼なりや否を糺し然る上決するところあらんと云ふに定まり、夫れより役僧の一人なる藤原大勇氏と有志僧一人、信徒の総代二人と都合四人同道にて北垣府知事の私邸へ赴きたるは午後八時なりし、一同主人に面会を求めたれども折悪しく不在との事にて執事野村某面会したり、役僧藤原氏先曰く最初知事公より御照会の節は耶蘇教に関する事にあらずと承りしところ信徒等は明治専門学校設立旨趣書なるものを携へ書中「基督教の道徳を以て基礎とす」云々といふを証拠にして明日の席貸謝絶の事を主張し甚だ困却致すに付篤と御申諭ありたしと、而して信徒総代は曰く、明治専門学校を以て耶蘇教に関係なしとは三歳の童子と雖も欺むくべからざるなり、今更左様なる説教は聞くに及ばず、唯北垣府知事が果して此席貸の事を紹介せられたるや否やの確答をさへ得れば足る、其上は亦此方に所存あるのみ、若し果して府知事が紹介したるに相違なしとあらばそれまでなり、府知事の威光は怖るべきも信徒の勢力も亦薄弱ならず、明日は必ず知恩院の道場忽ち修羅場と化し淋漓たる血の雨は繽紛たる落花を染め出さん是れ誠に悲むべきなり、若し又知事公が紹介せし事なしとの事なれ

ば今夜直に明日の席貸を謝絶すべし、一去一退一動一静唯その返答如何にあるのみと、執事野村氏曰く、それは唯今主人不在に付確と判らず、然れども多分主人の紹介せられしならんと想像す、併し成るべく温和の取計ありたしと、茲に於て信徒総代等は頗る色を起しそれにて事実明瞭せり泣見と地頭には勝ちがたし、請ふ一語を知事に伝へられよ、曰く「学校の周旋は人民のため実に其厚意を謝す、府知事の身を以て耶蘇教の周旋は仏徒深く之を惡む我輩長くお怨み申す」と云ひすてゝ去る、それより再び一所に集会し夜半を過ぎて退散したるよし、而して昨朝早々より上京智恵光院に会し何か穩かならぬ評議もありし由なるが如何なりしや」

〔右欄外〕

④四月十三日

「●明治専門学校設立相談会 一昨夜京都俱樂部に於て同校設立の相談会を開きたるに、新に同校設立の趣意を賛成して理事委員たる事を承諾したる戸長、医師。代言人等數十名ありしが斯く理事委員の多数なるは却て事務の取纏め方宜しからざるべしとて更に其中より高木文平。内貴甚三郎。青山長祐。大沢敬之。中井三郎兵衛。古川吉兵衛。雨森菊太郎の七名を理事委員と定め、専任理事と協議して何れも其事務を分担する事に決したりといふ」

○四月十二日洛東智恵院ニ於て本校創立第二回大集会ヲ開ク、来賓ニハ北垣府知事、両書記官、諸課長、両区長、府會議員、諸会社頭取、医師、戸長、其外市中ノ重達チタル財産家六百有余名ナリ、又タ神戸又新日報、大坂日報、朝日新聞、東雲新聞、京都ノ中外電報等ノ各社ヨリモ記者出席、同志社ヨリハ社員ト内国教員出席ス、府會議長田中源太郎君司会ニテ左ノ諸士演説ス



一 専門学校ヲ設立スルノ旨趣

新島 襄

一 西洋諸国大学ノ起原

浮田和民

一 将来ノ京都

金森通倫

一 専門学校ヲ賛成スル理由

北垣国道

右終テ午後五時半散会ス、抑々京都ノ財産家が斯ク多人数集リタルハ、未曾有ノ事ナリシト云フ

○ 此大会後、以上列記シタル大坂、神戸、京都ノ新聞記者ハ之ヲ賛助スル事ヲ雑報或ハ論説欄内ニ記載セラレタリ

○ 四月十三日、小集会ヲ開ク、委細ハ前紙<sup>〔朱〕</sup>④ノ所ニ記載シアリ

○ 四月十六日、新島襄ハ本校創立事件ニ関シ東京ニ趣ク

○ 四月廿二日、府下綴喜郡薪村ニ開カレタル懇親会ヘ西京ヨリ金森通倫、奈良ヨリ新島公義臨会シ専門学校創立事件ヲ詳細ニ演説ス、続々賛成ヲ約セラル奥繁三郎、喜多川孝経両氏尤モ尽力シ且ツ募集金ノ事ヲ自ラ任シ呉レタリ

○ 廿三日ヨリ市中ノ有志家ヲ組内戸長ヨリ小学校ヘ招集シ、区長、書記、戸長、同志社々員ノ中一二名出席演説スル事トナシ、本日ヨリ着手セリ

〔挟込・鉛筆書〕

× 新島 襄君

● 山本覚馬君

× 安本宗七君

× 岡本治助君

船岡卯兵衛君

正木弥太郎君

大橋弥兵衛君

藤井孫兵衛君

× 青山長祐君

清水吉右衛門君

○上野宇八君

上島伝兵衛君

中村茂兵衛君

中村半兵衛君

○川端弥平君

○市田理八君

西村治兵衛君

竹村弥兵衛君

× 辻 重義君

× 尾越蕃輔君

× 松山高吉君

× 金森通倫君

× 中村栄助君

● 北垣国道君

● 森本後凋君

● 竹村藤兵衛君

● 杉浦利貞君

× 畑 道名君

× 古川吉兵衛君

● 中井三郎兵衛君

● 熊谷市兵衛君

● 辻 信治郎君

× 山添直次郎君

× 三木安三郎君

● 渡辺伊之助君

● 浅井文右衛門君

× 雨森菊太郎君

× 西堀徳二郎君

富田半兵衛君

× 田中源太郎君

● 大沢善助君

× 西村七三郎君

× 内貴甚三郎君

× 高木文平君

● 市田文次郎君

竹鼻仙右衛門君」

〔五十四丁空白〕

「東京三井ノ人物

小野商会

西村小四郎

奥村信造

大坂ノ財産家

広瀬宰平、谷口黙次、村山良平、<sup>〔竜〕</sup>松本重太郎、松本貞誠、最上五郎、岡橋、土倉庄三郎、大宮長兵衛

商工会議所中ノ代証人 寺村富栄、小島忠里、岡崎高厚、砂川雄峻

41 同志社記事〔社務第十八号〕〔明治八年八月〜二十一年五月〕<sup>〔朱〕</sup>

〔異筆、後日書添・綴込〕

明治八年八月廿三日、同志社英学校設立ノ許可ヲ得

明治八年十一月廿一日、デウィス家族入京ス、同氏ノ雇入レハ明治八年十月一日ヨリ九年九月卅日迄壹年間トス

明治八年十一月廿九日、同志社開業ス

京都府寺町通丸太町上ル十八番地華族高松氏ノ邸半分ヲ借用シテ学校トス、入校生ハ僅ニ十人ニ過キス

同年十一月廿九日ノ調べニ生徒二十八人（入塾生十人、通学生十八人）

明治九年三月十五日ヨリ同十二年三月十五日迄三ヶ年間ドワイト・ダブリウ・レールネット氏并ウォレス・テーロル氏

二人ヲ雇入ル

明治九年五月、地ヲ上京第十区相国寺門前町ニ占ム

其坪数五千八百五十五坪

同年六月十五日、校舎建築ニ取懸ル

同年七月、デウィス氏九年十月一日ヨリ十四年九月卅日迄雇続キ願書差出ス、八月八日右免状来ル

氏ハ上京十一区中筋通六百八十三番地柳原前光君邸内ニ寓ス

九月五日、ドーン氏ヲ雇入ル

此第二学期ヨリ熊本洋学校ノ生徒金森氏ヲ初トシ陸統来校ス

九年熊本ニ於テ神風連ノ難ヲ逃レ、又十年西郷氏ノ難ヲ逃ルノ幸ヲ得タルハ真神ノ冥助ト云ハスシテ何ゾ  
九月十八日、相国寺門前新築之校舎ニ於テ開業ス

（第一・第二寮落成ス）

十一月、十二月ノ二ケ月中 西京ニ於テ第一、第二、第三ノ教会ヲ設立ス

明治十年四月廿一日、柳原邸内ニ於テ女学校開設ス

五月八日、ドーン氏ノ妻病ニ罹カレルヲ以テ、解約ノ上京地ヲ去ル

九月、第三寮落成ス

十一月廿日、常盤井殿町二条家ノ地所四千九百六十九坪九合買入ル

明治十一年一月、初メテ寮長ヲ撰ス

五月廿一日、テーロル氏京都府下ニ於テ授業スルヲ許サレザルヲ以テ遂ニ解約シ、六月六日京都ヲ去ル

九月、第四寮落成ス

十一月二日、ゴルドン氏五ケ年間雇入ル願書ヲ出ス 事故アリ願書差戻サレタリ

明治十二年二月廿二日、レー（ルネ）ド氏五ケ年間雇聘願書ノ許可ヲ得タリ

六月二日、再ビゴルドン氏雇入願書ヲ出シ、同月廿六日右許可ヲ得タリ

六月十二日、第一回卒業式執行ス

熊本ヨリ来レル生徒十五人卒業ス 市原盛宏 森田久万人 山崎為徳ノ三氏ハ同志社ニ止マリ教員トナリ、宮川

經輝氏ハ同志社女学校ニ止ル、月給各十五円

九月、運動場落成ス

明治十二年十月二十日、初メテ叡山ノ麓ニ於テ校中ノ生徒兎狩ス

十一月十八日、教員協議ノ上可決セシ事左ノ如シ

一同志社ニ於テ普通科ノ外必ス神学ヲ教授スベシ

一當時行ハル、神学ノ外、別ニ速成科ヲ設クベキ事

一外国教員俛令神学ヲ教ユルモ決シテ普通科ヨリ手ヲ引カス、蓋該科ニ尽力スベキ事

十一月五日、アメリカン・ボールドヨリ書ヲ送り、オティス レ〔ゲ〕シー資金ノ内外国教員ノ為メニ設置シアル分ヨ

リ八千弗ヲ、同志社二年々寄附スベキヨシ申越サレタリ

明治十二年十二月、デウィス病氣ノ為メ支那ニ遊行ス

明治十三年六月、四人ノ正課卒業生アリ

明治十四年一月十日、デウィス脳病加養ノ為メ家族引キ連レ歐洲ニ出発ス

四月、横村正直京都ヲ去リ、北垣<sup>(アキ)</sup>君之ニ代リ知事タリ

六月、初メテ京都四条北ノ芝居ニ於テ宗教演説ヲ催ス、是ヲ京師演説ノ初メトス

六月二十四日、十八人ノ生徒卒業ス

七月廿九日、山崎為徳肺病ニ罹リ京都ノ病院ニ入院ス

十一月八日、山崎為徳、新島氏ノ宅ニ於テ午前六時十五分死去ス、第二教会新築会堂ニ於テ葬式ヲ行ヒ、黒谷山新島



氏墓地ニ埋葬ス

明治十五年二月六日 Dr. デイ・シー・グリーン氏来京ノ免許ヲ得タリ

六月卅日、六人ノ正課卒業生アリ

八月二日、デウィス氏再ビ雇入レノ願聞濟ミタリ

九月ヨリ、卒業生ナル下村孝太郎氏ヲ招キ教員ノ列ニ加フ

十一月廿五日、デウィス来京ス 学校ノ生徒悉クステーション迄出向ヒタリ

明治十六年二月十三日、更ニ左ノ委員三名ヲ加ヘ同志社々員トス

熊本県士族 伊勢時雄

新潟県士族 松山高吉

京都平民 中村栄助

社員五人、内外国教員ト協議ノ上左ノ四条目可決ス

一同志社ハ五人ヲ以テ組織シ、此五人ハ社ノ財産ヲ所有シ、基督教主義ヲ以テ学校ヲ維持スルヲ務メ、且学校ト政

府トノ間ニ生スル百般ノ事務ヲ弁理スベシ

二社員中若シ欠アルトキハ現存ノ者新ニ撰招シテ之ヲ補ヒ、社ヲ永続セシムベシ、又社員中ヨリ一人ヲ撰ヒ校長ト

スベシ

三校内百般ノ事務ハ各校ノ内外ノ教員校長ト協議ノ上之ヲ弁理スベシ

四外国ヨリ寄附シタル金ハ、外国教員若クハ他ノ委託者ヨリ各校ノ教員ト協議ノ上支払フベシ

二月十五日

新島襄ハ<sup>〔アキ〕</sup>ヨリ社長ノ任ニ当ルコトヲ四人ヨリ委托セラレタリ

五月中、宣教師集会ノトキ石造或ハ煉瓦造ノ講堂ノ入用ナルコトヲアメリカン・ボールトニ乞フ、ボールトハ之ヲ許シ七千五百円ヲ寄附ス

六月二十九日

正課ニ於テ八人卒業ス

十月十七日

新築ノ入札ヲ為シ尾滝菊太郎ニ落札シ、十一月上旬ヨリ普請ニ着手ス

十二月二十二日 定礎式執行

〔以下主として新島筆〕

〔上欄朱〕  
明治十六年

明治十六年二月十三日

〔朱丸・以下同〕  
○明治八年八月二十三日山本覺馬、新島襄ノ二人ヲ以テ一社ヲ結ビ同志社私塾開設之願ヲ出シ、同八年十一月月中願

濟之上（二十九日）寺町通丸太町上ル所ニ華族高松氏之邸ヲ借り学舎トシ開校ス、同九年九月相国寺門前ニ新築シタル校舎ニ転シテヨリ以来生徒年々加員シ社務随テ繁ク、且社有之財産モ亦加増シタルヲ以テ、今回社員ヲ増加シ益学校ノ隆盛ナラン事ヲ希図シ、新潟県平民当時兵庫県下神戸区山本通六丁目十七番地松山高吉、熊本県士族当時愛媛県下越智郡今治室屋町一丁目十九番寓伊勢時雄、京都府下下京区二十八組五条橋東ニ入二丁目四番地

平民中村栄助ノ三氏ニ乞ヒ本社之社員タラン事ヲ要求セシカバ幸ニ承諾セラレ、二月十三日之夕ヲ期シ新島氏ノ家ニ来会シ、先ツ社員タルノ資格義務等ヲ談シ合ヒ、左ニ掲ル所ノ四条目ヲ以テ社則ノ大体トシ、又細則ノ如キハ都図々々入用ニ応シ編成スル事ニ決セリ

一同同志社ハ五人ヲ以テ組織シ、此五人ハ社ノ財産ヲ所有シ基督教主義ヲ以テ学校ヲ維持スルヲ務メ、且学校ト政府トノ間ニ生スル百般ノ事務ヲ弁理スベシ

二社員中若シ欠アルトキハ現存ノ者新ニ撰択シテ之ヲ補ヒ、社ヲ永續セシムベシ、又社員中ヨリ一人ヲ撰テ校長トナスヘシ

三校内百般ノ事務ハ各校之内外ノ教員校長ト協議ノ上之ヲ弁理スベシ

四外国ヨリ寄贈シタル金ハ、外国教員若シクハ他ノ委托者ヨリ各校ノ教員ト協議ノ上支払フベシ

〔上欄〕  
「委員集会録事ハ紅墨ヲ附シ印トス 第壹委員集会」

二月十五日

○午后二時ヲ期シ松山、伊勢、中村、新島四人、山本氏ノ家ニ集リ弥三氏ノ本社ニ入社セラレシヲ告ケ、前上掲ル所ノ四条目ヲ以當社々則ノ大体トナシ、本社ヲ永續維持スル事ニ決定ス

〔上欄朱〕  
「社長撰定」

新島襄ハ社員ヨリ、旧ニ依リ社長ノ任ニ當ル事ヲ委托セラレタリ

相談之事件ハ左ノ如シ

一日本教員ノ月給ヲ加増シ、且可成丈ハ其授業時間ヲ減スル事

一市原氏ノ月給ヲ三十円〔ト〕シ、邦語神学生世話人トナル上ハ、向後授業時間ヲ二時間トナシタキ事

一下村氏ノ月給ヲ旧ニヨリ三十円、授業時間ハ三時ニ過キス

一森田氏ノ月給ハ当分二十五円トス

一女学校ノ加藤勇治郎氏ヲ再聘シ月給三十円ヲ教員トナル為与ヘタキ事ハ、山本氏ヨリ他ノ社員迄相談ニ及ハレタリ  
但シ前条ノ事ハ新島氏ヨリ外国教員迄通スル事ヲ委托セラレタリ

〔上欄〕  
〇注意

校中ノ内務ハ教員ノ預ル所ナルモ、教員中ノ見込ニテ社員ノ協議ヲ要スル事件ハ社長ヨリ他員ニ報道シ、書面ナリ  
又ハ集会ヲナスナリ社員ニテ決ヲ取ルベシ

二月十六日

〔上欄〕  
「第老号届書」

社員三名ノ加入シタル事ヲ届ケ出ス、併セテ向來ハ届書願書等ハ社長老人ノ名義ニテ差出ス事ヲ届置タリ

〇一松山 金森 伊勢之三氏、一ト月ニ屯回ツ、交ル々々京地ニ来リ、邦語神学生ニ面会シ、勧奨ノ為集リヲ為ス事  
ニ決セリ

三氏ノ来京費

松山氏 屯円六十七銭 半額八十三銭五厘ツ、本社ヨリ、他ハ伝道会社ヨリ

伊勢氏 七円 同上

金森 五円 伝道会社ノミヨリ出ス

二月十九日

〔上欄〕  
〔第二号願書〕

レールネド氏、三月之下旬ヨリ乃二十日ヨリ四月十八日迄三十日間、敦賀、名古屋、山田等之地ヲ遊覽ノ為免状ヲ  
要セラレタルニヨリ、右願書ヲ出ス

二月二十六日

〔上欄〕  
〔第三号願書〕

○本社所有地ハ是迄多分新島氏ノ名義ニテ所有シ居リタレトモ、今回社員ノ加増シタルニヨリ地所ハ本社ノ名義ニ  
更換シタキ由願出タリ (地券六通ノ預カリ書ヲ取りオク)

二月十日

〔上欄〕  
〔米国ヨリ送致金〕

○ハールデー「ハーディ」氏ヨリ (一月十日付ボストン) 本社ヘノ寄附金 Kidder Peabody & Co. Jan. 10, 1883  
Boston Mass. ノ為替証二枚ヲ遣シ呉タリ

一枚ハ 五百ポオンド 二八五五二

一枚ハ 壹百ポオンド 二八五五三

三月三日

〔上欄〕  
〔第四号願書〕

レールネド氏遊行免状ニ妻子ノ逐加ヲ求メラレタルニヨリ、本日右逐加願ヲ差出ス

三月九日

●去二月十日、ハルデー君ヨリ受取タル六百ポンドノ為替証ノ二重証 W. A. Snow 氏ヨリ二月一日付之書面中ニ  
入レ送り呉レタリ

三月十七日

レールネド氏旅行免状ヲ下附セリ

第九千八百十号

三月廿日ヨリ四月十八日迄三十日間

三月十九日

本日エム・エル・ゴルドン氏（三十九年九ヶ月）大和国奈良、郡山、吉野等遊覧ノ旅行免状下渡願書ヲ差出ス

但日限ハ四月一日ヨリ同十五日迄

三月廿日

六百ポンドノ証書二通、本日ジェンクス氏ニ送ル

三月廿五日

〔上欄巻〕  
「米國ヨリ送金」

○千八百八十三年二月十二日付ノ書中ニ、ハルデー君ヨリ又四百ポンドノ証書ヲ入レ送致セラル（第二証書四月六  
日来ル）

三月卅一日

○本日試験ノ上、同志社男女両学校冬期閉業ス

〔上欄〕

「五月十日、女学校雇入女教師アレス・ジェー・スタークウ〔エ〕ソル氏病氣ニヨリ帰国ス　フーバル氏代人トナル」

〔上欄末〕

「米國ヨリ送金」

〔上欄〕

五月卅日

○米國ハーデー君ヨリ、二百ポントノ証書送致ス」

五月卅一日

クリイン氏東京行免狀下附セリ、第一万九十二号（六月十日ヨリ九月十日迄）

東海東山兩道東京ヲヘ并滋賀県下遊覽

六月一日

上京区第十七組元浄華院町五百八拾二番地デビス氏寓地、是迄新島襄ノ所有ニ係シガ改メテ同志社ノ所有トセン事ヲ出願シ、遂ニ本日其ノ許可ヲ得、同志社ノ名義ヲ以テ更ニ地券証ヲ第十七組学校ノ戸長役場ヨリ受領ス

〔上欄〕

「○宅地六百二十二坪八合七勺、外ニ惡水ヌキ

○拾六坪貳合五勺」

六月六日

コルドン氏、岸和田、和歌山、長浜、敦賀行ノ旅行免狀下渡願ヲ差出ス

六月八日

アンナ・ワイ・テウィス、箱館　札幌（海陸共）行ノ旅行免狀下渡願ヲ出ス　三十二年四月



〔添付〕

「一書奉差上候、陳者先般學務課員敝校迄御出張有之、外国教師ハ同志社員ニテ地所ヲ共有スルヤ否ヤノ所御尋有之候処、敝校之一役員外人ハ敝社々員ニ無之候よし申上候由承候、右様御尋有之候所より推察スレハ、何カ知事公ニモ右等之所ニ御懸念有之候事ト存候、乍去彼教師共ハ決テ敝社々員ニハ無之、且地所ハ全ク敝社々員乃山本覺馬或小生外三名所有、五人之管理スル所ニ関リ決テ外人ニハ所有致セ不申候、右為念達御聞如此候也 敬白

四月六日

六月五日

岡山ノペレー氏ヨリ返書来ル

但新島襄東京大親睦会へ出張前ニ当リ、同志社々員連名并上方地方十四教会ノ牧師連名ノ上、一通ノ書ヲ以テ岡山ノペレー氏ニ送り、西京ニ来リ医学校并病院ヲ開カレン事ヲ請求シタリケレハ、同氏ハ右ノ事件ヲ本年五月七日西京ニ開カレタル宣教師年会ニ持出シ之ヲ協議ニ付シタリ、然ルニ一人ヲ除クノ外尽ク之ヲ賛成セシニヨリ、詳細ニ其ノ賛成可決セシ所ヲ記シ、以テ答詞トナシ送り来レリ

六月十二日

ペレー氏ノ返書へ、再ヒ京都ニアル同志社々員三名ヨリ答詞ヲ送ル

同日

フランス・フーパル（二十八年）ヲ以テ、スタークウ〔エ〕ソル氏ノ代人ト為シ為一ノ願書ヲ差出ス（年限ハ九月一日、来年八月卅一日迄壹ケ年間）

六月十五日

以上ノ為替証二百ポンド二葉 (百并五百ノ二葉) 二百ポンド一葉ジェンクス氏ニ回送ス

〔上欄〕  
「Kidder, Peabody & Co. Ap. 23 1883

3704—3703. £ 200

Messers Baring Brothers & Co. London.

28553 £ 100

28552 £ 500 Jan. 10/83.

29176 £ 400 Feb. 12/83. J

六月二十七日

コルドン氏紀州、泉州行之免状 (六月六日出ス)、本日下附ス (一万百五十六号) 外務番号

六月二十九日

〔朱丸〕  
●本日卒業式執行ス、左ノ八名へ卒業証ヲ授与ス

岐阜大藪村 古田合二郎

熊本 小崎繼憲

岡山 三宅荒毅 告別ノ詞ヲ陳ス

京都 新島公義

鳥取 太田幸市

同 末吉保造

東京 津田元親

兵庫

辻密太郎

森田久万人氏、卒業生ニ演説セリ

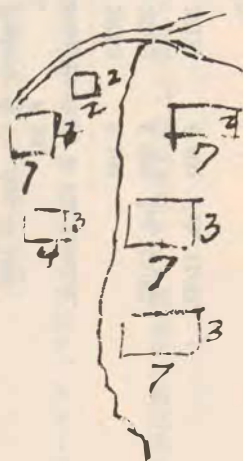
〔上欄〕

〇六月三十日

フランシス・フーバル氏、スタークウエソル氏代人トナリ一年間滞京ノ許ヲ受

七月三日

叡山ノ官地拝借差出シ百坪ノ拝借ヲ願フ、本年ハ是迄ト相違シ官地拝借ノ願ヒニ一定ノ式アリ、其ノ式ニ照準シ之ヲ出サ〔ザ〕レハ採用トナラサルヨシ、且八瀬村ニ至リ官地近傍拝借地価ヲ記、該村戸長ヨリ奥印ノ上願書ニ付添へ、然ル后愛宕郡役所〔下加茂村ニアリ〕迄差出シ、其ヨリ府庁ニ達スルヨシ〔ニ〕テ、三日ノ願書ハ却下ニナリ再三之ヲ改正シ、其ノ上郡役所ヨリ一官吏出張アリ、其ノ場所并坪数迄詳細ニ調ヘアリ、願書ノ図面ニモ之ヲ詳細ニ記スヘキヨシ郡長ヨリ達セリ、譬ヘハ図ノ如シ



七月十八日

金五円 同志社来期広告之為小崎氏迄之ヲ送り、二大新聞ニ広告ノ事ヲ托ス

但シ其ノ文例ハ表紙ノ裏面ニ糊着ス

七月二十三日

第七組戸長より联合会ノ上、内外人ヲ不論他ヨリ寄留シテ老戸ヲ為スモノハ協議費ヲ徴收スルニ決セシヨシ申来ル

十六年度 ○協議費

老ヶ月老戸分 金十二錢五リン

○臨時費 老ヶ月 二錢四厘

〔添付〕  
一証

一金老円六拾錢

右ハ十六年度前半分 国税金地方税共正ニ受取申候也

十六年七月廿一日

松蔭町

惣代印

新島殿

八月六日

上京区第十一組常盤井殿町五百四十三番地之内二

上京区第拾組相国寺門前町

一宅地五千五百八拾壹坪二合

同志社

地価金四百七十四円四十銭

新島襄所持ノ所今回書キ換ノ上区役所ヨリ相渡セリ

〔上欄〕  
「十六年九月廿一日」

第一万百六十号

アンナ・デウス氏北海道行免状、九月二十一日返納ス

九月廿一日

官地拝借願七月九日差出タルニ、漸ク本日愛宕郡役所ヨリ社長ヲ召出シ、右願出聞済之趣ヲ以テ下附ス（九月半ヶ月分ノ税ヲ納ムル由山林課長ヨリ達シアリタリ）

十月十日

叡山官地拝借料九月半ヶ月分トシテ五十銭、三井為替ニナシ愛宕郡役所ニ納ム

十月十一日

角石ヲ置トキノ祝儀ヲ為サン為、グリーン氏、新島氏二氏委員ニ撰ハレ左之通\*

一讃美歌 二建設ノ主意ヲ陳フ 三聖書 四角石ヲオクノ式 五祈 六演説 七祝禱

○演説ハ宮川経輝君ニ委頼スル事ニ決ス

十月十二日

前上ニ掲タル所ノ書面ヲ左ノ大工ト会社ニ送ル\*\*

兵庫神戸元町六丁目 三ツ橋平吉

同 栄町五丁目十四番地 橋本久二郎

江州大津裁判所新築処 松尾伊兵衛

烏丸押小路下ル 建築組

同通御池通上ル東側 藤田軌道

上京第三十一組清水町 尾瀧菊太郎

河原町夷川下ル 小嶋佐兵衛

〔添付・コンニャク版〕  
第一 入札人ハ本月十七日午后第二時、烏丸通今出川上ルグリーン氏方迄来会ノ上入札書ヲ差入ルヘシ

第二 已ニ入札ヲ入レタルモノ若シ改正ヲ加ヘタキ事アレハ入札日限迄ニ封書ヲ以テ改正ノ件々ヲ差入ルヘシ

第三 同志社員入札ヲ不当ト見認ムルトキハ入札ヲ取消ヘシ

第四 同志社員場合ニヨレハ入札書中記載シタル代価ヲ以テ、工事ニ必要ナル物品中ノ幾分カ、又ハ総体ヲ自

弁スル事アルヘシ

第五 落札ノモノヘハ社員ヨリ決定次第通知スベシ、但シ数日間ノ時日ヲ要スルナラン

第六 前上記載スル所ト相違スルモノヲ除キ、余ハ京都府工事請負規則ニ照準シ条約ノ用意アルヘシ

第七 入札人来会ノ節ハ本帳仕様帳ノ写シヲ持参スヘシ

第八 入札人ハ来会ノ節、瓦、煉瓦、石等ノ見セ本ヲ持参スヘシ、最モ瓦ハ深草ノ上ミガキ。外ムキニ用ユル

煉瓦ハ堺出来ノ上等、色ニ不同ナキモノ、内ムキノ煉瓦ハ堅ヤキナレハ可ナリ

入札書ハ同志社々員宛ニ御認メアリタシ

明治十六年十月十二日

京都相国寺門前町 同志社

十月十五日

グリーン氏旅行免狀第老万九十二号、去十三日同氏ヨリ返却ニ付本日返納ス 六月十日ヨリ九月十日迄

十月十七日

本日烏丸通グリーン氏宅ニ於テ大工来会シ、衆前ニ於テ入札ヲ開封シ、其金高ヲ（シヨクドク）啣読シ、近々決定之上回答ニ

及フヘキ旨申通ス

藤田軌道君臨席アリ、落札トナル前ニ本帳仕様帳ニ成丈ケ分カリタルモノ（譬ヘハ材木ハドコ、瓦ハドコ、煉瓦、

石ハドコト朱墨ニテ記サセ、一々印行ヲ取りオカハ後日ノ憂ナシト忠言被致タリ

十月十八日

尾瀧、戸竹、并建築組、一書ヲ出シ白川石、下石ノ上中等、瓦、練瓦、石、其手間代等詳細ノ代価ヲ尋ネ遣セリ

十月二十五日

尾瀧菊太郎（上第三十一組清水町）ト新講堂建築ノ事ニ付結約スル事左ノ如シ

〔異筆〕

御請書



一 今般同志社大講堂御建築ニ附、私へ請負被仰付候ニ附、条約スル事左ノ如シ

一 画図面ニ印行ヲ捺ス事

一 本帳ノ品物之出所品ノ直段等ニ印行ヲ捺シ、且見セ本ヲ差出ス事

一 十ヶ年工事請負

一 京都府現今工事規則ニヨルト云一通ノ証書

一 本帳ニ写シチカヒ又ハ誤謬アルトキハ画図面ニヨリ之ヲ糺ス事

一 受負人ノ金額ヲ以テ成功スル事

一 条約ノ四日後ニ於テ地形ニカ、ル事

一 身元金ヲ入ル、ハ京都府受負規則ニヨル事

一 請負人ノ印

一 払方

〔以上異筆〕

七月廿一日

コルドン氏家族ニ有る人ノ男児ノ名クロフォードヲ加へ、更ニ免状下附セリ

第一万二百六十六号

明治十二年九月一日ヨリ十七年八月卅一日迄

〔上欄〕  
「十月廿五日」

新築工事受負ノ事、第三十一組清水町尾瀧菊太郎ト為ス

十一月七日

本日尾瀧菊太郎氏ヨリ工事受負金二十分ヲ右身許金トシテ同志社ニ渡ス

〔上欄末〕

「○金三百五十円、右ノ金ト条約書ハレールネド氏ニ預リ」

十二月六日

ジェー・シー・グリーン并ジェー・デー・デウィス氏兩人、本月廿五日ヨリ来一月十日迄十二日間、奈良郡山行ノ免狀願書ヲ差出ス

十二月二十一日

第九学期第壹期ハ本日試業済ノ上閉業ス

同

○本日午后第一時半ヨリ新築講堂ノ定礎式ヲ執行ス

其ノ順序ハ左ノ如シ（府會議員其ノ外ノ紳士ニ案内書ヲ出セリ

一唱歌

一聖書啣読

一祈禱

教ノ近道\* 一冊

一聖書并別書類ヲ箱中ニ納ム

新約全書 一冊

一宮川経輝演説

同志社略史并社員、教員、庶務、生徒ノ姓名等ヲ蔵ス

一 デウス 隅石ヲ安置ス

一 松山高吉氏祈禱

一 唱歌

一 祝禱

十二月廿五日附ニテ府庁ヨリ下附

グリーン氏 奈良 郡山行免状一万八百六十七号

デウィス氏 同上 一万八百六十六号 十二月廿五日ヨリ十七年一月十日迄

〔朱〕  
「x」十七年一月九日之ヲ返納ス

明治十七年一月 〔十六年十二月廿八日、改正徴兵令發布ニ付校中非常ノ困難ヲ来タシ、百五十人ノ内四十人計〔リ〕  
帰省シ、該令ヲ逃ル、ノ策ヲ為スニ取懸レリ

一月七日

本日ヲ以テ男女両学校第二期ヲ初ム

一月七日

一万九百廿八号 私雇外国人旅行免状（廿二日下附ス）

コルドン氏東京ヨリ仲仙道旅行免状下附ヲ願フ

一月廿六日

レールネット氏、本年三月十五日ヨリ明治二十二年三月十四日迄、五ケ年間ノ雇繼願書出ス

二月廿五日

〔朱丸〕  
○レールネット氏雇繼願書ノ許可ヲ得

○第一万九百六十七号 外国人旅行免状

外務省 十七年二月十三日

○第二十九号

私雇外国人居留地外僑寓証票

京都府 十七年二月十九日

〔上欄朱〕  
「明治十七年」

三月廿二日

一万千三十三号免状 レールネド氏へ下附セリ

十七年三月廿四日、四月十日迄

同十七年四月四日、校長新島氏欧米ニ向ヒ出立ス

〔異筆〕

〔上欄〕  
「新島校長ノ出発後ハ、先ヅ山本覺馬氏代理ノ名義ニテ、内務ハ市原盛宏氏之ヲ勤メ、外務ハ新島公義氏之ヲ補助シ

メラレタリ

茲ニハ外務ノ記事アリ、内務ノ記事ハ市原師ノ手ニアリ」

同十七年五月一日、新島公義氏ハ同志社英学校設立之始末ヲ出版ス\*

同十七年六月廿六日、十人ノ正科卒業式ヲ行フ

卒業生徒左ノ如シ

同十七年六月廿七日、神学科卒業生ハ

宮崎県 新原俊秀

愛媛県 堀 正義

岡山県 滝 能武太

福岡県 竹内磯雄

愛媛県 村井知至

大阪府 山岡邦三郎

同 松尾熊夫

福井県 三好文太

新潟県 三輪礼太郎

愛媛県 重見周吉

熊本県 原田 助

長崎県 長谷川末治

京都府 堀 貞一

岡山県 大西 祝

京都府 奥 亀太郎

熊本県 亀山 昇

同 竹原義久

岡山県 綱島佳吉

大分県 村上直次郎

熊本県 上原方立

同 松尾敬吾

岡山県 安達成章

兵庫県 杉田 潮

右正科卒業生ニハ下村孝太郎氏、神学卒業生ニハデヴィス師告ル処アリキ

同十七年七月一日ヨリ九月十三日迄、例年ノ通り休業ス

同十七年七月十八日、東京大学総理加藤弘之、大坂中学校長折田彦市ノ二氏来校ス、下村孝太郎、新島公義ノ二氏ハ

応接シテ本校ノ主義、学制ヲ陳ス

同十七年七月廿六日、エム・エル・ゴールドン氏ヲ尚引続キ、明治廿二年八月三十一日迄五ケ年間雇繼ノ願書ヲ差出ス

同十七年八月廿五日、岡山県人岡本巍氏ヲ漢学教師トシテ年給三百六十円ヲ与へ、先ツ一年間雇入ル、コトヲ諾セラル

同十七年九月一日、ゴールドン氏雇繼ノ事ヲ許可セラル

同十七年九月五日、デヴィス氏江州地方旅行免状ヲ下附セラレン事ヲ府庁ニ出ス

同十七年九月十日ヨリ第十学期新入校生ノ試験ヲ始ム

同十七年九月十一日、ゴールドン氏御所八幡町へ僑寓ノ免状下附セラル、因テ即日旧旅行免状及ビ僑寓免状ヲ返納ス

〔上欄朱〕  
「彰栄館開場式举行 ケーデー氏入京」

同十七年九月十五日、本校ノ第十学期ヲ開業ス、同日彰栄館開場式ヲ行フ、金森通倫氏来テ演説ス、其翌十六日シ  
ー・エム・ケーデー氏入京ス

同十七年九月廿日、ジェー・デー・デウィス氏學術研究并病氣保養ノ為、大津、八ヶ市、彦根、長浜、福井、敦賀及  
其沿道各地ヘ旅行ノ免狀下附セラル、号ハ壹万千八百九十八号タリ

同十七年九月廿日、外国教師七、八、九月間、官林拝借料六円六十銭ヲ上納ス

〔上欄朱〕  
「シー・エム・ケーデー氏雇入ノ願書ヲ出ス」

同十七年九月廿日、シー・エム・ケーデー氏、十七年九月廿二日より同廿二年九月廿一日迄向五ヶ年間雇入ノ願書ヲ

差出ス

〔上欄朱〕  
「エム・アール・ゲインズ氏雇入」

〔朱丸〕  
◎同十七年十一月廿四日、エム・アール・ゲインズ氏ヲ向ヒ五ヶ年間雇入ノ願書ヲ差出ス

同十七年十二月十七日より十九日迄冬期試験執行

〔朱〕  
「x」明治十八年ノ記

一月五日、第十学期春期開業

ゲエーンス氏当期ヨリ始テ授業ス

一月廿九日（木曜日）、例年ノ通学校ノ為祈禱会ヲ同志社内チャペルニ開ク デヴィス氏、ゲエーンス氏、森田氏等

演説ス、同日午後、同所ニ於テ奉教紀念会ヲ行フ、来会スル者三百五十有余人



二月七日、ゲエーンズ氏雇入ノ義許可セラレ、旅行免状及ビ僑寓証票ヲ下附セラル

三月廿五日ヨリ春期試験ヲ行フ

三月三十日、ゲエーンズ氏岡山県へ旅行ス

四月六日、第三期始業

五月二日、デヴィス氏妻女子出産、ホルン・オーゴスト・デヴィスト称ス、同六日免状書替ノ願書ヲ出ス

五月七日ヨリ一週間、京都ニ於テ第三回日本基督教徒大親睦会執行ニ付休業ス

五月廿五日、例年ノ通、当夏中教師方避暑ノ為叡山北谷ノ内三百式十坪借用ノ義ヲ其筋へ出願ス、且飲水ノ為延暦寺

内ノ清泉引用シ度旨ヲ出願シタリシガ、官林ノ分式百式十坪ノミ許可セラレ、而シテ清泉引用ノ義ハ新島公義延暦

寺役僧ト数回熟談ノ後漸ク飲用スルヲ得ルニ至レリ、此件ニ付知事ト河田書記官ノ手ヲ煩シタリ

六月廿五日午後第一時半ヨリ第十学年卒業式ヲ行フ、宮川経輝氏卒業生ニ告ルノ演説ヲ為ス

普通科卒業生

岡山県 原 忠美

山口県 告別 沢山 雄

神、学、科

群馬県 湯浅吉郎

六月廿六日午後一時半ヨリ邦語神、学、科卒業式

愛媛 小野 忍

岡山 馬場種太郎

愛媛 大森富次郎

静岡 須田明忠

京都 辻 籌夫

同 足立 琢

鹿児島 告別 池袋清風

岡山 加藤 寿

第十学期終り夏間休業ヲ告グ

附 言

本学期ノ初メ邦語神学生トナルモノ十三人アリ、又此学期中已ニ各地方ニアリテ現ニ伝道ニ従事セシ者〔ニシテ〕一年間神学ヲ学バンガ為来校セシモノ十四人ナリ、学室狭少ナルヲ以テ山科家ヲ借受スニ入ラシメタリ、其人々ハ西尾文亭、二階堂円造、長田時行、片桐清治、上代知新、横田勝治、高橋優、黒水亀、真鍋定造、松村竹夫、松原孫七郎、安藤乙五郎、酒井真輔、菱田仲行氏等ニシテ之ヲ邦語特別生ト称ス、六月以後皆直ニ伝道ニ趣ケリ

〔以上異筆〕

〔上欄〕  
邦語特別生

十八年十二月上旬、病ヲ以テゴルドン氏米國ニ帰ル

十八年十二月、医師ベレー師入京ス

十八年十二月十七日

新島襄米國ヨリ帰京ス

同 十八日

午前礼拝堂并新教場ノ定礎式ヲ執行ス、午后二時同志社十年期祝会ヲ開ラク デウイス、堀、新島ノ演説アリ、之ニ來臨セシ者、京都府知事北垣国道 滋賀県令中井弘、其外数名ノ紳士ナリ

〔上欄〕  
「名士中嶋信行氏モ臨会」

午后七時、新島氏帰京ノ為歓迎会ヲ催ス、レールネド氏并ニ岸本、鎌田、竹原三氏ノ演説アリ、新島氏答辭ヲ陳ヘ其ノ会ヲ終ヘタリ

〔上欄〕  
「十九年一月十九日

ペレー氏ヲ以ゴールドン氏ノ代理ト為スノ届ヲ出ス

十九年一月卅日

歩兵操練科設置願ヒ出ス」

〔添付〕  
「歩兵操練科設置御願

此度敝校へ歩兵操練科ヲ設ケ、生徒へ該科ノ要領ヲ教授仕度、就テハ御規則并ニ管理等ニ付キ総テ御指令ヲ導奉可仕候間、右設置之義御許可被成下度此段奉願上候也

明治十九年一月卅日

社員三名

文部大臣森有礼殿

新しま

知事へハ別ニ進達願ヲ添ヘタリ」

十九年ノ記

二月二十五日午前二時、レールネド氏方ニ於テ月未滿ノ男子出産ス、同五時死去ス 同日之ヲ黒谷山上ニ葬ル

但シ医師ベレー師ノ証書ヲ訊シ差出シ、戸長役場ヨリ葬式証ヲ請取り之ヲ西雲院（紫雲閣）ニ出シ、又別ニ葬式委頼書ヲ出シ、管理者ノ立合ヒノ上葬式ヲ執行ス、但シ昨年来寺ノ規則ヲ一層厳重ニナシタル由

同年三月二日

此夕七時前、烏丸通沓条下ルケーデー氏方ニ出火アリシニ主人ハ他ニ招カレ留守中ニアリ、又コツクモ不在ニシテ之ヲ消沈スルモノナキニヨリ、家屋、物件、書籍等ハ尽ク焼失セリ

同 同月十日 水曜日

五年生十二人ノ中九人ノ者同志社ヨリ今春ケ年ヲ延ハシ、文章、語学、歴史等ヲ修メ、然ル后卒業セハ如何、若シ同意ナレハ又々協議ノ上随分其ノ工風ヲ為スヘント申セ「シ」カハ、該級ハ学力ナキニヨリ如斯勸メラレ、該級ノ名誉ヲ傷害セラレタリト誤解シ、又グリーン氏ノ四年生ニ語ラレシ語ヲ伝聞シ、該級生ヲ四年生ノ前ニ謗レリト誤認シ、又校長ヨリ該級ニ通セシ所ノ事柄ト、グリーン氏ノ四年生ニ談セシ所ト齟齬スルト云ヒ（但シグリーン氏ハ同志社ノ輿論ノ如クニ語り、校長ハ全ク輿論トハナサ「ザ」ルト思「テ」語リタルナリ）十日ノ朝五時比、一封ノ書ヲ校長宛ニシテ伏見通氏ニ差置キ、何レヘカ脱走セリ

山本  
中村

〔上欄〕  
四月

伊勢時雄氏教員ノ欠乏セルニヨリ、先ツ春期丈ヶ京師ニ止マリ、同志社ニ於テ神学科ヲ教授スル事ニ決セリ」

同 四月五日

デウィス氏家族ヲ引キ連レ本国ニ帰ラン為、本日神戸ヲ発ス 同六日ノ夜、同氏ノ妻ソフアイヤ伊豆ノ沖灯台ヲ距ル遠カラサル所ニ於テ身ヲ海中ニ投シ死ス 但シ此所為ハ同人ノ発狂ニヨル

八日ノ朝、右ノ趣電報ニテ京都ニ通知アリ

〔上欄〕  
四月廿七日

岡山ノ牧師金森通倫氏ヲ招キ同志社教員タラン事ヲ依頼セシニ、其ノ教会ヨリ承諾ヲ受ケ得サル由ヲ以テ断ラレタリ」

同 四月卅日

本年伝道会社ノ年会アリ、我社友多ク京師ニ集タル際同志社教員ノ欠員ヲ充サン事ヲ議セシニ、一同金森通倫氏ヲ撰ミ適応ノ人ト云ハル、ニヨリ教員ニ附シ之ヲ議セシム、而シテ教員ハ大ニ賛成ヲ表セラレタレハ、本日新島襄社員総代トナリ招聘状ヲ書キ同兄ニ送ル、同兄ニハ之ヲ岡山教会ノ協議ニ附シ返答アルヘキ趣キヲ以、五月一日岡山

〔ニ〕帰航セリ

同 五月廿七日

叡山拝借願相済ム

二百七十坪 壱坪金壹錢 七八九ノ三ヶ月分

六月十二日、右地代十円十錢上納ス

〔上欄〕  
◎五月下旬

市原盛宏氏岡山ニ被参〔カ〕、遂ニ該会ノ承諾ヲ得、金森氏ヲ同志社ニ招キ教員タラシムル事ニ決定ス

〔上欄本〕  
◎五月中旬

浮田和民氏同志社ノ招聘ニ応シ東京 基督教新聞ノ事務ヲ辞シ、西京ニ来ラレ我カ校ノ教員トナル、但シ史類教授ノ担当

六月十六日

同志社ニ於テ公然神学科設置之事ニ付一書ヲ出シ、文部大臣森有礼君之内意ヲ尋ヌ

同 十七日

一宅地三十五坪老勺

六月廿五日

〔上欄〕  
卒業式

○兵庫県府下明石

旧川本

松尾音二郎

○大坂府下

松波仁一郎

〔上欄〕  
五年課卒業

〔上欄〕  
「礼拝堂之捧堂式」

右卒業式ハ新築礼拝堂ニ執行ス、同時ニ右新築礼拝堂捧堂式モ執行ス 市原氏ノ演説 新島氏ノ捧堂祈禱

但シ此礼拝堂ノ図面ハグリーン氏ノ画ク所ニ関シ、又同氏ノ日々不怠之ヲ巡回シテ本日ノ成功ヲ見ルニ至ル所ニシテ、氏ノ勞功実ニ謝スルニ方ナシト云ベシ、此堂ヤ至美至善ト云フノミナラス、其ノエコーチク之当ヲ得タル実ニ賛歎ニ堪エサル所、予茲ニ之ヲ記シ本社之記事ニ録ス

○府知事、大小書記、上下京区長、庶務、収税、学務課長、常置委員、新聞記者等ニ招待書ヲ出ス（グリーン氏方ニテ茶菓ヲ呈ス、来者ハ大坪格、上下京区長、常置委員、奥村氏老人）

六月廿四日

一 体操科ヲ教科中ニ編入ノ事ヲ生徒ニ告ク

一 生徒（入塾ノモノ）ハ尽ク校之食〔堂〕ニ於テ食事セラレン事ヲ要スル旨ヲ生徒ニ告ク

一 休暇中校費ヲ償フ為二十五錢ヲ各滞舎生ヨリ出サシム

塾舎監督老人ヲ置

月三円

西ノ構内 門番老人

二円

東ノ構内 門番老人（拍木打ヲ兼ヌ）

二円

予備校ヘノ関係

此校ノ創設ハ明治十八年九月、同志社入校試験ニ落第セシ生徒ノ遠方ヨリ来ラレ再ヒ帰郷スルニモ不都合、又西京府下ニ留マルニモ適宜ノ校ナク、又父兄ノ切ニ要求スル所ヨリ、上級ノ生徒等共ニ計リ此予備校ヲ開ラキ、落第生ニ其用意ヲ為サシムルモノトス

其ノ規則ハ本校ノ規則ヲ大概採用ス



発起人

池内徳考

岸本能武太

増野悦興

松尾音二郎

中川虎一郎

新島公義

職員

幹事

松尾音二郎

中川虎一郎

池内徳考

増野悦興

山中 百

漢学

芳本鉄三郎

松浦政泰

庶務

小林佳平

上京今出川上ル町室町通

同志社受験 予備校ト称ス

〔上欄〕  
七月十三日\*

クラークソン氏ノ姓名ヲケーデート変換ノ上、雇入免狀御下渡ヲ願フ

◎七月十三日\*\*

神学科英語科并邦語科設置ノ願書差出ス

同志社受験予備校ノ試験

同志社ヨリ試験委員ヲ出ス

新島 襄

岡本 巍

加藤勇次郎

三名

六月十九日

此日漢学教員、数学教員、該校ノ教員ト相図リ旧礼拝堂ニ〔テ〕試験ヲ行フ

一漢学ハ十〔八〕史略〔五冊目〕（ヌリ板ニ無点ニテ漢文ヲ記シ釈解ヲ為サシム）

一文章ハ片仮名交リ

一数学ハ分数ノ終マデ（問題ヲ白紙ニ大書シテ生徒ヲシテ看易カラシム

六月卅日）漢学ノ試験ハ十八史略中ノ文ニ訓点ヲ附スル事ニ定ム

注意 文章ハ同志社ヨリ委員ヲ出シ全ク其ノ人ノ預ル所トス

是ハ只章句ニ拘泥セズシテ其ノ人ノ才氣如何ヲ察シ之ヲ採用スルヲ主トス

「<sup>上欄</sup>新聞広告」

本年休暇中、来秋ノ入学者募集ノ為左ノ広告文ヲ作ル

入学志願ノ諸君ハ来ル九月六日マデニ来校アレ、本校概則入用ノ諸君ハ四錢郵便切手封入ニテ本校ニマテ申込ア

レ

入学試験「科」目 講読（十八史略）、作文（真片仮名交リ）、数学（分数ノ終マデ）

明治十九年七月

京都上京区相国寺門前 同志社英学校

東京 時事、日々、読売新聞、基督教新聞

大坂 朝日新聞

京都 中外電報、日ノ出新聞

岡山 山陽新報

名古屋 金城新聞

（三日ツ、続ケテ出ス）

入学生ヘハ庶務局ヨリ

○先ツ試験証券ヲ渡ス 生徒ヨリ履歴書ヲ添ヘ来ル

注意 試験ノ場所ト時日ヲ定ムル事ヲ要ス（学校ニスヘシ、私宅ニスヘカラス）

本年七月ノ末迄、松山ノ人後藤守衛ト中人ヲ雇ヒ同志社校長ノ書記タラシメシカ、同人モ永ク此地ニ留マルノ見込モ無之、又同志社ヨリモ永ク其人ヲ用ユルノ計算ニアラサレハ、同月卅日ヲ以テ解約ス（四月ヨリ七月迄四ヶ月間、月給ハ九円）

〔朱丸〕

○同年八月十八日 叡山ニ於テベレー氏ノ雇人寅次郎ナルモノ官林ニ於テ伐木セシコトニ付、林務官境野大吉殿〔宛ニ〕新島襄代人公義ヨリ一通ノ挨拶状ヲ出ス

同年九月三日 岡山ノ人加藤寿氏ヲ頼ミ書記タラシム、但シ約束ハ十九年九月ヨリ先ツ一ケ年間

同九月六日 歩兵操練科設置願ニ付、御指令御催促書出ス

同日 神学科設置願ニ付、御指令催促書出ス

同日 クラークソン氏、ケーデー氏へ結婚ニ付、姓名変換之上新免状（七月卅日）ヲ受取りタルニヨリ旧免状兩通ヲ返納ス

九月十日 教員會議ヲ以テ大坂ノ清水泰次郎氏ヲ招キ教員トナス事ニ決シ、同日新島氏下坂シ、同氏ニ面談シ、同志社ニ來、試ニ壹年間英語ノ反訳ヲ教授スヘキ事ヲ勸ム 十一日、招キニ応スルノ答電報ヲ以テ來ル 又十七日迄ニ入京ノ由通知アリタリ

九月十三日 第十二学期ノ第一期ヲ開業ス

新入生 第壹年生

〔ママ〕

〔添付〕

「不肖盛宏曩ニ貴校ニ於テ教授ノ職ヲ奉ゼシヨリ年ヲ重ヌル已ニ七回、元來淺学短才ノ身ニシテ此大任ニ当ルベキニアラザレトモ、当初他ニ推スベキノ人ナキヲ以テ敢テ自カラ之ニ当リ、爾來常ニ其職ヲ瀆サン事ヲ恐レタ

リ、然リト雖トモ貴校ノ不肖ニ対スルヤ優待厚遇終始一日ノ如ク、不肖ノ深ク肝銘スル所也、今回宮城県仙台ニ於テ有志等貴校ト主義ヲ同スル所ノ英語学校ヲ創立シ、不肖ニ請フテ其校長代理ノ職ニ就カシメントス、千思万考ノ末遂ニ其求メニ応ジテ不日該地ニ赴任セントス、依テ今不肖ガ従来貴校ニ於テ負担セシ所ノ職務ヲ辞シ、併セテ年来ノ洪恩ヲ謝ス、盛宏頓首再拜

明治十九年九月

市原盛宏 印

同志社英学校長 新嶋襄殿

九月十七日

市原氏仙台ニ趣カルニヨリ、其夕同志社新会堂ニ於テ、教員生徒共ニ同氏ヲ送ル為甚懇切ナル送別〔会〕ヲ開ク、簡短ナル演説又ハ文章啣読等アリ、七時ヲ以テ開キ九時十分ヲ以テ閉場ス、二年生ヨリ神学生ニ至ルマデ各級一人ノ総代ヲ出シ、教員ヨリ一人ノ総代ヲ出シテ送別ノ辞ヲ陳シム、市原氏ノ答詞アリ

〔上欄〕

「九月廿七日、此迄ノ各寮一人ツ、ノ担当教員ヲ廃シ、加藤勇次郎ヲ以テ総寮ノ担当教員ト定メ、生徒ノ出入ヲ凡テ

届ケシム

九月十日より十二日まで、本校礼拝堂におひて米国レビット婦人の禁酒演説会あり

十九年十月十五日

食堂規則 二

臨時入校規則 壹

右編制、食堂ニ広告ス

右編制ス、尤モ食堂規則ハ二款トモ食堂ニ揭示す

十月一日、第八寮新築工事着手」

〔異筆〕

十一月八日

一クリイン氏居宅内官地継続願、京都府庁へ差出ス、〔朱〕十九年十二月七日聞届」

十一月十六日

一神学専門科設置之義ニ付京都府庁へ出願、〔朱〕十九年十二月廿日聞届」

〔上欄〕十一月十六日、書籍館棟上式施行」

十一月十七日

一北米合衆国マサチューセツツ州ロエル府神学士アルサル・ダブリウ・スタンフォルト 并同国ニーヨルク州チヨル

チウィル呂住文学士エドモンド・バクレーの両氏入京す

〔上欄〕十一月十七日、第八寮上棟式施行」

十一月二十日

一右両氏当校教師に雇入の願書并寄留免狀願京都府庁へ差出す、〔朱〕廿年二月十六日聞届 免狀二通下付」

十二月一日

一 御苑内におひて当校生徒体操施行之義ニ付、主殿寮出張所へ出願す

〔朱〕

「十九年十二月七日聞届」

十二月十四日

一 本日ヨリ向フ四日間、第十二学年第一期末ノ修学試験施行

十二月十六日

一 室替委員七名ヲ撰挙ス、其連名左ノ如シ

安部磯雄、岸本能武太、川本音二郎、原忠美、望月興三郎、山路二三、松浦政泰

十二月十八日

一 本日ヨリ休校

一 本日室替を施行す

十二月廿八日午后第二時過

一 文部大臣森有礼公臨校之事

但礼拝堂におひて暫時演舌あり

明治二十年一月一日

一 新年宴会ヲ食堂におひて午后六時より開ク

一月六日



一第十二学年第二期始業

一月七日

一午后四時ヨリ米人ミユルロル氏来校、礼拝堂にて説教アリ

一月八日

一午前十時ヨリ同氏ノ説教アリ

一月十日

一食堂視察委員ノ改撰ヲ施行ス、其当撰者左ノ如シ

32点山路一三、29、安部磯雄、25、川本音二郎、24、岸本能武太、23、望月興三郎、候補者(二十二点 山中百、二十一点 原忠美、二十点 足立通衛)

一同日寮長ヲ撰挙ス、当撰者左ノ如シ

第壹寮長

岸本能武太

第貳寮上下長

川本音二郎

第三寮上下長

山路一三

(朱弧)

第四寮上長

広瀬孝二郎

(朱)

同 下寮長

同 下寮長

広津友吉

(朱)  
「二月八日、第八寮下寮長ニ転ス」

第五寮上階長

山中 百

同 下階長

安田保太郎

第六寮上階長

松浦政泰

同 下階長

安部磯雄

第七寮上階長

足立通衛

同 下階長

白木正蔵

望月興三郎

一月十四日

一午後二時より礼拝堂におひて同志社教会十年紀を施行す、其順序左ノ如シ

一伊勢氏 祈禱

一松浦氏 教会歴史朗読

一新島、原田、松尾、宮川、井深諸氏の演説、詩文等あり

一祝禱 金森氏

一午後七時ヨリ新京極道場におひて基督教演説あり

一月十五日

一午前八時より十時過ぎまで、礼拝堂におひて同志社大演〔説〕会施行

一月十八日

一グリーン教師雇継之願書差出ス

〔朱〕  
「廿年二月三日間届済」

一月廿六日

一本日 聖上皇后入御ニ付、奉迎之為め休課

一月廿七日

一本日午後より万国学校の隆盛を祈る為め本校祈禱会あり、就テハ課業午前のミ施行し午後休業

午後第一時より 各級之祈禱会

午後第二時より 本校生徒聯合の祈禱会

一スタンフォルト、バクレー両氏の旅行免狀願出ス

〔朱〕  
「明治廿年二月十六日聞届 免狀二通下付」

一月廿八日

一午後二時より同志社礼拝堂におひて伊勢峰子之葬式施行

一午後第七時十五分より同所にて奉教紀念会施行

二月一日

一午後一時半より新島校長父是水翁葬式\*同志社礼拝堂におひて施行す

二月四日

一グリーン氏往復旅行免狀二通京都に差出ス  
〔朱〕  
「廿年二月廿一日、免狀下付」

二月八日

一私立学校表取調、戸長役場へ差出ス

一 第八寮上下二寮長ヲ發票ス、当撰者左ノ如シ

第八寮上階長

富田元資

同 寮下階長

広津友吉

二月十八日

一 本校通学生京都府平民婦士伊三郎ナル者、窃盜犯ニテ逐校ヲ命ス

二月十九日

一 本校教師并生徒猪獺トシテ鞍馬山辺ニ至ル、猪式疋を獲たり

一 年前第十一時過ぎ頃、総理大臣伊藤伯来校あり

二月廿四日

一 グリーン、バクレ、スタンフォード三氏の旅行免状、家族姓名記入願、外務大臣宛にて府庁へ差出ス

〔朱〕  
「本年三月九日、免状三通下付」

三月二日

一 本年九月より生徒募集の爲め左の広告ヲ各新聞（日本橋区 時事新報、銀座 東京日々新聞、同 東京・横浜毎日

新聞、薬研堀 報知新聞、京都 中外電報、大坂 朝日新聞）以上四回ツ、

岡山 吉備日々新聞、福岡 福岡新聞、名古屋 金城新聞、福井——新潟——熊本——）以上式回ツ、

等に広告ス

〔朱〕  
「〇印ハ二号、其他ハ四号ナリ」

英学〔校〕生徒募集広告

来。ル。九。月。ヨ。リ。本。校。第。一。年。科。入。学。試。験。ノ。科。目。中。へ。英。学。ノ。一。科。〔第一、第二、ナショナルリードル若クハ之ニ匹敵スベキ者〕ヲ追加ス、但シ其他ノ試験科目ハ従前ノ通り講読（十八史略）、作文（片仮名交リ）、筆算（分数ノ終リ迄）近來本校へ入学希望ノモノ踵ヲ接シ授業上困難少カラズ、因テ第一年科ニ入学志願ノ者ニ限り第一期ノ初週（九月中旬）第二期第三期ノ開校ニ先タツ前一週間ノ金、土両日ノ外一切入学ヲ謝絶ス、且其他ノ入学志願者ト雖トモ、生徒ノ員数ニヨリ不得止入学ヲ謝絶スル事アルベシ、故ニ入学志願ノ諸君ハ凡テ第一期開校以前（九月上旬）ニ來校アラシム事ヲ希望ス

京都上京区第拾組相国寺門前町

同。志。社。英。学。校。

三月三日

一新嶋校長上京ス 但シ十日間ノ見込

一愛媛県森菊太郎（第一年生）窃盗犯ニ付逐校ヲ命ズ

三月九日

一グリーン、バクレ、スタンフォルト三氏の旅行免状下附に〔付〕請書ヲ府庁に進達ス

三月十日

一デヒス教師帰京あり

〔上欄朱〕  
三月十二日

本日ヨリ毎月一回、同志社文学雑誌発行ス\*

本日第一号ヲ会員ニ頒ツ」

三月十四日

一校長帰京

三月廿一日

一本日ヨリ第十二学年第二期試験施行

三月廿二日

一試験施行ニ付学務課ニ案内ス

三月廿三日

一宮中顧問官元田某及ひ随行員数名臨校あり

一第三期室替委員八名ヲ撰挙、其当撰者左ノ如シ

六十屯点 岸本能武太

五十点 原 忠美

四十九点 松尾音次郎

四十九点 望月興三郎

四十五点 山中 百

三十五点 安部磯雄

三十五点 松浦政泰

四十五点 山路一三

以上

三月廿四日

一 上京区第十七組上長者町通元浄華院町に有之藍染溝交換願、京都府へ差出ス

<sup>〔朱〕</sup>  
「廿年四月一日聞届指令あり」

一同区同組同町に有之同溝払下願、同府へ差出ス

<sup>〔朱〕</sup>  
「四月五日、書式更正ノ廉有之下却、即日再達ス」

「廿年五月廿五日聞届」

一同志社文学雜誌発行願、警察本部へ差出ス

<sup>〔朱〕</sup>  
「廿年四月十二日、指令下付」

三月廿五日

一 デヒス氏、上京区第十一組常盤井殿町六百廿二番地へ寄留書差出ス

三月廿六日

一 本日ヨリ壹週間内、第貳期休業

三月廿六日

一 第三期室替ヲ施行ス



四月四日

一本日より第三期始業

四月五日

一 第三期寮長投票、当撰者姓名左ノ如シ

第老寮長

八点 足立通衛

第貳寮長

四点 望月興三郎

第三寮長

五点 松浦政泰

第四寮上長

五点 岸本能武太

第四寮下長

貳点 広瀬孝二郎

第五寮上長

四点 広津友吉

第五寮下長

五点 花島健起

第六寮上長

五点 山中 百

第六寮下長

七点 山路一三

第七寮上長

三点 桜井 幹

第七寮下長

三点 川本音二郎

第八寮上長

九点 遠藤能定

第八寮下長

二点 留岡幸助

以上

一体操掛竹田丈治解雇

一予備科ヨリ老年生へ入課スルモノ四名

四月六日

一予備科ヨリ本科老年生へ入ルモノ六名

四月七日

一本校助教安部磯雄本日限解雇、岡山基督教会仮牧師ノ招聘ニ応ス

一予備科ヨリ本科老年生へ入ルモノ七名

一老年生ニシテ退校スルモノ七名

四月十二日

一第三期食堂視察委員ヲ撰挙ス、当撰者姓名左ノ如シ

十五点 松尾音二郎

十五点 望月興三郎

十四点 山中 百

十六点 岸本能武太

十七点 山路一三

候補者  
12 足立通衛 7 原 忠美

四月十五日

一道路へ物品一時差置願ヲ上京警察署ニ差出ス

(朱)

「廿年四月十五日開届」

一上下長者町官道通行停止標下附願、同署へ差出ス

(朱)

「廿年四月十六日開届」

四月廿一日

一同志社文学雑誌、発行延期刷行定期変更届を警察本部に差出す

四月廿五日

一烏丸通龍前町変溝工事落成届ヲ本庁ニ差出ス

四月廿七日

一基督教大親睦会ニ付、金森通倫氏東京ニ出発ス

(朱)

「廿年五月廿一日帰京」

四月廿八日

一同上ニ付、伏見通氏東京へ出発ス

(朱)

「廿年五月十七日帰京」

一上京警察署ヨリ故賄方和久田雄吉ナルモノ、行為上問合セ有之ニ付、回答書ヲ即日差出ス

一本校老年生川嶋篤三郎退校ス

〔上欄朱〕

「四月廿九日、本校生徒佐藤、安永詰、吉浦、伊藤尚ノ四氏盜難ニ罹ル旨届出ル

四月三十日、同志社文学雑誌第一号ヲ発兌ス」<sup>\*</sup>

〔添付〕〔朱〕第五号

「本校ハ例年ノ通来ル九月十七日ヲ以テ開業シ、校則第一条ニヨリ漢学試業ノ上生徒六拾名ヲ限リ入校セシム、有志ノ諸君ハ校則一覽ノ上同月十二日迄ニ来校アルベシ

西京相国寺門前町

〔朱〕第二号  
同志社英学校

明治十四年八月

日々、時事、○立憲

〔朱〕第五号

本校ハ例年ノ通九月十七日ヲ以テ開業シ、更ニ生徒二拾名ヲ限リ入学ヲ許ス、有志ノ方ハ御通知次第校則書送呈致スヘシ ○立憲二

西京今出川寺町西ニ入

〔朱〕第二号〕<sup>\*\*</sup>  
同志社女学校

明治十四年八月

五月一日

一 本校第八寮に午後十一時頃何者とも知れず忍び入り、邦語生小北寅之助、垣見敬男、岩崎重怡の時計を窃取す  
五月二日

一 同志社文学雑誌第一号発行届を本庁ニ為す

一 盗難届を上京警察署に為す

一同志社文学雑誌定税通送免許願ヲ通信省に差出ス

〔朱〕  
「廿年五月廿日、聞届」

一 本校老年生〔<sup>〔朱〕</sup>三重県〕山崎直、退校ス

五月六日

一同志社文学雑誌四月々表本庁へ差出ス

五月九日

一 邦語神学科を別課神学科と改称せるに付、右届を本庁ニ差出ス

五月十日

一 本校生徒大八木義雄盗難に罹る届書ヲ上京警察署に差出ス

五月十一日

一 別課神学生募集広告ヲ組合諸教会ニ出ス

五月十六日

一 本校家屋畳数取調トシテ上京区役所ヨリ二名出張ス

一 予備校設立之主意書発行ス

〔上欄朱〕  
「五月廿一日、同志社文学雑誌第二号発行ス

五月十八日より向フ五日間の見込にて校長新嶋氏奈良地方ニ至ラル、五月廿六日帰京

五月廿七日、金森氏岡山ニ至ラル、同月廿九日帰ル」

五月廿三日

一 本校改正規則書発行ス

一 京都府庶務課ヨリ本校雇外国教師現員取調方照会致し来候ニ付、本日調製進達ス

六月一日

一 払下地々券下附願本庁へ差出ス

〔朱〕  
一 廿年八月十日、地券二通下附」

一 警察本部へ同志社「文学」雑誌五月分月表差出ス

六月三日

一 テヒス氏雇繼願ヲ外務大臣宛ニテ差出ス

〔朱〕  
一 廿年七月十四日聞届」

一 叡山字八町谷官林拝借願ヲ京都大林区署ニ差出ス

〔朱〕  
一 廿年六月廿三日聞届」

六月六日

一 叡山字八町谷官林小柴払下願ヲ京都大林区署ニ差出ス

〔朱〕  
一 廿年八月廿三日聞届」

六月十一日

一新嶋校長仙台宮城英学校開業式并北海道ニ避暑トシテ出発ス  
〔上欄外〕  
六月十七日

一仙台宮城英学校開業式アリ

六月廿日

一上京区十七組元淨華院町五百八十二番地、本社所有地之表門變換届ヲ同組戸長役場ヘ出ス  
一本日ヨリ廿三日マテ本校第三期試験ヲ施行ス

六月廿一日

一第八回本校生卒業式執行案内状ヲ京都府官吏并府内紳士ノ方々ニ差出ス

〔上欄外〕  
六月廿三日

一午後第二時より同志社女学校卒業式あり

卒業生四名

六月廿四日

一午前第九時より神学科卒業式を行ふ、其順序并卒業者姓名左ノ如シ\*

(一)奏楽 二十番（邦語）

(二)祈禱

金森通倫

(三)卒業生へ勸告

伊勢時雄

(四)卒業生演説（邦語）分化ト結合 岸本能武太



(四) 奏楽 (英語)

(六) 卒業証書授与 校長新嶋襄代理 山本覺馬

(七) 奏楽 (英語)

(八) 祝禱

ラルネット氏

一同日午后第二時ヨリ本校英語普通科卒業式執行、順序并卒業者姓名左ノ如シ

(1) 奏楽 六十七番 (邦語)

(2) 祈禱

加藤勇次郎君

(3) 卒業生演説

兵庫

一、万有之演説者 (英語演説)

三谷種吉

大阪

二、人生之目的 (邦語演説)

丹羽清次郎

三重

三、東洋之文明 (邦文)

村田 勤

大阪

四、宇宙之至美 (英語演説)

矢口信太郎

福岡

五、人（邦文）

白木正蔵

奏楽（英語）

新瀉

六、国家之生命（英文）

高橋善作

福島

七、日本之長策（邦語演説）

望月興三郎

熊本

八、至強之動機（英文）

志垣要三

愛媛

九、日本将来之文学（邦文）

松浦政泰

鹿児島

十、愛（英語演説）

山路一三

(4) 告別

同人

(5) 奏楽

(6) 卒業証書授与

校長新嶋襄代理

(7) 奏楽

山本覚馬

(8) 祝禱

以上

右卒業式ニ付府知事其〔他〕二三の紳士来会セリ、同式終りて右来会者ヲグリーン氏宅に招ひて茶菓ノ饗ヲ為ス  
一愛宕郡字八町谷官林拝借聞届請書京都大林区署に差出す

一ベルリ、リチャアルド、ウエーンライト三氏之雇入願を外務大臣宛にて差出す

〔朱〕  
「廿年七月十四日、免状下附」

六月廿五日

一午前十時より同志社アルムニ会<sup>\*</sup>ヲ礼拝堂に行ふ

一本日ヨリ休業

六月廿七日

一夏休中、花島健起氏ヲ総寮長に、加藤寿氏ヲ幹事に撰定ス

一同志社文学雑誌第六月分月表、警察本部へ差出す

〔上欄朱〕  
「六月廿七日より同二十八日迄、予備校生徒試験」

六月卅日

一夏休中室替委員に遠藤能定、花島健起、金子常五郎の三名撰定ナリタリ

一上京区十七組元浄華院町及二十一組鷹司町溝敷松下地位上申書ヲ府知事ニ差出す

〔朱〕  
「廿年八月二日、査定聞済」

七月廿日

〔朱九〕

○同志社病院、同看病婦学校設立願を京都府知事に出願ス

〔朱〕

「同志社病院設立願、廿年八月三日聞届らる」

〔朱〕

「看病婦学校設立伺、廿年八月十一日認可」

一 本校雇外国教師避暑のため、本日より叡山字八町谷官林に登山ス

七月廿七日

一 上京区第十組上立売東町三十八番地へ同志社予備校寮舎新築に取掛る

〔上欄朱〕

「八月五日

一看病婦学校并同志社病院規則出来に付、組合各教会并有志者へ頒布ス」

七月廿九日

一同志社文学雜誌七月分月表ヲ警察本部ニ差出ス

七月卅日

一 本校第三年生高木安太郎退校す

七月卅一日

一 午前第九時頃司法次官三好退蔵君来校、諸室縦覧了テ礼拝堂におひて生徒に向ひて演説せらる、帰路上長者町看病婦学校に立寄らる

八月一日

一 京都同志社英学校規則提綱<sup>\*</sup>出来ニ付之ヲ頒布ス

〔上欄朱〕  
一 八月一日

予備校〔校〕舎建築費募集のため、加藤勇次郎、浮田和民、森田久万人之三氏并中村栄助と共に大阪地方に至る  
八月二日

右建築費として、大阪藤田伝三郎氏金二百円寄附す

八月四日

右建築費募集のため北垣府知事の周旋を仰きしにより、校長并右新築委員の名儀を以て北垣氏へ礼状を出す  
八月三日

一同、同志社予備校設立願を府知事宛にて差出す

〔朱〕  
一 廿年八月卅日、認可指令あり

一 リチャアルド、ウエンライト両氏の免状訂正願を外務大臣宛にて差出す

〔朱〕  
一 廿年八月廿四日、免状訂正ノ上下附

一 ベルリ、デウ井ス、リチャアルド、ウエンライト四氏免状下附の請書を差出す

八月六日

一 愛宕郡比叡山字八町谷官林に有之樹木小枝払下願を京都大林区署に出す

〔朱〕  
一 廿年八月十七日聞届

一同所に有之柴草払下願二通を同署に差出す

〔朱〕  
「廿年八月十七日聞届」

一 上京区役所に同区十七組戸長役場へ同志社病院設立聞届済之届書を出ス

一 右病院并看病婦学校開設之披露書を端書にて、五十二教会并十三新聞社に差出ス

八月九日

一本日安部磯雄、岸本能武太、松浦政泰、村田勤、三谷種吉、志垣要三の六氏に関する本校寄留出立届を第十組戸

長役場に差出ス

〔上欄朱〕  
「八月六日

看病婦学校入学志願者の身元問合セの用紙を千枚活版に附ス、八月十二日出来

八月十日

加藤勇次郎氏帰京」

〔上欄〕  
「八月十三日

海老名弾正氏、九州伝道の途次来京、本日出発

同日

大林区署員、叡山天幕并樹木払下之義ニ付検査トシテ出張ニ付、右立合ノタメ加藤寿該山へ出張」

八月十七日

一 同志社文学雑誌、八月休業届を本庁に出ス

九月二日

一上京区役所并十組戸長役場へ予備校設立認可済之届書ヲ出ス  
九月八日

一同志社彰栄館大時計来着、本日組立ツル

九月十五日

一本日午前八時より入学試験を施行す、其順序左の如し

数学試験 午前八時より十時迄 (甲組) 一番より百廿六番迄

右加藤勇次郎氏受

作文試験 同十時半より十二時迄 (乙組) 自百廿七番 至二百五十二番

右森田久万人氏受

英学試験 午後一時より (甲組) 自一番 至百廿六番

右藤田愛二氏受

漢学試験 午後三時より (乙組) 自第百廿七番 至二百五十二番

右坂田丈平氏受

九月十六日

一入学試験課目左の如し

一数学試験 午前八時より (乙組)

一作文試験 午前十時半より (甲組)



一英学試験 午后一時より（乙組）

一漢学試験 午後三時より（甲組）

但し各科受持教員前日之通り

以上

一同志社外柵改造ニ付、官道へ物品一時差置願を上京警察署に出ス

〔朱〕  
即日開届

一デウ井ス教師旧旅行免状（第三五三八号）外務大臣宛にて京都府に返納ス、并新免状デウ井ス氏に渡ス

九月十七日

一入学試験あり、其科目左の如し

一数学試験 午前八時より（丙組）二百五十三号より三百五十八号迄

一作文試験 午前十時半より（同組）

一英学試験 午后一時より（同組）

一漢学試験 午後三時より（同組）

但し各科受持教員前日之通り

一本科入学志願者申込、本日午前八時迄合計三百六十九名あり

一本日第一期室替委員ヲ投票ス、其当撰者姓名并点数左ノ如シ

五十一點 松尾音次郎

四十九点 山中 百

四十七点 山路一三

四十一點 花島健起

三十三点 原 忠美

二十四点 望月興三郎

二十三点 桜井 幹

二十三点 志垣要三

以上八名

九月十九日

一 本日始業

一 第十三学年第一期室替アリ

一 別課神学入学試験あり、其科左ノ如シ

一 作文 午前第十時半より十二時迄 浮田氏

一 算術 自午後一時 至同二時半 加藤氏

一 地理書 自午後二時半 至第四時 森田氏

右試験場ハ新礼拝堂

一 予備校入学試験旧礼〔拜〕堂におひて施行す、其科目左の如し

一 講読 自午前八時至同十時 楯岡斧藏氏

一作文 自午前十時半至同十二時 山中 百氏

一 数学 自午後二時至同四時 柏木義円氏

以上

一 別課神学入学試験申込人員、本日迄貳拾壹名ナリ

一 本科及第生ハ百〇四名なり、之に六月予備科卒業生貳拾三名を合して合計百二十七名なり

〔上欄〕  
九月十六日

ゴルトン教師米国より帰る」

九月廿一日

一 予備校入学申込、二百〇二名あり

一 及第者、百七十二名あり

〔上欄〕  
九月廿三日

午後六時半より伝道本局より派出の伝道報告会ヲ同志社公会に開く\*

九月廿四日

同志社外柵ヲ石柱に改造す

九月廿五日

一 午前九時より同志社公会にて聖晚餐あり

一午後二時より地方伝道報告会ヲ同志社公会に開く

九月廿六日

一中嶋〔長谷川〕末治氏同志社女学校教師ヲ辞して北越に赴く

九月廿七日

一本日より予備校々舎へ生徒ヲ入ル

一十三学年第老期寮長当撰者姓名左ノ如シ

老寮長 1 足立通衛

貳寮長 8 桜井 幹

三寮長 7 山中 百

四寮上階長 8 川本音次郎

四寮下階長 5 増田雅太郎

五寮上階長 6 阿部政恒

五寮下階長 6 海老名一郎

六寮上階長 9 花島健起

六寮下階長 6 広津友吉

七寮上階長 11 志垣要三

七寮下階長 4 丹羽清次郎

八寮上階長 7 山路一三

八寮下階長 8 原 忠美

以上

九月廿八日

一午後三時頃予備校生（神戸）鈴木藤造氏、同志社遊戯場にて頭部に負傷を受く

十一月五日

一拾三学年第老期中食堂視察委員当撰者姓名左ノ如シ

松尾音次郎

山中 百

望月興三郎

原 忠美

山路一三

十一月廿五日

一東通行門ヲ除クノ外、都テ他ノ門ハ日没閉戸ノコト実行ス、彰栄館西口右同断ノ事

十二月十五日

一東京小室信夫氏ヨリ書籍類長持四荷寄附被致候事、但本日着

〔上欄〕  
十二月廿八日

バクレー夫婦旅行免状本日渡ス、同日請書進達ス」

明治二十一年分

一月十六日

一新調ドル箱鍵二本ノ内、尅本ラルネテ氏ニ預ケル

一銃器使用ニ付伺書、上京警察署へ差出ス

校長代理 加藤勇次郎

二月十七日

教則第十条追加

一病氣ノ為メ一日ナリ共体操欠場ニ及者ハ、其認許ヲ本社医師（ベレー氏）ヨリ受クベシ、且病氣ニ付日課欠席一

日以上ニ及者モ亦前同断ノ手続ヲ経ヘシ

教則第十条但書中（疾病二日ヲ過ルトキ）ヲ左ノ通り改正ス

（疾病一日以上ニ及フトキハ）

右之通り広告場へ揭示ス

二月廿四日

原 忠美

海老名一郎

船本梅次郎

右之生員門限遅刻上校則第四条ニ違背セシニヨリ本日ヨリ、一週間謹慎申付候事

三月一日

一本校賄ハ從來学校ニ於テ執リ行ヒシ処、今回都合ニヨリ一大改革ヲ行ヒ、責任者ヲ置キテ之ニ一切ヲ負担セシムルコトニナリタリ、依之学校ハ賄部ニ於テハ唯生徒ノ食料ヲ取立ツルノミ、其責任者ハ上京区樫木町油小路東大谷市次郎ナルモノニ命ズ

一明治二十年十二月ヨリ本校賄監督者トシテ雇ヒシ丹波国船井郡船枝村井尻亀太郎、今回賄ノ改正ニヨリ、本日ヨリ同志社書記ニ命シタリ

三月二日

三寮長 原 忠美

四寮長 白木正蔵

右退校并ニ辞職ニ付再撰セシニ、遠藤、木山ノ両氏当撰ナリタリ

三月十九日揭示

教則第十条追加左ノ通

予メ欠課ノ許可ヲ受ケスシテ唯吾人若クハ貳人以上申合日課ニ出席セサルモノハ、此外ニ如何ナル理由アルニ係ハラス退校申付ルコトアルベシ

但本校欠課規則ハ従前ノ通変更ナキモノナリ

三月



一英学科第老年三期入学志願ノ者ハ、来ル四月六日限本校庶務へ申込アレ

但四月七、八ノ兩日ヲ試験定日トス

右之通広告候也

三月廿三日

英学科第老年生 古谷雄武太

右之者本校塾則第八条ニ違犯シタル件ヲ以テ、本日ヨリ七日間謹慎申付、校外発足ヲ禁ス

〔上欄朱〕  
「社員増加」

熊本県〔朱点〕、小崎弘道

同、宮川経輝

群馬県、湯浅治郎

京都府、大沢善助

右四氏過般来相談相整、同志社々員ニ加入被致候ニ付、本日改而府庁へ右加入之義御届申候間、此段全校諸士ニ御通知申候也

廿一年二月

三月廿七日

通学則

一第一条中（或ハ近親者アルモノ）ノ九字ヲ削除ス、就テハ当局中ニ父兄並ニ叔伯父母アル生徒ヲ除クノ外、本月

中ニ帰塾之都合ニ相成候様可被致候事

同志社英学学校  
神学

三月廿五日

井尻亀太郎病氣ニ付職ヲ辞シタリ

三月廿八日

休業中帰省セラル、生徒ハ、兼テ設アル庶務局ニ来リ名簿ニ記名可被致候、但在校中外泊ノ生徒ハ凡テ平〔常〕通  
リタルベキ事

四月二十七日

松平容大殿再度入校之儀、教授議會ニ呈出候處、目下許可シ難シトノ決議ニ候間、此段御通知申上候也

委員

ラルネット

森田久万人

山本寛馬様

末光類太郎

渡辺栄太郎

各通

清水伴三郎

弓削田精一

山崎 篤

食堂規則ニ違背シタルヲ以テ、本日ヨリ七日間謹慎申付、校外発足ヲ禁ス

明治廿一年四月二十七日

同志社英学校

右三日間校内掲示シ、且各自へ言渡タリ

五月四日

英学科第二年生

大西亀太郎

各通

同

菊池栄治郎

右ノ式人ハ或ル料理店ニ至リ酒ヲ飲ミ、校則第四条ニ違背シタル事実明白ナル件ヲ以テ、本日ヨリ退校申付候也

五月四日

同志社英学校

右三日間掲示シ、且本人等保証人ヲ呼出シ其旨通達セリ

本日食堂視察委員改撰ニ付撰挙投票会ヲ開キシニ、左ノ五氏当撰セリ

山中 百

松尾音次郎

山路一三

広津友吉

広瀬孝二郎

右当撰承諾ヲ得、然ル後チ森田氏へ通知セリ

五月十四日

一 別科一年生曾我部四郎ハ本日退校之旨通知セリ

五月廿五日

井上伯爵午前第十時来校、教場及書籍館、予備校等巡覧之上、礼拝堂ニ於テ本校将来之企望及学生諸氏ノ方針ニ付一場ノ演説セラレ、終テ看病婦学校、女学校ヲ巡視、午後二時頃退出セラル\*

42 同志社記事〔明治八年十一月〜十六年二月〕

千八百七拾五年十一月

明治八年十一月

新島

千八百七拾五年、我明治八年十一月廿九日より我同志社開業ス

学校ハ上京第二十二区松蔭町十八番高松保実屋敷を借、仮英学校ニ致セリ、明治八年十一月廿二日デビス来京ス、明治九年二月、テーラ、レールネド来京

〔上欄〕  
「山本寛馬、新島襄二人にて社を結び、英学校を開き、之を名ケテ同志社ト称ス」

千八百七拾六年五月二十四日より三十一日迄、大坂に於て宣教師会合ス

京都学校建築之事決す

〔上欄〕  
「六月」

明治九年六月五日、西京府迄学校建築之届出す

同月同日、相国寺門前地所之地券引替之願書出す

〔朱丸〕  
○同月十五日、同所ニ於而学校建築に取懸れり

一同月廿八日、神戸公会之者今村謙吉、三田公会之者沢茂吉、前神醇一、我輩ヲ社之議員ニ加レリ

一七月七日 相国寺門前地券請取ル

相国門前百八拾番地外地

七百五十六坪

同

二千七百八十五坪四合

御所八幡町百七拾一番合地

千七百三十九坪三合

岡松町百八拾四番地

五百二十五坪

〔上欄〕

756

2785

1739

525

5855  
〔ママ〕

〔上欄〕  
「九年七月」

七月九日

同日之夜二時半、レールネド〔補〕廿七年ハケ月」方ニ而女子出生、グレース・ホイトネーと相名付候

一七月廿日、デビス氏雇継之願書差出ス、但シ雇入期限ハ五ケ年トス、明治九年十月一日ヨリ明治十四年九月卅日ニ至ル

七月二十二日

同志社学校棟上致す\*

八月八日 デビス雇継願書七月二十一日差出シ候所、廿二日東京へ御回シニ相成、八月八日免狀御渡ニ相成ル 但九年十月より明治十四年九月卅日迄向五ケ年間雇入

九月五日 ドーン氏雇入之願書差出ス

九月十二日 相国寺門前同志社英学校之建築已ニ成ル

同 十八日 同志社英学校之開業

十月五日 ドーン氏雇入之願書請取ル

十月七日 ドーン氏、東竹屋町九十四番地木村源三郎扣家ニ寄留被仕届差出ス

〔朱〕  
一宿料四円五十銭

下京第八区進之町高畑

僕 五十六年一ヶ月

京都府平民勝山重太郎三男

作二郎三十八年

下京十二区神明町

婢

同 富士田吉兵衛母

つた五十一年

十月十七日 デビス氏の旧免状寄留状返却ス

ドーン氏の妻之寄留状受取ル

十月廿六日

止宿御届

熊本県第三大区九小区新屋敷四百九十一番地

士族下村孝太郎姉ちき



十八年三ヶ月

同人妹すえ

九年九ヶ月

右は上京第十一区デビス氏ニ止宿之届出ス

十二月三日 京都第二公会新島ノ宅ニ建立、バプテスマヲ受ケ入会スル者十五名、余ハ書翰ニテ入会セリ

十二月一日 テーラ氏、府下人民の治療仕候付御尋有之、右之御答書面ヲ以十二月六日差出ス

十二月廿日 テーラ氏、府下ニ医術開業之願勸業場医務掛ヘ差出ス

十二月廿一日 同志社地内ニ於旗杆ヲ立ツル事ヲ伺ニ出シタリ

同志社学校今日ヨリ休息、一月四日ニ到ル

十年一月四日 同志社第二期初マレリ

同十日 同志社ニテデクレメーションヲ初ム

一月十三日 テーラ治療之願難聞届候事之達シ有之

一月十五日 東京数寄屋橋内鳥原邸内 山科元行ニ テーラ氏義ニ付一書差出ス

一月廿七日 下村ちき、すえ之寄留届差出ス

二月廿日 米国旗掲上之事ハ難聞届候条、京都府より布達候事

二月廿二日 デビス氏免状紛失御届并御下願差出ス 三通ツ、

二月廿八日 田中不二磨ヨリ返詞来ル

三月廿一日 デビス氏從來御免狀紛失致候ニ付「<sup>〔補〕</sup>九年十一月廿一日」再ヒ御下ケ願出之處、五ヶ月ヲ経、今日御下ケ渡ニ相成

同月廿二日 雇入教師之雇入御免狀四通御返納致ス

同月廿七日 京都府ニ於女学校之「義」伺候処御差支無之よし

同月廿九日 田中殿ニバイブル教授之義ニ而一書を差出ス

<sup>〔朱〕</sup>  
「十月」

四月廿二日 今日、同志社分校女紅場開業願差出ス

四月廿八日 右女紅場開業願、聞届ニ相成タリ

五月五日 早朝ヨリ ドーン氏妻出走

六日 生徒不殘諸方ニ出テ搜索ス、出走人御届出ス

七日 大見村谷間ニ於テ行方相分り、之ヲ捕へ、夜十一時家ニ帰ル

<sup>〔朱〕</sup>  
「十年五月」

八日 出走人帰宅御届出ス、同十二時<sup>〔タタ〕</sup>ドーン氏京師ヲ去リ神戸ニ至ル

五月廿一日 アレス・ジェー・ストークウエゾル氏之往来免狀并雇入免狀受取ル

同 本日敝社トーン氏ト去十九日神戸ニ於テ解約致シ候段御届差出シ、且雇入免狀ハ返納ス

十年九月廿日 渡島国茅部郡森村三十二番玄理長子良恂、我校ヲ去ル

九月廿一日 女紅場名称ヲ女学校ト改ル願書下ル



〔ドーン妻発見場所の図〕

ヒラ〔比良〕

大ラ〔大見〕

ト中〔途中〕

コデシ〔小出石〕

大原

ハセ〔八瀬〕

カツラ川

此処ニアリ

斎藤〔西塔〕橋

十年十月五日 熊本県下第三大区六小区本山村

石光真澄寓下村孝太郎妹

すへ

十一年

、、、、 三百七十四番地

伊勢時雄妹

みや

十四年

止宿差出之事

十一月九日 同志社入塾生徒松本栄(三田)なる者、同部屋生徒海老名之浅田(マヤ)より預金六円程盗取り、而して根岸固

源太己之金若干を盗取りしと校中ニ申伝へ、罪を根岸ニ帰せんと計りしに、生徒中彼之品物を探索し足袋之内ニ金二円程カクシ置キシヲ見出し、其より段々間糺候処遂ニ白状申候付、翌朝六日早朝より竹内雄四郎なる者ニ托し三田へ遣せしに、其親駿及三田公会之兄弟沢茂吉なる者、去八日此地に來り栄之再ひ入校を歎願せしにより、右之義全校之生徒に議せしに、彼若し悔改め全校の生徒に已後決して右之挙動致サざるよし申出なば、再ひ入校せしめ皆一同協力して彼を善道に導かんと申、第一年生徒より始め一同相立ち候付、私共彼之再ビ入校せるを許諾せり

禁足 百五十日

入湯 一周に二度

買物も自由ニ出る事ならず、安息日説教及び他之集会内にハ其所に至るを許と雖、唯一人ニ而出る事を不許  
(マヤ)  
京原氏之か後見人たり

十一月廿日 上京十一区常盤井殿町堀本利慶ト申者ニ托シ、二条家之地所を買求む

其始末左之通

一金六百元を堀本氏ニ借し借用証書を取り置く、但し此六百元之内十二円ヨハ石束氏手数料トシ之ヲ取置く

一我等ヨリ堀本氏ハ手数料トシテ金二十六円遣ス

一有志金トシテ金五円七十五錢ヲ(十一区十二)学校へ納ム、二十五錢ハ書記ニ与ヘリ

一別ニ五十錢ハ地券書キ替之節証印料トシテ府へ納ム

一三円ハ松之樹一本之代

十一月廿一日 上京警察署より、檜渡三次郎東京ニ於而己の罪を悔ひ自訟せし由申渡し、其紛失金高を克く取調可出  
 よし達シたり  
 十二月十三日 私共儀先般同志社（内国人ノミニ而立タル社）所有之金円若干、常盤井殿町住堀本利慶へ貸渡候事実  
 正也、右御尋之御答トシテ如此候也

	63313	600	
	62950	26,	
		3,	
	363	,50	
	300	62950	
	663		
堀本へ	26	588	
地カリ	588	12	
石束へ	12	26	
学校へ	5,75	300×	
書記へ	25	50	
証印代	63	5,75	
地券書替代	50	25	※
		63	
	63313	63613	
		62950	
	600	6,63	
	26	50	
	3,00		
	50	7,13	
	62950		
レールネドヨ リ受ケ取ル			

地価并土堀	63188
有志金	62950
書記へ	
証印ノ代	
地券書キ替へノ代	
	238

十二月十三日出ス

地券掛 御中

新島  
山本  
〇〇

十一月廿八日 十月廿三日付 ジーヤ〔シアーズ〕<sup>\*</sup>氏ヨリ 二百ホンドステルリンクの惠授（会堂建築の爲）を受く

其答十二月十二日出

其後ハルデー君、十月二十九日付ノ書

其答十二月十九日出ス

十二月廿一日 今日ヨリ同志社之休暇トナレリ

生徒部屋替之事ハ生徒中ヨリ代人四名を撰ひ彼等をして生徒之割振を付けしめ、然る後裏より之を許可し印を致し証セリ

十一年一月七日 生徒中人望アル者ヲ撰、毎床ニ一人生徒取締の役義を命スル事ニ決セリ

一月九日 女教師兩名ウィルソン、バームレー雇入之願書、寄留免状御下ケ渡願差出ス

十一年一月十日 〔<sup>朱</sup>※〕去八日、京都府今出川通寺町西へ入三丁目常盤井殿町北側（六百七番地、同八番地、同廿二番地）合地分地四千九百六拾九坪九合（第七百四十八番）之地券、堀本利慶方へ下り、同人ヨリ私方へ相渡セリ、

依テ右はレールネド方へ預置ケリ、六百円借用証もレールネド氏ニ預置ケリ

〔<sup>上欄</sup>〕同志社女学校建築届

一月廿四日 上京第十一区今出川通三丁目常盤井殿町北側堀本利慶所有地借用地六百廿二番地ニ於テ、建物一字建築ニ取懸よし戸長迄届出セリ

二月十日 摂州有馬郡第十七区三田町平民中山卯之助、三十五年、デビス氏ニ雇入之届差出ス

十一年二月二十日 デビス氏、上京十七区上長者町烏丸西入元浄華院町五百九十二番地屋敷転寓ス

同月二十六日 右ニ付、寄留御免状之御書換之願書を出ス

同月二十八日 外務卿寺島宗則公ニ、女教師雇入之義ニ付一書差出ス

三月十七日 右女教師之願難聞届キ段、京都府ヨリ達セリ

同 十九日 小生京都発足、東京ニ至ル

同二十二日 京都ニ至ル

〔朱〕  
「十一年」

五月二十一日 五月四日京都府ニ呼出サレ、テラ氏投棄之義ニ付御尋アリ、八日其答出ス、又十七日ニ至リ、雇主

ノ申聞モテラ氏不用事ナラハ解約シテハ如何ノ御説諭アリ

二十一日ニ至リ、テラト解約シ、二十二日右解約書ヲ差出セリ

同二十二日 〔朱〕「※」○テラ氏本月三日金八十五円十一銭二厘ヲ失ヒシニヨリ、二十二日ニ至リ右ノ届書出ス

六月六日 テラ氏、家族を引連京師を去リ神戸ニ趣ク

六月十八日 宣教師之集会摂州有馬ニ開ケリ、二十五日ニ終ル

同月廿五日 柳川はん、家永徳吉〔補〕「十二年」(辻豊吉ノ弟)病院ニ死ス、廿六日大谷ニ葬レ之焉

八月二日 ストークウエゾル氏僑居移転之義ニ付居留免状書替願書差出セシ処、本日学務課より右免状相渡ル

十一月卅一日 ゴルドン氏雇入願書并寄留免状御下渡願書、外務省へ差出す



京〔府〕庁ヨリハ右之願書十二月九日付進達之由

右願書ノ催促一月七日、京都府庁迄出ス

十二年一月廿八日 レールネド雇統願書差出ス

二月二十一日 レールネド雇統願相済ミ、僑居并往来免状ヲ府庁ヨリ下付ス

旧免状ハ同日ニ府庁ニ返納ス

六月二日 コルドン氏雇入願并免状之願書出ス

六月十六日 森有礼公に一書差出ス

六月十六日 デビス氏、同志社ニ於而バイブル教授被致候ニ付御尋有之、右之答書差出ス

六月二十六日 コルドン氏同志社雇入免状ヲ受取ル

六月 市原盛宏、森田久万人、山崎為徳氏之三人ハ月十五円ニテ同志社之教員トなり、向後当社之為充分尽力する趣

ニテ相談相調ヘリ

〔朱〕  
「宮川氏女学校 十五円」

六月十二日 同卒式ヲ取行ヒ、十五人之卒業生ヘ右之免状を相渡す

九月十五日 本日より第五年期開業す

此期ヨリ、毎週金曜日ノ午後四時ヨリ教員ノ集会スル事ニ決セリ

十月十一日 コルドン氏之家屋建築之為、第十組学校迄右之届差出す

〔上欄〕  
「十二年十月六日 沢野氏ニ金三十七円ヲ渡シ、烏丸御所八幡町ノ地ヲ求ム」

十二年十月二十日 兎狩願書差出セシニ、府庁ヨリ官山ニ立入ルハ容易ナラサルニヨリ、叡山之麓ニアル諸村人民ノ所有地ニ到リ兎狩シテ如何トノ事ニテ、府庁ヨリモ諸村ニ御達シアリ、且当方ヨリモ諸村ノ戸長ニ熟談ノ上兎狩スヘキ事ノ由ヲ以テ、府庁ヨリ達シニ及ヒタリキ

十月二十七日 学務課ヨリ、当校規則改正之節ハ、必ラス其改正規則ヲ其課迄差出スヘキヨシ申達シタリ

十一月十八日 我等外国并日本教員七人、別段ノ集会ヲ開協議ノ上決セシ件々左ノ通

一同同志社ニ於テ普通科ノ外必ラス神学ヲモ教授スヘキ事

一当時行ル、神学ノ外別ニ速成神学科ヲ設、来年三月ヨリ授業ヲ初ムル事

一外国教員モ縦令神学ヲ教ユルモ決シテ普通科ヨリ手ヲ引カス、益該科ニモ尽力スヘキ事

但シ此集会ヲ為セシハ、大坂ノレベット氏神学校ヲ大坂ニ設クルヲ企タルニヨリ、遂ニ此ノ協議ヲ為タル也

十壹月五日付之書翰ヲ以テ遣伝道師局之書記Dr. クラーク氏并ハールデー君より、同志社入費之為オテイスレゲシノ其内より外国教育之為ニ設置キタル分ヨリ八千元ヲ、同志社々々長ニ年々相渡スヘキヨシ申来レリ

十二月廿九日 右之書状ニ返翰ス

十二月十九日 十二年第一期ヲ休業ス

此日第一年生ヨリ五年生ニ至ル迄各級ノ生徒、英語又ハ本邦語ニ而演説シ、甲乙ノ賞美ヲ与ヘリ

十二年十二月十一日 教師デビス神経病ニ付支那迄遊行シ、十三年一月五日来京ス

十三年一月十二日 本日エイチ・エフ・パームレー〔バーミリー〕婦人ノ雇入願書差出セリ

同廿九日 米国ニ於テ行ル、如ク此日ニハ別段ニ同志社両学校、又大坂神戸等ノ女学校ノ為ニ祈禱会ヲ設ケ、午後一

時ヨリ同志社ニ於テ各級相集マリ、同午后二時半ヨリ女学校ノ教場ニ於テ大集会ヲ開キ、新島氏司会トナリ、第一ニ唱歌シ、第二ニ同氏聖書ヲヨミ、第三ニ同氏祈禱又デビス氏祈禱シ、其ヨリ諸氏ノ演説アリシ

第一　デホレスト、第二　沢山保羅　唱歌、第三　アツキンソン、第四　宇野作弥、第五　村上俊吉　唱歌アリ、コルドン　祈禱、レールネド氏　ベネデイクション　散会

此日集マル者、両学校ノ外教会ノ者モ多分来会シ、其数凡百三四十人

二月十九日　外国教師免状御下渡願書差出ス

デビス氏并妻子

岡山県下

レールネト

滋賀県下大津、彦根、八日市、長浜、敦賀、小浜、岐阜県大垣、石川県下、福井等

ゴルドン

右同様ノ場所

二月七日　同志社女学校ノ地所売渡証ヲ堀本利慶ヨリ請取ル

三月廿九日　イライサ　トルカツ（四十四年）レールネト氏同居ノ免状御下渡願書差出ス

四月六日　同志社地券下渡シヲ相成リ本日受取候事

三月廿九日　トルカツ　レールネト氏同居免状願書差出ス

四月五日　本日ヨリ同志社第三期開業いたし、速成課<sup>\*</sup>之生徒十九名入校致候

五月二十日 本日、四月八日スタークウエソル氏ノ雇続願書差出候処、本日願之趣聞済両免状下ル、乃外務ヨリノ往  
来免状、京都府ヨリノ僑居免状

往来免状 <sup>〔朱〕</sup>「第六千五百二十五号」

僑居免状 <sup>〔朱〕</sup>「第拾二号」

六月五日 エイチ・エフ・ハームレー氏雇入願書之通相済ム

往来免状 <sup>〔朱〕</sup>「第六千六百十三号」

僑居免状 <sup>〔朱〕</sup>「第拾五号」

五月廿四日 アレス・スタークウエソル氏受得タル京都府ヨリノ僑居免状十年五月十七日付 <sup>〔朱〕</sup>「第二号」、并十一年七

月廿九日付 <sup>〔朱〕</sup>「第六号」ハ、十三年五月廿五日簿書課ノ手ニ渡シ置ク

但シ鑿穿ノ為ニ通共簿書課ニ預ケ置ケリ

六月九日 レールネット氏ノ免状書換願之通相済ミ、トルカツ氏之名ヲ加テ下ル

往来免状 十三年六月二日 <sup>〔朱〕</sup>「第六千六百二十八号」

僑居免状 同 同 九日 <sup>〔朱〕</sup>「第拾六号」

八月卅日 赤峰氏ヨリ桑港来着之上ウィルリストン・セメネリー入学之事ニ付添書ヲ求メラレシニヨリ一書差出ス、

該校ノプリンシプル宛

九月一日 デビス氏身体不振、余程向來ノ恐レモ有之ニヨリ本月ヨリ東京、富士、中仙道、四国、九州、中国辺を歴  
遊セン事ヲ望シニヨリ、去月廿日ヲ以右願書差出シ、本日願之通旅行免状下ケ渡シニ相成ル

九月十二日 デビス東京ニ出発

九月廿一日 同志社女学校新地券書下渡ニナレリ

十四年一月十日 デビス、家族ヲ引連脳病加療之為当地出発ス、尤直ニ帰国セス途ヲ欧州ニトリ、伊太利亚、スウィツルランド等ノ地ヲ経テ米國ニ帰ルヨシ

〔總〕  
「但十一日分月給ヲ渡ス 三十七円也」

一月二十日 エム・エル・ゴルドン氏方ニ而女子出生ス、名ヲメレー・ドューク・ゴルドント呼フ

同廿七日 同志社女学校ニ而学校之為ニ祈禱会ヲ催ス、演説者ハ大坂ノコルティス、上原、松浦、山崎、古木、宮川等ノ諸子也

同廿九日 運動場ニテ花岡山第五紀念会ヲ催ス\*

十四年二月十四日 外務省第七千四百九十号旅行免状更ニ下附セリ 但女子メレー・ドューク・コルドン誕生ニヨル也

〔上欄〕  
「十四年六月廿三日下渡シ 外務省六月十七日付」

外国人旅行免

第七千八百六十五号 六月二十五日 七月卅日、卅一日間

ゴルドン

第七千八百六十六号 同

レールネド

第七千八百六十八号 六月廿七日―七月卅一日、卅五日間

スタークウエソル

第七千八百六十七号 六月二十五日—十月卅一日

ホームレー

十四年六月廿四日 此日十八名之生徒、本課卒業ス

レールネド氏卒業生ニ演説ス

同七月廿九日 山崎氏肺病ニ罹リ京都病院ニ入院ス

同八月

廣 告

「五号文字」

本校例年之通来ル九月十九日ヲ以テ開業シ、校則第一条ニ拠リ漢学試験之上生徒五十名ヲ限り入校セシム、有志ノ諸彦ハ校則一覽ノ上同月十四日迄ニ来校アルベシ

「二号文字」

同志社英学校

本校例年ノ通九月十九日ヲ以テ開業シ更ニ生徒五拾名ヲ限り入学ヲ許ス、有志ノ方ヘハ御報知次第校則郵送スヘシ

西京今出川寺町西ニ入

同志社女学校

〔上欄〕

〇十一月八日、山崎為徳 新島氏ノ宅ニ於テ午前六時十五分死去ス

同九日、新会堂ニ於テ葬儀ヲ行ヒ、黒谷山新島氏ノ墓地ニ埋葬ス

十五年三月廿五日 第二期休業中コルドン氏、レールネド氏兩人江州、越前、石川県等遊歴之免狀下付ニ相成、兩人

共該地方へ出発ス

同二月六日 一月十八日グリーン氏雇入願書ヲ出シ、二月六日願ノ通指令下ル

同四月十二日 上京第十組御所八幡町之一条家除地五百四十一坪九合四勺、去三月廿八日□坪願書出セシ所、本日尅

坪尅年五厘之拝借料ヲ納レ拝借ノ御指令下ル

※尅年兩度ノ上納乃七月、一月 尅度ニ尅円三十五錢五厘ツ、

〔上欄〕  
「十五年」

七月二日

〔朱丸〕  
○本日デビス氏雇入願書差出ス

八月二日

〔朱丸〕  
○本日左之免状并僑居証票共下附セリ

○第九千百八十三号 外国人各地旅行免状

七月廿六日 外務省

○第廿四号 私雇外国人居留地外僑寓証票

七月三十一日 京都府

〔上欄〕  
「九月十八日 同志社開業ス」

九月廿八日

パームレー氏之免状并僑寓証票ハ、本日願書相添へ京都府ニ返納ス 但シ写シ二通ハ戸長之方ニ遺ス



九月廿九日

アンナ・ワイ・デビス（三十年七ヶ月）十月十五日ヨリ雇入之分トシテ本日願書差出ス 十月三日付シテ出ス

九月廿九日

グライン氏東京行免状九千四十九号ハ本日返納ス

十月二日

グライン氏、烏丸西ニ入元浄華院六百九十二番地屋敷ヨリ烏丸通御所八幡町百十 十一 十二 十三 十四番地合  
地へ転寓之御届第十七組へ出ス

十月三日

同氏烏丸通御所八幡町新築へ寄寓之趣第十組戸長へ届出ル（翌四日僕婢之止宿等モ届ケタリ）

〔朱丸〕  
○九月廿三日

同志社ニ於テ第三年生鳥取県之林拾氏夕景よりコレヲ病ニカ、ル、衛生委員老名、戸長代理老人来狼狽何事ヲ為ス  
能ワズ、自ラ避病院へ行クト云ヒ、又町ノ惣代ナケレハ警察へ届クルニ由ナシト云ヒ、空ク老時間モ費セリ、然ル  
后惣代老人来リ届ケ書ヲ認メ警察ニ出ス 巡查二人来ル、老人ハ衛生懸リナリ

〔朱丸〕  
○十五年十月八日

大工沢野甚七氏兼テ己レノ名義ヲ貸シ予之為ニ烏丸御所八幡町百拾番百十一番、百十二番、百十三番、百十四番地  
合地ヲ買求呉シニヨリ当分同人ノ名ヲ其ノ地ニ附シ置キケレトモ何ノ差支タル事ナカ〔リ〕シカ、十五年十月八日  
ノ朝右地所地券書替ヘヲ頼ミノ為同人ノ家ヲ訪ヒタレハ同人ハ留守ノヨシ、然ルニ同人家ノ内ニ從是西何間、南何

The faculty of the Doshisha school utters hearty thanks to Mr. E. L. Bayl[ ]s for his generous gifts of twenty Ens for the school library

D. W. Learned  
Secretary of the Faculty

Kioto Japan. Oct. 3. 1882

ノ上遂ニ彼ノ望ニ任セ、小嶋ノ普請ハ十日間止メ又左之証書ヲ渡ス

〔朱丸〕  
○証

同志社ニ於テ向來普請有之節ハ一度丈貴殿ニ右請負御委頼可申候、仍テ為後日如件

明治十五年十月十日

新島 襄  
印

〔朱丸〕  
○沢野甚七殿

注意 予ニ於テ速ニ地券書換ヲ為シ置カハ何ノ故障ハナキモノヲ、荏苒日ヲ送シノ罪此ノ難事ヲ引キ起スニ至リタレハ、向來再ヒ此轍ヲフムベカラス

間、沢野甚七所有地ト記セル棒杭ヲ発見シタリ、依テ彼ノ異志アルヲ知り直ニ山本覺馬

氏ノ家ニ至リ段々相談ヲ遂ケ、木屋町六番路次ノ高木鼎氏ニモ面会シ、事破烈セハ不得

止所置ハ如何ヲ尋ネ、又同氏ノ勸メニヨリ山本氏ヲ以テ段々□合ニ及ヒ、特別ニ同氏妻

君ノ尽力ニヨリ地券書換迄モ約セシニ、予ニ面会セシヨリ又了簡ヲ違へ、他人ニ面会シ

テ悪知恵ヲ付ラレ、予ヨリ地所ヲ求ムル為ニ渡セシ金ハ借金ト申シ、是非地所入用ナレ

ハ此度新築ノグリン氏ノ家ヲ除キ右地所ヲ明ケ渡スベシト被申、中々種々ノ事実ヲ説

向來ヲモ計ルベシト山本ヨリモ勸メタレトモ更ニ聞キ入ル、様子モナク、己ノ名ヲ持テ

売得シタル地所ニ他人ノ手ヲ以テ家ヲ築カレタレハ己ノ名譽ハ己ニ地ニ落タリ、依テ己

ノ面目ヲ通シ立テ呉ベシト予ニセマリ、小嶋佐平ノ引受タル普請ヲ十日間差止メ、且向

來普請アルトキハ一度受負ヒ仰付ナバ無異義地券書換ハ仕ルベシト被申、山本氏ト協議

十月十一日

向來□々ヲ生スベキ憂フル事件ハ先方ノ信スヘキト不可信トニ関ラス、他日後証トナル為其信証ヲ取り置クベシ

本日午前九時沢野甚七氏ト同伴ニテ、烏丸御所八幡町ノ日下部老婦（伍頭）ヲ連レ第十組学校ニ行き、先十日ニ結約セシ通烏丸地所地券ノ書換ヲ願出ス

有志トシ金<sup>〔アキ〕</sup>□<sup>〔アキ〕</sup>円<sup>〔アキ〕</sup>□<sup>〔アキ〕</sup>ヲ学校ニ出ス 但地券書換之為 売買候地券合地御書換願

上京区第拾組御所八幡町

百十番地

百十一〃

百十二〃

百十三〃

百十四〃

右地所五ヶ所、今般上京区第廿二組松蔭町新島裏ニ宅地合計三百二十九坪老合二勺、此代価十五円六十三錢、但シ老坪ニ付四錢七厘五毛ノ割ヲ以テ売渡シ候相談相整候付、右地券証五通ヲ老通ニ御書換之上御下ヶ渡シ被成下度此段相願上候也

十五年十月十三日

上京第廿二組出水町

売渡人 沢野甚七〇

買得人 新しま〇

上京区長 杉浦利貞殿

十月二十日

同志社ノ公堂<sup>\*</sup>之入口小狭ナルヲ以テ、今回大工沢野氏ニ命シ玄関ヲ広クシ、出入口ヲニツ増加シ、生徒ノ出入ニ便ナラシム

其費用ハ

五十三円 八十銭

三円二十三銭

五円ヲノゾキ六十八円四銭十月卅一日渡ス、請取書ハ引出ニ入レタリ

同三十番修繕費<sup>\*\*</sup>

十一円二十八銭

四円七十三銭

十月二十四日

三十番教場之北手之修繕費ハ、屋根回り十一円二十八銭、外回之壁塗り代四円七十三銭

十月二十日 金曜日之夕

〔上欄朱〕  
「グリーン氏女子出産」

〔朱緑〕  
グリーン氏方ニ於テ女子出生ス、之ヲ名ケテ エリサベス・クロスノアト呼フ

十月廿五日

アンナ・ワイ・デウィス氏、本日願之通聞済左之免状ニ通落掌ス

〔朱西〕  
第貳拾五号

私雇外国人居留地外僑居寓証票

〔朱志〕  
第九千五百三十二号

外国人各地旅行免状

米国婦人

アンナ・ワイ・デウィス

三十年七ヶ月

右ハ明治十五年十月十五日、同廿年十月十四日迄英学教師トシテ同志社女学校へ雇入候事

〔上欄失〕  
「婦人テウィス氏雇入免状来ル」

十月卅一日

森田久万人氏之レトリクノ授業ニハ段々ト四年生ノ苦情モアリ、種々工風シ或ハゴルドン氏ノ心理学ト交換シタレハ可ナルベシトノ考ヘモアリ、已ニ同氏丈ハ承諾シ呉タレトモ、未タ其ノ事ヲ森田氏ニ通知セザル内ニ下村孝太郎氏ノ忠告ニヨリ、森田氏ヲシテ一層分ラサル所ハ外国教師ニ尋ネ、充分ノ用意ヲナシ教業セシメハ同人名譽挽回ノ策モ立ツヘシトノコトニテ、市原氏トモ談シ合ヒ右ノ所分ニ決シタリ

グリーン氏転寓并女子出産ニ付免状書キ替ヘ

京都府下上京区第十七組烏丸西ニ入元浄華院町五百九十二番寓

同志社雇入教師

米国合衆国人

デー・シー・グリーン

三十八年九ヶ月

メレー・ジェー・グリーン 三十六年九ヶ月

ファネビー 十年九ヶ月

デー・クロスベ 九年九ヶ月

ジエロミー・デー 七年九ヶ月

メレー・エ 四年九ヶ月

ロツジェル・エス 元年四ヶ月

明治十五年二月一日ヨリ明治二十年一月三十一日迄雇入ル、条約ヲ以、本年二月中願済之上入京被致

右ハ本年二月申入肩書之場所へ止寓仕置候処、此度上京区第十組御所八幡町百十番、百十一番、百十二番、百十三、十四合地へ転寓為仕候間右寓所之義御書換被下度、且転寓之際女子出生、名ヲ エリザベツス・グロスウノア・グリンと呼ヒ申候間、右女子之姓名御加入之上御下附被下度、尤從來之御免狀ハ新御免狀御下附之節返納可仕ニ付、右御書換之義御取計被成下度此段奉願上候也

明治十五年二月十四日

新島 襄

知事宛三枚 別ニ戸長へ

山本寛馬

○ゴルドン氏并家族岡山行ニ付、外国人旅行免狀御下附願三通差出ス

同月同日

十一月廿五日

デヒス氏廿四日神戸着港、神戸ニ於集会聖晚餐アリ、同廿五日午后五時五十二分京都ステーション来着ス

〔朱〕※「校中之生徒尽ク迎ヒニ出テ、同氏着ノ上ニ行ニ並立シ、同氏之安着ヲ賀ス

十一月二十八日

本日上長者町ニ同氏寄寓之事ヲ戸長迄届ク

十二月二日

〔朱〕※「同志社之神学生五年、四年、三年、二年生迄等連署之上、朝之集リニ外国人之本邦語ヲ止メ英語ヲ以テ演説

アリタキ由歎願ニ及ヒタリ

〔一年生邦語神学生ノ英語ニ通セサルヲ出頭セシムルニ不都合ナルベキノ廉ヲ以テ、日本教員中協議ノ上右ノ歎願  
書ヲ戻セリ、最モ米国人中他日英語ヲ以テ何ソ演説ナリ説教ナリ為スヨシ申居レリ

十二月七日

コルドン氏岡山行ハ本日免状下附セリ

第九千六百五十二号 私雇外国人各地旅行免状

十五年十二月廿日、十六年一月廿日迄

十五年十一月廿四日

外務省

十二月六日

グリーン氏方ニ而女子分身、名ヲ エリザベス・グロスウノア・グリーンント呼ヒ新免状ヲ乞ヒタレハ、本日外務ヨ  
リ一通 京都府ヨリ壺通 第廿六号 下附シタリ、依テ旧免状ハ返納ス



十二月廿七日

グリーン氏寓居ノ地券、乃府下烏丸御所八幡町百十番、百十四番地迄ノ地券ハ新島襄所有ノモノトナリ、第十組戸長ヨリ渡ス

十二月廿七日

加藤勇次郎氏此二年間女学校教員トナレシ所、顧家ノ義務ト又他ニ云ヘカラサル事情アリ、今回女学校ヲ辞シ去ラン事ヲ望ム、依テ他ノ男教師女教員ト協議ノ上、予ニ於テハ同氏ヲ留メン事ヲ計レトモ、如何セン同氏ニハ帰省ニ決意シタレハ再ヒ挽回スルノ策ナク、已ム事ヲ得ス同氏ノ望ミニ任セタリ、然レトモ同氏ニ続キ教員トナルモノナク、已ム事ヲ得ス神学生ノ杉田潮ニ頼ミタレハ、同氏ニハ才ノ足ラス、学ノ深カラサルヲ以テ辞セラレタリ、然シ内実ハスタークウ〔エ〕ソル氏ノ全ク人望ヲ失ヒシ所ヨリ辞セラレタルヨシ○神戸ヨリ卒業生ヲ頼ムノ策ナリシカ、何ニカ之モ不都合アリ委頼ニ応セサルヨシ、此上ハ女校ノ維持法ニツキ如何ナリ行クカ、予ニ於テ百方手ヲ尽シタレトモ事成ラス、空ク手ヲヒキ自滅ノ途ヲ取ラシムルノミ

〔上欄〕  
女生徒中加藤氏ノ家ヲ顧ルノ義務アル所ヨリ、月給ヲ加増シテ止リ得ル事ナラハ銘々五錢ツ、ヲ出シ二円ヲ募リ、増給ノ端ニ加ヘン事ヲ望ミ、又他人ノ之ヲ助ケン事ヲ乞ワレシモ、如何セン事茲ニ及ヒ挽回ノ策ナキハ遺憾ノ至リナリ

同二十一日

十九日ヨリ試験ヲ初メ、本日午后ヲ以テ全ク此期ヲ終ヘリ

同

○加藤氏モ二十二日ヲ以テ本地ヲ去ル事ニ決シ、今夕予ノ家ニ招キ共ニ晚餐ヲ喫ス 宮川氏モ予ノ家ヲ尋ネラレタリ

○此夜寮長ヲ招キ同志社寮内ノ形況ニ付質問ス

其答左之如シ

一校中ニ物ヲ食ヒ初メタリ 芋ヲヤク

一雪隠ニ物ヲカク

一教員ノ感化力ノ及ハサル事 師弟ノ間ノ疎ナル事

一飲酒 真下、本木

一教場之明はなし

一掃除之届カヌ事

一教授法ヲ厳ニスル事

一朝ノ集リニ注意スル事

一運働時間、勉強時間ノ区分ヲスル事

一人之部屋ニ止宿スル事

一十時過ニオメク事

一適々幹事ノナキ事ハ不都合

寮ニ関ワ〔ラ〕ス種々ノ事出来

全体ノ事ニ関シ応接ノ事アリ

大事件起ルトキ専任スル者ナキヲ憂フ

一九時半ニ火ヲケス事（コタツ）然リ

一食堂ノ乱レタル事

一運動場ヲ注意保存スル事

一運動場内ニ石ケリスル事

一タバコヲノム事

一担当教員（外出之時）

一内ヨリ腐敗スル事

一大ナル井戸ヲ要ス

一運動ハ マンボルソリー

一教員ノ内ニ書生ノ事情ヲ聞タキ事

一寮長ヲ撰フニ各寮ニテ投票セス、公然ト何レニカ来リ投票スル事

〔十六年〕一月八日

第二期開業ス

一月九日

投票ニテ寮長ヲ定ム

〔朱狐〕  
第一 大賀

第二 鎌田

第三 竹原

第四上 松尾

第四下 大西

第五上 綱島

第五下 杉田

三十番 村井

一月十日

ベレー来リ、同志社之教師連中グリーン氏宅ニ午前九時より集リ、医校之法方ニ論及ス

同

午后新報社ニ浜岡 高木 中村 加藤 新島等来会、法学校之事ニ付相談ス

一月十五日

コルドン氏岡山行之免状ハ本日返納ス

〔上欄〕  
「第九千六百五十三号」

〔上欄〕  
「上納」

グリーン氏宅地官地拝借地金壹円三十五銭五厘（十五年度七月より十二月ニ至ル分）上納ス

一月廿四日、生徒ニ申渡ス

<sup>〔上欄朱〕</sup>

「十六年一月、規則増補」

<sup>〔朱弧〕</sup>

一 本校規則書掲ル通、毎期之初五日前に授業料ヲ納ムルハ生徒ニ於テ必ラス心得アリタキ事

一 此規則ニ順ヒ其定日迄ニ授業料ヲ納メサルモノハ、向來教場ニ出テ受業スルヲ得サルベシ

一 書生中授業料ヲ納ムヘキ定日迄ニ、父兄朋友ヨリ金ヲ受ルノ機ヲ失ヒタルモノアラハ、其理由ヲ陳ヘ且何日迄ニ納ルベキ事ト日延ヲ求ル為、庶務課迄一通ノ要求書ヲ出スベシ

一 書生中授業料ヲ納メ能ワサルモノハ其理由ヲ詳細ニ記シ、且幾分カノ扶助ヲ求ムル為一通之要求書ヲ庶務課迄差出スベシ、<sup>〔庶務課〕</sup>

一 當時授業料未納ノモノハ前条ノ規則ニ随ヒ二月ノ第一日迄ニ之ヲ納ムベシ、但シ授業料ヲ納メサルカ、又願書ヲ出シ其日延又ハ扶助ヲ求ムル事ヲ為サ、ルモノハ、前条ノ規則ヲ遵奉スル迄ハ教場ニ出テ受業スルヲ得サルベシ

<sup>〔上欄〕</sup>

「生徒死亡」

福岡県下土族木村正吉（十九年）、十六年一月二十七日午前二時京都病院ニ於テ腸チフスヲ以テ卒ス 本日第二会堂ニ於テ葬式ヲ執行シ、三時半過ヨリ新島ノ家ヲ出大谷ニ葬ル 大谷葬料ハ二円ニ過キス

甘木ノ中学ニテ一昨年卒業ス

父ハ奥州征伐ノ時官軍ニ加リ戦死ス

賞典禄アリ 憤起スルノ原由

一亡父ノ宿志ヲツク事

一朋友ノ好意ヲ謝スル為トテ家ヲ脱走ス

〔添付・朱〕

福岡土族 木村正吉 旧十九年

未タ四歳ナラサルニ父ヲ亡フ

父ハ奥羽ノ戦争ニテ戦死ス

家ニ母ト弟ハアリ、弟ハ当十六年

甘木ノ中学ニテ一昨年卒業

平素虚弱、校中同級生ノ上等ヲ占ム

漢学ハ相応ニ出来 文章ニ巧ナリ

一兼テ来京シ我カ校ニ入ラン事ヲ要求セシモ、資ニ乏シク入ルノ機ナカリシモ、同郷出身ノ人ノ我カ校ノ一教師ヨリ扶助ヲ受ケ、勉強スル事ニ成リ行キタレハ、僅ニ母ノ許容ヲ得、親戚ノ承諾ナク脱走シ来レリ

其主意ハ少々ノ賞典禄ヲ受ナカラ国事ニ尽力セサルベカラス

一亡父ノ宿志ヲ継ク

一朋友ノ好意ニ背カサル為

○前期ノ試験前ニ三夜不眠

十二月廿八日ヨリ病ニカ、ル

一月廿三日入院ス 廿八日午前二時卒ス

廿七日 大西、杉田

手ヲ天ニ揚テ笑フ

声ヲ発セ「ス」シテ漸々色ヲ失ヒ

遂ニ没セリ」

二月五日 四年 日高栄之輔 十字一太郎二人、此憂以来飲酒候付、禁足四周間申付候事

同五日 一月廿四日生徒ニ申渡、規則履行セサルモノハ、履行スル迄ハ教場ニ出ツルヲ許サルヨシ、生徒ニ申渡ス

〔朱〕

「書付ヲモ出サ、ルモノアリ、此等ノ姓名ヲ尽ク教員ノ手ニ渡シ受業ヲ許サス」

○邦語神学生之科目ハ当分福音使徒行伝ト歴史

○物理学ハ近々終レハ使徒行伝ヲ学ハシムル事ニ決ス 物理学ニハ大分不足アリ甚困却ス



43 同志社女学校録事\*〔明治十六年二月〜十七年九月〕

十六年二月より

二月二十三日 千八百八十三年

今回同志社女学校教員中ニ於而可決セシ事左之如シ

一女生徒ハ学校ヨリ是迄扶助ヲ受タモノノ受業之点数七点以下ニ下ルモノト、其ノ行状正シカラサルモノハ、向來

ヨリ之ヲ扶助スル事ヲ止ムヘシ

一本日より数週間、試ミニ之ヲ可決之通履行スヘシ

三月廿三日

岐阜県之女学校ニ教員タル女教師宝生豊女ニ、西京之女学校ニ來リ教師タルヤ否ノ照會書ヲ遣ス

四月四日

スタークウ〔エ〕ソル女教師ハ女校創立以來七年間怠ラス勉勵セラレタレトモ、今回レールネット氏妻君病氣ニ付、

同行ノモノナキヲ以テ、同氏ヨリ同行ノ委頼ヲ受ケ、支度ノ出来次第本邦ニ帰省スル事ニ決定ス

〔朱〕  
五月十五日

スタークウ〔エ〕ソル并レールネットノ妻并グレース、帰国ノ為横浜ヨリ解纜ス

六月十九日

右は先般病氣加養之為、来七月一日より向ヒ三ヶ月箱館、札幌辺周遊仕度旨申出候間、右之日限を以御免狀御下附相願候処、本月三十日比ニ福井県下敦賀港より北海道行之汽船便有之候趣ヲ以テ、可相成は右日限本月二十八日より向ヒ三ヶ月ト御改、右汽船便之間ニ合候様仕度旨再申出候間、御府庁ニ於御取計ハ相成間敷哉と恐縮之至ニ奉存候得共、至急外務省迄御懸合右日限之如ニ御改、且二十八日迄ニ御下附相成候様御取計被下度此段奉願上候也

六月十九日

京都府知事宛

七月一日

フラ〔シ〕シス・フーパル（二十八年）、スタークウエソル氏代人トシテ、十六年九月一日ヨリ十七年八月卅一日迄一ケ年間雇入之願書願済之指令ニ及ヒタリ

六月廿四日

卒業証付与ス

高松 仙

田代 初

明治十七年六月廿五日正科及ビ本邦科ヲ卒業スルモノ左ノ如シ

正科 山崎春野

同 近松 磯

本邦科 西村 菊

同十七年七月十八日 加藤大学総理来ル

同十七年七月廿六日 同年九月一日ヨリ同ク廿二年八月三十一日迄五ヶ年間雇入ノ願書ヲ差出ス

同十七年九月一日 フーバル氏雇入許可ノ免状下ル

同十七年九月十一日 フーバル氏常盤井殿町女学校へ僑寓証票下附セラル、因テ即日旧旅行免状及ヒ僑寓免状ヲ返納

ス

〔添付〕  
「外務ヨリ明治十年五月十二日ノ日付ヲ以テ

〔朱添〕  
第三千百五十七号之往来免状下ル

京都府庁ヨリ

五月十七日

〔朱添〕  
第貳号僑居免状下ル

明治十一年八月二日 女教師転寓ニ付第六号之僑居免状下ル〔朱〕  
「日付ハ七月廿九日」

其節ニハ別ニ外務省ヨリ改テ往来免状一其免状ノ番号ハ如何」下リ候哉 若シ相下リ申サ、レハ、其節第二号僑

居免状御返納之代リニ、第三千百五十七号ノ外務省往来免状ヲ誤テ御返納申候事ト存候間、此段御調被下度奉願  
上候」



## 演説・論説



44 感算理說

感算理說

〔訖点朱〕

算之為用也、從星辰之遠近、日月之大小、地球之周圍、各洲之位置、山海之高低、至金銀貨財之輕重及細微不可見之物、尽算定焉矣、是從大變于小、從小化于大、千變万化、實無窮者也、依之見之、主聖道治國者、奴經濟、尊經濟治國者、疎聖道、猶如有數之大而無小、有小而無大、宜國之不治也、譬之樹木、聖道者、幹也、大也、經濟者、枝也、小也、有枝而無幹、則不為樹、有小而無大、則不為數、是自然之勢也、夫以聖道治國者、往々生柔弱之風、以經濟治國者、多起臣弑君子凌親之弊、嗚呼二者欠一、國猶不立、而況無枝亦無幹、無小亦無大、唯加民以暴者哉、故治國者、必先解算之理、大小相兼、枝幹相備、而後斷人情所厭之暴、庶幾于成矣乎

叱正

新島幹 再拝伏乞

〔以下朱〕

元治元甲子年三月 於駿台川勝君之塾書焉

一襲弊袍三尺劍

回頭世事思悠々



男兒自有蓬桑志

不涉五洲都不休\*

〔元治元年三月〕

45 脩身学問題

自己ニ対スルノ義務

我カ權利ヲ保全スヘキ事

我需用ヲ充タス事

我能力ヲ全スル事

他人ニ善ヲ尽ス事

肉体及ヒ心意ノ完全ヲ論ス

間接ノ感化力ニ関シテ完全ヲ論ス

満足ノ念ニ関シテ完全ヲ論ス

慣習 〔朱〕「自動慣習 受動慣習」

人類ヲ人類トシテ尽スノ義務

權利

物品所有ノ權

人類ノ權 天權 人文ノ權

譲与ス〔べ〕キト譲与スベカラサルノ權

人権

生命ノ権

人如何セハ生命ノ権ヲ失フヘキヤ（三ヶ条）

自由ノ権

所有ノ権

物件ヲ直接ニ得ルノ道

物件ヲ間接ニ得ルノ道 六ヶ条

所有財産ニ二種ノ別アルトハ何ソ

人如何セハ他人所有ノ権ヲ妨害スト云ヘキソ

名誉ニ関スル権

誹謗トハ如何又誹謗ノ来ル原因ハ何ソ

他人ノ名誉ニ関シ談話ヲ為スニ甲乙二種ノ別アルトハ何ソ

真実ニ関スル権

他人ノ需要ヲ供給スル義務ヲ論ス

正義ト博愛ノ別

他人ノ需要ヲ供給スル法

他人ノ能力ヲ練達シ且之ヲ訓示スルヲ論ス

同胞ヲ扶助スルニ三ノ等級アルヲ説クベシ

僉ノ疆界〔キョウカイ〕

僉ノ疆界ヲ三種ニ區別スルハ何ソ

人間特殊ノ關係ヨリ生スル義務ヲ論ス

人身上ノ權

家族ノ起原

管理トハ何ソ

責任トハ何ソ

罰トハ何ソ

政府ハ何ノ為ニ建設セラレタルヤ

社会ト政府ノ區別ハ如何

政府ニ甲乙ノ二種ヲ説クベシ

政府ノ維持ニ必要ナルモノハ何ソヤ

参政之權

婦人ニ参政權ヲ得セシムベキヤ

国民ノ義務 四ヶ条

神ニ対スル義務

脩身学ト宗教ノ異ナル以謂ハ何ソ

神ニ奉事スル義務ヲ三別スルトハ何ソ

敬虔ノ心ヲ養成スル事 四ヶ条

冒瀆ノ所為トハ何ソ

### 祈禱

祈禱トハ何ソ

祈禱ニ関シ聖書ノ教示スル所ハ如何

神ノ法ハ万古不易ト見做トキハ祈禱ハ不用ナルモノヤ

### 安息日

安息日ニ二種ノ別アルトハ何ソ

安息日ノ神ヨリ出シ事ヲ証スベシ

安息日ノ一己人ニトリ欠ベカラサルヲ証スベシ

安息日ノ家族ニトリ大切ナル事ヲ論〔ズ〕ベシ

安息日ハ自由政体ニ如何ナル関係アルヤ

人ノ健康ヲ保全スルニハ如何 其ノ証例ヲ揚ヨ

46 〔文明ノ基〕

〔全文鉛筆〕

〔朱横書〕

〔朱開〕

「高梁ニテ演説」

日本ノ国富マス兵ノ強カラサルヲ憂勿レ、宜〔ク〕其基ヲ立ヘシ

己ノ基ヲ立ス国力優スシテ外国人ノ輕蔑スルヲ怒、匹敵平コウノ權ヲ得ントスルハ猶十匁ノフンドウヲ以テ十匁ノ荷物ニ平均ヲ得セシメント計ルカ如シ

平均ヲ欲セハ第一ニ重サヲ益スヘシ

其基を立ハ家モ立ヘク、其基ヲ立テハ自由モ得ヘク文明期スヘキ也

請フ文明ノ基ヲ論セン

女人教育 女ノ心得 小兒ノ教方 孟子 文王ノ母 華盛頓ノ例

小兒ノ教育

△イートンの涙〔カ〕

〔下婢之如キ婦人ニ子ヲ托スルヤ

日雇取ノ如キ教員ニ子を托スルヤ

△アメリカ南北〔戦争〕ノ時、一婦人の子ヲ戦場ニヤル話 戦場ニ出テ負傷人ヲ扶ク

フクノー「ユグノー」の話

ビュリタンの話

奴隷ノ 米国ニ渡ル話 会堂学校ヲ立ル事

独立ノ戦争

奴隷ノ レクシントン コンコルトの話

英人の一人人ニ感アリ

肉体弱ケレハ脳力モ随テ弱シ

宗教ナキノ人物ハ害ヲ為サ「ザ」ルカ

工業ハ

新聞紙ノ奴隷 使節ヲ見ル

新聞ニアカハタカ小使アリ○

昨夜之続き

神を敬「す」るハ知ガ初め也

神ヲ知リ敬シ恐レ且信愛スルハ人ノ最大切ナル者ニシテ、之無クンバ人迷ニ陥リ、又ハ物ノ奴隷トナリ、決シテ自由ノ人ニナル能ス、耶蘇曰我カ自由ニナス者ハ真ノ自由ナリ、真ナル哉、此自由トハ神ヲ信シ天命ニ随フ者ヲ云也、乃天命ニ随テ而后自由ノ民トナル也、然ル後真ノ文明ノ域ニ進ミ得ル也、随而富国強兵期ス可キ也  
天命ヲ知ラハ人、物事ニ恐ル、心ナシ



天命〔三〕随フハ神ノキク、〔補〕「ノリ」ニ随フ也、神ノ意ヲ体スル也

自由ノ律ニ随テ初テ自由ノ人トナリ、文明ノ民トナル也

神ノ意ヲ体セハ人必ラス広〔ク〕人ヲ愛シ人ノ為ニ何事モ為シ、力ヲ以人ヲ制セス、威ヲ以テ人ヲオトサス、強シ而弱キヲ扶け、知アリテホコラス、貴し而益遜り、富テオゴラス、賤シテ卑屈ニ流レス、貧シテ貪ラス、甘シテ人ノ罵詈ヲモ受ケ、克ク人ノ無礼モ許シ、人ノ幸福ヲ計テ日モ不<sub>レ</sub>足、神ノ義ヲ慕テ死ニ至ル迄不止、人若シ此点ニ達セハ実ニ君子ト称シテ可ナルベシ○何レノ村ニモ、何ノ府ニモ如斯君子アリ、率先シテ人ノ為ニ計リ

〔以下用紙裏面の字句〕

〔朱〕  
「英国力しの話」

ナポレオンの話 富国強兵之基ヒ

卑屈教師ニ己ノ子ヲ托スルヤ

奴隸ノ如キ婦人ニ己ノ子ヲ托スルヤ

教育、婦人の教育、人種改良

人種改良之種ハ人心改良

仏のヒクノット〔ユグノー〕

〔以下五行空白〕

診察ヲ為サル事ヲ説　〔舌ヤ手ヲ握ル

藥ヲ投〔ゼ〕スシテ宜シク云事アリ

政府より遣せしニ非ス、適宜ノ事ト思フ勿レ

人

〔施察者ノ手ニ出スハ其各々思召次第

有志輩之物ナリ

〔ヘレー〕\*〔J・C・ベリー〕君の来ルニ十円也二十円也

〔費用もアリ

〔出ス事

△ヘレー君之主意

神の意ヲ体シテ、ヘレー君来レリ

日本人ヲ兄弟と思ふ

〔明治十三年二月十七、十八日・於岡山県高梁\*\*〕

47 學問之說

十三年十一月六日 八代ニ於テ\*

○人此世に生するや忽チ母ノ乳ヲ求メ、其ヨリ日々食ヲ求メテ不絶、食ハ肉体ヲ養フ者也

○人に智徳アリ、肉ノ食アルカ如ク又智徳ノ食物無ルベカラス、乃學問ナリ

宇宙ノ理ヲ究ムル一人ニシテ足ラス、一国——一代——万国ノ學者數百千年ヲ經テ漸ク其奧妙ノ發達スヘキ者ナレハ、現今欧米ノ開明モ未タ其奧妙ニ至リシ者ニアラス、真ニ學問ノ緒ト云ヘキ也、故ニ學ハ一日モ怠ヘカラス

○學問ハ何ソ、人間ノ要道也

學問ニ種々アルモ之ヲ大分セハ二個也

智ヲ養フノ學

徳ヲ養フノ學

(智ヲ養フノ學トハ何ソ、今西洋ニ行ル、百般學術技芸也

(徳ヲ養フノ學トハ何ソ、乃心ヲ脩ムルノ學「ニ」シテ、道德ト稱スル者也

此兩ノ者何ヲ先ニスルヤ

兩ノ者先後アルベカラス、何トナレハ人ニ智徳ノ性質アレバ其性ヲ養、兩ノ養法ヲ欠ヘカラス、如何トナレハ肉ニ食アルハ人生ヨリ初マル、故ニ智徳ノ養モ同時ニ初メサルベカラス

、無智ヨリ健康法ヲ知ラス〔母ノ胎内ニアル子供ニ害ヲ与フ 母無益ニ〔シ〕テ

、無徳ヨリ生スル不品行

人幼ナルトキ自ラ求メス、教訓ナカルベ〔カ〕ラス、故之ヲ教育ト名〔付〕ヘシ

### ○幼時父母ヨリ受教育 ○家訓

母ノ胎内ヨリノ教育 文王ノ母、文王ヲハラム時ニ目ニ惡色ヲ不見、耳ニ淫声ヲ聞カス〔惡キ思子ニ移ル

〕孟母三遷ノ話、華盛頓之母之教育

〔仏バリスノ近傍ニ火藥庫破烈セシトキ、懷妊ノ婦人アリ非常ニ驚駭セリ、生ル、子死シ、多ハ痴愚

、惡キ心ノ母ノ子ハ多惡念ヲ抱ク

、良母ハ之ニ反ス

、不行儀ノ乳母并ニ守リ子ニ預クル事ハ甚恐ルベシ ○惡キ守リ謠ノルイ

（一少年寐間ニ於テ、父ノ少年ノトキ登樓セル話ヲ聞キ、遂ニ登樓ヲ初ム）

### ○朋友ヨリ受ノ教育

父母タル者其子供ノ為良友ヲ撰ハサルベカ〔ラ〕ス、トカク惡タレトナリ不從順トナリ買食ヲ覺ヘ、甚シキハ少年

ノ己ノ身ヲ損傷スル如キ惡風ニ流ル

京都ニ於テ今ノ小学ハ惡キ風儀ノ稽古場ト云レタリ

### ○教師ヨリ受クルノ教育

良師アリ克ク之ヲ導ケハ恰モ陶師ノ粘土ヲ用ヒテ隨意陶器ヲ作ルカ如シ、恰モ植木屋ノ若キ樹木ヲ色々作り立ルガ

如ク自己ノ望ミニ随ヒ成長セシムヘシ、一「タ」ヒ教法御方ヲ失ワ、逸馬ノ如脱兔ノ如ク之ヲ如何トシ難キニ至ル少年、教師ノ真似ヲナス「其風ナリ、詩ヲ吟スルナリ、文章ナリ、志操ナリ、一々真似セサルハナシ

### 此三教育法

家訓、朋友師傳ノ法、互ニ行レ學問ノ真路ニ進ムヲ得ハ、縦令非常ノ學者ニ非サルモ、一身ヲ修ムルニハ恐クハ誤ラサルベシ、又一ヒ學ニ志セハ生涯研窮シテ往々其妙奧ニ達スヘシ、又非常ノ學才アルカ又ハ人物ナラハ、之ヲ用「ヒ」益奧妙ヲ究ヘク、古人ノ發見セサル所ヲ發明シ、世ノ鴻益ヲナシ、國家ノ文明ヲ進「メ」、人民ノ自由ヲ得セシ「メ」、其國ノ律令ヲシテ其宜シキヲ得セシメ、或ハ道德ノ教ヘ國ヲ真ノ文化ニ趣カシムル、一々宜キヲ得タル學問ノ力ニアラサルハナシ

然ラハ學問ハ唯一身ヲ修ムル為ノミニアラス、天下又後世ニ関シ一人各己ノ尽スベキ義務トモ云ヘキ也

◎且無學ノ弊害ノ甚キヲ思ヘハ、民ノ率先タル者ハ、又父母タル者、教師タル者一日モ之ヲ怠タルヘカラス

○學術進步ノ人民ト無學ノ人民ノサ<sup>〔差〕</sup>違、雲泥ノ――

一 無學ノ人 頑固ニシテ物ノ理ニ暗シ○「恐怖ノ心多シ

一 無學ノ人 常人ニ制役セラル

一 無學ノ人 常人ニ益ヲ得ラル、日本人外人ニ利ヲ得ラル、ガ如シ

一 無學ノ人 遠キ慮ナシ、眼前ノ利ヲ計「リ」遠大ノ計ヲ不為

一 無學ノ人ニ廉恥ノ風少シ、飽迄テ食ル

一 無學ノ人 良キ慾少シ

一無学ノ人 国家ノ利ヲ計ラス、唯利己主意

一無学ノ人ニ罪人多 フォーセツト氏ノ經濟書中ニ、英國ニテ相應ニ讀書シ得ル者ハ百分ノ四ヨリ多カラス  
一無学ノ人ニ日ニ新進ノ事ナシ

〔百年前〔ノ〕機械モ今日用ヒ、日本ノ農ノ如シ〕

故ニ近来ハ米國ナトニハ非常ニ学事ニ尽力ス、大学ノ多キ事驚クニ堪タリ

別シテ 馬〔マサチユースツ〕州ニ著シキ者三ツ、小ナル者二三

○人々學問ヲ尊ヒ金ヲ寄附ス〔婦人ノ學校ハ五六ヶ所アリ、ホリヨク學校

親タル者ハ未タ妻ヲメトラサル前ニ、已ニ妻子ヲ養フ路ヲ求ム

子供ニ教育ヲ加、無学盲目ナラサラシム、二十一年位迄ニ一人前ノ人間トナスヲ務メトス

○貧人モ亦学フノ途アリ

學校ニテ金ヲカス、業成ルノ後之ヲ返却ス、人ニヨリテハ之ヲ百倍千倍トナシ之ヲ返却ス

一書生Dr.オーカ、十萬ドルの寄附ヲセリ

〔一代テ之ヲ得タルノ金

□□ニテ生レ——ニテ死ス

○自ラ学テ克成業スル人アリ、リンコルン〔ママ〕の如シ

○学ヲ怠ラス、ニュートン〔ママ〕の如シ、十一二間ノ勉学

○老テ益学フノ精神アリ、仏ノ一老学者七十五年テスパニヤノ学ヲ初ム

○学テ又發見セルノ精神アリ、パリセー陶器發明ノルイ

日本ノ學問

支那ヨ〔リ〕來ル、支那ノ風ヲ学ヘリ

道德ノ學問ニ止マリ芸術技芸ハ更ニナシ

道德又歴史等ノ學問ハ唯志操ヲ高尚ニシ、其丈ノ実学ニ乏、自ラ大丈夫ト云、大丈夫ノ見識ナキ人アリ

之ヲ一足ノ學問ト云テ大ニ進歩スル能ワス、故ニ維新以來學問ハ唯學術技芸ノミ限ト見做シ、古聖人ノ道德学ヲ廢シ、道德ハ不用ノ者ト見做セリ

道德ノ教止マリ浮薄ノ風起、廉恥ノ風地ヲ払テ空しく、現今実ニ流涕長太息スルニ至ノ弊風ヲ生シ

學問ハ唯々糊口利己主義ニ流レ、天下ハ如何ナルトモ深ク憂ヘサルノ極ニオチイレリ

近頃舶來ノ學問、理學トカ人権トカ又無神論トカ種々之者來、人心ヲ動カシ、人心ヲシテ安カラサラシム

①少年輩ハ少々學問ヲナシ、父兄ヲシノキ放蕩傲慢ニ流レ、高ク所ニトマリ、後世ノ為計ル事モセス、利己ニテ足レリトスル人々多ク輩出ス

②如斯道德ヲ廢シテ唯學術ノミニ走ルノ害已ニ已〔ニ〕其結果ヲ顯セリ、是道德ヲ廢シテ學術技芸ノミニ走ル弊ニシテ、又一足ノ學問ト云ヘキ也

然ラハ現今ノ弊風ヲ救フノ良法アルヤ

今ノ學術技芸ハ益進メ、且從來ノ古聖賢ノ道ヲ脩メハ二足并立ノ法ヲ得ルヤ

答テ曰 古列藩ノ時藩制敝、父兄ノ力重キトキハ孔孟ノ道大ニ功ヲ奏セリ、今ハ勢力ナキニ似タリ、如何トナレハ



孔孟ヲ学ヘル人々之ヲ品行ニ顯ワサス、且孔子聖人ノ教ヲ奉セス、唯知テ而行ワサルニ似タリ、深ク人ノ心ニ入ラス、人ノ心ヲ改良スル能ワス

孔子出テ支那ノ品行進ミシヤ、支那ノ歴史ノ一変セシヤ

〔孔孟ノ道暗夜ノ燈ノ如シ、暗夜人ヲ導クヘシ、〔鉛筆補〕此燈灯ヲ打ケセリ〕

〔今ノ西洋学者ハ、理学トカ人權トカ自由トカ呼吸シテハ、此時ニ当リ、此理学ノ此民權、此自由ノ行ワル、西洋之國ニアル道德ヲ求メサルベカラス

其道德学ハ何ソ、耶穌教也

一士族の気象 商工農ノ仕事

一商工農の仕事ニ、士族の気象ニ、又其調合之所ニ、猶一層社会勢力ヲ有セル耶穌教ヲ加フ也

コレヲ病ニモルヒネ劑ノ如□烈ナル藥ヲ要ス

〔明治十三年十一月六日・於八代〕

48 人種改良論

十三年十一月廿日、之ヲ熊本唐人町伊勢屋ノ旅店ニ記ス、安巳橋通ニテ演説ス

〔欄外〕  
○九州ハ士人ヲ養フノ地ナルヲ信スル事ヲ述ヘン

人種改良論

鳩ヲ改良スル事

羊ノ種類ヲ永続スルノ法

人種モ改良ヲ斯スヘシト注目セリ

第一 人種ヲ改良セント欲セハ、先人種ヲ下ラシメシ原因ニ溯リ之ヲ推究セサルベカラス  
然ラハ其源因タル何等ノ者ソ

慣習				食住		衣	
風	俗	習	慣	職業	教育	宗教	風俗
				此八事件ハ	克ク人智ヲ開キ	腦力ヲ強ムルト否トニ	大關係ヲ有ス

○衣 衣服ノ製ノ人種ヲ退步セシムル等ハ、譬ヘハ欧羅巴婦人ノ腹部ヲ細縮シ、支那婦人ノ足ヲ短小ナラシメ、日本人衣裳ノ濶大ニシテ風邪ヲ求ムルニ便ニ、且遊惰ニ便ニ働クニ不便。且衣裳ノ製自カラ人ヲ坐セシム。但人坐スルトキハ自ラ身体ヲ彎曲セ「ザ」ルヲ不得、彎曲ノ風肺ニ害アリ

肺病党ヲ醸シ又脚氣病ヲ引キ起スベシ

「上欄」  
○帽子ヲ用ヒサル事「自力ヲ衰ヘシム

寒中ニ脛ヲ出シ行ク事」

○食 スターチ、油、肉類 此三種ヲ適宜ニ食スヘキヲ、或ハ一種ノミヲ多ク食スレハ食物ノ易多カラサルヘシ

○塩 ○砂糖

仏法ノ誤テ魚肉ヲ禁セシ等ハ人種ヲ退却セシ「ム」ルノ最上法ニシテ、我輩仏法ノ本家印度人ニ不足ヲ言ハサルヘカラス、食物ニ汚穢ト云ナシ、不消化物、毒トナル食物ト腐敗物ヲ除カハ尽ク食ニヨロシト云ヘシ○飲料ニシテモ注意セサレハ是亦大ニ人種ヲ退却セシムヘシ、汚物ノ浸入セル水、井戸ノ傍ニ吸込アリ又田地近キ所ニ井ヲ掘ル、アマリ強キ茶、強キ酒、烟草ルイ、支那人ノ阿片等、暴飲美食

○住 空氣ノ流通殊ニ甚シク人ヲ冒寒セ「シ」ムルノ家製比々見ルヘク、又ハ空氣不融通且太陽ノ光線ノ入ラヌ家等ハ健康ヲ害スル甚シ「ク」テ、必ラ「ス」人種ヲ退却セシムベシ○坐スル事ハ肺病ヲ醸ス○疊ノ上ニ寐ヌル事ハ炭酸氣ヲ吸込シム○又一室ニ沢山寐テ戸ヲ嚴重ニ閉チ空氣ノ流通ヲ止ムル事、又明ヒロケテ非常ニ空氣ヲ流通セシムルモ又害アリ

〔上欄〕  
○雪隠、住室ニ近カクニ雪隠ノ臭氣ヲ平常呼吸スルニ至ル」

④職業 古来人民ノ多ク魚漁牧畜等ニ代々従事スル者ハ智識ノ鈍ニナリ、遂ニハ腦力モ減シ往々頭力狭小トナルヨシ、又通商交易ニ従事スル、又ハ學術ニ達シタル人民ノ頭、前ニ比スレハ往々大ナルヨシナレハ、全ク腦力ヲ用ヒ、腦ヲシテ

○腦力ヲ用ヒサル職業ハ必ラス人種ヲ退却セシ〔ム〕ベシ

〔上欄〕  
「版木司、縫ヒ物、仕立屋、書生」

漸々乎ト大ナラシメシナラン○職業上大ニ人間ノ志操ヲ活潑ニスルト否トニ関スルナラン、大和魂ノ盛ナル等ハ殊ニ日本ノ武士中多クアリシハ職業ノ然ラシ〔ム〕ル所、其志操ナリ其氣象ナリ其廉恥ノ風ナリ愛國心ナリ、漸々ト子々孫々ニ伝リ、氣象ノ烈シキ人物ヲ養生スル事其例ナリ

○我日本ハ武士ノ職廢セリ、随テ廉恥ノ風地ニ落ツ、別ニ此氣象ヲ養生スル方ヲ求ムヘシ

農家、漁子、商人ニシテ各真正ノ教育ヲ加ヘハ、向來ハ腦力ヲ養ヒ且廉恥ノ風ヲモ起サシムヘシ

〔上欄〕  
⑤国法 圧制政府漸々乎ト〔シ〕テ人間ノ權力ヲ奪ヒ自由ヲ取り除ク、今ノカルナル、スパニヤ等は也」

⑥教育 教育ノ力、若其宜ヲ得ハ克ク人智ヲシテ發達セシムルニ、其宜ヲ得サレハ人ヲ愚鈍頑固物トシ、卑屈無氣力ノ物トシ、浮薄破廉恥ノ人物ヲ醸生スルノ憂アレハ、愛國ノ士人此要点ニ沈思回想セサルベカラス

〔上欄〕  
「鉄腸男子ヲ作り出ス事」

教育ノ道一ヒ失セハ之ヲ挽回スル決シテ容易ナラス、譬ヘハ支那人ノ道德ノミヲ學問トシテ実ヲ輕シテ虛名ニ走り、論語読ミノ論語知ラスト云様ナル教育ハ唯學問ノ名ノミヲ尽シ、今日開進歐米ニ流行セル理学等ハ一切置テ研

窮セサルニヨル、故ニ古聖人ノ時代ヲ仰キ其時ニ及ハサルヲ歎キ、日一日ニ新進ヲ期サ〔ザ〕ルハ古来支那風ノ教育ナリ、孔子モ夢ニ周公ヲ見サルヲ歎シ、鳳鳥不至何ソトテ出サルヲ悲マレシ等ヲ以テ見ルヘク、向來唐宋ノ學者輩ハ又孔子ニ及ハサルヲ歎シ、唯古聖人ノ轍ヲ踏マン事ヲ要シテ學術ヲ研窮、日々新ニテ亦日々新ナルノ學術ヲ求メス、遂ニ当今欧米ノ文明ニハ遙數歩ヲ譲ルニ至リシハ痛歎之至リ、又印度國ノ如キモ昔時ハ隆盛ヲ窮メシ國ナルモ、教育其度ヲ失ヒ遂ニ世界ノ頑固人民トナリ行ケリ、或ハ又古來ヨリ伝來ノ學問ヲヨシト〔シ〕テ之ヲ固守シテ日新ノ學術等ヲ求メサレハ、見識モ自然狹クナリ、随テ腦力モ減シ愚迷ニ陥ル等ノ憂アレハ之ヲ防クノ策如何ソ

〔上欄〕  
「○事物ノ理ヲ究メサル〔ニ〕ヨリ、事々物々ニ恐怖ノ心ヲ生ル類、我東邦亞細亞ニ多カルベシ」

サラバトテ欧米ノ學術ヲ講究スレハ智識ハ開達スベシト思ヒ、從來古聖人ノ道德ヲ廃棄シテ、西洋文明ノ中心ナル道德ヲ捨テ其皮相ナル學術ノミヲ取テ之ヲ學ヘハ、現今日本教育ノ結果ヲ得ルニ至ルベシ

○今小学校ノ教方ハ實ニ以前ノ寺小屋學問トハ遙ニ優等ナル者ナレトモ、唯々智識發達主義ニシテ更ニ廉恥ノ風ヲ引起ス等〔ノ〕事ニハ力ナク、其教員タル者ハ多ク些少ノ月給ヲ貪ルノ徒ニシテ、恐クハ人才ヲ養成シタキト云精神ニハ乏シク、甚シキニ至テハ教員カ生徒ヲ誘導シテ酒店ニ入り妓樓ニ登リ淫亂放蕩ヲ少年ニ教ユル風モマ、世間ニアレバ、現今世ヲ憂フルノ人之ニ痛歎セサ〔ル〕ハナシ、且洋學者流モ近來ハ錢取仕事ヲ最上ノ學問トシ、人ヲ詭ムキテモ錢サヘ取レハ最上ノ學問ト云ヒ、智識カ發達シタト云、己ノ品行等ヲ破リ恥ヲ恥トモセサルノ徒往々世間ニアレハ、是等ノ教育學問ハ人ノ志操ヲシテ卑賤下等ニ向カシメ、随〔テ〕人種モ退却セシムベシ、且教育中最モ人種退歩ニ關セル大事件ハ婦女ニ教育ヲ加ヘサル事也

○男子ハ天ト云、婦人ハ地ト云、男子ヨリモ一層卑キ者ト見做シ之ヲ奴隸視シテ更ニ適宜ノ教育ヲ与ヘス、婦人ノ要

道ヲ学ワシメス、之ヲ御スルニ唯压制ヲ用ヒ、婦人ノ才ヲ發達展張セシメス、全ク卑屈トナラシムル等人種退却ノ源因ナリ◎（見識ナキ母ニ子供ヲ預レハ其母タケノ人ヲ養ヒ出スナリ）

㊦宗教 支那人之ヲ云道德ナルヘシ、予ハ宗教ト云フ、如何トナレハ宗教ハ矢張道德ト一途ニ出テ欧米國ニ於テ道德ノ基トナレリ、天命之ヲ性ト云、性ニ随テ之ヲ道ト云、道ヲ修ムル之ヲ教ヘト云ヘハ、乃天命ノ在ル所ヲ知り之ヲ学ヒ之ヲ行フニアリ、西洋各國ノ耶蘇教ト云モ矢張天命ノ在ル所ヲ知り、之ヲ学、之ヲ行フニアリ、予故ニ之ヲ宗教ト云、然レトモ宗教ニモ種々ノ類多キ者ナレハ、人ニ益利ヲ与ヘキモアリ、又大ニ社会ノ進歩ヲ妨ケ人智ヲ愚鈍ナラシメ、又或ハ唯神仏ヲ難有思ワシメ、唯々卑屈心ノミヲ起サシメ、或ハ人間ノ手ニテ作りタル金仏木偶ヲ拜シテ人間ノ幸福ヲ得セシムルト思ワシムル等ノ教ハ、決シテ國ヲ開明ノ点ニ進ムル能ワス

彼印度ノ波羅門宗ノ如キハ其堅キ事盤岩ノ如ク、之ヲ子々孫々ニ伝テ更ニ「三」變易ナカラシメ、一旦之ヲ廢止スル者アラハ親子夫婦ノ間ト雖直ニ隔絶シテ他人ト見做ノミナラス、実大敵ト見做シ之ヲ拒絶又擲撃シ更ニ交通アラサラシム○都爾古ノ如キハ回々教ヲ奉シテ一人ニ数妻ヲ娶トリ、且何事モ天命ト云ヒ更ニ新進ノ學術等ヲ求メ学ハズ、政府ノ压制ヲ受クルモ之ヲ天命ト云、夫ヨリ束縛ヲ受クルトモ妻ハ之ヲ天命ト云、忽卒火アリテ家ノモユルトキモ、之ヲ天命ト云ヒケス事ヲセス、病氣ニ罹死ニ至ラントスルモ之ヲ天命ト云テ治療ヲ加ヘス、智識ヲ開達シ又道德ヲ進歩セシメ、國家ヲ欧亚ノ二大洲ニ振興セシムルノ念慮モナク、何ノ出来事モ皆是ハ天命「ト」云、天命ニ任セ遠大ノ策モ立テス、國體ノ改良モ計ラス、日々ニ國勢モ衰頽危急ノ場合ニ至ルモ安心シテ天命ナトト云、更ニ進歩ヲ計ラサル等ノ宗教ハ其害タル甚シキナリ、米國ニアルモルモン宗ハ教旨トシテ数妻ヲメトル、是等ハ皆人種ヲ退却セシムノ大源因ナリ



●教育ト宗教ノ勢力足ラサルヨリ起レル所ノ弊害ハ、恐クハ教育宗教ヲ以テ法方ヲ誤リ、痴愚頑固トナラシムルヨリ甚シカルベシ、過食過飲「酒ハ百薬ノ長」過淫男女ノ交際「売淫女ヲ擁ル事」ヲ乱ル一夫数婦、又ハ妻妾、虚言、ウソ八百、ウソデ通ル世ノ中

日本ニモ教育ナキニアラス、又多クノ宗教ナキニアラス、別「シ」テ支那古聖人ノ道ハ実ニ結構ナル教ナルニ、此惡風俗ヲ克ク一洗シ之ヲ變換シ得サルハ何等ノ事ゾ、教ヲ授クル者ノ此点ニ注目注意セサルト、教ヲ受クル者等々服膺シテ之ヲ奉セサルニヨルナルカ

欧米人ハ我日本人ヲサシテ「ウソツキ」ト云フモ過言ニアラサルベシ、如何トナレハウソ八百ト云言葉モアリ、ウソデ通ル世ノ中ト云語モ大分ウソノ通行スル国タルハ明ラ「カ」ナリ、我日本モ亞細亞ノ東海ニ位シテ神国トモ君子国トモ云テ慢リタル国柄モ、此ノ風習アルハ遺憾ニアラスヤ

過食 食フ事ナレハ何時テモト云

過飲 場合アレハ何時テモ酒ヲ飲テ深更ニ至ル等

過淫 少年ノ手淫等ハ往々俊才少年ノ才力ヲ斷絶シテ張展セサラシム、又ハ夫婦ニモ閨中ノ樂ヲ過コシ身体ヲシテ虚弱ナラシメ、遂ニ虚弱病ヲ子孫ニノコスニ至ル

○西洋ノ夫婦ノ如キハ夫婦一体ト云テ、造物者ノ之ヲ一ニセル者ト確信シ、容易ニ離別捨棄セス松柏ノ親交ヲナシ生涯共ニ終ルノ良風俗アリ、我日本ニ至リテハ兎角夫婦ノ間親密ナラス○娶モ早ケレハ又逐出スモ早キト云等ノ風俗アリ、人ノ妻タル者ハ今日ハ如何、今日ハ逐出レハセスヤト憂ナキ能ハサレハ、夫婦ノ間ニ真ノ交際真ノ信愛ヲ期シ難シ、且又親、親戚ヨリ男子ノ為ニ妻ヲ娶ルノ風俗モアレハ、縱令男子ハ其ノ妻ヲ好マサルモ之ヲ娶ラサルヲ得



サルノ場合モアレハ、生涯真ノ交際愛情ニ乏シク互ニ相嫌テ共ニ老フルノ夫婦モナキ能ワス、又ハ男子タル者ハ其

(△△)

ノ妻ヲ好マサルモ両親ノ、セシ者ナルヲ以テ之ヲ離縁シ得サル所ヨリ不平心ヲ起シ、遂ニハ妓楼ニ登リ、又己ノ

身分ニ少シノ我儘モ出来クレハ直ニ己ノ本妻ヲ家ノ隅ニオシツケ公然ト妾ヲ置キ、朋友ノ来リテ之ヲ供応スルニ妾

ヲシテ其席ニ侍リ延ニ侍サシメ恬ト恥ルノ色モナク、又本妻ノ心緒ハ如何ヲ不問、一言モ喋々スルヲ許サス、遂ニ

ハ妻ヲシテ嫉妬心ヲ抱カシ、妾ヲシテ其權ヲ專〔セ〕シメ、往々ニ一家不斉ノ憂ヲ醸シ妻妾相怨ミ妻妾ノ子供相憎

ムニ至ルは何人ノ罪ソ、妻ハ妾ヲ怨〔ミ〕己ノ表情ヲ述ヘントスルモ、男子ノ圧力克ク之ヲ制シ、卑屈心ト不平心

ト怨心ト交生セシメ、而シテ其婦人ヲ子ヲ生マシメハ、其ノ卑屈心、其ノ不平心、其怨恨心子供ニ伝染シテ母ニ類

セル心ヲ以テ生レ来ルヘシ、又妾ノ子タルモ然リ、己ノ寵ヲ専ラニシ弥跋扈シ、其倭姦百方至ラサルナク、遂ニハ

本妻ノ位置ヲ奪掠セント計ル者アレハ其心底惡ムヘキナリ、如斯キ惡念ヲ以テ子ヲ生メハ其ノ子ノ心モ思ヒ見ルベ

シ、如斯一家ノ内互ニ敵視シ和セサレハ、又家訓ノ敵ナラサル事ハ主人ノ命令モ行レサル事ハ知ルヘキナリ

〔上欄〕

○一夫一婦ノ規則立タス、誰ノ子タヤラ分ラヌト云子カ出来タナラハ、如斯子ヲ産ム親ナラハ決テ胎育モ出来ヌ、

生レタ後教育モロクニハ出来ス、吃ト親ニ似タル子カ出来ルベシ ○一夫數婦ノ国ハ人種ノ退歩アルベシ」

〔下欄〕

○近來」男女交際ノ立タサル事

西洋デハ若キ男女カ朋友トナリ交ルモ、更ニ他人ノ疑ヲ受ケサルハ、男女ノ道ヲ全ク守レルニヨル、乍去我日本テ

ハ若男女ノ互ニ談話スル事ハナシ、サリトテ全ク無キカト申セハ売淫女ニ近ク親シクナリ、少年ノ往々親ノ産ヲ敗

〔リ〕、又己ノ身ニモ毀傷シ微毒ニ感染シ、父母ノ存在ノ時ニハ父母ヲ憂悲セシメ早く墳墓ニ趣カシメ、且妻ヲ娶リ

子ヲ設クルニ至レハ己ノ受タル微毒ヲ子ニ伝染セシメ不幸ノ子○病心ノ子○不活潑ノ子、無腦力ノ子○不具ノ子ト

ナスニ至レル等ハ男女ノ交際其宜ヲ失ヒ、宇宙ノ主宰造物者ノ規律ニ触レ、随テ受クル所ノ罰ト云ハサルヲ不得

〔上欄〕  
「**微毒検査**アル国ニシテ**微毒**尚多キノ憂アルハ、人検査アルヲ以安心シ売淫女ニ触ル、ニヨルナリ」

○又甚シキニ至リテハ、往古ギリシヤ羅馬国ノ如キ男子ノ互ニ交通スル事、人倫ノ道ニ背キ造物者ノ律ヲ敗レル者ト云ハサルベカラス、故ヲ以テ其国久ク永続セサルナリ

以上陳述セシ数件ハ一時見ヘサルモ漸々乎トシテ人種ヲ妨害スベシ、西哲ノ言ニ一人ノ衰弱ハ一国衰弱ノ基ナリト、真哉此言ヤ、一人**貪戾**ナレハ一国乱ヲ起スト云ヘル言ニヨリテモ之ヲ証スベシ、然ラハ愛国心ヲ抱ケル士人予メ一人ノ衰弱ヲ防キ、随テ一国ノ頽敗ヲ防クノミナラス、一層工風ヲナシ力ヲ尽シ一人各己ノ改良ヲ計リ、遂ニ我日本人種ヲ改良スル事コソ今日ノ一大急務ニシテ国家隆興ノ基礎タルベシ

○以上ニ掲ケシ衣食住、職業、教育、宗教、国法ノ改良ハ人種改良ノ基タル明ナレハ、向後互ニ衣食住ニ注意シ、教育ニ尽力シ、家訓ハ其宜キヲ得セシメ、学校ニ〔テ〕ハ真正ノ學問ヲ教ヘ、智識ヲ養ヒ徳道ヲ修メシメ、広ク之學シメ、審カニ之間ハシメ、腦力ヲ練上ケ身体ヲモ強壯ニセシメ、且特別ニ夫婦選択ヲ施スニアリ、然ラハ如何シテ之ヲ施スベキヤ、男女互ニ相選ハシムルニアリ、人恐クハ以テ外ノ法ナリト云ナラン、成程日本モ今ノ有様ナレハ選択方ハ施シ難キモ、之ヲ施サシムルニ自ラ法方ノアルアリ、今何故ニ撰択法ノ入用ヲ問ヘハ、其レハ乃チ男女ヲシテ各、遇テ安セシムルニアリ、如何トナレハ父兄若シ之ヲ、遇セハ愛情薄カルベシ、愛情薄キトキハ恐クハ薄情ノ子ヲ生ムベシ、夫婦互ニ清キ愛情ヲ以テ子ヲ生ミ、夫婦ノ間ニ自由行レ互ニ相憐ミ相愛シ、母ノ胎内ヨリヨキ教育ヲ加ヘ、又真正ノ家訓ヲ加ヘ真正ノ愛ヲ以テ子ヲ育ヘハ必ラス立派ナル人間モ出来ベシ、

〔上欄〕  
●女子ノ學ヲ進ム」

○自由ノ心アリテ一点ノ恐怖ナク更〔ニ〕奴隸心モナク、目ニ惡色ヲ不見、耳ニ淫声ヲ聞カス、清淨ノ心ト情愛ノ

極度ヨリ生スル子ナレハ、前上ニ掲ケシ仕方ニテ生スル子トハ大ニ異ナルベシ、是レ撰択法ノ行ワスニアル可カラサル以謂也、然リト雖我日本ニテ之ヲ行ハ若キ男女ノ間ニ大ナル過チアルベシ

然シナカラ男女ニ頗ル道德ヲ修メ其道ニ非サル事ヲ避ケ、第一ニ夫婦トナラサル前ニ男ヨリハ克ク女子ノ人トナリヲ知り、女子ヨリモ然クシテ互ニ其ノ人ノナリヲ知り、互ニ老フヘキヲ知り、然ル後契約シ然ル後婚姻ヲ結フニ至ル、然シ是ハ我日本ニ於テ行フヘキヤ、道德ノ教足ラス故ニ行フベカラス（古来ノ学者モ往々婦人ノ為身ヲ過マル）、英米諸國ニハ此撰択法行レ、且婚姻ヲセサル前ニ上等社会ニハ過チ等ハ至リテ少ナク、至愛至情遂ニ夫婦トナルヲ以大ニ後生ノ子孫ノ改良モ期スヘク、且如斯輩ハ婚姻ヲセサル前ニ婦人ニ触ル、事ナク、身体モ心モ清潔ナレハ子供ニ彼ノ惡キ胎毒等ハ断テ無カルベシ、是人種改良ノ最上法ト云ヘキ也、日本ニテハ夫婦相愛スルト云ヘハ恥カシキ事ナレトモ、西洋ニテハ大切ノ事ト見做ス、且日本ニテハ何様ノ妓ヲ愛スト云ヘハ人ハ別ニ笑ハサレトモ、己ノ妻ヲ愛スト云ヘハ人大ニ之ヲ笑フニ至ル、是誤リ之甚キ者也、今日本ニ三千四百萬余ノ人民中婦人ヲ半分トセハ、今ノ有様ハ人兎角婦人ヲ粗末ニナス事ナレトモ、之ニヨキ教育ヲ加ヘ良妻良母トナレシメハ、三千四百萬ノ半分乃一千七百五十万ハ有用ノ人トナリ、男兒ノ相談相手トナリ、遂ニハ國ニ立派ナル豪傑ヲ生スルニ至ラン、文王ノ母ハ文王ヲ懷胎セルトキ目ニ惡色ヲ不見、耳ニ淫声ヲ聞カス、孟母ハ孟子ニウソヲ教ヘス、且三〔タ〕ヒ居〔ラ〕転セシ等ハ頗ル教育ニ注意セル良母ト云ヘキ也、我カ日本ニテ婦人ノ教育法立チ夫婦撰択法行ルニ至ラハ、數万ノ文王ノ如キ聖人モ數万ノ孟子ノ如キ賢人モ続々輩出シテ我東洋人種ヲ改良シ、且真正ノ文明ヲ来ラシメ、我日本ヲシテ東洋ニ光輝ヲ発〔シ〕近隣ノ國モ照スニ至ラハ豈愉快ナラスヤ

〔上欄〕

一地方ニテ親戚ノ結縁スル事モ人種ヲ退步セシムベシ、吉野十ツ川ノ近辺ニ一村アリ、村中ニ婚姻スルニヨリ身ハ

短小ニ智ハ魯鈍ニ、他ニ比スレハ余程ノ相違アルヨシ

陸軍ノ規則ニ、彈藥二百五十発、食料四日分、ケツトウ一枚、服下衣上衣三枚、靴一個ヲ付テ五六里ノ行軍ニ疲労ス、故ヲ以人種ノ弱クシテ改良セスンハアルベカ〔ラ〕サル事、熊本陸軍武士ノ説

◎一人改良ノ道立チ万物ノ靈タル以謂テ、克ク万物ヲ使役シ此レカ奴隸トナラサレハ人種ハ退却セサ〔ル〕ベシ

〔明治十三年十一月二十日・於熊本〕

49 「人種改良」

一予曾テダーウィン<sup>\*</sup>氏ノ動物種類ノ原因ト題セル書ヲ読ミ、飼羊ノ羊ノ種類ヲ改良シ、鳩飼ノ鳩ノ種類ヲ改良シ、又雌雄ヲ撰ヒ交尾セシメ大概注文通ノ鳩ノ子ヲ得ルト云事ヲ学ヒ得テ、此術ヲ人間ニ施セハ如何ト云フ考ヘヲ起シ来リ、俊才奇抜ノ少年ヲ見ル毎ニ其双親ハ如何ト尋ヌルニ、往々母ナリ又父ナリ平常ノ人物ニ異ナルアルヲ見テ大ニ悟ル所アリ

兼テ人種ハ随分人力ヲ以造化ヲ賛成シ得ヘキ事ニ論及シ種々ノ経験ヲ為セシニ、不当ト雖不遠益々研究セハ益確証ヲ発見シ、之ヲ以テ実験ノ学問トナシオリシニ、予歐洲經歷ノ節ロンドンノ一旅店ニ泊シ、翌日其近傍ナル停車所ヨリ便車ヲ得、リウワポールニ趣カントシ、旅店ノ主人ニ向ヒ予ノトロンクラ○○○ニ送り呉レヨト委頼ニ及シカハ、一人ノ小倭ナル男ニテ之ヲ○○○ニ持行ケヨト命セシカハ、其者直ニ予ノ櫃ヲカタニ負担シ、何ノ苦モナク出テ行ケルノヲ見、驚テ主人ニ向ヒ、彼ノ小倭ナル男子二人ニテ運搬シ難キ予ノ櫃ヲ如斯容易ニ負担シ得ルハ如何ナル事ソト云ケレハ、主人ハ得意然タル顔色ヲナシ冷笑シツ、予ニ申ケルニ、我英人ハ鉄ノ如キ筋骨ヲ具有スト、又多クノ書中ヨリ引証スルニ、英ノ職工人ハ歐洲陸地ノ職工人ニ比スレハ二倍ノ勞力ニ堪ヘシト、此等ノ実験ヨリ考レハ、英人ノ如斯モ勞力ニ堪ヘ得ルハ決テ原因ナキニ非ス、同シ白哲人種ナルモ幾分カ食物ノ精粗ニ関シ如斯キ相違ヲ生セシナラン

願テ我同胞ノ日本人ヲ視察シ、英人ニ比較シ人種ノ優劣ハサテオキ、何レ「ノ」国ニカ人種ヲ改良進歩セシムルノ

方法備ヘリヤト推窮スルニ、英國ニテモ尚未タ人種改良ノ方法ハ最上点ニハ尚未タ達セサルモ、我國ノ習慣風俗教育等ヲ一々比スルニ遙ニ優レシ者ト云ワサルヲ不得、視察ヲ下セハ胸ヲ搏テ長太息セサルヲ不得ノ弊ナキ能ワサル也、我國ノ如キハ改良ハサテオキ大ニ退歩セシムルノ習慣風俗アレハ、予ハ先人種ヲ退歩セシムルノ弊害ヲ示シ、其各項ニ又改良法ヲモ論及スベシ

然ラハ人種退歩ノ弊害ハ如何等ノ事ソヤ、請フ簡略ニ之ヲ論セン

#### 第一 衣服ノ製

#### 第二 食物ノ粗惡ナル事

#### 第三 住家ノ製

#### 第四 職業

#### 第五 教育 胎育、家訓、師傅ヨリ受クル教育

此法ヲ誤ラハ智識ヲ發達セサルノミナラス不品行千萬乱レ、往々天下ノ穀ツブシ、政府ノ御厄介者トナル者モ出来ル事ナレハ、此法ニハ特別ノ注意ナカルヘカラス

#### 宗教

肉食、妻帯 人間ノ手ニ造レル物ヲ拝セシ〔ム〕ル等ハ改メタシ

肉食ヲ禁スルハ成程坐禪清坐ヲナス人ニハ至極適當ノ事ナルモ、今日世ニ出テ腦力ヲ費ヤス人ニハ甚不適當ノ教ナリ、又妻帯ヲ禁スル事ハ人種改良所カ全ク人種ヲ絶断セシムナリ

#### 第六 一夫一婦ヲ固守スルノ貞節ニ乏シキ事



第七 夫婦撰択方ナキ事

六、我日本ニハ一夫一婦ヲ守ルノ貞節ナキニハアラストモ、兎角我少年輩カ十七八ノ年齢ニ達スレハ朋友ニ誘ル、カ又ハ自身ニテ求ムルカ、十二八九ハ売淫女ノ手ニ触レ、甚シキニ至テハ黴毒ニ感染シ遂ニ生涯不具ノ者トナリ、人トナリ親ノ暮年ヲモ安心サセテ養フヘキニ却テ親ノ厄介トナリ、間々親ニ先立テ夭死スル〔三〕至ルモアリ、又妻ヲ娶タ後トテモ其妻一人ヲ守ラス密ニ「売淫女ニ通フ者モアルカ又公然トナシテ、又ハカコヒ者ヲ置ク者モアリ、又ハ自身ニ勝手カ出来ルトキニハ二三ノ妾迄モ己レ〔ノ〕家ノ内ニ招ヒ置ク者モ世間ニハ比々見ユレハ、此等ノ人々ハ実ニ氣ノ毒千万ノ者ト云ヘキナリ、縦令妻ヲ娶トリ子ナシハ家系絶断ノ憂アレハ、妾ヲオキ子ヲ設ケントノ工風ナレハ、素ト門閥ヲ重シ子種ヲ絶サヌ事ヨリ生シタル風俗ト云ナカラ、真正ノ教ナキ所ヨリ生レクル惡風俗ナレハ、之ヲ此儘ニ永續セシメ断乎改革ヲ加ヘサレハ、我人種ヲ退歩スルハ鏡ニ懸テ見ルヘキナリ

〔朱〕  
二妻一妾

一夫一婦ハ耶蘇ノ教ヘシ事ナレハ、之ヲ天啓ノ教ト云ヘケレトモ、此天啓ノ教ハサテオキ今日ハ□人種ヨリ論及セシ、茲ニ貞婦アリ、己ノ夫ハ広キ世界ニ唯一人ト見込シニモ、不図モ其夫□他ノ婦人ニ密通セハ其妻ハ平氣無頓着ニオルヘキヤ、其トキコソ嫉妬心ヲ起シテ、飽マテモ己ノ夫ヲ他婦ヨリ取戻サント計ルヘキハ人情ナリ、又夫ニシテモ其妻カ他ノ男子ヲ視シリセハ、必ラ〔ス〕画ニアル鬼ノ如、雷ノ如ク怒ノ角ヲハキ出シテ、其夫ト妻ヲ打殺セシ例モ沢山アレハ、此モ人情然ラシムル所ナリ、然ラハ一夫一婦ノ説ハ人情ニ適ヒ天理人道ニ適フ所ナレハ、一夫〔ニ〕シテ数妻数妾ヲ持チ得ルハ天理人情ニ反ケル教ト云ワサ〔ル〕ベカラス、且一夫数婦天理人情ニ適ワサルノ証拠ハ、一家ニトリテハ家政不齊、一国ニトリテハ国力不振ヲ見ト確証トスヘシ、一夫数婦ノ家ニ嫉妬怨恨争闘



ナキ家アルカ、主人カ妻ヲ家ノ隅ニオシツケ置、己ノ妾ヲ寵愛シ、遊行ニモ妾ヲ侍ラシメハ、本妻ノ嫉妬怨恨ハ何等ソヤ、一旦主人ノ愛、妻ニ過キ「レ」ハ妾之ヲ恨ムヘク、妾ニ過キ「レ」ハ妻之ヲ怒ルヘシ、主人ニシテ一樣ニ待遇シ、一樣ニ寵愛スルハ万々期シ難ク、平等ニ妻妾ヲ愛セハ其愛分レ、其愛薄ク、充分ノ愛ヲ双方ニ及シ難シ、又妻妾ニモ敬テ主人ニ使ヘ些少ノ嫉妬怨恨モセサレハ、此妻妾ハ平常ノ人情ヲ持タサル薄情者ナリ、若シ双方心ニハ互ニ怨恨スルモ、主人ヲ恐レ一言モ発セサルハ卑屈千万ノ婦人等ナリ、又双方怨言ヲ出セトモ主人カ禁止セハ非常ノ压制主人ト云「ワ」サ「ル」ベカラス、若シ非常ノ压制ヲ絶サ、レハ嫉妬怨恨讒謗等ハ一日モ断絶スルノ日ナカルベシ、此等ノ数件家内ニ行レ家政克整ヒ子弟ノ家訓克行ル、モ「ノ」万々期シ難シ

第一 衣服 食物 住家 職業 教育〔朱点、以下同。〕〔胎育、家訓、校育、体育、婦人ノ教育〕

總テ体軀ヲ養育シ志操ヲ活潑高尚ナラシムルヲ要ス

宗教 心術ノ教育

肉食妻帯ハ仏門ニ限レハ之ヲ論セス、神道ニテ何カ肉ヲ一般ニ不潔ノ者ト思セシヨリ肉食セサル者アリ、之ハ今日開進ノ時期ナレハ漸々肉食ヲ初ムヘシト信ス

○一夫一婦ノ必用ナル事

一夫一婦ハ天理人情ニ基ク事、一夫多婦ノ弊害、嫉妬怨恨讒謗争闘  
トルコ、モルマ、ン、宗ノ弊害、非常ノ压制

○一夫一婦ニ定マル上ハ容易ニ婚スベカラス

○依互ニ相撰マサ「ル」ベカラス

○夫婦相撰

夫婦相撰ハ男ノミガ女ヲ択ミ女ノミガ男ヲ択ムニアラス、親カ朋友カ之ヲ択テ配偶セシムルニ非ス、男女互ニ相択ムナリ、婦人ノ教育ヲ尊フニ至ルヘシ、然シテ後琴瑟相和シ松柏偕ニ老フノ快樂ヲ得、茲ニ至テ初テ真正ノ親愛ト自由ヲ得、互ニ忌ム事ナク互ニ疑フ所ナク、相儘<sup>〔カ〕</sup>シ相和シ而後挙クル所ハ小児ハ如何ナル者テアリマシヨウ、定テ結構ナル子供テアラン

〔上欄〕  
「人為陶汰、自然陶汰、遺伝養成」

○然ラハ相撰ノ方ハ我日本人ニ行フヘキヤ、否甚容易ニ非サルナリ、我国ノ如風俗相乱男女ノ交際不正ナルナレハ此法決テ施スヘカラス

○米國ノ例ヲ出スベシ<sup>〔ママ〕</sup>、此ハ乃風俗ナリト云ベカラス、乃教化ノ然ラシムル所、第一ニ一夫一婦ノ教ヲ尊奉シ、又夫婦ノ容易ニ婚スヘカラサルヲ知り相ヒ撰フノ法ヲ実施セリ、実施スルニ至リ之ヲシテ互ニ相乱レサルハ神明ヲ恐ル、ヨリ然ラシムルナリ、文王ノ母、孟子ノ母、正行ノ母、ワシントン等、故大統領ガーフィールドノ母ヲ見ヨ

政府ノ然ラシメシカ、國法ノ然ラシメシカ、其教化ノ然ラシメ<sup>〔シ〕</sup>カ、然リ教化ナリ

腕力、腦力、堪忍力

当今撰択方モナキニ非ス、何ノ某ノ娘ヲモラヒ、何ノ某ノ芸妓ヲウケダスト云択方モアルナラン、此ハ決シテ最上ノ択方ニアラス、天ニ対<sup>〔シ〕</sup>地ニ向ヒ、人ニ対シ己ノ心ニ向ヒ、一点ノ恥ル所モナク之夫婦相撰ノ日至ラハ我國ニ黄金時代来レリト云ヘキナリ、此一事件我國ニ行ル、ニ至ラハ教化ノ盛ナル今ヨリ思知ベシ、吾人若此日ニ至ラ

ハ豈ニ国力ノ振ワス、豈ニ国権ノ暢ヒサルヲ憂ヘン

教育ノ至レル活潑男子、俊才婦人起ルアリ、愛国士人起ルアリ、鴻儒大学〔者〕輩出スルアリ、百工振起リ一新世界ヲ模造シ出スベシ

吾人ニシテ苟モ愛国ノ志ヲ存セハ今日ヨリ此人種改良ノ術ニ注意シ、良才ヲ発見シ之ヲ実施シ、速ニ黄金世界ヲ来スアラハ豈愉快ナラスヤ

〔年月日不詳・草稿〕

○ 吾人ニシテ苟モ愛国ノ志ヲ存セハ今日ヨリ此人種改良ノ術ニ注意シ、良才ヲ発見シ之ヲ実施シ、速ニ黄金世界ヲ来スアラハ豈愉快ナラスヤ

○ 吾人ニシテ苟モ愛国ノ志ヲ存セハ今日ヨリ此人種改良ノ術ニ注意シ、良才ヲ発見シ之ヲ実施シ、速ニ黄金世界ヲ来スアラハ豈愉快ナラスヤ

○ 吾人ニシテ苟モ愛国ノ志ヲ存セハ今日ヨリ此人種改良ノ術ニ注意シ、良才ヲ発見シ之ヲ実施シ、速ニ黄金世界ヲ来スアラハ豈愉快ナラスヤ

○ 吾人ニシテ苟モ愛国ノ志ヲ存セハ今日ヨリ此人種改良ノ術ニ注意シ、良才ヲ発見シ之ヲ実施シ、速ニ黄金世界ヲ来スアラハ豈愉快ナラスヤ

50 顯出ノ君子隱

〔欄外〕  
「明治十四年二月 西京」

題ニ掲ケシ通、今日ハ隱君子ノ顯出ニ付御話ヲスルガ、定テ諸君ノ内ニハ隱君子トハ誰テアロフカ、彼ノ首陽山ニ逃ケ隱レシ伯夷叔齊デハナイカ、又汨羅ノ辺ニ逃ケ出タル屈原テハナイカ、イヤ彼隴畝ニ耕セシ孔明デハナイカ〔ト〕思召方モアルナラン、成程私ノ御話申ス隱君子ハ首陽山ニ入タル伯夷叔齊ニ似ズシテ首陽山ニ繁茂シタ薇ニ似タ者○又屈原ニ少シ似テ江魚ノ腹中ニテ葬ラヌト水土ノ中ニ葬ラレタル者、又蜀王三顧ノ恩ニ感シテ草廬ヲ去テ世ニ出テ遂ニ芳名ヲ後世ニ遺セシ孔明ニ随分克ク似タル者ニシテ、其ノ姓ヲ問エハ石、名ハ炭、字ハ植物ト号ス、是乃チ人ニアラ〔ス〕シテ此黒キ石炭ヲ申ノテゴサル

抑此ノ石炭ナル者ハ何レ〔ノ〕時代ニ成長セシヤト尋ヌレハ、昔昔極昔、未タ人間ノ此世界ニ出来サル前ニアリタレハ、書キ遺サレタル歴史モナク、依テ尋ヌヘキ途モナケ〔レ〕ド、唯私共ノ便トナス所ハ近來流行セシ所ノ地質学ノ

ミ

扱地質学者ノ説モ紛々トシテ一定ニ期セサレトモ、英領カナダノモントリヨルト申府ニゴサル有名ノ地質学士ドーソン先生ノ推算ニヨレハ、石炭時代ハ少クトモ今ヲ去ル一千万年前ニアリト、乍去之ヲ地質学上ノ時代ニ比シテ論スレハ、中古ヨリ余程新ラシキ所ニゴサル、之ニヨリ荒マシ時代ノケントウモ付キタレハ、是ヨリハ其ノ成立ニツキ御話致サン、却説石炭ノ素生ヲ尋ヌレハ其ハ元ト草木デアリテ、山ノナキ所乃平坦ノ地又ハ湿地ニ多ク繁茂シテ、其種類ハ

図ニアル通り



當時空氣ノ有様ハ唯今ト違ヒツリ合乃空氣中  
 ナイトロジェン [酸素ハ二十三分  
 テ炭酸ガスノ分過度ニアリ、太陽ノ温度モ今ニ比スレハ高カ、リ「シ」事ハ北氷圈ニ於テ現今石炭ノアリ、又コラル  
 ノアルヲ見テ知ヘキ也、如斯太陽ノ温度モ高ク且一樣ニアリタルニヨリ、随テ現今ヨリ水分モ多ク平坦ノ処ハ何レノ  
 所モ湿氣ノアラサル所ハナカリシ事ト思ワル  
 如斯炭酸ガスハ過度ニアリ、太陽ノ温度モ高ク又水氣モ充分ニアレハ、草木ノ食物ハ実ニ具レリト云ヘク、炭酸ガス

中ノ炭素ヲ飲<sup>コ</sup>ミ己レノ纖維ヲ組立非常ニ繁茂成長セシ事ト思ワル

右様繁茂シテ何ノ処モ緑樹森ニ陰々トシテ居リマシ〔タ〕ロウニ、造物者ノ外誰一人モ心アツテ見ル者ナク、是等ト時代ヲ同セシ者共ハ如何ナル者ソト尋ヌレハ図ニ掲ケシ如ク

今ナラハ文人、騷客モ随分木ノ下ニ行キ、之ヲ愛シ、之ヲ詩文ニ詠シテ樂ム者モアルベキニ、當時ハ今申上シ通りノ貝<sup>ガイ</sup>ルイヤ虫、ケラヤ魚ヤエモリ蝦ノルイノミナレハ、此草木ヲ見テ喜フ眼モ又樂シム心モナキニ、此草木ハ更ニ不平ヲ鳴サス不足モ言ワス、何時カ我ヲ用ユル者アルヘシト云イツ、腐レ、沼ヤ古<sup>コ</sup>ル池ノ辺ニ生成シテント顧ミス、彼ノ孔子ノ賞メシ一簞ノ飯一瓢ノ飲ニテ、巷<sup>ヤ</sup>ニアリシ顔回ノ德ニモ優レル事ト思ヒ、私モ此草木ノ高德ニ感服シ、其節儉ナルヲ歎シ賛シテ曰ク、炭酸カス水分子腐レ池ニアリ人ハ其ノ不平ニ堪ヘス、炭ヤ其ノ樂ヲ改メス賢ナル哉炭ヤ

ラディエーヤ



ニモルロスクス





三、アークモレーツ

○スユルビオン

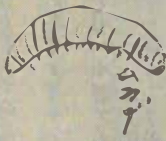
○カサ

○カサ  
カサ

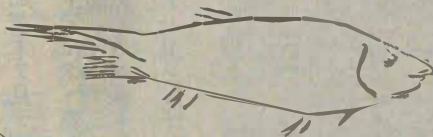
○カサ

○カサ  
カサ

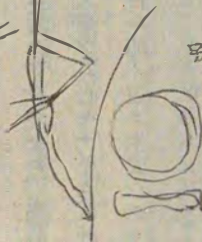
○カサ  
カサ



四、カサモレーツ

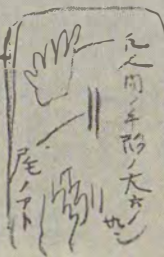


カサ



カサ

カサ  
カサ  
カサ



カサ





ビチユミノス・コールヲ為スニ木質ノ八分ハ一分ノ石炭

トナル程ニ圧付ラレシメ付ラレ、遂ニ石ノ如キ堅キ所ノ石炭ト化シタリキ、然ルニ又地面上ニ変化アリ、海水ノ底トナリタル所モ漸々トモチ上リ、海水ヲシテ再ヒ本ノ海ニ退去セシムル〔ヤ〕否〔ヤ〕又草木ガモヘ茂リ、素ノ通炭酸ガスト水分子ノ食糧ニテヅン、ト成長シ、見渡シノナラヌ程ノ広野濶原モ青々ト茂レル所ノ森トナリ、而シテ以前ノ通りニ木ノ葉ヤ幹ヲ充分ニ積ミ重ネ、最早仔細ハアルマシト楽ミ居リ〔シ〕ニ又モ地震カユリ来リ、満野尽ク水ツキトナリ例ノ圧搾カ初マリ、又モ之ヲオシ付シメ、シメ付テ層々疊々トウ、之ニ幽閉蟄居ヲ申付ケ、再ヒ好物ノ炭酸ガスヲ蚕ム事ヲモ許サレサリキ

〔上欄朱〕

「此時代ノ厚サ

三四千尺ペンシルワニヤ

一万四千尺ノワスコシヤ

石炭ノ厚サハ

一二尺ヨリ五六十尺ニ至ル

○其節ノ幽閉蟄居シテヨリ以来、耐忍ニモ耐忍ニ□驚ク程ノ耐忍デ一千万年ノ星霜ヲ地下ニ送り費セリ、何トヲソロシキ耐忍テハアリマセヌカ、是ハ他ニ非ス、世ノ小人輩ト異ナリテ速成ヲ期セス悠々然トカマヘ込ミ、人間ノ前立ち大器ハ晩成ノ理合ヲ知り、今束圧ヲ受クルトモ何ツカ世ニ出テ世、国家、人民ヲ利スベシト些細ノ事ニ頓着セス、如斯キ長キ幾星霜モ耐忍シテ待タリキ

○却説テ石炭ノ来歴ハ大概御聞キニ入マシタカラ、之ヨリハ石炭ノ世ニ出カケシ所ノ履歴ヲハ話申サン、サスカ世界

ノ文明ニ冠タル所ノ英國タケアリテ、英人ハ早クモ六百年前ヨリ之ヲ用ユイシヨシ、既ニ一千三百十六年第二エド  
 ウォルトノ朝ニ議院ヨリ王ニ歎願、石炭ヲ用ユル事ヲ禁止セシメタリキ、乍去桃李ハ不言下自ラ徑ヲ為テ、誰用ユ  
 ルトナク段々ト用ユル者が出来テ、遂ニ英政府ノ禁制モ廢セラル、ニ至リ、其后漸々乎ト〔シ〕テ之ヲ用ユル者日  
 ニ増シ月ニ加ワリ、近来ニ至リテ人民ヨリモ会社ヨリモ人歩ヲカケ金ヲカケ、所ヲ厚クシテ地下ニオリテ之ヲ迎ヘ、  
 之ヲシテ世ニ出テ懶眠怠惰ノ世ノ中ヲ一變シテ、蒸氣デ走ル活潑ナル新世界トハ、至ラシメタリキ

今日英國米國ニテ用ユル所ハ如何ト尋ヌレハ、女王ノ宮殿、大統領ノ官宅ヨリ卑賤ノ者ノ台所ノストフニ至ル、至テ用  
 イラレサルハナク、又百般物品ノ製造局、蒸氣船、蒸氣車、又暗夜市中ヲ照ラスガスランプノ灯火モ矢張此石炭ヨリ  
 取リタルガスデ、新ヨルク、ロンドン、パリノ如キハ如何ナル暗黒ノ夜モ、此ガスノ御蔭テ白昼ノ如クアカルクナリ、  
 又家々ニモ鉄管ヲ以テガスヲ引キ、油ヲ以テトボスノウスクラキ灯火ニ代用シテ、一層人間ノ便益ヲ増サシメタリキ  
 〔朱筆〕  
 千七百五十八年

ジェームス・ウアツト

千八百〇八年

蒸氣機関

フルトン

蒸氣船

〔米國〕 五千万トン

〔英〕 一万五千万トン  
 〔ママ〕

大英 フランス ペルシヤム スパニヤ

米国 アラスカ 独乙

○米ハ 十九万二千英方里

○英 十万一千九百英方里

〔明治十四年二月・於京都\*〕

51 〔隠君子顯世〕

〔全文朱筆〕

隠君子顯世を御談申し度、先つ此隠君子之來歴を御談し申さねは如何なる人物か、唯突然諸君ニ御聞ニ呈し而も何処之処之人か一切分からぬと申御方も有之へければ、諸君ニは少々御待とふニ御座るへけれど、暫時此隠君子之來歴を御聞被下らん事を奉願る

扱此隠〔君〕子之來歴ヲ談んとするに先つ姓名、姓ハ石、名炭、字植物、其時代と場所を申上、其之為ソコテ其ノ時代を問へは、其昔未タ我カ祖先ノ国常立尊<sup>〔カ〕</sup>之出頭まします前、我等人類之祖先アタム之受造之前にして、其時代前歴史ハ紙上ニ存せず、依而其時を究むへき途もなく、我等唯々シオロジ―地質学ニ問糺し而考へますれば、唯昔昔其昔之一期隠君子<sup>〔カ〕</sup>かありしと〔の〕事のみ分り、彼国常立尊<sup>〔カ〕</sup>之出頭ましましたる前より幾万年又万年と申事之分らぬも、地質学上ニ期限と申区別があり、三月御雛祭りのし餅を幾重か重ねし通、疊之層之一――一重りか見へまする、此一層か幾年之後此一層をなし上る時代かかりた事ハ知り得る也、故ニ此幾層も折りかさなるに付考へ見れば、近來或學者之考ニハ三百万年なるへしと

○一千万年○

〔世顯〕  
「時代」

其場所ヲ論するト

地球<sup>〔カ〕</sup>上之散乱し居たる様、地質学ニヨリ之ヲ遂々見レハ、オーストリア、歐洲之内ベルシヤム、仏郎西、スパニヤ、

大ブリタニヤ、アイルランド、米國ノ英領、米國合衆國之アルヲ見ニ、其広積ハ總計

英里

〔墨線〕 五万方里（日本支那ノ分不分明）

「場所」――

内ト場所ト其生立、コンテンポラリー

造物者ノ外見ル目アリテ見ル人ナク、然レトモ満足シテ森々ト榮ヘタリ、不平不足ナク

人之ヲ掘リテ之迎テ再ヒ人間ニ出セシトキ、彼モ決テ不辭、真黒々然ト地下ヨリ出来ル

白哲人種之ヲ見テ、黒奴視シテ之ヲ輕蔑セシ者モアルヘシト推察ス

――年英政府ニテ決議ノ上之ヲタク事ヲ不許ト、〔然ルニ石炭先生不平ヲ鳴（サズ）、不足モ黙々然トシテ地下ニ隠レ居リ、又人民之ヲ出セリ

昔ノ備前ノ岡山ニテ岡山カ暖シト云、白昼ニ行燈ヲ付テ岡山ヲ出カケテ去リ（シ）熊沢先生モ、今此文明君子ニ逢タナラハ定テ深キ交ヲ結ブナラン、熊沢先生ハ今居タナラハ

隠君子 活潑君子

自由ヲ好メル君子、不平ヲ鳴ラササルノ君子、光ヲ好ムノ君子

人ノ為ニ熱ヲ発シ光ヲ発シ、身ヲ捨、断乎ト不顧、己ハコークストナリテ不顧ル愛國君子

且其生成セシ土地之上ハ如何〔ニ〕アルカ、山ヤ谷カ又ハ平坦カ尋ヌレハ、平坦之地多クハ湿地ヲ最モ好ミ、大池を成し沢之中小溜之内ニ盛なる彼図之如き纖維草木ニ御座ル

○當時空氣之有様ハ恐クハ唯今ト違ひ、酸素ハ二十三分素ハ七十七分、炭酸ガス一万分ノ四ト此割相ヨリガス之分量カ多キ所ヨリ、空氣モ重ク且此時代ハ當時ヨリ太陽之熱度は至テ高く、赤道ヨリ北極辺ニ至迄之氣候ハ唯今と大ニ異ナリたる事ヲ發明セリ、如何トナレハ近來北極近傍ニモ石炭か出ル事ヲ発見セラ〔レ〕し所、昔ハ其辺無草木之北氷洋近傍ニ盛ニ繁茂セシ事の証たるヘク

○氣候ハ暖、空中ニ多分ノ水分アリ、○草木ノ繁茂セシを知る也、如斯氣候之ヨキ時ニシ而水分氣もあり炭酸氣も多量ニアリタレハ、草木ハ充分ニ長成セシ事と見ヘ、當時石炭坑より掘出之初之岩を見レハ非常之樹木ニありし事を知ニ足ル

草木之種類記し而見レハ

ナシノ木 花 白シロ 五六十フイト ライコボデアム 苔草 地ハイ松 顯地

此時代ノ土ノ厚〔サ〕ペンシルワニヤニハ三四千尺

ノワスコシヤ 一万四千尺

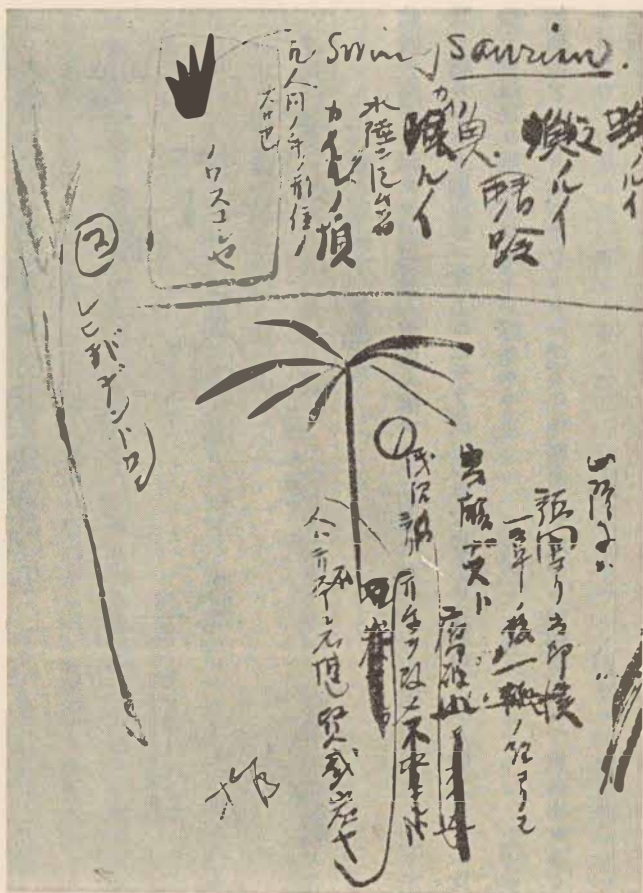
土カ高マリ其ノ内ニ沼又ハ池ノルイアリ、又ハ池上ニ流動ノ浮島ノルイアリ、湿地アリ、其上ニ樹木森々乎ト繁茂し、幾千星霜ヲ經過シテ、沼ノ内池ノ中ニ充分ニ樹木又其葉ヲ疊ミ重ネ皆ナ水中ニ葬ラレ

○水素カ炭素ト合テ油生ス〔ヤニ〕

水中ニアリ樹木類カ分離スレハ木質分離







譬へハガス〔酸素ハ水素ト合、水ヲ為シ、又ハ炭素ト合ト合シ炭酸ヲ為シ、ガスト  
〔ママ〕

〔水素、酸素、炭素〕石炭

大英國ニテ六千五百万トン（一トンハ二二四〇斤）

$$\frac{16) 100(6}{96}$$

$$\frac{85}{15} \frac{100}{100}$$

炭酸  
損失

石炭  
アンスラ  
サイト

$$\frac{78}{22}$$

ビテユーミノス

$$\frac{1}{12}$$

木層十二尺

$$\frac{1}{8}$$

石炭

木層

石炭  
巷尺

此儘テ地下ニ葬ラレ、幾層ノ重シカ重ナリ之ヲ圧ス

又土地カ少シク墳起シテ其上ニ草木ノ成生シテ、以上ノ通石炭ナル物カタマル比ニ、又地ニ下リ其上ニ海水カ来リ

砂土ヲ以之ヲ蓋ヒ、又地下ニ葬リタリ

如斯出テハ葬ラレ、トウトウ一千万年モ耐忍シテ地下ニ幽閉蟄居シテ世ニ出サリシ、ナント長イ蟄居隠居デハ御座リ

マセンカ

〔上欄〕

「第二エトウォルド」

英國テ用ヒ初メシハ何時代カ分カラヌトモ、最早六百年前ヨリ用ヒタル事アリテ、其臭氣ノ悪キヨリ恒ニエトウォルド

第二世ノ時ニハ石炭ヲ用ユル事ヲ差止メラレタリ

再ヒ隱居仰付ケラレタリ、乍去桃李ハ不言下自為徑、誰用ユルトナク人々之ヲ用ヒ、遂ニ禁制モ解ク事ニナリ、今ハ之ナクテハ何事モ為シ得サル程ニナリ、日用欠ヘカラサルノ大切ナル需用物トナリ、何レ〔ノ〕家ニモ之ヲ坐シキ台所ニ用ヒ、何ノ製造場又ハ溶解炉ニ○或煉化スヘキクニモ之ヲタキ、汽車ニ汽船ニ用イテ遂ニ蒸氣ニテ走ラス、又欧米ノ市ニテハ石炭ヨリガスヲ取市中ヲ照ラシ、又家内ヲモ照ラス事ヲナシ、文明進歩ノ時代ヲ来ラシム、人之ヲ用ユルト雖トモ今此隱〔君〕子ノ徳ニアラスシテ争テカ今日之文化ヲ見ヲ得ン

※且近来我日本ニテ流行ノ石炭油ノ如キモ、多クハ植物ヨリ出来シ者ニテ、之ヲ用ヒテ暗黒ノ夜モ殆ト白昼ニ近キ便ヲ与シムルハ是亦隱君子ノ美德也

乍去此石炭ハ之ヲタケハ暴火ヲ発シ、又非常ノ温度ヲ与ヘ、時トシテ蒸氣罐ノ破烈ノ憂ナキ能ワス、故ニ石炭ヲ用ユルニ厚キ鋼<sup>〔カ〕</sup>ヲ用ヒ破烈ノ憂ヲ防カシム

○ガスランプノ如キ丈夫ナル鉄管ヲ用ヒ、ガスヲ一ツ所〔ニ〕マトメ、后<sup>〔カ〕</sup>ニ空中ニ散シ火ヲ発<sup>〔カ〕</sup>ノ憂ヲ防カサルヲ不得

◎如斯多年地下ニ幽居シテ出ザリシ隱君子モ、再ヒ世ニ出テ何レノ国ニモ聘セラレ、上ハ帝王ノ宮殿ヨリ下ハオサンドンノ手ニ取扱ワル、台所ノストフニモ隱君子不出サレハ、此文明ヲ如何セントノ觀ヲ抱カシメ、政府ヨリモ又会社ヨリ〔モ〕金ヲ出テ多人数ヲ用ヒ、地下迄御迎ニ出カケ、之ヲ引揚ケテ此世ニ出テシメ、如斯モ世ノ中ニ利益ヲ与フ、世ノ物産ヲマシ製造ヲ盛ニシ、暗キヲ照シ遅キヲ早クシ、重ヲ運ヒ痴鈍ノ世ノ中ヲ如斯一變シ活潑社会トナラシメシハ、実ニ多年ノ束帛ヲ受ケ何一ツノ怨言モ吐露セズ、何ヲ我時来タ〔ル〕ベシト当テニセ〔ズ〕シテ待カマヘシニ、<sup>〔墨点〕</sup>隱

レ、タルヨリ顯ワル、ハナシテ何ツカハ見ル人アリテ之ヲ要シ、之ヲ聘スルニ至リシ、恰モ彼玄德カ隴畝ニ三顧セシ上ハサスカノ隱君子孔明モ辞シ能ワス、遂ニ身ヲ漢朝ニ任セシ通リ、度々御使カ迎ノ来ル上ハ最早隱君子モ隱ル、能ワス、辞スル能ワス、遂ニ世ニ出テ如斯モ世ヲ益スル事〔ト〕ハナリ行キタリ

非常ノ庄制ヲ受ケ多年ノ苦辛ヲ思ヒ、一朝世ニ出テ如斯クモ世ニ益スル所ヲ見レハ、隱君子ノ出顯トモ云ワサルヲ不得事ニ及ヒシハ何ト面白キ事テナキカ、故ニ予之ヲ賛シテ曰、嗚乎盛義ノ石炭先生ハ非常束庄サルトモ更ニ怨言ヲ吐露セス、不平ヲ鳴サス、且非常ニ多年地下ニ幽居シテ活潑々精神ヲ具ヘ、活潑ノ精神ヲ練磨シ〇人ノ為ニ己ヲ捨テ、温度ヲ与ヘ光ヲ放チ身ヲ灰トナシ断乎ト不顧、愛國男子真丈夫也ト、一朝世ニ出ツレハ世之ヲ使役ス、世ノ使役ヲモ不辭

〔以下朱書上に墨書〕

多年受庄 不吐怨言

幽居地下 練磨精神

一朝出世 發熱放光

捨身為灰 断乎不辭

嗟爾石炭 真隱君子

真大丈夫

〔以下欠〕

52 文明ヲ組成スルノ四大元素

〔朱〕十五年七月 安中ニ於テ

十六年一月五日 園部ニ於テ

○智識、財産、自由、良心ノ働キヲ養生スル事

此内一モ欠ヘカラサル事恰モ卓ノ四脚アルカ如シ、此内誰ヲカ重シ誰ヲカ輕スルヤ、君子国ヲ為スニハ〔楠〕天国ヲ為スニハ良心ヲ養生スル事ヲ最モ貴重〔ト〕スレトモ、文明国ヲ為シ、文明ノ社会ヲ組織スルニハ、此四大元素ノ内一モ欠ヘカラス

○未開ノ人アリ、如何シテ進ムヤ

△智識ノ開發ヲ要ス

家ノ改良、道具ノ改良、製造、運搬、旅行等、随テ生シ、随テ財産ノ増殖ヲ生ス

△財産ノ増殖

資金ヲ、〔ママ〕ト元トシ、又其ヲ以テ増殖ノ元手トス、財産ハ最常人ノ要スル所、是アリ文明ノ民タルニ足ラス〔一ノ

金満家〕、財産増殖ニ無理ヲ為ス〔独乙筆〕〔カ〕ノ言

△自由ノ皇張

身分上ノ自由、財産土地所有ノ權ノ自由、国民タルノ自由、公平適宜ノ法アリ克ク自由ヲ獲ル〔ウ〕、繩墨アリ克ク画ヲ

為スカ如シ

〔二種 外来ノ自由、心中ノ自由〕

△道心ノ發育 〔神ノ愛スル所ヲ愛シ、神ノ惡ム所ヲ惡ム〕

○智識、財産、自由ヲ運轉セシム者、□ノ譬ヘ

○安中ノ信者ニ望ム所、良心ノ働キヲ為サ、レハ私ノ論ハ兄弟ノ為ニ打ツブサル、ナリ

〔明治十五年七月十四日・於群馬県安中 明治十六年一月五日・於京都府園部〕



53 文明ノ元素

近来精密家ノ説ニヨレハ、此地球ノ物質ハ六十五元素ヲ以成立スルト、是乃此元素ヲ以テ此地球ヲ組織シ、以テ物質世界ヲ為スナリ、近ク之ヲ譬ヘハ、今我輩ノ集マリ居ル所ノ家ノ構造ヲ見ラレヨ

○基礎アリ、柱アリ床アリ大引アリ、梁アリ壁アリ窓アリ屋根アリ、以テ一家ヲ為ス如ク、文明社会ヲ組織スルニ矢張幾分カノ元素ナカルベカラス、然ラハ文明ヲ組織スルノ元素トハ何ゾ、乃チ智識、財産、自由、良心ノ働キヲ養成スル事

此内一モ欠ヘカラサル事恰モ卓ニ四脚アルカ如シ、今試〔ニ〕四脚ノ一ヲ取リテ脚ノナキ方ニ物ヲ置キミラレヨ、卓ハ直ニ転覆スベシ、人間社会モ然カリ、四元素中ヨリ一元素ヲ減スレハ社会トシテ立ツ能ワス茲ニ未開ノ国アリト想像ヲセヨ、其ノ人如何シテ進ムヤ

●智識ノ開発ヲ要ス

○昔時ハ木ノ葉ヲ編ミ衣トナシ、木ノ枝ヲク、リテ家トナスモ、智識弥進ムニヨリ遂ニハタ織機械ヲ發明シテ衣裳ヲ製シ、木ヲ切リケツリ、漸見ルヘキニ足ル家ヲ構造ス

○家内ノ道具ノ如キ (a) 石具、(b) 木、漆器、金銀銅鉄

○道路 天然ノ儘 道路開鑿、トンネル、鐵道

○工芸技芸 (電氣ニヨリ山ノ金屬ヲ見ル

智識ノ開發スルニ随ヒ、人々貯蓄ヲ好ミ、財産ノ増殖ヲ欲ス

智識ノ進マサル印度ヤン〔インデアン〕人種ノ如キ、遊獵ヲ以テ事トナシ、獵アレハ充分ニ食ス、無キ時ハ飢ユ

### ◎財産ノ増殖

智識進マバ人必ラス好キモノヲ好ム、弥得レハ弥得ン事ヲ望ムハ人情ノ常

人先些少ノ資金ヲ元手トシ、之ヲ工業ナリ農業ナリ商法ナリ為スニ、元ニ倍スレハ又倍丈ケニ手ヲ広ム、又之ニ倍シテ遂ニ大ナル財産家トナルニ至ル

人財産ナクモ君子聖人タルヲ得ベシ、去レトモ社会ヲシテ財産ニ乏シカラシメハ、決シテ文化ノ車ヲ運転セシムル能ワス

〔社会ニシテ財産ニ乏シケレハ工芸ヲ起、人力人労ヲ省ク能ハス、技芸ヲ盛ナラシム能ハス○学校ヲ設ル能ワス

○道路ヲ開鑿シテ運搬ノ便ヲ得ル能ワス、鉄道、汽車、汽船、電線ヲ架スル能ワス○海辺ニ於良港ヲ築ク能ハス蓋財トカ云テ唯之ヲツムカ功能ニアラス、之ヲ活用シ社会ヲモ益シ、又己レヲ益シテ初メテ財産ノ人間ニ必要ナルヲ見ルニ至ル

### 羅沙製造場（オーストラリヤ）

カウ　　ン　　コンチエスタル

絹　　リオンノ如ク（日本）

### ◎自由ノ皇張

人智識アリ財産アリ、而シテ自由ヲ好マサルモノアラン、乍去自由ト申シテ我儘ニ我カ錢ヲ費シテ、酒ヲ飲ミ乱暴

スル等ノ類ニアラス○自由トハ東庄ヲ受ケサルヲ云ナリ○一身上ニ東庄ヲ受ケス○我カ財産ニ土地ナリ一身ニ関スル事々物々ニ東庄ヲ受サルヲ云ナリ

自由二種アリ

一 外物ノ束庄ヲ受ケヌ事

一心ノ真理ニ叶ヒ、真理ヲ自得シテ自由ナル事

未開ノ国ニハ必ラス外物ノ束庄アリ、又心ノ束庄アリ、心ノ迷ヒノ為ニ束庄セラル、夜間外トヲ行キ大入道ニ逢フノ類○物カタ、ルト云テ恐レヲ抱クノ類

◎良心ノ働キヲ養成スル事

道徳

〔良心ノ働キヲ鋭クスル事、真理ニ順ヒ真理ニ反カヌ事○神ノ愛スル所ヲ愛シ、神ノ惡ム所ヲ惡ム〕

〔クツ屋ヨリクツヲ買フ、其人死ス、払ハサルヲ幸ヒトス、其人ノ安カラス、再ヒ其代ヲ死人ノ店ニ投入ル智識、財産、自由アリ以テ社会ヲ進ムヘシト云類モアルベケレトモ、恰〔モ〕卓ニ三脚アリ一脚ヲ欠クカ如シ〕

○道徳心ヲ欠キ如何シテ之ヲ運轉シ得ヘケン

〔鍊道蒸氣ニ鍊道アリ、機関アリ、諸事証ヲ整頓シシタレトモ未タ蒸氣ノ罐ノ下ニ火ヲタカサルガ如シ〕

四元素中尤大切ナルモノト云ヘシ

〔文化ト云テ三元素分子ノミナレハ、決シテ社会ノ平安ヲ保ツ能ワス〕

道徳心ハ何ニヨリ得ヘキ、宗教ニヨル

〔獨乙皇帝曰、日本耶ソ教ヲ信セサルニヨリ同等ノ交際ヲ為ス能ワス〕

ビスマルク、今日アルハ偏ニ宗教ニヨルト

宗教ナケレハ自由モエス、財産ヲモ散シ、易ニ智識ヲモ進ムル能ワス

〔年月日不詳・草稿〕

## 54 勇氣ノ説

(大阪ニ於テ 明治十五年十月廿一日)

勇氣ト申セバ何ニカ敢為ノ氣象アリテ、事物ニ少シモ恐レス、己ニ敵スルアラハ直ニ之ヲ打チ挫クモノヲ云フニ似タレトモ左ナラス、勇氣モ矢張物ノ色ノ如ク紅トカ白キ〔トカ〕青トカ黄トカノ區別アル如ク、又物ノ音ノ如ク五音六律ト云如ク、又西洋ノ音楽ニハオクターウト云テ七ツノ調子アル如ク、勇氣モ勇氣ナレトモ勇氣ニ種々様々ノ區別段等アリ、一概ニ強キモノヲ勇ト云ヘカラス、下等ノ勇、上等ノ勇、卑賤ノ勇、高尚ノ勇、進ム勇、退ク勇、伸ル勇、屈スル勇、堪フ勇、小人ノ勇、血氣ノ勇、利己ノ勇、君子ノ勇、如斯區別シテ行キタレハ容易ニ予メ此演説ニ局ヲ結フ能ワス、依テ先之ヲ左ノ六種類ニ別チ、逐一簡短ニ御談申スベシ

第一 血氣ノ勇

第二 任俠ノ勇

第三 利己ノ勇

第四 義ニヨルノ勇

第五 仁ニヨルノ勇

第六 真ニヨルノ勇〔朱〕  
「克己ノ勇モ生ス」

〔朱〕  
「○第一」血氣ノ勇トハ多ク脆力者流ノ内ニ行レ、他ニ頼ム所ナク何ノ思慮モナク、理非ヲ弁セス、己レノ憎キモノ

ハ之ヲ打チ、己レニ敵スルモノハ之ヲ挫キ、自ラ慢リ自ラ快トスルノ流ヲ云ナリ

〔朱〕

○第二「任俠ノ勇トハ血氣ノ勇ノ類ニアラス、随分理非モ分リ思慮モアリ、幾分カ義モアリ仁モアルモノナレトモ、

〔朱・以下同〕

第一ニ己レノ顔ヲ立テ友達ノ顔ヲ立テ、以テ大主眼トナシ、一碗ノ飯モ一杯ノ酒モ己ノ顔ヲ汚ス事ナレハ決テ受ケ

ス、又克ク弱キモノヲ憐レミ強クシテ己ニ敵スルモノアラハ飽クマテモ之ニ抵抗シ之ヲ挫キ快ヲ取ルノ類ヲ云ナリ

〔朱〕

○第三「利己ノ勇トハ利ノ為ニ動カサレ慾ノ為ニ鼓舞セラレ、色、情、ナリ飲、食、ナリ富貴、ナリ功名、ナリ、己レ一度ヒ之

ヲ求之ヲ得〔ン〕ト欲スレハ、非常ニ忍ヒ非常ニ勤メ、艱難ヲモ意トセス水火ヲモ恐レス、進ムモ得ルニアリ退ク

モ得ルニアリ、得、サレハ飽、カス飽、カサレハ足ラス、廉恥ヲ以テ本トセス、徳義ヲ以テ基トセス、主義ハ便義、手段

ハ工風百方、偽詐百端、唯得テ而后快トスルノ類ニシテ、暗夜ニ細谷川ノ丸木橋ヲ渡ルモ此勇ナリ、ネムキ目モ眠

ラス終夜十露盤ヲ弾クモ此勇ナリ、利己ノ為ナラハ終日飯ヲモ食ワス奔走スルモ此勇ナリ、極暑ニアフリカノ沙漠

ヲ渉ルモ此勇ナリ、嚴冬ニアルペンノ嶮岨ヲ渉ルモ此勇ナリ、大風怒濤ヲ侵シ航スルモ此勇ナリ、冰山ニ触ルモ忘

レ北氷洋ニ漁スルモ此勇ナリ

此勇タル人情ノ向フ所人慾ノ趨ル所恰モ百川ノ海ニ下カ如シ、誰カ克ク之ヲ挽回シ得ベキゾ、之ヲ挽回スル他ナシ

此勇ニ越ユルノ勇ヲ用ヒ之ヲ制スルニアルノミ、此勇ヤ一婦人一小人ヨリ丈夫英雄ニ至ル迄苟モ□ク情慾ヲ存セハ

此勇ヲ脱離スルモノナカルベシ、甚キ哉此ノ勇、古来ヨリ今日ニ至迄天下ヲ蚕食シ全世界ニ横行スル

〔朱〕

○第四「義ニヨルノ勇ハ義ニ基キ発スルノ勇ニシテ、苟モ義ニ適ハサレハ敢テ進マス、又敢テ退カス、唯義ニ之ヨ

リ義ヲ以規矩トナシ繩墨トナシ、義ニヨリ生キ、義ニヨリ死ス、義ノ許サ、〔ル〕所ハ万里ノ封侯モ土塊ノ如ク巨

万ノ黄金モ瓦片ノ如シ、義ノアル所岩ヲモ徹スベク山ヲモ抜クベシ、又水ヲモ渉ルヘシ火ヲモ踏ムベシ、義ヲ重ス

ル事泰山ヨリ尚重ク、命ヲ輕スル鴻毛ヨリ却テ輕シ

此勇アリ六尺ノ孤ヲ托スヘシ百里ノ命ヲヨスヘシ、此勇アリ忠、臣、起リ孝子出テ、貞婦、顯レ信、友見ユ○夫子曰知恥、近キ勇ト、又曰見義、不為、無、勇、也、此勇アリ人克恥ヲ知り、又義ヲ見テ敢テ為スモノナリ、美哉此勇、之ヲ望マハ人ヲシテ坐ニ旭日ニ匂フ山桜ノ靚ヲ為サシム、彼スバルタノ精神、又一片ノ日本魂トハ此勇ニ非シテ何ソ

〔朱〕

○第五「仁ニヨルノ勇トハ仁心ヨリ發スルノ勇ニシテ、自己ヲ忘レ他人ノ益ヲ計ルモノヲ云也、孔子曰仁者必有勇、又曰身ヲ殺シテ仁ヲ為スト、蓋シ仁者ニシテ而后此勇アリ、是レ己レニ克チテ仁ニ反ルモノナリ、仁ニ非サレハ敢テ進マス、仁ニ非サレハ敢テ為サス、仁ト生キ仁ト死シ、一箇人ヲ助ケ一社会ヲ益スルヨリ一国全洲ニ及ホスニ至ル、是レ他ナシ□ニ同情シ憐ムノ深キヨリ、遂ニ己ヲ捨テ己レヲ顧ミス同胞ノ幸福ヲ計ルモノヲ云ナリ

〔朱〕

○第六「真理ニヨルノ勇トハ、真理ヲ以テ源トナシ基トシ之ニ依テ發スル所ノ勇ヲ云ナリ、此勇ヲ説カサル前、先「ツ」真理ノ如何ヲ研窮セサルベカラス、真理トハ何ソ、乃天ノ道也、天帝ノ人間ニ賦与セラレタ誠也、此誠ニヨリ人初メテ人タルヲ得ベク、此誠アリ人初テ真正ノ勇ヲ發スベシ、孟子カ嘗テ浩然ノ氣ヲ養フト云ヒシモ、不知不分暗ニ真理ニ基ケル此ノ勇ヲ指シタルナルベシ

人真理ヲ得初メテ常ノ心アルベシ、初メハ天帝ノ宇宙ニアリテ宇宙ヲ支エ、又人類ヲ支配セルヲ知ルベシ、初メテ己レノ罪惡ノ惡ムベキヲ知ルベシ、初メテ道德ノ貴重ナルヲ知り、又己レノ靈魂ノ不死不朽ナルヲ知り、随テ同胞ノ靈魂モ亦我カ靈魂ノ如ク貴重ナルヲ知ルベシ、同胞ノ靈魂ノ貴重ナルヲ知り初メテ克ク同胞ヲ愛スベキノ精神ヲ生シ、同胞ヲ救フヘキノ勇氣ヲ發スベシ、故ニ真理ヲ知ルハ仁義ヲ得ルノ源ニシテ、真理ニ照準セサレハ区々タル小義、了々タル小仁ニ止マリ止ム憂アルヘシ、真理ニ基キ發スルノ勇ハ克ク義ノアル仁ノ存スル所ヲ明カシ、義ヲ



全仁ヲ全フシ、古来ノ習慣ニ動カサレス、世俗ノ風潮ニサソワサレス、外物ノシシヨウニ左右セラレス、上ニ諂、  
ワス下ヲ輕蔑セス、利ノ為ニ動カサレス害ノ為ニ屈セス、富貴□□ニ□□ラス貧賤ニ威之タラス、鼎鑊モ火アブリモ  
磔モ、其ノ志操ヲ動カシ其ノ目的ヲ變セシムルニ些少ノ分力ヲモ呈セサルモノナリ

〔上欄〕  
「カマウデモアツクナイ、ヒアブリモオソロシクナイ、磔モイタクナイ」

〔補〕  
「自ラ反ツテ而縮カレハ千万人ト雖吾往カン」

〔上欄〕  
「自反スルトハ己レノ心ノ向フヲ真理ニ照シ弥真理ニ叶フヤ否ヲ問ヒ、若シ真理ニ照シ少シモ恥ル所ナケレバ千万人  
ト雖恐ル、ニ足ラス、死モ厭フニ足ラス、吾必ラス往ント云意ナリ、又己ノ心ノ欲スル所真理ニ叶ワサル所アレ  
ハ、自ラ之ヲ制シ之ヲ改メ之ニ克チ、ヨク自身ノ靈ヲシテ情慾ノ奴隸トナラ「ザラ」シムベシ、陽明ノ曰ク賊ヲ制  
スルハ易ク心中ノ賊ヲ制スルハ難シ」

〔補〕  
「義ノ為仁ノ為真理ノ為、千万人ノ内ニ飛入ルハ易々タルモ、或ハ一室中カ又山中カ人ノ見サル所、人ノ知ラサル所  
ニ於テ、若シ心中ニ慾心ト道心ト戰フトキニ克ク慾心ヲ制シ得ルモノハ、真理ニ基ク勇ノ外他ニ之ヲ制スルモノナカ  
ルベシ、ペートル大帝ハ広キ露國ヲ順ヘシモ自己ノ心ヲ制スル能ワスト、克ク己ヲ制スル勇コソ大勇ト云ヘキナリ  
○此世ヨリ未来ニ通ル路ゾアリ 雪降ラハフレ雨フラハフレ」

此勇アリ人初メテ克ク勤メ克ク忍ヒ、克ク千辛万苦克ク伸ブ克ク勝ツ、之ヲ打タハ益固ク、之ヲ切レハ益多ク、之ヲ仰ケ  
ハ益高シ、是レ天下ノ人類ニ此真理ヲ分ケ与ヘ、共ニ自由ノ壇ニ至ラシムハ、決テ止マス決テ安セサルノ精神ヲ云ナリ  
如斯、前上ノ如ク概略勇氣ノ六種類ヲ述タレトモ、是レヨリ又逐一六種ノ勇毎ニ評議下スベシ

〔番丹朱〕  
一血氣ノ勇ハ 甚コマツタモノ

二任俠ノ勇ハ 甚愉快ノモノ

三利己ノ勇ハ 甚危険ナルモノ

四義ニヨルノ勇ハ 甚美ナルモノ

五仁ニヨルノ勇ハ 甚慕ハシキモノ

六真理ニヨルノ勇ハ 奥深クシテ甚広大ナルモノ

予此ノ演説ノ局ヲ結フニ当リ、尚更ニ此真理ヨリ發スルノ勇ニ付、詳細ニ例ヲヒキ弁解ヲ加ヘタケレハ、諸君ヨ幸ニ今暫時耳ヲカシ賜ヘ

扱真理ニヨルノ勇ノ此世ニ發スルヤ、支那ノ古聖人、印度ノ宗教家、グリシヤノ理学家ノ功モ決シテ少シトセサルモ神ノ人間ニ賜ヒタル真理トシテ、明々白々我輩ヘ示シ我輩ニ説カレタルハ独耶ソ基督アルノミ、彼レ曾テ曰ク、我ハ<sup>〔朱〕</sup>「途也真也生命也、又曰門弟ニ説テ、爾等我道ニヨラハ誠ニ我カ弟子也、且真理ヲ知ラン、真理ハ爾等ニ自由ヲ得サ

スベシ」、又或ル人基督ニ就キ語テ曰、夫子ヨ、爾ハ誰ニモ偏ヨラサルヲ我等ハ知ル、ソハ兎ニヨリ人ヲ取ラサレハナリ、基督又曰ク、我ハ善牧者ナリ善牧者ハ羊ノ為ニ命ヲスツ、又曰人其友ノ為ニ命ヲ捨ツルハ愛ニ於テ之ヨリ大ナルナシ、是等ノ語ニ考レハ人間ノ神ノ作為ニ係リ同等ノモノナル事ト、又人類ハ互ニ愛スベキ事ト云フノ理知ルニ至ル、自ラ之ヲ教ヘ、自ラ之ヲ行ヒ、天下万世此人類ヲ罪惡中ヨリ救ワンカ為、遂ニ十字架上ニ磔死セラレタリ、<sup>〔上欄〕</sup>「キリストノ真理ノ為人類ノ為ニ命ヲ捨テシヲ知ルニ足ル、夫キリストノ如キハ教ヲ行ワルノ類ニアラス」此ノ真理ニヨルノ勇一「タ」ヒ猶太國ニ於テ十字架上ニ懸ケラレシヨリ、恰モ山上ノ源ヨリ水ノ四方ニ流れ下ルカ如ク、洋々ト「シ」テ絶エス洋々トシテ止マス、此勇氣門徒ノ腦漿ニ入り、之ヲ其ノ門徒ニ伝ヘ、一國ヨリ他國ニ伝ヘ、一時代ヨリ他ノ

時代ニ及ボシ、恰モ空氣ノ全世界ヲ囲ムカ如ク此勇氣モ亦全世界ニ蔓延セシ、或ハ欧州ニ於テ宗教大革命ノ精神トナリ、仏国ヒグノーノ堪忍トナリ、和蘭獨立軍ノ勢力トナリ、或ハ英国大革命源<sup>〔カ〕</sup>トナリ、或ハ米国ノ植民、統テ獨一軍ノ因トナリ、或ハ自由教育ノ精神トナリ、或奴隸放免ノ基礎トナリ、凡ソ天下善ト称スルモノナラハ此勇進テ取り進テ為シ伝テ今日ニ至リ、海ニ航シテ我国ニ来リ、尚克我輩ノ眠レル目ヲ醒シ、我輩ノ鈍キ心ヲ鼓舞シ、醒ヨ起ヨ進ヨト、真理ノ戦ニ加レト勸ム、我輩ニ肖ト雖豈敢此ノ勸メヲ辞スベケン、願クハ真理ヲ以テ甲冑トシ是レヨリ真理ニ反スル者ヲ征伐セン、論者或ハ曰ン、彼等外国人ノ奴隸トナリ基督教ヲ奉セリト、真理ヲ奉スルモノ豈奴隸タルノ理アラ<sup>、</sup>ン、真理コソ我輩ヲシテ自由ノ壇ニ至ラシムルモノナリ

我国古来勇氣ニ富メリト云ベキモ、支那ノ風俗入来リ遂ニ文弱ノモノ<sup>〔ト〕</sup>ナリ、近來西洋ノ學問舶来シテ世ノ學者輩浮薄トナル、是レ支那ノ學問ハアナカチ文弱ナルニアラス、西洋ノ學問尽ク浮薄ナルニアラス、其実ヲ捨テ唯其虚ニ入ルノ弊ナリ

<sup>〔上欄〕</sup>  
「茲ニナメグジノ如キ先生アリ、我心石ニアラス、転スベカラスト人ノ前ニ断言、便義主義ノイバリヲ為セシニ、便義主義ノ塩ヲ之ニカケタラハ、其先生ハ黙テ角ヲ引キコメシト」

△我輩今誤テ其ノ実ヲ捨テ、其虚ニ流レ其本ヲ忘レ、其ノ末ヲ求メハ、全天下数十世ヲ出スシテ古來伝来ノ勇ヲモ失ヒ、人々名利ノミ之レ取り、利ノミ之ニ奔リ、各便宜ノミ之求メハ如何シテ吾人國家ノ隆興ヲ期スヘケン

吾人若シ誤テ此勞ヲ失セハ、一身ヲモ立ツル得ス、妻子モ養ヒエス、財産モ保護シエス、己ノ権理ヲ伸シ得ス、又國權ヲモ張りエス、一國ノ有様ハ恰モ腐レタル水溜ノ如ク、少シモ流通ナク變化ナク運動ナク衰頽ニ至ラ<sup>〔ス〕</sup>シテ何ソ  
○未タ雨降ラサルニ屋根ヲ修繕スト云古人ノ金言、今此害ノ大ナラサル内ニ之ヲ防カサレハ後害甚カルベシ

昔時ノグリスハ、文学芸術ニ富タレトモ邪淫ニ流レテ大勇ヲ失ヒ滅亡セリ、□々タル羅馬ハ国富ミ然□□奢侈ニ流レテ大勇ヲ失ヒ瓦解シ、欧州雄視セシスパニヤハ干涉ヲ以主義トナシ、国是ヲ誤リ大勇ヲ失ヒタリ、今日ノ衰頹ヲ来セリ

又今日彼ノ懦弱ナル朝鮮ヲ見ヨ、警メサルベケンヤ、敬マサルヘケンヤ〔ツツシ〕

殷鑑不遠、敎之医スル之今日ニアリ、願クハ満場ノ諸君ヨ、共ニ真理ヲ探リ、共ニ大勇ヲ養ヒ、憤然興起同心協力、今ノ浮薄ニ流レ便宜ヲ主トシ利己ニ趨ル潮流ヲ支ヘ、我国ヲシ〔テ〕文化ノ域ニ進マシメ、我民ヲシテ自由ノ壇ニ至ラシメン事予ノ切望シテ止マサル所也、依テ勇氣ヲ説テ述ブ

〔櫛外朱〕

「孟子ノ大勇ヲ説テ出セ、自反而直雖千万人我往カント」

〔明治十五年十月二十一日・於大阪〕

55 蟻之説

〔表紙〕

〔明治十五年十月廿八日〕

蟻之説 西京道場芝居ニ於て而演説す

新島

〔本文〕

蟻ノ説

十五年十月廿九日

西京道場芝居ノ演説会ニ於テ

蟻ト云フモノハ中々驚クベキ一小虫ニシテ、古来ヨリ段々歐洲ノ博物学者ノ蟻ニ付著述セシモノモ沢山アリ、又支那人モ早クヨリ蟻ニハ君臣之義アリトモ申セシ事アリテ、其ノ形体ヲ論スレハ実ニ微々タルモノナルモ決シテ輕蔑スヘキモノニ非ス、万一蟻ニシテ言語アリ人之ヲ聞キ得テ蟻ノ歴史ヲ知り得ルナラハ、実ニ面白キ奇談モアルベキニ、悲哉言語ハ不通、唯不得止事人間ヨリハ其ノ性質習慣ノ如何ヲ察知シ熟視シ、如斯如斯モアルベシト説ヲ容ルノミ予ハ嘗テ蟻ノ事ヲ記載セシモノヲ讀ミ、其ノ性質ノ奇妙ナル事ニ驚キ、閑暇ノ節或ハ野ニアリ或ハ山ニアリ或ハ畑ニアリテ少シク蟻ニ注意セシ「事」モアリシガ、知レハ知ル程見レハ見ル程此虫ノ驚クニ堪ヘタルヲ確知スルニ至レリ、依テ予ハ本日蟻ヲ以テ予ノ演題トナシ、兼テ讀ミシ所、聞キシ所、実見セシ所ヲ成丈簡短ニツマミ御談申スベシ

○扱蟻ト申ス内ニモ種々ノ種類多ク、茶色ノ蟻アリ、青蟻アリ、黒蟻アリ、白蟻アリ、又ハリヲ備ヘタルモアリ、甚タ臭キ香ヲ腹中ニ藏スルモアリテ、種類ハ何分多クアルモ其ノ性質習慣等ニ至リテハ大概同一ノモノナリ、予ハ此ヨリ其ノ性質習慣等ニ付キ秩序ヲ逐ヒ御聞ニ入レン

此蟻ト申スモノハ幾分カ人類ニ似、集合ヲ好ムモノニシテ、其社会ヲ見ルニ或ハ一小村落ノ如キモノアリ、或ハ一大都府ノ如キモノアリ、決シテ一二疋ヲ以テ住居ヲ定メス、必ラス或ハ数十数万数千ヲ以テ群ヲ為シ社会ヲ為シ、驚クベキハ嚴然タル一政府ヲ組織シタルニ似タリ

去ハ如何ナルモノヲ以テ其社会ヲ為スヤト尋スルニ、〔朱点・以下同。〕其内ニ雄アリ雌アリ中姓ノモノアリ、此三種ヲ區別スルハ甚

容易ノ事ニシテ雄ニハ常ニ羽翼アリ其形雌ヨリモ稍小ナリ、雌ナルモノハ雄ヨリモ稍大ニシテ常ニ翼アラス、交接ノ

時来レハ翼ヲ生シ交接終テ后又翼ヲ失フ○中姓〔姓〕ノモノハ決テ翼ヲ具有セス○或ハ労働者トナリ或ハ兵丁トナリ此一

小社会ノ柱石トナリ一小廷ノ忠臣トナル、此雌雄ハ羽翼アルヲ以兎角逃亡ヲ好ムモノナレハ、中姓ノモノハ常ニ之

ニ注目シ外出スルトキハ必ラス之ニ随テシ、逃亡スルノ恐レアルトキハ直ニ之ヲ捕エテ其ノ翼ヲ食ヒ取り遂ニ逃亡

スルヲ得サラシム、雄ナルモ〔ノ〕ハ甚□弱ニアリ漸ク成長シ交接ノ時ヲ過レハ、社会ニ不用ナレバ一陣ノ西風吹

来ヤ忽チ吹キ散シテ死亡シ、又雌ナルモノモ多分ハ死亡ニ至レトモ辛シテ此搏滅ヲ免レ、又他ノ敵ノ侵撃ヲ脱シテ

敵冬ヲ通越スニ至レハ中姓ノモノ之ヲ尊ヒテ女王ノ如クシ、小キ宮殿中ニ於テ之ニ使セル至レリ尽セリト云ベシ、

女王ノ遊行アルトキハ随テシ食事ノ時来レハ必ラス之ニ食物ヲ捧ケ、泥ニ塗レタルトキハ之ヲナメ取り疲レタルト

キハ之ヲ助ケ艱嶮ヲ涉ラシム、又宮中ニ多クノ部屋アリテ時々女王ノ見舞ワルトキハ衆蟻集マリ来リ、女王ノ前後

ニ走り或〔ハ〕舞ヒ或ハ躍リ其飲ヲ尽スカ如シ〔朱〕夏□曰、吾王不遊吾何以テ休セン、吾王不予吾何以助カラン〔〕



○宮殿中ニハーノ女王ノミナラス数多ノ女王アリテ皆同等ノ權ヲ維持シテ決シテ其ノ上下ヲ争ワス、協同一致シ偏ニ小社会ノ幸福ヲ計リ子孫ノ繁殖ヲ希図ス

〔上欄〕

「降誕」数皇子降誕ノ期至レハ宮中ノ混雜喜歡一方ナラス、中姓ハ直ニ卵ヲ取り部屋々々ニ持搬ヒ立派ニ之ヲ配置シ、適宜ナル温度ノ地位ヲ択ヒ之ヲシテ湿氣寒氣ノ侵ス所トナラサラシム、又日中ニハ之ヲ巢ヨリ出シテ太陽ノ温氣ニ触レシメ、夜陰ニ至レハ再ヒ巢ノ中ニ搬ヒ戻シ雨露ノ憂ヲ免シム

如斯日夜ノ苦辛ヲ顧ミス適宜ノ温度ヲ与ルニヨリ、卵ハ日ナラ「ス」シテ發生シ。数十頭ノ蟻トナル、母等ト中姓ハ又其ノ養育ニ尽力シ〔ビシベン〕眠勉不忘、朝ハ未明ニ起キタニハ遅ク寐ネ、或ハ乳汁ヲ与ヘ或ハ他ノ食物ヲ与ヘ、数周ヲ出スシテ一人前ノ蟻トナラシムルニ至ル

扱茲ニ奇妙ナルハ、此子供力長成スル「ヤ」否、麦粒ノ如キ小キ白キモノヲ吐キ出ス事ナリ、ソコデ此中姓ハ又白キモノヲ大切ニ取扱ヒ、適宜ノ温度ニ触ル、ヲ致ス、此モ矢張蟻ノ卵ニシテ恰モ蚕ノ如クニアリ、薄キ上ツ皮ヲ以テ蟻ヲオーヒツ、メリ、其ノ蚕發生ノ時至レハ、中姓ハ其ノ上ツ皮ヲ食ヒ取り蟻ノ子ヲシテ安全ニ出生セシム

〔上欄末〕

「三種ノ蟻生ス」此出生ノモノハ乃三種ノ蟻ナリ、雄雌中姓、此子生スルヤ否中姓ハ喜悅ニ堪ヘス、之ヲ愛スル母ノ子ヲ愛スル如ク、自身ニ先導シテ家内ヲ連レ回ワリ、羽翼ノ固着シテ離レヌモノアラバ徐々ト之ヲヒロゲ、外行スレハ其レカ供トナリ之ヲ主護シテ容易ニ敵人ノ手ニ渡サ、ラシム

〔朱〕

〔嗚呼蟻ニシテ此忠節アリ、此蟻マヅ六尺ノ孤ヲ托スルニ足ルト云ベシ〕

〔上欄末〕  
Note!!!

如斯キ忠臣義士アリテ邦家ノ干城ト柱柵トナリ、其民ヲ養ヒ其民ヲ守リ、往古数千年ノ昔ヨリ連メン其ノ国基ヲ永



続シ今世ニ至ラシム

是迄ハ社会ノ組織ニ付テ概略御談申シタガ、之ヨリハ少シク細微ノ所モ御談申シマス

〔上欄〕「眼」○茲ニ一ノ問題アリ、蟻ニ目アルヤ否、或人ハ蟻ニ目ナキモノアリ、又或ル説ニハ目アルナリ、予モ之ヲ礎

メン為ニ顕微鏡ヲ以テ蟻ノ頭ヲ吟味シタナレハ、目ハ頭ノ横ニアリ恰モ蠅ノ目ノ如ク



沢山ノ目集合シテ目

ヲ為セリ

〔上欄〕「髻ノ如キ」〔補〕「頭ノ先ニ二本ノモノアリ、是ハ物ヲ察シ知ルノ機ナルニ似テ、事アルトキハ蟻ト蟻ト互ニヒゲヲ触

レ合セ、談ヲナシ報知ヲ為ガ如シ」

〔上欄〕「吸神經」蟻ノ吸神經ハ至テ敏ナルモノニシテ、蟻ノ好ム砂糖ノルイアルトキハ遠方ヨリ嗅キ出シ、隊ヲ為、群

ヲ為シテ忽チ獲物ノアル所ヘ輻湊ス（二階ニ砂糖ヲオキシヲ下ヨリ群蟻来レリ）

〔上欄〕「腕力」腕力ヲ論スレハ其身ノ三倍四倍モアルモノヲ運搬ス、又一疋ニシテ左右スル能ハサルトキハ己レノ中間

ヲ連レ来リ、双方ヨリ獲物ノ一疋ニ一疋ツ、付之ヲ引キズリ



遂ニ己ノ巢ノ中迄モ引込ニ至ル

〔上欄〕「堪忍」一度目的ヲ立テ為サントスル事アレハ百折不屈、何モノカ其ノ働キヲ妨クレハ再挙シ三挙シ、不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>不

止ノ精神アルヲ見ルニ至ル

〔上欄〕「勉強」蟻ノ巢ニ近寄り、静ニ蟻カ何ヲ為スヤヲ実験シ賜ヘ、一疋ノ蟻ニシテ怠惰ニヨリ休息スルヲ見サルヘ

シ、〔朱〕「ソロモンノ曰、怠惰モノモ蟻ヲ見テ賢クセシト曰レタリ」

〔上欄〕「仁心」或ル博物学者一疋ノ蟻ノ髻ヲキリタレハ、他蟻来リ何カ口ヨリ汁ノ如キモノヲ吐キ出シ、其上ニ灌ソキ

シヨシ

④ 巢

〔上欄〕  
 「⑥予備ノ智」水害ノ多キ所ニ於テハ、蟻カ巢ヲ作ルニ木ノ枝又草ノ枝ニ密着セシメ、如何ニ洪水来ルトモ容易ニ流シ去ラル、憂ヲ免ル

赤蟻ノ巢ノ如キハ



（高サ二十尺）（雨、以、土、ヲ、湿、シ、日、ヲ、以、之、ヲ、乾、カ、シ、固、キ、城、郭、ニ、為、ル、）土ヲ以テ作ルモ

ノアリ、又木ノ根ヲ彫リ二階三階作り、回廊アリ、階梯アリノ如キ家ヲ作ルモノアリ、之ハ家トナリ城郭トナリ、之ニヨリ雨ノ侵撃ヲ妨キ敵ノ掠奪ヲ防ク

⑤ 蟻ノ養牛

春先ヨリ蟻ノ木ニ上ルヲ見、蟻カ卵ヲヒル等ト云ワルレトモ左ニアラス、木ノ葉ニオル油虫ヲ逐テ木ニ上ルナリ、此虫ハ恰モ人間ノ牛ニ於ケル其体ヨリ甘キ汁ノ出ル牛ノ乳ヲ与フルガ如シ、蟻虫ノ側ヲツキ之ヲ抑セハ忽チ二滴ノ汁ヲ出ス、是蟻ノ求ムル蜜ナリ、又此虫ノ卵ヲ掠メ巢ノ内ニ蓄ヘオキ、春先ハ早く暖ナル所ニサラシ、太陽ノ温氣ヲ受ケ早く發生セシメ、吾先ニ早蜜ヲ得ン事ヲ計ル、冬分ハ余リ蟻ハ食ヲ求メサレトモ、此虫ニ食物ヲ与ヘ己ノ家ノ内ニ蓄ヒオク事モアリ、又手近ニナキトキモ遠方迄往キ其蜜ヲ得テ家ニ運フトキモアリ、如斯食物ニ困却セサルニ至ル、〔上欄〕「小麦ノ粉ヤ砂糖ヲ運搬シ巢ノ内ニ蓄フ」

〔上欄〕  
 「④勇氣」蟻ノ社会ノ内ニモ外征ヲ好マサルモノアリ、又外征ヲ事トスルモノアリ、赤蟻ノ如キハ最モ外征ヲ好ムモノナリ、其國中ニ労働者ノ足ラサル事ヲ憂ヘ他国ニ出テ労働者ヲ掠メ来ルヲ計ルナリ、其時ニハ赤蟻隊ヲ為シ黒蟻ノ城郭ニオシヨセ、將ニ近寄ラントセハ敵ノ城郭ノ前ニハ必ラス髻ヲハヤシロヲ一文字ニ結ビタル番兵アリ、此者直ニ敵兵ヲ防ク、其内ナルモノ城内ニ注進シ他ノ軍兵ヲ招キ来ラシム、依テ城中ノ兵尽ク出テ戦フ、或ハ組打ス

ルアリ、或ハ飛ツキテ戦フモノアリ、或「ハ」一疋ニシテ二三疋ニ当ルアリ、或「ハ」一隊ノ他ノ一隊ヲ侵撃スアリ、如斯一方ヨリ城郭ニ入ントシ、一方ハ之ヲ防キ之ヲ支ヘ「シ」トシ、兩軍ノ戦ハ數時刻ヲ移スニ至ル、赤蟻ハ黒蟻ヨリ元來勇氣モタケク腕力モス「グ」レタレハ、黒蟻ハ多ク戦死シ又ハ逃亡シテ城郭ニ入ルモノアリ、赤蟻ハ之ニ尾シ城門ヲ打敗シ、城郭ニ入テ城中ヲ尽クサカシ、敵スルモノハ之ヲ殺シ、逃ルモ「ノ」ハ之ヲシテ去ラシム是着目スル所ハ黒蟻ノ卵ヲ得ルニアリ、此時黒蟻ノ中姓労働者ハ死「力」ヲ出シテ卵ヲカクシ、己ノ卵ヲ一ツ残ラス隠スニ至レハ力尽キテ斃ルニ至ル、赤蟻ハ卵ヲクワヘ之ヲ機ニ凱歌ヲ唱ヘ本陣ニ立戻ル

〔上欄〕  
「出羽ニテ蟻ノ戦ヲ見シニ一疋ノ蟻他ノ蟻ヲ引クヲ見タリ、一疋ハ將ニ死「ナ」ントス、予ハ之ヲ取ルニ他ノ蟻ハ離レス、死ナントモ之「ニ」クヒツキ離サス、半町ヨリ離サス、己レ勞レ遂ニ之ヲハナス」

「黒蟻ハ赤蟻ノ頭ニ飛付之ヲ食ヒ、死シテモ離レス、彼酒呑童子ノ首、源頼光ノ冑ニカブリ付キシカ如シ」

〔上欄〕  
「一致協同ノ心」蟻ハ其社中ニ於テ楽ヲ共ニシ憂ヲ共ニスルモノナリ、譬ヘハ何ヘカ食物ノアルトキ、一疋之ヲ発見セハ必ラス走り他ニ告ケ、他ノ蟻ヲシテ來テ其食ヲ共ニセシム、又大洪水ノトキカ又他ノ困難ノ起リシ「時」ハ銘々其ノ職ヲ尽、其分ヲ守リ協同一致シ其難ヲ免ル、ニ至ル

茲ニ面白キ話アリ、大洪水ノトキ皆尽沈溺ノ憂アレハ數千數萬ノ蟻皆一ツノ塊トナリ、其端ニオル蟻ハ木ノ枝ナリ草ノ葉ナリニ食ヒ付キ、洪水中ハ決シテ之ヲ離サス、水上ニ浮ヒ又一ヶ所ニ留マルヲ得、恰モ纜ヲ以將ニ流レントスル舟ヲ繋ガ如シ

谷間ニ猿カ手ニ手ヲツナキ此山ヨリ彼ノ山ニ達スルカ如ク、蟻モ川ヲ渡ルニ多ク蟻連合シテ橋ヲナシ他ノ蟻ヲ渡ラシム

〔上欄末〕

「勇氣⑤ノ部ニ入ルベシ」○グレナダニ於テアリシ事ハ驚〔ク〕ヘキ事ナリ、唐キビノ根ニ巢ヲクヒ木ヲカラス、百姓輩溝ヒホリ之ヲフセク、蟻水ニ入り死ス、他蟻之ヲコヘ渡ル、火ヲ以テ后蟻火ニ入り焼カル、他蟻其上ヲノリコシ唐キビノ畑ニ至ル、之レ食ヲ得ル為、己レノ目的ヲ達スル為ニハ如斯モ不撓ノ精神ヲ具有セリ

### 蟻ト人間ノ比較

一 蟻ハ勉強

人ハ怠惰

ビラ、スル衣ヲキ、又墨染ノ衣ヲキル身ナドニシテ、清閑寺ノ揚弓場ナドニ入り込ミ、此貴重ノ光陰ヲ費ス怠惰

モノアリ

〔上欄〕

蟻ハ子ヲ愛ス、或ル人ハ子ヲ売り娼妓ト為ス

二 蟻ハ堪忍、〔人〇〕事ヲ初メ少シ六ヶ敷アレハ直ニ力ヲ落シ之ヲ止ム、目的ヲ立便宜ヲ用ユルニ非ス

三 蟻ハ忠節ヲ守ル

今人カ少年ナドノ後見ニナリ御為コカシヲ為ス人多ク、蟻ハ死ニ至ル〔モ〕己ノ尽スベキ分ヲ守ル、実〔ニ〕六尺ノ孤ヲ托スヘキモノハ此蟻ナルカ

四 蟻ニ仁心

人ハドウデモヨイ、己サヘヨケレハヨイト云フ

五 蟻ハ予備ヲ為ス

人ハ向來ノ得策、遠大ノ策ヲナサス

⑥ 仁心

心ナシニ散財スル愚者ナリ

⑤勇氣 死ニ至ル〔モ〕顧ミス、己レノ邦家ノ為ニ死ス

○人間ニハ邦家ヲウルモノ多シ

⑦蟻 協同一致ヲ生ス

人ハ己先キト争ヒ協同一致ノ心ニ乏シク、同胞ノ為ニ計ルモノハ至テ少シ

⑨己ノ主義ヲ変ヘス、主義ノ為ナラハ火ニモ水ニモ入ル 人ハ主義ヲ変ス 千變万化

⑩ナメクジ先生 塩ニヨリ溶解ス

蟻ノ終局ノ目的ニ達<sup>〔朱〕</sup>（子孫繁殖）（人間終局ノ目的ハ真理ヲ得ルニアリ）

○人ニシテ蟻ノ如カル可ケンヤ

〔明治十五年十月二十八日・於京都道場芝居〕

〔本〕〔市〕  
「原」ニ於テ

地方教育論

独乙ニ三十ノ大学

英国ニ三四ノ大学

スコットランド三ツ

米国ニ三百六十八

教育ニ付テ論スルニ何ノ差別モアルマシキニ、何故地方教育論ヲ為スカヲ問ヘハ答曰ン、我国ノ教育ノ如キハ〔東京〕  
中央ニ集リ、何学モ中央ニ行カネハ学問ノナキ事ニ成行キ、又中央ノ地ニ於テ受ル所ノ惡風ハ生徒ヲ腐敗セシムルニ  
□シ、之ヲ薰陶シ之ヲ養生スルニ勢力ノ乏シキ事アレハ、今日ノ勢ヲ以テ論スレハ真正ノ教育ヲ地方ニ布クニ如カス  
○地方ニ布ントスレハ、先ツ地方ノ有志輩協同一致シテ釀金ヲナシ、其任ニ当ルノ人ヲ撰ミ、上等小学卒業生ノ其ノ  
校ニ進ミ、高等ナル学科ヲ学ヒ、經濟ノ大意ナリ法律ノ大意ナリ、物理学、機械学等ノ大意ナリ、又古今ノ歴史ナ  
リ、農学ノ大意ナリ普通ヲ教ヘ〔シ〕メ、卒業ノ上ハ一ト通りノ教育ヲ受タル人トナリ、地方ニマイリ如何ナル役モ  
勤マリ、県會議員ナリ一会社ノ長ナリ、一ノ農家ノ戸主ナリ、一ト通ノ学問アル上ハ縦令無事ノ日ニハ日向ニアリ各  
ノ家業事ヲ預ルモ、一旦事アルトキハ地方ノ率先者トナリ、村落ノ骨トナリ、教会ノ基トナリ、自由ヲ皇張シ又物産  
ヲス、メ、人々ニモヨキ手本ヲ示シ、学者タル者ハ自ラ尊大ニアリ自ラ先生トナルニアラスシテ、却テ身ヲ社会ノ犧  
牲トナシ、社会ノ進歩ヲ計ルノ人ヲ養成セハ、我国〔補〕「誰」何ソ振ハサル、我民權ノ起キサルヲ憂ヘン

義塾ヲ起シ、往々之ヲ米國ノコレジノ如キ者トナシ、廣ク學ヒタル人ヲ養成スルニ如クハナシ

○米國ノガーウィールド氏ノ如キハコレジノ中葉ノ人ナ□ハ、自由民權ノ養成所ハ此ノコレジニアリ、此義塾ノ  
挙ナクンバ如何シテ國ノ勢力ヲ養〔ヒ〕得ベキゾ

海陸軍ヲ増スハ弥末ノ淺論ナリ

〔明治十五年・於原市。本稿の裏面に本書史料52「文明ヲ組成スルノ四大元素」稿を記載〕



57 「ノルマントン号事件について」

〔全文朱筆〕

兼テ祇園坐之催アリシトキ、予ハ其会テ京都ノ紳士諸君カ——ノ□ニ付其意見ヲ述ベラレラル、ハ至当ノ事ト思ヒ賛成ノ意ヲ表シタノミニシテ、敢テ之ヲ主張シタルニアラス

其以謂ハ二ツノ理由アリ

第一 平素多病ニシテ医者ヨリ広キ場所ニテ演説スルヲ禁シセラル

第二 今回ノ事ハ其ノ始末ヲ詳明ニ吟味セスシテ輕〔々〕シク喋々スルハ、小生ノ好マサル所ニヨル

第三 政府ナリ又天下ノ事件ニ着目セラル新聞記者輩カ充分ニ着手セラ〔ル〕所ヲ見、他ニ余ス所ナキヲ以テ予輩ノ手ヲカルニ及ハ〔サ〕ルヲ知り、只遺族者ノ扶助等ニ少シク尽力セシノミ

然シ聞ク所ニヨレハ祇園坐ノ催ノトキ、予ノ朋友人、或ル人ハ予カ是非トモ出頭スヘキヲ望マレタル由、依テ不得止朋友ノ御勸メニモ応シ諸鄙見ヲ述ヘキ積リニアリタレトモ、種々ノ不都合ニヨリ其ノ催ハ水泡ニ属シ、統テ今夕ノ御催アルハ諸君ノ銳意不止ヲ表スル所ヨリ、予モ之ヲ辞スル能ハス、出頭致シ数言ヲ陳フルヲ約シタル次第ナリ

〔丙〕〔カ〕  
〔今夕〕ハ已ニ二三ノ弁士ヲ遣ス所スル——ノ顛末ヨリ、向來ノ運命ニ関スル所ヨリ論シラレタレハ、予ハ將タ何

ニ〔ヲ〕カ云ハン、寐ニ就キ賜ヘト申シテ去リ度存スレトモ、如斯立至リタレハ孟子ノ云タル如ク予豈弁ヲ好ンヤ、  
実ニ不得止ナリ——最早時刻モ移タレハ、請フ少シク忍テ耳ヲ借シ賜ヘ

却説——事件ハ已ニ新聞紙上ドレーク氏ノ予審等ヲ記載シ、又我同胞中ノ輿論公議ハ申迄モナク、此ハ同国ナル英人、英ノ公使ヲ初メ横浜ノメール記者、兵庫ニユースノ記者ヨリ諸港ニ留スル商人等ニ至迄、一人トシテ之ヲ可トスルモノアラサルナリ

英国人ハ兼テ海上ノ事ニ練成シテ、他ノ文明諸国テ英国ニ一步ヲ譲リ、殆ト之ヲ海王ト称スルニ至ルハ決シテ誣言ニアラス、英人ノ海上ニ豪胆ナルハ史上ニ昭々タル所ニシテ、殊ニ男子ノミナラス婦女子ニシテ水涵ニ克クシ水上ニアルヲ恐レス、又水上ニ非常ノ技倆ヲ呈セシハ諸兄ニモ認許セラル所ナラン、彼ノグレースタールリングノ話ヲ聞キ賜ヘウイリヤムターリングノ嬢——千八百十六年生ル

ロングロックノ灯台

汽船フォーフアルシヤキ号

〔カ〕  
婦女子ヲ励マシ

（ホーカルス岩礁）

九人ノ命ヲ救ヘリ

海上ニテ如斯芳名ヲ獲採シタル英人中ドレイク氏ノ失敗ノ如キハ、英人中之ヲ赤恥ト認サルモノハナカルヘク、又米国人モ外国人中ニ此失敗ヲトリシハ、日本ニ対シ非常ノ恥辱ナリト思ヘリ

一 船中修練ヲ欠ク

一 号令嚴ナラス

一 時機ヲ失スルハアワテタルカ如シ

〔海軍裁判ハ海上法律ニ照シ、落チ目ハナキヤ否ヲ判定スルノミナリテ（雇ヲ解クト否トニ関ス

此ノ裁判ヨリ日本全国沸蕩ス

先日來ヨリノ予審

（船長ノ非ヲ蓋フモノハアルマシ

◎——事件ノ結果ハ如何

○裁判ノ独立ヲ要ス、然ラサレハ外國人ハ日本人ノ裁判ヲ危ム

○雷同シ易キ、沸蕩シ易キ事

○噪キ立、直ニサムル事（后ハ前ニ言フタ事ヲ取消ス事カ多シ）

○雷同シ易シテ動クト、独立ノ見解ヲ下シテ動クト何レカ強キ

〔独立ノ見解ヲ下〔シ〕テ動クトキハ容易ニ動カサレス、又直ニ前言ヲ取消ス様ナ失策ハ少カルベシ

独立ト孤立ト異ナリ、日本人中孤立家ノ少ナイカモ知

レヌ、然シ雷同家ハ多キニ似タリ

○  
〔孤立トハ他ニ關係ナク無能者ニシテ、己レノ中ニ縮  
ミ居ルノ類ナリ

○仙台ビールノ例

○雷同シ噪キ立ツ、今回ノルマントンノ事件\*

〔大法会ナドニ少シクモ信仰ヲ置カサルベシ

認ムル人物カ率先大法会ニ臨ム云々ノ事ハ向フ見スノ甚シキ、何ソ己ノ為スヲ知ラサルノ類ナリ

公共心

〔一時噪立ち、英国人ヲソシリ、耶蘇教ヲソシリ、宣教師ニ不平ヲ鳴ラスノルイ、事輕薄ニ走ル

雷同シテ議論ノ合スルト、(己レ見解ヲ下シテ自ラヲ合スルト異ナリ、彼ハ弱ク是ハ強シ

〔籠絡手段 曖昧主義

○約束ニワルキ事

○時間ヲ重セサル事

○花族然タル会社

労働のノ会社

〔仲間ニテ事ヲナス、止ムヲ得サル場合ナリ

〔直接ノ事ノナラヌ事

雑居ノ上(上ハ辺ヲカサル分、一致シテ真力ヲ呈スル分)

翻訳先生カ西洋人ヨリモ支那人ヲ心配セラル

支那人ハ己ノ利ヲ榮ルカ大目的、勘定高キ所アリ

支那人ハ社会ノ為ニ計ル所アリ、日本人ハ之ニ反ス

従来ノ宗教

○勘定ナキ能ワス

ヲ一変スベシ

○財産ヲ貯蓄スル

○勉強ニヨル

○智識ヲミカク

一〇信義ヲ重スル

文化ヲ組織スルノ分子

英米ト交際ハ彼ヲ愧ルニアリ、彼ト親ク交ルニアリ

我カ城郭トモ頼ムヘキハ、軍艦ニアラス、砲台ニアラス、財産ト智識ト勉強、信義

〔明治十九年十月・於京都祇園座〕

58 〔教育論〕

〔全文鉛筆書〕

教員トナルノ順序

教育ノ法方ハ実用ニ立〔ツ〕人間ヲ養成ス以謂芸術ガ入用ナリ、然シ重ナルモノヲ占ハ人物カ本ニナル、法方ハ実用ノ人物ヲ養フニ〔役〕立ツモノヲ要、<sup>〔カ〕</sup>元来ハ虚用ニ走ル人間カ多、東洋ハ最多シ西洋モ免ルベカラス、士族・今ニ御役人、兵丁、封建時代デハヨイ、今日ハ間ニ合ハス、自ラ問ヘハ案カ立タヌ、自分カ受タ教育違フテオル、其モノ等カ今日世ノ要務ニ当ル事多シ、一令出ツル每人々カ是ハヨクテゾロ、之ニ随フ、時勢ノ変遷免〔ル〕能ハサルモノ、分ケノ分カラヌ事ハ用心セハナラス、研究セハナラス、ソコデ実用ニ立チ得ル人ヲ養成スルニ至ラネハナラス虚用ノ例ヲ挙ゲレハ、作文ヲ見ラレ〔ヨ〕其レ分カルベシ、数術ニ注意〔セ〕ラレヨ、物理化学ハ分カルマイ、其作文ヲ取テ云ハ、何ニノ事ヲ取テ云フカト云フ、皆虚用ノ分ニ属ス、残花ヲ見ルカ景色ヲ賞ムルカ、或ハ人病氣ヲ見舞フカ、菓子カ魚ヲ土〔産〕ト云フ人カアル

菓子、魚ガ人間ノ代理トナル、菓子、魚ヲヤレハ義理カスムト云、之ヲ子供カラ教ヘ出ス、病氣見舞ニアラス輕薄ノモノナリ、泰平ノ世ノモノ氣ニ付カヌ○又花ヲミル景色ヲカ、スルカ、何ニノ用ニ〔モ〕タ、ヌ、其他文章ト云ヘハ多分ノ文ヲカク、ナクテヨイ文字カアル、粗末輕少ヲ文ニ加ヘル、之ヲ無用ナリ、笑納ハ之ハオカシイ子供ニ教テ害カアリ益ハナイ、氣ヲ付ケレハ見易ク、算術カ見易イ、黒板ニ写ス、時ヲ移ス、生徒ハ益ヲ蒙ラズ、其

ノ才能人ニ発達サスル事ヲ克ヤラス、発達スルノ法ハ暗算ヲヤラスルト分カル、修身科ノ諸義○説ノ事柄カ違ガウ  
学校ニ行キ見ルト生徒カ教員ノ挙動ヲ見ル、教員ハ時間ヲ大切ニ思ハヌ、生徒カ是等ト遊デホシイト思フモノハ少ナ  
イ、是カ肝要ニナレハ無益ノ時ヲ費サス、都鄙ヲ論セス活潑ナラサル人間ノオル、遊怠ナル生徒ニハ教員モ遊怠ナリ、  
学力モ進マス、之ヲ養フ〔ハ〕体操ナリ、校内ノミナラス野外ノ体操ヲ要、旗取り競争等大勢ヲヨセテヤル、生徒カ  
活潑ニナレハ情ナル教員ハ間ニ合ハヌ

火急数学ヲ為スレハ教育カ出来

教育法ニ主ト□ナオ□□周密ニ□左ニアラス、教育ハ芸術ヲ人ニ教ユル力ニナル、然シ其レハ足ラヌト云カ分カル

教育ト云モノハ年若キモノデ、人ノ薰陶ニヨリ往キオルモノヲ云ナリ、其ノ治ムヘキ〔ハ〕何ニカト問フニ、其ノ人  
トナリ人物ヲ克肝要トミナシテモロウカ教育ノ重点

好人物ニナリテ芸能カアレハ其人ノ働キカ広〔ク〕国家ヘ働キ多クナル、然シ芸術ヲ少シ知テモ世ニ害ヲ為ス事少ナ  
シ、人物カヨカラスシテ芸能ニス、ムモ世ニ害ヲ為多シ

教員カ慥カナ人物デナケレハ薰陶ハ出来ヌ、教員ノ身ニ発スル光ヲユク、教育ハ薰陶々々

鋤<sup>〔手〕</sup>テトナリ草ヌク、大工ヲ為スナリ各之ヲ好テ為ス、懶怠ヲ慢ツテ足〔ル〕、然レハ實用ノ教育トナル、實用ニ立タサ  
ル三分ノ二ハ損トナル、寧ロ無キカヨイ

右ニ申セハ今ノ教育ハ經濟主義ノ教育ナリト云フナラン、今ノ經濟ノ意ハ從來トハ違フ○經濟ハ金ヲモ勞力ヲモ消シ  
タ力カ、キ、ミヲ持タネハナラヌ、キ、ミノ好キカ經濟ナリ、学校ノ經濟ハ第一經濟ナリ、教員ノ人物学力カ乏キハ



不経済、月給ハ損トナル、経済トハ規律○衛生力必要ナリ、衛生ヲ破スルハ教育ノ主義ヲ敗ル、経済ハ意深シ、ヨキ教員ヲ得サレハ月給ハ廉ナルモ不経済

次キニ女子教育

此ノ府下ニ随分ヨキモ、府外ハ甚不完全、女子ハ就学ノ比例三分ノ一、男子カ三分ノ二、転セサルベカラス、女子ハ三分ノ二ヲ要ス、女子ハ天然ノ母、天然ノ教員、子供ハ母ノ手ニナル其時カ極大事ノ年齢

女子ト男子ト学力ハ同シナラス、女子教員カヨリ好結果ヲ見ル、日本カヨイ国柄ニシタイナラ之ヲ為ネハナラス、万国皆尽競争世界ナリ、日本、維新以来少シヨイ、未タ中々難シ、今日世界ト競争出来ズ、怠タラ〔ハ〕大變

其レ同様ニ大切ノモノハ簡易科ノ学校ナリ、就学童ハ半半ヨリ少シ、十人ヲ割テ五トスルニ五人ハ五人ヲ引サク、無学ハ働キカ鈍シ、収獲カ少シ、此ラ人ヲ国ニカ、ヘオレハ国々進ム目度ハナイ、此ラヲ簡易科ニヤラネハナラス、之レハ卑イモノデナイ、之ヲ重スベシ、左レハ不就学ノ数ハ減スベシ、貧乏人ノ子ヲ学校ニヨコス事ニ仕カケルハ大切ナリ、国ヲ為ス半分カ今ノ有様ナラナラス、国ノ存亡ニ関ハル

教員ノ事ニ付テ談ス、教員ハ教育ノ脳髓ナリ、師範校、如何ナル学校デモ教員其人ヲ得サレハイカヌ、故ニ教員ヲ養成スル人物カ大切ナリ、其氣質ヲ養成スルニアリ、学科ヲ一々克本氣ニ学ハネハナラス

農業、大工、カジャ

兵式体操モイル、人物ハ完全ノモノヲ要ス、卒業ノ後ニ卑キ地位ニ立ツ、生徒ヲ預ル点ヨリ論スレハ第一ニ高イ、郡区長ノ注意ヲ要ス、日本テ慥カナル地位ニオル教員ハ築建ノ地行ニナルヤツ、人カ出テ呉レネハナラス、後ノ日本ヲ安全〔ニ〕ス難シ

郡区長諸賢ニモ細密ニ考ヘラレヨ、十円テモ一円テモ其ノキ、目ヲ見ラレヨ、使フ丈ノ金ハ是非使ハネハナラス、知事ノ外学務課教員ノ外他ヨリ其キ、目ヲ見ラレヨ、学校ノ經濟ノキ、目ヲ見ラレヨ、デ、<sup>〔マ〕</sup>セオシク行ケ、然ラサレハ真実ノ進歩ナラス、郡区ノ政ヲ克ク挙クルニ行政力行届ノミニテ足ラス、今年ハ去年ヨリヨイト進歩セネハ政ヲ克ク挙ケタト云ニアラス <sup>〔カ〕</sup>序

〔年月日不詳・草稿〕

59 「梅花女学校ニ於ケル女子教育」

学校ノ起リ 沢山〔保羅〕ノ尽力、成瀬〔仁藏〕ノ憤発

〇二銭ツ、ノ投金〇成瀬ノ如キハ己レノ公債ヲ抛ツ

初メヨリ一片ノ精神アリ此間ニ働ク、否不撓ノ精神

初メヨリ充分費用ノ胸算立チテ之ヲ懸クルニアラス、全ク熱心ノ信仰ト勉強トニヨル、其後沢山永眠シ、<sup>〔カ〕</sup>成瀬氏ハ郡山ニ趣カレ、又随テ新潟ニ移ラル、然レ「ド」モ、發起人ノ精神ハ決シテ消滅ニ属セス、年月ヲ経ルニ随ヒ弥盛、弥発達シ、遂ニ今日ノ盛会ヲ見ルニ至ルハ蓋又以謂アル哉

予今日御談ヲ為ス前ニ、一応世界ノ人々ノ惑ヒヲ解カン事ヲ要ス

或ル人ニシテ末タ基督教ノ性質如何ヲ知ラサル人ハ、我輩信徒カ如斯女子教育ナドニ従事スルハ、全「テ」教育ヲ名トナシテ教育ト云フ綱<sup>〔維〕</sup>羅ヲ張り、天下ノ婦女子ヲ此ノ綱羅ニ入レ教ニ引込ムナリト、成程陽ニ左様ニ見ユルモ知レヌ、然シ基督教ニハ広「ク」人ヲ愛シ隣ヲ愛「セ」ヨト云教カアレハ、随テ信徒中ニ社会ノ改良ヲ計ルノ精神ヲ発達セシム、此ノ精神発達スルヤ社会改良ノ基ニ着手セサルベカラス

社会改良ノ基ハ智徳併行ノ教育ヲ除キテ何ソ、故ニ教育ノ如キハ基督教ト分離スヘカラサルモノニシテ、文明ノ車ノ両輪ナリ

<sup>〔朱点・以下同〕</sup>西人ノ曰ク教育ハ社会ノ母ナリト、教育ニモ種々ノ法方アリトモ、我カ輩ノ指ス所ハ基督教主義乃チ智徳併行ノ教育

ナリ、予曾テ米国ノ或ル教育家ニ問テ曰ク、今貴国ニ一般行ハル教育中ヨリ基督教ヲ抜き出シテ之ヲ捨タレハ其ノ結果ハ如何ソト、彼答曰ク、我カ学校ヨリ基督教ヲ拔出シタナレハ其ノ結果ハ他ニアラス、人殺、強盜、姦淫、飲酒、放蕩、虚喝、其他百般ノ惡事

〔顯出シテ社会ノ良民ヲ蚕食シ、良風俗ヲシテ腐敗ニ至ラシムベシ

〔朱總〕

○英国ノ旧宰相(グラットストーン) 安息日学校

〔朱總〕

○イートン氏ノリマーク(安息日学校ノ生徒

右等ノ事實ヲ考フレハ予ハ曰ハン

女。子。教。育。ハ。社。会。ノ。母。ノ。母。ナ。リ。ト

世人曰ク華盛頓ハ米国ノ豪傑ナリ、予ハ曰ク此ノ豪傑ヲ養成シタル良母アリ、如斯キ文化ノ花

ヲ咲カシム樹木ノ根ノ如キモノナリ

花ノ美シク咲、其ノ根ノ培養如何ニヨル

今日独乙又英国、大米国ニ人傑ノ輩出スルハ

④三十個以上ノ大学

英ニオクスホルト、ケンブリジ、エジンボロー、グラスコー

米ニ三百六十ヨノ大学アルニアラスヤ

当時米国ニアル女子高等女学校ノ数ハ〔二百二十七〕<sup>〔朱〕</sup> 昨年ノ調査

○英国ノナイチンゲール、女丈夫

ハナ モーア 教育論者

米ノ メレーライヨン

〔寒貧ノアル一村落ニ生レ、非常ノ困難ヲ嘗メ己ノ教育ヲ受ケ、遂ニ女子ノ為一大学ヲ創立ス〕

〔鉛筆補〕  
「播カヌ種ハ、木ハハエヌ」

米国人教育ニ熱心ナリ、只ニ本国ニ止マラス全世界ニ及ホス

○人々学校ニ寄附ス

同志社ノ起リ

（女教師ノ單身數千里ノ外ニ出ツ

〔以下鉛筆〕

人情父母ノ国ヲ去ルヲ好モノアラシ、又此世ノ安逸ヲ求メサルモノアラシヤ

世界ニ尽スノ義務アル也

〔墨〕  
「吾人之ヲ見テ坐視傍觀スベケンヤ」

予ハ喜フ大坂ノ兄弟カ早クモ女子教育ニ着手セラレタル事、縱令今日ノ負債アルモ不遠償却スルノ日ヲ見ルニ至

ベシ

〔補〕  
「今ヤ天下多事、政事上、社会上、殖産工業上、商法上ノ改良ヲ計ルノ日」

如斯兄弟方カ有志諸君ノ賛成ヲ得テ今日ノ盛会ヲ見ルニ至リシハ、兄弟ニシテ社会ニ負ヘル義務ヲ尽セルト云ベシ

臨終予ハ此校ノ女生徒ニ向ヒ一言ナキ能ハス、今兄弟方御尽力ニヨリ此ノ校ノ設ケアリシハ他ナシ、善良ナル有益ナ

ル婦女子ノ輩出シテ、社会ノ塩トナリ光トナラレン事ナリ

又有志諸君ノ己レノ財ヲ吝マス、之ヲ投シテ此挙ヲ助ケラレ〔シ〕モ他ナシ、女子ノ改良ヲ望テ社会ノ改良ヲ計ラル  
ル為ナラン

女教師ノ遠ク我カ国ニ航〔シ〕、此ノ校ニ尽力サル、モ他ナシ、善キ婦人トナリ一家族ニ幸ヲ与へ、社会ニ幸ヲ得セ  
シメン為ナリ、然ラハ彼等ハ此令嬢方ニ向、各ノ義務ヲ尽セリト云ベシ、然ラハ令嬢ハ何ニノ尽スヘキ義務ナキヤ、  
沢山アルト云ハサルベカラス、義務ヲ欠クホド人間ノ価ヲ落スコト〔ハ〕ナイ、願クハ令嬢方ノ此校ノ創立者ノ望ミ、  
外国女教師方ノ望ミ、父母親戚ノ望、否全天下ノ望ニ応シ賜へ

〔年月日不詳・草稿〕

60 「南山義塾ニ望ム」

祝言

予ノ南山義塾<sup>\*</sup>ニ忠告「スル」ニ非ラス、唯望ム所ヲ陳ス、有志諸君ノ篤志ヨリ此美拳アリ、人才陶冶ノ機械已ニ具備セリト云ヘシ

○社員ニ望ム所ハ充分維持方ニ注意シ、学校ヲシテ一地位ニ安着セス、日々月々進歩改良セシムルノ策ナカルベ「カ」ラス  
●教員ヲ撰択スルニ注意セザルベカラス

○教員 教員ノ任ハ殊ニ至重、教員其教方ヲ誤ラハ如何シテ人物ヲ企図スベケン、今ノ教師多クハ人物ヲ養成スルヲ以テ其ノ目的トセス、月給ノ多少ニヨリ其所ヲ移シ月給ヲ貪リ、イサ、カ己ノ淫慾ヲ逞スル等ノ輩モ陸續輩出スルアレハ、如何シテ生徒ノ品行ヲ端正ナラシメ、有用ノ人物ヲ陶冶シ得ベケンヤ○教員諸君ヨ、教員ノ心得ト為スベキ所ハ、自身生徒ノ率先者トナリ、生徒ノ標準トナリ、生徒ノ志操ヲ高尚ナラシメ、又生徒ノ氣質ニ随ヒ幾分力教スル所ヲ異ニシ、生徒ヲシテ智進ミ徳高カラシメハ教員ノ任ハ大ニ至リセリト云ヘキナリ○体育○智育○心育（多クヲ貪ラシメス克クノ味シムベシ、ビーフステッキ）

○父兄 社員ノ尽力セルヲ徒為ニ属セシムル勿レ

教員ノ教ヘシノ者ヲ撲滅スル勿レ

吉野ノ例、教員ヲ撰フ唯一人ノ掌握内ニアリ、他人之ニ喋々スルヲ得ス、撰ヒニ応シタル教員ハ真ノ腐儒者ニシテ



当時ノ現況ヲ了知セス、洞察セス、古風ノ野蛮流ヲ慕ヒ之ヲ教ヘ、ターフル〔テール〕ヲ廃シ、ランプヲ廃シ、又随テ自由ノ精神ヲ發達セシムル等ハ更ニ注意セサルベシ ○他ノ例

同志社ニ來レル一人ノ生徒、父兄ノ誤リニヨリ寺僧ノ勸メニ随ヒ、遂ニ學問ヲ廢シタリ  
○生徒ノ心得

如斯社員方、教員、父兄其業ノ成ル事ヲ望マル、ニ、不勉強ニシテ正ニ成業セサレハ是レ何レノ過チゾ

〔カ〕  
藪ノ牛ニ満足シテ居レト云ハ、

人鶴トナリ飛〔ビ〕揚ラントスルヲ、アブナイ矢張我ハ□

○教員タル者己カ雀ノ如キ人物デアリ、生徒ノ中ニ鶴ノ如キ

※○教員ノ職ハ大政官ニマサル

○卑賤ヨリ人物出ス○（リンコルン、ガーフヒールド）京都ノ知事

○田舎ノ人ニ望ヲ属ス ○イートンノ話シ

○真理ヨリ自由ノ生スルノミ、○人民ノ友トナレ

# 61 学者解

○「<sup>〔朱〕</sup>小野<sup>〔東風〕</sup>」  
「<sup>〔篁〕</sup>」

学者ノ論ニアラス、学者ノ説ト学者乃解

学者ト「ハ」何ソ、乃物ノ理合ヲ弁へ、宇宙ノ理ヲ知り、ヨク我天下ノ学者ナリト云フ人ハ決シテ真学者ニアラス

□人此世ニ処「シ」、人ノ人タルノ途ヲ得ヲ学フト云ナラン、然「シ」物学ヒスル人ノ意ヲ以テ学者ト云タシ

□□ニ転ハイニ茲ニ於テシ□故ニ事物ノ理ニ付之ヲ研窮スルヲ恐レヌ<sup>〔カ〕</sup>

コロンボスノ發明

ハンフレ テヴー

Study  
gass.

ニ「ユ」ートンノ引力發明

○フランクリンノ電気發明

学問トハ物ノ理ヲ窮テ、己ヲ、其ノ心ノ求メヲ満足セシム

○人知ル様ニ出来<sup>〔カ〕</sup>

○人情ニ感スル様ニ出来

○人意思ヲ以テ思ヒ、決断スル様ニ出来タリ

○修学ノ論

支那ノ王陽明、告人恐求天理（成忠孝義仁）

○貴目賤心 ○学問弁行

◎学問ハ迷ニ路マス（進ム途ヲ知ル）

□□修

本編

三尺<sup>〔響〕</sup>縹子 不拝偶像

果然武人 識ナケレハ仏像ヲ拝ス

△学問ハ人ヲシテ益暗カラシム

◎スベンソルハ *puibun*

学問ト云ヲ唯人間ノ智恵道理ニヨリノミ之ヲ求ムレハ、無限ノ智ナレハ、随テ進ム所ニ限アルベシ

天啓ヲ要ス、天啓ノ司、学問セサルベ<sup>〔カ〕</sup>ラス

「<sup>〔朱〕</sup>馬太ノ十六ノ二十八（人若魂ヲ失ハ、全世界ヲ得ルモ何ノ益アラシヤ

此世ノ文化ノ上ニ出ツル望アリ、乃天国ニ入ルノ望ミ、人間終局ノ目的<sup>〔朱点〕</sup>。人間一人ノ分」

古ヲ○新ヲ知ル<sup>〔朱〕</sup>「究今将来ヲ預言ス」○又人ノ見サル所ヲ発見ス

○真理ヲ発見ス○原ニ遡リ求ムルモノアリ、天ヲ啓示スルモ<sup>〔ア〕</sup>リ

○□カラ之ヲ求ムベシ

（一理ヲ發明シ、世ニアリ、世人ノ文化ヲ進メ、世ヲ益ス、人ノ幸福ヲ益ス

蒸氣船。蒸氣車。電信。

学者ハ

〔時ヲ忘レ寐食ヲ忘レ〇苦勞ヲ厭ハス。人ノ誹謗ヲ意トセス、一人一村一郷一国天下之ヲ駁スルモ、己ノ向ウ所ノ真理ヲ主張ス、真理ノ貴キ此ノ如シ〕

〔此ノ精神ホシ、糊口ノ出来ヌニ屈スベカラス、□場ノ〇ヲ食フベシ〇島流シニ合フベシ〇獄ニツナガルベシ。湊川ニ死スベシ〕

〔朱〕  
〔神明ニ対シテ愧サルノ一片ノ真ヲ心ニ存シ、自由ノ身トナリ、益真ニ溯ルヲ得ニハ〕

己ノ学ヒ得、知り得タル所ヲ以己ノ身ヲ所スベシ

〇是学者ノ位置、本箱トナルベカラス、天下ノ玩弄物トナルベカラス（トコノ間ノ飾物ノ如ク無用ノ〇物トナルナリ）  
〔駁々乎トシテ進ミ、之ヲ学ヒ之ヲ得、之ヲ行ヒ、遂ニ文明ノ域ニ進ミ〇遂〔三〕無限ナキ天国ニ達スル、学者ノ務、学ヒスルモノノ本分〕

〔学問ハ唯此世ニ処シ、此ノ処〔スル〕ニ糊口スル為ノミニアラス〕

〔学問ハ働キヲ厭フヘキモノニアラス〕

死ニ至ル迄宇宙ノ理ヲ究ム 〇之ヲ得ル迄進ム

智 情

Will

〔年月日不詳・草稿〕

62 「理ニ叶フガ学者ノ目的」

理ニ叶フガ学者の目的、幸福ハ随ハ得ルモノ、幸福ハ目的ニアラス

〔朱〕  
「ギリシヤノ黄金時代ハ天然ノ律ニ随ヒ一夫一婦ノ風アリ

二百年ノ内二十八人（理学家、彫刻家、詩人）

道德上ノ法ニ戻リ遂ニ亡ヒタリ」

我主義ヲ撰ヒ主義ノ為ニ生息ス

浮草ノ如クナルヘカラス

小サキ事モヨイ

一滴ノ水顆テ

草□ノ土 ○為山

文明入海ルヲ助ク

〔朱〕  
「我カ日本人種ノ衰頹ニ取、天然ノ律ヲ敗リ、男女ノ間柄ヲ乱リシヨリ起リシナランカ」

己ハ知ル事一アリ、何ニモ知ラヌト云フヲ知タリ

満場ノ諸君、此ノ学者タラン事ヲ求ム、良心ニ恥ツル事ヲ為ス勿レ

63 愛人論

世上喋々と愛国ヲ論スル者多々有リト雖、其愛国タル多クハ書生ノ空論ニシテ実切ニ功ヲ奏セス、或ハ曖昧乎トシテ何ノ点ニ帰スルヤヲ知り得難キ者ナリ、或ハ真ニ愛国ノ心ニ乏キモ、口ニハ之ヲ大言シ、唯世ニ空名ヲ貪ルル者ナリ或ハ之ヲ以風雲ニ登ルノ楷梯トナス者アリ、或ハ之ヲ以「私慾ヲ逞スル」糊口ノ道具、羽翼トナス者アリ、嗚呼其レ愛国タル何等ナル奇怪ナル者ゾ、又ハ何等ノ利益ヲ国家ニ与ル者ゾ、予平素此点ニ論及スル毎、未タ曾ツテ長太息セサル事アラサル也

予潜心深思愛国ノ何タルヲ考フルニ、予ノ見ル所少シク世上流行ノ愛国トハ違異スル所アリ、然ハ乃予ノ見ル所ノ愛国ハ如何ナル者ゾ

○愛国ハ名利ヲ射リ、私慾ヲ満タシ、糊口ノ道具トナスカ如キ卑賤ノ者ニアラス

愛国ハ乃己ノ名利ヲ顧ス、全ク己ノ一身ヲ抛チ国家ノ為ニ竭スニアリ、乍去愛国ト云語ハ乃己レノ一國ヲ愛シ、何事モ一國ノ為ニ止マリテ、兎角愛国ヨリ偏バノ心生シ、我日本ヲ愛シテ外国人ヲ敵視スルノ憂ナキ能ワス

「偏頗ノ愛国心」<sup>〔上欄〕</sup> 古來人物ノ往々此弊害ニ陥リ、愛国心ヲ憤起セシムルニハ必ラス外国人ヲ惡マシムルニアリト云レ、或ハ議論ヲ為シ、或ハ著述ヲ為シ、屢々内國人ヲシテ外国人ヲ憎マシムルノ策略ヲ設クル者アル事少々ナラス予之ヲ見、是レ彼先生方ノ心ノ狭クシテ識者ヨリ笑ヲ受クヘキ策略ト云ヘキ者ト了知ス、且愛国ト云何カ全國ノ為ニ事ヲ計ルニ似テ、全國ノ為ニ事業ヲ起サ、レハ愛国ノ途開ケス、愛国ノ功立タサルニ似タリ、且愛国ヲ人々ニ教

ユルモ宜キ事ナレトモ、唯大ナル志ノミ抱キテ實際愛國ノ事業モアガラス、空ヲウツノ如キノ類ヤ、見ユ、故ニ之ヲ實際ニ施サント欲セハ愛國ヲ説〔ク〕甚危キ者ナリ、或ハ唯志操ノミ大ニシテ唯空論ヲ吐キ、更〔ニ〕實際ニ功ナキ人物ヲ養生スルノ憂ナキ能ワサレハ、予請〔フ〕愛國ハサテオキ愛人ニ論及、實際愛國ノ行レン事ヲ希望ス如何トナレハ、当時ノ愛國論者ノ着目着手スル所ヲ見レハ、多クハ輸出入ノ不平均ヲ歎忼シ、或ハ人權論ヲ旨張シ、又ハ国会開設ヲ願望スル等ヲ以テ当國愛國者最上ノ論点ト為セル、又其責任トスルニ似タリ

如斯當時論者ノ此等ノ点ニ着目スルニ至リシハ當時文明ノ風潮ニシテ、勢然ラシムルノ氣運ト見做サ〔ザ〕ルヲ不得、且是等ノ事ハ皆愛國憂國ノ点ヨリ出ツル者ナレハ、一日モ之ヲ輕忽ニスヘカ〔ラ〕サルノ事ナレトモ、若誤テ之ヲ最上ノ愛國ト見做シ、殖産ヲ盛ニシテ輸出入ヲシテ平均ヲ得セシメ、人權ヲシテ広張、人民〔ヲ〕自由〔ニ〕セシメ、又国会ヲシテ開設セシム、人民國政ニ参与スルヲ得セシメハ、乃國家万世不易ノ大業成就スト思ヘル者アルベシ、然ニ是ハ大ナ過誤ト云サルヲ不得、如何トナレハ是等ノ事ハ唯愛國ノ一分部ニシテ、愛國ノ最上点乃愛國ノ精神、愛國ノ佳境ニハ達スルノ者トハ云ヒ難キ也、其ノ理如何、予乞之ヲ論セン

○若シ輸出入ノ平均ヲ得セシメ、恐クハ紙幣ノ相場旧ニ復シ、物価下落シ、金子ノ流通相付カハ、商方盛ニ成リ貧富各其宜キヲ得ヘシ

○唯職人ノミヲ出来シ、道德ノ教立タサレハ

然シ之ニ物価下落シ金融相通セハ、人民ノ品行改良シ一國之ニヨ  
リ幸福ヲ受クルヤ一否……

金アルモ之ヲ散スルノ憂アリ

○民権ヲ広張シ、人民ヲシテ自由ヲ得セシメハ



道德ノ教立タサレハ

○人ヲ罵詈スルノ民ヲ増ス

○ローソーノ不品行

○国会開設、人民国政ニ参与シ得ルモ

名利ヲ射ノ徒ヲシテ志ヲ達〔セ〕シム

○殖産ノミヲ主トスレハ利ノミニ趨ルノ憂アリ、公事ヲ詐<sup>カ</sup>リ人ノ田地マデモ掠取ルノ憂ナキ能ワス

○人權皇張ヲ主〔ト〕セハ遂ニ民權ノ貴重ナルヲ忘レ、唯人ニ抗敵スルヲ民權トシ、之ヲ以他人ヲ罵詈誹謗シテ世人ノ心ヲ争動セシ〔ム〕ル等ニ至ルハ……

○国会開設ノミヲ主ト〔セ〕ハ、遂ニハ私名利ヲ射ルノ徒ヲシテ志ヲ天下ニ得セシムルノ憂ナキ能ワス、又日本ノ人民未タ選<sup>カ</sup>択ノ法ヲ仕用シ得ズ

然ラハ如何セハ此等ノ弊害ヲ防キ得ルヤ、之ヲ防ノ道他ナシ、各人ヲシテ愛人ノ心ヲ抱カシメ之ヲ行ワシムルニアリ  
愛人トハ何ゾ、且如何セハ人ヲ愛シ得ルヤ

一答 愛人トハ他人ヲ愛スル也、且如何セハ人ヲ愛シ得ルヤ

自由ヲ得ルモ又之ヲ我儘ニ用ユルノ憂アリ、人民ハ政府ニ向我儘ヲ申立、子供ハ親ニ向我儘ヲ申立、妻ハ夫ニ向我儘ヲ申立、貴重ノ民權ヲ下シテ下等ノ我儘ト混スルノ憂アレハ、国ノ幸福期シ難〔ク〕、我儘起リ国家ノ滅亡ノ基礎トナルヲモ計リ難シ

民間ノ不平等、名利ヲ射ルノ徒、風雲ニ乗シ平生ノ志願ヲ達セントスル憂アレハ、之ヲ永久ニ維持シ、官民和合、上下一致各其所ヲ得セシムルノ策ハ自ラ国会ノ外ニアリ、道德ノ区域ニ達シム、後初メテ全功ヲ奏スベシ

予、西聖基督ノ語ヲ用ヒ之ニ答、乃チ曰ク、(己ヲ愛スル如ク爾ノ隣人ヲ愛〔ス〕ベシ

凡テ人ニセラレント欲スル事ハ爾モ亦人ニ其ノ如ク為ヨ

己ノ欲セサル所ハ人ニ施ス勿レ

孔子曰、君子ノ道ハ忠恕ノミ、忠恕ハ乃愛也

又曰、己レ達セント欲セハ先〔ツ〕人ヲ達セヨト

此ノ愛人トハ至テ貴重ノ事ニシテ、各人人ヲ愛スルノ心ナキ者アラス、人ヲ愛スルノ心ハ自然天ノ人間ニ賦与セシ所ナルベシ

然ルニ今人間ノ所業ヲ見ルニ、大ニ之ニ反スル所アリ

●人ハドウデモヨイ、己サヘヨクハヨイ

●人ノ苦キハ三年忍フト

●人ヲアサムキ人ニ損亡ヲカケ、己ヲ益シ、大ニ我子ナト人智者ト云テホコル人多シ

是各人ニ此心ノ存スルハ、人ニ愛人ノ教ナキニヨルナリ、(天地ノ主宰ノ大意ハ愛人ナリ、人其意ニ敬ミ人ヲ愛〔ス〕ヘシ

然ラハ如何シテ愛人ノ教ヲ施スベキヤ、人各己ノ慾ヲ去リ、己ニ克、一身ヲ脩メサルベカラス、如何トナレハ、一身ヲモ脩メ得サルノ人ハ決シテ他人ノ為ニ益ヲ与ル能ワス、一身ヲ脩メ一家ヲ齊ヘ得サルノ人ハ他人ノ行ヲ正シ又――鴻

――一国ノ標準トモナル能ワス  
己ノ身ハ甚不品行千万ニシテ、唯己ノカトオヲカリ、国ノ為ニナス、人ノ為ニナスト云人々ハ、一事業ニ付テハ何カ

成シ得ルトモ人ノ手本トナル人ニ非ス

少年輩如斯人物ノ真似ヲセハ、乃虎ヲ画テ狗ニ類スルノ例ニ齊カルベシ、此等ノ輩ハ唯事業サヘ上レハヨイト云テ、己レノ貴重ナル心ニハ墨ヲヌリ付ケ、心ヲ汚レタル者トナシ、更ニ恥ル色モナキ者ナレハ、到底万物ノ靈タル人間一人ノ貴重ナル事ヲ知ラス、唯世間ニ名望ヲ得ント欲シテ公益トナルヘキ事業ニハ取り懸レトモ、一家内ノ有様等ヲ見レハ我儘千万ノ且那樣ニシテ、家族ヲ奴僕ノ如使役シ、甚シキハ己レノ妻ヲ打捨テ隱居部屋ニサシオキ、己レノ愛妾ト共ニ杯ヲクミ、風月ヲ楽ムノ人モ随分世ニ沢山ナキニ非レハ、天下ノ少年輩此等ノ人ニナラヒ、此等ノ人ノ所業ヲ羨ミ、最上ノ出世トナシテ之ヲ学ハ、如何シテ此國ヲ文化ノ國ニ進ムルヲ期センヤ

○今日本ニ於テ才氣万人ニ卓越シ大ニスルアルノ人ニシテ、往々此弊害ニ陥、此不品行ニ流〔レ〕、平氣ニシテ恥チサルノ人ナキニシモアラサル也、人縱令風雲ニ乗シ高尚ノ位置ニ進ムトモ、己一身ヲ修メス一家ヲモ齊〔ヘ〕得ス、頭ヲアケテ衆人ノ上ニ立ツノ人々ノ心ヲタ、キ、之ヲ煎シツメハ如何ナル者ソ

○世ニ出テ事ヲ取ルハ真ニ愛國愛人ノ点ヨリ出ツルヤ、此等ノ人、若苟〔モ〕愛國愛人ノ心ヲ抱ケルナラハ、宜シク注意シテ自ラ君子トナリ、國民ノ標準トナルベシ、此人ニシテ此点ニ注意セサレハ、此人ハ愛國愛人ノ心ニ乏シキ者ト云サルヲ得ス

○今世ノ先導者トナリ言ヲ発〔ス〕、才ハ天地ヲ動スニ足〔リ〕、筆ヲ取レハ鬼神ヲシテ哭カシ〔ム〕ルニ足ル、新聞雜誌記者、先生方、又著述家翻訳家ノ志操ヲタ、ケバ、先生方ノ志操ハ如何ソ、愛國愛人ノ志ヲ抱ケルヤ

予ニ於テ決シテ先方ヲ差シ、愛國愛人ノ心ナシト断言スル能ワス、乍去唯了解シ難キ所ハ、新聞ニ甚見苦シキ新聞ヲ記シ、又ハ罵詈千萬、雲助社会ノ用ユル如キ語雜誌上ニ掲クルハ、何ノ目的ナルヤ〔上欄〕淫ワイノ言ナクハ新聞ハウ

レヌ、官吏ヲ罵詈セネハウレヌ、高キ書ハウレヌ、金次第テ何デモ書クト云人アリ」

之ニヨリ看官ヲシテ大ニ愛国心ヲ憤起セシ〔ム〕ルノ意ナルヤ、又他人ノ行状ヲ罵詈シテ己ハ頗ル独ヲ懷ムノ君子ナルヤ、或ル記者連中ノ所業ヲ視察スルニ、決シテ衆人ノ標準トナリ得ルノ所行アラサルニ似タリ、或ハ柳橋月ニ吟、墨田ノ花ニ酔、以テウブノ少年ヲシテ其身ヲ誤ラシムルニ至レハ何等ノ□、若此輩ニシテ天下向來ノ人物、俊才少年ヲ誤ラシ、無頼ノ遊冶郎ト変化セ〔シ〕ムレハ、今何人ニ向ヒ良キ手本ヲ求メンヤ

○吾人愛人主義ヲ論ス、吾人今ヨリ愛人ヲ主張、之ヲ全国ニ波及セシ〔ム〕ルニアリ

(愛ニ二種、有形物ヲ愛ス、無形物ヲ愛ス

○姑息ノ愛

人ヲ愛スルハ人ノ価アル靈ヲ愛スル也、人ノ目鼻口付キヲ愛スル等ハ甚下等ノ愛ニシテ、往々人ヲ淫慾ヲ起サシムルニ至ル

一家ノ夫婦、親子、親戚、隣人、朋友、遂ニ全国ニ及ホスベシ

△基督曰、人他人ノ為ニ身ヲ捨ツルハ、愛ニ於テ之ヨリ大ナルハナシ

〔二〕△米ノ大統領リンコロン<sup>〔補〕</sup>「黒奴ヲ自由ニスル論ヲ發、遂ニ其為ニ身ヲ捨テタリ」ノ家ニ衆人来、彼ニ見ヘンヲ乞、彼先ニ一嫁婦人ヲ見テ之<sup>〔老〕</sup>〔ニ〕接ス

◎一人一人君子トナラシメ〔ネ〕ハ、殖産、民権、国権等恰モ死ニ翼ヲ附スルカ如シ

〔一〕△英國人ローラントヒル、盜賊一人ヲ助ク人間トナレリ、◎(コリント前書ノ十三章ヲ見ヨ)

一人一人ヲ愛スルノ說ハ大ニ愛国ヨリハ狭キニ似レトモ、人ヲ愛スルハ、一国ニ限ラス世界ノ人ヲモ人ト見ナシテ

之ヲ愛セハ、決テ区域ノ狭キ者ニアラス

〔補〕

「米國ノ一婦人、己ノ子ヲ戰場ニ出ス、米國ノ婦人南北ノ戦自〔ラ〕戰場ニ行、負傷者ノ世話ヲ為ス  
愛ノ道立、勇氣生」

英國ノウィルバホース、亞弗利加ノ黒奴売買禁止ノ論ヲ発ス

英國ノジョンハオールド、歐洲ノ牢獄ヲ改革セル等

○吾人ノ急務ハ早く從來ノ弊風ヲ看破一洗、當時何物ガ文明ノ元素タルカヲ発見シ、人々ヲシテ誤ラ〔ザラ〕シムル  
事ナク、空論ヲ吐セス之ヲ實際ニ行フニアリ、夢想ヲ空中ニ架セス

愛人ノ道立、万事追而機械ニ油ヲ付クカ如シ

食物ニ味ヲ付ケルカ如シ

●〔補〕一人ノ衰頹ハ一國ノ衰頹ニ関リ、其一人ヲ救ニアリ、自由ヲ与ルニアリ」

〔年月日不詳・草稿〕

## 64 愛国ノ主意

愛国ハ乃己レ「ノ」名利ヲ不顧、己一身ヲ抛チ、国ノ為人ノ為ニ計ル也

愛国ト申セトモ、ツマリ愛人

日本ノ愛国ハ偏頗ノ所アリ、愛国論ハ時代ニ「ヨリ」其趣ヲ替ル事アリ

勤王、攘夷論、輸出入不平均、国権ノ不振ヲ歎シ、人権ノ不振ヲ悲シ「ミ」、国会開設ニ論及、又ハ殖産ニ走ル時勢風潮ノ然ラシムル所、乍去此等ノ事ハ文明ノ最上ノ点ニアラス、唯文明ノ一分子ノミ

●今日ノ急務ハ人ヲシテ人間ノ要道本務ヲ知ラシムルニアリ、然ラハ殖産ノ道立「チ」、輸出入平均ヲ得、国勢モ張り、人権モ展ヘシ

要道本務ヲ知ラサレハ

○殖産ハ唯食利ノ一商店ノ如キ者ヲ出来ス

○輸出入平均シ国ニ金融アルモ、却テ遊蕩者ヲ出来ノ憂アリ

△○人権皇張、国会開設アルモ、名ヲ射ルノ徒風雲ニ乗シ、平素「ノ」志ヲ逞「ス」ルノ憂ナキ能ワス

△如斯今ノ世ハ今ノ愛国者流ノ手引ニヨリ、学校ノ有様、学者ノ志操、人民ノ浮薄、此等ノ事克ク醜俗ヲ挽回スルニ足ラス、故ニ予ノ鄙見ニヨレハ、天下ノ有志輩力ヲ協「セ」心ヲ一ニシ、真正ノ教育ヲ子弟ニ施シ、彼等ヲシテ人間ノ要道本務ヲ知ラシメ、特ニ純粹ノ愛国心ヲ養生スルニアリ

●愛國ハ愛人也

西哲ノ言ニ曰ク、人ヲ愛スル事人ヲ愛スル如クスベシ<sup>〔己〕</sup>

孔子ノ曰、君子ノ道ハ忠恕ノミ、恕トハ愛也

ク　ク　己達セント欲セハ先人ヲ達セヨ

愛ハ天ノ賦与セル所ナルニ、人之ヲ用イス

人ハドフデモヨイ○人ノ苦ハ三年忍フト○人ヲ詐リ己ヲ利シテ恥ル色ナシ

△口ニ公然ト愛國ヲ唱フルモ實際ニ愛國ナシ　○其ノ人ノ行ヲ見、其ノ言ヲ取ラス○今ノ人物、己一身ヲ修メ一家ヲ

齊フル能「ス」シテ、兎角天下ノ為ニスト云ハマ、世間ニアレトモ、其ノ志操ノ底ヲタ、ケハ、多クハ己ノ學問、

己ノ才ヲ売ル徒ナルベシ

○人民皇張主義ノ先生モ、僅カノ月給ノ為ニ官ニ釣リ上ケラル、月給ノ為ニ不身持、妾ヲ置キ花ニ酔ヒ月ニ吟ス

○天下ノ木鐸トモ云ヘキ新聞記者流ノ中ニモ、新聞ヲ売ル為ニ淫ワイノ事ヲ掲ケ、害毒ヲ人民ニ流ス、言ヲ吐ケハ天

地ヲ動カシ、筆ヲ取レハ鬼神ヲモ感セシ「ム」ルノ俊才子ニシテ、往々此弊ニオチイル者ナレハ、今何ニ向テカ真

ノ愛國者流ヲ求メン

〔補〕  
「○民権家、官民隔絶」

今特「ニ」愛國主義ノ教育ヲ起スニアリ、此事ハ政府大学ニ望ミ難ク、又小学ニモ期シ「難」シ、唯民間ノ有志輩

愛國旗ヲ翻ヘシ、我日本ニ尽スニアリ

愛カ力源ノ如シテ不絶、愛ノ力克ク人ノ心ヲ動カス



愛ハ人ヲ憎マス、人ヲ克容ル、人ノ為己ヲモ棄ツ

故ニ此愛一度社会ニ入ラハ、一身ニシテ己ノ身ヲ愛シ己ノ身ヲ毀傷セス。一家内ニ及ヒ、一社会ニ及、一国ニ及、遂ニハ他国ニモ及ベシ

夫婦、親子、師弟、官民

×人他人の為ニ身ヲ捨ル、愛ニ於之ヨリ大ナルハナシ

英ノジョンハオールド

ク　　ウイバルホース

米ノリンコルン

米ノピーボデー

偏頗ノ愛国心ヲ打切り、真正ノ愛国心ヲ養ヒ、道德主義ノ教育ヲ設、如何セハ最モ国ノ為ニ民ノ為ニナル所ヲ索リ、之ヲ見シ上ハ百折不屈、身ヲ之レ差出シ、且一人シテ足ラス、続々同志ノ者ヲ出来シ、真正ノ文明ヲ来ス事ハ当時愛国ノ重任ト存ス

〔年月日不詳・草稿〕

65 道心ノ発達

智識之開達\*、産財之増殖、自由之皇張、道心之活働

人ニ道心アリ、天ノ賦与スル所トス

人ヲ発見シテ之ヲロニ述ヘ詞ニ綴リ人間ニ伝布ス、之ヲ人ヲ〔人〕タラシムル道ト云  
人誠ニ叶フ者ハ、之ヲ為スモノヲ道ヲ行フノ人ト云

○支那ニ堯舜、禹湯、文王、周公、孔子、孟子、王陽明等之君子アリ

○釈伽ナルモノアリ

○ソクレテース

幾分カ功能ナキニアラス、之ヲ無用ノモノト云ニアラス

暗黒世界之灯燈ナリ、寧ロナキニマサルモノナリ

キリストノ道

〔朱〕  
「※」馬太伝之心ノ本ヲ改ムルノ教誨。馬太ノ五章 二十七、二十八

〔……セヨ……スル勿レトノ教、恰モ上ニ衣ヲキルカ如シ

○〔人カ小笠〔原〕流ニ而礼義ヲ正シクシテ見セレハ、何ニカ正シク見ヘル

○〔謙遜ヲ教ヘ人ノ後ニタ、シム、礼義ヲ教ヘ誤テオジキヲ丁寧ニスルヲ礼義ト思フ

※「教ノ外見ヲ重スルニ至ル、心ノ原ヲ矯正セサルノ弊

○才識<sup>〔カ〕</sup>ヲ開ク

○財ヲツム

○自由

「破山中ノ賊易、破心中ノ賊難シ」<sup>〔朱〕</sup>

自「<sup>〔ラ〕</sup>」扱フノ自由ナケレハ自「<sup>〔ラ〕</sup>」立ツルノ主義ナシ、依テ金ニヨリ制セラレ、又勢ニヨリ動カサル

※福沢……

二百万円テ不平党ヲカヘトノ説ハ何ノ新紙ニアル

自由、外来之自由、自由政度、外より圧力之加ワ「<sup>〔ラ〕</sup>」サルヲ云

「<sup>〔朱〕</sup>六十元□」心中之自由、自扱自由、取之自由

「<sup>〔朱〕</sup>三本足ノ馬ノ□像ス」

○伯夷叔齊之自「<sup>〔由〕</sup>」、周ニ来テ食ふ「<sup>〔ヲ〕</sup>」恥とし、首陽山ニ餓死セシ事ノ如シ

○文天祥之宋朝之臣トシテ胡元ニ降ラス、正氣之歌ヲ作り不食シテ死セシ如ク

○謝枋得之宋朝之民タレハ、一生涯宋朝之民ト云名ヲ希、如何ニ富貴之身トナリ得ルモ、決シテ元朝ニツカヘサルカ

如シ

○西行法師之頼朝之朝ニ出仕セサルカ如ク

（熊沢了介先生□経ヲ得、其□断然ト岡山ヲ去ル）

大勇之説　千万人ト雖我往

乃自〔ラ〕取ルノ自由也、大勇ト云フナリ

自振自由取ノ自由ナケレハ国々トウデモナル

人、金ニヨリ制セラレ力ニヨリ動カサレ

一定ノ主義ナカルベシ

〔年月日不詳・草稿〕

66 〔武 夫〕

[本文鉛筆]

1430 Wealth farmers become engaged in fencing &—弓馬—

(Samurai)

——土着ノ領主(領分ヲ賜ハル)

1688—平忠常 千葉ニヨリ反ス  
p. 10

源頼信之ヲ討ス

武夫從フ者多シ

1712—安部頼時 衣川ニヨリ反ス

源頼義之ヲ討ス

君臣漸々恩義ノ情起ル

領主ノ権ヨリ封建ノ制ニ移ル

高名心—死シ難キ死ヲ望ムニ至ル

武夫—氏族ニ臣從シ、□ヲ意<sup>[カ]</sup>ヲ奉シテ奔走ス

其子孫モ其事—ニ養ハル

(武夫) 家人郎党タラン事ヲ望ム

p. 16

common higher

武夫 賞詞ヲ受ケテ死ヲ輕ス

忠義心起ル 一日ノ恩ニ百年ノ命ヲ捨 因テ之ヲ忠義ト称賛ス 善行ト称

高名ノ為ニ善行ノ為ニ身ヲ出ス 其以武夫ノナラヒト為ス

為宗事ヲ為シ易シ

為宗ノ門地数万ノ人命ヲ死セシム

軍律ナシ軍法ナシ、思々ノ武器ヲ携ヘテ出ツ

鉄棒 ナキナタ Shear Sward bow arrow

鎌倉政府 武人ノ実力ヲクダク

p. 23

国衙ノ守護ヲオキ武夫大小名ヲ制御セシム

領主―地頭―名主―

鎌倉

〔朱鉛筆〕

「高橋新吉」 Consulate of Japan.

7 Warren St., N. Y. J

67 「弱者ニツイテ」

〔全文鉛筆〕

〔且〕那カ且那ツラハ何時デモ出来ル、強キモノカ強クナリテ威張ルハ容易イ事、然シ強モノ大イナルモノカ、弱イモノ小サキモノヲ助クル如キハ、随分容易ニ見ユレトモ中々出来難イモノニシテ

世間デハ兎角且那カ多クシテ、弱キモノハ、力ノナイモノハコキツカワレ、中々哀レ〔ム〕ヘキ有様ナルカ、何分此レカ世間ノ例<sup>ナ</sup>ライトナリ、キリストモ仰セラル、如ク

〔ママ〕

足利氏鹿ヲ中原ニ失ヒシヨリ之ヲ執ヘントセシモノハ誰ソ、第一ニ信長、次キ太閤秀吉、次キニ家康、皆當時ノ豪傑ニシテ、天下乃豪傑ノ制スル所トナレリ、此事ハ皆サン歴史上御覽ノ事ナルカ、今日我等ノ周辺ニ強カ弱ヲ制スルハ比々見ルヘク、時トシテ実ニ忍ヒサル事ノ目ニ触ル、事アリ

又人間社会ヲハヅレ動物植物社会ニ立入り之ヲ見ルニ、矢張優勝劣敗ノ通理カ頗ル行ハレ、鯨カ鰯ヲ吞ミ鷲カ雀ヲ取ル、其他百般、野ニアレ山ニアレ海ニアレ川ニアレ、強カ弱ヲ制スルノ事ノ行ハレサルハナイ○乃チ生アルモノハ食ナカルヘカラス、是弱カ強ノ食物トナルハ造物者ノ法則カトモ思ハル

〔然シ〕此ノ一方丈ケ見レハ、造物者ハ何ニカ情愛ノナキモノノ様一寸見エマスルカ、又動物世界ナイニ於テ色々精ク吟味スルト、弱キモノニモ其々己レノ種族ヲ繁殖セシムル為ニヤ、己ヲ防クノ道具ヲ与ヘラレタリ

清水ノ中ニ数千ノ虫アリ、此中ニ大カ小ヲノム事歴然ト見ユ



カレイ目ノアル方カ黒イ

ポツフユ<sup>〔カ〕</sup>パイン、針ノ如<sup>〔キ〕</sup>毛

猫ニツメ、鼠ニキバ

蟻ニ毒氣、ノミノ如キ――

何ニ造物主ノ妙工風ニテ□又逃レ途カアリ、弱キモ繁殖ス

又目他方ニ転シ、動物世界ヲ吟味スレハ、強キモノカ弱キモノ、犠牲トナル

――<sup>〔マムシ〕</sup>

鮭カ川ノ上流ニノボルニ身ヲ忘ル

――<sup>〔子ヲ生ミテ後死ス〕</sup>

アユ 子ヲウミ後ハ何レ<sup>〔ニ〕</sup>ユクカ分カラス

鶏カオン一匹ニテ食ヲ食ハス、必牝ヲ呼ヒ食フ

門徒ノ考ヘモ如斯アリソウナモノ、通例人ハ誰カ己カ一番ヨイモノニナリタイ、一番先キニナリタイ、一番先キ先生ニナリタイ、一番先旦那ニナリタイ、一番先人ヲ使ヒタイ、アチラコチ<sup>〔ラ〕</sup>旅行ナドヲナシ巡回シ見ルニ、世間ニ兎角旦那カブカ多キモノテ、少シク衣裳テモ立派テアレハ人力隅ニオカヌ、之ヲ直キ旦那ニ致ス

――<sup>〔補〕</sup>

「二十四五年前」昔米國ニ南北之戦争ノ時、多クノ紳士軍人タチカ、大統領リンコルンニ面会ヲ求メニ参リタル中、

後トノ方ニキタナキ旧衣ヲ着タル老婦人ノ立オルヲ見ルヤ否、大統領ハ多クノ紳士軍人ヲカキワケ、老婦人ノ手ヲトリ奥ニ入レ、老婦ノ申分ヲ聞カレタレハ、満場ノ人々之ヲ見テ皆驚カサルハナカリシト、又第一番目ニ大統領ニ面会セントセシ人々モ大ニ赤面セラ<sup>〔レ〕</sup>シト、此事ハ当時大統領ノ一美談トナリ、天下之人々大統領ノ鴻徳ニ感セサルハナシト

チャーモア（非常ノ学者 説教家）

〔貧乏人ノボロヲ着、小供ヲ手ニ携テエデーホローノ街上ヲ見テ、初テ同人ノ大ナルヲ知ル〕

●グラットストーン ○ソンデースコール

○アブ〔ラ〕ハム リンコルン 一老婦ヲ見ル

勝安房

（死タル人沢山アリ）

人間兎角自主独立ヲ好ムナド云ケレトモ、人間中々独立自由ノモノニアラス、又第一神ニ対シテ自主独立ノモノニアラス、神 宇宙法則ニ対シ独立ノモノニアラス

己ノ情欲ノ為ニ制セラル、病ノ為制セラル、世ノ風俗ノ為ニ制セラル、罪ノ為制セラル、首カセ手カセ足カセヲ受タル人ノ如シ

〔年月日不詳・草稿〕

68 〔平民主義〕

1 Pet 1:13-21 Eph 6:9

〔朱録、以下同〕  
平民主義 平等 同等 Rom 2:11 Gal 2:6

God has no respect of persons.

昔時

クリシヤ、ローマ、此分子ノ盛フルトキ国ハ盛ナリシ

衆治 民治 寡人政府主義ト相反ス

商法 殖産主義

平和主義 柔和

寡人——主義ハ一手デ大事業ヲ出来カ

秦ノ始皇帝、万里ノ長城、一人ノ豪傑ノ左右スル所トナラス、一人ツマツカバ一国斃ル

平民——全国民斃レサレハ一国斃レサルベシ、故ニ——平民ハ国ニトリ不為ニアラス、事アレハ各財力ヲ出ス。全身ヲ差出ス、全力ヲ竭ス

〔如何トナレハ、平民主義天下ヲ以テ己ノ業トナシ、又己ノ家ヲ以テ天下ト見做ス

寡人——主義ト違ヒ一時ニ著シキ事業ヲ為能ハス○長イ内ニハ勝ヲ呈ス

独立軍ヲ見、平民社会ノ好結果（己レ家ノ為妻子ノ為戰フ）

平民主義ハ戦争ヲ他国ニ仕懸ケス、他ヲ奪掠セス

平民主義ハ節儉主義、無益ノ事ニ費ヤサス

○米國ノ礼義儀式等、甚簡易ナリ

平民主義ハ人物ヲ養成ス

平民主義ハ真ノ愛、国心ヲ養成ス

〔補〕米國大学ノ数ヲ見、一ケ人ノ寄付ニ関ハル、独乙ノ大学ハ一カ人ノ寄付ナラサルベシ

貴族の主義ハ僅々ノ愛〔国〕家ヲ出来カシ、又其ノモノガ僅々ノ人ニ竭ス、昔時ノ忠臣義士ヲ見、皆僅々ノ人ノ為全身全力ヲ竭シタルナリ

日本從來ノ平民無学無智、故ニ賤シ、然〔ニ〕米ノ平民ハ——学識アリ有為之氣象ニ富ム、世カ開明ニ進ムニ随

ヒ 貴族主義ハ漸々ト跡ヲ絶ツ

平民主義ハ漸々ト世ニ出ツ、是レハ天意。

貴族主義ハ人ノ尊敬ス、故ニ人己レハ貴イモノト思イ、又人物ト思フ。人之ニ食マシム、故ニ勞シテ今日ノ糊口カ出来ル、漸々ト勞セス、工風セス。働カス。腦漿ヲシボラス、上品ノ人トナル、世襲華族ハ食フニコマラス  
平民主義ハ人ヲシテ己レノ卑キ地位ニアルヲ知ラシム、山ノ下ニアレ〔ハ〕一ソウ上ツラ見ヘシト云フ心カ起ル

蘇秦張儀 城南二頃ノ田〔カ〕

卑賤ヨリ上ルハ難シ、故ニ人ヲ精選ス

○上ラントスレハ直ニ下ケ付ケラル○又之ヲ試ム、遂ニ上達ス、働キヲ為スヲ見ヨ

○勉メサレハ出来ヌ様ニ

神カ仕懸ケラレタリ

Self help

少シ計ノ困難ニ逢フテ己レノ素志ヲマゲル人ハ  
造物者カ捨ノミナラス己自身ヲ捨ツルナリ

平民主義ヲ取レト云フニアラス

平民ノ地位ハ人ヲ出来ス、好キ地位、人ヲ為スアルノ元氣ヲ起サシム、大望ヲ抱カシム、謙遜ナラシム

ヘース 人ノ為ニ鶏ヲ打ツ

ホプキンス 客ノ靴ヲミガク

徳「ト」富ハ経済上ニ在ル、予ハ人物上ニ在ル、昔ノ

武門時代テスラ、太閤、小西行長、加藤清正

林道春、米屋ノ子

米クラントハ革ナメシ

マントロウ・ジョンソンハテール

当時、伊藤大臣、岩崎、渋沢、福沢先生、

大倉、藤田

土倉心カ少ナラス

〔年月日不詳・草稿〕

## 69 条約改正ヲ促スノ策

●先ツ外人ノ信用尊敬ヲ得ル事ヲ要ス○其ノ信用尊敬ヲ得ントナレハ、先ツ基督教ヲ奉スルニ如クハナシ、基督教ニ数派アレハ何レヲ取ルヘキ。羅馬教ニ非ラス、グリーキ教ニアラス、即チプロテスタン「ト」教タルベシ○該教ヲ布クニ方法アルヤ

「<sup>上欄</sup>学校」曰クアリ、有為ノ外国教師ヲ聘シテ基督教主義ノ学校ヲ起シ、先ツ其ノ生徒ヲシテ之ヲ信奉セシムルノ法ヲ設クルニアリ、生徒若シ之ヲ信セハ彼等ノ中、必ラス伝道ニ従事スルモノ起ルベシ○学校ハ一ニシテ足ルカ、速ニ伝道セントナレハ一ニシテ足ラス※東京、仙台、弘前○札幌。金沢。或「ハ」新潟、西京、四国ニ一。九州ニ一。之ヲ為スハ、必ラス外国宣教師ノ内地旅行ヲ今一層自由ニスルニアリ、縦令ハ學術ノ為トカ、養生ノ為トカ定メスシテ、敵ニ外国人ノ内地商法サヘ禁スレハ、他ニ不都合ハアラサルベシ。学校ノ支配ハ内国人ノ手ニ置クベシ

●基督教「<sup>補</sup>利益」「<sup>補</sup>」ノ布クノ必用ナル事」維新以来泰西ノ學術輸入セシヨリ、神仏兩道ハ勿論、我カ同胞ノ元氣ヲ

養ヒ来タリシ支那ノ古哲ノ学モ亦擯却セラレ、孝悌忠信ノ道ハ泰西ノ學術ト併行スル能ハス、遂ニ民権自由ト交換セラレタルニ似タリ、且無神論者ノ説ノ如キ益勢力ヲ逞シ、一派ノ学風ヲ惹起シ、古キヲ捨テ新キヲ撰ヒ○我東洋ヲシテ不知々々西洋社会党虚無党ノ轍ヲ踏マシムルヤ必セリ

長者ヲシノキ、定律ヲ嫌ヒ、道理ト称シテ、其ノ実豪「モ」道理ニアラス、真理ト称スレトモ其實真理ニ似タルモノ、其ノ結果ハ遂ニ破壊主義ニ流レ、稍モスレハ政府ニ抵抗シ転覆スベシナド奇怪ノ説ヲ立ツルニ至ル○今之カ鋒

ヲ挫クノ策ヲ立テサレハ、他日我東洋ニ第二ノ仏國革命ヲ画キ出スモ計リ知ルベカラス

〔上欄〕  
「人智ノ發達アルモ人心ノ改良ナシ」

「教育ト宗教ヲ併行セシムルニアリ」

偶像教ハ今日ノ文明ト併行スヘカラス。偽リノ宗教ハ人心ヲ乱リ、人ヲシテ愚ナラシム○無宗旨ノ民ハ人倫大義ヲ敗リ、徳義ヲ重ンサルベシ、政者

人間 アニマル、ナーチュア インテルチュル モラル スピイチュル〔スピリチュアル〕 パワル 人智識ヲ開發

セサレハアニマルニ陥ル、アニマルト智識ノミナレハ二性〔マヤ〕ノ為ニ動ク、進テモラルノ点ニ至ルモ、スピチュアルパワルノ克ク之ヲ制御スルニアラサレハ、決シテモラルノ区域ヲモ完全ナラシムル能ワス

宗教ノ要ハスピイチアルパアルヲ養成シ、人ヲシテ神ヲ敬シ人ヲ愛セシムルニアリ、自己ノ靈魂ヲ重シ、良心ノ指図ニ順フベシ、敬テ天ノ命スル所ニ順フベシ

人茲ニ進ミ、初テ人間ハ万物ノ靈ナル事ヲ了スベシ、而シ〔テ〕人自立ニ事ヲ得ベシ、是一箇人改良ノ階梯ナリ○夫婦ハ人ノ大倫ナレハ、自己ノ靈ヲ重シ他人ノ靈魂ヲ重スル、一夫一婦相合シテ清淨ナル一対否一体ノ人タルベシ、是一夫一婦ノ良風ヲ起ス、一夫一婦ノ風起初テ家齊フヘシ、家齊而而後國治マルベシ

○茲ニ於テ社会ノ風俗ノ改良ヲ期スベシ、而シテ其徳以全社会ニ波及スベシ、神靈ノ力克ク徳義ヲ全フセシメ、又交

□義務ヲ尽サシムベシ、神靈ニ道德ノ力克ク智識慾情トヲ補翼シ、人ヲシテ滅亡ヨリ免カレシム

〔二枚目右半分の四分三破損〕

〔破損〕

見ヘサルカ如ク浅近ナル学者輩ハ



〔破損〕 真理ニシテ治国ノ平天下ノ基ナリ

〔破損〕 基督教ハ人ヲシテ偽ヲ嫌厭シ、真実ヲ尊シ重セシムヘシ

〔破損〕 教ハ克ク天主教クリシヤ教ノ蔓延ヲ防ク〔ヲ〕得ベシ

〔破損〕 教ノ盛ナル所ニハグリシヤ教入ルヲ得ス、是生等ノ実験ナレハ、願クハ速ニ新教ヲ以テ北海道ニ伝播セシメン○仏国ハ伝道師ヲ以テ海軍殖民ノ一部分ニ當

基督教ハ信徒ヲシテ政者ニ違背セシムルモノニ非ス、英政府ノ秩序アル如キハ、基督教預リテ力多ト云ベシ（クリスト曰、シーサルノモノヲシーサルニ返エセ、神ノモノヲ神ニ返セ

故ニ今信徒ノ急務ハ盛ニ基督教ヲ伝播スルニアリ、政府ノ急務ハ基督教ヲ公認シ、天皇陛下モ一夫一婦ノ制ヲ初メ賜フニアリ

其ノ二 宣教師ヲシテ従来ヨリモ尚一層ノ自由便宜ヲ与ヘ内地旅行ヲ許スニアリ  
其三 基督教主義ノ学校ヲ要地ニ〔補〕「開」設クルニアリ（神学部ヲ置クニアリ）

札幌大学

学科予備

〔開〕 農学、神学、文学

〔美〕

●弘前

本科 理・神・文

三人 二人

二人 二人 三人 二人

八千元

一万六千元

①東京

●金沢一致

①西京

美一致

関西

△山口一致

或広島

△高知 関西

東京大学  
医、法、理、文、神 独

宮内省ヨリノ寄附

△九州 鹿児島

一致

熊本

非常ノ事ヲ為スニ、非常ノ果斷ナカルヘカラス

(札幌) 大学トナシ農学、理学、文、神米。  
(東京)

○天皇自カ「ラ」属シ賜フ教会勿カルヘカラス

○政府ノ特ニ一教会ヲ助クルハ得策ニアラス

○全教会ニ自由ト保護ヲ賜フ「レ」ハ足レリ

国是ノ方向定、基礎強固、王家万歳

○私立専門校

東京 西京、仙台、熊本、(弘前)、(金沢)、(山口) 広島 松江 高知

〔年月日不詳・草稿〕

70 〔我輩ハ敢テ政府ニ抗スルモノニアラズ〕

BOSTON

THURSDAY, [ ]MBER 16. 286\*

〔我輩ハ敢テ政府ニ抗スルモノニアラス

常ニ国ノ良民タラン事ヲ求ム

同朋ノ益ヲ計ルモノナリ

〔僧侶之ヲ駁スル 己ノ教望ヲ願ムベシ

〕マクシミールテ 本願寺ノ仏法ハ釈迦之教ト異ナリ、本寺ヨリ派出シケルモノ後人ノ思[ ]ニ応スベシ

〔是ハ大切之事、出[ ]ヲツカレルニ何ノ明カアルヲ外[ ]スル

〕私ハ先日本願寺僧ニ忠告シマシタ、[ ]私ヲ慎、聖[ ]、教ヲ慎<sup>〔カ〕</sup>ベシ

西方限ル

〔ハ文

〕中

71 我如何ニ此ノ活動社会ニ処スベキヤ

○我如何ニ此ノ活動社会ニ所スヘキヤ

優勝劣敗、勉ムルモ「ノ」勝、勉メサルハ破ル、造物者ノ道理

怠ルモノハ其ノ力ヲ絶ツ、怠ラサルモノハ其力ヲ益ス

大関ハ一朝一夕ニ大関トナラス

チャリネノ曲馬

維新以来ノ現象

華族ノ地位、甚不幸

アンベシヨンヲ絶ツ

働カズシテ世ヲ過シ得ルニアリ

平民ヨリ上等ノ人ト思ハルヘキニ、豈図ン、我カ人民ノ上ニ立ツモノハ下等社会ヨリ起レリ

○伊藤総理大臣、豊太閤、加藤、小西、林道春

○勉メストモヨイ地位ニオル

勉ムレハ最上ノ地位、英国ノ華族大学ニ勉強ス、世界ヲ週遊ス

王家ノ保護人 国家ノ柱石

雲ノ上ノ人、殿上人カ我カ平民ト交ハル、我土族ヨリ平民ニ上達スト云ヘリ  
英学ヲ進ムベシ

華族会館ノ演説

〔年月日不詳・於華族会館〕\*

## 72 『宗教要論』序

予カ友小崎君、此頃米国鴻学士ジュリオス、エイチ、シーレー先生所著ノ、途也、真也、生命也ト題スル書中ヨリ数章ヲ訳出シテ、之ヲ世ニ公ニセントシ、序ヲ予ニ徴ス

夫レシーレー氏先生ハ目今米国屈指ノ鴻学士ニシテ、其学深ク、其芸達シ、政事学、経済学、理学、神学等ハ其尤モ長スル所トス、曾テ聘セラレテ馬<sup>マサチューセツツ</sup>州<sup>マサチューセツツ</sup>アモルスト邑ノ「アモルスト」大学ノ教員トナリシニ、居ル数年間、一生徒

ノ先生ニ向ツテ片言隻語ノ不平ヲ鳴ラセシ者ナク、且先生ノ名望ヲ慕ヒ、千里ヲ遠シトセスシテ笈ヲ此校ニ負ヒ、其董陶ヲ望ム者陸続踵ヲ接シタリ、嗚呼先生ノ如キハ畜ニ学識ニ富ミ教育ノ術ニ達セルノミナラス、其徳望ノ高クシテ其品行ノ正シキ、其容貌ノ偉ニシテ其言論ノ簡ナル、一見人ヲシテ其風ヲ仰キ、其人トナリヲ賛歎シテ措カザラシム、豈希代ノ碩学ト謂ハザルベケンヤ、我文部理事官某、曾テ「アモルスト」大学ニ赴イテ先生ヲ尋訪セシトキ、先生ヲ評シテ曰ク、先生ニ対スルハ恰モ春風ニ吹カル、ガ如シ、自ラ爽快ヲ覚ユルノ外更ニ余念ヲ生スルナカラシムト先生曾テ地球ヲ周遊シ、日本支那ヲ經テ印度ニ至リシニ、彼地ノ紳士学者輩皆欢迎歓待シ、彼地将来ノ進歩ニ関シ、其見ル所ヲ吐露セン事ヲ乞ヒタルニ、先生辞セズ屢演説場ニ昇ツテ、何者ガ文明ノ基礎ニシテ国家ノ隆興、安寧ヲ醸生スベキヤヲ論明シ、一々其實証ヲ明示セシカバ、紳士モ学者モ皆其説ニ悦服シ、夫ノ洋人ヲ敵視シテ、特ニ其奉スル所ノ基督教ヲ嫌憎セル波羅門派ノ一富人モ大ニ感スル所アリテ、切ニ先生ニ乞フテ、其演説中尤モ著シキ者ヲ採択シ自費ヲ以テ之ヲ上梓シ、普ク其国人ヲシテ先生ノ確論ヲ与リ聞クヲ得セシメタリ、己ニシテ先生ノ本国ニ帰ルヤ、

本国ノ友人門徒モ亦先生ニ乞フテ其演説ノ著シキ者ヲ編ミ、之ヲ名ケテ途也、真也、生命也ト題シ、之ヲ世ニ公ニシタリト、今小崎君ノ抄訳セルモノ即チ是ナリ

先生棉邑ノ後再ヒ大学ニ在リ、教育ニ従事シ幾モナク、復州民ノ公選ニ由テ華盛頓大政府上院議員ニ挙げラレ、其期満チテ家ニ返ルヤ、忽チ又「アモルスト」大学ノ教頭ニ択挙セラレ、今尚其職ニ在テ、偏ヘニ人才ヲ陶冶スルヲ以テ己レノ責任トセリ、嗚呼天若シ米國ヲ憐ミ、先生ヲシテ長ク其任ニ当リ、多クノ人才ヲ陶冶シテ其國ヲ益セシメナハ、米國福沢ノ余波施キテ我邦ニ沾被セント

予ノ曩ニ米國ニ遊学セシヤ親シク先生ノ教誨ヲ受ケ、屢食卓ニ侍リ、遊歩ニ随ヒ、家族同一視ノ眷顧ヲ蒙リタレバ、此訳書ヲ閲読スルニ当リ懷旧感恩ノ情已ム能ハザル者アルナリ、因テ予カ親睹セシ一二ノ事項ヲ記シテ附言トス、江湖ノ君子、此書中論旨ノ基督教ヨリ出ル故ヲ以テ猥リニ之ヲ嫌忌セズ、又匆々ニ之ヲ看過セズ、沈思復読幸ニ國家ノ依テ安スル所ノ基礎ト、文化ノ依テ発スル所ノ源淵トヲ確認シテ之ヲ實際ニ施行セバ、我旧來ノ弊風モ一洗スベク、真実ノ文明モ期スベキ也

明治十四年三月

西京 新島 襄

〔J・H・シーリー著、小崎弘道訳纂『宗教要論全』銀座十字屋発売、明治十四年五月発行の序文〕\*



## 73 『将来之日本』序

余ガ友徳富猪一郎君、曩ニ将来ノ日本ト称スル一冊子ヲ編著シ、之ヲ余ニ贈リ、併セテ余ノ一言ヲ求メラル、余不文ト雖君ト旧交ノアルアリ、豈敢テ君ノ好意ヲ空フスベケンヤ、余此ヲ讀ミ、其ノ第壹回ヨリ第十六回ニ至ル、毎回恰モ新佳境ニ入ルノ感ナキ能ハス、蓋シ其論ヤ卓々、其ノ文ヤ磊々、余ヲシテ屢卷ヲ蓋ヒ不覺快哉ト呼ハシメタリキ、夫レ君ノ著書タル広ク字内ノ大勢ヲ察シ、詳ニ古今ノ沿革ニ徴シ、苟モ天意ノ存スル所、万生ノ望ム所、早晚平民主義ヲ以テ世界ヲ一統スベク、之ニ抗スルモノハ亡ビ、之ニ順フモノハ存シ、一国民一個人ノ克ク其ノ勢ニ激シ、其ノ力ニ敵ス可ラザルヲ説キ、之ヲ過去現今ノ日本ニ論及シ、遂ニ将来ノ日本ヲ図画シ、其ノ取ラザル可カラサル方針ヲ示スニ至リ筆ヲ止ム

之ヲ要スルニ、君ノ図画スル所ハ他ナシ、即チ公道正義ヲ以テ邦家ノ大本トナシ、武備ノ機関ヲ一転シテ生産ノ機関トナシ、压抑ノ境遇ヲ一變シテ自治ノ境遇トナシ、貴族の社会ヲ一掃シテ平民の社会トナスニアリ、而シテ君ノ論旨中含蓄スル所ノ愛國ノ意ハ、全国ヲ愛スルニアリ、全国ヲ愛スルハ全国民ヲシテ各其ノ生ヲ樂ミ、其ノ宜キヲ得セシムルニアリ、是レ実ニ君ノ活眼大ニ茲ニ見ル所アリ、滿腔ノ慷慨熱々ニ附スルニ忍ビズ、直ニ其ノ血性ヲ據ヘ、発シテ一篇ノ著書トハナリシナリ、而シテ此書初メテ世ニ公布スル客年十一月ニアリ、未タ四ヶ月ヲ経サルニ已ニ再版ニ附シ、又之ヲ三版ニ附セントス、何ゾ夫レ世人購求ノ神速ニシテ夥多ナルヤ、蓋シ君カ論鋒ノ卓々ナルニヨルカ、将タ其ノ文章ノ磊々ナルニヨルカ、然リ而シテ余ハ断シテ曰ハン、君ガ此ノ論ヲ吐ク徒論ニ非ス、君ガ此ノ文ヲ作ル徒



## 74 『ジョージ・ミューラー氏説教集』序文

余曾テ英国プリストル府ニ於テ孤兒院ヲ創設シ、其ノ芳名ヲ世界ニ轟シタルジョージ・ミューラー氏カ信仰ノ生涯ヲ聞キ、窃ニ欽情ノ情ヲ抱キ、イツカ同氏ニ面接シ其ノ經驗ヲ聞カン事ヲ希望シタリキ、然ルニ図ラスモ氏ハ世界漫遊之路次、去今春日本ニ來遊セラレ、特ニ途ヲ京都ニ枉ケ我カ同志社英学校ニ來リ、<sup>〔朱恩〕</sup>信仰ト、神ト共ニ歩ムノ二題ヲ以テ、其ノ自カラ実験セシ所ヲ証明シ、懇ニ吾人ニ語ラル、ヲ聴クヲ得シハ百世ノ一遇、余ノ満足ハ云迄〔モ〕ナク、校友ノ大幸之ニ如クモノナク、真ニ天恵ト云ハスシテ何ソヤ

我カ校中二三ノ輩、氏ノ説教ヲ筆記セシモノヲ編纂シテ一小冊子トナシ、同窓ノ友ニ頒タント欲シ、余ニ一言ノ序ヲ求ム、余之ヲ読ムニ、氏カ説キシ所ノ信仰ノ性質、其ノ勢力、其ノ結果等ヨリ、神ト共ニ歩ムハ人生ノ最大幸福ナル事等ニ及ヒ、又曾テ氏カ設立セシ所ノ孤兒院ニ於テ、創業以來不思儀ニモ六百万弗ノ巨額ヲ受領シ、貧窶其ノ生ヲ寄スヘキ所ナキ数千ノ孤独ヲ薰陶撫育シ、其ヲシテ人タルノ道ヲ弁ヘ、口ヲ糊スルノ業ニ就カシメ、且数百ノ伝道者ヲ派遣シ、数千万卷ノ聖典ヲ頒与シテ、罪惡ニ沈溺シタル数万ノ生靈ヲシテ前非ヲ悔ヒ、生命ノ途ニ登リ、天国ノ門ニ進ムノ幸ヲ得セシメシ等ニ至ル迄、尽ク登記シテ偏ス所ナキノミナラス、氏カ確乎不拔ノ信仰、純乎無私ノ目的、廉潔ノ品格、至愛ノ行為モ、歴々自カラ文外ニ顯ハレ、余ヲシテ再ヒ老師ノ足下ニ坐シ其ノ訓誨ヲ受クルノ感ヲ起シ、益其ノ品格ヲ欽慕シ、其ノ高德ヲ讚歎シテ止マサラシムレハ、他ノ読者モ亦或ハ然ルナラント信スルナリ

夫レ氏ハ、素ト射利求名ノ一書生タリ、神靈一度ヒ其ノ心ヲ動カ〔ス〕ヤ、氏ハ其ノ目的ヲ豹變シ、爾來名利ノ為ニ汲

々々ラス、一挙手一投足尽ク天意ヲ奉戴シテ、人類ノ福祉ヲ計ルニ出サルハナシ、而シテ其ノ齡已ニ八十二年ニ超越スレトモ、<sup>〔カクシヤク〕</sup> 矍鑠尚為スアルニ足ルヘク、世界ヲ周遊シ侃々真理ノ証ヲ為シテ止マサルニ至ル、何ゾ夫レ盛ナルヤ、

嗚呼此人ニシテ此ノ信アリ、此ノ信アリ而シテ後克ク此ノ美行ヲ見ルヘキナリ、聊カ所感ヲ陳ヘ諸子ノ求ニ応スト云

明治廿年五月

〔明治二十年五月・草稿〕\*

75

J・D・デイヴィス著

『基督教之基本』序文

序

我が同志社神学教授米国神学博士ジェー・デー・デウイス先生、頃<sup>（コノトキ）</sup>「基督教ノ基本」ト題スル一書ヲ著ハシ、之ヲ邦語ニ訳セシメ、余ニ囑スルニ序ヲ以テス

顧<sup>（ミ）</sup>フニ先生ノ甫メ京都ニ入ルヤ実ニ我が校創立ノ際ニ在リ、之ヲ内ニシテハ百事糾紛未ダ緒ニ就カズ、之ヲ外ニシテハ我が<sup>（スキマ）</sup>露ヲ窺ヒ、我が校運ヲ遮断セント欲スルモノアリ、我が校ノ存亡其間髪ヲ容レズ、此ノ時ニ於テ經營拮据我が校基ヲシテ巍然卓立セシメ、遂ニ今日アルヲ見ルニ到ラシメタルモノ、先生ノ才能、堪忍、剛胆、与カリテ力多シト謂フベシ

先生ノ我が校ニ従事スル已ニ十有余年、諄々誨テ倦マズ、汲々勉メテ怠ラズ、授業ノ余今ヤ此ノ好著述ヲ為セリ、蓋シ此書ヤ広ク宇宙ノ大原ヲ探リ、之ヲ事実ニ質シ、材料富胆、考拠精深、之ニ加ルニ近来先生米国ニ帰航シ、該国文物ノ淵藪トモ称スベキオハイオ州オベリン邑ニ滞寓シ、該邑大学ノ図書館ニ就キ旁引博証大ニ得ル所アリ、弥以テ先生平素ノ意見ヲ精確ナラシメ、遂ニ此書ヲ成スニ到リシモノニシテ、真ニ神学新説ノ萃ヲ拔キ醇ヲ鐘メタルモノト謂フモ誣言ニアラズ

余竊カニ先生ガ此書ヲ著ハスノ精神ヲ察スルニ、我邦青年ヲ愛スルノ哀情禁ズル能ハズ、之ヲシテ宇宙ノ大原ヲ探

リ、随テ人間ノ本分ト国民ノ義務トヲ知ラシメ、身ヲ以テ真理ニ委ネ、邦家ノ為ニ其一分ヲ竭サシメント欲スルモノ、如シ、嗚呼前途洋々タル希望ヲ担ヘル青年諸君ヨ、幸ニ之ヲ熟読翫味シ、天地ノ大本ニ遡リ布イテ人事ニ及ボシ、先ヅ己ヲ達シ、而シテ后克ク人ヲ達シ、普ク社会ヲシテ真正ノ福利ヲ蒙ラシメバ、余ハ確ク信ズ、先生此書ヲ著シタル勞、始メテ酬ユ可ク、而シテ先生ノ志望、始メテ達ス可ク、又先生多年ノ苦学モ空シク徒為ニ属セザル事ヲ余先生ヲ識ル茲ニ年アリ、而シテ余亦タ先生ト志ヲ同フスルモノナリ、故ニ不肖ヲ願ミズ本書ニ序スルニ際シ、先生ガ本書ヲ著述シタル所以ノ精神ヲ闡明シ、併セテ先生素志ノ存スル所ヲ開陳スル事此ノ如シ、余ガ先生ノ素志ヲ開陳スルハ、乃チ亦タ余ガ素志ヲ開陳スル所以也

明治廿二年 月

京都同志社

新島 襄

『基督教之基本』大阪福音社、明治二十三年四月發行

## 「理事功程」草稿





76 独乙国ノ公学校学則 第一

教育局

教育外部 寺院

プロテスタントヲ奉信スル独乙国中ニ於テハ、寺院及政府ト共ニ（カヤ）（pöpstliche）小学校ヲ保護スル事ヲ以テ己ノ職分トセリ、故ニ政府トシテ其保護ヲ辞スル者ナク、且寺院トシテ其ノ監察支配ノ權ヲ握ラザル者ナシ、然シ寺院ノ人民教育ニ關係スル事ハ国ニヨリ多少ノ別アリ

通例小学校ヲ監察スル事ハ寺院ノ手ニアリト雖、ヘッシ・ダムスタット（\*）ノ如キ邦ニ於テハ全ク学校ヲ寺院ト分チ、寺院ヲシテ教育事務ニ關係セシメズ、然シプロイセンニ於テハ、学校ヲ支配スル權大ニ寺院ノ手ニアリテ、地方ノ学校管理局ノ官員三人ノ内二人ハ多分地方ノ牧師（pastor）ニシテ、小区ノ学校懸之内、其区ノ牧師ハ其役目ヲ以テ常ニ其席頭タリプロイセンニ於テ学校ヲ支配スル者ハ政府ト寺院ニシテ其區別ハ左ノ如シ

一区ノ牧師タル者ハ、役目ガラ其区内ノ学校ノ吟味司タラザルヲ不得、然シ此吟味司タル者、英國ニ於ケル者ト少シク異ニシテ、唯学校ヲ吟味スルノミナラス之ヲ管理セリ

其区内ニ数区共用ノ学校アルトキハ、小区中持分セシ学校アルトキハ、右吟味司ノ外別ニ管理局ヲ設オキ、区内ノ学校又ハ共用学校ヲ差配セシム

此局ノ官員ハ諸州ニ於テ種々ノ差別アリト雖、区内ノ牧師ハ必ラス其官員ニ加レリ、且多分其局ノ席頭ナリ

プロシヤ州ニ於テハ、常々学校ヲ建立セシ者ヲ以テ其局ノ席頭トナス、然シ其席頭タル者多分ハ大ナル領地ノ持主ニシテ、一切會議ノ場ニ臨マサルニヨリ、其所ノ牧師ヲシテ其役ヲ替勤セシム

ポメラニア○シレジャ等ノ諸州中ノ郷里ニ於テハ、管理局中ノ官員一切會議ノ場所ヘ出ザル者アリ、且其場ニ臨ムトモ牧師ヲシテ万事商量セシメ、自身ニ於テ唯其ヲ許可スルノミ

市邑ニ於テハ其所ノ政府ヨリ、シユール・デ・ピユテーシヨン〔デ・フタツイオーン〕ト称スル一局ヲ設ケ、其所ノ教育事務ヲ弁理セ〔シ〕ム、一区ノ牧師ヨリ一等高キ者ヲ監督ト称シテ、其役目ニヨリ、矢張其支配スル地方内ノ学校ノ吟味司ナリ、然シ此吟味司ヲ称シテ地方吟味司ト云ヒ、区内ノ牧師ヲ称シテ区内吟味司ト云

地方吟味司タル者ハ毎年其地方ノ三分一ヲ巡察ス、且其地方ニ属スル区内ノ学校モ巡察セリ

地方ノ吟味司タル者、数十年前ハ殊ニ微々タル者ナリシガ、其ノ巡察ノ事ニ付キ十年以来大ニ權勢ヲ得シニヨリ、其巡察ノ時ハ地方ニ於テ重大ナル義式ヲ設ケ之ヲ遇シ、且学校ノ教官及生徒等ヲシテ寺院ニ趣キ説法ヲ聞シム

然右等ノ事ハ其巡察ノ時ノ義式ニシテ、其吟味司ノ真ノ試験ヲ為ス事ハ、一年一度ノ大試験ノ時ナリ、然シ自ラ試験ヲ為サズ唯其席ニ臨ムノミ、地方ノ監督ヨリ一等高キ者ハ高宗師ニシテ、総督ノ称ヲ帶ヒタリ、然シ此称ハ唯虚名ニシテ、其職分ハ州内寺会ノ統領ナリ

但シ此寺会ハ彼監督ノ右ニアリテ、重ニ寺院ノ事務ニ關係シテ教育事務ニ係ル事稀ナリ、然シ教官学校ヲ差配スル事ハ此寺会ノ手ニアリテ、彼監督ノ差配セザル所ナリ

小学校及其教官等ハ直ニ此寺会ノ差配ヲ不受、然シ学校評議局ト称スル文官アリ之ヲ差配ス

プロシヤ全國ノ内部ヲ支配スル官局ヲ内國事務省ト稱ス、且其次級ナル者ヲオブル〔オーバー〕・プレジデント  
稱シテ一州ノ知事ナリ、但シ全國ヲ分チ八州トナシテ、其州名ハプロシヤ、ポーゼン、シレシヤ、ポメラニヤ、  
ンデンボルヒ〔ブランデンブルク〕、サクソニー、ウエストファリヤ、及ヒラインナリ

各州ヲ數地方ニ分チ、地方毎ニレーギーロングス・プレジデント〔地方令知事〕ト稱スル官吏ヲ置キ之ヲ差配セシム  
各州ノ知事ヲ撰擧シ、又ハ免職セシムル事ハ、全ク内國事務卿ノ掌内ニアリ  
州内ニ會議局アリテ其知事ヲ補佐ス、但シ評議局中ニ二部分アリテ、其一ハ寺會ト稱シ寺院一切ノ事務ヲ評議シ、其  
他ハ學校局ト稱シテ知事ト合シ、一ノ評議局ヲ為シ州内ノ教育事務ヲ評議ス

州ノ知事タル者ハ内國事務卿ノ配下ニシテ、其卿迄書キ上ケテ差出シ、寺院ノ事務ニ係リテハ教部兼文部卿ニ付屬  
シ、其卿迄書キ上テ差出ス

小区令タル者モ矢張二ケノ評議局（プロテスタント、カトリキ）ノ補佐ヲ得テ其地方内ノ教育及ヒ寺院事務ヲ弁理ス  
一大区ヲ再ビ數地方ニ分チ、ラントラート〔補〕「区會」ト稱ス、官吏ヲ設ケ其区内ノ事務ヲ弁セシム、但此ラントラート  
ヨリ大区知事迄書上ケテ為ス

右ニ挙ケタル官員ノ等級ハ左ニ於テ見ルベシ

第一 内國事務卿、第二 州ノ知事、第三 郡ノ知事、第四 区令

但シ教育事務ニ付、右ノ官員ト共力シテ事ヲ計ル者ハ左ノ如シ

第一 内國事務卿ノ同伴タル者ハ教部兼文部卿、第二 州ノ知事ノ同伴タル者ハ州内ノ學校評議局、第三 地方令ノ  
同伴ハ地方ノ學校評議局、第四 区令ノ同伴ハ地方ノ吟味司ナリ

小学校ノ事務ハ尽ク右官局員ノ等級ヲ経ザルベシ、然其手ヲ経ルトモ唯虚ノ為ナルノミ

学校ヲ管理スル事ハ州ノ学校評議局ト大区ノ学校評議局ノ手ニアリテ、州ノ評議局ハ州内ノ高尚ナル学校ヲ管理シ、大区ノ評議局ハ大区ノ小学校ノ事務ヲ弁理ス、但シ大区ノ評議局ハ州ノ評議局ノ配下ニアラズシテ、其書上ケモ文部卿迄直ニ差出セリ、然シ其書上ケハ唯虚形ノ為、其州ノ政府ノ手ヲ経ザルヲ不得、且州ノ知事ノ職掌ハ唯其書上ヲ大政府ヘ差出ス事ニ限レリ、然シ場合ニヨリ其書上ケニ己ノ存意ヲ加フル事ヲ得タリ

右ニ挙げタル通りプロイセンニ於テハ、文官ヲ挙げ僧員ト共〔ニ〕教育事務ヲ弁理セシムルニヨリ、ウオルテンボルク邦ノ如ク僧員ヲ挙げ全ク教育事務ヲ弁理セシ〔ム〕ルト異ニシテ、大ニ寺院ノ権柄ヲ限レリ、然シ小学校ヲ差配スル者ハ多分僧員ニシテ、第一ニ区ノ牧師ハ区内ノ学校ノ吟味司、第二ニ地方ノ監督ハ其地方ノ学校ノ吟味司ナリ、然シ地方ノ吟味司ト共ニ教育事務ニ係ル者ハ地方ノ学校評議局ニシテ、其ノ吟味司ノ権ヲ限り、且州ノ教会モ亦ウオルテンボルク邦ノ教会ノ教育事務ニ関係シ大権ヲ握ルト全ク異ニシテ、唯州内ノ寺院及ヒ教育事務ニ付キ其州ノ知事ヲ補佐スベキ議員ニ充ルノミ、且文部卿ヘ書状ヲ達スルニモ其知事ノ手ヲ経サルヲ不得次第二シテ、教会ノ権ハ文官ノ権ニ比スレハ稍下レリ

千八百五十年ニ於テ聖經寺院局（エウアングエー）リシエ オベル・ケルヘンラート（オーバー・キルヒエンラート）ト称スル教会國中ニ群起シ、大権ヲ握ラント謀リシニ、遂ニ学校ヲ差配スル権ヲ不得ノミナラス、又寺院ヲ差配スル権モ握リ不得、且教会中ノ議論紛々ト生シ、其論ノ異ナルニヨリ遂ニ自滅スルニ及ヘリ

地方ノカトレキ評議局ニ於テ、カトレキノ僧徒ヲ挙テ其議員ト為スニ付、政府ニ於テハ通例カトレキノ高宗師ト商議ス、且高宗師タル者縱令純粹ノ法王左袒ノ者ナリト雖、兩三年ヲ不出シテ遂ニ政府ノ所置ヲ是トスルニ至ル

地方ノ吟味司

地方ノ大小ト其住人ノ多寡ハ大分差別アリテ、或ル地方ニ於テハ少クシテ六区又ハ八区、且多クシテ四十区以上ニ至ル

地方ヲ差配スル文官ヲ地方令ト称シ、且其地方ノ僧官ヲ監督ト称ス、地方内ノ學校ヲ管理スル事ハ多分其監督ノ職掌ニシテ、教育事務ノ一部分ハ其地方令ト共ニ管理シ、且他ノ最重要ナル部分ニ至テハ自ラ之ヲ管理ス

國家ノ事務ヲ管理スルニ必ラス内部外部ノ區別ヲ為シテ、學校ノ外部事務ノ如キハ彼ノ監督、地方令ト共ニ之ヲ弁理シ且商量スル等ヲ云ヘリ、但シ學校ノ入費ヲ取調べ（但シ其入費ハ學校評議局ノ検査ヲ經タル者ナリ）學校内外ノ所有品ヲ視察シ、學校所用ノ器械物件等ノ記簿ヲ証驗シ、學校ノ所有品及其積金ヲ差配シ、且其積金ヲ給与シ、學費税ノ多少ヲ定メ、教官ノ過チヲ責メ、束縛法ヲ〔以テ〕生徒ヲ入校セシメ、且地方内教育ノ進歩形況ヲ記ス等モ矢張其外部ノ事務ニ属セリ

地方令ノ一人ニシテ弁理スベキ職掌ハ、生徒ノ人員ヲ取調べ其ヲ地方ノ人員簿中ニ記スルニアリ

學校ノ内部事務ハ全ク學校ノ教方且生徒ノ奉スベキ規則等ニ係リテ、彼ノ監督、地方ノ吟味司ノ名ヲ以テ之ヲ弁理ス獨乙國ニ於ケル吟味司ノ字義ハ、唯學校ヲ視察シ且其形況ヲ政府迄書上クル事ニ止ラス、獨乙盟邦ニ於テ多分其吟味司ヲシテ、全ク學校ノ教方且生徒ノ奉スベキキソク等ヲ弁理セシム、且プロイセンニ於テ右ノ事務ヲ吟味司ニ委任セシハ實ニ近來ノ事ナリ、然シ又他ノ議論アリテ、吟味司タル者ハ唯學校ノ神學ノミニ關係スベキヲ以宜ロシトセリ、故ニプロイセンニ於テハサクソンハノーワル（ハノーファー）等ト異ニシテ、吟味司ノ弁理スベキ職掌ハ多分地方ノ學校評議局ノ手ニ落タリ、サクソンニ於ケル吟味司ハ確定ノ視察ヲ為ス外、臨時ニ學校ヘ來リ通例ノ教授ノ法方ヲ視察



シ、且己ノ裁斷ヲ以教授ノ法方、等級ノ分別、及他ノ学校内ノ規則ヲ變革スル權アリ

吟味司ノ教育事務ヲ弁理スルハ唯其視察ノ時ニ止ラス、若シ区ノ吟味司ノ決定シ難キ事件起シトキハ、之ヲ其吟味司ヘ差出シ其裁判ヲ求ム

地方ノ吟味司ハ矢張其地方ノ牧師及学校ノ教官ノ吟味司タルニヨリ、其小区ノ牧師其職掌ヲ奉ゼシヤ、且勉テ学校ヲ視察セシヤ、又ハ其レト教官方ノ關係如何ヲ探索セリ、且学校ノ學頭及教官ノ其教方ニ熟セン事ヲ勸メ、及ヒ如何シテ教ユベキ〔カ〕法方ヲ告ケ、且教育進歩ノ為メ地方ニ於テ教官ノ集會ヲ催サシメ、自ラ其會頭トナレリ

教官ノ欠席セシトキハ他ノ教官ヲ挙げ其職ニ当ラシム、又ハ教官休息ノ日限ヲ定メ、且虛弱ニシテ始終学校ヘ出テ難キ生徒ノ入校期限ヲ減シ、又ハ学校ヲ借シ他ノ用務ニ供スル事ハ尽ク此吟味司ノ掌内ニアリ

吟味司タル者ハ其職掌ノ為給料ヲ受クル事ハ甚稀ナリ、如何トナレハ其学校ヲ視察スルハ其僧官タルベキ職掌ノ一部分ナルニヨル、然シ其視察ニ付別段ノ入費アリシトキハ、其費金ヲ請取ルベキノ免許ヲ得タリ

此吟味司ニ学校管理ノ全權ヲ不与事ヲ計リ、別ニ其權ヲ妨クベキ方向ヲ設ケリ

学校ノ教官タル者己ノ主意ヲ是トシ、吟味司ノ命令ヲ非トセシトキハ、其ヲシテ其筋ヘ訴シム

此監督タル者ハ必ラス大区令ヨリ定メシ所ノ規則ヲ守ラザルヲ不得、但シプロイセンニ於テ其規則ハ殊ニ嚴密ナリ

学校ヲ視察スルハ唯此監督ニ止ラズ、地方ノ学校評議局及セミナール（教育学校）ノディレクトル等時々來リ之ヲ視察スルニヨリ、監督タル者モ亦己ノ權ヲ專ラニスル事ヲ不得

監督ヨリ毎歲、其大ク令迄学校ノ進歩形況ヲ書キ上ケリ

表  
サクソン國ニ於テ此書上ハ簿冊ニシテ、学校ノ數、生徒ノ人員等ハ寺院ノ人員ト合シテ一トス



プロイセンニ於ケル監督ノ書キ上ケハサクソン國ノ書上ノ簡略ナルト異ニシテ、其内ニ己レノ目的裁斷等ヲ記セリ  
ウエストフアリヤン州中ノ大区令、地方ノ吟味司迄渡セシ書上ノ雛形ハ左ノ如シ

長文ヲサケ且其文体ハ順序ノ宜ロシキ口上ノ如クスベシ、且第一ニ事情ヲ記載スルニ一切華文ヲ避ケ、強メテ短文  
ヲ用ヒ、克ク順序ヲ立テ、各個条ヲ一々區別スベシ、且最末ニ於テ吟味司ノ官名ヲ記スベシ、但シ拾遺又註解ノ類  
ハ其本文ト異ニスベシ、第二ニ吟味司タル者學則、事故、地方又人民ノ形況等ニ係リ己レノ存意ヲ<sup>(述)</sup>延ルトキハ、宜  
シク確証ヲ得ベシ、第三ニ己ノ擬議ヲ加フベシ

書上ノ記シ方ハ、第一ニ其ヲ片紙ノ右ノ一半ニ記シ、左ノ一半ハ其儘ニアケ置キ、且文字ヲ鮮明ニ書キ決テ略字ヲ用  
ヒサルベシ、第二ニ左ノ一半ニ於テ月日ト地名ヲ記シ、月日ノ下ニ於テ其書上ノ目錄ヲ記スベシ、且格段ナル申達ア  
リテ吟味司ノ書上ヲ求メシトキハ、宜ロシク其申達書ノ月日官名番号等ヲ記載スベシ、第三ニ事故ノ異ナルトキハ其  
個条ヲ區別スベシ、第四ニ其書上若シ數片紙ニ及シトキ、宜ク其ヲトゲテ一小冊ト為スベシ、第六ニ書上ヲ成就スベ  
キ確定ノ日限ハ、其申達書ヲ受取リシヨリ算スベシ、但シ書上ヲ差出ス事ハ此ノ日限ヲ不出ルベシ、然シ若シ延引ニ  
及シトキハ、其次第ヲ逐一解明スベシ、第七ニ其書上ハ彼申達書ヲ出シ、且右等ノ事務ヲ弁理スル官局迄差出スベシ  
寺院及ヒ學校ニ関リテ監督ヨリ及ス所ノ勢ハ、當時プロイセンノ形勢ニ於テ充分ナル推算ヲ為能ワズ

地方令ニ於テハ監督ノ強テ教育事務ヲ弁理セザル事ヲ怒リ、又監督ニ於テハ地方令ノ唯監督ヲ使役シテ其事務ヲ弁理  
スベキ權柄ヲ与ヘザルヲ

〔二行分切損、新島自身によるものか〕

ヲ以テ少ク不快ノ心ヲ抱蔵セリ、然シ近來政府ト寺院ノ交際密ナルニヨリ、聖經ヲ講窮スル法家タル者ローマン・カ

トレキ〔カトリック〕僧徒ノ例ニ倣ヒ、強テ学校差配ノ權ヲ握ラント欲セハ、當時カトリキ宗師ノ己ノ学校ヲ差配スル如ク、恐クハ其志願ヲ呈スルニ庶幾センカ

#### 区内ノ吟味司

各区ノ牧師タル者、区ノ吟味司トシテ区内ノ学校ヲ差配スルハ、尚監督ノ地方ノ吟味司トシテ其地方ノ学校ヲ差配スルガ如シ

單一ノ学校又ハ共合学校（教区合シテ一校ヲ保存スルヲ云）毎ニ必ラス管理局アリ之ヲ差配ス、但此管理局内ノ規則及其行フ所ハ、原文ノ第百八十七葉ニ記載セリ、何ノ区ヲ不論其区ノ牧師タル者ハ、必ラス其管理局官員中ノ一人ナリ、区内ノ学校ヲ差配スルニ矢張内部外部ノ別アリテ、牧師タル者ハ其区ノ吟味司ノ職ヲ以テ内部ノ事務ヲ弁理シ、且外部ノ事務ハ至テ管理局ノ官局之ヲ弁理ス

牧師ノ職掌ハ、唯確定ノ期限又ハ試験ノ時ニ学校ヲ巡察スルノミナラス、又時々強メテ其ヲ巡察スルニアリサクソンノ国ニ於テハ、牧師ノ学校ヲ巡察スル事少ナクトモ一周間一回ニシテ、且其職掌ハ唯巡察スルト書キ上ヲ為ストニ止ラス、学校隆盛ノ為教官ヲ扶助シ、強メテ生徒ト親睦シ、且其進歩ヲ視察シ、及ヒ教官ト生徒ノ父兄トノ間ニ在リテ学校ノ事務ヲ弁理スルヲ以テ又己ノ職分トス

区ノ吟味司ノ奉スベキ重ナル職掌ハ生徒ノ勤怠等ヲ窺視シ、其ヲ地方ノ監督迄書キ上ケ、生徒ノ父兄ニ向ヒ、子弟ニ教育ヲ加フルハ其ノ職分ナル事ヲ説キ、強テ子弟ヲ学校ヘ出サシメ、教官ノ手帳ヲ調べ、教官ト商議シ學課ヲ定メ、共合学校ニ於テ時々教官ノ集会ヲ催シ、自ラ其席頭トナリ、教官ヲシテ教方ニ付議論セシメ、其議論ノ仕方ヲ端正スルニアリ

且或ル場合ニヨリ、牧師タル者休業ノ日限ヲ定メ、教官暇ヲ与ヘ兩三日ノ間退校セシム、但シ其退校ノ日限ハ兩三日ヲ不過ルベシ

学校ニ於テ教ユル所ノ神学、縦令種々ノ宗派ニ属スルト雖、牧師タル者ハ必ラス其ヲ巡視シ、各其所ヲ得セシム

牧師ハ又高級ナル教育懸リノ官局ト学校管理局ノ間ニアリ、其官員ノ文通ヲ上下セリ

地方ノ監督タル者ハ、其区ノ牧師ノ学校巡察ノ勤怠ヲ看守ス

或ル盟邦中ニ於テハ、牧師タル者己ノ学校ヲ視察セシ回数ヲ記セリ

学校ニ一簿ヲ置キ、牧師若シ視察セシトキハ其月日、其日ノ時刻、生徒出席ノ数、其修業セシ科目、己ノ如何シテ生徒ノ進歩ヲ探視シ、且教官ノ学力ヲ試験セシ等ヲ尽ク其簿上ニ記シ、且必用ナルトキハ教官ノ教方及ヒ生徒ノ挙動行狀ニ付、己ノ存意ヲ延ベリ、但シ此簿冊ヲ以年々其地方ノ官局迄差出スハ、唯学校ノ形況ヲ書キ上ルノミナラス、且牧師ノ学校巡察ノ勤怠ヲ証スル一法ナリ

牧師ノ職掌ハ決シテ右ノ事件ニ止ラス、学校ニ於テ生徒ニ神学ヲ授クルハ多分牧師ノ手ニアリテ、其ノ勞スル所甚不少、生徒卒業ノ前ニアタリ神学ノ試験ヲ受ベキ予備ヲ為サシムル為、牧師タル者ハ一日ニ一時間ヲ費ヤシ問答書ヲ以生徒ヲ教授ス、故ニ区内ノ少年中一人モ牧師ノ手ヲ経ザル者ハナカリシ、但シ牧師ノ神学ヲ教授スルハ、通例イーストル（耶蘇ノ蘇生日ヲ記念スル為ノ祭日ナリ）ノ前ヨリ初マリテ、其連続スル事或ル盟邦中ニ於テハ六周日、他ニ於テハ三ヶ月、或ハ三ヶ月以上ニ至ル

ウォルテンボルグ国ニ於テ卒業ノ試験ヲ受クベキ者ハ、神学ノ教授ヲ兩回受ケサルヲ不得、其初回ニ於テハ唯其教授ヲ聽聞シ、第二回ニ於テ問答書ヲ以自ラ神学ノ教授ヲ受ク

但シ此処ニテ神学ト称スルハ聖經中ノ歴史、及ヒ兼テ学校ニテ教ヘシ所ノルーテル（人名）著述ノ問答書ヲ繰カヘシ、其上高尚シタル宗教ヲ教ユルヲ云ナリ

ウォルテンボルグ国ニ於テハ其試験ノ予備ノ外、牧師タル者年中学校へ出テ神学ヲ教ユル事ハ、少クトモ一周間ニ二回ニ至ル、（郷里ニ於テ唯初等ノ生徒ヲ教ヘ、スタットガルド（首府）ニ於テハ上等ニ属スル二級ヲ教ヘリ）

牧師ノ学校ヲ差配スルベキ権ハ、其ノ者ノ才力ト人民ノ氣質トニ関係シ大ニ多少ノ差別アリテ、一所ニ於テハ管理局中ノ官員全ク分離シ、学校差配ノ権ハ唯牧師ノ手ニ落チ、又他所（別シテ市邑ニ於テハ）其権多ク其議會ノ手ニアリベルリン府及他ノ市府ニ於テ、牧師ノ此権ヲ失ひシハ敢テ政府ヨリ其ヲ奪ヒシニアラス、然シ牧師タル者己ノ勤ムベキ真ノ職分ノ外、又学校ノ事務ニ関係スルハ其勤勞甚大ナルニヨリ、且或ル市府ニ於テハ牧師ノ所置人民ノ所望ト大ニ反スルニヨルナルベシ

北方ノ独乙国中多分地方ノ権柄微弱ナリト雖、政府ノ全ク奪ヒ得ザル自治ノ権柄自ラ存在シ、プロイセンニ於テ学校代理局乃管理局ヲ其地方ヨリ撰挙スルハ、乃チ地方ノ自治権ノ一ニシテ、此局若シ憤発シテ学校事務ヲ弁理スルニ及ハズ、牧師タル者自ラ其権ヲ專ニスル事ヲ止メ、又或ハ其局ト不和ヲ生スルニ至レリ、然シ牧師中甘ジテ市府ノ学校評議局ノ管轄ヲ受ケ、好テ学校事務ヲ弁理スベキ寛裕ナル人物ニ乏キニアラス、スタットガルド（シュトゥットガルト）府ニ此職（代理官）ヲ奉スル者ハ一ノ神学者ナリ

学校ノ評議役タル者ハ法家ニアラスシテ、差配ヲ受ベキ者ハ法家ナリト雖、決テ不都合ヲ生スルニアラス、但シ評議役ハ政府ヨリ撰シ、代理官ハ人民ヨリ挙ケタル者ニシテ、多分市邑ノ法家タル者政府選挙ノ役人ニ左袒シ、人民中不羈ノ志ヲ抱藏スル者ヲ圧迫セリ、（但シ政府ノ役人ニ左袒スルハ市邑ノ法家ニ限ラス、郷里ニテモ亦其党無キニアラ

ス、且最モ歎スベキ事ハ通例法家ノ好テ學校事務ヲ弁ゼサルニアリ

メルシボルグ〔メルセブルク〕（プロシヤン・サクソニーノ内ニアリ）ノ政府ヨリ千八百五十八年ニ書上シリポルト中ニモ、法家ノ好テ事務ヲ弁ゼザルヲ糺シ、政府ノ官員ノ其權ヲ握ラン事ヲ望メリ、且昨年中或ル州ノ寺會ヨリ州内ノ法家ヘ申達セシ書狀ノ写ハ左ノ如シ

我等按スルニ牧師中ノ面々強テ學校ヲ巡察シ、且其ヲ管理シテ偏ニ独一眞神ノ道ヲ宣布スル事ヲ計ル者甚不少、然牧師中ニモ亦己ノ職掌ヲ忘却シ、學校ノ巡察等ヲ怠ル者アルヲ聞キ及、遂ニ我等ヲシテ牧師タル者ノ好テ其職ヲ奉ゼサル事ヲ疑シム、故ニ再ヒ千八百五十一年貴殿中迄申達セシ事件ヲ遂懷シ、貴殿ヲシテ寺院ト學校ノ關係甚大ナルヲ知ラシ〔ム〕ル事ヲ望ム、依テ我等尊敬スベキ牧師ノ、以後強テ配下ノ學校大小ヲ不論之ヲ視察シ、唯己ノ職掌トシテ神學ヲ授ルノミナラズ、又其教ユベキ学科及ヒ其教方等ニ至迄モ勤メテ注目シ、其教ユル所ヲシテ克ク聖經ノ真理ヲ失ワシメザラシメ、懇勸ニ教官ヲ教導シ、且其ヲ慰安シテ職分ノ疲労ヲ堪シメ、必用ナルトキハ他ノ教官ヲ挙げ其職ニ當ラシメ、又断然トシテ教官ノ過誤ヲ糺シ、或ハ其美事ヲ賞シ、且寺會配地ノ規則ニ准シ強メテ教官ノ集會ヘ出張セン事ヲ望ム

且我等地方ノ監督ニ望ム所ハ、其確定及臨時ノ巡察ニ當リ、其リポルト中ニ宜ロシク区内ノ牧師ノ行狀、且其學校視察ノ勤怠ヲ記載スベシ

右ノ書狀ニヨリ之ヲ見ルニ、政府ニ於テモ決テ牧師ト學校トノ關係密ナル事ヲ嫌フニアラス、如何トナレハ牧師タル者ハ、人民中不羈ノ心ヲ抱キ政府ノ所置ヲ誹謗セン事ヲ企ツル徒党ヲ訓導シテ、良民トナラシムル為ノ好器ナルニヨル、且父兄ニ説キ、其子弟ニ教育ヲ加ルハ其職分ナルヲ知ラシメ、且其ヲシテ強テ子弟ヲ入校セシ〔ム〕ルハ実ニ牧



師ノ長ズル所ニシテ、束縛法ノ遙ニ及ハザル所ナリ、且教官ノ勞スル所甚大ニシテ、其報酬ノ殊ニ僅カナルヲ悲歎スルトキハ、是又牧師ノ慰安スベキ所ニシテ、牧師ノ吟味司タルモ実ニ容易ナラザル職分ナリ

牧師ノ吟味司タルハ決シテ政府又ハ會議ヨリ之ヲ選舉セシニアラズ、實ニ学校弁理ノ為勢欠クベカラザル者ニヨル、故ニ牧師ノ權甚深大ニシテ、政府ノ官吏ノ一朝ニ之ヲ變換シ易キノ類ニアラス

千八百四十八九年ノ間ニ當リ、独乙國中ニ種々ノ混亂ヲ生シ、人民蜂起シテ国法ヲ改革セント計リシトキ、其議論モ教育事務逐及セシニ、彼等ノ敢テ束縛法ヲ止ムルニアラス、唯学校ヲシテ自由ナラシメン事ヲ企レリ、但シ此自由ノ字義ハ全ク自裁ト云意ニアラス、唯多少自裁ノ權ヲ得乃牧師ノ<sup>〔マ〕</sup>弁ヲ脱シテ政府ノ管轄ヲ受クル事ヲ望ミ<sup>〔補〕</sup>「ヲ云ナリ」、但シ此自由ノ字義ハ此處ニ於全ク自裁スルト云意ニアラス、唯多少学校ヲシテ自裁ノ權ヲ得セシメ、且牧師ノ手ヲ脱シテ政府ノ管轄ヲ受ケシムルヲ云ナリ

右ノ徒党中ニ自ラ異論ヲ生シ、或ル徒派ノ所論ハ、宗門ノ教授ハ全ク牧師ノ手ニ委任シ、学校ニ於テセズシテ寺院ニ於テセシムルヲ是トシ、他ノ徒派ノ議論ハ矢張学校ニ於テ宗門ヲ教ヘ、且牧師ヲシテ唯宗門ノ教授ノミ視察セシムルヲ是トセリ、其後実ニ教育ノ法方ヲ論ゼシ輩モ、宗派ヲ教ユル学校ハ當時独乙國中ニ於テ実ニ廃止シ難キ者ナリト決定セリ

平常ノ学科ノ教方ヲ論スル者多々ナリト雖、未タ合衆國マスサチュセツツ邦ノ学校ニ於ルカ如ク、一切ノ宗派ヲ不<sup>レ</sup>論、唯生徒ヲシテ聖經ヲ素読セシムルヲ是トセシ者アラズ、然シ教官中地方視察ノ法方ヲ甘セザル者甚多シ

教官中彼ノ吟味司ノ教方ヲ不知、且彼等教官学校ニテ兼テ学得シ所、教授術等ニ一切不通シテ、更ニ教方ノ良否ヲ弁ゼザル事ヲ悲歎シ、且教方ノ巧拙ヲ視察スベキ者ハ、矢張他ノ職業ノ如ク其職掌ニ熟達セザレハ其奧妙ヲ視ル能ワサ

ルニ、彼等ヲ視察スル者ハ大学校ニテ脩業セシ白面ノ生徒ニシテ、未タ小学校ノ形況ト其教方如何ヲ不知ル故、甘ジテ其視察ヲ受ケ難キ事ヲ主張セリ

教官、牧師ノ学校一切ノ事務ヲ視察スル事ヲ止メ、唯日課ヲ定メ臨時ニ学校ニ来リ、教官ノ其定課ヲ守リシヤヲ視察セン事ヲ望メリ、牧師タル者通例大学校ニテ脩業シ、且其職分モ遙ニ教官ノ右ニ出タルト雖、プロイセンノ大学校ニ而神学ヲ脩メシ者ノ学力、時トシテハ教官ノ学力ニ如カザル場合アリ、故ニ教官牧師ト不和ヲ生シ、教官ハ牧師ヲ誹謗シ、牧師モ亦教官ノ未熟ナルヲ政府迄訴ヘリ

右ノ患ヲ防クハ他事ニアラス

〔〕牧師教官ノ不和ヲ生スルノ患ヲ防クハ他事ニアラス、唯教官ノ教育ノ法方ヲ变革シ、且吟味司ノナスベキ職分ヲ克ク奉シ得ベキ方向ヲ立ツルニアリシ

教官ニ係リテハ千八百五十四年ノ法則ヲ以、其教方ニ尽力スベキ方向ヲ立テタリ、但シ教官教方ニ係リテハ第三篇ニ委々書記スルニヨリ、茲ニ於テハ吟味司ノ職掌ヲ奉シ得ベキ方向ヲ書記セン

〔マ〕千八百九十九年ノ比ヨリ牧師ト為ベキカンディーツ（未タ牧師トナラサル内）

〔〕教育術ノ試験ヲ受ケ、且トカデキズム等の試験ヲ受ザルヲ得ザリシ

千八百四十二年以来政府ニ於テ州ノ教会ト交渉ノ上、遂ニカンディーツヲシテ教方熟達ノ為六周ノ間セミナールニ出テ、教官ノ教方ヲ守看スベキ事ヲ定タリ、且右ノ外牧師タルベキカンディーツハ大学校ニ於テ教育術ヲ脩メザルヲ不得、牧師タル者ノ真職ハ耶蘇ノ道ヲ講スルニアルニヨリ、別ニ学校ヲ管理スルハ其勞甚不少シテ遂ニ其ヲ全ヲ得ザルニ至ル、故ニ近来セミナールノ頭取ヲセミナール近傍ノ学校ヲ巡視セシム、但シ此セミナールノ頭取ハ克ク教方



ニモ熟達シ、且学校ノ教官ハ多分其頭取ノ手ヲ經タル者ナルニヨリ、頭取タル者克ク教官ノ氣質学力ニ至迄尽ク合達セシ故、此頭取ヲシテ学校ヲ視巡セ〔シ〕ムルハ実ニ妙法ナリ、且之ヲ使役スル政府ニ於テハ唯其旅費ヲ払ノミ

### 〔三頁空白〕

#### 学校保存ノ積金

独乙盟邦中積金アリテ学校保存ノ費用ニ供ス、但シ此積金ハ近来或人民ヨリ寄賦セシ所ヨリ来リ、又ハ素ト寺院ニ属セシ土地ノ税中ヨリ来レリ

或ル盟邦中ニ於テ、寺院ノ管轄ヲ脱セシ土地ヨリ出ル所ノ税ヲ以種々ノ費用ニ供スルニヨリ、学校ノ得ル所ハ唯其小部分ナリ、但シ此類ノ所有品ハ都ベテ政府ノ手ニ入リテ、プロンスウツキ〔ブラウンシュヴァイク〕邦ニ於テハ別ニ一局ヲ設ケ其ノ歳入ヲ管理セシム、人民ヨリ寄賦セシ所モ亦多分政府ニ於テ克ク此ヲ保護シ、寄賦セシ者ノ所願ニ応セン為、年々莫大ノ金ヲ出シ学校等ノ費用ニ供ス、ハルレ〔ハレ〕府ニ於ケル有名ナルフランケ・ハウンデーシヨン〔フランク氏ノ寄賦シタル積金ナリ〕ノ如キハ、矢張政府ノ所有トナリテ、毎歳政府ヨリ二万タラ〔ターラー〕ヲ給シ学校ノ費用ニ供ス、但シ此二万タラハ彼積金ヨリ出ル所ノ利金ノ高ト殆ト齊シ

如斯基寄賦セシ積金ハ、縦令政府ノ所有ト成ルトモ唯之ヲ保護スルノミニシテ、之ヲ給与スルモ唯其寄賦セシ所ノ学校又ハ其地方ニ限レリ

寺院ヨリ寄賦スル所ノ土地ヨリ出スル所〔ノ〕租税ハ全ク政府ノ所有ナリト雖、政府ニ於テ之ヲ配分シ、カトレキ及プロテスタン〔ト〕寺院又ハ学校ノ費用ニ充ツ

千八百五十九年ニ於テ如斯基土地又ハ寄賦金ヨリ生ゼシ所ノ利金ハ、プロイセンニ於テ總計四十八万タラニ至レリ、

但其内三十二万六千タラハ全ク教育ノ為ニ費ヤシ、且其余リ十五万四千タラハ寺院及其教育ノ費用ニ供スベキ算計ナリ、然シ政府ヨリ五万九千五百タラト九万四千一百タラヲ給シ、或ル地方ノ慈悲施濟ノ為ニ供セリ、但シ此金ノ依テ生セシ所ノ比例幾何ト、プロテスタント及カトレキ寺院、学校等ノ費用ノ為配分セシ所ノ比例幾何ナルハ甚不分明ナリ、ウォルテンボルク邦ニ於テハ国王ノ自裁ヲ以テ寺院や学校等ニ属スル所有品ヲ尽ク政府ニ付属セシメ、且年々莫大ノ金ヲ総シテ寺院学校等ノ費用ニ供ス、但シ政府ヨリ給スル所ハ遙ニ彼ノ所有品ヨリ出ル所ノ利金ニ超越セリ如斯基寄賦ノ積金ヲ以テ小学校ノ費用ニ充ツル事甚僅ナリ、故ニ人民ヨリ出ス所ノ租税ヲ以、甚莫大ナル小学校ノ費用ニ供ス、但シ此税中ニ三種アリテ、其一ヲ學費税、其二ヲ地方税、其三ヲ一般税ト称セリ、此三種ノ税中重ニ第二ノ税ヲ以小学校ノ費用ニ供セリ、如何トナレハ第一ノ税ハ生徒ノ貧富ニ准シ多少ノ別アリ、第三ノ税ハ全ク寒貧ニシテ学校ヲ保存シ得難キ村落ヲ扶助スル為ニ供スルニヨル、故ニ寒貧ナル村落ト雖、学校年期ノ童幼ノ為教育ノ方向ヲ設ケサルヲ不得

右三種ノ税ヲ以テ小学校ヲ保存スル事ハ独乙盟邦中一般ニ行ルト雖、地方税ノ取立方ハ国々ニ於テ又自ラ差別アリ、サクソンニ於テハ各村ノ人民其税ノ多少ヲ定ムベキ権アリテ、其ノ多少ノ別ハ学校一切ノ費用ニ准ゼス、全ク人民ノ貧富ニ准セリ

確定ノ學費税ハ少クシテ一周ニ一グロスセン、多クシテ一年ニ二十五ドルニ至リテ、区内ノ学校管理局ヨリ之ヲ取集メリ、然シ此税若シ不足シテ学校ノ入費ニ充テ難キトキハ、此管理局ヨリ人民ニ赴告シ其不足ヲ補シム

市邑毎ニ臨時ノ費用ニ供セン為、多分四種ノ積金(寺院、学校、救貧、市邑等ノ積金ナリ)ヲ蓄置ケリ、但シ学校積金ノ依テ出スル所ハ、欠席シタル生徒ヨリ取上タル罰金、学校保存之為寺院ニ於テ時々集メタル寄賦金、又ハ寺院所

藏金（此ハ寺院ノ積金ト異ナリ）ノ余分ニシテ、其高ハ甚タ僅ナリ

學費税ノ不足ナルトキハ此積金ヲ以其不足ヲ充タシ、其上不足ナルトキハ人民ヨリ出ス所ノ頭税ヲ以テ其不足ニ供ス、若シ其上不足ナルトキハ人民ノ所有品ヨリ所有品ノ価ニ准シテ税ヲ取ルナリ、出ス所ノ税ヲ以其不足ノ分ヲ充タシム

挙国出ス所ノ一般ノ税デ区内ノ学校ヲ扶助スル事ハ甚稀ナリ、然シ或ル人民甚寒貧ニシテ、且学校ヲ保存スベキ寄賦金等之無キハ、政府ニ於テモ一般ノ税中ヨリ幾何ノ金ヲ取出シ、其区ノ学校ヲ扶助セリ

サクソン国ノ領中ノ寄賦金ハ甚僅ナリ

〔サクソン国中唯アッパルローゼーシャ〔オーバー・ラウジッツ〕（地名）称スル所ニ於テノミ一ノ寄賦金アリ、其毎歳ノ利金ノ八千ドルニ至リテ、多分学校ノ費用ニ供セリ

人民若シ寒貧ニシテ政府ヨリ扶助ヲ得ント欲スルトキハ、第一ニ其区内ノ吟味司ヘ其仔細ヲ告ヘサルヲ不得吟味司之ヲ探索シテ弥其学校ヲ保存シ難キヲ証セントキハ其由ヲ記シ、之ヲ大区知事迄差出シ、且地方令ヲシテ之ヲ文部卿迄差出シム、文部卿ニ於テ其書上ヲ検査シ、弥人民ノ貧窮ナルヲ証スルトキハ、政府ノ積金ヨリ幾何ヲ出シ其不及ル所ヲ扶助ス

サクソン政府ニ於テ貧窮ノ村落ヲ扶助セン為毎歳給与スル所ハ總計二万ドルラルスナリ、之ハ未タ正シカラズ

プロシヤニ於テ人民若シ貧窮ニシテ政府ノ扶助ヲ求メントキハ、其区令区内ノ入費ヲ取調、無益ノ費ヲ省キ、其ヲ以テ学校ヲ保存スル事ヲ専務トス

バーデンニ於テハ已ム事ヲ不得、人民ヨリ多分ノ税ヲ取リテ、其高確定ノ學費ニ超越スト雖、政府ヨリ給スル所ハ唯

平常ノ學費ヲ充タスノミ

サクソニーニ於テハ、人民ヨリ學費稅ト所有品稅トヲ取り、學校ノ入費用ニ供ス

他ノ盟邦中ニ於テ多分學費稅トシテ集ムル所ハ頭稅ノ類ニシテ、ウォルテンボルクニ於テハ一家ヨリ幾何、ブロンスウッキニ於テハ一人ヨリ幾何ヲ出サシム

プロイセンニ於テハ租稅ノ取上方ハ各地方毎ニ自ラ不同アリ、國稅ト稱スル者ハ乃チ一般ノ稅ニシテ、國中一般ノ費用ニ供シ、地方稅ト稱スル者ハ其地方ノ人民ヨリ之ヲ集メ、其地方ノ費用ニ供ス（但シ此地方稅ハ千七百九十四年ヨリ初マリシ由）

一地方ニ於テ學校保存ノ為寄附金ノ助ナキトキハ、一切人民ノ宗旨ノ異同ヲ不論、其ヲシテ所有品ノ多寡ニ比例シ教官ノ給料ヲ払サシメ、又ハ土地ノ產物等ヲ以其所用ニ供セシム

人民ヨリ區<sup>〔カ〕</sup>ノ入費ヲ惜ミ教官ノ給料ヲ減スル事ヲ防カン為、諸邦ニ於テ其小数ノ給料ヲ定メタリ、然シ其給料ノ高低ハ矢張教官在職ノ長短ト、其地方ノ人民ノ多少ニ准シテ大ニ差別アリ

プロイセンニ於テ千八百四十八年以來、政府ヨリ各地方ノ知事ニ命シ、地方ノ教官ヲ保存スヘキ事件ヲ仔細ニ探索セシメ、其給料ヲ増シテ容易ニ活計スベキ方向ヲ立テタリ

プロイセンニ於テ教官ノ給料ヲ決定セザルハ、物產ノ多少、人民ノ貧富等各州ニ於テ大ナル不同アルニヨルベシ、如何トナレハ一方ニ於テ教官ノ甚安樂シ活計スベキ給料ハ、他方ニ於テ唯暫ク口ヲ糊スノミ

# 区内ノ學校管理局

ウォルテンボルグ邦ニ於テハ、区内ノ寺院管理局タル者、矢張区内ノ學校管理局ヲ兼勤セリ

プロイセン國中ライン河上ノニューウィード〔ノイヴィート〕ト云所ニ於テハ、法教家タル者ルーテルン寺院及改正寺院付屬ノ学校ヲ管理セリ、此ハ素ト耶蘇宗門ノ大變革アリシトキ、此所ノ大名タリシ者プロテスタント宗ニ屬〔シ〕、且其人民モ多分其同旨ヲ奉ゼシニヨル

サクソニーニ於テハ市邑會議タル者学校ヲ差配スベキ權ヲ掌握シ、牧師ヲシテ学校事務ヲ弁理セシム

若シ市邑ノ人員甚大ニシテ其會議ノ官員モ数多アルトキハ、其内ヨリ幾何官員ヲ撰挙シ学校事務ヲ弁理セシム

通例区内ノ牧師タル者、其職分ニ応シ学校管理局ノ席頭タラザルヲ不得、若シ数区共力シテ一ノ学校ヲ保存スル場合ニ於テハ、其地方ノダイレクトリーヨリ牧師数人中一人ヲ挙ケ其学校ノ吟味司ト為シ、管理局ノ席頭ヲ兼シメ、且他ノ牧師ヲシテ矢張学校ヲ視察セシム

若シ区内ニ学校ヲ寄附セシ者アルトキハ其ヲシテ管理局ノプレシデント〔ト〕シ、且牧師ヲシテ副プレシデントトシ、其局中ノ事件ヲ記載セシム

プロイセン及其學則ニ依頼シタル諸邦ニ於テハ、一ノ学校毎ニ必ラス一ノ管理局ヲ設ケリ、但シ局中官員ノ立テ方ニ於テ少シノ不同アリト雖、通例ノ区別ハ左ノ如シ

其一ハ学校ヲ寄附セシ者、其二ハ区ノ牧師、其三ハ区ノ官吏、其四ハ人民ヨリ差出セル代理人〔<sup>總</sup>〕一家ヲ保ツ者ヲ云ナリ、稍少ナル盟邦中ニ於テハ政府ヨリ直ニ学校管理局ノ官員ヲ命セリ

プロイセン諸邦ニ於テハ多分人民ヨリ人物ヲ選ビ其職ニ当ラシム、然シ政府ニ於テ其自撰ノ權ヲ減少ス〔ベ〕キ法方ヲ設タリ

東プロシヤノマリーンウエルダ〔マリーエンヴエルダー〕地方ニ於テ、已ニ千八百五十八年十月十五日ヨリ一ノ法則ヲ立

テ、場合ニヨリ区令ノ自裁ノ權ヲ以テ人民ヨリ撰挙セ「ラレ」タル代理人ヲ擯却セシム、人民再ヒ代理人ヲ撰挙セシニ、区令若シ或ル条理アリテ其之擯却セシトキ、人民重ネテ他ノ代理人ヲ進ムルヲ不得、扱如斯場合ニ於テハ区令ヨリ相当ナル人物ヲ撰テ其役ヲ奉セシム

管理局中ノ官員何人ヲ不論、其職掌ヲ怠ルトキハ、区令ヨリ直ニ其ヲ免職セシメ、人民ニ命シ新ニ他人ヲ撰ミ其職ニ当ラシム

局中會議シテ官員ノ過半已ニ決議スト雖、若其席頭タル者其議ヲ是トセズシテ八日以内ニ区令迄其由ヲ告ケ、或ハ地方ノ吟味司席頭ノ所論ニ左袒セシトキハ、官員ノ決議モ遂ニ行レザルベシ

局中ノ官員少クトモ三ヶ月ニ一回學校ニ於テ集會セリ、但シ其集會ノ日ハ其ノ局ノ席頭ヨリ決定ス、且必用ナルトキハ席頭ヨリ臨時ニ集會ヲ催スベキ場合アリ

此局ノ管理スル所ハ學校外部ノ事務ニシテ、内部ノ事務ハ全ク吟味司ニ委任セリ

外部ノ事務ハ重ニ學校ノ所入ト其費用等ニシテ、此局ヨリ直チニ区令ノ差配ヲ受ケリ

此局ニ於テ總テ學校及學校付屬ノ土地及積金及教官ノ役宅等ヲ管理ス、且學校ニ於テ確定稽古時限ヲ奉セシヤ、又ハ確定休學ノ外一切余分ノ休學ヲ為サ、ル事ヲ注意シ、且父兄ヲ勸メ生徒ノ不怠學校ニ出席スル事ヲ計レリ、生徒ノ欠席一周以上ニ及ハ、必ラス此局ノ許可ヲ受サルヲ不得

其局ノ官員ハ學校試験ノ節、又ハ他ノ儀式ノ時ニ當リ必ラス出張セサルヲ不得

其局ノ官員ハ一切給料ヲ不受シテ、六年ノ間其職ヲ奉セサルヲ不得

プロイセンノ外數多ノ盟邦ニ於テハ教官ヲシテ此局ノ會議ノ席ニ臨マシム、然シ其商議ニ加ルヲ不許



ブロンスウィキニ於テハ、場合ニヨリ寺院会ヨリ教官ノ商議ニ加フル事ヲ許セリ

プロイセンニ於ケルスュール・デプエーション(学校代理局ノ意)ト称スル者ハ、大ナル市邑中ノ学校ヲ総轄スベキ官局ニテ、郷里ノ学校管理局ニ比スレハ大ニ自由ノ権アリシ故、甘ジテ大政府ノ命ヲ奉セザル場合アリ(所々ニ於テ此局ヲ設ル事ヲ是トセズ)、但シ此局ハ千八百零八年中プロイセン國中ニ大変革アリシ時ヨリ初マリテ、矢張邑会ノ一部分、且其ト同等ニシテ邑会ノ商議ニ加リテ変革ヲ為セシ者ナリ

大政府ニ於テ逐々此局ノ自由權ヲ削ク事ヲ計リテ、先年ベルリン府ノ代理局ニ於テ手芸ノ教官タルベキ者ヲ試験セシトキ、大政府ヨリ其局ノ先ヅ其州ノ知事ノ許可ヲ求<sup>〔得〕</sup>メス、且其試験ノ時ニ当リ王家ノ理事官ノ立合ヲ求メサル事ヲ糺セリ

代理局ノ裨益少カラサル事ハ、諸邦ニ於テ此局ヲ設ケン事ヲ計ルヲ以テ之ヲ知ルベシ

ブロンスウィキニ於テハ千八百五十一年以来スュール・ホルスタン<sup>〔マ〕</sup>ド(ノ)名ヲ以テ此局ヲ設ケシヨリ、学則ヲ固守スルニ大ニ力ヲ得シノミナラス、且市中ノ牧師ノ生徒ヲ勸メ強メテ出席セシムル等ノ勞ヲ省ケリ

千八百五十一年以来此局ノ周旋ニヨリ学校隆盛ノ為、邑会ニ於テモ學費トシテ大ナル積金ヲ蓄ヘリ

ブロンスウィキニ於ケルスュール・「ホル」スタン<sup>ド</sup>「シュール・フォアシュタント」ノ官員ハ、市ノ議員ノ頭領、老練ノ牧師、邑会ノ代理人一人、市中ノ各区ノ寺院局ヨリ差出タル代理官一人、及ヒスュール・ダイレクトル等ナリ、但シ此スュール・ダイレクトルハ此局ノ行事官ニシテ、幾何ノ給料ヲ受クル者ナリ

ベルリン府ノ学校代理局ハ唯初等学校ヲ差配スルノミナラス、又高等学校ヲ差配スル權アリ、但此局ノ弁理スル所ハ、左ニ掲タルベルリン府学則ノ略記ニヨリ之ヲ見ルベシ



ベルリン府ノ如キハ、實ニ各種ノ教育ヲ得ベキ學校ニ富メリト云ベシ

ベルリン府ノ學校ハ唯ベルリン府ノ為ニ設ケタル者ナリ

プロイセン國中ノ學校ハ尽クデー・スクール〔スクール〕（日々通ヒ行ク學校ヲ云ナリ）ニシテ、ベルリン府ノ學校

モ矢張デー・スクールナリ、故ニ他ノ州郡又ハ外國ヨリ童幼ヲベルリン迄遣シ、教育ヲ受シムル事甚稀ナリ、然シ童

幼ヲベルリンヘ遣シ、其ヲシテ親族ト同居シ、又ハ人家ヲ借りテ寄遇セシム

寄宿生ヲ置キタルグラマル・スクール二個アリテ、其一ニハ唯十二人、其他ニハ三十人程寄宿セリ

他ノ學校ハ尽クデー・スクールナル故、學校ヲ一方ニ集合〔セ〕シメバ大ニ不都合ヲ生スルニ〔ヨリ〕、全市ヲ幾區ニ分

チ、住人ノ多少ト其區ノ大小ニ准シ學校ヲ配分セリ

如斯ノ學校ノ配分モ行届キ、學校ノ距離不遠ニヨリ、各家ヨリ幼稚ヲ學校ニ遣スニモ決シテ不便ナラサルベシ

高學校ノ如キハ其数稀ナリト雖、矢張全府ヲ幾區ニ分チ之ヲ配置シテ、生徒通行ノ便ニ供セリ

ベルリン府中ニグラマル・スクール七個アリテ、其内四個ハ市ノ中心ヲ去ル事甚不遠、他ノ二個ノ内、其一ハ西南區

ニアリ、其二ハ東北區内ニアリ、如斯ニベルリンノ周圍十五里内所々ニ學校ヲ分配セシニヨリ、各童幼ノ住所、學校

ヲ去ル事甚不遠、且其通行スルモ殊ニ容易ナリ

千八百五十八年十月ニ調タルベルリン府ノ人員ハ、兵卒ト大學校ノ生徒ヲ除キ四十六万六千六百四十五人ナリ、但シ

内一万五千人ハユードン人種ニ屬セリ

千八百五十九年四月ニ調タルベルリン府ノ各種學校數ハ總計二百個ニシテ、生徒ノ人員ハ五万四千八百九十四人ナリ

府中ノ學校ヲ分チ三種ト為シ、其一ヲ高學校、其二ヲ中學校、其三ヲ初等學校ト稱ス、且其内ヲ分チテ、其一ヲ公學

校、其二ヲ格段ナル寺会、或ハ社中ニ属スル学校、其三ヲ私塾ト称ス

但シベルリン府中ノ学校ヲ管理スル官局二個アリテ、第一ハブランデンボルグ州ノ学校評議局、第二ハベルリン府ノ  
邑会ノ学校代理局ナリ、但シ第一ナル官局ノ差配ヲ受クル学校ヲ甲ノ部分トナシ、其数ハ左ノ如シ

ギムネーシエン

七ケノ中三ケ

ロエル（王家ニ属スルト云意）<sup>〔カ〕</sup>リアル・スクール及其予備学校

二ケ

ロエル ツレイニング・コルレジ（小学校ノ教官ヲ仕立ル学校ナリ）

一ケ所

エリサベツト・スクール

一ケ所



ケ

フレテリツキ□上ノ学校

二ケ所

カトレキ スクール

五ケ

仏郎西寺会ニ属スル学校

六ケ

ボヒミヤン寺会ニ属スル学校

三ケ

右ノ外数個ノ学校アリテ、総計三十ケニ至レリ

其他ノ上等、中等、下等共学校ハ、尽クベルリン府邑会ノ管理スル所ナリ

左ニ掲クル通り、此二局ハ全ク別局ニシテ其管理スルモ亦異ナリ、然シベルリン府ハ矢張ブランデンボルグ州ノ政府  
ノ差配ヲ受ザルヲ不得、且市中ノ事務ハ尽クブランデンボルグ州ノ政府ノ會議ノ管轄ヲ受ルニヨリ、教育事務ニ於テ  
モ同断ナリ

市中ノ総テノ事務ヲ管理スル局ヲマシストレー（マギストラート）（町奉行）トシ、且其官員ハ三十四人ニシテ、尽ク

市ノ會議ニヨリ撰挙サレシ者ナリ

此マジストレートハ直ニ學校ヲ管理セス、唯其官員中ヨリ代理官ヲ撰ミ教育事務ヲ弁理セシム、但シ代理官局中ノ官員ハ乃チ斯塔ット・シュールレート稱スル代理官二人（此二人ハ給料ヲ奉セリ）マジストレー「ト」中ノ官員六人、市ノ評議役中ノ官員十二人、市人ヨリ直ニ挙ケタル者三人、監督三人、学校理事官局ノ頭領及ヒューデンノ教師一人等ナリ

給料ヲ受ケタル代理官二人ハ矢張マジストレート中ノ官員ニシテ、市会ニヨリ撰挙ヲ受タル者ナリ、且此二人ハ局中ノ行事官ニシテ克ク教育事務ニ熟達セルニヨリ、局中ニ於モ其勢殊ニ不少、但シ二人中其ノ弁理スル所ヲ分チ、其一ハ高等学校中学校ヲ弁理シ、其二ハ初等學校ヲ弁理ス

此學校代理官ハ乃マジストレートノ理事官ニシテ、學校ノ<sup>□</sup>分部ニ属スル者ヲ差配ス、然シ以下ニ挙クル所ハ此局ノ管轄外ノ者ナリ

第一或ル寺院又ハ社中ニ属スル學校、第二勤工學校及コルニスシェス・リアル・シュール「コルニツシェス・リアル・ギムナジウム」ノマジス「ト」レートヨリ直ニ管轄ヲ受クル者、第三近来新ニ設ケタルリアル・シュールノマジストレートヨリ管轄ヲ受クル者、但シ代理局ヨリモ其ヲ差配セン事計レリ

## 77 独乙国公学校ノ規則 第二編

此局ニ於テ行フ事ハ何事ニ不依マジストレートノ管轄ヲ受ク、故ニ此局ニ立定タル法則等ハ、先マジス〔ト〕レート迄差出サ、ルヲ不得、但シ学校事務ヲ分チ一般及格段ナル者トス

此局ニ於テ縦令一般ノ事務ヲ決定ストモ、マジス〔ト〕レートノ許可ヲ不得ハ此ヲ行フ事ヲ不得、且格段ナル事務ニ於テモ矢張マジス〔ト〕レートヨリ之ヲ管轄セリ

围分部ニ属スル学校ハベルリン府学校代理局ノ差配ヲ受ケサルトモ、围学校懸リノ官局ヨリ代理局迄、ベルリン府ノ学則且生徒ヲシ〔テ〕強ヒテ入校セシムベキ法方ヲ告知シ、且新ニ学校ヲ建テ、又ハ古キ学校ヲ修復シ、或ハ他所ニ移転スル等ノ事モ逐一赴告セリ

此局ニ於テ奉スル所ノ一般ノ職掌ハ、乃チベルリン府ノ市会<sup>〔カ〕</sup>ノ代理官トシテ围部ニ属スル学校ノ外、高中小ヲ不論、府中ノ学校ヲ尽ク管理セリ、但シ初等学校ヲ管理スル官局ハ、左ニ於テ之ヲ見ベシ

此代理局ヨリ又（ホルスタン<sup>ホルスタン</sup>ド〔フォアシユタント〕）ト称スル其代理局ヲ設ケ、之ヲ□□毎ニ付キ置キ其事務ヲ弁理セシム、此局ノ官員ハ、第一ニ区内ノ法教師、但法教師ハ此ノ局ノ席頭ナリ

第二ニマジ〔ス〕トレート及市ノ会議ヨリ撰挙シタル官員二人、但シ此二人ノ在職ノ期限ヲ三年ト定ム、然シ三年ノ後再ヒ其職ヲ奉スルヲ許セリ

此局ノ職掌ハ学校ノ教頭一般ノ学則ヲ守リシヤヲ探視スルニアリテ、年々学校ノ情態等ヲ書記シ之ヲ学校代理局迄差

出ス

学校ノ教頭タル者ハ此ノ（ホルスタン）ノ管轄ヲ受、学校内ノ事務ヲ差配ス

学校ヲ差配スル官局ノ順序ハ、左ニ於テ之ヲ見ルベシ

一 学校ノ教頭ハホルスタンノ管下ニアル学校ヲ差配ス

一 ホルスタンノ管下ニアル学校ノ管下ニアリテ、其局迄年タリポルトヲ差出ス

一 学校代理局ハ市会ノ学校理事官ナルニヨリ、市ノ評議役迄リポルトヲ差出シ、且其リポルトヲブランデンボルグ州

ノ学校評議役迄相渡セリ

一 ブランデンボルグ州ノ学校評議局ハ、他州ノ評議局ト同ク文部卿ノ管轄ヲ受ケリ

ベルリン府中ノ入校生ノ人員<sup>〔万〕</sup>五十四千八百九十四人中、少クトモ其一半ハ初等学校ノ生徒ナリ、生徒ヨリ払フタル

受業〔料〕ノ外、市中ヨリ出シタル学費金ハ凡二十万タラニ至ル、生徒一人ニ付市中ヨリ出ス所ノ費金ハ、一年ニ凡

一ポンド・ステルリングナリ、但シ市中ノ学費ハ総計市中一切ノ入費ノ百分ノ十二ニ至ル

### 田 束縛法

束縛法ハ独乙国中ニ於ケル初等学校ノ規則ノ中最モ至妙ナル者ナリ、束縛法ハ独乙国中一般ニ行ハル、共、其施方ニ

於テハ少シク差別アルベシ

独乙国中ハンボルクトフランクフルト・オン・デ・マイン〔フランクフルト・アム・マイン〕ノ外、学校年期中ノ童幼ハ

男女共此束縛法ヲ奉シ、入校セサルヲ不得

束縛法中ニ自ラ二様ノ區別アリ

第一 束縛法ニヨリ強ヒテ童幼ヲ入校セシムルトモ、其父兄ヲシテ己レノ是トスル所ノ学校ヲ択ヒ其子弟ヲ遣シ、又ハ教師ヲ雇ヒ己ノ家ニアリ其子弟ヲ教ヘシム、但シ此ノ法則ハ千八百五十七年迄プロイセンニ於テ行レタリ、然シ数多ノ盟邦ニ於テ矢張此法則ヲ用ヒタリ

第二 束縛法ニヨリ父兄ヲシテ其子弟ヲ格段ナル学校ヘ遣サシメ、決シテ他ノ学校ヘ遣ス事ヲ許サズ

但シ第一ノ法則ハ童幼ヲシテ入校セシムル為ニ設ケ、第二ノ法則ハ童幼ノ容易ク入校シ得ン為ニ設ケタルナリ

千八百五十七年ヨリプロイセンニ於テ第二ノ法則ヲ設ケタリ、然シ区令ニ權アリテ、父兄ヲ許シ其子弟ヲシテ其区内ノ学校ヲ去リ、他ノ区内ノ学校ヘ入校セシム、如斯場合ニ於テハ、父兄ヨリ其子弟ヲ他区ノ学校ヘ遣スベキ所謂ヲ逐一区令迄赴告シ、且旧ニ依リ区内ノ学校ヘ其子弟ノ受業料ヲ払ハサルヲ不得

童幼ノ学校年期ニ係リテハ独乙国中大同小異ナリ

プロイセンノ法則ハ童幼六歳ヲ全フセシ後ヲ以テ其入校ノ期トセリ、然シ或ル州ノ学校ニ於テハ、童幼ノ五歳ヲ全フセシ後ニ及ハズ其ヲ許シテ入校セシム

六歳未満ノ童幼ヲシテ入校セシムルハ、空シク学校ニ於テ席ヲ満スルノミナラス、甚タ幼ニシテ、学業ヲ脩ムルハ童幼ノ健全ノ害ヲ為ス事不少ルベシ、ウォルテンボルグニ於テ千八百五十八年十一月六日ニ定タル法則ハ、童幼入校ノ年期六歳ヲ以テ七歳トナシ、且サクソンニ於テハ五歳ヲ以六歳トナセリ

ハンボルクニ於テ入校年期ヲ八歳ト定メシ如ク、盟邦中ニ於テモ恐クハ入校年期ヲ緩延セシメン、然シ寒貧ナル人民其子弟ヲシテ速ニ卒業シ己ノ使役ヲ受シメン為、其入校年期ヲ早メン事ヲ企レリ

生徒ノ在校年期ハ独乙国中大概八年間ナリ、然シプロイセン國中ノ或ル州郡ニ於テハ其ヲ九年間トシ、サクセ・コボ



ルグ〔ザクセン・コーブルグ〕ニ於テ千八百五十八年以来在校年期ヲ減シテ七年間トナセリ、但シ此年限ハ通例生徒ノコンフォルメーション〔マ〕ヲ得テ退校スル年限ニ比スレハ甚短シ

〔生徒コンフォルメーションヲ得シ上、初メテ聖晚餐ヲ食フベキ許シヲ得ル事ハ、カトレキ教会ニ於ケルカ如クル―テルン教会ニ於テモ生徒ノ甚重大ナル事件トセリ

プロイセン国ノシレシヤ州ニ於テハ、区ノ牧師及ヒ学校ノ教官、父兄ヲ勸メ子弟ヲシテ月々ノ入校及ヒ入校ノ時刻等ニ怠ラサラム

父兄若シ其ノ勸メラ受ケサルトキハ、已ム事ヲ不得其由ヲ以テボレス〔ボリス〕迄通達セリ

ボレス局ニ於テ学校年期ニ及ビタル童幼ノ年齢ヲ取調べ、其ヲ記録シテ学校管理局迄差出ス

童幼ノ姓名已ニボレスノ簿中ニ入り〔シ〕上ハ、之ヲ学校年期ノ童幼ト称シ、之ヲシテ強ヒテ入校セシム

教官タル者ハ必ラス欠席帳ヲ持チ居リ、生徒ノ恕スベキ欠席ト恕スベカラサルノ者トラ記載ス、且管理局ノ職掌ハ、時々ノ集会ノ時ニ当リ此出席帳ヲ検査スルニアリ

生徒若シ欠席セシトキハ、此局ヨリ吟味司或ハ局中ノ官員ヲ以テ其父兄ヲ警誡ス、然シ其上屢々欠席スルニ及ハ其由ヲ以ボレスニ通達シ、其欠席セシ各月ノ罰金ヲ出サシム、若シ罰金ヲ出サ、ル場合ニ於テハ之ヲ入牢セシム、但シ其入牢時限ノ長短ハ罰金ノ分少ニ准ゼリ

或ル市邑ニ於テハ学校ニ小使一人ヲ付置キ、稽古ノ初マリシ時ヨリ一時ヲ経シ上、教官タル者生徒ノ欠席ヲ取調べ、生徒ノ家迄小使ヲ遣シ、其欠席セシ所謂ヲ尋問シ、之ヲ帳中ヘ記載ス

ベルリン府ニ於テハ学校代理局ヨリシユール・コンミッション〔学校理事官〕ト称スル官員ヲ設置キ、生徒欠席ノ事件



ヲ弁理セシム、但シ此シジュール・コンミションヲ設ケシハ千八百四十五年ヨリ初マレリ

ベルリン府ヲ三十五区ニ分チ、区毎ニ一ノシジュール・コンミションヲ設置キ、其区内ノ生徒ノ欠席ヲ取調シム、其官員ハ席頭。副席頭。及数多ノ官員ナリ、但其数ハ其区ノ人員ノ多寡ニ准シ六人乃至八十人ナリ

此官員ハマジストレートノ許可ニヨリ市ノ評議役ヨリ撰挙スル所ニシテ、其在職ノ期限ハ三年ナリ、通例学校管理局ノ添役<sup>ソム</sup>ヲ頼ミ、区内ノ学校ノシジュール・コンミションヲ兼勤セシム、但シ此職ヲ奉スルトモ別ニ給料ヲ与ヘサルニヨリ、甘ンジテ其任ニ当ル者甚稀ナリ

〔コンミションノ集会ハ一月ニ一回ニシテ、若シ三人出張セシトキハ物議ヲ決定スル權アリ、但シ集会ノ事件ヲ委シク記載シ、求メニ応シ学校代理局迄差出スベキ場合モアリ

コンミションニ於テ生徒ノ欠席ヲ取調ベン為、ロエル（王家ニ属スル）ボレスヲ使役スル事ハ、郷里ニ於テ其ボレスヲ用ユルト同様ナリ

区内ノボレス局ニ於テ学校年期ニ属スル童幼ノ姓名ヲ取調ヘ、之ヲコンミション迄差出ス

生徒若シ欠席セシトキハ、コンミション中ノ官員密ニ其父兄ヲ勸メ、子弟ヲシテ強メテ出席セシム、然シ父兄若シ其警誠ヲ用ヒザルトキハ、此局ヨリ再ヒ公然ナル警誠ヲ為ス

公然ノ警誠ヲ為セシヨリ一ヶ月以内ニ、生徒又恕ス可ラサル欠席ヲ為セシトキハ、此局ヨリ其父兄迄一書ヲ遣シ、其法則ヲ犯セシ由ヲ赴告シ、且其赴告書ヲ局ノ簿中ニ書記ス

生徒若シ一ヶ月以内ニ第三ノ恕ス可ラサル欠席ヲ為セシトキハ、此局ヨリ以前ノ赴告書ヲ差添ヘ其由ヲ記シ、一書ヲ学校代理局迄差出ス

学校代理局ヨリ其書ヲ以テ罰金ヲ取立ツベキ為、局中別ニ設タル官員ヘ渡シ、其ヲシテ其欠席セシ所謂ヲ糺問シ、罰金ノ多少ヲ定メ、八日以内ニ其ヲ差出サシム

〔學則ヲ犯シタル父兄ヲシテ、八日以内ニマジストレート迄訴出シム

其上マジストレート定擬ヲ得、其父兄ヲシテ罰金ヲ出サシム、若罰金ヲ出シ得サル場合ニ於テハ其ヲシテ入牢セシム千八百四十七年及千八百五十年ニ、罰金ヲ出セシ者ノ数ト、其罰金ノ總數ノ比例ハ次ノ表ニ見ルベシ

千八百五十年以来、以上ノ表ト大ニ相違シ、罰金ヲ出セシ者ノ數逐々加増セリ、如何トナレハ近來<sup>〔製〕</sup>製造所ト窮民ノ加増スルニヨルナリ、千八百五十六年ニ於テ、製造所ニ於テ童幼ヲ使役シ、遂ニ学校ヲ欠席セシムルニ至リテ、千八百五十五年ノ欠席セシ生徒ノ數ニ比スレハ、其數ノ多過ナル事四百十一人ナリ

恕スベカラザル欠席ヲ為セシ生徒ノ數ハ人員ノ加増スルニ准シテ加増シ、千八百五十五年ニ於テハ其數九百五十人ナリシガ、千八百五十六年ニ於テハ其數稍増シテ千七百八十人ニ至レリ如斯欠席ノ加増スルハ、唯童幼ヲ製造所ニ於テ使役スルノミナラズ、多分ハ市中ノ窮民ノ行狀甚惡クシテ、子弟ノ入校ヲ妨グルナラン、如何トナレハ、独乙全国ノ市邑中、窮民ノ多キト行狀ノ惡シキハベルリン府ヲ以第一トス

サクソン國ノ製造所多キ地方ニ於テ、童幼ヲ使役スルト束縛法ヲ奉セシムベキハ、ベルリン府ニ比スレハ甚少ナシ

サクソンニ於テハ生徒ノ在校期限ヲ八年間ト定ム

生徒若シ恕スベカラサル欠席ヲ為セシトキハ、其日数ヲ八年間ノ日数ヨリ差シ引キ、其欠席セル日数ノ間出席セザレハ、決シテ其卒業及ヒ退校等ヲ許サズ、但シ此法則ハ罰金ヲ取上グル法則ニ比スレハ遙ニ勝レリ、如何トナレハ窮民ノ己ノ子弟ヲ使役スルハ、勢ヒ已ムヲ不得ノ場合ニシテ、窮民ヨリ罰金ヲ出サシムルハ其ノ常ニ嫌フ所ナリ  
区内ノ吟味司ハ乃チ区内ノ牧師ニシテ、童幼若シ洗礼ヲ受ケシトキハ、其姓名年齢等ヲ尽ク洗礼簿ニ記載ス、且新ニ其区内ヘ転宅セシ者アラバ、其姓名等ヲボレスヨリ吟味司迄赴告ス

童幼ノ人別ヲ調ル法則ハ如斯厳密ナル故、広大ナル市府ニ於テモ、決テ童幼一人トシテ人別ヲ洩ル、ノ事無カルベシ  
サクソン国ノケムニツ（地名）ノ如キハ綿布製造所ノ中心ナリト雖、其所ノ童幼一人トシテ入校セザル者ハ無カリシ  
由

童幼ヲ使役シ、且教育ヲ加ヘン為種々ノ法則ヲ設ケリ

**第一**サクソンニ於テハ一般ニ半日学校ヲ用ヒ、一ノ教官ヲシテ二分ニ別チタル生徒ヲ教授セシム、但シ其一分ハ午前ニ受業シ、他ノ一分ハ午後ニ受業ス

若シ生徒ノ員数過度ニシテ其教授モ不行届ナルトキハ、矢張其数ヲ三分シ、一分ノ生徒ヲシテ二時間受業セシメ、且稍長大ナル生徒ヲシテ三時間受業セシム、故ニ教員一人ニシテ教ユル所ノ稽古時間ハ一日ニ七時ナリ、且生徒二時間ノ稽古ヲ以テ一日分トシ、其ヲ算シテ八年ニ至ラシム

或ル市邑ニ於テハ初等学校ヲ區別シテ、地方学校、貧人学校トス

此二校ノ差別ハ他ニ非ス、乃チ窮民ノ受業料ヲ払ヒ得ザル者ノ子弟ヲ遣シ受業セシムル学校ニシテ、一日ノ稽古時間ハ唯三時間ナリ

第二通例ノ郷里ニ於テ半時学校ヲ設ケ其用ニ供ス、製造所多キ地方ニ於テハ、童幼ノ製造所ニ於テ働ク事ヲ許セリト雖、矢張束縛法ヲ設置キ強テ童幼ヲシテ入校セシム

ケムニツ（地名）ニ於テ二種ノ製造所アリ、童幼ヲ使役ス

其一綿布製造所（其数一ニアラス）製造所ノ持主己ノ費用ヲ以学校ヲ保存シ、製造所所役ノ童幼ヲシテ教育ヲ受シム、童幼朝六時ヨリ仕事ヲ初メ、十時ヨリ十二時迄学校ニ入り業ヲ受ケ、十二時ヨリ一時迄午餐ノ為ニ費ヤシ、一時ヨリ仕事ヲ初メ六時ニ至ル、然シ其以前ハ童幼朝六時ヨリ夕六時迄働キ、其ノ受業時限ハ其午餐ノ時間ノミニシテ、生徒自ラ学ブ能ワサルニヨリ、教官タル者讀書シ生徒ヲシテ其ヲ聞カシメシ

其二印刷所 印刷所ノ仕事ハ只白昼ヲ限リシ故、其持主タル者夜学校ヲ設ケ、白昼ノ間ハ童幼ヲシテ仕事ニ懸リ、夜分ニ至其ヲシテ学校ニ来リ業ヲ受シム

プロイセンニ於テ製造所使役ノ童幼ヲ保護セン為細密ノ法則ヲ設ケシヨリ、バワリヤ、バーデン及ヒ他ノ諸邦ニ於テモ其轍ヲ踏メリ

プロイセンニ於テハ少クトモ十二歳ヲ以、童幼ノ使役ヲ受ベキ年齢トス、但シ此法ヲ設ケシ以前ハ九歳ヲ以テ（バワリヤニ於テハ矢張九歳ナリ）其ノ年齢トセシニ、其ヲ改メテ十二歳トセシハ近來ノ事ナリ

少年十六歳以下ニシテ、少クトモ三年ノ間入校セシ証書、或ハ其読ミ書キノ出来ベキ証書ヲ持タザル者ハ、決シテ製造所ニ入り其使役ヲ受クル事ヲ不許、製造所ノ持主若シ私費ヲ以学校ヲ設、学校評議局ヨリ定メシ所ノ稽古時限ノ間、其ノ使役スル童幼ヲシテ入校セシメハ、敢テ右ニ掲タル法則ヲ奉スルニ及ハス

十四歳以下ナル童幼ノ稽古時間ハ、多クシテ一日ニ六時（以前八十時ナリ）間ト定メ、朝八時ヨリ午後五時三十分ノ

間ハ其ヲ使役スル事ヲ不許、且其ヲシテ少クトモ一日三時ノ間入校セシム

製造所ノ持主ヨリ己ノ使役スル童幼毎ニ一小冊ヲ与へ、第一ニ其姓名、年、宗門、第二ニ其父兄ノ姓名、家業、住所、

第三ニ出席証書ノ写シ等ヲ記シ、第四ニ其初メテ製造所ヘ入リシ時ノ月日、第五ニ其ヲ退去スル時ノ月日、第六ニ出席ノ月日、第七ニ吟味司視察ノ月日等ヲ認メシム、但シ此小冊ノ初葉ニ製造所ノ規則ヲ挙ケタリ、其持主タル者其小冊ヲ預リ、之ヲ吟味司又ハポレス・コンミサリー（ポレスノ理事官）ニ示サン為ニ備へ、童幼ノ辞シ去ルトキハ其小冊ヲ童幼ニ返却セリ

二三ノ製造所ヲ吟味セン為格段ナル吟味司ヲ扱ビシト雖、矢張其ヲシテ其他ノ製造所ヲ見舞ヒ其ヲ吟味スル事ヲ許ス製造所ノ学校縦令或ル吟味司ノ配下ニ属シ、又ハ属セサルトモ、区内又ハ地方ニ於ケル通例ノ吟味司タル者、其レヲ視察セザルヲ不得事尚通例ノ学校ニ於ケルガ如シ

製造所ノ持主若シ右ノ法則ヲ守ラズシテ、十六歳以下ノ童幼ヲ使役セシトキハ罰金ヲ出サバ爾ヲ得ザルベシ、且五年ノ間ニ此法則ヲ三回犯セシトキハ、其ヲシテ一切童幼ヲ使役セシメズ

持主タル者一年ニ再ヒ其使役スル童幼ノ姓名ヲ調べ、其筋ノ官局迄差出サ、ルヲ不得

ブロンスウッキニ於テハ、少クモ九歳以上ノ童幼ヲシテ製造所ニ入り使役ヲ受シム、然シ九歳ヨリ十四歳ニ至迄ハ矢張其ヲシテ入校セシム、但シ其稽古時間ハ朝八時ヨリ十一時ニ至リ、午後二時ヨリ四時ニ至ル、且ツ砂糖製造所ニ於テハ夜ニ入り童幼ノ働ク事ヲ禁セリ、但シ製造所ノ持主右ノ法則ヲ犯セシトキハ、其ヲシテ一切童幼ヲ使役セシメズ、右ニ準タル個条ハ乃チ童幼ヲシテ強ヒテ入校セシムベキ法則ニシテ、其法ノ行レシヤハ左ノ簡略ナルリポルトニ於テ之ヲ見ルベシ



州 名	学校年期ノ生徒ノ数	公ノ小学校ノ生徒ノ数	学校ノ数
プロシヤ	440, 897	370, 942	4, 487
ポーゼン	241, 017	213, 487	2, 095
ボメラニヤ	222, 169	209, 231	2, 506
シレシヤ	525, 993	503, 468	3, 722
ブランデンボルグ	375, 331	355, 313	2, 936
サクソニー	340, 907	337, 416	2, 779
ウエストフアリヤ	255, 808	249, 771	1, 836
デーライン [ザ・ライン]	529, 843	507, 605	3, 820
ホーヘンゾルレルン	11, 286	11, 239	111
	2, 943, 251	2, 758, 472	24, 292

独乙盟邦中束縛法ヲ用ユル事ハ一般ナレド、其用方ニ至リテハ自  
 ラ諸邦ニ於テ差別アリ

プロイセンノ如キハ其法嚴ニシテ、其命行レサルハナシト雖、制  
 造所法則ニ至テハ一度ヒ地ニ落シ由、然シ勿速改革ヲ加ヘ強ヒテ  
 其法ヲ奉セシム、左ニ挙ル所ノ表ニ於テ、千八百五十六年プロイ  
 セン全国ノ初等学校ニ於ケル生徒ノ人員ヲ見ルベシ

右ニ挙タル公ナル初等学校ノ生徒ノ人員ノ總計ニ、官許ヲ得タル  
 私塾生徒ノ人員七万二百二十人ヲ加フルトキハ、共計二百八十二  
 万八千六百九十二人ニ至ル、但シ此共計ヲ以学校年期ノ生徒ノ人  
 員二百九十四万三千二百五十一人ヨリ減スルトキハ、其残り十一  
 万四千五百五十九人ナリ、且此残数ヨリ家ニ在リ教育ヲ受タル生  
 徒、グラマル・スチュール<sup>(コ)</sup>及ヒリアル・スチュール等ノ初級ノ生徒、

多病又ハ不具ナル童幼ノ人員ヲ減セシ上、其余ノ童幼ハ多分所々  
 ニ転宅スル家族ニ属シ、又ハ人別簿ヨリ洩タル者ナラン  
 生徒ノ欠席怠懈ノ原由ハ左ノ個条ニ於テ見ルベシ

**第一** 父兄ノ貧ニシテ、嚴冬ニ至リテモ其子弟ノ為ニ衣服ヲ充分  
 ニ供シ得サルニヨリ、遂ニ其入校ヲ妨クルニ至ル、故ニ数多ノ市

邑ニ於テ其入校ヲ進メン為仁惠社中アリ、衣服ヲ以貧人ノ子弟ニ給与ス

**第二** 教官ノ不行届、且多分ハ教場ノ充満スルニヨリ、遂ニ生徒ノ入校ヲ妨クルニ至ル、故ニ諸邦ニ於テ一法ヲ設ケ入校生ノ員數ヲ限レリ

ウォルテンボルグニ於テ千八百五十八年ニ定タル學則ノ内ニ、教授ノ行キ届カン為一校毎ニ生徒ノ員數九十人ヲ以限リトセリ、但バーデンニ於テハ七十人、サクソニーニ於テハ六十人、但此員數ハ確定ノ者ナリト雖、所々ノ學校ニ於テ此定數ヲ超越スルノ患アリ

ウエストフアリヤノ學校ニ於テハ一級ノ生徒ノ數屢百五十人ニ至リ、且デイルシャウ（地名）（ダンシヒ「ダンツイヒ」地方ノ内）ノ學校ニ於テハ、生徒ノ數百八十人ノ上ニ至レリ

如斯生徒ノ數モ充満セシニヨリ、教官ノ力ノ不<sub>レ</sub>及事ハ推シテ知ルベシ、且人烟ノ稠密ナルニ准シ學校ノ員數ヲ加増シ得ザルニ、唯生徒ノ欠席スルニヨリ其充満ノ患ヲ避クル事ヲ得タリ

ウォルテンボルグニ於テ其人烟日ニ減セリト雖、教官ノ數未タ充分ナラサルニヨリ、一校ノ生徒百二十人ヲ三分シ、教官一人ヲシテ順序ヲ逐ヒ、其三分ノ一ツ、教授セシム

**第三** 或ル學校ニ於テハ、學校以内ノ事件ニ於テ一切欠乏ナシト雖、生徒ノ出席ノ不定ナルハ、學校懸ノ官員ノ職分ヲ怠リ生徒ノ出席ヲ勸メサルニヨル

エレクトルヘッシ「ヘッセン選定候」邦ニ於テハ、千八百五十三年欠席ノ罰金ヲ増シテ、一グロッセンヨリ十五グロッセンニ至ラシメント雖、生徒ノ出席ハ甚不定ナル由

或ル地方ニ於テ學校ノ教方モ行キ届キ、吟味司タル者モ強メテ學校ヲ眷顧セハ、生徒ノ束縛法ヲ犯ス者ハ少カルベシ



ウオルテンボルク全邦ニ於テハ、恕スベカラサル欠席ハ甚稀ニシテ、生徒ヨリ罰金ヲ出セシ事モ稀ニ聞ヘタリ  
一政府ニ於テ全ク教育事務ヲ預リ、總テ嚴法ヲ設ケ之ヲ弁理セバ、恐クハ人民其子弟ノ教育ヲ全ク政府ニ委任シテ、  
自ラ其ヲ尽力セサルベシ

ウオルテンボルグ邦ノ如キハ學費金、學校、教官、吟味司等ニ於テ實ニ至レ尽セリト雖、唯一ノ欠乏ハ人民ヲシテ教育事務ニ關係セシメザルニヨル

一プロイセンニ於テハウオルテンボルグト反體シ、學校ノ數、學校用ノ物件及ヒ教官ニ至迄、人員ノ加増スルニ比例セバ未タ不足ナリト雖、政府ニ於テハ人民ヲ勸メ、政府ト比肩シテ學校事務ニ關係セシムルニヨリ、人民モ自ラ勉強シ、リーグニツ（地名、シレシヤノ内ニアリ）ニ於テハ一切政府ノ助ヲ仰ス、全其費用ヲ以學校ヲ建テ學校ヲ脩復シ、新ニ教官ノ數ヲ加ヘ、且以前ヨリ用ヒタル教官ノ給料ヲ増セリ、其地方内ノ諸邑ニ於モプロテ「ス」タンツノ學校ヲ隆興セシメン為、人民ヨリ莫大ナル寄附ヲ為セリ

如斯人民政府ト共ニ尽力シテ學校ノ隆興ヲ計リシ故、生徒ノ強メテ出席スルハ此レ自然ノ勢ナラン、且生徒ヲシテ強テ（出席セシムベキ良方ハ、乃チ教官ノ丁寧ナル取扱方ニアリ、如何トナレハ生徒若シ其教官ヲ好ミ、父兄ノ世話無クシテ自ラ入校ヲ欲スルトキハ、束縛法ヲ以強ヒテ入校セシムルニ勝レリト云ベシ

一生徒ヲシテ強ヒテ入校セシムル事ハ、抑獨乙國ニ於テ宗旨ノ大變革ノ起リシトキヨリ最早初マリテ、プロテスタント教ヲ信セシ者ハ其子弟ヲシテ入校セシムル事ヲ以己ノ職分トセリ、（但シ生徒ヲシテ強ヒテ入校セシ「ム」ル事ハ、千五百二十四年ルーテル（人名）ナル者獨乙國中ノ邑會ニ、其緊要ナル事ヲ赴告セシヨリ初マリシ由）

プロテスタント教ヲ信セシ者ノ其子弟ヲシテ入校セシメシハ、全ク其ヲシテ宗旨ノ道ト其ノ勤メ等ヲ知ラシムル事ヲ

望ミ、且其レ〔ヲ〕以テ寺院ノ急務トセシニヨル

千五百七十三年プランテボルグ州中ノ寺会ヨリ、強ヒテ童幼ヲシテ入校セシムベキ命ヲ出セシト雖、其ハ全ク寺会ノ法則ニアラズ、如何トナレハ其州ノ大名ノ名ヲ以テ其命ヲ出セシニヨル

千八百年代（日本テ称ス千七百年代ナリ）ノ初メヨリフリーデリッヒ・ウィルヘルム（プロイセン国王ノ名）国中ノ教育ヲ隆興セン為新ニ学則ヲ設ケシニ、コンフオオメーションヲ受ケザル童幼ヲシテ強ヒテ入校セシメシハ、決シテ新法ニアラザリシ

ウォルテンボルク邦ニ於テハ千六百四十九年ウェストファリア（地名）ノ結議和ヨリ国王ノ許可ヲ受ケ束縛法ヲ設タリプロイセン国ニ於テハ、千七百十六年ヨリ初メテ束縛法ヲ設ケシト通例ノ人民考レド、其時新ニ束縛法ヲ設ケシニアラス、唯国王ノ許ヲ以テ、以前ヨリ行レタ私ノ束縛方ヲ公ノ束縛法ニ変シタルナリ（但シ此ノ法ハベケドルフ・ヤーブルーフェル（年歴）ノ第二章ノ三十九句ニ委ク記載セリ

千七百六十三年ニ定タル一般ノ学則中ニ初メテ生徒ノ学校年期ヲ定メ、五歳ヨリ十四歳ニ至ル迄デ其ヲシテ入校セシメリ、但シ此ノ法則ヲ設ケシヨリ、郷里ノ学校ニ於テ神学ヲ教ユル外、習字、算術等ヲ加ヘタリ

プロテスタン〔ト〕教ヲ奉信スル独乙盟邦中、人民ノ甘シテ束縛法ヲ奉ズルハ、決シテ其自由ヲ愛スル志無キ故ニアラズ、全クプロテスタン〔ト〕教ノ初マリヨリ、人々其子弟ニ相当ナル教育ヲ加フル事ヲ以テ己ノ職分〔ト〕セシニヨル一独乙国中行ワル、宗派ハ乃チカトリク、プロテスタント及ユーデン教等ニシテ、人烟稠密ナル市邑ニ於テハ縱令束縛法ヲ以テ童幼ヲ入校セシムルトモ決テ不都合ヲ生セザルベシ、如何トナレハ人烟密ナルニ准シ數個ノ学校アリ、各種ノ宗旨ヲ教ユル故、人々己ノ奉スル宗旨ヲ教ユル学校ヲ択ビ、其子弟ヲ遣シ得ルニヨル、然シ或ル郷里ニ於テ、

同宗ヲ信スル者殊ニ多クシテ、他ノ宗旨ヲ信スル者甚稀ニ、且其微力ヲ以一校ヲ保存シ得ザルトキハ大ニ不都合ヲ生スベシ、但シ第二回ニ於テ其情態ヲ委シク論ズベシ

〔四〕私力ヲ以教育ヲ進ムル事

以上挙タル所ハ、獨乙國中ノ諸邦ニ於テ公ニ行ワル學則ニシテ、實ニ至レリ尽セリト雖、未タ全備シタル者ニアラス、故人民私力ヲ以テ其欠乏ヲ補ヘリ

第一 私學校

プロイセン國ニ於テ、何人ヲ不論官許ヲ得テ私塾ヲ開クヲ得、然シ其教官タル者ハ其學校ノ等級（高中小）ニ准シ、公學校教官ノ受クベキ二度ノ試験ヲ經ザルヲ不得、且一市中ニ私塾ヲ開カント欲セハ、先公學校ノ乏シキ地方ヲ撰バサルヲ不得

官許ヲ得テ私塾ヲ開キシ上ハ、決シテ私ノ存意ヲ以生徒ヲ教ユル事ヲ不得、且時々シユー（ル）・ラートノ吟味ヲ受ケ、且嚴ニ學校代理局或（ハ）學校評議局ヨリ出セシ私塾ノ學則ヲ奉セザルヲ不得

私塾ノ持主タル者ハ己ノ存意ヲ以テ教授料ヲ定ムル事ヲ得ト雖、生徒ヨリ受取シ所ノ確定ノ教授料及余分ノ入費等ヲ尽ク一表ニ記載シ、之ヲ學校管理局ト生徒ノ父兄迄遺サ、ルヲ不得、且生徒ノ父兄ト相談セシ上、其子弟ノ教授料ヲ確定ノ者ヨリ減ズト雖、決シテ教授ノ度数等ヲ減スル事ヲ不得

ベルリン府ニ於テハ私學校數多アリテ、殆府中童幼ノ一半ハ私學校ニ於テ業ヲ受ケリ

邑會ニ於テモ一万二三千人ノ童幼ノ為ニ未タ學校ヲ設得ザルニヨリ、其ノ童幼ヲ私學校ニ業ヲ受シメ、其持主迄生徒一人ニ付幾何ノ教授料ヲ払ヘリ

プロイセン全国ノ私学校ニ於ケル教官ノ数ハ、男女共ニ三千六百人アリテ、公ナル初等学校ノ教官ノ数ハ、男女共ニ三万三千人ナリ

此私学校ノ中ニ一種ノ学校アリテ、パローキエル・スュール（パリシュニ属スル学校ト云意）ト称スル者アリ、此ハ多分古来ヨリ一種ノプロテ〔ス〕タント寺院ニ付属シテ、政府ノ寺院又ハボヒーミヤン、モレーウィヤン及ヒフレンチカトレキ等ノ寺院ニ属セザル者ヲ云ナリ、其外或ル市邑ノ学校ニテ矢張或ル寺院ニ属シ、且古来ヨリノ積金アリテ僅カノ歳入ヲ受クル者アリ、是ハ乃チクロイストル（寺院ノ名）寺院、ツリニティー寺院、且ツベルリンニ於ケルカテートラル（大ナル寺院）等ニ付属スル学校ナリ、但シ此等ノ学校ハ私学校中ニ属スト雖、吟味司ノ視察ヲ受ル事及教官ノ免狀ヲ持ザルヲ不得ル事ト、其教授スル学科等ハ公学校同様ノ規則ヲ奉セザルヲ不得

## 第二 私学校ノ稍高尚ナル者 フォルトビルドラングス・アンスタルテン

大ナル市府ニ於テハ大概私学校ノ稍高尚ナル者アリ、矢張公学校ノ規則ヲ奉セサルヲ不得トモ、私ノ小学校ニ比レハ大ニ自由ノ權アリ

此類ノ学校中ニ自ラ二種アリテ、最早初等学校ニテ卒業セシ上、商人又ハ職人ト成ント欲スル少年ノ稍高尚ナル學問ヲ學ビ得ン為ニ供セル者ナリ、但シ此学校ニテ受業スル生徒ノ中又自ラ二種アリテ、其一ハ公学校ニテ教ユル学科ヲ充分ニ學ビ得ザリシ者、其二ハ公学校テ教ユル所ヲ充分ニ學ビ得シト雖、猶稍高尚ナル学科ヲ脩メント欲スル者ナリ 両種ノ学校ノ中第一ヲソンデー・スュールト称シテ、市中ノ種々ナル学校ノ教場ニ於テソンデーノ午後二時ヨリ五時ニ迄ヲ限り、唯讀書、習字及算術ヲ教授ス、但シ其教ユル学科ハ公学校<sup>（カレメツアリ）</sup>ノ上級生徒ニ授クル所ノ者ト同等ナリ

ベルリン府ニ於テ、少年或ル職業ヲ學ビ得ン為メ奉公入ヲ為ストキ、其主人タル者之ヲ試験シテ、若シ其算筆等ニ達

者ナルトキハ其レニ証書ヲ与ヘリ、然ラサレハ其ヲシテ算筆等ニ熟練スル迄ハ、ソンデーノ午後毎ニソンデー・スニールニ入り業ヲ受シム

第二ノ学校ハ少年ノ稍高尚ナル学科ヲ学ヒ得ン為設クル者ナリ

ウォルテンボルグ邦ニ於テ此以前、束縛法ヲ以テ二年ノ間、少年ヲシテ此類ノ学校ニテ受業セシメシガ、当今ハ其法ヲ廃止セリ

プロイセン國ニ於テ常少年ノ志願ニ任セ、束縛法外ノ者トセリ

此類ノ学校ハソンデー又ハ夜分ノミ開校シ、且其教師ハ多分初等学校或ハリアル・スニールノ教官ニシテ、生徒ヨリ差細ノ教授料ヲ受ケリ、但シ市中ヨリ幾何ノ金ヲ給シ、生徒ヨリ払フ所ノ受業料ヲ加増セリ

コンフォルメーションヲ受ザル者、又ハ初等学校ニ於テ一通リ学業ヲ脩メシ証書ヲ持タザル者ハ、此学校ニ入ル事ヲ不得

奉公入ヲサセシ少年ハ、必ラス其主人ヨリ此類ノ学校ニ入ルベキ免狀ヲ受ザルヲ不得、且主人モ一〔タ〕ヒ免狀ヲ与ヘシ上ハ、生徒ヲシテ確定時限ニ入校セシメザルヲ不得

此学校ニ於テハ決シテ生徒ノ入校年期限ラズ、且熟練ノ教官アリ業ヲ授クルニヨリ、三十歳以上ノ男子、少年生徒ト共ニ来リテ受業スルハ決シテ非常ノ事ニアラス

時トシテハ初等学校ノ教官モ此学校ニ来リ、英、仏語又ハ図画等ヲ学ベリ

ベルリン府ニ於テハ此類ノ学校三個アリテ、其教ユル学科ハ習字、算術、商買ノ仕方、<sup>〔売〕</sup>記簿法、書牘、重学、化学、

獨乙文ヲ読ム事、文学、英、仏語、図画且想像ヲ以テ画杯ヲ図ク事、但シ此ノ学科ヲ別チ五六部分トス、生徒初メテ



入校セシ上一年ノ間、少クトモ四部分ノ学科ヲ学バザレハ其望ム所ノ学科ヲ脩メシメズ、且其学科ヲ脩ムルトモ、先ツ下級ニ入り業ヲ受サレハ其上級ニ進ム事ヲ不許

ソンデーニ於テ此学校ヲ開クトキハ、生徒先ツ教場ニ集マリ拝礼説法ノ為凡半時間ヲ費ヤシ、然ル後ニ其受業ヲ始ム、但シベルリン府ニ於テ當時行ハル、此類ノ学校ハ、実ニ学校評議役ナルシエールツ氏ノ周旋ニテ出来タル者ナリ千八百五十八年ノイーストル（祭日ノ名）ヨリ千八百五十九年ノイーストルニ至迄ノ、此学校ノ（リポルト）ハ左ニ於テ見ルベシ

右ニ挙タル三個ノ学校ニテ受業セシ生徒ノ数ハ、夏ノ半年ニ於テ一千一百四十九人、冬ノ半年ニ於テ一千二百四十九人、其内一家ノ主人六人、職人一千一百五十五人、奉公入ノ少年七百二十二人、工人百九十八人、商人及其ノ録事共百三十二人、学校ノ教官及ヒ政府ノ使役人三十二人、且十四歳ヨリ十六歳ニ至ル者三百七十七人、十七歳ヨリ二十歳ニ至ル者六百二十三人、二十一歳ヨリ二十四歳ニ至ル者百五十二人、二十五歳ヨリ三十歳至ル者七十一人、三十一歳ヨリ四十歳ニ至ル者二十二人、四十歳以上ノ者四人

此学校ヲ保存スル為市中ヨリ出セシ所ノ費金ハ、教場入費ノ外四千ターラナリ

ライプシク「ライプツィヒ」ニ於テハ此類ノ学校ヲメ「イ」ソニク・ロツジ（メーソント称スル社中ノ集会スル為設ケタル場所ヲ云ナリ）ニテ開キ、大分其進歩ノ為尽力セシト雖、遙ニウォルテンボルグ邦ノ学校（同類）ニ如カサル由但シ此類ノ学校ノ初マリシハ実ニ近来ノ事ニシテ、人民教育ノ一機械ナリト雖、未タ数年ノ実験ヲ経ザル者ナリ

独乙国中ノ人民、己ノ力ヲ以成人ノ受業スベキコルレジヲ設ケ得サルニヨリ、若シ其ヲ設ケント欲セハ政府ノ力ヲ借ラザルヲ不得ベシ、然シ政府ヨリ「タ」ヒ扶助セシ上ハ必ラス初等学校同様ニ取扱、厳ナル法則ヲ設ケ、且種々ノ

官員ヲ付ケ此ヲ管理セシメン

(此類ノ學校ハ素ト人民ノ求メニ応シ設ケタル者ナル故、其ノ進歩速カナラザルトモ全ク人民ノ手ニ任セ、政府ニ於テハ一切之ニ關係セサルヲ以テ最モ宜シトセリ)

### 第三 幼學校クライイン・キンデル・ベウアール・アンスタルテン

幼學校乃チ童幼ヲ入レ置ク所ト云意ニシテ、大ナル市邑ニ於テハ私ノ仁恵ヲ以其ヲ設ケ、其數ヲ加増スル殊ニ速ナリ、但シ此仁恵學校ハ決シテ公學校ト匹敵スル者ニ非ラス、實ニ公學校ノ欠乏ヲ補フ者ナリ

郷里ニ於テ二親共野外ニ出耕作シ、且稍大ナル童幼ハ學校ニ趣クニヨリ、家ニ於テ稍小ナル童幼ヲ眷顧スル者ナキニヨリ、慈悲心アル人民己ノ家ヲ開キ、未タ學校年期ニ入ラザル童幼ヲ招キ置キ、厚ク之ヲ眷顧保護セリ

双親毎朝仕事ニ出ル時、其童幼ヲ學校ニ預置キ、仕事ヲ仕舞シ上、再ヒ學校ニ來リ、其ヲ誘フテ家ニ帰レリ

學校ニ於テ童幼ヲ養ヒ之ヲ保護シ、且之ヲ慰ムルニ歌舞手遊等ヲ以テス、但シ童幼ヲ保護スル者ハ其家ノ妻君及ヒ慈悲心アル婦人等、童幼ヲ愛スルノ深キニヨリ其ヲ眷顧セシ為、如斯モ己ノ暇ヲ費セリ

フリューベル(人名)ノプレーガールデンハ、寒貧ナル童幼ヲ教育スルキンドルガートンヨリ稍高尚シ、其教方モ大分規則アリテ、上等ナル人民ノ童幼ヲ遣ス所ナリ、但シ此ルイノ學校ハ獨乙國中ニ五六十個アリ

プロイセン國ニ於テハ、近來政事向ニ係嫌疑ヲ生セシ故カ、政府ヨリ此ルイノ學校ヲ設ル事ヲ禁セリ(但シキンドルガートンヲ禁止セシニアラズ)

改心學校ト稱シテ行狀不正ノ少年ヲ入置キ、耕作坏ヲ教ユル學校アリ、此モ矢張私ノ仁恵ヲ以テ設タル者ナリ



## 78 独乙国公学校ノ規則 第三編

### 第三回 教官ノ仕立方

#### 甲 教官ノ試験

独乙國中ニ於テ大概政府ヨリ手ヲ下シ、教官タルベキ者ヲ仕立テ、且其ヲ試験ス

何レノ盟邦中ニ於テモ教官タルベキ免狀ヲ持セザル者ハ、公私ヲ不論小学校ノ教官タルヲ不得、但シ教官試験ノ為別ニ政府ヨリ設置タル吟味役アリテ、其ノ試験ヲ経ザル者ハ其免狀ヲ得ル能ズ、且教官タル者通例二回ノ試験ヲ受サルヲ不得

第一ノ試験 教官トナルベキ生徒ノ卒業ノ期ニ臨ミ之ヲ試験スルニヨリ、其ヲ卒業試験ト称ス、但シ此生徒ヲ称シテカアンディデーツ、此ハ一年一回ノ試験ニシテ、其日限ハ通例イーストル祭日ノ前ニ於テシ、且大イナル儀式

生徒ヲ試験スル者教官学校ノ頭取且其教官ニシテ、各科ノ教官ハ其教ユル所ノ科目ノミ試験ス  
政府ヨリ遣サレタル吟味役其場ニ臨ミ、其試験ヲ尽ク監察シ、且自ラ試験ヲ為スモ其随意ナリ

プロイセン(ニ)於テハ此吟味役ハ乃チ州ノ学校評議役ニシテ、教官学校ノ存在セル地方ノ評議役ハ唯添役トシテ其場ニ立合イタリ、右ニ挙タル事件ハ第一回ニ掲ゲタルプロイセン全国ノ定法ヲ以論ズレハ欠典ト云ベシ、但シ其定法ニ准ズレハ地方ノ評議局ニ於テ初等学校ヲ差配シ州ノ寺会ニ於テ文法学校、中学校、リアル・スニールヲ差配スベシ此ノ教官学校ノ取除ケタル所謂ハ、唯其ノ初等学校ノ教官ヲ仕立ツル為ノ学校ナルニヨリ、高尚シタル学校ト其等級

ヲ同フスル事ヲ不得

此教官学校ヲ設ケシ本意ハ全州ノ教官ヲ仕立ツル為ニシテ、決シテ学校ノ存在セル地方ノ教官ヲ仕立ツ為ニアラス、然シ各地方ニ於テ其教官学校ヲ設ケ、当今ノ定法ヲ廃止スルハ何レ数年ヲ不出ルベシ

メルセボルクノ地方ニ於テハ地方ノ評議役タル者教官学校ノ試験ヲ為セリ、如何トナレハ其州ノ中ニ高尚シタル学校数多アルニヨリ、州ノ評議役タル者其ヲ試験スル為奔走セサルヲ不得ニヨル

此吟味役ハ教官学校ニ於テ受業シタル者ヲ試験スルノミナラス、其処ニ受業セザル者ト雖、自ラ教官タラン事ヲ求ムレハ又之ヲ試験ス

教官トナルベキ者ノ試験ハ、其学校ニテ卒業セシトキノ試験ト之ヲ分別ス、生徒卒業ノ上試験ヲ受クルトキハ左ノ証書ヲ受ケザルヲ不得

㊦医薬ノ証書 回其以前ノ行状及職業ノ証書 ㊧教官ヨリノ其行状ノ証書 ㊨其生所ノ牧師及ヒ村役人ヨリノ其教官トナル可キ為、其行状モ正ク且神学ニモ熟達セル由ヲ証スル書状

教官学校ニ於テ受業セシト受業セザルヲ不論、教官学校確定ノ科目ニ准シ之ヲ試験ス、且カンディデーツヲシテ傍ラ紙上ニ書記シ、傍ラ口舌ヲ用ヒシメ、且其ノ如何シテ生徒ヲ教ユルヤヲ試験ス

カンディデーツ若シ第一回ノ試験ヲ経タルトキハ、之ニ授クルニ左ノ証書ヲ以テス、但シ証書中第三ノ等差アリ

第一号 甚タ好「ク」出来タル者

第二号 好ク出来タル者

第三号 一ト通出来タル者

試験ノ科目ハ左ノ如シ

第一 神学

第二 独乙語

第三 教方

第四 本邦ノ  
(ママ)

第五 算術及孤角法

第六 理学

第七 習字

第八 図画

第九 唱歌且音楽ノ原法

第十 音器

右ノ各科ヲ試験シ其等差ヲ為スニ矢張、甚タ好、好、一ト通等ノ詞ヲ以シ、之ヲ集合シ以テ証書ノ品位ヲ分ツ、諸科中少クトモ神学、独乙語及算術等ノ三科ノ試験ニ於甚タ好ノ記シヲ得サレハ、第一号ノ証書ヲ受ル事ヲ不得、但シ此証書ヲ受ケシ上ハ教官(補)「但シ助教ヲ云ナリ」タルベキ命令ヲ受クル事ヲ得

教官学校ニ於テ受業セザル者ニシテ、縦令教官タルベキ才能アリト雖、教官学校ニテ受業セシ者尽ク学校ヲ預リ得ザルトキハ、地方ノ知事ヨリ其ニ与フルニ教官タルベキ証書ヲ以テス

或ルカンディデーツハ敢テ知事ヨリ助教タルベキ命令ノ下ルヲ不待、若シ地方内ノ学校ニ於テ教師乏シキトキハ大区ノ

学校評議局ノ周旋ヲ得、地方学校ノ臨時ノ助教又ハ助教タルヲ得

カンディテーツタル者ハ地方ノ学校ニ於テ三年ノ間奉職シ、然ル後第二回ノ試験ヲ受サルヲ不得

カンディテーツ若シ第二回ノ試験ヲ受シ上ハ、其預リタル学校ヲ辞シ去ルトモ、又ハ全ク免職スルトモ其随意トス、

然シ若シ教官学校ニ於テ受業セシ者ハ尽ク其受業ノ費用ヲ払ハサルヲ不得

カンディテーツタル者、助教トシテ三年ノ間地方内ノ学校ニテ奉職スル中ハ、全ク地方ノ知事ノ差配ヲ受ケ、自ラ一方ヨリ他方ニ移ルヲ不得

第二ノ試験 助教タル者第一回ノ試験ヲ經シヨリ三年ノ後、且未タ五年ニ不及トキ、自ラ第二回ノ試験ヲ求メサルヲ不得、但シ第二回ノ吟味日ニ当リ自ラ試験ヲ受クルヲ求メント欲セハ、必ラス先其行狀ノ証書ト、第一回試験ノトキ受得シ所ノ証書ヲ以テ、地方ノ学校評議局迄差出サ「ザ」ルヲ不得

第二ノ試験モ矢張第一ノ試験ト同シク教官学校ニ於テシ、且其ヲ試験スル者地方ノ評議役且教官学校ノ教官等ニシテ、州ノ吟味役ハ其場ニ臨マス、然シ其吟味日ヲ決定スル事ハ州ノ寺会ト相談シ、且カンディテーツノ試験ヲ經タル次第ヲ逐一寺会迄告知セサルヲ不得

④一地方内ノ助教タル者ヲシテ、其ノ受業セシ教官学校ニ至リ第二ノ試験ヲ受ケシメス、然シ其ノ現在カリニ預リタル学校ノ付屬スル地方内ノ教官学校ニ於テ其試験ヲ受シム

此試験ヲ受クベキ者ハ第一ノ試験ヲ受ケントキ記載シタル紙片ヲ所持シ、其時不足ノ記シヲ受ケタル学科ノ試験ヲ再ヒ受ケ、其欠乏ヲ補ハザルヲ不得、但シ第二ノ試験ニ於テハ決テカンディテーツノ學識ヲ加増セシヤヲ不問、唯其教授術ニ熟セルヤ試ムルナリ

◎第二ノ試験ハ決シテ至難ナル者ニアラス、且カンディデーツノ落第二至シ者モ甚稀ナリ

バワリヤ（邦名）ニ於テハ、第一ノ試験ヲ経タル者ハ其筋ノ差図ヲ受ケ、或ル学校ニ至リ教方ヲ試嘗ス、但シ其者ヲ督業生ト称ス

此督業生タル者毎月地方内ノ老練教官ノ家ニ集合シ、前月中何々ノ科目ヲ教授セシヤヲ告知シ、且其月ニ当リ何ノ科目ヲ教授スベキ差図ヲ受ケ

バワリヤニ於テ試嘗年限（真ノ教官トナラサル前、督業生又助教トナリ教方ヲ試ムルヲ云）ヲ四年ト定メシカ、通例ノ試嘗年限ハ三年ナリ

時ニヨリ大学校ニ於テ神学ヲ修メ、且寺会ノ試験ヲ経、神道ヲ講スベキ免状ヲ受ケシ者ノ小学校ノ教官タラン事ヲ求ムル場合アリ

如スカンディデーツハ第一、第二ノ試験ヲ経ルニ不及ト雖、以上ニ掲ケタル吟味役ヨリ同上科目ノ試験ヲ受ケサルヲ不得、但シ此試験ヲ称シテコロクイウム・プロー・レクトレーテユート〔コロクイウム・プロ・レクトラートゥ〕（学校ノ頭取タル為ノ交談ト云意）、此カンディデーツ満足ニ此試験ヲ経タルトキハ、市邑ノ中ノ大ナル小学校ノ頭取タルヘキ証書ヲ受ケ、然シ若不足ナルトキハ、唯郷里ノ小学校ノ教頭又ハ教官タルベキ証書ヲ受ケリ

右ニ掲タル二回ノ試験ハ政府ヨリ決定シタル者ナルニヨリ、右ノ試験ヲ経ザル者ハ決シテ小学校ノ教官タルヲ不得或ル郷里ノ学校ニ於テ旧来ノ教官退職セシニヨリ、新ニ他ノ教官ヲ選ハサルヲ不〔得〕サルニ当リ、若教官数名アリ其職ヲ求ムレハ、学校ノ寄附主（公私ヲ不論）タル者、其教官数名ヲ試験スベキ官許ヲ得タリ

或ル人民ヨリ寄附シタル学校ニ於テハ、政府ヨリ其カンディデーツノ数ヲ限リ（其数ハ通例三人）人民ヨリ撰挙シタ

ル吟味司ヲシテ、爭先<sup>〔ママ〕</sup>試験ヲ以テ其内一人ヲ択シム

ベルリン府ニ於テ教官タラント欲スル者甚多ク、且市人モ未タ自權ヲ以テ其ヲ試験スベキ吟味司ヲ撰挙スル事ヲ不得、然シ政府ヨリ一ツノ吟味局ヲ設置キ、ブランテンボルグ州ノ寺会ノ内一人ヲ挙ケ其局長タラシム、然シ市人ニモ自ラ教官ヲ撰挙スルノ權アリテ、数名中一人ヲ択ヒ之ヲ其吟味局迄申出テ、其局ニ於テ其ノ者ノ教官トナルベキ充分ノ才力アル事ヲ証セリ

## ㊦ 教官ヲ仕立ル方法

小学校ノ教官タ<sup>〔ラ〕</sup>ント欲スル者ハ、其為ニ設タル学校ニ於テ數年間ノ受業セサルヲ不得、但シ此学校ヲシユールレーレル・セミナリーエン又ハ略シテセミナリーエント称ス、但シ此セミナリーエン中ニ數種アリテ、其一ヲセミナール、其二ヲプロセミナール、其三ヲネーベンセミナールト称ス

此セミナリーエンハ尽ク政府ニ属スル学校ニアラズ、サクソニーニ於テハ私ニ属スルセミナール二個アリテ、一ハウアルデンボルグニアリ男子教官ノ為ニ供シ、一ハリフテンスタインノ近傍ナルカルンベルクト云所ニアリテ婦人教師ノ為ニ供ス、但シ此二ケノセミナールハ、シェーンボルク・ウアルデンボルグノ大名ヨリ私ニ寄附セシ者ナリ

プロイセンニ於テハ一二セミナールンノ私ニ属スルアリト雖、其ハ実ニ非常ノ者ナリ、數多ノ盟邦中ニ此種ノ学校アリト雖、尽ク政府其管轄ヲ受クル者ナリ

ハンボルグ及フランクボルクノ外、如何ナル差小ノ盟邦ト雖、各教官学校ヲ設置ケリ

フランクホルトノ産ニシテ若教官タラント欲スレハ、何ノ邦ヲ不論獨乙國中ノセミナールニ入校スル事ヲ得タリ、且其ノ受業セシセミナールニ於試験ヲ受ケ、又ハ其出所ニ歸リ寺会ヨリ命セラレタル吟味司ヨリ試験ヲ受ルトモ、唯其



者ノ所望ニ任ス

ブレメン府ノ如キハ、其近傍ナルハノーウル及オルデンボルグ等ヨリ教官ヲ雇入リ〔シ〕ガ、近来府中ニ教官学校ヲ設クル事ヲ企タリ

プロイセンニ於テ近来セミナールンノ数弥加増セルニヨリ、遂ニハ地方毎ニ一ノセミナールヲ設ケ、小学校同様ニ地方官員ノ管轄ヲ受クベシ

プロイセンニ於テ近来セミナールンノ数加増セシノミナラス、其学校内ノ事件ニ至ル迄モ実ニ齊ヘリト云ヘシ

セミナールヲ設クベキ地ハ小市ニシテ、生徒ノ教方ヲ試嘗スベキ為ノ学校アリ、且生徒勉強ノ妨トナルベキ者ノ無キ所ヲ以テ最宜ロシトス

總テノセミナールニ於テハ、生徒ヲシテ学校内ニ寄宿セシム、然シ已ムヲ不得場合ニヨリ其外宿スル事ヲ許セリ  
ベルリン府ノセミナールハ、当今カリノ学校ナルニヨリ生徒中外宿アリ

サクソンニ於テ生徒若シ自身ノ家ニ住居スルヲ望ハ、地方大区ノ官局ヨリ其ノ許可ヲ受サルヲ不得

ブレーメンニ於テハ生徒尽ク外宿セリ

セミナールノ建築、家具、機械等ノ費用、教官及ヒ奴僕ノ給料ニ至迄、大政府ヨリ之ヲ出セリ、然シ生徒ノ食料、洗濯料等ハ生徒ヨリ尽ク之ヲ払ヘリ

各生徒一歳ノ食料ハ、其土地ノ形況、物価ノ高低ニ准シ差細ノ別アリト雖、大概多クシテ五十タラ、少フシテ三十八タラ〔ト〕ス、但シ其内薪油料ヲ含メリ

右ニ挙タル三十八タラ乃至五十タラハ、唯午餐晚餐等ノ食料ニシテ、他ノ食糧ハ生徒ヲシテ自身ニ之ヲ求シム、如何



トナレハ、生徒自分ニ食ヲ求〔シ〕ムレハ決シテ法外ニ大食セザルベシ、但シ其自身ニ求ムル所ノ食糧ハ、一年二十ニタラニ過キサルベシ

故ニ生徒ノ一人ノ食料ハ、多少ヲ折中シテ一周ニ一タラ十五クロッセンナリ

バワリヤニ於テハ、食物ノ備ブロイセンニ比スレハ遙ニ充分ナルニヨリ、生徒ノ食物モブロイセン生徒ノ食物ニ勝リ、且食料モ亦廉ニシテ、一人前一日ノ食料ハ僅々二十三クロイツェルス八九ペンズナリ

セミナール生徒ノ數ハ六七十人ヲ以テ通例ノ定數トシ、決シテ百人ヲ過サルベシ

ブロイセンノセミナールニ於テハ其教方ノ至嚴ナルノミナラス、生徒生活ノ仕方モ實ニ過嚴ト云ベシ

生徒ヲ教授スルニ、其等級ノ異ナルニヨリ其時間ヲ異ニスト雖、食事ノ時ハ之ヲ一食場ニ混集シ飲食セシム、且生徒全部ヲ別ケ數分トシ、閑暇アルトキハ之ヲシテ一室（坐敷）ニ集リ消光セシム

南獨乙國中ノセミナールニ於テハ、別室ノ設無キニヨリ、生徒ノ集合スル所ハ唯ホール（学校中ニ設タル大イナル公會所ヲ云ナリ）又ハ其教場ナリ

寐臥所ニ於テハ一切火氣ヲ用ヒズ、然其場甚大ナルニシテ空氣ノ流通スル事最モ宜ロシトス

臥床台ハ學校ニ於テ之ヲ備ヘリト雖、臥床ニ至テハ各生徒自之ヲ持来ラサルヲ不得

夏中ハ朝五時、冬中朝五時半ヲ以生徒離床時期トス、朝六時ニ至リ祈禱ノ場ニ出張シ、其レヨリ七時ニ至ル迄予備稽古ヲナシ、其レヨリ朝食（補）「唯パントミルクノミ」ヲ食シ、八時ニ至ル迄休息ス

八時ヨリ十二時ニ至ル迄受業シ、其レヨリ午餐ヲ食シ且休息ス

午後一時再ヒ受業ヲ始メ二時ニ至ル、其レヨリ一二時ノ間音楽ノ稽古ヲナシ、四時ヨリ六時ニ至ル迄休息シ、七時或

ハ八時ニテ晚餐ヲ食シ、其ヨリ休息シ、又ハ次日ノ予備稽古ヲナセリ

ソンデーヲ限り生徒ノ自在ニ遊園外ニ出ル事ヲ許シ、且十二時ヨリ午後六時ニ至ル迄其ノ随意ニ外行スル事ヲ許セリ  
ソンデーノ朝ニ於テ、教官中一人尽ク生徒ヲ引連レ、村中ノ寺院ニ至ル

(一周中或ル一日ノ午後(通例水曜日)、教官一人ノ管督ヲ得テ生徒共ニ逍遙ヲナセリ)

或ルセミナールンニ於テハ其教官上級(三年目ノ生徒)中選択ノ生徒ヲ連レ、一二日間ノ遊行ヲナセリ

セミナールンノ頭取生徒ヲ己ノ家ニ招ク事甚稀ナルノミナラス、且通例村中人民ノ招キヲモ受ケ其家ニ至ル事ヲ不許  
生徒多クハ寒貧ナルニヨリ己ノ金ヲ費セシ、或ル遊嬉ヲ求メ得ザルノミナラス、敵ニ其ビーヤ店ニ入ル事ヲ禁シ、且  
若シ烟草ヲ喫セバ直ニ之ヲ遊<sup>(放)</sup>逐ス

プロイセンノセミナールンニ於テハ、生徒モ教官モ甚多事ニシテ、実ニ安楽ノ日ナシト云ベシ

生徒自ラ己ノ臥床ヲ齊成シ、且其室内ヲ掃除スルノミナラス、順番ヲ以テ尽ク家内所屬ノ事務ヲ弁セリ、然シ煮焼ハ  
生徒ノ管セサル所ナリ、バワリヤノセミナールンニ於テハ小使ヲ設置キ、家内ノ事務ヲ弁セシム

諸邦中生徒在校ノ期限ハ不同ナルニヨリ、其等級ノ数ニ至リテモ自ラ多少アリ

サクソンニ於テ其在校ノ期限ヲ四年トス、且然シ生徒十五六歳ノ年齢ヲ以入学スルヲ得タリ、バワリヤ及ヒウォルテ  
ンボルグニ於テ唯二年ヲ限レルニヨリ、生徒ノ年齢サクソン生徒ノ年齢ニ比スレハ稍大ナリトス

プロイセンノセミナールンニ於テハ一般ニ三年ト定メタリ、然シケーペニクノ学校ニ於テハ、其州中教官ノ乏キニヨ  
リ、其在校期限ヲ二年ト定メタリ、然シ其年限ハ相応ナル教官ヲ仕立ル為ニ甚不充分ナリ

セミナールニ入ル者ハ予メ試験ヲ受サルヲ不得、且入学ヲ求ル者通例ノ定数ヲ過ルトキハ其ヲ試験セシ上、其内幾何

ヲ扱拔ス、然シ相当ノ予備アル生徒ヲ擯却スル事甚稀ナルノミナラズ、屢々定数ヲ得ン為未熟ニシ〔テ〕入学ヲ許スヘカラサル者ヲ許シ入学セシム

入学生ノ年齢ハ十八歳以上トシ、別ニ其上ノ年齢ヲ不限ト雖、二十一歳以上ノ生徒ノ入学ヲ許ス事ハ格段ナル場合ノ外甚稀ナリ

サクソニーニ於テハ生徒ノ年齢ヲ二十五歳ト限レリ

生徒ノ行状且其コンフォルメーションノ証書ノ外、其在校三年ノ間ハ其ノ食料ヲ払フベキ証書ヲ、其父兄ヨリ差出サザルヲ不得

セミナールンニ多分窮生ヲ扶助ノ積金アリテ窮生ヲ扶助セリト雖、其金高ハ殊ニ僅ナル由

生徒入校ノ節ノ試験スベキ科目ハ甚容易ニシテ、音楽及ヒ僅カノ記憶スベキ事件ノ外、至好ノ小学校ニテ教ユル所ノ科目ト大ニ異ラサルベシ、但シ其試験ヲ受ベキ個条ハ、ルーテル氏ノ聖經ニ関リタルカテキズム問答書ノ類、或ハ（ハイデルベルヒノ問答書）寺院 Church year ノ福音伝、聖詩ノ中凡二十詩、聖歌ノ中凡五十聖歌、其外旧新約書中聖教ニ大関係アル数句等ニシテ、尽ク之ヲ記憶セサルヲ不得

セミナールニ於テ教ユル所ノ科目、生徒一周間ノ受業時限ハ左ノ表ニ於テ見〔ル〕ベシ

第三年目ノ生徒ハ、小学校ニ於テハ教方ヲ試嘗スルニヨリ其受業時間ヲ減セリ、学校ノ教官ハ頭取共四人ニシテ、其教授時間ノ分配ハ次ニテ見ルベシ

頭取

十八時

教頭

二十二時

二十三時

十九時

右時間ノ外、生徒ノ試嘗学校ニアリ教方ヲ試嘗シ、或ハ生徒自ラ教方ノ題ヲ設ケ其ヲ試嘗スルトキハ、教官タル者其場ニ臨ミ其ヲ監察シ、且生徒神学ノ教方ヲ脩メ且祈禱等ヲナシ、又ハ体術学水涸ニ趣キ、或ハ耕作ノ教授ヲ受ケルト

学 科	第一年目 ノ生徒	第二年目	第三年目
	一周ノ時間	〃	〃
学校ノ取扱方	二	二	二
神 学	六	六	三
語 学	五	三	三
歴 史	〇	二	二
地理書	二	二	〇
博物学	二	二	二
算 術	三	三	一
習 字	二	一	〇
図 画	二	一	〇
唱 歌	二	二	二
音楽ノ法及其教方	一	二	一
ワヨリン	一	一	一
ピアノ	一	〇	〇
オールガン	〇	一	一
	二八 〔二九〕	二八	十八

キハ、教官中其時間ヲ分配シテ生徒ヲ監察セリ

プロイセンノセミナールンニ於テ、試嘗学校ヲ以テ甚緊要ナル者トス、但此学校ハモデル（模形スルト云意）学校ノ組立方、且其取扱方等ト全ク異ニシテ、試嘗ノ為別ニ学校ヲ不設、其所ノ小学校ヲ借り其用ニ供セリ

或ルセミナールニ於テ其中ニ幼児ヲ設置キ、生徒ヲシテ教方ヲ試嘗セシム、且或ルセミナールニ於テ六級ヲ含ミタル学校ト、一級ノミノ学校ヲ兼用スルノ便宜ヲ得タリ

盟邦中或ル邦ニ於テ、教官ヲ雇フベキ費金ヲ省カン為、試嘗学校ニテセミナールンノ生徒ヲ空ク使用スルノ患ヲ生セリ、然シプロイセンニ於テハ強テ其患ノ生セザル事ヲ計レリ、且縦令別ニセミナールン付屬ノノルメルマストル（ノ

ーマル・マスター）ヲ設ズト雖、頭取タル者全ク其小学校ヲ差配シ得ルニヨリ注意シテ適當ナル教官ヲ択ヒ、且生徒ノ教方ヲ試嘗スル時ハ、其教官及ヒセミナール（ン）ノ教官ヲシテ其ヲ監察セシム

如斯克セミナールノ生徒教方試嘗ノ為其所ノ小学校ヲ借用セント雖、其学校ハ矢張市邑或（ハ）村落所屬ノ者ナルニヨリ、通常ノ小学校同様ニ之ヲ待シ、且其受業スル童幼ハ決テ生徒ノ試嘗ノ為教授スベキ生徒ニアラス、乃チ通例小学校ノ生徒ナリ、故ニ之ヲ教授スル者ハ予メ適宜ノ用意ヲ為サルヲ不得、且教授中其宜ロ（シ）キヲ不得トキハ、学校ノ教官直ニ其試嘗セル生徒ニ替リ童幼ヲ教授シ、生徒ヲシテ傍看セシム

生徒セミナールニアル事一年或ハ二年ニシテ、未タ学校ニ来リ教授スベキ免許ヲ受サルトキモ、矢張一周中幾時間ヲ限り教方ヲ學ヒ得ン為学校ニ来リ、其教官又ハ高級生徒ノ童幼ヲ教ユルヲ傍看ス

生徒ノ教方ヲ吟味セン為時々題ヲ設ケ、或ル生徒ヲシテ其ヲ教ヘシムルトキハ、全級ノ生徒其場ニ臨ミ其ヲ看守ス其吟味ヲ受ベキ生徒ノ予メ其教授スベキ事件ヲ記載シ、之ヲ其吟味役迄差出ス、且其生徒半時ノ間童幼ヲ教授シ後、

童幼ヲシテ教場ヲ退カシメ、且全級ノ生徒ヲシテ其教方如何ヲ批評セシム、其上吟味役タル者自身ノ存意ヲ延べ、其教方ト他ノ批評トヲ可否ス

プロンスウィキ府ノセミナールニ於テ、生徒縦令卒業セント雖、直ニセミナールヲ去ル不能、且或ル学校ノ助教タルベキ命ヲ不受ル内ハ、矢張其試嘗学校ニ於テ童幼ヲ教授セリ

ウォルテンボルク及ヒバワリヤ邦ノアルトドルフ（地名）ニ於テハ、セミナールノ使用セル試嘗学校ハ全ク市邑ニ属スルト雖、矢張セミナールノ頭取之ヲ差配セリ、然シシュワドバク〔シェヴァーバック〕（バワリヤノ中ニアリ）ノセミナールニ於テハ、其頭取ヨリ其試嘗学校ヲ差配セザルニヨリ、セミナールト学校トノ間ニ大ナル不都合ヲ生セシ由プロイセン国ノ或ルセミナールニ於テハ自属ノ啞院アリテ、生徒ヲシテ教方試嘗ノ為啞聾ヲ教授セシム、但シバワリヤ邦ノアルトドルフ及ヒシュワドバク等ノセミナールニ於テモ亦、生徒ヲシテ啞聾ヲ教授セシム

千八〔百〕五十四年、プロイセン政府ヨリ定メシ所ノセミナール生徒ノ教方ノ略ハ、左ニ於テ之ヲ見ルベシ

其一 学校ノ取扱方 セミナールニ於テ別ニ規則立タル教官ノ心得ヲ不教、唯学校ノ取扱方ヲ教ヘリ、但シ其教授時間ハ一周ニ二時間ヲ不過

此科目ニ係リ第一級ニ（一年目ヲ云ナリ）於テ、先ツクリシチャン・スュールト称シテ耶蘇聖經ヲ教ヘタル学校ノ縁記ノ大意、且其ノ家族、寺院、政府等ノ欠可カラサル関係及ヒリフォルメーション（千六百年代ニ初ニ当独乙国中宗旨ノ大变革アリシヲ云ナリ）以来ノ学校家ノ姓名、且彼等ノ始テ初等学校ヲ開キシ等ノ事件ヲ教ヘ、第二級ニ於（二年目）テ学校内ノ事務及ヒ耶蘇聖經ヲ教授ス教方ヲ解明シ、第三級ニ及テ於テ、生徒ノ以後教官トナリシ上ハ政府及ヒ寺院ノ使役ヲ受クルハ乃チ其職分タルヲ教ヘ、且卒業ノ上モ尚自身ニ其才力ヲ研窮スベキ方向ヲ教



シユ、然シ此第三級ノ生徒ヲシテ、試嘗學校ニ於テ教授セン為予メ用意ヲ倣シ、且其教方ニ熟練セン為多ク時間ヲ費セサシムベシ、宜シク上帝ヲ尊敬シ

其二 神学 初等學校ノ教官タル者実ニ童幼ノ先導タルニヨリ、勉メテ己ニ克チ其身ヲ脩メサルヲ不得、故ニ宜シク福音ノ本意ニ体シ上帝ノ真理ヲ明悟シ、如何シテ罪人ノ救ヲ得ベキ妙道ヲ奉信シ、且其道ヲ己レノ言行ニ施スベシ生徒ニ教ユルニバーネン〔バルメン〕（人名）ノカテキズム（問答書）、耶蘇ノ門徒ノ其教ヲ四方ニ翻揚セリヨリ今日ニ迄深ク其道ヲ奉信セシ人物ノ伝、及伝教師ノ所勞ニヨリ此道遠ク海外ニ波及セシ由ヲ以テスベシ、セミナール生徒ノ脩ムベキ神学ハ、宜ク初等學校生徒ノ學ブベキ神学ト關係アルベシ、但シ初等學校ニ於テ其教官ノ教ユベキ神学ハ、決シテ其深意ヲ解明スル（此ハ牧師ノ職掌ナリ）ニアラス、唯童幼ヲシテカテキズムヲ數回復読セシメ、其ヲ記憶セシ〔ム〕ルニアリ、童幼ニ聖經略史ヲ教ユルハ決シ〔テ〕宗旨ヲ教ヘ、或ハ生徒ノ言行ヲ導クニアラス、唯上帝ノ如何シテ其撰民ヲ待ンヤノ縁記ヲ教ヘ、上帝ト人間ト〔ノ〕關係ヲ知ラシムノミ

故ニ初等學校ノ教官タル者ハ宜シク聖史ヲ貫通スベシ、向後教官タルベキ者ハ宜ク初等學校ニ於テ教ユル所ノ聖史ヲ暗誦スベシ、但シ其撮要ハザーン〔ツァーン〕（人名）、プロイス（人名）、及ヒオトー・シュールツ（人名）氏ノ編集セシ聖史ノ中ニアリ

其三 語学 初等學校ノ教官若シ其綴文、読書等ニ過誤ヲ生セサルトキハ、初等學校ノ童幼ヲ教ユルニ足レリト云ベシ、故ニセミナールニ於ケル初級ノ生徒ハ強メテ読書ノ教方ヲ熟習スベシ、且第二、第三級ノ生徒ノ語学ヲ脩ムルハ、宜ロシク日用及ヒ初等學校教授ノ為一切障礙ヲ生セサルヲ以度トスベシ、但シワーカルネーゲル〔ヴァッカーナーゲル〕氏ノ讀本ヲ以生徒ノ所用ニ供スベシ



第一級、第二級生徒ノ綴文スルハ、宜ク読書本ト多少ノ関係アルベシ、然シ第三級ノ生徒ハ他ノ学科又ハ教官ノ職分ニ係リ文章ヲ作為シ、且官局又ハ商売所用文体等モ脩ムベシ

セミナールノ生徒其留學中ハ、年々己ノ脩ムベキ学科ノ外差図通りノ書物ヲ読マサルヲ不得、且教官迄時々其ノ讀書セシ由ヲ告ザルヲ不得、但シ生徒ノ読ムベキ書物ハ宜シク聖經又ハ脩身學ニ関係スベシ、如何トナレハ教官タル者唯己ノ學識ヲ研窮スルノミナラズ、宜ロシ〔ク〕其ノ言行ヲ正シテ人民ノ前導タルベシ、故ニ旧時ノ独乙文學等ハ生徒閑読ノ簡条ヨリ省キ、且脩身學等ニ係ラザル書物ハ宜ク之ヲ禁スベシ

其四 歴史及地理 セミナールニ於テハ唯本邦ノ地理歴史ノミヲ教ユベシ、セミナールニ一般ノ歴史ヲ教ユル事ハ無益ナルニヨリ、宜シク独乙國ノ歴史ノミヲ教、別シテプロイセンノ歴史トセミナール所屬ノ州郡ノ歴史ト教ユベシ初等學校ノ教官タル者ハ、後進ノ童幼ニ教ユルニ古今ノ伝説ヲ以テシ、宜ロシク國ヲ愛スル事ヲ知ラシメ、且王ヲ愛スル志ヲ撥起スベシ

如斯ク愛國ノ志ヲ撥起スヘキ歴史ハ、宜シク國人ノ風俗思慮ト一致セシムベク、且人民ヲシテ國ヲ愛セシメン為宜ロシク祝日ヲ設ケ、古來ヨリ國ノ為ニ尽力セシ人物、又國家ノ勝利ヲ得シ等ノ事ヲ逐懷セシムベシ

生徒ヲシテ宜ロシ〔ク〕流行ノ詩ノ至高ナル者ヲ暗誦シ、且其譜ヲ學バシムベシ、如何トナレハ如斯基詩ヲ教ヘ且音楽ヲ添テ之ヲ唱フルトキハ、自ラ國ヲ愛スルノ志ヲ生スルニヨリ、國家ノ歴史ヲ教ユル為ノ一助タルベシ但シセミナールニ於テ逐懷スベキ祝日ハ左ノ如シ

正月十八日 千七百一年正月十八日 プロイセン初メテ王國トナレリ

二月十八日 千五百四十六年二月十八日ニ於テマーチン・ルーテル死ス

〔六月十八日〕 千八百十五年六月十八日 ウァトルローノ戦争

〔同月二十五日〕

八月三日 千七百七十年八月三日 三世フレデリック・ウィルヘルム誕生ス

十月十五日 千七百九十五年十月十五日 第四世ノフレデリック・ウィルヘルム誕生

同月十八日 千八百十三年十月十八日 ライプジックノ戦争（此戦争ニ於テ第一世ナポレオン敗ヲ取レリ）

同月二十五日 千五百十七年十月三十一日 宗旨ノ大変革

九月十日 千四百八十三年九月十日 ルーテルノ誕生日

右ニ挙タル祝日ハプロイセン一般ノ祝日ニシテ、各州ノ祝日ハ各州ニ於テ之ヲ祝スベシ

右ノ祝日ヲ祝スルニ宜シク音楽ヲ奏シ、又宗旨ニ係タル祝日ニハ寺院所用ノ歌ヲ唱へ、且之ヲ加フルニ其逐懷スベ

キ祝日ノ事件ノ講義ヲ以テスベシ

第二、第三級ノ生徒歴史ヲ学ヒ、第一、第二級ノ生徒ハ地理学ヲ学フベシ

第五 博物学 第一、第二級ニ属スル生徒ノ博物学ノ受業時間ハ一周ニ二時ヲ限リ、且其授クル所ハ決テ高尚ナル者

ヲ不用ベシ

動物及植物学ヲ授クルニ唯其大意ヲ以テシ、重ニ本邦ノ畜類草木等ヲ指示シ、且講義ヲ以之ヲ解明スベシ

本邦産スル所ノ重ナル金石ヲ弁別スル事ヲ教へ、且人身体ノ分部ノ名（凡俗ニ用ユル所ノ名ナリ）ヲ教ユベシ

右ノ学科ヲ教ユルニ宜ロシク意ヲ加へ、不絶耕作工芸ノ為必用ナル事件ヲ教授スベシ

生徒第三級ニ進シ上ハ之ニ教ユルニ窮理学ヲ以テシ、且之ヲ解明スルニ通例ノ講義ヲ以テシ、数理ヲ用ユルニ不及

湿気電気及ヒ磁氣ノ巧力ヲ教ユルニ、普通ノ機械等ヲ用ユベシ

第六 算術及弧角法 弧角法ヲ以唯本線、弧線、図画及ヒ物形ヲ測量スル事ヲ教ヘ、決シテ高尚ナル数理ヲ用ヒザルベシ、且算術ニ至テモ初等学校ニ於テ教ユル所ニ齊シク、数字ノ三位ヲ以算スル事ニ過サルベシ（但シ加減乗除ヲ云ナルベシ、三位トハ減スベキ数ト、減カルベキ数ト、減シテ余リタル数杯ヲ云ナリ）

右ノ外セミナールニ於テ教ヘサル所ノ稍高尚シタル算術、乃チ高尚シタル比例、デシマルス平方等ヲ学ハント欲スルトキハ、其ノ由ヲ以テ州ノ知事迄願出ヅベシ

第七 習字 生徒ニ教ユルニ分明且容易ニ文字ヲ書ク事、且黑板上ニ画字ノ手本ヲ書ク事ヲ以テスベシ

第八 図画 セミナールニ於テ教ユル所ノ図画ハ、唯物体ノ外形（線ヲ以テ唯画キ其影<sup>〔カ〕</sup>ヲ画カサルヲ云ナリ）ヲ画ク

事ノ大意ノミヲ教ユベシ

第九 音楽 セミナールニ於テ音楽ヲ教ユルハ決テ其奥妙ヲ窮ムルニアラス、唯其ヲ以テ脩身学ヲ教ユル一助トシ、且寺院ノ所用ニ供スヘシ

#### 第十 技術学

第十一 植木術 セミナール毎ニ宜ロシク果実ヲ結フベキ樹木ノ植方及ヒ蚕ノ養方等ヲ教ユベシ、然シ樹木ノ養方ニ係リテハ地方ノ土質ニヨリ宜ロシク差別アルベシ

右ニ準シ所ノ学科ハ其数モ殊ニ少ク、且決シテ高尚ナル者ニアラズ、然ルニプロイセン国中何レ〔ノ〕セミナールニ於テモ、入門生ノ予備甚不十分ナル事ヲ歎息セザルハナシ、但シ此少年輩通例六級ヲ含メル初等学校ニ入り、十四歳ニ至迄受業シ、其レヨリ不絶教官トナルベキ事ヲ志願シ、十八歳ニ至リテセミナールニ入校セシ上モ、其ノ脩ムル

所ハ初等学校ニ於脩メシ所ト格外ノ相違無キニ、生徒ノ如斯クモ予備ニ乏キハ実ニ驚駭スベキ事件ナリ

〔丙〕 セミナールンヘ進ムベキ為ノ予備

セミナールンヘ進ムベキ為ノ予備ノ為ニ兩種ノ別アリ

サクソン国ニ於テハセミナール毎ニプロセミナール(セミナールノ予備学校ト云意)ヲ設ケ置キ、十四歳以上ノ少年ノ入門ヲ許シ、其ヲシテセミナールヘ進ムベキ為ノ用意ヲ為シム

プロセミナールノ生徒ハ縱令セミナールノ教官ノ教授スル所ニシテ、寺会官員ノ試験ヲ受ケ、且政府ヨリ差細ノ扶助金ヲ奉セシト雖、矢張私ノ学校ナリ

予備生徒ハ常ニ教官ノ家ニ住居セスシテ、多ク外宿セリ

プロイセンニ於テハ以前予備ノセミナール盛ニ行セシニ、近来大ニ衰微シテ、当今存在スル者ハ唯ワイセンフェルスニ於ケル者ノミ

セミナールニ進ムベキ生徒ハ其予備ヲナス為私ニ教師ニ就キ業ヲ受ケリ、時トシテハ牧師ノ家ニ至リ、然シ通例学校ノ教師己ノ家ヲ開キ兩三(又ハ兩三以上)ノ生徒ヲシテ入塾セシム、然シ生徒入塾セシ上ハ家族同様ノ取扱ヲ受ケ、家内又ハ学校ニ在テ教師ノ使役ヲ奉セサルヲ不得、然シ近来政府大分意ヲ加テ私ノ教師ヲ管轄シ、地方ノ監督ノ試験ト免狀ヲ不受者ハ決テ私ノ教師タルヲ不許、但シ試験ノ上其監督タル者試験ノ実効ヲ逐一記載シ、之ヲ以テ監督ヨリセミナールノ頭取迄遺ス

以前ニ記載セシ通りプロイセンニ於テセミナールノ予備学校大ニ衰微セリト雖、シレシヤ州ノ知事スタイナウ(其州内ノ地名)ノセミナールニ於テ予備学校ヲ設クル事ヲ企テシ、如何トナレハプロイセンノセミナールンニ於テ一ノ悲

歎スベキ事ハ、入門生ノ予備甚不充分ナルニヨル

セミナール入門生ノ予備不足ノミナラズ、其不振所謂ハ乃チ其教師ノ事務殊ニ多端ニシテ更ニ閑暇ナク、其ノ規則通りニ生徒ヲ教授シ、偏ニ懸リノ役人ヲ満足スル事ノミ工夫シ、一切生徒ト交親スル事ヲ不<sup>レ</sup>強、且其ノ志願ヲ广大ニスル事ヲ勸メザルニヨルベシ

教師タル者モ多分ハ一般ノ學問ニ乏シク、政事向ノ事暗ラク、且更<sup>〔ニ〕</sup>独立不羈ノ志ヲ保藏セザルニヨリ、後進ノ生徒ヲ勸導シ得ザルモ亦自然ノ勢ナリ、但シ前進教師ノ志不振トキハ後進生徒ノ智識モ自ラ延ビザルベシ  
地方官局ヨリノ命ニヨリ、彼生徒セミナールニ進ムベキ為、高尚ニシテ一切解明シ得難キ章句ヲ暗誦セサルヲ不得、但シ生徒ノ章句ヲ解明セズシテ空ニ暗誦スルハ、是亦其智識ヲ圧迫ノ一端ナラン

#### □ プロイセン國ノ教官學校ノ近來ノ改革

千八百四十八九年以來、北独乙國ニセミナールニ於テ教官ノ仕立方ニ大ナル變革ヲナシ初メ、千八百五十九年中ニ矢張其改革ヲ全シ得サリシ、但シ其改革後ノ教方ト、改革以前ノ教方ト<sup>〔ノ〕</sup>比較ハ左ニ於テ之ヲ見ベシ

改革以前<sup>〔ノ〕</sup>教方ニ於テハ生徒ニ授クルニ習字、讀書、算術等<sup>〔ヲ〕</sup>以テセズシテ、甚高尚格物致智ノ學ヲ授ケリ  
以前ノセミナールハ殆ド小ナルユニオルンティイ<sup>〔ユニヴァーシティ〕</sup>ニ近キ者ニシテ、教育術ト稱スル學問ヲ教ヘタリ教官術、論理術、人種<sup>〔人間ニ係タル〕</sup>學、格物致智學等ニシテ、其教ヘシ所重ニ生徒中其レヲ解明シ、且如斯基高尚ナル智識上學問ヲ好シ者ハ甚稀ニシテ、其余ハ多クノ學術ノ深意ヲ解シ得ザリシ

如斯基高尚ナル學術ヲ脩メ、最モ緊要ナル習字、讀書、算術等ニ注意サルニヨリ、其教官タルベキ職務ヲ奉シ得難キノミナラス、又區々頭ヲ低、小学校ノ教官トナリ、差細ノ給料ヲ受ルヲ嫌ヒ、遂ニ不平ノ志ヲ起シ、密ニ政府ノ所置



ヲモ誹謗スルニ至リ、且好ンデ教官トナ〔リ〕シ者モ童幼ノ最モ要スル所ノ学科ヲ教ユルヲ嫌ヒ、無智ノ童蒙ニ授クルニ、己ノ兼テ学ビ得シ最モ得意ナル窮理学、天文学、歴史、神学或ハシルラ〔シラー〕氏ノ美妙ナル詩等ヲ以テセリ千八百四十八九年ノ間ヨリ古来ノ教育方ヲ廃止シ、新ニ行レ易キ法方ヲ設ケタリ、此新法ノ目的ハセミナールニ於テ決シテ丈夫ヲ養フニアラス、唯小学校ノ教官ヲ仕立ツルノミ

古来教ヘシ所ノ高尚ナル學術ヲ廃シ、且教官術ニ替フルニ学校術ト称スル学校ノ取扱方ヲ以テシ、且窮理学ニ替ルニハイマスキュンデ〔ハイマツクンデ〕ト称シテ、家ノ内外ニ係リ最必用ナル物件ノ理ヲ教ユル学科ヲ以テセリ

以前ノ教方ニ於テハ世界ノ歴史ヲ教ヘ、空ク時間ヲ費セリシガ、今ハ他国ノ歴史ヲ教ユル事〔ヲ〕廃シ、プロイセンニ於テハプロイセンノ歴史ヲ教ヘ、サクソンニ於テハサクソンノ歴史ヲ教ヘシム

古時ノ独乙文学ヲ教ユルヲ禁スルノミナラス、又敵ニ生徒ノ其ヲ閲読スル事ヲ禁シ、且生徒ノ為設ケタル文庫中ニハ、重ニ近世ノ作家ノ著述ヲ集メタリ

以前ノ教官ハ好ンテ高尚ナル學術ヲ脩、且独立不羈ノ志ヲ保蔵セシニヨリ、兎角政府寺院ノ害ヲカモセシノミナラス、又自身ニ於テモ其職分ヲ甘セザリシ、然シ当今ノ教官ハ其ト大ニ反シ、慎テ政府寺院ノ命ヲ受ケ、且己レノ職分ヲモ甘セリ、但シ当今ノ教官ノ不平ヲ鳴〔サ〕ザルハ唯政府ヨリ敵法テ之ヲ圧迫セシニヨルノミナラス、多分ハ其ノ給料ヲ加増セシニヨルベシ

國 ネーベンセミナール（ネーベン 添加ヘルト云意）

サクソニー国内グリンマト云所ニ於テ、教官学校ノ一種類ニシテネーベンセミナールト称スルアリ、之ハ以来教官ノ数甚稀ナルトキ、年齢ノ稍大ニシテ一度ヒ他ノ職業ニ始メシ者ノ目的ヲ變シテ教官トナル事ヲ望ミシトキハ、<sup>〔カ〕</sup>教会ヨ

リモ其ヲ許シ、教官タルベキ為ノ試験ヲ受シメリ

如斯好テ教官タル事ヲ望ミシ者ハ、却テセミナルノ生徒ヨリハ篤実ナリト雖、通例予備ニ乏シキノミナラス、且其年齢モ已ニ二十五歳乃至ハ三十歳ナルニヨリ、セミナルニ入り十六歳乃至ハ二十歳ナル少年ト同様ニ至難ノ學業ヲ脩メ難シ、故ニグリーンマニ於ケルセミナルノ頭取別ニネーベンセミナルヲ設ケ、二十歳以上ニシテ教官タル事ヲ望ミシ者ヲ教ユル為ニ供セリ

此ネーベンセミナルハセミナルニ付屬シ、セミナルノ教官其ノ生徒ヲ教授シ、且其頭取ノ差配スル者ナリト雖、矢張私ノ學校ニシテ、初メテ其ヲ開クトキハ政府ヨリ許可ヲ受ケ、人民ノ寄附ヲ請ヒ、千八百五十五年ニ市中ノ借家ニ開キ其用ニ供セシ、但シ其時入校セシ生徒ノ數ハ九人ニシテ、三四年ノ間ニ最早二十人以上ノ教官ヲ仕立タリ文部省ヨリモ年々扶助金凡三百タラヲ与ヘ、人民ヨリモ金ヲ寄附シ、文庫ヲ設ケ、且近來生徒ノ數モ逐々加増セリ、然シ如斯キ學校ヲ開シ上ヘ、或ル人物ノ職業ヲ失ヒタル者、唯糊口ノ為教官タルヲ求ムルノ患アルニヨリ、其頭取タル者大分注意シ、入校ノ行狀ヲ糺シ、且其行狀及職業等ノ証書ヲ求メ、且耶蘇教ヲ信シ、且童幼ヲ愛スルヤ等ニ至ル迄尽ク探索セリ、プロイセン國中ノ一ノ地方ニ於テ右同様ノ學校ヲ設タリ

#### 圖 教官ノ進歩ヲ勸ムル法方

初等學校ノ教官第二回ノ試験ヲ經シ上、學校ノ教官タルベキ命ヲ受ケシト雖、其職分ニ係タル教育ハ既ニ終レリト云能ワズ、矢張其後ニ実用上ノ學識ヲ研窮スベキ機會ヲ求メサルヲ不得

其一 集会 プロイセン國何ノ州郡ニ於テモ、初等學校ノ教官タル者時々集会ヲ催シ學校事務ヲ商議ス、此集会ハ甚規則立タル者ニシテ政府ノ官員此ヲ導引ス、教官タル者自身ニ何処ノ集会ニ出ル事ヲ択ブ能ワズ、然シ學校地方ヲ



區別シテ集会ヲ催スニヨリ、其区中ニ属スル学校ノ教官ハ其集会ニ出デサルヲ不得、但シ此集会中ニ大小ノ差別アリ  
初等学校ノ第一ノ集会ハ学校小区中ノ初等学校ノ教官ノ催セル所ニシテ、其席頭ハ其区ノ牧師ナリ、但シ此集会ハ  
全ク冬ヲ限り、且一月ニ唯一回ト定ム

第二ノ集会ハ第一ノ者ヨリ稍大ニシテ、之ハ数小区ヲ合シ一区トシ、其教官ヲシテ此集会ニ出張セシム、但シ之ハ全  
ク夏月ヲ限り、二月毎ニ唯一回ト定ム

此集会ノ席頭ハ其数区中ノ或ル牧師ニシテ、地方監督ノ撰挙セシ者ナリ

第三ノ集会ハ乃一般ノ集会ト称シ一地方「大区」<sup>(補)</sup>中ノ教官ノ催セル者ニシテ、集会ノ数ハ唯一年ニ二回トシ、第二ノ

集会ノ月ト相ヒ交換セリ(六月八月ニ於テ第二ノ集会アルトキハ、七月九月ニ於第三ノ集会アルベシ)

第四ノ集会ハ共合集会ト称シテ、一大区中ノ教官ノ尽集会セル者ヲ云ナリ、但シ此集会ハ一年唯一回アリテ、大区ノ  
学校評議局ノ監督ヲ以テ其席頭トセリ

此集会ニ於テ兼テ大区ノ知事ヨリ設ケシ所ノ質問ノ個条ヲ差出シ、一々之ヲ評議セシム、但シ此質問ノ個条ヲ評議  
スル者ハ多分政府ノ官員ニシ「テ」、教官タル者ハ政府ノ法則ニ対シ一言モ嘔<sup>(Vat)</sup>ラガヘンゼズ、故ニ他事ヲ頼ンテ欠席  
シ、又ハ其場ニ臨ムト雖、学校事務ヲ商量スル目的ニアラス、唯官吏ノ命ヲ奉スルノミ

ウォルテンボルグ邦ニ於テハ、其国法プロイセンニ比スル殊有ナリト雖、教官タル者確定ノ集会ヨリハ、教官共合  
ト称シテ教官ノミ会スル者ヲ好メル由、但シ此集会ハ私ノ社中ニ属スル者ナリ

プロイセン国ニ於テハ、政府ヨリ教官ノ如斯基社ヲ結フ事ヲ禁セシノミナラス、且國中ノ教官ノ獨乙盟邦中一般ノ  
教官集会ニ出張スル事ヲ不許

プロイセン国ノ外他ノ盟邦中ニ於テハ、プロイセンニ於ルガ如ク政府ノ官吏ト学校ノ教官余リ隔絶セサル由

第五ノ集会ヲセミナールノ集会ト称シ、セミナールヨリ六里（英ノ里數）以内ノ学校ノ教官ノセミナールニ来リ会スルヲ云ナリ、但シ其席頭ハセミナールノ頭取ナリ

此集会唯教官ノ学校事務ヲ評議スルノミナラス、又地方ノ学校トセミナールノ交際ヲ密ニスルヲ望メルナリ

右集会ノ外セミナールノ頭取タル者、毎年大区中ノ或ル学校（其數ハ不定）ヲ巡察シ、且其ノリポルトヲ記載ス、但シ頭取ノ巡察スル所ノ学校ハ、多分其セミナールニテ受業シタル教官ノ預リタル学校ナリ

プロイセン國中ニ於テセミナールノ分配成就セル事ハ、實ニ數年ヲ不出ベシ、且成就セシ上ハ大区中ノ教官一人トシテセミナールニ於テ受業セザル者無カルベシ、且セミナールノ頭取区内ノ学校ヲ巡察スルニヨリ、セミナールハ實ニ其区中ノ学校ノ中心タルベシ

其二 書物会社 此会社ハ独乙國中ニ於テ一般ノ者ナリト雖、尽ク政府ノ管理スル所ニシテ、政府ヨリ其規則ヲ設ケ、書物ヲ撰採シ、且其稅ヲ取上ケタリ、但シ地方ノ監督ハ其役目ヲ以テ其社ノ頭領タリ  
ポーセン及ヒ他州中ニ人民ノ宗旨不同ナル所ニ於テハ各会社ヲ設ケ、カトレキ宗ニ属スルハプロテスタント〔三〕  
属スル者ト其社ヲ異ニセリ、然シ其社ノ規則等ニ至テハ尽ク政府ノ命ヲ奉セサルヲ不得

書物、ペリヲティクル〔ビリオディカル〕（時々刊行ノ新聞紙ヲ云ナリ）、新聞紙等ハ監督ノ差配スル所、尽ク其州ノ頭領ノ許可セル一般ノ目錄中ヨリ撰出セル者ナリ

新聞紙ハ唯二種ト限、且其書物等モ一切有名ニシテ且貴重ナル者ヲ許サ、ル由

プロイセン国ノ読書会社中ニ免許シタル所ノペリオディクルハ、唯州中刊行ノ学校新聞ニシテ、其目的モ甚狹ク実

ニ徴々タル者ナリ、但シ其紙中ニ学校ノ規則ニ係リ弁論スルヲ不許

此社中ヲ保存スルノ為学校ノ教官ヨリ強テ税ヲ取り上リ、且其ノ貧窮ナルニシテ自分ニ書物新聞紙等ヲ求得ザルニヨリ一切世間ノ事情、変化、形勢ヲ知ルベキ由無シ

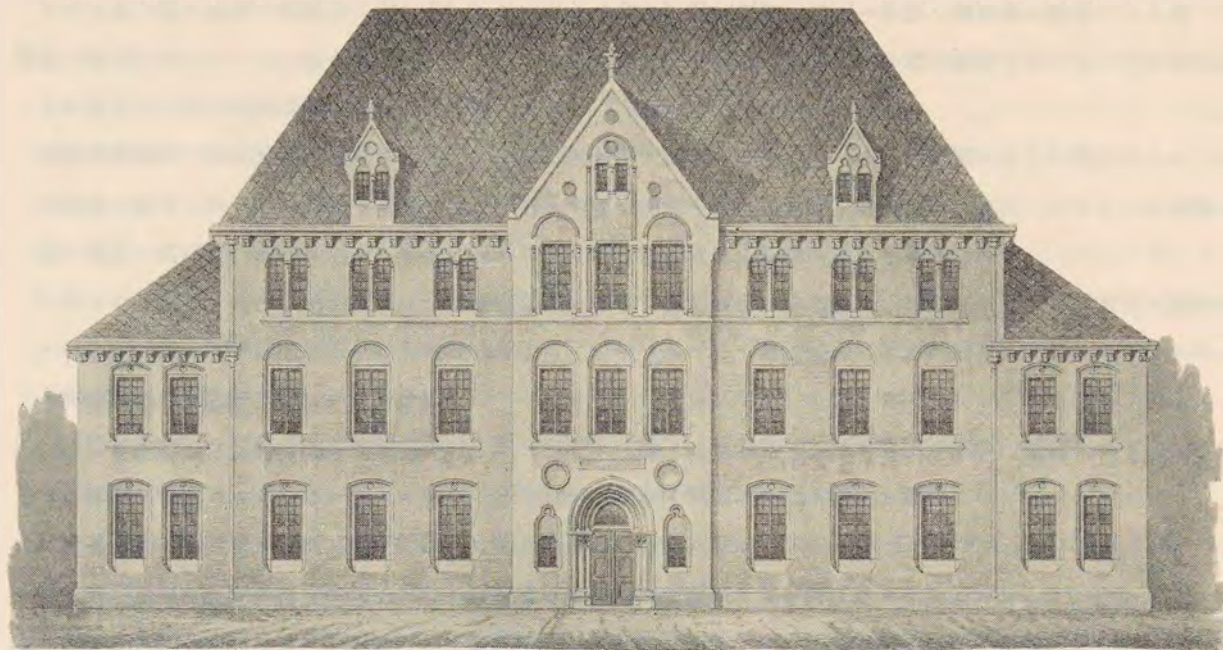
其三 重復受業 是ハ教官ノ学識ヲ広メン事ヲ求メシ者ノ再ヒセミナールニ来、業ヲ脩ムルヲ云ナリ、然シ是ハ決シテ一般ニ施行シ得ザル由、如何トナレハ其ヲ求ムル教官ノ数稀少ナルニアラス、全クセミナールノ教官ノ労ヲ増スヲ忌ムナリ

マールク・パティソン氏

独乙国中小学校ノリポルトノ撮要\*

「Dec./26/72」

〔録作〕



10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 Fuss.

Gymnasium zu Marburg.  
(1868)

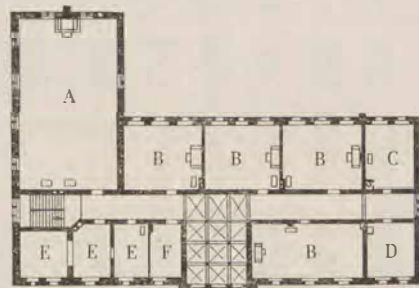


Erdgeschoss.

- A. Vorplatzu. Haupttreppe.  
B. Gänge.  
C. Treppe zur Directorwohnung.  
D. Wohnung des Pedells.  
E. Dienstzimmer desselben.

- FG. Zimmer für Karten und  
Geräte.  
H. Naturhistorisches Cabinet.  
J. Lehrzimmer(untere Classen.)  
K. Carzer.

- L. Abtritt für den Pedell.  
M. „ „ die Lehrer.  
N. „ „ die Schüler.



II. Stockwerk.

- A. Aula.  
B. Lehrzimmer (obere Classen.)  
C. Conferenzzimmer.  
D. Physikaliches Cabinet.  
E. Bibliothek.  
F. Repositurzimmer.

10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 Fuss.

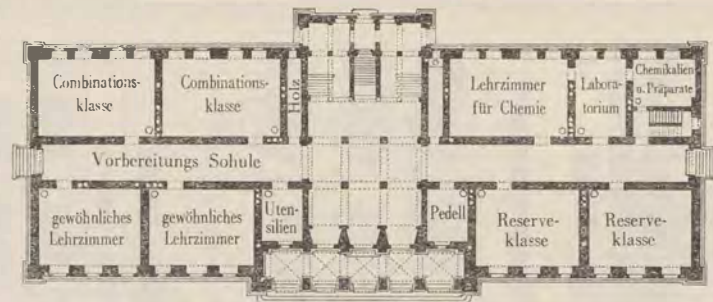
Lith. Anst. v. W. Locillot in Berlin.





10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 Fuss.

Höhere Bürgerschule zu Wiesbaden.  
(1868)



I. Stockwerk.

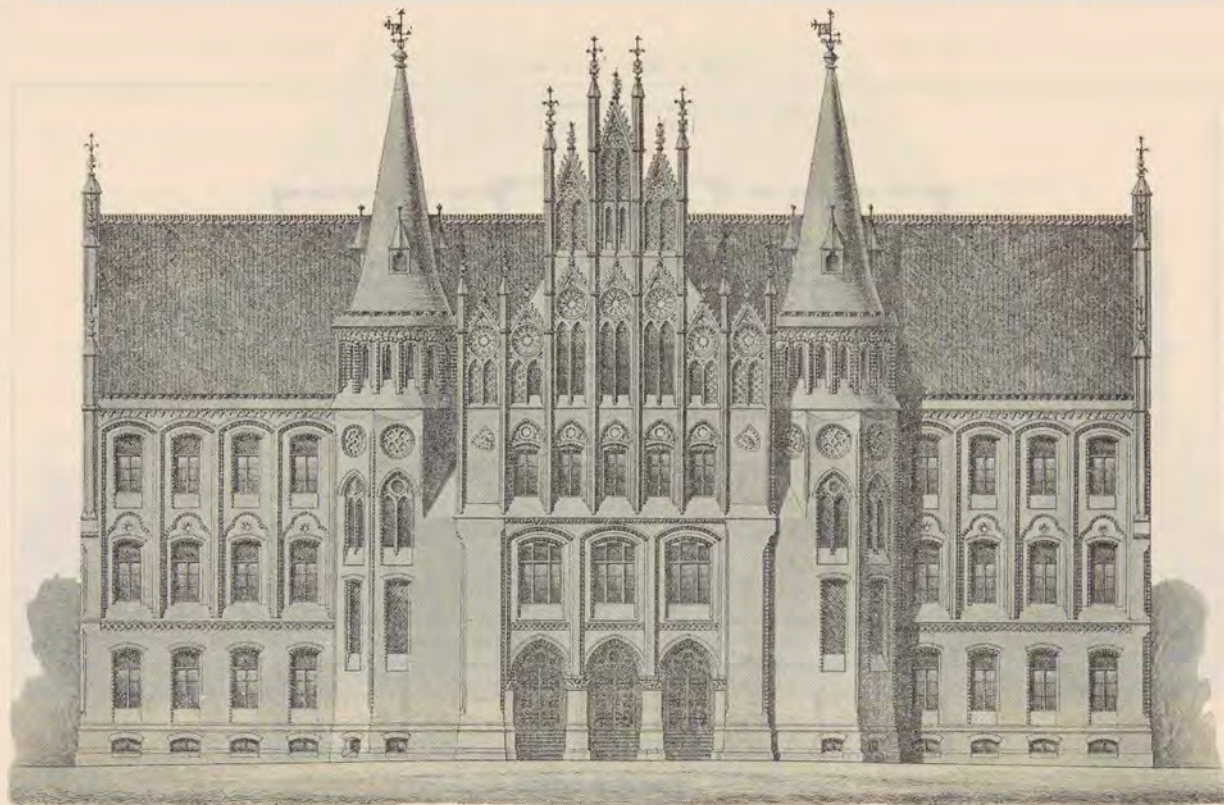


II. Stockwerk.

10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 Fuss.

Lith. Anst. v. W. Loëllot in Berlin.

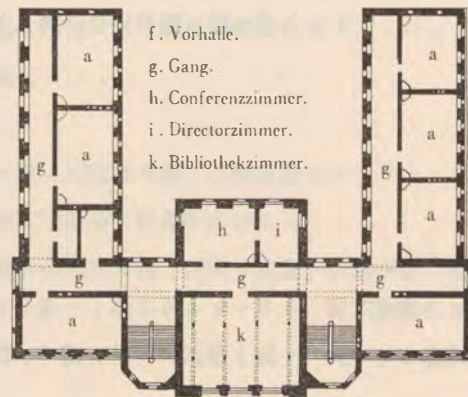




Gymnasium Andreanum zu Hildesheim.



Grundriss des I. Geschosses.



Grundriss des II. Geschosses.

10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 Fuss.

Lith. Anst. v. W. Locillot in Berlin.

## 一章 圍一般ノ束縛法

童幼タル者全六歳ヨリ全十四歳ニ至ル迄ハ、必らず神学、芸術及ヒ日用ノ為メノ学問等の教授ヲ受ル事ト定ム  
此教育ノ授ル事ハ先、公ノ平人学校ニ於テス

〔父兄たラン者ハ若シ其子弟ヲ公学校ヘ出サ、ルトキハ、必らず家ニ在リ又私塾ヘ遣シ、其ヲシテ教育ヲ受シム  
〔然シ其家ニアリ又ハ私塾ニ於テ教ユル所、公学校ニ於テ教ユル所ト一致セサマルトキハ、学校監察司ヨリ之ヲ不許

## 乙

## 第二 公学校(初歩学校、府学校)ノ規則

初歩学校ニ〔於テ〕教ユル所ハ左ノ如シ

一 神学、但シ聖經史記ヲ含メリ

一 独乙語ヲ正シク話シ、又文章ヲ書ク事

生徒ノ本国語若シ独乙語ニアラスシテ已ム事ヲ不得トキハ、其ヲシテ本国ノ語ヲ学バシム

③ 歴史、地理、博物史、此ハ学校ニ於テ用ユル読本ノ内ニアリ

④ 算術、度量、図画等、日用トシテ欠可カラサル者

⑤ 唱歌

⑤右五ヶ条ノ外、男子ニ教ユルニ体術学ヲ以テシ、女ニ教ユルニ針仕事ヲ以テス、但シ女子ニ仕事ヲ教ユル事ハ束迫法ニアラス

### 第三章

初等学校ニ於テ種々ノ等級アリテ、其学フ所ノ科目モ又等級ノ高低ニ准シ種々ノ差別アリ但初等学校ハ、種々ノ等級アルトキハ一ノ教頭アリ之ヲ差配ス

### 第四章

府学校ニ於テ教ユル所ハ、初歩学校ニ比スレハ稍高尚セリト雖、其科目ノ数ハ矢張同様ナリ此学校ニ於テハ束迫法ニ准シ、生徒ヲシテ必ラス独乙語、歴史、地理、博物史ヲ学シム然シ商人タラント欲スル者ハ右ノ学科ノ外、図画、算術、弧角法ヲ学ヒ得、又別ニ外国ノ言語モ学ビ得ベシ但シ府学校ハ学頭ノ差配スル所ナリ

### 第五章

学校年期中ノ童幼ヲ教育セン為ニ設ケラレタル慈悲校、予備校、幼院、病院等ヲ以テ公学校ト同様ニ□セント望シトキハ、政府ニ於テ之ヲ検査セシ上、公学校ト一樣ナルトキハ之ヲ許シテ公学校同様ノ者トス其科目教方等

人民ノ合力或ハ私費ヲ以設ケタル慈悲学校、予備学校、幼院、病院等を以テ公学校同等ノ者トナサント欲ハ、第一ニ其ト同等タルベキ為充分ナル予備ヲナシ、然ル後教育幹事ヘ申出テ其許可ニヨリ初テ開校スル事ヲ得

### 第六章

格段ナル宗旨ヲ教授スル学校〔ヲ〕設ケント欲セハ、矢張第五章ノ規則ニ准セサルヲ不得、然シ若開校ヨリ三年ノ後ニ及ヒ其宗旨内ノ生徒二十人ヲ出テザルトキハ、文部卿ノ権柄アリテ其公学校タルベキ官許ヲ取戻セリ

## 第七章

宗旨ノ分明ニ不定シテ、且一級ヲ保有スル初等学校ニ於テ教官ノ欠乏ヲ充タスニ当リ、若シ一級中ノ生徒一宗旨ニ属スル者最多過ナルトキハ、其ノ同旨ニ属スル教官ヲ撰ム事ヲ得種々等級ヲ保有スル公学校ニ於テハ、其地方人民ニ属スル宗旨（不一）ノ多少ニ准シ、宗旨ノ不同ナル教官二人ヲ雇ヒ、其級ヲ異ニシテ生徒ヲ教エシム

## 第八章

新ニ建タルノ公学校ハ、法則ヲ以テ必ラスプロテスタント或ハカソレキ宗ニ属セシム、然シ一地方ニ於テジュデヤ人ノ童幼数多アルトキハ、ジュデヤ宗ニ属スル学校ヲ設シメ、且公学校タルベキ官許ヲ与ヘリ

## 第九章

〔宗旨ノ異ナルヲ以テ、公学校ニ入門スル生徒ヲ擯却スル事ヲ禁ス

## 田

生徒ノ属スル宗旨其教官ノ属スル宗旨ト異ニシテ、父兄若〔シ〕彼教官已ニ属スル宗旨ヲ以テ其子弟ヲ教導スル事ヲ嫌フトキハ、子弟ヲシ〔テ〕敢テ宗旨ノ教場ニ臨シメズ

## 十一章

一校中ニ於テ其教官ノ宗旨ト異ナル生徒ノ数已二十五人以上ニ及ヒシトキハ、其ヲシテ別ニ、近傍ニ住セル教官或僧



家ヲ雇ヒ、己ノ奉信スル宗旨ノ教導ヲ受シム

## 第十二章

童幼ノ守ルベキ学校ノ事務學則ニ係リ、政府ニ於テモ第一章ノ定メニ准シ、多病又ハ虚弱ナル童幼ヲ適宜ニ所置セン為、生徒ノ入校シ又退校スヘキ期限ヲ、一年間又半年間ト定ムルベシ

公学校ニ於テ生徒十四歳已滿ノ上、学校定期ノ結末ヲ以其卒業ノ期トス

## 十三章

〔生徒退校ノ期ニ及テ、地方ノ吟味司ト其教官ヨリ、其公学校ニ而學ヒ得シ所ノ多少深淺等ヲ記シタル証書ヲ与フ

## 十四章

公学校ニ於テハ一週間ニ三十度、或ハ少クトモ二十五度ノ教訓ヲ授クル事ト定メ、政府ノ許可ナクシテ其度数ヲ減スルヲ不得

## 十五章

教官一人ニして同時ニ教ユル生徒ノ数八十人以上ニ及フ事ヲ不許

一校ニ教官一人ありて、生徒ノ数八十人乃至百二十人ニ及シ時ハ政府ヨリ許可ヲ与へ、童幼ノ数ヲ二分シ、且其の教授時間ヲ異ニセシム、但シ其一分ハ半日間入校シ、他ノ一分モ亦半日間入校シテ、每一分ノ受業時間ハ少クトモ一日ニ三時間ト定ム

## 十六章

生徒十二歳已滿ノ上地方ノ吟味司ト教官ヨリ一紙ヲ与へ、其正年齡ニ比較シ克ク書ヲ讀、字ヲ書キ算術及神學ニ通セ

シ事ヲ証スルトキハ、其受業時間ヲ減少シ、其ヲシテ他人ノ使役ヲ受、又ハ他ノ事務ニ係ル事ヲ得セシム  
法則ニ准シテ其受業時間ヲ短縮スルトモ、決シテ三時〔間〕以下ニ至ラシメス、且若シ如斯キ生徒ヲ授<sup>〔教〕</sup>ユル格段ナ  
ル学校（製造所付属ノ学校）ノ備ナキトキハ、矢張公学校ニ於テ一日ニ三時ノ時、其最必用ナル学科ヲ学ハシム、但  
シ公学校ニ於如斯生徒ヲ教ユルトモ決シテ他生ノ妨トナラザルベシ

## 第十七章

父兄若シ己ノ子弟ヲ使役セン為其ノ入校ヲ妨クルトキ、束縛法ニ准シ「ボレス」ヨリ其父兄ヲウナカシ、子弟ヲシ〔テ〕  
入校セ〔シ〕ム、但右ノ罪科ヲ犯〔セ〕シ者ハ、其罰トシテ第一ニ十シルズルグロツスセンヲ出サシメ、或ハ入牢セシ  
ム（入牢日限ハ罰金ノ多少ニ准シ長短ノ差別アリ）、第二ニ其子弟ヲ強テ入校セシメ、且父兄ヨリ政府ノ定法ニ准シ  
税（学費税也）ヲ出サシム

政府ニ於テ此罰金ノ個条ニ係リ、稍細密ナル法則ヲ設クベキ権柄ヲ所有セリ

## 第十八章

政府ニ於テ生徒ヲ試験セシ上、其最モ要スル所ト其才ノ所長ニ准シ、新ニ築造スベキ公学校ノ法則ヲ設ケ、且已ニ存  
在セル学校ヲ變改シ、又無用ノ益ノ法方、学校区ノ分界及ヒ生徒ヲ選舉シ、格段ナル学校へ遣ス等〔ノ〕事ヲ廃止ス  
ベシ

## 丙 公学校保存ノ法方

## 第十九章

此法律ヲ刊行スル時ニ於テ存在セル学校ノ保存ノ法方ハ、其時行ワレタル法則ヲ用ヒ他日ノ改革ヲ待ツ



## 第二十章

第一ニ法則ニ准シテ学校ヲ保存セザルヲ不得、人民ヨリ新ニ一法ヲ設クル事ヲ望ミ、且其者ヨリ寄賦スル所確定ノ学校税ノ一半ヲ超越セシトキノ規則ヲ設ケ得ベシ、第二ニ若シ学校ヲ保存スベキ人民ノ寄賦スル所不足ニ及ヒシニ、彼等ヨリ其不足ヲ補得ザルトキノ規則、第三ニ政府ニ於テ地方ヨリ差出セル代理官ヲ吟味セシ上、稗利ノ為新ニ一法ヲ設ケン欲スルトキハ「公学校稗益ノ為一法ヲ設クル事ヲ是トセシトキハ」、一規則ヲ設ケ得ベシ

## 第二十一章

此規則ヲ設クル事ハ左ノ挙クル所ノ本意ニ准スベシ

○施賜、田地ノ他ノ有所品、………ニ至マテ、矢張今存在スル学校ノ所有品タラシム

プロシヤ州中ノ学校ニ於テ受取ル所ノ學費金ハ、其州ノ大藏省ノ所入ヨリ之ヲ出シ、乃チ学校ヘ給与スベキ土地ニ代ヘタル者ナリ

〔弧線の下空白〕

○右ノ外公学校保存ノ為欠クベカラサル入費アリシトキハ、学校地方〔ニ〕於テ之ヲ出サ、ルヲ不得

○学校地方内ノ小邑及ヒ自主領地ニ於テモ學費税ヲ出サバ〔ル〕ヲ不得

## 第二十二章

一パリシユニ於テ公学校ヲ建築シ保存シ或〔ハ〕増大ニスル等ノ入費ヲ集ムル事ハ、矢張村内必用ノ入費ヲ集ムルト同様ナリ

### 第二十三章

数多牧師配下村全ク合シ、或〔ハ〕半ハ合シ、又ハ自主領地ト合シテ一学校地方ヲ為ストキハ、其学費税ヲ以其住人ノ員ニ割付ケ、第二十二章ノ法則ニ准シパリシユスヨリ出スベキ分ハ、〔補〕「費金ハ」一<sup>パシユ</sup>村毎ニ其ヲ取集シム但シ其人員ヲ算スル事ハ、前年ニ取調タル戸籍ニヨレリ

### 第二十四章

数多ノ自主領地共ニ合シ、或幾多ノパリシユスト全ク或〔ハ〕半合シテ一ノ学校地方ヲ為ストキハ、其領地ニ於テモ矢張人員ノ多寡ニ准シ、其学費税ヲ出サ、ル事ヲ不得

自主領地毎ニ其主人タル者己ノ領内ノ人民ヨリ出セル所、学費税若シ不足ニ及ヒシトキハ其ヲ補ハザルヲ不得、然シ同人権アリテ、人民ノ中其税ヲ出スベキ者アルトキハ、再ヒ其ヲ取上ケリ

### 第二十五章

格段ナルス<sup>(C)</sup>ュール・パリシユスニ於テ公学校ヲ保存シ、且其世話人其保存ノ法方ヲ好ミ、且其ヲ最宜ロシトセシトキハ、学校保存ノ新法ヲ設クルトモ矢張其ヲシテ旧法ニ依ラシム

如斯場合ニ於テハ其住人及地主タル者ハ、一ノ格段ナルス<sup>(C)</sup>ュール・パリシユト同様ニ、ス<sup>(C)</sup>ュール・パリシユノ地方ヨリ払フ可キ学費税ヲ出サ、ル事ヲ不得

若シ数多ノ公学校一地方ニ全ク属シ、又ハ傍ラ属スルトキハ、其地方ノ住人各其童幼ノ属スル宗旨ヲ教ユル学校ヲ保存スルヲ以、己ノ職分トセリ

### 第二十五章<sup>(六)</sup>

学費税ノ分チ方ハ第二十五章ニ定ムル法則ニ准スベシ、且数多ノパリシユス及ひ自主領地共ニ合シテ学校ヲ保存スルトキハ、スユール・パリシユノ地方ニ於テ其ノ土地、家屋、且ク<sup>ママ</sup>ラス（）税トシテ出スベキ者ト比例シテ、其格段ナル学校地方内ノ住人ノ人別ヘ割付ケ学費税ヲ出サシム

且スユール・パリシユノ地方内ニ横ハリタル土地ハ、縦令其地裁判役人ニ属シ、又ハ其地主タル者其地ニ住セサルトモ、其地内ノ地稅及ヒ家稅ト比例シテ学費税ヲ出サシムル事ヲ不得

樹林ノ税ハ田畑ノ税ノ三分ノ一ナルベシ

左ニ挙クル所ノ所有品ヨリハ学費税ヲ免シテ之ヲ取ラス

①千八百六十一年五月二十一日ニ決定（セ）ル地稅（千八百六十一年ノゲレッツ・サムロンク〔ゲゼツ・ザムルンク〕

中第二百五十三葉ヲ見ヨ）ノ法律書内ノ第四章中ニ記シタル所有品

②千八百六十一年五月二十一日ニ決定ノ家屋稅ニ係タル法律書（千八百六十一年ノゲレッツ・サムロンク中第三百十

七葉ヲ見ヨ）第三章ノ第二第八句中ニ記シタル家屋

## 第二十七章

地稅ニ係タル法律書内、第四章ノ①及②中ニ記シタル所有品ヨリハ其地稅ヲ取ラサルトモ、其產物ヨリ得シ所ノ利ノ百分ニ比例シ、学費税トシテ寄賦セシムル事ハ、千八百六十七年二月八日決定ノ法律書中第三章ノ個条ニ准シテ作りタル地稅帳ト、第十九章及び第二十八章ノ②aノ個条ノ内ニアリ

地稅ニ係タル法律（千八百六十一年ゲレッツ・サムロンクノ第二百五十三葉ヲ見ヨ）ノ未タ行レサル諸州ニ於テハ、其州ノ知事又ハ地稅懸リノ役人ヨリ早速策ヲメグラシ、学費税トシテ寄賦セシメン為、幾何ノ比例ヲ以テ其地稅ヲ取ル

ベキカヲ決定スベシ

千八百六十一年五月二十一日決定ノ家税ニ係タル法律書ノ第三章ノ第一号ノ個条ニ准シ、或ル家屋ヨリ其税ヲ出サムルトモ、其税ヲ出スベキ家屋ト比例シ、矢張學費税トシテ寄賦セサル事ヲ不得

## 第二十八章

国法ニ准シ、政府ノ国ノ為、功臣カ家来及ヒ其子孫ニシテ、パリシユ税（此税ノ村内一切ノ入費ニ供スル也）ヲ払ハサルノ官許ヲ得シ者ハ學費税ニ於テモ同様ナリ

## 第二十九章

第二十六章ヨリ二十八章ニ至迄ノ個条ハ

〔ママ〕

## 第三十章

或ル学校ノ政府ノ求メニ応シ、学校ヲ建ベキ人民ニ付属セス、且ハ或ル慈悲院ノ所望又ハ製造所、社中又ハ人民ノ寄賦ヲ以建立シタル学校ニシテ、若シ公学校ノ法則ヲ奉セシトキハ、其ヲシテ公学校同等ノ者タラシム、然シ一般ノ公学校中ヘ入籍セサレハ、其ヲシテ敢テ前ニ挙タル公学校保存ノ規則ヲ奉ゼシム

## 第三十一章

公学校ヲ盛（ニ）セン為スニール・パリシユ又ハ学校地方ノ分界ヲ変セント欲シ、私ニ属スル学校杯ヲ買上クル場合ニ於テハ、矢張私ノ所有品ヲ買売スルト同段タルベシ

但此買売ノ事（ニ）於テハ政府ノ免許ヲ得ベシ、然シ他ノ事務ニ於テハ文部卿ノ決議ヲ待ベシ

## 第三十二章

公学校ヲ建立シ且之ヲ保存セント欲セハ、必らず公学校教育ノ大主意ヲ達セン為必用ナル物件ヲ備ヘザルヲ不得、且其教育ノ度ト其土地ノ模様ニヨリ教官ノ給料ヲ出サザルヲ不得

### 第三十三章

人員一万人以下ノ市邑ニ於ケル初歩学校ノ教官ノ給料ハ、役宅或ハ家賃ノ外、少クトモ二百タラス乃至ハ二百五十タラスナリ

シウィル・スュールノ学頭ノ給料ハ、役宅ノ外四百乃至ハ五百タラス以上ナリ

人員一万人以上ノ市邑ニ於テハ、右ニ定メタル〔ママ〕小数給料ノ二倍ヲ受ベキ場合アリ

学校中ニ数級アルトキハ、等級ニ准シ教官ノ給料ヲ加増スヘシ、但其加増ノ給料ヲ折半シタ者ハ、其小数ノ給料ヨリ超越スル三分一以上ニ至ルベシ

### 第三十四章

郷里ニ於ケル学校ノ教官ハ、第一ニ役宅及ヒ家内所用ノ薪炭或ハ薪炭料ヲ受ケ、第二ニ土地又ハ土地ノ産物、且或ハ教官タルベキ為必用ナルトキハ、已ムヲ不得人民ヨリ扶助金ヲ受クベキ場合アリ

教官給料ノ高低、且其ニ与ベキ土地ノ大小ト土地ノ物産ノ分量ハ、大政府ノ許可ニヨリ各州ノ政府ラントスタフニ於テ之ヲ決定スベシ

数多ノ等級ヲ蔵セル学校ニ於ケル学頭ノ給料、且一人ニテ教ユル教官或ハ第二等以下之教官ノ給料ハ、学校地区ノ位置ト景況ニ准シ高低ノ別甚大ナリ

### 第三十五章

第三十三章、第三十四章ノ法則ニ准シ、政府ニ於テ公学校ヲ保存スベキ人民ヲ調ヘ、且其家財及學級、地方ノ大少ト其開拓ノ度ヲ検査シ、教官ヘ与ベキ教科ノ小數ヲ定ム

### 第三十六章

確定少數ヨリ多ク与ヘタル教官ノ給料ヲ減スル事ハ、宜ク文部卿ノ許可ヲ得テ之ヲ行フベシ

教官ノ給料若シ第三十三章ニ定メタル教官ノ少數給料ヨリ余分ナルトキハ、之ヲ減少ストモ可トス

### 第三十七章

一学校若シ寺院ノ所有品ニ付屬セルトキハ、其所有品ノ価ト其地ノ產物ヨリ得シ所ノ利ヨリ少數ノ學費ヲ出サシム然シ学校ヲ寺院ノ所有品ヨリ別ツ〔補〕「放ツ」トキハ、其ヲ保存スベキ者ヨリ必用ノ入費ヲ出ササルヲ不得

### 第三十八章

法則ニ准シ教官ヲ保護スベキ人々、其学校ヨリ十里以内ノ距離ニ於テハ、必ラス教官ノ親族家財等運送ノ周旋ヲ為サザルヲ不得

然ラサレハ運送料トシテ教官ヘ与フル所二十タラヲ出サルベシ

人民若シ教官ト不和ヲ生シ其運送ノ周旋ヲナサザルトキハ、政府ヨリノ運送料給与スベシ、教官ノ旋費ヲ再ヒ取ル事ヲ不許

### 第三十九章

退役ノ教官又ハ死シタル教官ノ後嗣ト、新來ノ教官トヘ与ヘキノ差別ハ、先ノ納稅年（前年十月ノ初ヨリ次年九月ノ末ニ迄）中其退職シ、或死去セシ教官在職時限ニ准シ之ヲ決定スベシ

## 第四十章

教官死去ノ後其寡孤、其死去ノ日ヨリ三ヶ月ノ間ハ其ヲシテ役宅ニ留リ、且其教官在職ノ給料ヲ受シム、若シ其家内ニ余室アルトキハ其ヲ新来ノ教官ヘ渡サシメ、且其ヲシテ教官ニ代リ学校ノ内ヲ暖メ且掃除セシム  
国法ニ准〔シ〕学校ヲ保存スベキ人民ハ、新来教官ノ入費ヲ出サ、ルヲ不得

### ① 結末ノ

地方ノ知事此法律ニ基キテ所置セシニ、人民若シ之ヲ好マサルトキハ、宜ク四周間中ニ文部卿〔ニ〕大意訴フベシ、然シ急速ノ場合ニ於テハ其日限ヲ短縮シテ八日トス、但シ告訴ノ仕方ハ、千八百六十一年五月二十二日決定ノ法律書ノ第十五章（ゲセツツサムロング）ノ第二百四十四葉ニ依從スベシ

## 第四十二章

一般或ハ各州内ノ法律規則又ハ格段ナル法律ト雖、此新法ノ旨意〔<sup>〔ママ〕</sup>〕ニ反体シタル者ハ向後之ヲ禁止ス  
文部卿ニ於テハ、内地事務卿ト共議合力シテ此新法ヲ施行スベキ命ヲ受ケタリ

### プロイセンノ学則

プロイセン国ノ学則ハ仏国ノ者ニ同シテ其学校ヲ二等ニ分チ、其下等ヲプライメリー乃エレメンタリー、其二ヲギムネー・ジェン及ヒリアル・シューレント称ス

其下プライメリー・スジュール〔<sup>〔ママ〕</sup>〕

プロイセンニ於テ其ハ法律ヲ以テ、挙国プライメリー・スジュールヲ不設ヲ不得、且一パリシユ毎ニ必らず一校ヲ置、



大政府ヨリ定メタル一般ノ規則ニ准シ、地方ノ学校管理局ヲ〔シ〕テ其ヲ差配セシメ、且確定ノ試験ヲ経タル者ヲ挙げ其教官タラシム

但シ此プライメリー・スクールノ入費ハ殊ニ僅ニナルト雖、童幼ノ教育ノ為実ニ甚便宜ヲ得タリト云ベシ

強テ以童幼ヲ入校セシメ〔シ〕後、試験ヲ経タル教官ヨリ教授ヲ受シム

新英利亜ニ於束縛法ヲ設ケシニ、人民好テ其ヲ奉セサルニヨリ、其法モ遂ニ行レサルニ近シ、然シプロシヤニ於テ〔ハ〕人々其ヲ是ト〔セ〕シ故、其法モ亦大ニ行レリ

### 上等ノ学校

上等ナル学校中ニ亦二種アリテ、其一ヲギムネージエント称シテ専ラ古時ノ学ヲ教ヘ、其他ヲリアル・シュレーント称シ商売ニ係リタル芸術ヲ教ヘリ

### ギムネージヤム

ギムネージヤ〔ム〕ニ於テ、九歳ヲ以生徒ノ入門年齢ト定メ、凡十九歳ヲ以テ其卒業年齢トス、学校中ノ等級ヲ分チ六トス、生徒ヲシテ其初級ニ入リシヨリ、ラテン語ヲ学バシメ、最高級ニ達セサル内ハ、一周ニ二十八時間ノ中十時間ヲ以ラテン語稽古ノ時ト定メ、且最高級ニ達セシ上ハ、三十時間ノ中八時間ヲ以ラテン語授業ノ時トナス

生徒ノ第二級或ハ第三級ニ進シ上、初テグリーキ語ヲ学バシメ、一周間ニ六時間ヲ以其稽古時間ト定ム、且其他ノ学科ヲ授クル時間ハ左ノ如シ、独乙語二時、算術且数理三時乃至ハ、<sup>〔ババ〕</sup>仏語下級ノ生徒ハ三時、上級ノ生徒ハ二時、地理

及ヒ歴史上級ノ生徒三時、下級ハ二時、万有ノ理、天然ノ理学、最高級ノ生徒ハ二時、其以下唯一時、図画ヲ教ユル事ハ学校内ニ於テシ、唱歌、体術学等ハ学校外ニ於テス、但シ右ノ学科ハ政府ヨリ決定シタル者ナリ、然シ其稽古時

間ヲ（但シ今日教ユヘキ者ヲ今日教ユル等ノ類カ）変スル等ノ事ニ至テハ全ク教官ノ掌内ニアリ

リアル・シュールノ設ナキ地方ニ於テハ、キムネージヤムニ於ケル中級ノ生徒、他ノ学科ヲ以テグリーキ語ニ替换スル事ヲ得

然其地方ニリアル・シュールアルトキハ決〔テ〕其替换セシメス

ギムネージヤムノ最高級ニ於テハ、縦令地方ニリアル・シュールノ設無シト雖、決シテ他ノ学科ヲ以グリーキ語ニ替换スル事ヲ不許

通例ギムネージヤ〔ム〕ニ於テハ強テ生徒ノ記憶力ヲ盛ニセン事ヲ主トシ、其ノ未タ熟セザルトキハ、其ヲシテ実用上ノ学問ヲ学バシメズ

ギムネージヤ〔ム〕ノ最高尚タル者ニ於テハ、縦令生徒ノ武官タラサルヲ不免ト雖、決テ其实用上又ハ事業上ノ学問ヲ修シムル事ヲ不許

或ル地方ニ於テ充分ナルギムネージヤムヲ設得サルトキハ、プロギムネージヤムヲ以之ニ替ヘリ、但シプロギムネージヤムハ矢張ギムネージヤムニシテ、唯最高級ヲ設ケザル者ナリ、此類ノ学校ニ於テハ多分四級又少クシテ三級、多クシテ五級アリ

### 予備学校

プレペレトリー・スュール

プライメリー学校ニ於テ教ユル所ハ、決テ高ナル学校ヘ入ルベキ予備ノ目的ニアラサル故、別ニホールシュレーン〔フ  
ォアシューレン〕乃予備学校ヲ設ケ高等学校ヘ付ケ置キ、一切読ミ書キ算術文法及ヒ聖經史ノ（<sup>マ</sup>マ）等ノ試験ヲナサ

ズシテ生徒ノ童幼ノ入校ヲ許シ、茲処ニ於テ相当ナル予備ヲ為サシメ、歳十歳ニ及ヒ初メテ高等学校へ進マシム

## 教 方

其教方ハ英国ノ最好ナル学校ニ於ルカ如シ

生徒己ノ学校ニアリテ受クヘキ学業ヲ家ニ於テ勉強シ、予メ其用意ヲ為ス

学校ニ於テノ稽古ハ重ニ言語ヲ以テシ、仏国ノ学校ニ於テ重ニ筆記ヲ用ユルト異ナリ、且生徒尽力シテ己ノ業ヲ脩ムルニヨリ大ニ教官ノ勞ヲ省ケリ、然ルニ仏国ノ学校ニ於テハ其ノ反体シ、生徒拱手シテ教官ノ勞スル所甚過多ナリ  
仏国ニ於ケルレーシース〔リセー〕〔英語ヲ教ユル学校ナルベシ〕ハ多分ハ、英国ニ於ケルクラシケル・スコール（古語ヲ学〔ブ〕学校）ノ過半ト同フシテ寄宿学校ナリ

然シプロシヤノキムネー ज्याムハ、英国ノデー・スコール（昼間学校ニ日々通ヒ行ク通教）ト同様ナリ

## 生徒ノ学力

プロシヤニ於テ最モ卓越シタル生徒ノ学力ハ、英国ニ於ケル生徒ノ最卓越シタル者ト大同小異ニシテ、綴文術ノ如キハ遙ニ英ノ生徒ニ劣レリト雖、好テ文人騷客<sup>〔カ〕</sup>ノ在所等ヲ探索シ、且本邦及ヒ万国ノ文学ニ達スル事ハ彼ノ所長ニシテ、英国生徒ノ不<sup>レ</sup>如所ナリ

## 試 験

生徒卒業ノ期ニ臨ミ試験ヲ受クル事ハ、唯ラテン、グリーキ語学ノミナラス、各又独乙語、仏語、数理、窮理学、地理、歴史及神学等ノ試験ヲ受ザルヲ不得、右ノ試験ヲ經過セシ上、ギムネーシヤムヨリ大学校ニ進ムベキ予備ノ既ニ成タル証書ヲ与ヘリ

試験ノ時生徒ノ一芸ニ拙ニシ而、若シ他芸ニ巧みなるトキハ、其巧拙ヲ平均シ落第ニ至らしメズ、其試方ハ綿密ニシ而過度ニ至ラス、又ハ決シ而爭先方ノ類ニあらず、試験ノ前ニ当リ其用意ノ為敢而度外ニ勉強セシメス、如何トナレハ過度ニ勉強シテ記憶セシ者ハ、又暫時ニ其ヲ忘却スルニヨル、然シ通例ノ才力モアリ且其脩業中一切不怠者ハ試験之期ニ臨ミ其記憶力モ大分熟練セル由

生徒ノギムネージャニ於而全ク落第シ其証書ヲ受ケザルトモ、其ヲシテ矢張大学校ニ入り其講義ヲ聴シム、然シ証書ヲ受タル生徒ヘ与ベキト同權ヲ得ル能ハス、且一般ノ普通學術ヲ脩ムル事ヲ不許

### 教官ノ仕立方

プロシヤニ於テ教官学校アリト雖、決シ而巴利西府ノ教官学校ノ類ニあらず、且プロイセン人ハ教官学校ヘ別シテ意ヲ用イザルニ似タリ

プロシヤニ於テ教官タラント欲ハ<sup>〔補〕</sup>「ベキ者ノ予備ハ唯」己ノ教授スベキ学科ヲ學ヒ專ラ其ニ熟練スルニアリ、且左ノ二ケ条ヲ以テ教官ヲ択挙スルニヨリ、未熟ナル者ハ決而其任ニ当ルヲ不得ベシ

### 第一ケ条

教官タルベキ者ハ己ノ教授ス「ベ」キ学科ノ嚴重至難ナル試験ヲ經ザルヲ不得、且試験ヲ經タル学科ノ外、他ノ学科ヲ教ユル事ヲ不得、且教授スベキ生徒ノ等級モ、其學識深淺ニ応シ上下ノ差別アリ

### 第二

教官タルベキ者ノ予備ハ、必らず一年ノ間或ル学校ニ於テ克ク教授ノ次第ヲ探視シ、如何シテ童幼ヲ教ユベキ「カ」方ヲ學バザルヲ不得、且其ノ已ニ教方ニ熟達セシトキハ其学校ノ教官ヨリ一ノ免狀ヲ与ヘ、其已ニ教方ニ熟セル事ヲ証ス

但シ此二ケ条ヲ以熟練シタル教官ヲ得ル事ハ、仏国ニ於テ充分ノ設アリテ、熟練ノ教官ヲ得ト決シテ異ナラサルベシ  
リアル・シュールン

リアル・シュールン中ニ三等アリ、其一等ナル者ニ於テハ九年間ヲ以テ生徒在校ノ期限トナス

此学校ニ於テハ一切グリーキ語ヲ教授セス、且縦令ラテン語ヲ教ユルモ、此時ノ語学ハ此ノ学校ノ本意ニ非〔ザル〕ニ  
ヨリ、最高級ノ生徒ト雖、一周ニ三十二時間ノ中、唯三時間ノミラテン語ヲ学シメ、且十一時間ヲ以数理、窮理学ノ  
為ニ費セリ、此学校ニ於テ最主トスル所ハ仏学ニシテ、商人トナルベキ者ハ強テ英語ヲ学シム

#### 卒業ノ試験

其卒業ノ期ニ臨ミ試験スベキ科目ハ神学、独乙語、独乙ノ文学、ラテン語（独乙語ヲラ〔テ〕ンニ訳セシメス<sup>〔マ〕</sup>シテ為  
シメス）英仏語、歴史、理学、化学、純科及ヒ実用上ノ算理図画等、試験ノ時ニ於テ生徒若シ一科ニ巧ニシテ他ニ拙  
なるトキハ、其巧拙ヲ平均シ其ヲシテ及第セシム、然シ全ク落第セシ者ニハ卒業ノ証書ヲ与ヘス

第二等ナルリアル・シュールンニ於テハ強テラテン語ヲ教ヘス、且其在校期限ハ七年間ニシテ、生徒卒業ノ年齢ハ凡十  
六歳ナリ

第三等ノリアル・シュールンヲ、ボルゲル〔ビュルガー〕・シュールン（市ノ学校ノ意）ト称シテ、其在校期限も稍短  
ク、且其教ユル所モ稍下レリ

リアル・シュールンニ於テ卒業セシ生徒ハ、大分種々ノ役人トナリ、又ハ重ニ商人トナレリ

リアル・シュールンの教ユ所ハ、大分国人ノ裨益タル事不少ト雖、其学校其生徒ノ数ハギムネージャ〔ム〕ニ比すれ  
ハ、殆其二分ノ一ニ不充、不足セリ

ギムネー ज्या〔ム〕ノ数 百七十二 生徒ノ数 四万五千四百〇三人

リアル・シュレーンノ数 八十三 生徒ノ数 二万〇、七百三十二人

リアル・シュレーンの教官タルベキ者ノ受クベキ試験ハ、ギムネー ज्या〔ム〕の教官タルベキ者ト同様ニシテ、其教  
ユル所モ唯己ノ教授シ得ベキ学科ニ止マレリ

### 神学ノ教授

ギムネー ジエン及ビリアル・シュレーンニ於而、各級ノ生徒ヘ神学ヲ授クル事ハ、少クトモ一周ニ二回ト定ム、教官  
たる者必らず試験を経て其神学ニ達スル事ヲ証セざるを得、且其試験を経ざる者決而教官たるを得

各級毎ニ其級ノ一般ノ教授ヲ為スベキ教官ヲシテ神学ヲ教シメ、学科ニ達セル教官ノ専科ヲ教ユルト異ナラシム

⑤神学ノ教方ハ宗派ニ依差別アリテ、カトレキニ属スル学校ニ於テハカトレキノ教方を用ひ、プロテスタントの学校  
ニ於テハプロスタントノ教方ヲ用ひしむ、且或ル学校ノ中ハ両宗共ニ教ヘタリ

⑥右ニ挙タル学校ハプロスタントニ属セザレハ、乃チカトレキたらざるを得

然シ公学校ニ於テハ一切生徒ノ宗派ヲ不論其をして入校せしめ、且学校ニ於而教ユル所ノ神学、生徒ノ属スル宗旨ト  
異ニシテ、父兄若シ其教訓ヲ好マサルトキハ、敢而其子弟ヲシテ教場ニ臨マシメム〔ス〕

### 右学校ノ保存

右ニ挙タル公学校乃チキムネー ジエン及リアル・シュレーン等ハ、寄賦ト生徒ノ受業料トニヨリ其保存ヲ得タリ

政府ニ於而此種類学校ノ為ニ費ヤス所甚僅ナル事英国ニ於ルガ如シ、且此学校ノ内市邑ニ属する者モ亦稀ナリ

其受業料ハ殊ニ廉ニし而、英国ニ於ル者ヨリ下低なるノミならず、亦仏国ノ者ヨリも下低なり



但シ上等ナル学校ニ於而、生徒ヨリ出ス所ノ一歳ノ受業料ハ、三ポントツ（日本ノ十五円ニ近シ）以上ニ至らす

### 教官ノ給料

教官ニ払ふ所「ノ」給料ハ生徒ヨリ出所ノ教授料以テセズ、学校ニ於蓄ヘタル積金ノ内ヨリ之ヲ出セリ

教授料ノ下低ナルニ准シ教官ノ給料モ亦下低シテ、役宅ノ外其一歳ニ受ク所給料ハ決テ三百ポントヲ過ス

然シプロイセンニ於テハ人民ノ所入モ英人ノ所入ニ比スレハ殊ニ僅ニ、且其風俗モ亦質素ナルニヨリ、縦令教官ノ得所甚下低ナリト雖、其活計ヲ為「ス」ニ足レリト云ベシ、<sup>〔補〕</sup>「ニ於テハ決シテ窮セザルベシ」

### 学校ノ数ト生徒ノ人員

右ニ挙タル公ノセコンダリー・スコール（第二等ノ学校ト「云」意、ギムネージャレン<sup>〔エ〕</sup>、リアル・シュレーレン等ヲ云）ノ総数ハ、英人アーノルド氏ノ千八百六十八年刊行ノ上書ヨリ左ニ掲ク

一ギムネージエンノ数百四十四及其ホールシュレーン 生徒ノ人員四万七千〇十九人

一プロギムネージエン二十八及其ホールシュレーン 生徒ノ人員二千五百九十七

一リアル・シュレーレン八十三及其ホールシュレーン 生徒ノ人員二万四千五百四十六

但学校ノ数ハ総計二百五十五 生徒人員ハ総計七万四千六百六十二人

プロイシヤ全国ノ人員一千八百四十七万六千五百〇〇人ナルニヨリ、中ナル学校中ノ生徒ノ人員ハ、其全数ニ比較シ千人ニ付僅ニ四人ノ割ナリ

### 私塾

公学校ノ外ニ又数多ノ私塾アリ



何人ヲ不論私塾を開キ得ルト雖、左ノ二ヶ条ヲ守ラサル〔ヲ〕不得

第一ニ確定ノ試験ヲ経、且其試験ヲ経タル学科ノ外、他ノ学科ヲ教ユル事ヲ不得\*

第一ニ確定ノ試験を経サレハ其開校ヲ不許、且其学校ニ於テ己ノ試験ヲ経サル学科ヲ教ユル事ヲ不許

第二ニ政府ノ吟味司ヨリ常ニ検査ヲ受ケサルヲ不得

然シ其教教科ト、己ノ教ユベキ学科ヲ定ムル等ハ教官ノ随意トス

但シ私塾ノ生徒モ公学校生徒ノ為ニ設ケシ確定ノ試験ヲ経タル上ハ、公学校ノ生徒ト齊ク大学校ニ進ムヲ得

私塾ノ生徒ヲ試験スルモ矢張公学校ニ於テシ、且其試験ノ科目モ公学校ニ於定タル者ナル故、私塾ノ生徒ニ於テハ其不便ナル事殊ニ不少、之ニ依私塾生ノ試験ハ、其不便ナル割ヲ以テ相当ナル差シ引キヲナセリ

# 公学校ノ支配管理ノ法方

蓋シ公学校ノ差配ハ大政府ト及地方ノ官局ノ手ニアリテ、学校ノ所有品、教教科ノ高低、無納金生徒ノ入門、学校ノ保護ト教官ヲ挾拏スル等ノ事ハ尽ク其邑会ノ手ニアリテ、教官ノ教方ト生徒ノ日課等ハ、主ニ各地方ノ管理局ト各州ノ管理局ノ弁理スル所ナリ、但シプロシヤ全国ヲ分チ八州トナシ、且其ヲ再ヒ分チ三十六地方トス

生徒ノ学ベキ学科ハ、其一周の間ノ日課、稽古時間（但シ一科ニ付幾時間ト定メタリ）等ニ至テハ文部省ヨリ之ヲ決定ス、然シ学校ノ教頭なる者己ノ配下ノ教官ト商議シ、右確定ノ各科ヲ教ユベキ良方ヲ挾ビ、之ヲ其州内管理局ヘ赴告シ、且其ヨリ再ヒ文部省ノ許可ヲ請ヒ且学校用ノ書物ヲ定メリ

文部卿ノ外別〔ニ〕商議役八人アリ、其會議ヲ以テ一般ノ学則ヲ定メ、且学校用ノ書物ヲ取捨ス

国中ニ七ヶノ吟味局ヲ設ケ置キ、其ヲシテ教官トナルベキ者ノ試験ト、其卒業ノ試験等モ其ヲ監察セシム

且此局ヨリ其試験ノ次第ヲ文部卿迄書キ上ケ、且各州ノ教官タルベキ者ノ試験ヲ經タル次第ヲ以、其州ノ管理局迄赴告シ、且必用なる時ハ其者ノ卒業試験ノ時、其返答ヲ書キタル紙上ニ己ノ註解ヲ為セリ

右ノ諸学校ノ法則ヲ設クル外、文部卿ニ於テハ王家ヨリ建立シタル学校ニモ大ニ關係セリ

此種類ノ教官タル者ハ通例国王ノ命スル所ニシテ、其撰挙ノ時ニ於テハ他ノ教官及ヒ人民ヨリ嚴ニ注目スルニヨリ、文部卿ニ於テモ決テ私ノ所置ヲ為能ワズ、己負ヲ逞スル事ヲ不得

文部卿ニ於テ縱令教官ヲ差配スル大權アリトモ、其ヲ免職セシ〔ム〕ル等ニ至テハ、矢張格段ナル裁判所ノ許可無クシテ之ヲ行フ能ワス

## 終　　論

プロシヤノ學則ハ実ニ齊備シタル者ニシテ、克ク其人民ノ求メニ応セリト云ベシ

但シ其教方ハ決テアメリカ國於ル高尚ナル養方、又ハ英國ニ於ケル中等ノ子弟ヲ教ユル法方トニ同カラス、且又仏國ニ於ケルガ如ク智識ノミ広ムル事ヲ専務トセス、且其學則ヲ定ムル事ハ全ク政府ノ手ニアル〔ト〕雖、素人民ノ望ム所ナルニヨリ敢而政府ヨリ人民ヲ束縛ス〔ルニ〕非ス、人民却テ政府ノ手ヲ借り己ノ所望ヲ呈スルナリ

80 ノールウェー国の学校

学 則

千八百十四年ニ当リ、ノールウェー国テネマルカ〔デンマーク〕人ノ管轄ヲ脱セしより、初メテ教育法方ヲ設クル事ニ注意セリ、教育事務〔ニ〕注意する事〔ヲ〕ナシ初メリ

千八百二十五<sup>〔七〕</sup>年六月十四日ニ於、初テ國中ノ郷里ニ属スルコンモン・スコールノ法則ヲ定メ、且千八百六十年五月十六日ニ於テ其法則ノ不足ヲ補ヒ、且種々ノ改革ヲ加ヘタリ

千八百四十八<sup>〔七〕</sup>年六月十二日ニ於テ、初テ市邑ニ属スル平常学校ノ法則ヲ設ケタル由

以上ノ学則ニ尚改革ヲ加ヘシ者ハ千八百六十九年五月二十二日ニ定メタル国法ノ内ニアリ

学校ノ種類

ノールウェーニ於國中ノ学校ヲ五等ニ分チテ其一ハ平常学校、其二ハグラマル及ヒハイ・スコール、其三ハラテン・スコール、且羅甸学校トハイ・スコールヲ合セシ者、其四ハユニウォルシテ、其五ハ専門学校

平常学校

平常学校ヲ又分テ二トナシ、其一ヲ郷里ノ平常学校ト称シ、其二ヲ市邑ノ平常学校ト称す

郷里ノ平常学校

此平常学校ノ内ニ亦上下ノ差別アリテ其ノ下等ナル者ハ一地方ニ属シテ、其教ユル所ハ実初步なる学問ナリ、然シ

其上等ナル者ハ数地方ノ所有ニシテ、其教ユル所ハ稍高尚セリ

若シ一村ニ於テ学校年期ノ生徒三十人アルトキハ、国法ニ准シテ一ノ平常学校ヲ設ケリ

高山幽谷ノ多キ地方ニ於テハ国法ニ准シ、アムビュレトリ<sup>補</sup>「移転ノ意」スコールヲ設ク、但シ其教官ハ一ノ農家ヨリ他ノ農家ニ移リテ生活ヲ得タリ

然シ此学校ニ於テ生徒ノ人員モ逐々減少スル由、一地方ニ於テ製造所アリ、其用ユル職人ノ三十人以上ニ及ハ、其持主或ハ<sup>ハ</sup>社中ニ於、職人其童幼教育ノ為一校ヲ設ケサルヲ不得

一地方ニ下等ノ平常学校ヲ設クル事ハ、国法ニ准シテ其人民己ノ職分トセリ、然上等ナル平常学校を設クル事ハ全ク人民ノ随意ナリ

上等ナル平常学校ニ於テ生徒入門ノ年齢ヲ十二歳以上ト定メ、且教ル所ハ平常ナル学問「<sup>補</sup>但書ヲ統計算スル事」ノ外地理、歴史、博物史、図画、弧角法等ナリ

#### 市邑ノ平常学校

千八百四十八年ニ定タル法則ニ准シ、一邑毎ニ必ラス平常学校ヲ設ケリ、但其学校ニ於テハ、教官一人ニして教ユル所ノ一級ノ生徒六十人以上ニ及ブ事ヲ不許

其教ユル科目ハ郷里ノ平常学校ト同様ナリ、然シ学校管理局ノ許可ニヨリ別ニ一級ヲ設ケ、稍高尚シタル科目ヲ教ユル事ヲ得

#### 学校年期及ヒ束迫法

（國中ノ童幼己ニ八歳ニ及ヒシトキハ之ヲシテ強テ平常学校ニ入シメ、且十五歳ヲ以其卒業ノ期限ト定ム、但市邑ノ

〔童幼ハ七歳ヲ以テ其年期ノ初メトス〕

父兄若シ家ニアリ平常學校ニ於教ユル科目ニ准シ其子弟ヲ教ヘ、又ハ他人ヲ雇ヒ業ヲ授シムルトキハ、其ヲ平常學校ヘ出サザルトモ可トス、然シ國法ニ准シ學校稅ヲ出サ、ル事ヲ不得、他ノ生徒ノ欠席ヲ防ン為今般法ヲ設置、其欠席セシトキハ父兄ヨリ書面ヲ以テ、其欠席セシ所謂ヲ通達セシム

然シ父兄若シ怠リテ書面ヲ出サ、ルトキハ、學校管理局ヨリ之ヲサイソクシ〔ママ〕——怠リテ——〔ママ〕其上書面ヲ出サザルト

キハ罰金トシテ二十五シキルリソクス〔ママ〕乃至五スピシードルラスヲ出サシム、一スピシードルハ百二十スキルリ

ソク乃〔亜メリカノ一ドル六センツ〕

郷里ノ學校ニ於テハ其一年ノ教授開校期限ハ凡十二週間ナリ、且學校中ニ種々ノ等級〔ママ〕アルトキハ、其期限ノ長

サ僅ニ九週間ナリ

〔数多ノ地方ニ於テ、其期ヲ緩メテ十二周以上ニ至ラシム〕

# 吟味ノ事

平常學校ニ於テ生徒ヲ吟味スル事ハ唯一年ニ一度アリテ、地方ノ學校管理局ノ官員役人モ其場ニ預レリ、之ヲ試験ス

# 學費ノ事

市邑ニ属スル一地方ヲ以テ一學校地方ト定メ、又其一地方ヲ分チテ数小区ト為ス、其一地方一切ノ學費ハ其小区合力シテ之ヲ出シ、以テ毎区學校ノ費用ニ供ス

學費金ノ依テ出ル所ハ、第一地方ニ属セル學費、教育ノ為蓄ヘタル元金ノ利、第三〔ママ〕第二私ノ寄賦、第三罰金、第四

## 第二ノ学校地方及政府ヨリノ寄賦等ナリ

且其地方ノ邑会ヨリ出ス所ノ金ハ他ニ比スレハ最過多トス、其邑会ニ於テ年々ノ學費ヲ予定シテ、且學費稅ヲ取集メ其地方学校ノ費用ニ供ス、但シ學費稅ノ多少ハ人々ノ有所品ノ多寡ニ准シ、多寡ノ別アリ

小区ニ於テ新ニ学校建テ又ハ脩復シ、或ハ学校替ヘテ借用等ノ費金ハ、尽ク其地方ニ属スル學費積金ヨリ取出ス事ヲ得、然シ区内ノ学校ニ於テ費セル薪油及ヒ掃除料、且教官ノ路費及開校中其飲食住所等ノ費用金等ハ其区ニ於テ尽ク之ヲ出ス、学校地ニ於ハ教官ヘ与フル確定給料ノ外、別ニ一園ヲ設ケ置キ其ノ耕作ノ地トナス(其多寡ニ准シ差別アリ)ノールウェー國中ニ二十州アリテ、一州毎ニ其州中ノ有所品ヨリ學費稅ヲ取り集メ、之ヲ州内ノ学校ヘ分配シ、多年在職ノ教官ノ給料ヲ加増シ、上等ノ平常学校及ヒ勤工学校ノ入費用ニ供シ、且学校ノ建〔築〕及ヒ教官ヘ与ベキ土地を求ムル為ニ供シ、教育進歩之為貧シキ村落〔ノ〕學費ヲ扶助シ、又ハ教官学校ノ教官ノ給料等ニ供セリ

### ○学校世話役人ノ事

通常ノ学校地方ノ分界ハ、矢張邑会市邑ニ属ス地方地方ト同様ニシテ、國中地方ノ全數ハ當時四百三十四個アリ、一地方毎ニ二局アリテ学校一切ノ事務ヲ管理ス

但シ其一ハ学校管理局ト称シ、別シテ其地方ノ学校内ノ事務ヲ管理ス、他ハ其地方ノ邑会ニシテ、学校必用ノ費金ヲ配与スル者ナリ

但シ此邑会ノ役人ハ、入札權ヲ得タル住人ノ択挙ニヨリ其職ニ当ル者ナリ

ノルウェー國ニ於尚全國ヲ六デイオシスニ分チ、再其ヲ小割分シテ七十七デイーネリートス、一デイオシスハ高宗師<sup>ビレニヤ</sup>ノ支配スル領地ニシテ、一デイーネリーハデイーン(ビショップノ次等ナル僧官)差配スル地方ナリ、但シテ



インハ国法ニ准シ其支配地内ニ於ケル学校ノ上等吟味司タルヲ得、且地方内ノ学校管理局ヲ差配スル權アリ、然シ一ディオシース毎ニ監督アリテ、又幾何ノディーネリースヲ差配ス但シ此監督国王〔之〕ヲ択挙シ、官員ノ数ハ唯三人ニシ〔テ〕、ビシヨップト其領地ノ知事ト一ノ学校監察司ナリ之ハ尽ク国王ヨリ命ゼラレシ者ニシテ、政府ヨリ給料ヲ受取レリ

國中ニ如斯学校監督六名アリテ、各其領内ヲ遍歴シ、学校ノ形況ヲ細密ニ試験セリ

ティオシースノ監督ヨリ年々其領内学校進歩ノ形況等を子細ニ書キ記シ、之ヲ文部省迄差出シ、且文部省ニ於テモ年々國中ノ全国教育ノ進歩形況等を取調ヘ、之ヲ国王及政府迄差出ス

### 教官学校

一ティオシー〔ス〕毎ニ官費ヲ以一ノ教官学校ヲ設置キ、公学校ノ教官タルベキ者を仕立ル為ニ供セリ、且別ニ稍小ナル教官学校ヲ設ケリ、但シ之ハ高尚ナル平常学校中ニアリ、又ハ公ノ平常学校中ノ尤高尚ナル等級ノ中ニアリ此教官学校ハ政府ノ管理スル者ニシテ、其教官ハ国王ノ命スル所ナリ、其教ユル科目ハ神学、本邦ノ語学、算術、音楽、地理、博物学、習字、図画、体術学、武器ノ用法等ナリ

教官学校毎ニ小学校ヲ設置キ、生徒ヲシテ幼ヲ教シ、其〔教〕方ニ熟練セシム、教官学校ニ又稍小ナル教官学校ニ於テ試験ヲ経タル者ニ非レバ、公ノ平常学校ノ教官タルヲ不得、且其助教ハ学校管理局ヨリ之ヲ撰ベリ

千八百六十年五月二十二日ニ定〔ラ〕レタル法則ニ准シ、試験ヲ経タル婦人教官モ、平常学校ニ於而初級ノ教官タルヲ得タリ、市邑ニ於テハ已ニ婦人教官ヲ挙用シテ、其数モ已逐々加増スル由

### 平常学校ノ表



千八百六十〔一〕年ニ於、國中ノ学校地方ヲ小区ニ小割シテ、其小数六千百八十九ナリシカ、千八百六十六年ニ於テ  
 区数ハ六千三百四十四ニ及ベリ

◎千八百六十五年ニノールウェー全国ノ戸口ハ、大概一百四十三万四千七百二十二ナリ

左ニ掲ケル表ニヨリ学校区ノ全数ヲ見ルヘシ

此表ニヨリ六年間ニ一千二〔百〕七十五ケノ移転学校区モ、遂ニ変シテ恒学校区トナリシ事ヲ知ルヘシ

恒学校ヨリ一里以内ニ住シセル童幼ノ、其ヘ通ヒ出ラル童幼ノ数ハ、千八百六十一年ニ六千四百十八人ナリシカ、千  
 八百六十六年ニハ其数殆二倍シテ、一万一千三百四十八ニ至レリ

年 号	恒 学 校	借家学校	移転学校
千八六一	六一三	一九五六	三、六二〇
千八六六	一四七八	二五二一	二、三四五

2,521	1,468
1,956	613
565	855
855	
1,410	3,620
	2,345
	1,275

〔抹消〕

市府ノ学校ニ於テ

	学校年期中 生ノ 童幼ノ数	学校ニ不入 童幼ノ数	在校生ノ数
1861	200, 273	6, 632	193, 641
1866	222, 136	5, 514	206, 623

42, 892

32, 682

10, 210

32

3, 106

206, 623

5, 514

211 337 (抹消)

201, 109 (・)

( 64  
unter der Leiden)

在校生ノ数

(一) 郷里ノ学校ニ於テ在校生ノ比例ハ左ノ表ニヨリ見ルベシ

千八百六十五年ニ於ノールウェー全国ニ六十ヶ市府アリテ、其人員ハ二十六万七千〇二十九人、戸数ハ二万三千一百六十七ニシテ、家ヲ保チシ者ハ五万四千二百二十六人ナリ、千八百六十六年ニ於一百十六ヶ平常学校アリテ、其級数ハ総計七百〇二ナリ

ノールウェー國ノ市府ニ於テハ、千八百六十七年ニ学校年期ノ童幼四万二千八百九十二人アリ、且同年ニ於市府ノ人口ハ二十六万四千八百五十五人アリシ故、其比例ハ人戸六十分ニ付童幼一人ノ割ナリ

右ニ挙タル童幼全数ノ内一万〇二十人<sup>(二百十)</sup>ハ私学校ニテ業ヲ受ケ、且其余ノ三万二千六百八十二人ノ内三千一百〇六人ハ平常学校ト殆ト同シキ私学校ニテ業ヲ受ケ、且七百五十六人ハ其年ニ於テ一切入校セザル者ナリ

学費金ノ取集タル者ト、数多種々学校地方ヨリ寄賦セシ者ト合算シテ、千八百六十六年ニ郷里ノ学校ニ於テハ397、683スピシードル<sup>ニ</sup>及ビ、千八百六十七年ニ市府ニ於テハ118、216スピシードル<sup>ニ</sup>及ベリ

然「シ」郷里ニ於テ教育ノ為費ヤセシ所ハ総計415、819スピシードル、市府ニ於テ費ヤセシ所ハ総計110、892ドルナリ

教官一ヶ月ノ給料ノ小数ハ百スキルリング乃至ハ二スピシードル（一スピシード「ル」ハ百二十スキルリンクナリ）、市邑ニ於テ学校ノ教官全数ノ内307、246ハ男子ニテ、六十一人ハ婦人ナリ

但教官給料ノ最モ高尚ナル者ハ、一年二百六十五スピシーナリ

⑧ポブリク（公）及ヒハイ高スコール<sup>（ママ）</sup>

此称類ノ学校ハ多分ハヤー又シウイク<sup>（補）</sup>「市ニ属スル」スコールト称スル者ニシテ、平常学校ト別シテ相違スル所ハ、平常ノ科目ノ外、近世ノ国語ヲ加ヘ、且其教ユル所モ総テ高尚セリ

此中或ル学校ハ、大学校ヘ入ルヘキ生徒ノ予備ヲ為ス為ニモ供セリ

此学校ハ市中ノ人民之ヲ設ケ、且之ヲ保存シ、或ハ生徒ヨリ受業料ヲ出サシメ、唯其不足ヲ補助スル目的ヲ以テ之ヲ設ケリ

此学校ハ多分男子ノ為ニ設ケタリ、然シ或ル学校ニ於ハ男女共ニ入校スル事ヲ許シ、且其内ニケノ学校ハ全ク女子ノ為設ケラレタリ

此学校ハ多分ディオシー「ス」ノ監督ノ差配ヲ受ケ、或ル学校ハ教育ノ為蓄ヘタル積金ニヨリ其保存ヲ得タリ、但其積金ノ総数ハ當時三百万スピシードル以上ニ至リテ、素ト法教官ト寺院ニ寄賦セシ土地ヲ売リ其ヲ以テ此金ノ原始トナセリ千八百六十七年ノルウェー国ノ市邑ニ於テ、高等学校ノ全数ハ三十五個所ナリ、且其内百四十四ケノ等級アリテ、教官ノ数ハ百五十九人、生徒ノ数ハ二千五百三十一人ナリ

此学校ノ入費ハ總計四万一千〇九十五スピシードルニ至リテ、其中四千七百〇二ハ政府ヨリ扶助セシ所ナリ

◎ラテン・スクール、ラテン・スクールのハイ・シウィク・スクールノ合セシ者

此ノ公学校ハノルウェー国中ノ最大ナル市邑中ニアリ、且尽ク政府ニ属スル者ニシテ高尚ナル一般ノ学科ヲ教ユルニヨリ大学校ヘ入ル「為」ノ国語ヲ学ビ、或ハ技芸学校ヘ入り芸術ヲ脩メント欲スル者ノ予備ト為スル為ニ供セリ

ラテン学校ノ中数百年以前ニ其建立ヲ得、且充分ナル積金ヲ所持スル者アリ、然シ其数ハ甚僅ニシテ、余ハ尽ク政府及市人ノ寄賦等ヲ得テ保存スル者ナリ、此学校ニ於テハ尽ク生徒ヨリ受業料ヲ出サシム

當時政府ニ属スル高等学校ノ数ハ十六個ニシテ、百三十四ケノ等級ト教官一「百」九十七人及生徒二千百〇五人ヲ容ル、千八百六十七年ニ費スル所ハ總計106、346ドルニシテ、其受取リシ所ハ109、425スピシードルナリ、然シ其内40、848ドルハ生徒ヨリ出スル所ノ受業料ナリ、右ノ高尚ナル公学校ノ外、右同様ノ私塾モ数多アリテ、生徒ノ数ハ六千四百五十一人ナリ

①ユニウォルンティー

クリスチアナ府ニ於ケルノルウィジャン・ユニウォルシティーハ、千八百十一年ニヨリ開基セシ者ニシテ、諸人ノ寄賦ト彼ノ教育積金ノ一部分トニヨリ其保存ヲ得タリ

其講義ヲ授クハ全ク無賃ニシテ、且生徒留學ノ年期ヲ定メズ

然シ生徒入校ノ前ニ当リ必ラス之ヲ試験ス、若シ適當ノ予備ナキトキハ其入校ヲ不許、但其予備中ニ英或仏語ニ通スル事ヲ望ム

ユニウォルシティーハ「アカテミク」會議ト称スル者アリテ之ヲ差配ス、且此議員ハ教官ノ中順番ヲ以テ他ノ教官ヨリ選舉ヲ受、其任ニ当ル者ナリ

其教ユル教科ヲ分テ五トス

其一神学、其二法律学、其三医薬ノ教官一人、其四歴史及フィロソフィー、其五算学及ひ芸術学

ユニウ「オルシ」ティニテ、支屬ノ広ナル文庫、博物館、植物園、觀象台及磁氣ノ流動ヲ注意スル局アリテ、尽ク其教授ノ用ニ供ス

千八百六十七年ニ其教官ノ数ハ四十三人、生徒ノ数ハ八百五十人アリ、其入費ノ高ハ83、104ドルニシテ、其内70、900ハ政府ヨリ扶助セシ者ナリ

#### ⑤教育ノ為設タル格段ナル学校

國中ノ市邑ニ幼児院二十七ヶ所アリテ、千八百六十七年生徒ノ人員ハ二千八百六十七人、且ソンデー・スコール二十ヶ所アリテ、生徒ノ人員ハ一千五百二十人

デネマルカ國ニ於ケル高尚ナル農夫学校ニ比シテ設タル学校二十ヶ所アリ、生徒ノ員ハ四百人

諸州中ニ多分農学校ヲ設置キ、政府人民ト共ニ力ヲ合〔セ〕農ヲ勸メシニヨリ、農事ニ係リタル学科ハ克ク國中宣布セリ、政府ニ於テモクリスタアナ近傍ニ、甚広大ニシテ他ノ農学校ノ中心トナルベキ農学校ヲ設ケタリ

航海学校 ノルウェー国ニ属スル商船ノ甲比丹タルベキ者ヲ教授セン為、政府ヨリ海岸ヘ臨タル諸邑市ニ航海学校ヲ設ケリ、且其外数多ノ私塾アリテ航海術ヲ教授ス

国王〔ニ〕ヨリ吟味局ヲ設置キ、其試験ヲ経、且免許ヲ受サル者ハ（メート）（甲比丹ノ次役）甲比丹タルヲ不得千八百六十九年ニ、此局ニ於テ航海生一千二百〇四人ヲ試験セシニ、其内落第セシ者ハ三百八十四人アリ、乃全数三分ノ一ニ近シ

國中ニ兵学校アリ、陸軍<sup>ミリタリー</sup>大学<sup>アカデミー</sup>校アリ、陸軍武官ヲ仕立ル為ニ供シ、且海軍大学校アリ、海軍士官ヲ仕立ル為ニ供ス  
ミリタリー \*

國中ニ一ノ陸軍大学校アリテ陸軍士官ヲ仕立ル為ニ供シ、且海軍大学校アリテ海軍士官ヲ仕立ル為ニ供ス、又此外陸軍高等学校ト称スル者アリテ、土工官又ハ大砲隊ノ士官ヲ仕立ル為ニ供ス、且近来官費ヲ以一ノ土工学校ヲ設ケシ由

81 デネマルカ国、スウェーデン及ノルウェー

合衆国内地事務局ニ而千八百七十二年ニ刊行セシリポルトニヨル<sup>\*</sup> 四五七七葉ナリ<sup>(ママ)</sup>

デネマルカ〔デンマーク〕国

一デネマルカ国ニ於テ教育之度大ニ進ミテ、國中読書ノ出来サル者甚稀ニシテ、鄙賤ノ人民スラ克ク一般ノ歴史ニ理  
地学ニ通シ、別シテ本国の文学歴史ニ熟達セリ

一フォルケハイスコーレ（高尚シタル農学校）と称する学校アリテ、其数ハ他ノ学校ノ数ヨリ過多ニシテ、人民ノ史  
学ヲ盛ニスル一緊用器トナレリ、<sup>(補)</sup>「其裨益ノ大ニ他ノ学校ニ勝レリト云ヘシ」

千八百四十四年ニプロフツソル・フロア氏、スコレスウック州北偶ナルロッディンクト云小村ニ於、始テ高尚シタ  
ル農学校ヲ開キシニ、其余沢四方ヘ波及シ、遂ニテネマルカ全国ニ漫延、其数已ニ七八十個ニ至レリ

此農学校ハ素ト全ク人民ノ寄賦<sup>(ニ)</sup>依テ建チ、且毎歳生徒ノ納ムル受業料ハ五十「レクスダラス」<sup>(ママ)</sup>五十ドルナリ  
シニ、近来政府ニ於テ其文物隆興ノ為其ノ尤モ緊用ナルヲ覺知シ、年々扶助金トシテ一万四「千」レクスダラス

（七千ドル）ヲ給与セリ

此学校ハ全ク郷人ノ<sup>(ママ)</sup>□□□□氏ノ為ニ設タル者ニシテ、生徒ノ年齢ハ十八歳ヨリ三十歳ニ至リ、郷里ニ於テ盛ニ行  
レ、其利益甚不少大ニシテ、但生徒ノ年<sup>(ママ)</sup>



其教ユル科目ハ、一般及本邦ノ文学、一般及本邦ノ歴史、地理、セーミ学、理学、動物学、植物学等の尤農事ニ有益なる者、綴字学、算術、規矩無シテ画ク事、水平ヲ見る事、測量、唱歌、体術学等ナリ

〔此ヲ教ユルニ一切ヲ講義ヲ以シテ、一切書物ヲ用ヒス、其生徒の学力ヲ検査セス、且已ニ教ヘシ科目ヲ再ヒ不問、何ヲ学ビ且其学進否多ハ全生徒の手ニアリ、且其学校中甚<sup>〔ママ〕</sup>ナル文庫アリテ、右ノ学科ヲ一応教授スルニ六ヶ月

ヲ以テ定期ス、然シ其処ニ再三来リテ学フ者甚多シ、此学校中富農夫モアリ貧農夫モアリテ、其教導ノ目的ハ各自<sup>〔カ〕</sup>其思慮ヲ練リ、生徒ヲシテ己ノ思慮ヲ練ラシメ、人間ノ為大裨益タラン事ヲ挙クルヲ勤<sup>〔カ〕</sup>メ、且其不羈自由ノ志ヲ發揮スルニアリ

且其教師、時間の外其生徒ヲ己ノ家ニ招キ、厚ク此ヲ遇シ、益々師弟ノ間ヲ密ニセリ

其教授時ノ朝ハ八時ヨリ初マリテ正午十二時ニ至ル、且或午後二時ヨリ七時ニ至ル、但其時限ハ朝八時其稽古を初ムルニ、第一真神ヘ祈禱ヲ為シ、其より九時ニ至ル迄本邦人ノ書詩文章ヲ読シム

## 九時 歴史

十時 半時ノ休息アリ、十時半ヨリ午跡ノ稽古を為シ、且題ニ順テ文章ヲ作為ス<sup>〔ママ〕</sup>

## 十二時 マテ

一日ニ総計七時間ナリ

郷里人ノ如斯思慮ヲ勞シテ全ク更ニ倦ザルハ、全ク其教ル所ノ科目變更<sup>〔ママ〕</sup>化シ、之ニ加ルニ度々ノ唱歌ヲ以テスルニヨルナリ

同様ニ学校ヲ設、寒貧ナル婦人（稍成長シタル者）ヲシテ入校セシメ、専ラ保家術、針仕事等ヲ教ヘリ

## 中学校の事

一 中学校ニ二種アリテ、其一ヲギムネージャ〔ム〕ト称、其他ヲリアル・スコールと称ス、ギムニ於テハ専ララテ  
ン、グリキ之語ヲ教ヘ、リアルニ於テ専ラ算術等を教ヘタリ、然ルニ近來テネマルカ政府ノ下院ニ於テ種々議  
論アリ、遂ニ二種<sup>ニ</sup>と中学ノ教方（此ノ教方已ニ独乙国ニ於行セリ）ヲ初メ、此兩種ノ学校ニ於而其教ユル科目ヲ二  
分シ、生徒ノ好ミニ任セ其所長ニ随ヒ、或ハ語學歴史を專ニシ、或ハ算術理學等を專ニセシム  
其教ユル科目ハ殆ト独乙ノギムネージャ〔ム〕ニテ教ル所ニ同シ、別シテ本邦及北方ノ歴史、言語、文學等ニ力ヲ  
尽シ、且英仏語ニモ多ク時間ヲ費セリ

國中ニ種々の社中アリテ

## 普通ノ教育

一 一般人民ノ學識を広メルヲ計レリ、種々の妙法ヲ設、文庫ノ不備ハナク、辺鄙ノ村落ニ至ル迄モ其余沢ヲ蒙ラザル  
ハナシ

コッペンハーゲ〔ン〕府ノ如キハ人口二十万ナレド、學識ヲ広ムルニ便ナル事他ノ大府モ如クノ者稀ナリト云ヘシ  
大学校及數多ノ学校ノ外、種々の博物館（大ニシ且其次序甚宜シ）アリテ、北人ノ古珍物、万国ノ珍（万国ノ人種  
風俗ヲ教ユル為ナリ）其外、画、動植物ヲ藏セリ

府中ニ甚大ナル文庫二個アリ、其一ハ大学校ニ屬シ二百三十万卷の書、写本四千卷を藏シ、其他ハ王室ニ屬シ、其  
藏スル所ハ五十万卷の書ト写本二万卷あり

スウェーデン国ニ於當時行ハル、人民普通一般ノ教育ノ法律ハ、千八百四十二年ニ設定シテ其後種々ノ改革ヲ加ヘル者ナリ、但此法律ノ大主意ハ、要ヲ取左ニ羅列セリ

一村毎々必ず一個ノ恒学校ヲ設ケ、教官学校ヨリ免狀ヲ得〔タル〕教官一人ヲ雇、業ヲ授シム、然シ若金ニ乏シク、或ハ他ノ故障アリテ恒学校ヲ建得サルトキ、之ニ替ルニ不恒学校ニ於テシ、王ノ免狀ヲ得タル一二ノ教官ヲ雇入ノ<sup>〔ママ〕</sup>一時教育ノ用ニ便ス、或ハ辺鄙ナル恒学校及不恒学校、右兩種ノ学校ノ距離甚遠クシテ容易ニ入校シ難キトキハ、予備学校ヲ設ケ之ニ替フ、但其教官ハ免狀ヲ持ザルトモ可トス

一村落ニシテ一ノ学校地方ヲ成セシ所ニハ必ラ〔ス〕学校管理局ヲ設ヘ、村落ノ恒教師ヲ以テ席頭トシ、学校ノ教方及一切ノ事務ヲ監督セシム、且新ニ規則ヲ新造シ、且此局ニ新ニ学則ヲ造リ、又ハ改革ヲ加ルトモ、然其ディオオニス<sup>〔ママ〕</sup>（テイオオニスハ一高宗師ノ管界ニテ幾多ノ市邑村落ヲ合セリ）ノ高宗師或ハ其頭領<sup>〔桶〕</sup>「<sup>〔ママ〕</sup>寺社会頭領」ノ許可〔ナク〕シテ之ヲ行フヲ不得、此初等公学校設建、且之ヲ保存スル等ノ事、国全ク分トセリトモ人民之ヲ建テ保存シ、本政府ニ於テ矢張之ヲ扶助セリ

初等学校ノ教官ハ、教官学校ニ於テ検査ヲ經タル者ニ非レハ其職ニ当ルヲ得ス、但学校管理局ニ於テ全ク教官ヲ選<sup>〔ママ〕</sup>択ス権ナク、唯教官トナルベキ者三人ヲ挙ケ、人民ヲシテ其ノ一人選シム

初等学校デ教ユル所ノ科目ハ神学、本邦ノ語、算術、弧角法、歴史、地理、博物学、習<sup>〔ママ〕</sup>字、<sup>〔ママ〕</sup>図画、唱歌、体術学、其業ヲ授クルハ全クフリーク<sup>〔ママ〕</sup>ラティスタ<sup>〔ママ〕</sup>ト云意ニシテ一然シ支属ノ文庫ニ於テ、学校保存ノ為必用ナルトキハ各生徒ヨリ差細ノ税ヲ納シム、然シ其時ニ依、其税ヲ取ル事ハ稀ニ行レタリ

# 強テ生徒ヲ入校セ〔シ〕ムル事

童幼已ニ学校年期ニ及ハ、強テ公学校ヘ入レ業ヲ受シム、然シ其父兄家ニ於テ業ヲ授、又ハ私塾、公ノコレジヘ遣シ業ヲ受シメバ公学校ヘ出サザルトモ可トセリ、然シ学校管理局ヨリ年々家ニ在テ業ヲ受クル生徒ヲ公学校ヘ招キ、其修ムル所ノ学業全ク公学校ニアリ授クル所ノ者ト同、不同、且其深淺如何ヲ試験セリ

父兄若シ甚寒貧ナルニヨリ其子弟ニ衣食ヲ給スル力、家産ナク、且其入校モ妨ゲントキハ村中ノ人民之ヲ扶助セリ生徒ノ住所若辺鄙ニアリテ学校ノ距離甚タ遠ク、且嚴寒ノ時節ニアタリ日々ノ入校ニ不便ナルトキハ、其ノ家ニアリ業ヲ修メ、一周ノ間ニ僅カニ一兩度入校スルヲ許セリ、然シ自己ニテ読書スルノ力ナク、且父兄行状モ不正、或ハ子弟ヲ教ユル力モ無ク、全ク家訓ニ怠ルトキハ、其子弟ノ家ニアリ業ヲ修ムルヲ不許

父兄若右ノ学則ヲ犯シ、己ノ子弟ヲシテ入校セシメサルトキハ、必ラス其子弟ヲ父兄ノ手ヨリ分チ、他人ノ手ニ渡シ之ヲ保護セシム〔ママ。〕（若シ父兄其子弟ノ入費ヲ出サザルヲ不得）

一家ノ主人タル者ハ其ノ家ニアル奴婢ノ童幼ヲシテ、人間必用ノ教育ヲ受ベキ様注意スベキ事

各村ノ代官なる者一年ニ兩度ヒ、村中童幼の生徒年齢年前ニ、学校年期ニ及ヒシ者ノ其員数表簿ヲ作レリ

初等学校ニ於テハ一年ニ八ヶ月ノ間開校セリ、且教授ノ時限ハ一周間ニ五日、一日ニ六時ナリ

郷里ノ学校ハ（キム）其学校管理局ノ監察ヲ受タルニヨリ、若何人か一ケノ学校ヲ設ケ開ント欲スルトキ、必先此管理局ヘ来許可ヲ求む、然シ此局ニ於テ其人ヲ試験シ、若其行状モ不正、且生徒ヲ教導スベキ学力見識ニ乏キトキハ之ヲ不許

#### 学校年期及入校生徒の事

一右ニ掲タル学校年期ノ始ヲ定ムル事ハ、全ク各郷里ノ学校管理局ニ委任セリ、之ニヨリ其年期ハ各郷里毎ニ少シ差別アリ、然シ大概七歳ヨリ十四歳ノ間ヲ以其年期ト定メ、決シテ九歳ヨリ以上ニ及フヲ不許

千八百六十八年ニ於テ全国ノ人員ハ四百七十七万三千零八十人ニシテ、七歳ヨリ十四歳ノ間ニアル童幼ノ数ハ七十万四千七百六十五人ナリ、然シ学校年期中ノ生徒ノ数ハ六十七万九千一百二十八人ニ及ヒテ、全国人員ノ百分ノ十六ナリ、但シ右ノ此例ニヨリ、七歳以上又ハ十四歳以下ニシテ未タ学校年期中ニ及ハザル者ト見知ルベシ

### 恒学校及移転学校ノ事

国中ノ初等学校中ニ兩種アリテ、其一ヲ恒学校ト称、其他ヲ移転学校ト号ス、若或ル郷里ニ山林川沢アリテ恒学校ヲ建ルニ甚不便ナルトキハ、移転学校ヲ以此ニ替フ、然シ逐々移転学校モ變シ恒学校トナレリ、人民繁昌、山野開ケ往來ノ便利モ宜キニよるヘシ

千八百六十八年ニ兩種ノ学校總計三千五百零九ケアリテ、其内二千三百零三ハ（乃百分ノ六十六分）恒学校ニシテ、其余一千二百〇六ハ（百分ノ三十四分）尽移転学校ナリ

且兩種ノ学校ノ生徒ノ人員ハ三十五万七千九百五十五人ニ至リテ、其中二十万零三百三十九人ハ恒学校ニ属シ、其他十五万七千六百十六人ハ移転学校ニ属セリ

### （ハイ・エレメンタリー） 稍高キ初等学校

右兩種学校ノ外、別ニハイヤ・エレメンタリー学校ヲ建て、初等学校ニ修業セシ生徒ヲ得、高尚シタル学業ヲ授ル為ニ設タリ、然シ此学校ノ数ハ举国僅ニ十ヶニシテ、未タ偏ク国中ニ漫延セザルナリ

### 予備学校

予備学校ハ砂漠或ハ山陵ノ多キ地方ニ住セル童幼ノ為ニ設クル者ニシテ、其教方ハ殆ト家ニアリ教ユル所ニ近シ、然稍長ゼル生徒ハ初等学校ヘ來リ業ヲ受シム、千八百六十八年ニ予備学校ノ数ハ三千四百十ヶアリテ、生徒ノ人員ハ十

六万二千五百八十一ニ及ベリ

学校ノ数及ひ生徒ノ比例

千八百四十年以来生徒の數不<sub>レ</sub>絶加増シテ、千八百四十年中生徒ノ數百分ノ六加増シ、千八百六十八年中ニハ其數益々加増シテ百分ノ十三ニ及ヘリ

千八百五十年ヨ<sub>〔リ〕</sub>五十九年ノ間、初等学校ノ生徒ノ人員ハ、学校年期ノ童幼ノ人員ト比較シテ凡百分ノ六十ナリシガ、其後予備学校ヲ設シヨリ其數益加増シテ、已ニ百分ノ七十七に至レリ

初等学校予備学校生徒 五十二万零六百四十六人

公学校及ヒ私学校ノ生徒 四万二千百九十八人

家業ヲ受ル生徒 九万九千二百四十三人

總計 六十六万二千零八十七人

(但シ此總數ハ学校年期童幼全數ノ百分ノ九十七分ナリ)

教官ノ給料

千八百四十二年六月十八日ニ定タル法律ト、千八百六十三年ニ定タル規則トニヨリ試験ヲ經タル教官の給料、少クトモ四百レクスダルスト(英二十二斤)ト穀ハバーレル<sub>〔Vd〕</sub>ヲ給セリ、別ニ村人ヨリ其役宅ヲ設ケ、薪炭一牝牛ノ食糧、自己必用の野菜ト童幼教授ノ為緊要ナル草木ヲ植ベキ土地ヲ給与セリ

但シ此給料の總量<sub>〔カ〕</sub>ヲ折半シテ、其一半ハ人民ノ之ヲ出シ、其他ノ一半ハ政府ヨリ之ヲセリ

若シ人民、教官の給料五百レクスダルスニ至ラシメシトキハ、政府ニ於モ矢張其一半ヲ給出セリ



試験ヲ経タル婦人教師ノ給料ハ、右試験ヲ経タル教官ノ給料ト同様ナリ

府市邑教官の給料ハ、右ニ準タル所の役宅及其他ノ物件ヲ除キテ、一千乃至ハ一千五百レクスドルラルスナリ

千八百五十三年定ムル所ノ法則ニヨリ、予備学校教官の給料ハ村中ノ人民ヲシテ、其学校管理局ノ役人ト共ニ商議シ之ヲ定シム

### 教官ノ養老金

初等学校ノ教官三十年ノ間教授シテ、其年齢已ニ六十歳以上ニ及ビ、其職ヲ辞スルトキハ、養老金トシ其一歳得シ所ノ給料ノ四分ノ三ヲ給与ス、然シ二十五年ノ間教授ヲセシ者辞職セシトキハ、養老金ヲ給スル場合アリ〔ト〕雖、其高ハ前ニ比スレハ稍減少セリ

### 政府ノ扶助金

別ニ政府ニ於テ別十二万レクスドルラルヲ積金ト為シ置、其内幾何ヲ取出シ教官ノ寡孤ヲ扶助セリ

保存ノ用ニ供ス

聖經史——〔カ〕テキスム、サムスノ詩、聖經中ノ註解、寺会中信スル所ノ条件、本邦ノ法学、本邦ノ歴史、地理、算術、孤角法、窮理学、美麗巧ニ字ヲ書ク事

### 〔数行空白〕

国中ニ九ケの教官学校アリテ、初等学校の教官及び婦人教師ヲ仕立ル為ニ設タル者ナリ、其内七ケハ男子ノ為ニ設ケ、其余ノ二ケハ婦人の為ニ設タリ

此学校中授〔ク〕ル所ノ科目ヲ三級ニ分ケ、生徒ヲシテ毎歳一級經過セシム、且生徒ノ教方ニ練熟セン為一校毎ニ初



等学校ヲ設ケ、生徒ヲシテ傍ラ童幼ヲ教授セ〔シ〕ム

但シ其教ユル所ノ科目ハ左ノ如シ

神学、本邦ノ語、歴史、地理、算術、弧角法、博物学、教官ノ心得、習字、図画、音楽、唱歌、操練、体術学、教術、花艸樹木、草木ヲ植付ル術、耕花、植樹等ノ学、ストツクホルムノ初等学校ニ於テハ英仏独乙語等ヲ加ヘリ

其教授ノ期限ハ一年ニ三十六周ニシテ、一周毎ニ四十二時間ナリ

教官学校毎ニ学頭一人ト専科ニ達セル教官三四人アリテ、又別ニ音楽、体術学、図画、耕花学等ノ教官数名アリ、但学頭タル者ハ必らずフィロソフィーのドクトルニアラザレハ其職ニ当ルヲ得ス、且教官たる者も尽く大学校ニ而確定ノ試験ヲ経タル者ナリ 其業ヲ授クルニ全クフリーナリ

政府ニ於テ年々寒貧ナル生徒ノ扶助金トシテ四万四千レクスドルラルスヲ給与セリ、一人一年ニ所<sub>レ</sub>受ノ金ハ凡百五十ドルラルなり

生徒無滞碍、試験ヲ経タルトキハ定則ニ随ひ免状ヲ与ヘリ

諸州ニ於テ其州々ノ費ヲ以教官学校ヲ設ケ置キシハ、小ナル予備学校ノ教官、女教官タルヘキ者ヲ仕立ル目的ナリ 同類ノ学校中三個ハ公費ノ者ニシテ、政府所屬ノ教官学校トセリ

各村ニ於テ其人民初等学校ヲ設ケル事ハ各ノ職分ト定メラレシ、然シ千八百四十二年ニ於テ教育法則ノ立チシヨリ、政府ヨリ年々学校保存ノ為メ、人民自己ヨリ出ス所ノ学費金ノ多寡ニ随ヒ、其ト同キ金数ヲ給与セリ（人民若五千トル出ストキハ政府ヨリモ亦五千トルヲ給セリ）

此扶助金ノ出ル所ハ、年々各出税者ノ自己及び其家人の爲ニ払ふ所ノ一般税金ナリ、但シ其主意ハ人民ヲシテ各税

ヲ出シテ寒貧ナル童幼ノ教育ヲ助シムルニアリ、此ノ外政府ヨリ給スル所ノ学費金ハ（政府ヨリ所給ノ〔タマ〕）  
〔初等学校予備学校教官の給料ヲ助ケ、又ハ高尚シタル初等学校保存ノ為、貧家ヘ扶助ノ為、低価ヲ以テ学校必用ノ物件ヲ求ムルヲ助クル為ナリ〕

但シ政府ヨリ出ス所ノ扶助金ト、人民〔ヨリ〕出ル所ノ学費金ノ此例ハ左ノ如シ

初等学校教官ノ給料ニ付政府ヨリ其費ノ一半ヲ出ス、人民其一半

高尚シタル初等学校保存ノ為、政府ヨリ三分ノ二、人民三分ノ一

予備学校入費、政府ヨリ三分ノ一、人民ヨリ三分ノ二

然シ教官学校ノ入費ト吟味司ノ給料ハ、政府ヨリ尽ク之ヲ出セリ

千八百四十二年ヨリ一法ヲ設ケ、オールタクス郡ノ〔富男一人ニ四千オアス（凡六ペンス）婦女一人ニ二千オアス〕

税ト、一人ニ付幾何カ税ニ出スナリ〕一半ヲ取りテ費用ニ供セリ

若政府ヨリ給スル所ノ学費若シ不足ナル〔トキ〕ハ、人民をシテ其余ニ付テ出サシム

千八百六十三年以来公学校ノ費用ハ、人民ヨリ其一半ヲ出シ政府も其他ノ一半ニテ出セリ

若シ一村ニ於テ其人民家産ニ乏シクテ、学校ヲ設ケ得サルトキハ、政府ニ於テ其ノ不及分ヲ輔ケリ

学校必用ノ入費ニ付人民若其三分ノ二ヲ出ストキハ、政府ニ於テ其三分ノ一ヲ輔ヘリ

## 第一章

国中ノ或ル学校及ビコレジに而百工技芸を教ゆるハ、初歩なる理窟上ト実地上トの学識ヲ広め、或ハ勤工製造等

ニ於る欠可からざる芸術ヲ盛ニせん為ナリ

技芸学校中ニ兩種アリテ、其一ニハ一般普通ノ芸術を教へ、其他ニ於テハ鉱山学、造船学等を教へり、但シ其兩種ノ学校中モ亦二三ノ種類アリ

### 第一ノ学校中

甲 サンデン〔イ〕及ヒイブニンク・テクニケル・スコール

エスキルスチイナノルエーピング

### 地名

マルモー オリーブロー ボロース等

乙 ① 初歩ノテクニケル〔補〕「百工技芸ノ意」スコール〔同上〕

② 用工学校〔補〕「仕事ニ出精スルト云意」スコール〔ストックホルム〕

③ 用工社中ノ学校〔インダストリー〕（コッテンボルク〔イエーテポリ〕）

丙 ① テクノロジケル インステチューション（学級ノ意）ストックホルム

② チアリムルス（人名）・インダストリエル・インステチュション コッテンボルク

### 第二ノ学校中

甲 上初歩ノ鉱山学校（フィリプスタット）

下鉱山学校（ファールム）

乙 造船学校（アールスクロナ）

右ニ掲タル種々ノ学校ハ各一個ノ全備シタル者ト雖、自ラ其ノ一ハ其他ノ稍高尚シタル学校ノ階梯トナレリ、故ニ

第一種⑨学校「ハ」②学校ノ楷梯トナリ、又②学校ハ丙学校ノ楷梯トナレリ

## 第二章

右丙二ノ学校ハ多少百工技芸学ニ係リシ故、職人タラント欲スル者ハ多分好テ第一⑨②丙ノ学校ニ入レリ、然シ第二ノ⑨②学校ハ全ク其専科ニ係レリ

但シ第二種<sup>〔カ〕</sup>ノ甲乙学校ノ生徒ハ、唯教場ニ於業ヲ受ルノミならず、又実地上ノ事ニモ亦關係シテ、第二ハ⑨学校ノ生徒ハ<sup>〔製〕</sup>制鉄所、溶解所、鉾山ニ於テ働キ、②学校ノ生徒ハ造船所ニ於テ働ケリ

## 第三章

用工ニ關係セシ者ハ何人を不論右兩種ノ学校ニ入る事ヲ得、然シ第一種ノ甲学校ハ職人の業ヲ受ルニ適當シ、其②学校ハ其教ユル所も稍高尚シテ職人頭ヲ仕立ル為ニ適當ス、且其丙学校ハ芸術学ノ教官タラン者ノ学ヲ脩ムルニ最も宜シトス

但「ストックホルム」「コッテンボルク」ニ於ル第一ノ②ノ<sup>〔一〕</sup>学校ハ、⑨学校ノ教ユル所モ兼ネシ故⑨②供合ノ学校ト云ヘシ

## 第四章

⑨ 第一ノ⑨学校ハ多分其地方ノ人民之ヲ建テ公費ヲ仰ス、然シエスキルスチュナ府ノ甲学校ハ其府ニ於テ制鉄所アルニヨリ、其鉄及ビ鋼鉄ノ制造ヲ盛ニセんと為、政府ヨリ年々五千レクスドルヲ給セリ

コッテンボルク府ノ甲学校ハ全ク人民出ス所ト、私ノ寄賦トニ依テ建ラレタリ

② 乙学校ハ其地方ノ人民此学校且其建造ノ費ヲ出シ、且尽ク学校付屬ノ地ヲ求メントキハ政府ヨリ其ヲ扶助せん

為、年々一校毎ニ一万二千レクストドルラルスヲ給シテ教官ノ給料ヲ払ひ、学校必用ノ器械ヲ求メ、其外一切ノ費用ニ供セリ

ストックホルムニ於而近來其市中、其市人、府ト力ヲ合セ、新ニ建タル乙学校ハ年々政府ノ七万九千レクスドルラルヲ受ケ、且市人ノ甲ノ用<sup>インダストリー</sup>工社中、及或ル人民私ニ寄賦セル金ヲ以テ一切ノ費用ニ供セリ

(丙) テクノロジケル・インステチュシヨ<sup>ン</sup>全ク官費者ニシテ、其年々政府ヨリ受ル所ノ學費金ハ五万五千五百レクスドルラルスナリ

チアーマルノインダストリエル学校ハ、多分右同人ノ与<sup>〔カ〕</sup>ヘシ所ノ元金ノ利ヲ以テ建テ且之ヲ保存ス、然シ政府ヨリモ之ヲ助<sup>ン</sup>為、年々二万一千五百レクストドルラルスヲ給与セリ

甲第二ノ甲<sup>〔カ〕</sup>ターロムニ於ケル学校ハ傍ラ制鉄社中ノ保護ヲ受ケ、且傍ラ政府ノ扶助ヲ得テ、当今受ル所一年ノ<sup>貧弱</sup>ダレントハ九千七百レクストドルラルスナリ、ヒイリプスタットニ於ケル初歩ノ鉾山学校ハ、制鉄社中ニ於而全ク之ヲ建テ且保存セリ

乙造船学校ハ全ク官費ノ者ニシテ、其一歳受ル所ハ七千レクス

## 第五章

千八百六十五年ト六十六年間ノ開校期限中、右兩種学校ノ生徒ノ人員ハ每校多少ノ別アリテ、其總計ハ二千七百四十三人ナリ

## 第六章

右ノ学校ニ於ハ一切教授料ヲ受ル者ト又其ヲ受サル者アリ、然シ其ヲ受ルト雖甚僅カノ金高ナリ

エレメンタリー・テクニケル・スコールニ於而、生徒ヲシテ其入門ノ時節四レクス半乃至六十レクスドルラスヲ出サシメリ

ストックホルムニ於テエレメンタリー・テクニケル・スコールニ於テ、一歳求ム所ノ教授料ハ一期ニ<sup>〔オケ〕</sup>（三ヶ月）十八レクドルラス七十五オアスニケ、用工学校ニ於ハ一月ハ五十オワス——且初等ノ鉱山学校ニ於一年ニ五十レクスドルラスナリ

生徒若シ〔教〕授料ヲ出ベキ産ナキトキハ、何人か之ヲ助クルニ非レハ強ヒテ其ヲ出サシメズ

## 第七章

生徒ノ行状若シ不正、或ハ其定メ年齢ニ及ハザルトキハ右ノ学校ニ入ルヲ不許、其入門年齢ハ左ニ掲ク

甲ノ学校ニ於 十二歳ヨリ

乙ノ学校ニ於而ハ凡十三歳ヨリ

インダストリエル（ストックホルム）ハ十三歳

初歩ノテクニケル・スコール——十四歳

丙学校テハ一般ニ十四ヨリ十六歳ヨリ<sup>〔ママ〕</sup>

残ハ他ニ於ハ——チャームルノ・インダストリエル・インステチュション 十四歳

## 第二

甲ノ学校ニハ十八歳ヨリ

乙ハ 十四歳ヨリ

右学校ニ於テ生徒ノ卒業期限、其場合ニヨリ長短ノ差別アリ、且生徒若シ試験ノ免状ヲ得ント欲〔六〕、少クトモ一年以上入校セザルヲ不得、但シ其期限ハ

第一ノ(甲)乙学校ニ於テ少クトモ一年以上、②ノ中エレメンタリー・テクニケル・スコールニ於テハ三年

丙ノ学校ハ三年

## 第二

④ノ学校ハ二年、乙ノ学校ハ四年

右学校ノ生徒ハ尽ク男子ナリ、然ストツクホルム府ニ於而、用工学校<sup>インダストリー</sup>ニ於テハ婦人モ亦来リ業ヲ受ク、然シ其教授時限ハ男子ト異ナル

## 第八章

生徒必用ノ予備無シテ右ノ学校ヘ入ルヲ不許

第一ノ④学校及②ノ中エレメンタリー・テクニケル・スコールヲ除キ、乃インタストリエル・スコル、ストツクホルム・インタストリエル社中(コッテンボルク)

学校ニ於テ求ムル所ノ必用ノ予備ハ、唯容易ニ来リテ読且字ヲ書き、且其部落教を奉信スル者ハ頗ル聖經神学ニ通達スルニアリ

②ノ中エレメンタリー・スコールニ於而求ム所ノ予備ハ、乃チ本邦及ヒ独乙或英語ノ文法ノ大意、歴史、地理(則本邦ノ者)ノ大意、算術ノ規則四個条(加減乗除ナルベシ)、平常ノ欠数、デシマル(其位ハ一以下ニシ、其十分百千分万分等ニ及ヘリ)ノ欠数及ヒ弧角法ノ初歩



第二ノ(乙)学校ニ於右ノ同様ノ予備ヲ要スル外、算術ニ於テ比例ノ規則(單復トモ)及ヒ英ノ文法書等(但シ其ハ独乙語ニ替タルナリ)

第一ノ丙ノ学校求ム所ノ予備ハ、算術ノ外ユークリドノ六書ト実物体ヲ測ル術、アルジブラノ第一度ト第二度ノ比例、プレーン・ツリゴノメトリノ三角ヲ量ル術初歩、ロガリズムノ用法及ヒ理学、化学、機械学等ナリ、且□□本邦ノ文章ヲ書キ、且容易なる独乙ノ文ヲ達者ニ翻訳スル事

鉱山学校ニ於て求むる所ノ予備ハ、第一ノ丙学校ト殆ト同シト雖、生徒ノ稍高尚シタル化学、理学、器械学等ニ熟達セサル生徒、縦令右ノ学科ニ通「セ」ザルトモ、大学校ニ而鉱山学ノ試験を経タル者ハ其入校ヲ許セリ

# 第一種学校

甲学校ニ於テ教ユル所「ノ」科目ハ、算術、弧角法、図画(直線ヲ以画ク事)唯規矩ヲ不用シテ画ク事、器械学、窮「理」学、化学、且技芸ノ尤モ製造ニ緊要なる者、模制術、記簿術、綴字学ナリ

其ノ地方ノ出ル所ノ土地ノ、其学校ヲ設置タル地方ノ産物ニ随ヒ差別アリテ、制鉄所アル所ニ於テ重ニ技芸ノ制鉄ニ係リタル者ヲ教ユルナリ

其教ユルハ、傍ラ器械等を試用シ、且図画、規模、手工ヲ過ザル物、制造物等ヲ示シテ講義ヲシ、生徒ヲシテ自ラ其ノ試験セシムルニアリ

其ノ教方ハ図画、規模未タ人工ヲ経ザル物及ヒ制作物等ヲ示シテ講義ヲ為、且器械等を用ヒ理学化学の妙理ヲ解明スルト、生徒ヲシテ自ラ其ヲ試用セシムルニアリ

エレメンタリー・テクニケル・スコールニ於而教ユル所ノ科目ハ○算術、初歩なる弧角法、アルジブラノ第二度、ロガリズムス〔マ〕〔補〕「測量書ニ用ユ表ノ原理」シリーズ及三角法、第二直線ヲ以物ノ平面及高低ヲ画キ、且模制シタル道具、器械、家屋等ヲ規模トシ其遠近を画ク事、○物の飾リ、日用ノ道具、器械学、製造物、建造学等ニ係リ〔タル〕物件ヲ手本ト為シ、規矩ヲ不用シテ画ク事、且陶土ヲ以「蠟」種々ノ模様、文物ノ飾リ、坯ヲ模制スル事

④製造物或ハ農事ニ係タル機械学、築造術等を用ユ、又ハ制作築造物ニ尤必用ニシテ未タ人工ヲ経ザル物ト、其物ノ人工ニ依テ種々ノ手数ヲ経過シ、全備スル迄ノ順序ヲ示ス

⑤セーミ局ニ試験スル事、⑥普通及ヒ実用上ニ係リタル理学ヲ教ユル事、⑦普通及ヒ実用上ノ化学ヲ教ルニ藥品等を用ヒ、且セーミ局ニ於テ其レヲ試験スル事、⑧通商及ヒ物ノ製造物ニ係リテ、植物又博物学ノ尤緊要なる者係リテ植木学及博物学ヲ教ユル事、⑨語学、⑩記簿術及ヒ商方学

此種類ノ学校ニ於テ教方、科目ノ順序等ハ、其地方ノ産物ニより多少差別アリ〔ト〕雖、其教方ハ甲ノ学校乃チソ

ンデー及ヒイブニク・スコールニ於ケル教方ト殆同シ

## ②ノ二

ストックホルムニ於ル用工学校ニ於テ教ユル所ハ、○第一ニ算術、但シ②ノ○ト同シ、○物ノ形チ、遠近及陰影ヲ画ク事

③円形物、或物ノ飾描画〔カ〕種々ノ模様物を規模トシ〔補〕「芸」規矩ヲ不用〔シ〕テ画ク事、但其中ニ直線モ用ヒタリ

④土工学教ユル、但堤橋等ノ築方ヲ以〔テ〕ス、⑤普通一般ノ築造学及造船学ヲ教ユルニ、矢張其築方ノ画図ヲ以テス、⑥石版、銅、木版ヲ彫ル事、⑦陶土或ハ蠟ヲ以〔テ〕物ヲ模制スル事、⑧油絵又水絵ノ具及ヒライム〔石灰水〕ヲ以

〔テ〕画、且陶器上ニ画ク事、④ニセ草花杯ヲ製スル事、⑤近世ノ語学、⑥記簿術等

此ノ学校に於てハ其諸科ヲ教ユルニ國中ノ産物、或〔ハ〕制造物等ニ係リ、尤有易なる学科ヲ教ユル事ヲ勤メタリ

## ②ノ三

コッテンボルク府ニ於ケル用工社中ノ学校ハ、②の二ノ学校ト同シキ学科ヲ教ユル事ヲ計シニ、唯費金ノ乏シキニヨリ未タ全ク其ト比肩スル事ヲ不得、右ノ兩校ニ於ケル教方ハ講義ヲ以テシ、且勤メテ生徒ヲシテ其教ヘシ所ノ尤必用ナル者ヲ記憶セシム

丙ノ(一)及(二)ノ学校ニ於て而其教ル所ハ、①純粹ノ数理、其内ニエナリチケル〔アナリティカル〕・ジオメトリ―〔弧角

法ニ而原由ヲ窮ル者ヲ云〕、算術、比例及ヒディフェレンシユル〔差ヲ生スルト云意〕、インテグラル〔全ノ意、皆

算術ノ高尚シタル者〕原由ノ初歩

③實用ノジオメトリ―〔土工ノ為、或ハ其他ノ技芸ノ為、陸地測量及ヒ水平ヲ見る事等〕

④ディスクリプティウ〔補〕書類ト云意〕・ジオメトリ―〔其ハ重ニジオメトリ―ノ法ニヨリ、石造或ハ木造ノ木家屋

ヲ画キ、又ハ物ノ遠近及陰影ヲ画クナリ〕

⑤理屈上ノ器械学乃チ物体ノ平均ヲ得其運動ヲ為ス理、且此中ニ穹形ノ築法ト家屋ノ造作ニ係リテ、土泥或ハ鉄、

或〔ハ〕木杯ノ圧力ヲ推算ス

⑥実地上ノ器械、此ハ器械ノ一般ノ用法ヲ教ヘ、且其運動力ヲ一所ニ集メ、或〔ハ〕其ヲ他ノ器械ニ交伝スル理ヲ教ユ

⑦器械学ニ係タル技芸、〔日用器械ヲ用ヒテ種々ノ物件ヲ制造スル事ヲ教ヘ、且ツ未タ制造ヲ経ザル物ト已ニ制造

ヲ経タル物ノ品位ヲ示ス〕

④ 普通ノ理学

⑤ 実用上ノ理学、(此ハ温度、光線、エレクトリシティー(電気)、及マグネティスム(磁気)、ノ法用ヲ教ユ)

⑥ 普通ノ化学

⑦ 実用上ノ化学、此ハ製造物ノ重ニ化学ニ関係シタル者ノ制法ヲ教ユ

⑧ 礦品学、擦地学、矢張重ニ国産ト日用ノ物ニ係リタル者ヲ教ユ

⑨ 普通ノ築造学及ヒ家屋ノ築法、(Ⅲ) 土工学、(Ⅳ) 図画(直線ヲ以画キ、又ハ規矩無シニ画ク事、且其ヲ画クニ墨色ヲ用ヘリ) (Ⅴ) 蠟、陶土、或(Ⅵ) ジブサム(石ノ名)(白クシテ石灰ニ似タル石ノ名)ヲ以テ描画<sup>[カ]</sup>物飾リ又壁坏ニ浮上

ケテ彫作リタル飾、又ハ人形ヲ模制スル事等、但シ人形ヲ模制スル事ハ唯第一ノ丙ノ二ノ学校ニテ教ヘリ

⑩ 右ニ挙タル科目ヲ教ユル外、又学校付属ノサイ工場之種々道具器械ヲ用ヒ、種々物件を製造スル事ヲ教授セリ

其教方ハ②講義ヲ以テシ、且種々之物件、雛形、画図、手本、或(Ⅶ) 実試験ヲ以テ、物ノ道理法用ト陸地測量、

水平ヲ見る事を教ヘ、生徒量□□を試用セシム

⑪ 生徒ニ已ニ教ヘ「タル」所ヲ度々尋問シ、且題ヲ設ケ生徒ヲシテ其答ヲ解明「セ」シム

⑫ 老練ノ教官アリテ陸土地測量水平を見る事、金属ノ用法ヲ教ユ

⑬ ファーロムニ府ノ礦山学校テ教ユル科目ハエナリティケル「□」<sup>[補]</sup>「原ノ意」ノ他、礦品学、礦山ノ測量、溶解術、実用

上ノジオメトリー、鉱物学、器械(重ニ礦山ニ用ユル者ナリ)擦地学、礦山学(礦物ノ存在スル所ト其ヲ發明スベ

キ術等ヲ教ユ)及礦山ヲ掘開ク事

右学科ヲ授クル外「定期アリテ」<sup>[補]</sup>時々其教官己ノ生徒ヲ誘ヒ、或ハ制鉄所ヘ行、其制法ヲ教ヘ、或ハ礦山ニ到リ其

礦物ノ□ノ生スル所ヲ教ユ、且學業ノ爲國中ヲ遍歴シ、礦山ヲ測量シテ其内部ノ図ヲ画シム

若礦山学校テクノロジケル・インステチューショント供ニ合スルトキハ、其インステチューションニ於テ教ユル三科（乃チ築造學、化學、土工學）ニ礦山學ヲ加ヘリ、又此内礦山ニ用ユル×器械學、溶解術、礦山測量學等ヲ込メ  
リ

フィレプスタット府ノ初步ノ礦山学校ニ於而教ル科目ハ道理上ト實地上ノ弧角法、プレーン・ツリゴノメトリ―（直線ノ度<sup>〔ママ〕</sup>ル術、直三角）理學、器械學、直線ヲ以画ク事、水平ヲ見ル事、化學、擦地學、礦品學、鍊質學等ナリ  
右ノ外生徒礦山或<sup>〔ハ〕</sup>溶解所、又ハ制鉄所等ニ到リ、實地上ノ制鉄法ヲ學フ事ヲ得

○造船学校ニ於而教ユル科目ハ、a 算術（此中に物ノ表面ヲ量ル術、実物体ノ金石等）ノ形又其輕重ヲ量ル術、尖形線ヲ量ル術、器械學、水利ノ器械、弧角法ニヨリ画ク事及ひ算術ノ高尚シタル者（デッフエレンシエル及ひインテグラルノ類）

b 船ノ図ヲ画ク事ト商船ノ築法、(c) 理屈上ト實地上ノ造船及ビ帆柱ヲ造ル術、且ツ造船ニ用ユル物件ヲ學フ事、<sup>〔d〕</sup>  
船ノ<sup>〔ママ〕</sup> e 蒸氣機関ヲ造ル事、(f) 直線ヲ以画ク事、(g) 模形ヲ見テ規矩無シニ画ク事、(h) 英語、(i) 實地上ノ造築學ヲ知得シ、學熟達セシに各生徒造船所ヘ行キ、毎歲百日ツ、働カシム、但シ右ニ付日々ノ賃金ヲ受取レリ

## 第九章

右ニ挙ク所<sup>〔ノ〕</sup>学校ヲ卒業セシ者格段ナル自由權ヲ得ル能ズ、然シ礦山学校ノ卒業者ハ制鉄所ノ録事トナリ、且其給金取リトナルベキ權ヲ受ケリ、製造所等ノ取締トナルベキ者ハ、其學識ヨリモ第一ニ行狀ノ正<sup>〔ク〕</sup>シテ年齢モ稍高ク、且己ノ所有品ヲ管理セザル者ヲ望メリ

製造物ノ中用法ノ宜ヲ得サルニヨリ、化学上ニ係リテ火ヲ発シ、又ハ人命ヲ害〔ス〕ル物ヲ制スル所ニ於テハ、其ノ制法ト取締方ニ熟練セル者ニ非ンハ執事ノ任ニ当ルを得

## 第十章

右学校ニ於而教官ヲ撰択ス全權、学校ノダイレクトルニアリ、然シ其左ノケ条ハ全ク例外ナリ

「エルキルスチュナ」ノサンデー及ヒイブニング・スコールニ於ケル其監督兼學頭ハ、交商社中商議ノ上之ヲ択ベリ  
エレメンタリー・テクニケル・スコールノ監督、テクノロジケル・インステチューションノ教官、「チャームル」ノインダストリエル・スコール造船学校ト、ファーロム府ニ於ケル礦山学校ノ監督ハ、国王ヨリ之ヲ撰挙ス  
ストックホルム府ニ於而テクノロジケル・インステチューション及ヒインダストリエル・スコールノ監督ハ（此監督ハ教授セザルトモ可ナル由）矢張国王ヨリ此ヲ命セリ

フイレプスタット府ノ初歩ナル礦山学校ノ監督乃チ學頭ハ、制鉄局ノ代理官ヨリ之ヲ撰ヘリ

右学校ノ教官タル者ハ己ノ教ユル学科ニ熟通シ、且其子弟ヲ教スベキ才力ヲ持ザル者ハ其職ニ当ルを得

但シ教官ノ学力ハ其所持ノ免狀ヲ其一証ト為ス、且教ユベキ才能を試ミン為、学校ニ於テ公然ニ教授セシム

教官タルベキ者通例、大学校或ハ高尚シタルテクノロジケル・インステチューションニ於而修業セシ故、多分ハ実

地上ノ試験ヲ経たる者ナリ

## 第十二章\*

国人ノ物ノ細工製造ニ巧ミなるハ、全〔テ〕学校アルニ依るベシ

## 第十三章



右学校へ入校生ノ不絶加増スル事ト、制造会社ニ於テ弥新ニ弥大なる学校を設ル事ハ、此学校ノ裨益更ニ不少ル事ヲ証セリ\*



## 82 大ブリタン寺院ノリポルト

### 英国ニ於ケル寺院ノ略記

英国「<sup>(補)</sup>ニ於ケル寺院」寺院ノ当今ノ形勢形況ヲ見ント欲スレハ、必ラス先ツ耶蘇教ノ依テ起「リ」シ所ト、其国萃トヲ知ラサルアルベカラス、故「ニ」先ツ其宗旨ノ依テ起リ「シ」所ヲ略記シ、然ル後英国寺院ノ形況ヲ記載セン

### 耶蘇教ノ略史

羅馬帝オーガスタス・シーザ在位ノ時、ヨーセフト名クル者ノ兼テ聘セシ少婦マリヤナル者、神靈ニ感シテ一子ヲ懷胞シ、遂ニ其子ヲ猶太国ノベスラハムト称スル小邑ニ「於テ」産シ、之ヲ名ケテ耶蘇ト云

耶蘇幼ナル時ハ家ニアリ克ク父母ニ奉事「セ」シニ、其齡三十歳ニ至リ初メテ父母ノ家ヲ離レ、猶太国中ヲ遍歴シ、三年有余不絶独一真神ノ真理ト、人生救ヲ得ルノ妙道ヲ教諭セシニ、計ラズモ猶太ノ人民甚愚蒙ニシテ、更ニ其教導ヲ聴キ敢ンセズ、遂ニ之ヲ擒テ十字架上ニ釘セリ

耶蘇死後ニ及テ其十一門徒（耶蘇死前ニ十二門徒アリシニ、死後ニ及テ一門徒ヲ欠ケリ）耶蘇最後ノ命ヲ奉シ、其道ヲ以第一ニ猶太国人ニ説キ、然シテ後遂ニ他国ニ伝及セリ

其時ニ当リテ猶太国人深ク其新教ヲ惡ミ、大ニ其教ヲ信スル者ヲ窘逐セシニ、素ト猶太法律ニ貫通シ、且耶蘇門徒ヲ窘逐セシ少年ポールナル者、断然志ヲ改メ深ク耶蘇聖教ヲ奉信シ、饑渴辛苦ヲ顧ミズ遠ク四方ヲ跋涉シ、此道ヲ以未タ嘗テ天地万物ヲ創造セル独一真神ノ名ヲ知り得ザリシ人民ニ伝セリ、然ルニ此道速ニ四方ニ布宣シ、三百年ヲ出サ

ルニ西国第一ノ強国ナル羅馬ノ政府之ヲ奉信シ、遂ニ羅馬国ノ宗旨トナセリ

耶蘇門徒ノ寺会ヲ始メシトキハ、別ニ儀式モ無ク甚簡略ノ者ナリシ、且社中ニ属スル者尽ク深ク此道ヲ信スル者ニシテ、真神ヲ拝シ且共ニ此道ヲ講窮セン為時々一場ニ集会セリ、然ルニ社中日ニ加増スルニ准シ自ラ規則儀式等ヲ設ケ、遂ニ衆教師中一人ヲ推挙シ高宗師ト為シ、之ヲシテ唯一寺会ヲ差配セシメシノミ、又或ル一地方中ノ寺会ヲ監督セシメリ、其後此高宗師ノ権柄大ニ増長シ、遂ニ世界中ノ耶蘇教会ノ最高宗師乃チ法王ノ尊稱ヲ得ルニ至レリ

耶蘇降年九百年（千〇五十四年）時代ニ及ヒ、最高宗師及ヒ羅馬東領ノ高宗師、羅馬其西領ノ高宗師ト宗旨議論ヲ生シ、遂ニ宗旨ヲ兩分シ東西ト為シ、其東ナル者ヲギリキ・カトレキ乃チ東領寺院ト稱シ、其西ナル者ヲローマン・カトレキ乃チ西領寺院ト稱セリ

一千六百年時代ノ初ニ於テ、羅馬ノ法王己ノ權威ニ任セ私慾ヲ逞シ、耶蘇ノ教ヘシ所ノ真理ヲ矯メ、遂ニ異端ヲ設ケ人心ヲ惑シメ、甚キニ至テハ赦罪ノ名ヲ借り、陽ニ人民ヲ偽ワリ、赦罪金ヲ納ムル者ハ死後ノ罪科ヲ免ルベキ事ヲ主張セリ、此時ニ当リテ独乙国ニマーチン・ルーテルナル者起リ、耶蘇ノ教ヘシ所、門徒ノ伝ヘシ所「ノ」真教ヲ本邦ノ語ニ訳シ、法王ノ所置全ク聖經ノ真理ニ戻レルヲ旨張シ、別ニ一宗旨ヲ起シ之ヲ稱シテプロテスタント宗ト云ヘリ（羅馬教ニ反シ真理ヲ旨張スルト云ナリ）

然ルニ羅馬宗ノ法王此新教ヲ惡ミ、之ヲ圧迫スル事ヲ計リ「シ」ニ、此新教益隆興シ、数年ヲ不出シテ遂ニ歐羅巴全洲ニ布宣スルニ至レリ

耶蘇宗中ニ種々宗派アリト雖、其最大区別ハ乃ローマン・カトレキ宗、ギリキ・カトレキ宗、プロテスタント宗等三宗ナリ

ローマン・カトレキ宗ヲ奉スル者人員ハ、多分イタリヤ、スパニヤ、ポルトガル、フランス、南アメリカノ中ニアリテ、其数凡<sup>〔ママ〕</sup>一万七千万人、グリーキ・カトレキ宗ヲ奉スル者ハ多分魯細亞人ニテ其数八千九百万人、プロテスタン<sup>〔ト〕</sup>ヲ奉スル者ハ多分大ブリタン<sup>〔ブリテン〕</sup>、合衆国及ヒ独乙盟邦中ニアリテ其数七千六百万人

#### 英国寺院ノ形況

一大ブリタン及ヒアイランドノ人員ハ二千九百九万三千三百三十二人ニシテ、内六百五十万六千二百六十五人ハローマンカトレキ宗ニ属シ、二千二百五十六万四千六百六十九人ハプロテスタン<sup>〔ト〕</sup>宗ニ属ス

ローマン・カトレキニ属スル人員六百五十万六千二百六十五人ノ内、四百五十万六千二百六十五人ハアイランドニ住シ、余ノ二百万人ハ大ブリタンノ中ニ住セリ、故ニ大ブリタンニ於ケルプロテスタン<sup>〔ト〕</sup>宗ヲ奉スル人員ハ、ローマン・カトレキ宗ノ人民ニ比スレハ凡十倍セリ

大ブリタンノ寺院ハ合衆国ノ寺院ト不同ナルノミナラス、独乙国中ノ寺院トモ亦異ニシテ、大ブリタンノ中ニハ政府所管ノ寺院ト、又自力保存ノ寺院アリ、然ルニ合衆国中ノ寺院ハ一切政府ト關係セス、尽<sup>〔ク〕</sup>自力保存ノ者ニシテ、独乙国中ノ寺院ハ更ニ自立ノ者無ク、尽<sup>〔ク〕</sup>政府ノ管轄保存ヲ受クル者ナリ

英国ニ於ル政府所轄ノ寺院ハ、スコットランドニ於ケル政府所轄ノ寺院ト全ク異ニシテ、英国ノ寺院ヲエビスコペルト称シ、スコットランドノ寺院ヲプリスパテリヤント称ス

右二個寺院ノ外、余ハ尽ク自力保存ノ者ニシテ、其中最モ大ナル者ヲコングリゲーション<sup>〔補〕</sup>ネル、メソヂイスト、及ヒバプチスト<sup>〔ト〕</sup>称ス

二ローマン・カトレキ宗ノ信スル所及ヒ其規則等ハプロテタント宗ト大ニ相違シ、カトレキノ信スル所ハママ<sup>〔補〕</sup>「間」伝

説ニシテ、聖經中ニ記載セザル者アリ、遂ニ異端ヲ教ユルノ弊ヲ生セリ、然ルニプロテスタント宗ノ信スル所ハ尽ク耶蘇門徒ノ記載セシ福音ト其書翰等ニシテ、〔其〕ノ原文ヲ直訳シ、記載スル所ノ教誡ヲ奉信シ、聖經外ノ伝説聞等ハ一切之ヲ挙用セズ全ク度外ニ置キニシテ、人生救ヲ得ルノ妙理ヲ奉信シ、聖經外ノ流伝説ハ一切之ヲ挙用セズローマン・カトレキ宗ヲ綱領スル者ハ羅馬ノ法王無窮独裁ノ權ヲ掌握シ、其決定セル所ハ更ニ誤失無キ事ヲ旨張シ、徒ラニ上帝ノ命ヲタメ愚民ヲシテ「<sup>〔補〕</sup>恐腹セシメ」「<sup>〔補〕</sup>尽確實ニシテ」強ヒテ其命ニ從ワシム

然シ若シ甘ジテ其命ヲ奉セサルトキハ直ニ寺会ヨリ放逐シ、天命反逆ノ者ト称ス、故ニ此教ヲ奉スル者ハ法王ヲ恐ルル事殆上帝ニ齊クシテ、其命ニ反逆スル者ハ甚稀ナルニ至ル、但シ此教当今万国ニ布宣シ、何レノ国トシテ之ヲ奉セザル者ハ無キニヨリ、法王ヨリ最高宗師及ヒ高宗師ヲ四方ニ配置シ、法王ノ命ヲ奉シ万国散居ノ人民ヲ管轄セシム、如斯ク法王万国散居ノ人民ヲ管理スルニヨリ、人民敬テ法王ノ命ヲ奉、遂ニ其国ノ法律ヲ犯シ、国家ノ混乱ヲ醸「<sup>〔補〕</sup>カモス」ノ患ヲ生セリ、且彼ノ最高宗師ノ輩好ンテ其国ノ政府ト合シ、其權ヲカリ人民ヲ管理スルニヨリ、往々国家ノ混乱ヲ生スルノ患アルノミナラス、実ニ耶蘇聖教ノ真意ヲ失ヒシト云ベシ

〔以下一字下げの文章は赤鉛筆で抹消されている〕

至愚按スル〔三〕政教共合ノ国ニ於テハ古来ヨリ宗門争鬭ノ患アリテ、政府ハ政府タルノ本意ヲ失ヒ、寺院ハ寺院ノ急務ヲ忘レ各私慾ヲ挾ミ、遂ニ兵戟ヲ交ヘ、政府寺院ノ職務トシテ其人民ヲ保護教導スベキニ却テ其命ヲ傷害シ、全ク治国安民ノ術ヲ失フニ至レリ、故ニ治国者ハ宜ロシク前史ヲ鑑ミ政府ト宗門ヲ断絶シ、政府ハ唯治国安民ノ法律ヲ施行シ寺院ヲシテ唯改心脩身ノ道ヲ教シメ、且耶蘇、回々、儒釈ヲ不問其国法ヲ奉シ決シテ争乱ヲ生セ「ザ」ル者ハ宜シク許可ス可シ、其教門ヲ國中ニ宣布セシムベシ、然ルニ其教門ヲ伝翻ヘン為国家ノ混乱ヲ生セ

シトキハ直ニ国法ヲ以テ当然ノ所置アルベシ、然ラハ則如何ナル宗門ヲ許シ國中ニ布宣セ〔シ〕ムルト雖、更ニ宗門争鬭ノ患ヲ生セザルベシ、然シ政府若シ誤テ一ノ宗門ヲ許シ他ノ宗門ヲ禁セハ、是不公平ノ所置ニシテ矢張政教共合ノ弊ヲ不免ルベシ、故ニ一宗ヲ許シ他宗ヲ禁スルハ共ニ兩宗ヲ禁スルニ如ズ、共ニ兩宗ヲ禁スルハ却テ兩宗ヲ允スニ如カズ、如何トナレハ古来ヨリ天ヲ恐レス且神ヲ敬セザルノ人民ノ、人モ不恐且政府ノ法律モ不奉ルハ是自然ノ勢ナリ、故ニ民ノ愛スル明主タル者、若シ公平ノ法律ヲ設ケ学校ヲ興シ人民ノ智識ヲ広メ何ノ宗門ヲ不論尽ク國中ニ允准シ、人民ノ智識ト其存意ニ任セ其改心脩身ノ為之ヲ採用セシメバ〔政〕教各其所ヲ得、勸善懲惡ノ法方共立テリト云ベク、主君ハ枕ヲ高テ臥シ人民各志ヲ得、国家ノ日ニ振ヒ月盛ナル事不占シテ之ヲ知ルベシ英國ニ於ケル寺院ノ中、殆トローマン・カトレキニ同シキ者ハ政府所轄ノ寺院ニシテ、最高宗師及高宗師之ヲ管理セリト雖、決シテ法王ノカトレキ寺院ヲ差配スル尽ク政府ノ撰択ヲ受ケシ者ニシテ、一地方ノ高宗師タル者ハ其地方ノ牧師ヲ差配スト雖、矢張政府ノ法律ヲ奉セサルヲ不得

他ノ寺院ニ於テ□ハ牧師中別ニ高宗師ノ類無ク、皆尽同列ノ者トシ、プレスビテリヤン（宗派ノ名）メソディスト等ノ如キハ、毎歲國中ノ牧師大集会ヲ催シ、寺院ノ事務ヲ商議シ、其決議ヲ以テ尽ク寺院一切事務ヲ管理スコングリゲーションネル及ヒバプチストノ如キハ、牧師ノ大集会決議ニヨリ寺院ノ事務ヲ并理セズ、寺院毎各規則、唯一寺院毎ニ各自己ノ規則ヲ設ケ其一社中ヲ管理ス、但シ此寺院ノ規則ハ甚簡易ニシテ、多分聖經中ノ規則ヲ体セル者ナリ

### 三（空白）

四耶蘇宗門ノ教ニル所ハ漢土古聖賢ノ論セシ所ノ人倫ノ道ニ止ラス、人生死後ニ及ンテ其生靈ノ消滅セザルヲ説キ、



世上惡ヲ犯セシ者ハ永生ノ罰ヲ受ケ、死前耶蘇ノ教誡ヲ奉信シ天地万物ノ造主ニ復事シ、且他人ヲ愛スル事己ヲ愛スル如クシ、己ニ克チ身ヲ脩ムレバ死後必ラス耶蘇ノ慈恩ヲ蒙リ、天国ノ幸福ヲ受ケ、永世不朽ノ命ヲ得ル等ニアリテ、皆聖經中ニ記載セル所ニシテ、耶蘇教ヲ奉ズル者ノ確信スル所ナリ

五耶蘇宗門ニ於テハ矢張人倫ノ道ヲ教ヘ、君タル者ハ公平慈愛ヲ以テ其臣ヲ遇シ、臣タル者ハ忠信篤実ヲ以其君ニ事ヘ、父タル者ハ其子ヲ教導シ、子タル者其父ニ服従シ、国法ニ随フ事ヲ以己ノ職分トシ、敵ニ兇殺、姦通、竊盜ヲ懲ラシ、頻ニ己ニ克チ人ヲ愛シ善ヲ行フヲ勤ムルニヨリ、一国ノ政府タル者若シ此宗門ヲ允准、之ヲ國中ニ布宣セ「シ」ムレハ政府ノ裨益甚大ナリト云ベク、如何トナレハ政府ノ人民ニ望ム所ハ他事ニ非ラス、乃チ彼ノ人倫ノ道ヲ守リ惡ヲ去、善ニ趣キ、各其職ヲ勉メ己ノ分ヲ全フシ、国家ノ法制ヲ奉スルニアリ、然ルニ古ヨリ兇殺、姦通、盜竊ノ未タ不絶ハ決シテ刑法ノ嚴ナラザルニアラス、乃チ人間ノ行狀ニ係リ法律ノ未タ及ハサル所アルナリ、但シ法律ハ唯人間ノ陽ニ顯ス所ノ行為ニ係ハリ、行為ノ依テ起ル所ノ心思ニ至テハ之ヲ如何トモスルナシ、茲ニ盜賊一人アリ己ニ盜心ヲ生シ、人ノ財産ヲ奪シテ計シニ、未タ之ヲ盜マサルトキハ政府ニ於之ヲ囚フルノ權ナク、且刑法ヲ以之ヲ罰スルノ理ナシ、然シ盜心一「タ」ビ生セハ飽マテモ止ム事無ク、今日盜マザルハ偏ニ政府ノ嚴刑ヲ恐ルニヨル、然シ明日間隙アラハ必ラス其心思ヲ呈セン、然ルニ何人カ此賊ニ向慫慂ニ勸善懲惡ノ妙教ヲ説キ、此世ニ於テ罪過ヲ犯セシ者ハ、其刑唯ニ身体ニ止ラス又死後ノ靈魂モ不滅ノ刑ヲ蒙ル事ヲ論サハ、人心尽ク鉄石ニ非ラス、恐クハ此賊旧非ヲ改メ善道ニ進ミ、万金ヲ掠ムベキ隙アルトモ己ノ衷懷ニ恥ヂ、遂ニ竊盜ヲ行ヒ得ザルニ至ラン、如斯ク人心ヲ医スルハ国法ノ及バザル所ニシテ、宗教ノ最モ長セル所ナリ

耶蘇教奉信ノ輩偏ニ耶蘇ノ教誡ヲ奉守セハ、国法ノ決テ医シ得難キ所ノ心思ヲ改悔シ、之ヲ其行為ニ顯ワスニヨリ、

更ニ政府ヲ煩ワス無ク偏ニ刑法ノ及バサル所ヲ補ワン、且プロテスタン「ト」寺院ノ如キハローマン・カトレキ寺院ト大ニ相違シ、政事ニ係リ一切政府ヲ挑撥スル事ヲ求メズ、唯敬テ公平ノ法制ヲ奉シ、其國ヲ愛スル事猶其身ヲ愛スル如セン

且寺院ノ規則等ハ甚簡易ニシテ、大ニシテハ其國ノ宗門トシ、小ニシテ其身一人ノ宗門トス、故「ニ」羅馬ノ法王ノ如キ他國ノ僧徒ト結盟セズ、且其信スル所ト其規則等ニ至テモ亦法王ノ決斷ヲ請ワズ、自ラ聖經ヲ探索シ其ノ深意ヲ熟考シ、其國ノ風俗便宜ニヨリ規則ヲ設ケ、偏ニ耶蘇ノ教誡ヲ奉スルヲ以己レノ職務トス、故ニ英國ノプロテスタン「ト」寺院ハ羅馬法王ノ命令ヲ奉セズ、又独乙國プロテスタント寺院ノ差配モ受ケズ、且独乙國ノ寺院ハ唯其國中ノ寺院ニシテ、實ニ英國寺院ノ管理ヲ請ズ、各其國ニアリ耶蘇ノ妙教ヲ信シ、上帝ノ公道ヲ奉スル者ナリ、然シローマン・カトレキ寺院ノ如キハ法王ヲ奉導スル事殆真神ノ如ク、其私意ヲ稱シテ神意ト云、其私命ヲ稱シテ天命ト云、且其命セシ所ハ一ツモ過失無キ事ヲ旨張シ、兎角政事ニ關係シ屢々諸國ノ政府人民ヲ煩セリ、故ニ以前英國ニ於テハ敝ニローマン・カトレキ寺院ノ國中ニ入ルヲ禁セシニ、其後政府ノ有司一宗ヲ允他宗ヲ禁スルハ甚不公平ニシテ、寛宥政府ノ行フベキ所置ニアラザルヲ旨張シ、遂ニ旧教新教ヲ不論尽ク之ヲ允准シ、人民ヲシテ其意ニ任セ、宗門ヲ択ヒ上帝ヲ拝セシメ、又ハ異端ヲ信スルヲ不禁

至愚按スルニ政教一致ノ國ニ於テハ古ヨリ宗門争鬭ノ患アリテ、政府ハ政府タルノ本意ヲ失ひ、寺院ハ寺院ノ急務ヲ忘レ、陽ニ教門ノ名ヲ借り陰ニ私慾ヲ挾ミ、遂ニ兵戟ヲ交ヘ、其職務トシテ数万ノ莖生ヲ保護教導スベキニ、却テ其生命ヲ傷害シ全ク治國安民ノ術ヲ失フニ至レリ、故ニ國ヲ治ムル者ハ宜シク前史ヲ鑑ミ、政府ト宗門ヲ全ク斷絶シ、政府ハ唯治國安民ノ法律ヲ施行シ、寺院ヲシテ唯其改心脩身ノ道ヲ教シメ、且耶蘇、回々、儒釈ノ教ヲ不問



尽ク之ヲ允准シ、國中ニ布宣セシムベシ、然ルニ若シ其教徒宗門ノ本意ヲ失ヒ、人民ヲ鼓舞シ、共ニ兵戟ヲ交ヘ、又ハ政府ニ対シ反逆ヲ計ルトキハ、唯ニ教門ノ賊ナルノミナラズ、乃チ国家ノ賊ナルニヨリ、宜シク国法ヲ以之ヲ罰スベシ、然ラバ則如何ナル宗門ヲ許シ國中ニ布宣セシムル〔ト〕雖、更ニ宗門争鬭ノ患ヲ生セザルベシ

然シ若シ政府誤テ一宗ヲ允シ他宗ヲ禁ゼハ是不公平ノ所置ニシテ、矢張政教一致ノ弊ヲ免レザルベシ、故ニ一宗ヲ允シ他宗ヲ禁スルハ共ニ両宗ヲ禁スルニ如ズ、共ニ両宗ヲ禁ズレハ共ニ両宗ヲ允スニ如ズ、如何トナレハ古ヨリ未タ教門無キノ国アラス、且天ヲ恐レズ神ヲ敬セザル人民ノ、克ク善ヲ行ヒ、徳ヲ施シ、人倫ヲ守リ、国法ヲ奉セシ者アラス、故ニ国ヲ治ムル者ハ日夜勉励シ、寛大公平ニシテ人民ノ心腹スベキ法律ヲ設ケ、学校ヲ興シ人民ノ智識ヲ拡ムルハ勿論、宜シク何ノ宗門ヲ不論尽ク允准シ、之ヲ國中ニ布宣セシメ、人民ノ智識ト其志願ニ任セ、改心脩身ノ為一日モ欠ベカラザルノ教門ヲ採用セシメハ、政教各其所ヲ得、勸善懲惡ノ法方並ヒ行レ、主君ハ枕ヲ高シテ臥シ、人民各其志ヲ得、国家ノ日ニ振ヒ月〔ニ〕盛ニ、直ニ真ノ文明開化ノ域ニ進マン事不日シテ之ヲ期スベシ

然リト雖自由ニ宗門允准ス事ハ又容易ノ事ニアラス、如何トナレハカトレキ宗中ノジェスエトト称スル一種ノ尤物必ラ〔ズ〕日本ニ来其宗門ヲ拡ムル事ヲ計ンアリ、彼素、真ニ耶ソ教教識ヲ奉スル輩ニアラス、唯己ノ宗門ヲ万国〔ニ〕伝播シ、宗門ノ多ヲカリ私慾ヲ呈〔シ〕、偏ニプロテスタント教ノ進歩ヲ妨クル事ヲ計ル者ナリ

近□日本政府新ニ学則ヲ造リシハ□国家ノ大美事ト云ヘク、開化車路ノ一線已ニ成レリト云ヘク、然ル〔ニ〕未タ耶ソ教允准無キハ、開化車ノ進ムヲ望ミ一線ヲ造リ、未タ他線ヲ設ケザルガ如、唯〔況〕ン乎開化車如何シテ進マン、達見ノ有司熟考シ賜ン事ヲ望ム

三大英国ニ於テハ何ノ宗教ヲ不論尽ク之ヲ允准セリト雖、政府ノ管轄セル寺院二個アリテ、一ヲエビスコペルト称シ

テ英利吉インギランド、ウエールスノ内ニアリ、一ヲプレシビテリアント称シテスコツトランドノ内ニアリ

#### ④エビスコペル寺院

一インギランドノ寺院ハ乃プロテ「ス」タントエビスコペルト称シテ、之ヲ差配スル者ハ最高宗師二人、高宗師二十  
六人ナリ、但シ此最高宗師、高宗師等ハ寺院領区ノ牧師ヨリ之ヲ推挙スルノ名アリテ、其実ハ英国宰相ノ命スル所  
ナリ、最高宗師二人及ヒ高宗師二十四人ハ上院ノ列ニ加リ、新選ノ高宗師一人ハ其役義ニ係リ上院ノ法師タリ  
千八百三十六年以来寺院理事官ヲ設ケ、之ヲシテエビスコペル寺院ノ有<sup>(ママ)</sup>有品ノ過半ヲ管理セシメ、但シ此官ヨリ  
払フ所ノ最高宗師及ヒ高宗師等ノ給料大ニ等差アリテ、上等ノ給料ハ一万五千ポンドニシテカンテルベルリーノア  
ーチビショップノ受クル所、下等ノ給料ハ唯二千ポンドニシテ、ソードア及マン地方ノビショップノ受クル所ニシ  
テ、此僧官ハ上院ノ列ニ加ラザル者ナリ

此次ノ僧官ヲディーント称シテ其数凡三十人、且其給料ハ七百ポンドヨリ三千ポンドニ至リテ、平均ノ高ハ凡一千  
ポンドナリ

ビショップスヲ補佐スル僧官ヲ称シテアーチディーコント云フ、但シ其数ハ七十一人ニテ、其役名ヲ以得ル所ノ給  
料ハ甚僅ナリト雖、又別ニ所入アル由、アーチティーコンスノ差配下ニル<sup>郷里</sup>ーラルティーコンスト称スル者十人アリ  
テ、小区ノ牧師ヲ差配スト雖、一切給料ヲ受ザル者ナリ

当時政府ヨリ給料ヲ受取ル法家ノ数凡一万三千人ニシテ、最高宗師ヨリスティペンディアリー・キューレートル  
(此ハ人ニ雇レ給料ヲ取「リ」説法スル者ヲ云フ)ニ至ル迄尽ク之ヲ算スレハ、其数凡十万八千人ナリ

寺院ノ所入ハ以前土地物産ノ十分一ヲ取、牧師ノ給料ニ供セシニ、千八百六十六年以来租税理事官物産十分一ヲ取

ルベキ替リニ、土地借料ノ十分一ヲ取上ル方法定<sup>〔カ〕</sup>メリ、但シ其金高ハ四百五万三千ポンドニ至リ〔シ〕由、然シ寺院ニ於テ尽ク之ヲ得ル能ワス、内九十六万二千ポンドヲ以テ学校、コルレジ、且寺院ニ係ワ〔ラ〕サル人物ノ保存ニ供シ、六十七万九千ポンドヲ以テ領地付キノ僧官ニ供シ、余ノ二百五十万ポンドヲ以テ小区ノ牧師中ニ配分ス

近來英國ニ於寺院ノ戸籍ヲ調べサルニヨリ未〔ダ〕確定ノ数ヲ得ザレトモ、エビスコペル寺院ニ属スル者ハ一千二百五十万人トシ、且寺院ノ数モ數個アリテ、凡五百五十万人ヲ容ルニ大概足ル

アイランドニ於ケルエビスコペル寺院ハ、千八百七十年ニ至迄政府ノ所管ニ属セシニ、千八百七十一年正月一日以來政府ノ管轄ヲ脱セリ、且其寺院ニ属スル者ハ僅ニ六十八万三千二百九十五人

一スコットランドニ於ケルエビスコペル寺院ニ属〔ス〕人民ハ多ク貴族富商ニシテ其人員近來加増スル由

但シエビスコペル寺院ノ最高僧官ハアーチビショップト称シ、其次ビシ〔ヨ〕ップ、其次ヲデイーン、其次アーチデイーコン、其次ラルーラルデイーコン、其次ヲ小区ノ牧師、其次ヲステイペンティアリー・キューレートル

### 回 プレスビテリヤン寺院

一プレスビテリヤン寺院ハスコットランドニ於ケル政府ノ所管ノ寺院ニシテ、之ヲ差配スル者ノ内等差アリ、其小ナル者ヲケルクセクション（一寺院ヲ云フ）、稍大ナル者ヲプレスビテリー（數個ノケルクセクションス相合シテ一ノプレスビテリーヲナス）、又稍大ナル者〔ヲ〕シノド（數個ノプレ〔ス〕ビテリー相合シテ一ノシノドヲ為ス）ト称シ、且以上ノ寺院ノ牧師及各寺會、各大学校及各市邑ヨ〔リ〕遣セル代理人一所ニ集合シテ、寺院ノ大事ヲ商議スルヲ大集會ト称ス

此大集會ヲ監督スル者ヲモデレートルト称シテ會中ヨリ選舉ヲ受ケシ者ナリ、國王ヨリモ年々貴族ノ内一人ヲ択ヒ

王ノ名代人トシテ其大集会ニ出張セシム

國中ノプレスビテリヤン寺院ヲ分チ十六シノヅ、八十四プレスビテリーストシ、且牧師ノ人員凡一千三百人トス  
寺院ノ全數ハ一千二百五十個、小区ノ学校ハ總計一千八百個、生徒ノ人員ハ十四萬人、寺院ノ人員ハ他ノプレスビ  
テリヤン寺院ノ人員ノ共計越ヘテ、凡スコットランド全国ノ人員(三百三十五万八千六百十三人)ノ一半ニ至ル  
國中ノプレスビテリヤン寺院ヨリ毎歲十四万ポンドヲ寄附シテ國中ノ寺院及ヒ外国ヘ遣セル伝教師ノ入費ニ充ツ  
此ノプレスビテリヤン寺院ハ千五百六十年ヨリスコットランドニ於テ基ヲ開キシニ、英王ストウオルト(族称)ス  
コットラン(ド)ヲ千六百三年併セシヨリエピスコペル寺院ヲ設ケ、プレスビテリヤン寺院ヲ圧迫セシニ、千八百  
八十八年以來プレスビテリヤン寺院再ヒ隆興シ、遂ニエピスコペル寺院ヲ圧倒シ、之ヲシテ政府ト断絶セシメ、自  
ラ政府所管ノ寺院タルヲ得テ今日ニ至レリ

千八百三十四年ノ大集会ニ於テ一議ヲ生シ、一地方ノ領主己ノ決断ヲ以地方ノ牧師ヲ扱ヒシニ、若シ其人民之ヲ好  
マザルトキハ、其過半ノ決議ニヨリ其牧師ヲ免職セシムベキ事ヲ計リシニ、其議ハ政府ノ定法ニ反シ遂ニ其許可ヲ  
得サル故、四百人ノ牧師政府与フル所ノ給料ヲ固辞シ、別ニ自由寺院ヲ創開セリ

一自由寺院創開ノトキ、唯法制ヲ二章ニ約シ、其一ハ乃チ寺院事務ニ係リ政府ト關係セザル事、其二ハ人民ノ好マザ  
ル牧師ヲシテ強テ其職ニ当タルヲ許サ、ル事

如斯自由ノ法則ヲ設ケシニヨリ、領主誤テ不相当ノ牧師ヲ選扱ストモ、寺院ノ人民之ヲ好マザルトキハ直ニ之ヲ免  
職セシメリ

寺院創開ノ初年ニ於テ人民ヨリ寄附セシ所ノ金ハ、最早三十六万七千ポンドノ多キニ至リシ由、但シ此金ヲ以テ牧

師、寺院、学校等ヲ保存スベキ積金トナセリ、此創開以來寺院ノ數年々加増シ、千八百五十三年ニ於テ其數已ニ八百五十個ニ至レリ、且其後寺院日々隆興シテ、當今之ヲ差配スル者ハ一大集會、十六シノヅ及ヒ七十一「ス」ビテリヤンスナリ

牧師ノ人員ハ九百四十八人、寺院ノ數ハ九百三十三個

其大集會ノ日限ハ、政府所轄ノプレスビテリヤン寺院ノ大集會ト同時ナリ

政府ノ管轄ヲ脱セシヨリ以來、別ニ政府ノ賜金ヲ仰カザルニヨリ、彼積金ノ内幾何ヲ取り遍ク之ヲ牧師中ニ分配ス、但シ牧師一人ノ得ル所ハ大概一百五十ポンドノ由、且寺院ヨリ設ケシ所ノ牧師ノ住家已ニ七百五十軒ノ多ニ至ル千八百七十年ニ於テ寺院ヨリ寄附セシ所ノ金高、四十一万三千三百九十八ポンドナリシ由、但シ此金ヲ以寺院各種ノ費用ニ供シ、且印度、アフリカ、トルキー散居ノ猶太人、ホンガリー及ホルランド等ヘ遣シオル伝教師ノ費用ニ供ス

千八百六十七年ニ於テ、自由寺院保存ノ學校ニテ受業セル生徒ノ數ハ、八万一千八百九十一人ナリシ由

一右寺院ノ外プレスビテリヤンノ稱ヲ帶タル寺院ハ乃チ、合衆プレスビテリヤン寺院、アイランドニ於ケルプレスビテリヤン寺院、英國ニ於ケルプレスビテリヤン寺院、英國ニ於ケルスコットランドノ寺院等ナリ

#### 四 ローマン・カトレキ寺院

一英國寺院ノ外人員ノ最多キ者ハローマン・カトレキ寺院トス、然シ縱令英國ニ於テハメレーノ死後（千五百五十八年）千七百七十八年ニ至ル迄ローマン・カトレキノ禁ヲ解カサリシガ、千六百二十三年ノ比ヨリ最早羅馬ノ法王ヨリワイカス（代聖）、エボストリク（使徒）ヲ英國ニ遣ハシ、千六百八十八年ニ於テ既ニ英國ヲ分チ四区トシ、一ウ

イカヲシテ各区ヲ管轄セシム

千八百四十年ニ至リ、再英國ヲ分八区ト為シ、千八百五十年ニ至リアーチビショップ一人、ビショップ十二人ヲ配置セリ

一 アイランドニ於テハアーチビショップ四人、ビショップ二十四人アリ、國中ノカトレキ寺院ヲ差配ス

〔一スコットランドニ於テハビショップノ代リニワイカアポストリヲ配置シ、且全國ヲ分チ三区トシ、アーチビショップ一人、ビショップ二人ヲシテ之ヲ差配セシム〕

大英中カトレキヲ奉スル凡二百萬人、僧徒一千七百七十二人、寺院一千六百六十九個、教会五十九、コンウェント（比丘尼私僧杯ヲ入レ居ル所ヲ云）二百三十六個、且アイラント中カトレキ宗ニ属スル者四百十四万一千九百三十三人、内一千四百十九人ハビショップス及通常ノ僧徒ナリ

〔三〕インディペンデント乃チコングリゲーショナリスト

一 インディペンデント寺院ハ、寺院毎ニ自ラ規則ヲ設ケ、自己ヲ管轄スルニヨリ、別ニビショップ或ハプレスビテリ一等ノ如キ数個ノ寺院ヲ差配スル者ヲ不設

此寺院ハ女王イレサベツト在位（千五百五十八年ヨリ千六百〇三年ニ至ル）ノ時初メテ一社ヲ結ビシニ、女王ノ之ヲ待セル事甚苛酷ナルニヨリ、其社ノ人員多ク逃レテ北アメリカヘ趣ケリ、然ルニ千六百四十九年ニ於テ、人民蜂起シ王家ヲ圧倒シ、遂ニ共和政治ヲトナヘシ比ヨリ、此寺院初メテ王家ノ圧迫ヲ免レ、遂ニ自由ニ上帝ヲ奉信スルノ權ヲ得タリ

教会ハ七十六個、寺院ハ三千六百六十五個アリテ、内三千〇六十九ハ英國ニアリ、余ノ五百九十六ハ屬地ノ内ニア



リ、且別ニ伝教寺院三百アリテ、属地ノ土民ノ教化ノ用ニ供ス  
国内ノ牧師及外国ノ伝教師等、総計二千九百八十人

スコットランドニ於ケル此寺院ノ数ハ凡一百〇二個、アイランドニ於テハ二十八個

此寺院ニ付属スル者ハ凡一百二十万人ナリト雖、現ニ寺籍ニ入リタル者凡三十四万人

困<sup>バプテスト</sup>施洗寺院

一バプテスト寺院ハ万事インディペンデント寺院ト同シト雖、唯一ノ相違スル所ハ小児ノ法礼ヲ行ワザルニアリ、但シ此寺院ニ於テハ唯成大ニシテ、且耶蘇ノ聖教ヲ信ゼシ者〔補〕一耶蘇教ニ入ル者ノ法礼ヲ受クルハ、恰モ日本人入門ノ節血判ヲ為スガ如シ」ノ洗礼ヲ受ルヲ許シ、且他ノ寺院ニ於テ行フ所ノ洗礼ノ仕方ト又相違シ、水滴ヲ以洗礼ヲ受ケル者〔ノ〕頭上ニ灌カズ、其身体ヲ以テ全ク水中ニ浸セリ

英国ウエールス、スコットランド、アイランドニ於ケルバプテスト寺院ハ共二千五百六十八個、牧師ノ人員二千  
人、此宗ノ寺院ニ属スル者二十三万三千六百七十五人、学校生徒ノ人員三十万七千五百五十九人

メソヂイスト寺院

メソヂイスト「ト」宗ハ千七百三十年ノ比、英国ノ有名ナル大学校輻輳ノ地オクスホルド大学校ニ於テ、ジョン・ウ  
エスレー、チャールレス・ウエスレーナル者真神ニ腹事セン為一法ヲ設ケ、敝ニ此ヲ守リ〔シ〕ニヨリ、他生之ヲ称  
「テ」聖社ト云、其後メソヂイスト「ト」云ヘリ

其後此兄弟アメリカニ趣、己ノ目的ヲ主張シ遂〔ニ〕一宗ヲ起シ、之ヲ称シテメソヂイストト云ヘリ

千七百九十一年ノ比ヨリ此寺院漸々英国ニ於加増シ、今ハ全ク英国ノ寺院〔政府所管エビスコペル〕ト分レ、此寺



院ニ於テハ毎年一回ノ大集会、プレジデント及セクレタリー（年々撰挙ヲ得ル者ナリ）、大区内ノ牧師毎年々々集會ス（此席頭ハ大集会ニテ扱ヒシ者ナリ）

毎四分一年ニ□区内ノ牧師及寺院ニ係タル人物集會シ寺院ノ事務ヲ商議ス、此大区小区ノ集會ハ大集会ノ管下ナリ此ノ宗ヲ起セシ者ウエスレー氏死去ノ節ハ、此宗ニ入シ者七万六千九百六十八人アリシニ、当今國中此宗ノ余沢ヲ蒙ルヲ總計シテ凡一千二百万人

ユニタリヤン、スサイター・オフ・フレンヅ、モレウイヤン、カトリク及アポストリテ寺院、ニイー「ニュー」シエールサレム（スウィデンボルジャン）、ラタデー・セイんツ（モルモンズ）、猶太、グリーキ・カトレキ、クエカルス

#### メソデイスツ

ウエスレヤン   メソデイスツ

一   メソデイスツ   ニイーコンネクション……………

六日  
七日  
八日

二   プリミティウ   メソデイスツ……………

九日  
十日  
十一日

三   デ   バイブル   クリスチャンス……………

十二日

四   デ   ユナイテット   メソデイスツ   フリー   寺院……………

十三日  
十四日

五ウエスレヤン リフォルム ユニヨン……………

十五日  
十六日  
十七日  
十八日  
十九日  
二十日

凡百十六種アリ

遂ニ宗門争戦ノ患ヲ生スルニ至ラン、然シ政府ニ於テ何レノ宗門ニモ左袒セズ、唯公平ノ法律ヲ之ヲ所置シ、罰スベキヲ罰シ免スベキ〔ヲ〕免サバ何ノ驚力之アラシ、臥〔テ〕願〔ク〕ハ達見ノ有司、日本在留ノ洋人中人克法律ニ通ゼル者及ヒ伝教師輩ト商議シテ、宗門争闘ヲ防ベキ法方ヲ設ケ、然ル後何レ〔ノ〕宗門ヲ不論之ヲ允准セハ、開化車ノ道路全備セリト云ヘシ

〔数行空白〕

如何トナレハ政府一〔タ〕ヒ之ヲ允准セバ、彼ノセエスエト〔カ〕カトレキ宗中一種ノ尤物〔シ〕ナル者必ラス日本ニ来、己ノ心思ヲ呈スルヲ企シ、彼レ素耶ソノ教義ヲ奉スル者ニアラス、陽ニ宗門ノ名ヲカリ陰ニ私慾ヲ呈シ、政府ノ権ヲカリ又ハ人ヲ撃シ、プロテスタン〔ト〕教ノ進歩ヲ妨ケント計ル者ナルニヨリ、彼一〔タ〕ヒ国中ニ入ラバ恐クハ宗門争闘ノ患ヲ生スル、然ラハ如何テ之ヲ防カン、之ヲ防クノ道無他、唯政府ノ中立シ何レノ宗門ニモ左袒セズ〔併記〕  
〔ク〕廃スベシ〕公平ノ法律ヲ以テ之ヲ所置シ、罰スベキ〔ハ〕罰、免スベ〔キ〕ヲ免スニアリ

## 83 公学校生徒の規配

### 教授時前の規

終始ニは

#### 第一

教の日ニ数前十分より十五分の間ニ、学校付属の遊戲場に来り相会する事と、学校の外ハ市街中学校の内ニ階級上〔カ〕〔マ〕或は教授場ニ上るを許せ〔マ〕ざ

#### 第二

生徒の学校ニ入るに必らず身容〔俗〕し、衣服等を清潔ニし、且書物は勿論其一切緊要の物件ノミ持参ニし□金錢（受業料、求糧料の外）小刀、或は無用の玩物を持来るを得ず

拿

#### 第三

集会中高声を発るを禁ず ④鈴声を聞ニ及んで毎級の生徒各一□を結び合可進ム、命「」を聞て各其趣く其間も高声を発し、或は列を混乱するを得ず ⑤各其冠頭巾、上衣、土足□等を別寮口に置き、静ニ教場ニ趣き、自己の席ニ付き、且教授時間教官の許可無くして漫々ニ外出するを得ず

⑥遅刻して朝歌を唱ふる間来校せば、生徒ハ其終ぬ内は教場ニ入るを禁し、其戸外ニ居しむ

且朝教授の最早初りし時入来校せし者ハ、教官の命無して其席ニ附を得ず、且何故其遅刻の抛証を逐一教官ニ告ぐ

る事□

教授時間の規

- 教授間ハ無他生徒全員其教授ニ注意して、雜談他言、手イタツラ、其他の遊びを為す〔を〕得ず、且其身を直とし、若し兩手を用ひざる時は必らず卓上ニ置き、自己ニ属する物件は尽卓□ニ設たる架上ニ置く重用ニ供す
- 朝夕歌を唱ふ時ハ各直立し、勤て巧キ者唱ふ事
- 勿卒の間も必らず其教官ヘ礼義を加□事
- 自己の教官又は他の教官より吟を受け、或は談を仕懸られし時、必らず身を起し弁明等挨拶する事



新島襄全集 1 ■ 教育編 ■ 注解

## 同志社設立

6 開拓会社の名義になってはいたが、山本覚馬の所有。京都御所の北、旧薩摩藩屋敷跡、約五八〇〇坪。新島は、明治八年六月末から山本宅に寄寓。土地の譲渡を受けたのは同年六月。

7 「聖教」は許可されず「講説」と改め（明治八年十月に草した「同志社仮規則」には「修身学」に続いて「講説」を掲げている）、外国人宣教師たちの非難を浴びた。

9 米国ヴァーモント州ラットランドのグレイス教会で開催されたアメリカン・ボード (American Board of Commissioners for Foreign Missions) の第六十五回年次大会（明治七年十月）。そのときの模様を新島自身が記したのは、これが最初。

\*\*\*文部省の認可を得たのは明治八年九月四日である。同志社創立の十一月の一の脱落であろうか。

11 同志社女学校は、明治九年十月二十四日に、現在の京都御所内にあった旧柳原前光邸（J・D・デイヴィス [Jerome Dean Davis] 一家の寄寓先）に女紅場として開設され、十一年九月十六日に京都御所の北、常盤井殿町の新校舎に移った。

13 校内での聖書教授が許可されなかったため、新島は校門近く（現アーモスト館管理人棟の辺）の豆腐屋の廃屋を、明治九年に個人名義で買い取り、聖書および神学の教場（通称「三十番」教室）にしていた。

\*\*\*外務省通達にもとづき、京都府学務掛は毎月ほぼ一回、同志社の外国人宣教師たちの授業を視察した。その報告書は現在、明治十二年五月から十六年六月まで明らかである（『同志社百年史 資料編一』参照）。

15 明治十四年九月に会堂が建築されるまで、新島邸が京都第二公会であった。

16 邦語速成神学科へは、明治十三年四月五日に十九名入校者があった（本書史料42「同志社記事」）と記されている以外に記録はない。ちなみに、邦語神学科が開設されるのは、明治十五年九月（本書史料8参照）。

24 J・D・デイヴィスの他は、D・W・ラーネット (Dwight Whitney Learned)、W・テ일러 (Wallace Taylor)、E・T・ドーン (E. T. Doane)。



26 「別紙」は現存せず、作成されたか否か不詳。

※同右。

33 新島が、文部理事官田中不二麿に随行して、米国、欧州の教育事情等を視察したのは、明治五年三月末より六年九月まで。

※明治七年七月二日、新島はアンドーヴァー神学校を卒業した。

35 京都府参事。明治八年七月二十日より権知事。のち府知事。

※交渉を始めて三日目、の意味か。

36 「」括弧内の文章は、それ以下の文章と重複する。第一次稿の消し忘れであろう。

38 「表」は原本になし、作成されたか否か不詳。

※同右。

63 「米国大学」以下、当史料の終りまで異筆。

72 ファリッブス・アカデミーを経てアーモスト大学へ入学したのは、慶応三年九月。明治三年七月に同校を卒業。

73 明治四年八月二十二日付をもって、日本政府より留学免許状と旅券を得た。

76 明治十六年度の男子生徒は入学五十八名、退学六十九名、卒業八名。年末現在数百八十三名。入学者数より退学者数が多いのは、十二年の入学三十四名に対して退学三十五名以来のことである（同志社明治廿五年度報告）。以後、新島の在世中このような年はない。

81 「徴兵令」の改正は、明治十六年十二月二十八日。新島は翌十七年二月、私学にも特典を得る運動のため東上した。新島がこの史料であげている条項は左の通りである。

第十一条 年齢満十七歳以上満二十七歳以下ニシテ官立府県立学校（小学校ヲ除ク）ノ卒業証書ヲ所持シ、服役中食料被服等ノ費用ヲ自弁スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム。其技芸ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ帰休ヲ命スルコトアル可シ。但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二条 現役中殊ニ技芸ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立学校（小学校ヲ除ク）ノ歩兵操練科卒業証書ヲ所持スル者ハ、其期末タ終ラスト雖モ帰休ヲ命スルコトアル可シ

第十八条 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徴集を猶予ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府県立学校（小学校ヲ除ク）卒業証書ヲ所持スル者ニシテ官立公立学校教員タル者

第三項 官立大学校及ヒ之ニ準スル官立学校本科生徒

第四項 陸海軍生徒、海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ為外国ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト為リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九条 官立府県立学校（小学校ヲ除ク）ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ、六個年以内徴集ヲ

猶予ス

「同志社大学校設立旨趣」（本書史料15）。

異版では「十万円」となっている。

異版があるが、前注の金額以外は同一内容。

新島は医学学校設立について、明治十五年十一月頃から岡山在住の宣教医ベリー（John C. Berry）らと相談を始めてから、この草稿は十五年末か十六年に記したものと推定される。

創立十周年記念式は、新島の帰国を待って、明治十八年十二月十八日に挙行。同時に礼拝堂および書籍館（現有終館）の定礎式も行なわれた。

\*\*\*現在の同志社中学校チャペル。明治十九年六月二十五日に捧堂式が行なわれた。

現在の有終館。明治二十年十一月十五日開館。

新島は病氣療養の目的で、明治十七年四月から翌十八年十二月まで、欧米を旅行した。

明治十七年八月六日、新島はスイスのサン・ゴタールで呼吸困難に陥り、二通の遺書までもしたためた。

110 \*\*明治十七年三月、約三週間にわたって同志社の生徒に起ったリバイバル。「その熱烈さの度合と影響力のひろがりにおいて他に類例をみることの出来ないものであった」(『同志社百年史 通史編一』)。

110 京都看病婦学校および同志社病院の開校・開院は、明治二十年十一月十五日。ただし前年九月よりJ・D・デイヴィス邸で仮診療所を開き、また学校の授業も始めていた。

112 リンダ・リチャーズ (Linda Richards)。京都看病婦学校の初代の教員で、アメリカ最初の有資格看護婦といわれている。

114 S・C・バックリー (Cara C. Buckley)。ミンガン大学出身の婦人医師で、同志社病院開院当初のスタッフの一人。彼女の夫 Edmund Buckley は同志社神学校教員。

121 同志社予備校の開設認可は、明治二十年八月三十日。  
133 本書史料23「明治専門学校設立旨趣」。

134 \*\*明治二十一年四月十二日。本書史料40「同志社大学記事」参照。  
141 J・N・ハリス。寄付金額は一〇万ドルとする旨、明治二十二年十二月八日付のハリス書簡に明記されている。本史料は、『国民之友』第三十四号(明治二十二年十一月十六日発行)の別冊付録を底本とした。

# 記事・録事

162 いわゆる熊本バンド。金森は金森通倫。

\*\*同志社最初の専任教舎で、一階は教場、二階は寄宿舎になっていた。第二寮は改修されて田辺校地に現存する。

\*\*\*各教会の設立月日および場所は左の通りであった。

第一公会 D・W・ラーネッド邸。明治九年十一月二十六日設立。

第二公会 新島邸。同年十二月三日設立。

第三公会 E・T・ドーン邸。同年十二月十日設立。

163 学術演説会の最初は、明治十三年九月二十五日、京都四条浄教寺で開催された。宗教演説は、京都四条北の芝居で行う前年二月九日に、京都円山世阿弥で行なわれており、新島がなぜ十四年六月を「初」としたか詳らかでない。同

志社百年史 通史編―』では、「顯然とあらわれた反キリスト教演説に対するはじめての対抗措置」の意識が強かったからであろうとしている。なお、北の芝居における演説会は、『原田助遺集』では五月十七日となっている。

164 ポストンのJ・M・シアーズの寄付により、明治十四年九月に落成。

\*\*\*ここにいう礼拝堂は、現存する中学校チャペル建築以前のものです。明治十三年十二月竣工、木造平屋建。

\*\*\*この四条目は、明治二十一年十月十一日に公表された「同志社通則」三十六カ条に改められる。現在の「同志社寄付行為」の前身。新島はここで初めて、同志社が「基督教主義」の学校であり、かつ日本人が経営する学校であることを、法三章の形で明確にした。

現在の彰栄館。明治十七年九月十五日竣工。

社員は現在の理事。明治二十一年三月にはさらに小崎弘道、宮川経輝、湯浅治郎、大沢善助の四名を社員に加えた。学年期は、明治八年をもって第一学年期とした。

76 ページの注の人数とは一致しない。調査時の関係によるものか。

設立趣意書等で「同志社大学」と称していたのを、「明治専門学校」と改めたのはこのときである。

本書史料23「明治専門学校設立旨趣」。

244 224 194 191 173 172 168 165 この新聞切抜には紙名の記載がないが、地元の『日之出新聞』であろう。

外国人宣教師たちは、毎年夏休みに比叡山中にテントを張り、家族連れで避暑に出掛けた。その官有地の借用手続き等は、雇主である新島の責任においてなされた。

246 彰栄館の建築工事。設計者はD・C・グリーン (Daniel Crosby Greene)。

\*\*\*247 ページの添付文書。

250 J・D・デイヴィスが神戸在住当時に発行したトラクト『真の道を知るの近道』。和綴の小冊子で、当時多くの読者をもった。

252 本書史料22。

259 五年生の花畑健起外八名が連署、血判を押した退校願書。この書によると、校長新島襄は「試験さへ受けて五年科を学び賜へ、立派なる卒業生」である。ただ、まだ教員会でも協議していないが、もし五年生がなお一年間同志

社で学ぶことに賛成ならば、学校としては然るべき配慮をしたいと、直接自宅に呼び、また書簡を以って五年生に告げた。ところがD・C・グリーンは、五年生は「学力不十分」につき「一年間文学特修ノコトハ教員會議之ヲ可決シ、新島校長及予ノ兩人之ガ委員ニ撰ハレタ」と、四年生に告げた。これに對して花畑らは、何故直接五年生に言わず下級生の前で名誉を傷つけるような言辭を弄したか、校長と教員の意見の齟齬はいかなることか、グリーンには愛情がない、一年延期の明確な理由がない、これ以上このような学校に留まるのは不安である等々を縷述して、退学の理由としている(『同志社百年史 資料編一』参照)。なお、彼らのうち多数は、明治二十一年に普通科を卒業した。

264 この上欄書込みは、月日が原文どおりであるとすれば、誤って六月の項に記載したものと思われる。

※同右。

275 272 267 仙台の東華学校。開校は明治二十年六月十七日。  
本名民治。一月三十日永眠、享年八十一歳。

264 この雑誌は月刊で、「Doshisha 文学会雑誌」「同志社文学」などと改題され、明治二十八年四月、第八十七号を以って終った。編集者・発行者とも異動があったが、創刊当初は編集者松浦政泰、発行者浮田和民であった。同志社教員、学生、卒業生が主として執筆し、現在いう文学作品や評論、翻訳の他、政治、経済、宗教、教育など広範囲の文章を掲載した。実質的には同志社の機関誌であり、新島永眠後は、追悼のための特集号を幾度か出している。なお、この号は、所定の発行手続きを踏んでいなかったため、警察本部により没収された。

280 三月十二日に発行した第一号が警察本部により没収されたため、改めて発行した第一号。

283 ※この挟込み史料は、当「記事」の巻頭近くに置くべきものであるが、挟込まれていた位置のままにした。

283 仙台の東華学校。

※ここに「同志社第拾弐学年卒業式」次第(活版・和英文併記)が繰込まれているが、当「記事」の記述と重複するので省略した。

286 同志社校友会の前身。発会は明治十八年十二月十九日、すなわち二度目の外遊から帰国した新島の歓迎会の翌日であった。以後毎年一回、同志社の卒業式の日程に合わせて開会された。「校友会」と改称されたのは、新島の葬儀



(明治二十三年一月二十七日)の翌日である。それ以後、校友会は社長・総長推挙、財政問題など、母校の重要問題に参画した。

ここに「京都同志社<sup>英学校</sup>神学校規則提綱」(活版刷)の綴込みがあるが省略した。

明治十九年に日本組合基督教教会が成立して以降、京都第二公会を主軸として結成され、明治十九年六月に竣工した新しい礼拝堂(現同志社中学校チャペル)で聖日礼拝を守った。同年十月八日に新島が仮牧師に就任した。同志社教会の規約は『同志社百年史 通史編一』参照。

新島と親交のあった小室信介の養父。信介と沢辺正修(共に天橋義塾の人)の二人を記念して、彼等の旧知友人の募金により「小室沢辺記念文庫」(同志社大学図書館所蔵)約六千点が同志社に寄付されたのは、明治二十四年九月である。ここに記されている小室信夫の寄付は、同文庫の基になったものとみられる。

簿冊の末尾に主要な記事の目次があるが、十四行で中断している。

相国寺門前に建築した第一寮、第二寮および食堂の三棟で、これが同志社最初の建物である。

J・M・シアーズ(J. M. Sears)。ボストン在住の新島の友人で、彼から二度にわたる指定寄付があり、新島の私邸と第二公会の会堂建築費に当てられた。

明治十三年四月に開校した邦語速成神学科。

熊本バンドの結盟(明治九年一月三十日)記念日に、同バンドの同志社在校生が行なっていた催しで、年とともに

学校の行事化し、新島校長も出席したことがある。第一回は明治十年一月三十日であった。

明治十三年十二月に落成した木造の礼拝堂。

\*明治九年に新島が個人名義で購入した聖書教場。

本書史料42と同一簿冊の余白に記されたもので、これ以外に新島の手になる女学校記事・録事の類は見られない。

### 演説・論説

この五行の朱書は、「感算理説」の余白に書かれたものであり、両者に直接の関係はない。新島が、快風丸の北方(函館方面)航海の出帆を知らされたのは、元治元年(一八六四年)三月七日であり、彼は直ちに乗船を決意し

た。ここに記された漢詩は、新島の決意表明とみられる。同年三月十日夜、新島は川勝塾主より送別の晩餐を供せられた。

- 344 本全集第二巻収載のホブキンス「脩身学」と関係のある史料ではないかと思われる。冒頭の八行の各行の下に、9、9、85、9、6、7、9、7、と鉛筆で数字を記しているが、その意味は不明。またその用紙、朱野の和紙四丁綴の丁末の余白に、「天文学 二部」「日本地誌要略 八冊」「伊カ〔伊賀〕守 勝重、重宗、周防守 重昌」と鉛筆の書き込みがある。

- 348 宣教医 J・C・ベリー (John C. Berry)。明治五年に來日した彼は、同十一年に岡山へ移って宣教医として活躍し、後に新島を助けて京都看病婦学校と同志社病院を創設し、病院長となった。

\*新島は明治十三年二月七日に京都を發ち、岡山県下、四国今治・松山方面を伝道し、同年四月初旬に帰校した。英学校二年生の上級組・下級組の合併問題に端を發し、上級組は学校の方針を不満として、全員課業を欠席するという事件が、新島を待っていた。彼が、生徒の校則違反は校長の責任であるとして、自らの掌を杖で打ったいわゆる自責打掌を行なったのは、帰校直後の四月十三日、朝拝の席においてである。

- 349 明治十三年十月十一日、山陽、四国、九州方面の伝道旅行に發った新島は、ほぼ二カ月にわたり、各地で演説や説教を行なった。この草稿および史料48も、その伝道旅行中のものである。

- 365 新島がダーウィニズムに出会ったのは、アーモスト大学時代である。同大学の教授の中には反ダーウィニアンもいたが、アンドルー・ヴァー神学校には、クリスチャン・ダーウィニズムの主唱者 G・F・ライトがいたから、新島はその影響を受けたであろうと推測される (島尾永康「新島襄と自然科学」『同志社談叢』創刊号参照)。

- 386 378 同志社の生徒を対象にした講演か否か、場所ともに不詳。  
本書史料50の下書きであろう、未完の草稿である。全文朱筆で書かれ、末尾の方は朱文字の上に漢詩のようなものが墨書されている。

- 387 明治十五年七月三日に京都を發った新島は、中仙道を経て、関東、東北方面の伝道旅行に向かい、九月十五日に帰洛した。この演説は、安中の養蚕所で行なわれた。

\*この演説の行程などは詳らかでない。



412 明治十九年十月二十四日、紀州大島沖でイギリス貨物船ノルマントン号が沈没した際、イギリス人乗組員のみ救助され、日本人乗客二十三名が溺死した。この事件につき、神戸のイギリス領事の海事審判では、船長ドレイクを無罪としたことから、不平等条約にたいする国民の憤懣が高まり、横浜のイギリス領事裁判所は日本の告訴を取り上げ、同年十二月八日、船長を三カ月の禁錮に処した。

422 梅花女学校が土佐堀新築校舎の落成式を行なったのは、明治二十一年十一月六日。また同校の創立十周年記念式は、同年二月十五日に行なわれた。新島はそのどちらかに出席してこの講演を行なったものと推定される。

423 京都府田辺に在った私塾。京都の儒者山口正養を迎えて、明治十年に有志が開いた蓋簪家塾がその前身。同十四年十月に、設備・学科目・教員ともに充実をはかって南山義塾と改称した。小学校卒業者が入学する二年課程、全寮制の塾で、物理・博物・経済・生理など、新しい学問も教授した。この塾は、明治十八年二月に京都府に移管され、府立三山木第三中学校となった。

427 このメモは、朱筆の部分を除きすべて鉛筆書き。

439 表題「道心ノ発達」は、本文の一部とみられるが、この字句のみがやや大きく、それ以外は、その下に補筆のようにならされている。

443 なお本稿は、「寺町通今出川南入 諸紙 西村安兵衛」と朱印のある熨斗紙の表裏に墨書されている。

444 当史料は、全文鉛筆で横書きにされている。ページの記載があり、何かの書物からの抜書きのようであるが、そのテキストは未詳。なお四桁の数字は日本紀元の年数である。

454 本稿はボストン発行の英字新聞に墨書されている。冒頭二行の英文は、新聞の一部を切抜いて下段に添付してある文字である。

456 裏面に鉛筆による英文のメモがあるが、ほとんど判読不能である。

458 この史料には、草稿が三種類現存するが、それらの草稿の中には、「中村敬宇先生ノ序モ既ニ成リ」といった字句もみられるが、中村の「序文」は刊行された訳書にない。なお、草稿末尾の日付は、「明治十三年九月」となっている。

460 徳富のこの著書の初版発行は、明治十九年であるが、初版、再版とも新島の序文は掲げられていない。なお、

462 本史料には二種類の草稿が残されている。  
当史料は新島の草稿である。文中にいう「小冊子」が、刊行されたか否かは未詳。

「理事功程」草稿

ヘッセン州ダルムシュタット。

この地名に限らず、新島はドイツ語と英語の読みを混用しているが、原則として原文のままにした。  
ユダヤ教のラビ。

531 489 468 467

The Rev. Mark Pattison, B. D. : "Report on the State of Elementary Education in Germany," in Education Commission, Reports of the Assistant Commissioners Appointed to Inquire into the State of Popular Education in Continental Europe and on Educational Charities in England and Wales, 1861. Vol. IV. London, 1861.

559 557

次行と重複するのは、これが次行の第一次訳で、その抹消忘れであろうと思われる。  
この史料の原本とみられる五七〇ページの注に掲げた Report of the Commissioner of Education for the year 1871. の中の Education in Foreign Countries により、年代の訂正を加えた。

\*\*同右。

570 569

後二行の第一次訳の抹消忘れと思われる。

Report of the Commissioner of Education for the year 1871, Government Printing Office, Washington, 1872.

591 590

原本には「第十一章」の記載がない。

この原本には、表裏とも表紙に計算メモがあり、また二〜四ページには英文メモがあるが、いずれも本文には無関係であるため省略した。



## 解題



この巻に収載した史料は、大要次のようなものである。

一、新島襄が、明治八（一八七五）年十一月二十九日に同志社英学校を創設するに際して、京都府庁に提出した「開業願」（控）にはじまり、明治二十三年一月二十三日に永眠するまでの間に記した同志社の教育、学校拡張・新設等に関する史料。

二、同志社に関する日誌・記録類。

三、演説草稿（説教および宗教関係のものは第二巻『宗教編』に収載）ならびに著作物等に寄せた序文などの類。

四、「理事功程」草稿。

これによって、新島の教育および学術的分野に関する史料は、ほぼ網羅しえたはずである。

ところで、これらの史料の原本は、ごく僅かの史料を除いて、従来同志社に保存されてきた。史料によっては、すでに『同志社百年史 資料編Ⅰ』（同志社、一九七九年十一月）や、『史料彙報』第一～七集（同志社社史史料編集所、一九六八年～一九七四年）、雑誌『新島研究』（新島研究会、一九五四年十一月創刊）等によって公表したものがあるが、収載に際しては、改めて原史料から稿本を作成するという作業を経た。なお、新島永眠後に雑誌・新聞などに掲載されたものも若干あるが、それらもまた、原本があるものはすべて、原本から改めて稿本を起こした。

新島はこれらの史料の大部分を、活版に付して公表しようという意図をもって書いたものではなかった。いわば新島自身のためのものであり、その多くは、抹消や補筆・訂正がいちじるしい草稿であって、完成稿といえる状態のもの極めて少ない。従って文意がかならずしも明瞭でない箇所や、措辞のとのわぬ箇所もままあるが、収載に当っては、読解の便を考慮しつつも、なるべく原文に忠実であるよう努めた。

改めていうまでもなく、新島は慶応元（一八六五）年、二十三歳でアメリカに航し、明治七（一八七四）年三十二歳

までのほぼ十年間、ニュー・イングランドのフィリップス・アカデミー (Phillips Academy)、アーモスト・カレッジ (Amherst College)、アンドーヴァー神学校 (Andover Theological Seminary) という、ニュー・イングランド最良の学校に学んだ人で、それらの学校およびその地域の、教育的、宗教的、人的、その他の文化的環境によって、新島の知識や宗教、教育観などは培われたのであった。

こうしたことに加えて、アンドーヴァー神学校時代には、岩倉具視特命全權大使の一行に理事官として加わっていた文部大丞田中不二麿に請われ、明治五(一八七二)年春からはほぼ一年半にわたって、米欧の教育制度とその現況を、田中とともに視察し、田中理事官の報告書「理事功程」の草案までも書いた。そのこともまた、彼が畢生の事業とする同志社を創設し、これを経営維持するに至る後半生に、かわりをもつところが大きであつたろう。

この巻に収載した史料は、史料44「感算理説」と、76以降の「理事功程」草稿以外は、すべて明治八年以降になるもののみである。

史料はほぼ主題によって大別し、各主題の中は史料の成立年月日順に排列した。年月を確定できないものは、確定しうるものの後へ置いた。なお、この解題文の文頭の「」内の数字は、史料番号を示すものである。

## 同志社設立

〔12〕開業願(いずれも控)は、アメリカン・ボーズ (American Board of Commissioners for Foreign Missions) 派遣の在日宣教師 J・D・デイヴィス (Jerome Dean Davis) を教員として雇入れることの許可願でもあった。いま一人の教員は新島襄自身である。

新島の住所が、京都府上京三十一区四百一番地(現在の河原町通り御池下ル東側あたり) 山本覚馬同居となつてい



のは、明治八年六月から九月まで、彼が山本宅に寄寓していたからである。

なお、この願書には、新島・山本両名を「結社人」としているが、「同志社」という校名は見られない。従来から、「同志社の名は氏（山本覚馬）によるもの」（青山霞村原著『改訂増補・山本覚馬伝』の「補遺編」、京都ライトハウス、昭和五十一年九月刊）だという説が有力であるが、現在のところ、これを裏付ける史料は未確認である。

史料1の三項目の規則は、明治八年十一月すなわち開業の際には、全十四項目からなる「同志社仮規則」（写）（『同志社百年史 資料編1』参照）に改められている。その一項として掲げられている授業科目表は左のとおりで、認可の際に問題になった「聖經」は「講説」と改められている。

# 一、当今教授スル所ノ学科ハ左ニ記ス

英学	綴字	文法	作文	正音
支那学	史類 <small>本朝史 支那史 但シ生徒ノ求メニ任ス</small>	算術		
点算	度量学	三角法	地理	天文
窮理	人身窮理	化学	地質学	万国歴史
文明史	万国公法	文理學	経済学	性理学
修身学	講説			

これは私学校開業の認可に際して、文部省および京都府から「聖經」すなわち「聖書」の授業を禁じられて、「講説」という曖昧な表現に改めざるをえなかった経緯を物語るものである。ただし、当初の形態を示すその「同

志社仮規則」の原本は、同志社が収蔵するものではなく、海老沢有道「新出創立当時の『同志社仮規則』（『あびすとら』十二号・一九六二年八月）によって紹介されたものである。

明治九年一月十七日付新島宛の田中不二麿（当時文部大輔）書簡に、「本月（二月）七日付之華翰拝誦、過般同志社御開業ニて右仮規則御投示相成正ニ領収、委縷御來論之趣涼悉候（下略）」とあるから、「仮規則」については田中文部大輔の意見も質したことは明らかである。

「聖經」の授業禁止は、同志社設立の本質にかかわる重大問題であったことは断わるまでもない。

[3] 当時の同志社に対する世論を推察せしめるこの史料は、新島がはじめて、アメリカン・ボードのラットランドにおける第六十五回年次大会（明治七年十月九日）で、学校設立のアピールを行ない、会衆から寄付をえたことを記したものであり、また、これによって彼は、同志社は日本人の経営する学校であることを、はじめて言明した。

右のアピールについては、史料11、16などに、よりととのったかたちで記述される。ちなみに、オーテス・ケーリ同志社大学教授の調査によって、一八七四（明治七）年十月十五日付の *Rutland Weekly Herald* に、大会に同席した記者によって、それが記録・掲載されていることが判明した。その記事の一部は次のようである。

The church in Kobe has no educational institution, but she must have something of the kind. It is repulsive to the Japanese mind to beg, but I fear we must beg for that, for Christ says, ask and ye shall receive. Therefore I ask you to give help enough to start this training institution, to raise up teachers and preachers to help some 33,000,000 people.

（『同志社百年史 資料編Ⅱ』参照）

〔4〕同志社女学校は、同志社英学校にやや遅れ、明治九年半ばころ、柳原前光邸（上京第十一区清和院門内中筋通六三番地―現在の京都御所内）を借家としていたJ・D・デイヴィス宅で授業がはじめられた。デイヴィス宅に同居していたアメリカン・ボードの派遣宣教師スタークウェザー（Alice J. Starkweather）によるものである。

翌十年四月に同志社分校女紅場として京都府の認可を得、同年九月に同志社女学校と改称した。

新島の手になる女学校の史料は、あまり残っていない。同校の外国人数員雇入れ手続きなどのほかは、直接には経営や教育に関与しなかったためであると思われる。

史料9、36、43は、数少ない関連史料である。

〔5〕同志社の外国人数員の動静、特にその授業内容については、外務省の指令によって、京都府学務課の職員が毎月同志社を視察し、報告書「同志社視察之記」を外務省へ提出していた。現在明らかにされている報告書は、明治十二年五月より同十四年六月（第二十二回）までと、回数が付されていない明治十四年十一月および同十六年六月分である（『同志社百年史 資料編1』参照）。

デイヴィスの授業内容が問題になったのは、その視察員の目にとまったからであらう。

ちなみに、聖書の授業を禁じられたため、新島は同志社正門東側、相国寺門前にあった豆腐屋の古い家屋を、個人名義で買入れて聖書教場とした。この建物の当時の写真が同志社に保存されているが、その裏面に、新島は次のように記している。

明治廿二年五月十日識ス

新島 襄

〔補〕

「明治九年、四十円ヲ以テ之ヲ求ム

「同廿二年、三十円ヲ以テ之を売却ス」

此之写真ハ即チ、旧時同志社三十番ト称セシモノニシテ、創立ノ三四年間ハ、校内ニ於テ公然聖書ヲ教授スルヲ禁セラレタルヲ以テ、不得止此家ヲ用ヒ、校外ノ聖書教場ト為シ、茲ニ於テ聖書ヲ教ヘ、神学ノ講義ヲ為シタルナリ、其後病室ト為シタルモ、本年ニ至リ之ヲ売却スル事ニ決セリ

〔6〕新島宅は当時、京都第二公会（明治九年十二月三日設立）でもあった。新島宅は明治八年十月より上京第二十二区新島丸町四十番地岩橋元勇方（現在の府立鴨沂高等学校の東南あたり）であり、明治十一年九月七日にJ・M・シアーズの寄付による住宅が、上京第二十二区松蔭町百四十番地（現在の上京区寺町通り丸太町上ル松蔭町）に完成したので、そこへ移った。ちなみに、第一公会は同年十一月二十六日にラーネッド（Dwight Whiney Learned）宅、第三公会は同じ年の十二月十日、ドーン（Edward T. Doane）宅に、それぞれ設立された。当初はいずれも同志社英学校の生徒が中心であった。この史料にある集会は、おそらく第二公会のバイブル・クラスであろう。

〔7〕この邦語速成神学科は、明治十五年九月開設の別科神学科の前身とみられる。この科に關しては、史料42「同志社記事」明治十三年四月五日の項に、「本日より同志社第三期開業いたし、速成課之生徒十九名入校致候」とある以外、開設以後の記録は現存しない。

〔10〕〔14〕大学設立を企図した初期の草稿である。おそらく史料10「同志社大学設立之主意之骨案」を起草する前段階で、史料12、13、14は書かれたものと推定される。「米国刊行ノ千八百八十一年〔明治十四年〕ノ教育報告」（史料10）までも参照していることなどから察して、執筆にはよほど準備もし、力を傾注したものと思われる。

これらの草稿を起草するに至る事情は、史料40「同志社大学記事」の冒頭に略記されている。

なお、史料10の中で「表ハ別紙ニ於テ見ルベシ」および「別紙ニアリ」と書かれているその「別紙」は、いずれも現存しない。おそらく作成されなかったのであろう。

史料11は、新島がはじめて同志社英学校の前史をまとめたものであるが、終りの数行はメモを記すにとどめており、未完成稿である。この草稿はやがて史料16「同志社設立の始末」として完成する。

[15] 新島が最初に活版に付して有志に配布した小冊子（縦20cm・横15cm）で、同じ体裁で印刷年月も変わらない異版がある。

これは史料10に手を加えたものとみられるが、10では「宗教並ニ哲学」「医学」「法学」の三部を設けたいとしていたのに対して、「先ヅ法学ノ一科ヲ設置シ、政事経済ヲ以テ之ニ連帶」せしめたいと、当面の目標をしぼっている。募金の見込みとの関係によるものと思われる。

[16] これは史料11の完成稿とみられるもので、明治二十一年十一月に印刷（縦16cm・横11cm、表紙を彰栄館の絵で飾る）され、史料30「同志社大学設立の旨意」と共に全国に頒布された。史料22「同志社英学校設立始末」（新島公義稿・活版）は、この16に拠ったものとみられる。

[17] 21 明治十六年十二月二十八日公布の改正「徴兵令」は、私立学校の存廃にかかわる重大な改正を内容とするものであった（六一三ページ参照）。大学設立運動に着手したばかりであった新島にとって、まさに晴天の霹靂であったろう。彼は翌十七年二月に東上し、私立学校関係者のほか政府要人を訪ね、私立学校にも徴兵猶予の特典を与えられるよう奔走した。史料18以降は、東京の旅館で急拠したためたもののようで、判読困難な草稿が多い。

[23] 「創立規則」を除けば、史料15と大きな相違はない。ただ、15では「法学ノ一科」を設けたいとしていたのに対



して、「先ヅ文学専門部ヲ設立」したいと改められている。これは同専門学校設立發起人会の意思による（史料40「同志社大学記事」参照）。校名の変更も同様である。

この史料は活版に付され頒布されたが（縦19 cm・横13・5 cm）、内容・体裁とも同じ異版がある。

〔24〕医学校設立の意向は、史料10で表明したのみであったが、明治十五年十一月頃から、岡山在住のアメリカン・ボード派遣宣教医 J・C・ベリー（John C. Berry）や、洞酌医学校の医師大村達斉らと、新島は設立について相談している。しかし、大村の協力はいいに得られず、また、医学校の設立に関してはアメリカン・ボードの援助もえられなかったため、新島は断念せざるをえなかった。

〔25〕これを筆録した広津友信は、当時同志社英学校普通科五年生。広津による筆録には、新島の演説の他に、定礎式および創立十周年記念会、新島帰国歓迎会の模様、池袋清風（当時女学校教員）の定礎式の和歌、J・D・デイヴィス、伊勢時雄、山本覚馬らの演説の大意が記されている。ちなみに、「同志社ノ履歴」と題するデイヴィスの演説の一部は次のようである。

我同志社英学校ハ、官立ニモ非ス、府立ニモ非ス、又タ亜米利加伝道会社ノ学校ニモ非ス、生命ヲ棄テ、我校ヲ愛スル校長アリト雖ドモ、即チ此校長ナケレバ此学校ハ治マラザルト雖ドモ、同志社ハ校長ノ学校ニモ非ザル也、然ラバ誰レニ依リテ立チ、誰ノ学校ナル乎、言ハズシテ諸君ハ、同志社ハ神ニ依リテ立チ、神ニ依リテ栄ヘ、真ニ神ノ学校ナル事ヲ知ラル、ナラン、（下略）

〔26 27〕医学校の設立を断念した新島は、J・C・ベリーの協力をえて、明治二十年十一月に、京都看病婦学校と同

志社病院を開校・開院した。この史料は、学校と病院の設立運動中の演説草稿である。

ただし、開校・開院に先だち、明治十九年九月からJ・D・デイヴィス邸の二階において、アメリカ最初の有資格看護婦リンドン・リチャーズ(Linda Richards)が、数名の生徒の訓練をはじめており、ベリーも「生理学」を講じていた。この二人が、初期の学校と病院の中心になった。

〔28〕予備校は元来、同志社英学校の上級生徒が、学力不足のために英学校に入学できなかった志願者を対象に、進学指導を行っていたものである。明治二十年八月に設立認可を得て以後は、同志社がこれを経営することになった。

〔29〕知恩院における集会の模様は、史料40「同志社大学記事」に詳しい。この29には草稿も残っているが、『同志社百年史 資料編』参照、両者の間に根本的な問題についての違いはない。ただ、『国民之友』第二十二号に掲載されたこちらの方が、措辞が懇切であり、そのためやや長文になっている。特に結末の部分は、草稿では「諸君ヨ、本日ノ同志社ハ米国人ノ寄附ニカ、ハル、今ヨリ立ツル大学ハ府下ノ紳士カ我カモノトナリ、協テ理事委員トナリ、邦家ノ為、我カ子孫ノ為計リ賜ハン事、襄数滴ノ涙ヲ以テ御計申ス所ナリ」と、極く簡単である。

なお、この原史料には圈点が施されているが、すべて省いた。補筆と傍線は、活版の原史料に新島が加えたもので、すべて朱筆である。

〔30〕明治十五年以来、幾回か稿を改め、また活版に付してもきた大学設立の構想と熱願を集約的に表現したもので、その決定版ともいうべきものである。これを全国の新聞・雑誌に掲げることによって、大学設立募金運動は大詰を迎えた。

この「旨意」の発表に先だって、新島は徳富猪一郎から、全文次のような書簡を受けとっている。この書簡により、「明治専門学校」を再びもとの「同志社大学」と改めたのは、徳富の助言によるものであることが知られる。



また、「旨意」の起草に徳富が関与したことは、この年の徳富宛新島書簡によっても明らかである。

肅啓 先夜ノ Reception ノ結果ハ左ノ通りニ御座候、勿論今回迄ハ其の影響ハ甚た少なれとも、他日ノ踏台とハ必らず可相成と存居申候、兎角今日ノ盛挙ヲ地方的ノモノト誤認致候人多く残念ニ御座候、何卒プロウキンシア  
ルニあらずしてナシヨナルニ致度儀と存上候、而して是れ畢竟、先生御精神も右ニ相違なき儀と存し申居候  
明治専門学校ノ名ヨリモ、一層明快ニ同志社大学と致候方可然と存居申候、同志社ノ名天下ニ高ク、之ヲ以テ大  
学ニ冠スル万人ノ満足スル所と存候、委細ハ金森氏より言上可申上候、先ハ右迄 草々頓首

〔明治二十一年〕三月二十四日

徳富生

襄先生 玉案下

ここに収載した史料は、『国民之友』第三十四号別冊付録として公刊されたもので、新島はこの付録を増刷（明治二十一年十一月十日）し頒布した。翌二十二年六月にこれが再版されているが、内容には全く変更がない。なお、この史料の原稿は残されていないので、新島がどのような原稿あるいは資料を徳富に示したかは確認できない。

〔31〜35〕いずれも大学設立募金運動中の演説草稿である。史料32は京都におけるものと推定されるが、他は内容から察して大阪におけるものである。これらすべてが、実際に演説に用いられたものであるか、演説稿作成のための下書きが含まれているか、もし含まれているとすればどれがそれであるか、などについては詳らかにしがたい。

記事・録事

〔37〕 明治十六年に記された同志社英学校年譜の草稿である。史料41「同志社記事」の起筆が、明治十六年二月十三日であることから察して、この年譜は、史料42とともに、史料41の前段をなす記事として新島がまとめたものと考えられる。

明治十六年は社員三名を新たに加えて五名とし、初めて「社則四条目」を定めるなど、同志社が経営面での改革をはかった年であり、また大学設立のための募金運動に着手した年でもあった。

〔38〕 改正「徴兵令」が同志社に及ぼす重大な影響を心痛した新島が、徴兵猶予の特典をえるための運動の資料として記述したものであろうか。社務のうち教務関係に重点がおかれている点に、この史料の特徴がある。

〔39〕 大学設立募金運動に着手した新島の手控え帳であらう（和綴簿冊、縦10.5cm・横15cm）。帳末の委員名簿の中、朱印が委員就任承諾者のようである。なお、裏表紙の内側に、次のような鉛筆書きがある。

7.50	大主	学書
1.50	大主	学書
76		
75		
1.25		

〔40〕 大学設立募金運動の公的な日誌である（和綴簿冊、縦24cm・横16.5cm）。新島以外の筆がかなり多くを占めているが、これは特定の書記（氏名不詳）によるものであろう。募金運動の状況をもっとも詳細にわたって知ることのできる史料である。

参考までに、明治二十二年年末までの「募金会計報告」を左に掲げておく。新島はこれを、大磯の客舎の病床で

みたはずである。

この種の報告は、明治二十四年度からは『同志社報告』（二十四年度より毎年一回発行）に掲載されることになる。なお、報告書を作成した広瀬源三郎は、大学設立事務のために雇用された書記である。

昨日之決議通り相認候間、何卒御調印被成下度奉願上候 拝具

二月三日

金森通倫

山本覚馬様

〔封筒表〕

相州大磯駅 百足屋方ニテ

新島襄様

御親展ヲ乞

〔封筒裏〕

廿三年一月十日

京都寺町丸太町

新じま方

広瀬源三郎

廿三年十月十日  
(一)

一 翰啓呈仕候、陳ハ去ル十七年三月ヨリ昨年中ニ係ル會計實際報告書ヲ製、賢覧ニ供候条御披閱之上ハ金森氏へも御送示被降度奉希望候、余事ハ後便ニ残シ右得貴意度如斯御座候 草々拝具

京都

広瀬源三郎

印

大磯ニテ

新島襄先生

明治廿二年十二月卅一日

義捐金之事

一金五万九千八百七拾七円六拾八錢九厘

内

金參万九千七百七拾八円七拾錢貳厘

現金收入高

金五拾七円也

予約者死亡或ハ違約等ノ分

金貳百六拾四円也

広告違及帳簿ノ重復

金貳万〇三百七拾七円九拾八錢七厘

未納金高

利殖金之事

一金壹千〇五拾九円四拾壹錢貳厘

内

金五百九拾九円七拾八錢七厘

東京及ヒ京阪ノ各銀行当座預金ノ利息

金七拾円也

定期預金ノ利息

金貳百五拾円也

整理公債廿二年下半年ノ利子金

金九拾円也

新公債廿二年下半年ノ利子金

金四拾九円六拾貳錢五厘

旧公債買入元金ニ対ス年五分ノ利子

明治廿二年十二月卅一日

預リ金之事

一金參百拾五円九拾五錢也

内

金三百拾五円九拾五錢也

衆合シテ義捐金ヲ予約セシモノヲ数ケ度ニ払込皆納ノ上、各自ヘ領収証可相渡約束ノ金員、又ハ他人ヨリ一時預リノ金員等

補整積立金ノ事

一金九拾円三拾七錢五厘

内

金九拾円三拾七錢五厘

旧公債満期ニ至ルトキ買入、元金償却ノ為メ或ハ額面以上ノ代価等ニ  
準備シ置ク

補整準備積立之弁

第一項 旧公債証書買入元金ニ対シ年五歩ノ利子ヲ引去リ、是ヲ「利殖」トシ、其残額ヲ補整積立トシ、年賦金満期ニ至ラハ此準備ヲ以テ買入元金ヲ償却スルモノトス

第二項 整理公債買入代価ハ額面ノ上ニ在リ、満期或ハ当載ノトキ買入代金ニ不足ヲ生ス、之ヲ償却スル為メ積立テ置クモノナリ

事務所書記

明治廿二年十二月卅一日

資産之事

一金参万六千五百〇六円三拾四錢五厘

内

金四千八百七拾八円貳拾六錢七厘

新公債証書額面五千五百円也

第二回

計 算 月 表

貸 方

摘 用	金 額		総 計	
<u>資 産</u>				
新公債証書額面 五千五百円	4878	267		
整理公債額面 壹万円	10100	000		
旧公債証書額面 七千円	1981	000		
東京第一国立銀行、定期預ケ金	11400	000		
逆広告或ハ未タ現金受取ラサル寄附ノ物品代	214	510		
地所買入之金	3000	000		
郵便局貯金預ケ金	5	000		
銀行当座預ケ金本日ノ差引残高	4643	018		
本日ノ差引残金手元有高	284	550	36506	345
<u>創 業 費</u>				
明治十七年ヨリ廿二年十二月中ノ諸経費	3298	034	3298	034
<u>未 決 算 旅 費</u>				
永岡喜八外二名江旅行中仮渡シ金	840	060	840	060
<u>予 約 金</u>				
既ニ申込アル未タ領収セサル義捐金即チ滞リ義捐金	20377	987		
予約金ノ内ヨリ取消ス可キ分 (予約金勘定ノ弁) 一度申込アルトキハ義捐セラレシ分ト見做シ義捐金勘定ニ合算ス、而テ更ニ義捐者ノ未納ヲ貸勘定ヲ立ツ、故ニ此分ハ全ク義捐金勘定ノ二三四桁ヲ転記シテ比較ス	321	000	20698	987
	61343	426	61343	426

明治二十二年十二月



## 計 算 月 表

借 方

摘	要	金	額	総	計
<u>義 捐 金</u>					
明治十七年三月ヨリ 現金収入高 廿二年十二月中		39178	702		
予約者死亡或ハ背約者金額		57	000		
広告違及び帳簿ノ重複		264	000		
予約者未納金高		20377	987	59877	689
<u>利 殖 金</u>					
東京第一銀行及京阪銀行当座預ノ 利息		599	787		
定期預ケ金之利息		70	000		
整理公債廿二年下半季ノ利子		250	000		
新 公 債   〃   〃   〃		90	000		
旧公債買入元金ニ対スル年五歩ノ 利息		49	625	1059	412
<u>預 り 金</u>					
衆合ノ義捐金予約払込ノ内入又ハ 一時預リ金等也		315	950	315	950
<u>補 整 積 立</u>					
旧公債年賦満期、或ハ整理公債ノ 当敷、又ハ満期ノトキ、買入代金 ニ不足ヲ生セサル為メ準備シ置キ 償却スルモノ也		90	375	90	375
		61343	426	61343	426

金壹万〇百円也

金壹千九百八拾壹円也

金壹万千四百円也

金參千円也

金五円也

金四千六百四拾三円壹錢八厘

金貳百拾四円五拾壹錢

金貳百八拾四円五拾五錢

ノ

### 創業入費之事

一金參千貳百九拾八円三錢四厘

内

金八百貳拾七円七拾錢貳厘

金三拾貳円貳拾五錢八厘

金百七拾円四拾錢五厘

金五百四拾八円七拾五錢六厘

金七百六拾五円七拾六錢三厘

整理公債証書額面壹万円也

旧公債証書額面七千円也

東京第一国立銀行定期預ケ金

地所買入之金

郵便局貯金預ケ金

銀行当座預差引殘金

逆広告或ハ未タ現金受取ラザル寄付ノ物品代価

本日差引殘現金高

印刷物

什器

雇夫

交際費

旅費

金貳百三拾六円九拾九錢也

文通費

金貳百六拾円拾六錢壹厘

広告料

金三百拾貳円七拾五錢

俸給

金四拾円六拾六錢

家税

金貳拾八円六拾壹錢四厘

新聞紙

金七拾三元五拾七錢五厘

雜費

明治廿二年十二月卅一日

未決算旅資之事

一金八百四拾円〇六錢也

内

金六百元也

永岡喜八氏へ渡ス、去ル十月十一日ヨリ新島先生旅行費ノ為

金百四拾円〇六錢

田中賢道氏へ渡ス、去ル十一月十八日ヨリ、大阪地方旅行費ノ為

金壹百元也

金森通倫氏江渡ス、去ル十二月廿三日東京江発足ノ際

〔41〕和綴の簿冊で、縦26cm・横18・5cm。但し冒頭より「〔明治十六年〕十二月廿二日 定礎式執行」の記事までは異

筆で、用紙も縦23・5 cm・横30 cm二ツ折の青野紙六枚を紙摺りで綴じて、簿冊の巻頭へ仮綴じされている。

この簿冊の表紙に「社務第十八号」と新島は朱墨で書いているが、なぜこの史料のみに文書番号を付してあるかは詳らかでない。他に、少なくとも第一号より十七号までであったはずであるが、現存史料のうちどれがその該当史料であるかも明らかでない。

それはともかく、新島はこの「社務第十八号」の簿冊を、同志社の社務に関する基本的な公的記録簿として扱っていたようであり、これが起筆された明治十六年二月十三日の項の上欄に、「委員集会録事ハ紅墨ヲ附シ印トス」という朱書があることをみても、社員会等の記録台帳でもあったことがうかがえる。巻頭に後から仮綴じした異筆の録事（作成者名および付け加えた年代は不詳）は、この簿冊を同志社創業以来の社務に関する台帳たらしめるため、不備を補ったものとみられる。

なお、この簿冊に記載されているような事項は、明治二十四年度以降『同志社報告』に掲載されることになる。  
〔42〕記載事項の年次から察して、史料41はこれを継承したものと思われる。縦23 cm・横19 cmの和綴簿冊である。ただこの簿冊は筆致も記述要領も粗略であることから察して、新島の個人的な記録簿であったものと推測される。明治十六年二月に社員を三名加えて五名とし、「社則四条目」を定めるまでは、公的な記録簿を備え付ける必要はなかったのではあるまいか。

この簿冊は、社務記録の後一丁において史料43「同志社女学校録事」が記され、簿冊の後半には「公会記」（第二巻『宗教編』に収載）が記載されており、社務・校務・公会全般にわたる新島の記録簿であったことが知られる。

〔43〕此の種の記録は他に見当らない。これ以外は「同志社記事」に記すにとどめ、特に記録簿を設けることはなかったようである。

演説・論説

〔44〕新島が英学を学ぶために、駿河台の川勝塾に身を寄せたのは、元治元（一八六四）年一月前後であり、同年三月十二日に快風丸で品川沖を出帆しているから、せいぜい三カ月ほどの塾生活であった。この史料は、塾においてテキストを筆写したものであろう。句読点は朱筆である。

「元治元甲子年三月」以下は朱筆で、「感算理説」とは書体も異なる。快風丸に便乗することが決ってから余白に記したものであろう。原本では、漢詩は朱筆の二行書きである。

なお、署名の新島幹は、正確には新島敬幹で、安政四（一八五七）年十一月に元服式を挙げ、諱<sup>いみな</sup>をそのように称したのである。

〔45〕テキストは詳らかでないが、筆写したもののようである。同志社英学校開校当初、新島はこれを講義に用いたのであろうか。

〔46〕71〕史料66「武夫」は写本であるが、テキストも、筆写した目的も詳らかでない。これ以外はすべて演説の草稿である。この他にも演説稿はあるが、特に宗教色の強いものは、第二巻『宗教編』に、説教稿とともに収載した。ただ、史料68「平民主義」は、冒頭に「Pet（ペテロの第一の手紙）、Edm（エドモンソンへの手紙）、Rom（ローマへの手紙）、Gal（ガラテヤ人への手紙）など新約聖書のテキスト名が記してあり、説教稿に形式が似ているが、内容から判断してここに収めた。

新島の場合には、啓蒙的な演説であっても、大なり小なり宗教色あるいは倫理・道徳的な性格を帯びている。例えば史料57「ノルマントン号事件について」のような、時事的な問題について述べた場合でさえそうであり、48「人種改良論」、50「隠君子ノ出願」、53「文明ノ元素」、55「蟻之説」など、分野はかなり多岐にわたり、また彼が自

然科学につよい興味を抱いて勉学したことをうかがわせるものもその中に含まれるが、いずれも右のような宗教的・倫理的な要素をそれぞれもつものである。69「条約改正ヲ促スノ策」は、その最たるものであろう。

こうした特色は、ひとつには新島が宗教家であったことを物語っている。彼がこれらの演説を行なったのは、大部分が伝道におもむいた旅先においてであった。彼が集会に臨んで聴衆に説くところは、説教において説くところと、さほど大きくその目的を異にするものではありえなかったはずである。

そしていまひとつの理由は、彼が十年にわたって学んだフィリップス・アカデミー、アーモスト・カレッジ、アンドンヴァー神学校の学風による感化である。当時それらの学校においては、キリスト教における真実と、自然科学における真実は別箇のものとはされていなかった、あるいは、自然科学も宗教的な価値体系と融和して研究・教授がなされていたのであった（島尾永康「新島襄と自然科学」『同志社談叢』創刊号所収、参照）。

史料70「我輩ハ敢テ政府ニ抗スルモノニアラズ」は、英字新聞の紙片に墨書されたメモである。このメモの下段には、新聞の見出しを切抜いて添付してあるが、メモと切抜との関連は明らかでない。

史料71「我如何ニ此ノ活動社会ニ処スベキヤ」の演説が行なわれた華族会館は、明治十二年十一月に烏丸通今出川角、旧徳大寺邸に設けられた会館であらう。京都地方約六十名の華族のための集会所が設立されたのは、明治七年九月以降で、京都御苑内旧閑院宮邸、皇后宮御所、宝鏡寺等を転々とした後、旧徳大寺邸の地所と建物の払下げを受けたものである。

会館は華族の社交場であるとともに、教養講座が開かれたり、後には授産所も併設されるなどした。新島はその講座に招かれたものと思われる。

この会館は、後にしばしば増改築がなされ、第二次世界大戦後に同志社が買収して大学院教室としていたが、図

書館建設のため解体した。

なお、この史料には、英文の断片的なメモがあるが、判読しがたいので省略した。

[72] 著者のJ・H・シーリー (Julius Hauley Seelye) は、アーモスト・カレッジ時代の新島の恩師である。新島は学問の上のみでなく、シーリーの自邸で宿泊したり、病氣療養のため起臥するなど、日常生活においても恩恵に浴すること大であった。帰国後も長文の手紙を幾通かシーリーに送っている。そのシーリーが来日したのは明治五(一八七二)年八月、インドへの旅行の途次であった。ちなみに、シーリーはそのとき横浜の海岸教会で説教して、次のように新島にも言及している。

又云、私本国ニハ日本ノ二鳥<sup>(ツバ)</sup>、近来学問昇達シ、此人至テ志シ厚ク行ナヒモヨロシク、最早聖書ノ意味通セサル処ナシ、教師ニ並フ人トナリ、唯今ハ私シノ子分ト為シ学校ノ世話ヲ頼ミ、日勤務メテ居リマス、此人日本ニカヘルナラハ各ノ力ヲトナリ、ヨロシキ事ニアリマセフ、(下略)(小沢三郎編「日本プロテスタント史史料(1)」同志社大学人文科学研究所編『キリスト教社会問題研究』第二〇号、所収)

この序文には草稿が残されており、表題は『途也、真理也、生命也』序文』となっている。内容に大きな違いはないが、ただ、草稿の冒頭には「我社友小崎君、近頃米国鴻学士ジュリオス・エイチ・シーレー先生ノ著述ニ係ル、途也、真理也、生命也ト顕セル書中ノ数章ヲ訳シ、中村敬宇先生ノ序モ既ニ成リ、適サニ之ヲ世ニ公ニセントス、予モ亦一言以テ之ニ附セサルヲ得ス」と記されている。しかし、公刊された訳書に中村敬宇の序文は掲げられていない。



〔73〕この序文には三篇の草稿が残されているが、そのうち二篇は途中までしか書かれていないもので、墨筆、朱筆が入り交り、字句も錯綜して、判読は至難である。

これは、伊勢時雄夫人の死、新島の父民治の死など、身近な人のあいつぐ不幸に加えて、募金運動、伝道、健康状態の悪化などによる困難な状況を物語るものであろう。明治二十年二月二日には、徳富宛に「定て御再版之義ハ急キなるべく、されは小生ハ御省キ被下ハ方々得策ならんかと存候」と、再版の序文執筆を断ったのであった。完成稿とみられるものと、活版になったこの史料の間にもかなり異同があるが、特に冒頭の部分にそれがいちじるしいので、完成稿とみられるものの冒頭部分を左に掲げておく。

余カ友徳富猪一郎君、曩ニ将来ノ日本ト称スル一冊子ヲ編著シ、幸ニ余ニ贈ラレ、将ニ之ヲ再版ニ付セントスルニ当リ、余ニ真ノ批評ヲ促カサレシニ、余社務ノ多端ナルヲ以テ之ニ応スル能ハサリシカハ、近頃又一書ヲ寄ラレ、不日之ヲ三版ニ付スルノ挙アルヲ以テ、余ノ一言ヲ求メラル、余不文ト雖君ト旧交ノアルアリ、豈敢テ君ノ好意ヲ空フスベケンヤ、(下略)

新島の序文をえた徳富は、三版の巻頭に、全文次のような「三版緒言」を掲げて、謝意を表している。

読者ヨ読者ヨ此ノ冊子ノ不完全ナルハ余固ヨリ之ヲ知ル、然レトモ卿等ノ厚情ハ遂ニ此ノ冊子ヲシテ三刊ノ挙アラシムルニ到レリ、余ハ之ヲ何トカ曰ハンヤ、而シテ今ヤ心竊カニ喜ヒニ禁ヘサルモノアリ、何ソヤ、首ヲ転スレハ既二十年、余カ西京ノ同志社ニ在ルヤ、屢々新島襄先生ノ教ヲ奉ス、不肖ニシテ未タ先生ノ望ニ副フ能ハスト雖トモ、余豈ニ平生服膺スル所ナカラシヤ、而シテ今ヤ此ノ冊子ヲ先生ノ電覽ニ供シ、併セテ先生ノ一言ヲ巻端ニ掲

クル事ヲ辱フス、古人曰ク「交遊有レ涙能知レ己」ト、然ラハ則チ余ヲシテ無限ノ甘快ナル感情ヲ胸中ニ湧出セシムルモノ豈ニ徒然ナラン哉、嗟呼豈ニ徒然ナラン哉

明治二十年三月二十一日

東京ニ於テ 著者記

〔74〕ジョージ・ミューラーの来日は、明治十九（一八八六）年十二月で、彼の講演は当時の日本のキリスト教界に大きな影響を与えた。そのミューラーが同志社英学校の礼拝堂（現同志社中学校チャペル）で演説したのは、明治二十年一月七日であった（『基督教新聞』第一八二号、明治二十年一月十九日）。

なぜか、新島自身の史料にはそのことに触れた記述がなく、また、この序文を掲げた冊子が発行されたか否かも、目下のところ確認できない。

この史料は草稿であるが、他に未完成稿一篇と、下書きのメモが残されている。また、この史料と同文の新島公義による草稿一篇がある。それは、公義から「北海道庁下札幌北四条東屯丁目屯番地 富士豊成殿方 新島襄殿」宛に郵送されたもので、発信地は「大和国奈良椿井町 大森幸七方 新島公義」となっており、明治二十年六月二十五日付である。新島はこの封筒裏側に「Keep」と書いている。新島が、仙台東華学校の開校式に出席する目的を兼ねて、北海道での静養に夫人同伴で京都を発ったのは、明治二十一年六月十一日であった。そして同年十月一日に帰宅した。新島は、自身の草稿を公義に示し、その仕上げを依頼して発ったのであろう。

〔75〕新島の同労者 J・D・デイヴィスは、同志社を設立する段階から、新島のよき理解者であり協力者であった。教授としての彼は、組織神学を講じる神学者として、日本人牧師・伝道者を育てたのであった。彼の日本語訳にたった主要著書には、この『基督教之基本』の他に、『神学之大原理』（明治二十四年）、『新島襄先生伝』（同年）、『贖

罪論』（同三十二年）、『徳育について』（同三十三年）、『基督教偏理學綱要』（同四十一年）等があり、著書を通じても多大の感化を明治の青年に及ぼした。なお、『基督教之基本』の訳者は、京都の寺沢精一である。

### 「理事功程」草稿

〔76〕83〕岩倉具視を特命全權大使とする使節団が、米欧の制度法律、理財會計、教育制度の調査に派遣されたのは、明治四年であつた。その報告書である「理事功程」には本来、司法省理事功程、大蔵省理事功程、宮内省式部寮理事功程あるいは「……報告理事功程」など、多くのものがあつたことが知られているが、使節団の一行に文部理事官として加わつていた文部大丞田中不二麿が中心となつて作成した「文部省理事功程」が、いわゆる「理事功程」として一般に知られている。

新島襄は田中の通訳を兼ねて米欧の学校制度を中心に、教育事情を視察した。明治五年より六年にかけてである。「使節団派遣事由書」によれば、田中理事官の任務は次のようであつた。

第三課、各国教育ノ諸規則、乃チ国民教育ノ方法、官民ノ学校取建方、費用、集合ノ法、諸学科ノ順序、規則及等級ヲ与フル免狀ノ式等ヲ研究シ、官民学校、貿易学校、諸芸術学校、病院、育幼院ノ体裁現ニ行ハル、景況トヲ親見シ、之ヲ我国ニ採用シテ施設スヘキ方法ヲ目的トスヘシ。

また、新島が田中理事官に随行した理由、およびその身分は、公文書では次のようであつた。

各省理事官先発被致候ニ付テハ、書記官之内操合同行為致候得共、猶通弁差支候ニ付、於当地夫々申立モ有之、無拠相聞候間、留学生徒之内人撰、夫々随行申付候、左之通御座候、此段大蔵省文部省エ御沙汰有之度存候

元安中藩

〔大〕  
新島七五三太〔裏〕

右三等書記官心得ヲ以テ文部理事官随、御用中三等書記官同様旅御手当被下候様

〔下略〕

〔大使公信〕第四号、大久保利謙編『岩倉使節の研究』所収〕

なお、新島は、明治四年五月に、文部省から「留学免許状」をえていた。

「理事功程」草稿は、田中理事官に随行した新島が、田中が政府へ提出する報告書の草稿あるいは資料として、彼の依頼によって記したものである。ここに収載した他にも、新島の同種のものがあったか否かは、確認のすべがない。アメリカに関する草稿などはあって不思議はないように思われるが、同志社の収蔵史料には見当らない。

ヨーロッパで田中や新島が訪問した国は、イギリス、フランス、スイス、ドイツ、ロシア、オランダ、デンマークの七カ国で、期間は明治五年五月から翌六年八月に及んだ。ただし、草稿は明治五年九月ころからベルリンで執筆に着手し、翌六年一月に田中に手渡ししており、同月末に新島は田中らとベルリンで別れた。彼はそれ以後、主としてドイツのウイスバーデンで保養にとめるかたわら、ドイツ語を学んだり、学校を視察して過ごした。

滞在期間が長かったのはドイツ、ついでイギリスである。その他の諸国は数日、長くても一、二週間の視察旅行であった。

田中不二麿一行は、明治六年三月二十四日に帰国し、その報告書『理事功程』は、和装本で、次のような巻立てをもって、文部省より刊行された。

- 卷一 合衆国一（明治六年十二月刊）
- 卷二 合衆国二（同 右）
- 卷三 英国（同 右）
- 卷四 仏国一（明治八年一月刊）
- 卷五 仏国二（同 右）
- 卷六 仏国三（明治八年五月刊）
- 卷七 仏国四・附白耳義国<sup>（ベルギー）</sup>（明治八年一月刊）
- 卷八・九 独乙国一・二（同 右）
- 卷十 独乙国三（明治八年五月刊）
- 卷十一 独乙国四（明治八年一月刊）
- 卷十二 和蘭国（同 右）
- 卷十三 瑞士国一（明治八年九月刊）
- 卷十四 瑞士国二（同 右）
- 卷十五 瑞士国三・<sup>（デンマーク）</sup>嚙国・魯国（同 右）

これらに新島の草稿が採用されているのは、「独乙国」編に史料76～78「独乙国公学校の規則」があるのみで、未だ厳密な照合は行っていないが、部分的にはともかく、それ以外にはほとんど採用の形跡は認められないようである。また、「独乙国」編にしても、新島の草稿どおりではない。

これらの草稿は、いずれも抹消や補筆の多い第一次草稿であり、新島はこれを浄書して田中不二麿に手渡したはずである。その取捨選択は、当然田中らによって行なわれたであらうし、「独乙国」編のような場合も、新島の草稿を参考にしながら、視察団の手で改めて記述されたことによるものと思われる。

なお、これら草稿の多くは、新島が収集した文献を翻訳したものと認められるが、同志社社史史料編集所編『史料彙報』第七集（解説・竹内力雄）で明らかにされている原典は、注に掲げたとおりである。

史料82「大ブリタン寺院ノリポルト」も、新島が田中の依頼によって、右の草稿と同時にまとめたものと推定される。用紙、筆記用具（ペン）などは右の草稿と同種である。

（河野仁昭）

新島襄全集編集委員

委員長 同志社総長・理事長

上野直藏

委員 同志社大学名誉教授

高橋虔

同志社大学文学部教授

オーテス・ケリー

同志社大学文学部教授

北垣宗治

同志社大学工学部教授

島尾永康

同志社大学人文科学研究所教授

杉井六郎

同志社本部庶務部長

園部望

同志社社史史料編集所主任

河野仁昭



新島襄全集1 ■教育編

1983年2月12日

初版第一刷印刷

1983年2月25日

初版第一刷発行

発行記念特別定価 6000円

編集者——新島襄全集編集委員会

発行者——今田 達

発行所——同朋舎出版

〒600京都市下京区中堂寺鍵田町2 電075-343-0621

振替京都22982

東京支店 〒101東京都千代田区三崎町3-7-12 清話

会ビル5F 電03-234-4982

印刷——図書印刷同朋舎

製本——大日本製本紙工

ISBN4-8104-0310-6 C0321 ¥6000E





*THE COMPLETE WORKS  
OF  
JOSEPH HARDY NEESIMA*

**1**

**Education**

DOHOSHA  
1983  
KYOTO·JAPAN



三月

二月十日ハルテ一君ヲ受取ルニ百

五多クニニ重海 *W A Snow* 氏ヨリ二

回中入レ送シ呉レリ

三

ルヨル氏カク先トモ

算九六万十号

三月廿六日 甲辰年正月十四日

三月廿六日

新に道へ指し免状下付形をテ集め出ス  
但此際、甲子年より乙未年迄

三月に於て

万ボンドノ証書ニ返あり、ジエントス氏ニ送付  
年月日

万ボンドノ証書ニ返あり、ジエントス氏ニ送付  
四月ボンドノ証書ヲ入レ送致セラル

三月廿一日



同志社大学図書館



8304134799